SPECIAL ISSUE
おもしろ元気ヤング・ミュージック・マガジン・パチ・パチ
第7巻第2号 1991年1月26日発行 1985年 第三種郵便物認可
PATI-PATI
PRESENTS
STYLE
YEAR BOOK '90-'91
IS '91
PRICE=980 YEN
TMN / JUN SKY WALKER(S)
BUCK-TICK / KOME KOME CLUB
PRINCESS PRINCESS / UNICORN / THE BOOM
THE CHECKERS / B'Z / BY-SEXUAL
Hideaki Matsuoka / LÄ-PPISCH / misato W. / Senri Oe
BAKU / BARBEE BOYS / DREAMS COME TRUE / BUHI BUHI etc...
IS '91
PATI PATI STYLE
パチ・パチ
PATI PATI

INFORMATION
○TAKUのオールナイトニッポン(ニッポン放送系 毎週金曜日深夜3:00～5:00)ON AIR中。 ○謎のテレフォン"QFO"0990-34-1874スタート!……FUSEファンだけの秘密のテレフォンメッセージ(このサービスは情報料と通話料の料金がかかります。情報の前のアナウンスをよくお確めの上ご利用下さい。 ○FUSEファンクラブ"FUSE WORLD"入会希望の方は、メモ用紙にあなたの住所・氏名・郵便番号・電話番号を記入して、72円切手を同封のうえ、〒160 東京都渋谷区神宮前2-11-6 FUSE WORLD「入会希望係」までお申し込みください。折り返し、入会案内書をお送りいたします。 ○ビデオマガジン"CHANNEL-F volume 0"¥1,500で発売中。 ○THE FUSE写真集『Sha-La-La』(¥2,000)八曜社より好評発売中!
THE FUSE CONCERT TOUR 1991 "READY STEADY GO!"
近日発表。
詳しくはFUSE WORLD(03-403-9984)にお問い合わせ下さい。
この音は、心の武装解除です。
まわりを見れば心をトゲトゲで武装したハリネズミばっかり。
そんなんじゃ独りになっちゃう。難しいこと解らないけど、僕らは裸になるよ。
CD:TOCT-5975 ¥3,000(税込価格) MT:TOTT-5975 ¥2,620(税込価格)
NEW ALBUM
CUBIC
キュービック
1990. 1. 18 ON SALE
サウンド・プロデュース:土橋安騎夫
特典:B2ポスター
THE FUSE
TOSHIBA EMI

ヒントをくれたのは１冊の本で、それによると「REALITY IS GOD'S DREAM」。ともかく、その日からさかのぼって思いだせる夢、聞き出せる夢を全て記録した。

とても暗いドームの下にいたんだ。
高いシーリングはガラス張りで
ちょっと博物館のようだったね…
やがて不確かな
衛星らしいものが
近づいてくる。
天井の
ガラス面にまで
接近したそれは
古いＳＦ映画の
邪悪な流星
そのものだった。
それから　何が起こったのか
どうしても思い出せないんだから…
ダフィーダック
の夢
あるバンドのショーに立ちあってると、ダフィーダックがやって来た。そいつがやけにチビなんで、誰が俺のダフィーをこんなにしたんだって文句を言ったんだ。

すると、どうだ。奴はさらに
20センチにまで縮んぢまったのさ。
Stereo type
そこには　古い劇場のようなところで
俺はニューヨークのクラブを思い出したよ
ワールドって名前だったな。スクリーンが
暗闇の中でひかえめに輝いて見えて
何もかも静かで
海底のように沈んでいた

こうして　ついに「夢の記録」が完成した
雨の午後、１人のカナダ人が俺のところへ
来て不思議に美しい曲を作ってくれた。それを「ソーダ・ポップ・マシーン」
と呼ぶことにした。「カナダじゃ自動販売機のことさ」「…REALITY IS GOD'S
DREAM」「だとしたら、神様が目を覚ましたらどうなるんだ?」と奴は言った。

夏らしい草原に大きなプールが
あって、誰かがそこに隕石をため
込むって話だった。そこで俺は
素晴しい水泡のプールを本当に
長いこと見張っていたのさ。

AXIA
アクシアだから、スリムで、メタルだ。
スリメタだ。
現わる
スリメタ
7サイズそろって新登場
AXIA
With Cleaning Leader Tape
METAL
46
メタル
for CD
METAL POSITION
エネルギー4倍の超いい音。メタルという名のメタルです。高エネルギー磁性体「ニューメタリックス」と独自のテープ化技術で、超ワイドなダイナミックレンジを達成。その磁気エネルギーは、なんとノーマルの約4倍(当社比)。さらに、PSメカを搭載して、すごい耐久性。20分から100分までの、CDまる録り7サイズが揃っています。
スリムケースに入った、CD対応、高音質メタルポジションカセット。
AXIA METAL
C-20¥390 C-46¥460 C-50¥490 C-54¥520 C-60¥550 C-70¥610 C-100¥790
(この広告に掲載している全商品の価格は、メーカー希望小売価格で、消費税は含まれておりません。)●ラジオ放送やレコード、テープから録音したものは、あなたが個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。●カタログのご請求は、富士写真フイルム株式会社磁気材料事業本部営業部アクシア係 〒106 東京都港区西麻布二丁目26番30号 TEL.03(406)2804●総発売元／富士マグネテープ株式会社 〒150 東京都渋谷区宇田川町4番3号 神南ビル TEL.03(496)2421
FUJIFILM

知能で考えるアローラ、新登場。

AI AUTO Just press the AI Auto key, and

ジング・パターンを設定。どんなジャンルのCDでもその音楽性をフルに引き出してくれるので、いま

cies on a CD, and sets the ideal equalization pattern.

REC MODEでは、AIオート・キーによって作り出されたグライコ・カーブに、人工知能がさらにカーステレオ、ヘッドフォンステレオで聴くためのカーブを足し込んでくれます。

enjoy a great sound even at low volume levels. AI

ばなるほど、低・高域が聞えにくくなるという特性があります(少々専門的になりますが、フレッチャーマンソン特性といいます)。AIラウドネスは、それをラウドネス・コントロールで

cally detects the volume level,

し、最適なラウドネス・カーブをそのときのカーブに足し込んでくれます。ボリューム・ツマミと連動してきめ

ideal loudness curve to your pr-

って聴くときでも、低・高域を持ち上げてくれることで、通常の音量で聴くのと変わらない自然な音質を再

AI TIMER AI Ti-

AIタイマー1／

the volume level gradually in three stages. AI Timer

人工知能が音質を補正。適切なイコライジングで聴かせてくれるので耳にやさしく、自然です。AIタイマー2／タイマーの働きで電源ONになると、はじめにCD2曲をプレイ。

then

た後、FM/AM/TV

RS

S auto-

IT、X. FADEによる

ALLORA XA7

本体標準価格￥145,000(税別)

(CDプレヤー、デッキ、レシーバー、グライコ、スピーカー、リモコンの一体価格)

ひとつ、ひとつのコンポに、コンパクトなサイズから想像もできないような高性能をつめこんだアローラ。いまスモールから、クオリティへ。どれも、いい音を聴かせるための才能があふれています。■録音・編集のクオリティを変える高性能エクストラファインデッキ■新次元の重低音を生むN.B. Circuit搭載レシーバー■プロの経験と知識を人工知能に凝縮AIグライコ■CCRS倍速グライコレック対応CDプレヤー■重低音を鳴らしきる流面αダクト採用15cm2ウェイ・スピーカー ※新スペーシング提案のクオリティミニ、13cm2ウェイスピーカーを組み込んだALLORA XA5も同時新発売。本体標準価格￥135,000(税別)●あなたが録音したものは個人として楽しむなどの他は著作権法上、権利者に無断で使用することができません●ドルビーはドルビー研究所の商標です。●カタログを差し上げます。／郵便番号・住所・氏名・電話番号・年齢・性別・職業・ステレオの有無・希望製品名をご記入の上、〒150東京都渋谷区渋谷2-17-5シオノギ渋谷ビル 株式会社ケンウッド CI部 スタイルA 係へ。 KENWOOD CORPORATION

KENWOOD

IQの高いオーディオです。人工

If you wanted professional equalization, you've got it!

AIオート／プロのイコライジングを、ワンキー・オンで実現します。AIオートのキーを押すと、人工知能がCDの周波数特性を自動的にサンプリングし、それに最適なイコライ

artificial intelligence automatically samples frequen-

まで多くの人が使いこなせていなかったグライコの本当の素晴らしさを、誰もが手軽に楽しめます。自分の持っているCDの周波数特性がわかるのも魅力のひとつです。また

AI LOUDNESS

Now you can

AIラウドネス／人間の耳には、小さな音になれ

「アローラ」とは、イタリア語で「ところで」。
英語の「BY THE WAY」にあたります。
ところで、このキャラクター。
どこかで見たことがあるはず。
そう、あのスヌーピーと
チャーリー・ブラウンでおなじみ、
ピーナッツのシュローダーです。
彼はまだ子どもだけれど、天才音楽家。
どうです、ちいさいながら、
かしこくて音がいいアローラにぴったりの
キャラクターだと
思いませんか。

Loudness automati

補正する機能。ボリュームの位置を人工知能が自動的に検出

and then adds the

細かく4段階に作動。たとえば、深夜などにボリュームをかなり絞

esent EQ curve.

現。いろいろな音楽ソースの表情を損うことなく楽しめます。

ALLO

mer I switches power on, and increases

タイマーの働きで電源が入ると、時間が経つにつれ音量が3段階でアップしていきます。しかもそのときどきのボリュームに応じて

I plays the first two tracks on a CD, and

その後、自動的にチューナーに切り替わる機能です。たとえば、お気に入りのCDで爽やかに目覚め

switches to the tuner.

CC

チューナーから朝の情報収集というマルチな扱い方ができます。

Editing CDs to tape has never been easier. CCR

CCRS／CDの最適録音レベルと、録音するテープの録音バイアスを自動的に設定し録音を開始するシステムです。しかもTRACK/PGMモードでの録音や、CD ED

matically sets the best

録音など編集機能も多彩。CDを倍速で録音するときの音質劣化を防ぐため、自

recording level and bias

動的に対応カーブを足し込むCCRS倍速録音。また他のすべての音楽ソース

for the tape you're using.

のレベルをサンプリングし、最適な録音レベルを決めてくれるCRLSもついてます。

EPIC/SONY RECORDS Epic

始に100回使えておトクです。

挙しましたのでお役立てください。※上記の期間は兵庫県高砂市在住の沢野晋也クン(8才)の誕生日からエピック・ソニーが独自に算出した数字です。[恋愛でオトク]①まだ見ぬ恋にあこがれている人は、このCDですてきな恋のお勉強です。②失恋はあなたをひとまわり大きくしてくれる。このCDを聴いて思いっきり泣きなさい。③町田市の岡奈々子さんは、このCDをプレゼントしてもらったら、いつでもデートOKだそうです。④彼が忘れられないときはこのCDを大音量で聴くと頭をまっ白にすることができます。⑤憧れの人はぜったいこのCDを持っています。キミも買って研究し

鏡がわりに。⑬待ち合わせの時間つぶしに、CDの溝を虫メガネで数えてみるのもいいですね。[パーティーでオトク]⑭よくウケ狙いでCDとお皿を間違える人がいます。笑ってあげてください。⑮よく酔っ払ってこのCDを使って裸踊りをする方がありますが、危険ですのでおやめください。⑯このCDのジャケットを額に入れて飾れば、すてきなインテリアに早がわり。⑰いますぐこのCDで練習を積んでカラオケの女王をめざせ。ライバルはもう手に入れているぞ。⑱胸ポケットからこのCDを取り出して"この曲でチークを踊っていただけませんか"と誘うのはオ

ーティでこのCDをかけると、女のコたちの踊りもよりパワフルに。㉖街に流れるクリスマスソングには飽きあき。我が家ではこのCDがクリスマスソングです。[大晦日でオトク]㉗平成2年度大掃除ソングにただいま申請中です。㉘お世話になったあの方へ、お歳暮がわりに4枚セットでどうぞ。㉙除夜の鐘ではもう古い。このCDを聴きながら煩悩を消し去りましょう。㉚仲間で集まって今年のヒットナンバーを聴きながら10大事件を思いだしましょう。㉛餅つきのリズムにもピッタリ。杵をもつ手もかろやかに弾みますね。㉜CD1枚で約8g。お料理の

賀状がわりに送ったりすると喜ばれます。ちょっと高価ですが。[初詣でオトク]㊶初日の出の早起きも、このCDをタイマーセットすれば、すこやかなお目覚めです。㊷このCDをバックグラウンドに、御来光を拝むなんてゴージャスではありませんか。㊸参拝の人ゴミの中でも、このCDを聴いていれば気分が悪くなりません。㊹日本髪の髪飾りのかわりに、このCDを使用しないでください。㊺晴れ着のときは、タテノリで踊るのはやめましょう。ヘンです。[スキーでオトク]㊻スキー場のおじさんに頼んでゲレンデじゅうにCDをかけ

す。(54)CDを聴きながらサイクリングすれば、ヒュー。別世界を走ってるみたい。(55)このCDならエアロビクスはもちろん、乾布まさつにもピッタリのリズムです。(56)このCDをフリスビーにしようなんて今さら言いません。でも、よく飛びます。[ドライブでオトク](57)このCDを聴きながらスタンドに行くと、ガソリンをちょっと多めに入れてもらえます。(58)このCDがなければ行かないほうがマシ。と思っている女の子は意外と多いみたい。(59)このCDを聴きながらドライブしていると、"まあステキな人"なんて声をかけられ

礼に食事でもいかがですか"なんて2人のあいだに恋が芽ばえちゃったりして。(66)このCDを背負って旅を続ければ、"CDを抱いた渡り鳥"なんてアダ名がつくことマチガイなし。[勉強でオトク](67)このCDのビートに合わせて勉強すれば、暗記力30%アップ。(68)夜中は眠い。ラジオよりオートリバースでグッドミュージックをどうぞ。(69)受験勉強の気分転換にはこのCDがいいと東大生のお墨付き。(70)このCDのイングリッシュは試験によく出題されるというウワサです。[哲学でオトク](71)友

い。[ギネスでオトク](77)CDをノンストップで何時間聴き続けられるかギネスに挑戦だ。(78)CD1枚聴き終るうちに何回腕立て伏せができるかギネスに挑戦だ。(79)倒れないようにCDが何枚積めるかギネスに挑戦だ。(80)CDを転がして、何メートル進むかギネスに挑戦だ。[情報でオトク](81)このCDを赤ちゃんに聴かせると情操教育になります。(82)このCDの回転は他のCDに較べて催眠効果が高いそうです。(83)南国のある島では、このCDが通貨として通用する

出します。ちょっと重いですが。(90)CDラジカセの大音量で鳴らせばチカンも逃げ出します。ちょっと恥ずかしいですが。(91)チカン防止用として、CD2枚をそっとブラの中にしのばせておきましょう。(92)雪山で遭難したときは、カンジキとしてご利用下さい。助かります。(93)このCDを聴けば風邪はすぐ治ります。ウソです。[聴き方でオトク](94)CDにスーザンとかキャシーとか名前をつけて呼んでみましょう。きっと愛着がわいてきます。(95)アメリカ人になった

渡辺 美里

5年連続西武球場コンサート。2年ぶりの全国ツアーの成功。渡辺美里は名実ともに日本のロックを代表する女性シンガーです。でも、みんなは"ミサト"と呼んでいます。その理由は、ボクたちの視点でロックを歌っているからです。だから、明治生命のコマーシャルを見たときは、思わず「ようミサトじゃないか」とつぶやいてしまいました。

「tokyo」NEW ALBUM NOW ON SALE!

●CD:ESCB1070/CA1070各¥2,800税込定価(各¥2,718税抜価格)

tokyoはロックンロールからはみだしている。渡辺美里はニューアルバムで、新聞やニュースじゃ伝えきれない東京を表現してくれました。それは実在しない場所や、とても個人的な地域のことだったりするので、タイトルは"東京"ではなく"tokyo"です。とにかく学校の授業よりも、ボクたちは美里の歌う"tokyo"のほうを信じます。

収録曲目:Power 明日の子供 (明治生命スーパーライフCFイメージソング)/サマータイム ブルース/恋するパンクス/POSITIVE DANCE/虹を見たかい(tokyo mix)/バースデイ/Boys kiss Girls(ブリヂストンCFイメージソング)/遅れてきた夏休み/ナイフとフォーク/Tokyo/Oh!ダーリン/元気だしなよ/全12曲収録

[INFORMATION]

■ニューシングル「Power 明日の子供 」C/W「Kick Off」
●CD:ESDB 3144 ¥800税込定価(¥777税抜価格)
■年末の今ごろは、来年発売のニューアルバムを意欲的にレコーディング中。

さい。(100)授業中にイヤホンで聴いたりしてはいけません。ぜったいにいけません。

TMN

見たこともないサウンドで、未来を出現させてしまったTMネットワーク。そして1990年9月。新たなプロジェクト、TMNがはじまった。プロジェクトの目的は未明。まさか未来の未来を出現させようとでもいうのだろうか。気になる人はニューアルバムを調査しなさい。ヒントは、超未来は過去へもつながっているかもしれないということです。

「RHYTHM RED」NEW ALBUM NOW ON SALE!

●CD:ESCB1100/CA:ESTB1100各¥2,800税込定価(各¥2,718税抜価格)

TMNプロジェクトの第1弾として、全国40ヶ所のコンサートツアーとともに発表されたニューアルバム「RHYTHM RED」。よりバンド色の濃くなった強力なサウンドは、'70年代のハードロックをほうふつさせる。まんまとみんなの期待をひっくり返してくれた。世紀末を駆け抜ける疾走感を持ったあらゆる"リズム"の集合体、「RHYTHM RED」。いますぐ脳波にインプットしてください。

収録曲目:TIME TO COUNT DOWN(マクセルCFイメージソング)/69/99/RHYTHM RED, BEAT BLACK(ハウス「O'ZACK」CFイメージソング)/GOOD MORNING YESTERDAY/SECRET RHYTHM/WORLD'S END/BURNIN' STREET/REASONLESS/TENDER IS THE NIGHT/LOOKING AT YOU/THE POINT OF LOVERS NIGHT(マクセルCFイメージソング)/全11曲収録

[INFORMATION]

■クリスマスシングル12月21日発売
①「RHYTHM RED, BEAT BLACK」②「DREAM OF CHRISTMAS(New Recording)」
●CD:ESDB3185 ¥800税込定価(¥777税抜価格)
■ニュービデオ「TMN」12月21日発売
収録曲目:TIME TO COUNT DOWN/RHYTHM RED, BEAT BLACK/SECRET RHYTHM/全3曲収録
VHS ESVU-308 β ESUU-3308 LD ESMU4308 各¥2,600税込(各¥2,524税抜)
■「RHYTHM RED TMN TOUR」
来年3月まで全国疾走中!(問)ホットスタッフプロモーション03-857-9999

エピック・ソニーのCDなら、年末年

エピック・ソニーでは、1990年12月24日～1991年1月4日を冬の愛聴週間と認定しました。これを記念して、ただいま大ヒット中の4アーティストのアルバムの年末年始の活用法100項目を紹

なさい。⑥恋愛成就のお守りとして、首からブラ下げて肌身はなさず持ってましょう。⑦このCDを全曲暗記しておけば、カラオケを歌う彼女にそっと教えてあげられます。⑧このCDを特別編集してキミのDJ入りで彼女にプレゼント。気持ち悪がられるかもしれないが。[デートでオトク]⑨初対面の人と待ち合わせるときに、目印として胸につけてみてはいかがですか。⑩彼女を部屋に招待するときは、部屋の掃除とこのCDを忘れずに。⑪この4人のアーティストのライブに彼女を誘えば、まずNOという人はいません。⑫このCDをバッグに入れておけば、いざというとき手

シャレだ。⑲馴染みのディスコで"いつものヤツ"とDJにオーダーして、このCDをかけてもらうのもオシャレだ。⑳バンドでこのCDの曲を演奏すれば盛り上がります。下手でも笑ってもらえるし。[クリスマスでオトク]㉑このCDはプロポーズ機能付き。プレゼントするだけであのコはキミのもの。㉒かわいい息子のプレゼントにもどうぞ。無理をすれば靴下にも入るサイズです。㉓彼女のいない兄キには、ピンクのリボンをつけてプレゼント。きっとおこずかいがもらえます。㉔ふたりっきりのイヴの夜、せつないBGMがふたりをイケナイ世界へ誘惑します。㉕ダンスパ

目安にしてください。㉝CDの直径は12cm。お裁縫の目安にしてください。[元旦でオトク]㉞お年玉の金額はCD4枚分を目安にしていただければよいでしょう。㉟新年にあたって座右の銘は、このCDの歌詞を参考にしてください。㊱このCDはおせちやお雑煮によく合うナンバーばかりです。新年会のBGMにどうぞ。㊲このCDを聴けばパパも心がなごんでお年玉をはずむはずです。㊳お正月のテレビはつまらない。テレビにあきたらさっそくこのCDの登場ですね。㊴このCDを聴きながら眠ると、なすびの初夢を見ることができます。㊵年

てもらいましょう。㊼ゲレンデまでの道のりは、音楽がなければ地獄です。㊽ヒップなナンバーを聴きながらスキーを滑るとゾクゾク超快感です。㊾ボーゲンにはバラード、パラレルには16ビートがバッチ・グー。㊿アフタースキーでイントロクイズをするとけっこう盛り上がります。[スポーツでオトク]51ラグビーは実況中継よりグッドミュージックを聴きながらのほうが興奮するのです。52彼と手をつないで同じ音楽を聴けば、スケートも恋もスイスイです。53スポーツ選手はこのCDを聴いてコンセントレーションを高めているそうで

ちゃうので困りモノです。60アッシー君のキミは、彼女からいつお呼びがかかってもいいよう、このCDをクルマに常備しておきなさい。61このCDはクルマのルームミラーには使えません。[旅行でオトク]62留守番電話のメッセージには、このCDでおしゃれなBGMを忘れずに。63ハワイのビーチでこのCDを聴きながら、"日本が懐かしいわね"なんて言ってみましょう。64このCDを大音量で聴くとあたまクラクラ、夢の世界へ旅行できます。65旅行先でこのCDを失くしたら美しい女性が見つけてくれて、"お

だちと歌詞やサウンドについて討論してみよう。これがけっこう熱くなれたりする。72マジメな感想文を書いてみよう。あとで読むと、これがけっこう笑えたりする。73"アルバムが4枚もあるはず"とかダジャレを言ってみよう。けっこうせつなくなれたりする。74パパに現代若者の心理を教えてあげるのには効果的な教材です。75本を読むように歌詞を読んでみよう。今まで気づかなかったフレーズを見つけたりできます。76とにかく4枚ともただいま大ヒットのアルバム。ステイタスとして持ちた

ようです。84将来のプレミアムを考えて1ダースほど買っておきましょう。85某国の秘密情報部では、念力でこのCDを回転させる訓練が行われているそうです。86エピック・ソニーの人にこのCDを見せれば、あなたはお殿様あつかいしてもらえます。87ブレイン・トレーニングには、このCDのような品質の高いメロディが不可欠です。[緊急時にオトク]88避難袋の中にこのCDを入れておけば、いざというとき安心です。89CDラジカセの大音量で鳴らせばクマも逃げ

つもりで聴いてみましょう。思わず"オー・ワンダフル"と叫んでしまいます。96フランス人になったつもりで聴いてみましょう。思わず"トレビア～ン"とうなってしまいます。97ゾウさんになったつもりで聴いてみましょう。思わず"パオ～"と鳴いてしまいます。98逆立ちをしながら聴いてみましょう。おそらく腕が疲れるだけです。99興味がある人はテレパシーで聴いてみましょう。一生やってな

APOLLO
SENRI OE

大江 千里

今年はいろんなメディアで千里を見つけた。彼はどこで何をしていても、胸をはってまっすぐ前を見つめてしまう。だから微妙でせつないラブソングも、彼が歌うと勇気が湧いてきてしまうのです。大江千里のおかげで、日本はすこし元気を取り戻しました。ヤンチャな弟なのか、頼れる兄キなのか、彼の一挙一動がみんなをわくわくさせます。

「APOLLO」NEW ALBUM NOW ON SALE!

●CD:ESCB1091 ¥2,800税込定価(¥2,718税抜価格)

CFやドラマでしか千里を知らない人たちに、このアルバムを聴かせたらどんな顔をするだろう。大江千里はロック・アーティストである。しかも"胸をはって生きていいんだぜ"って歌ってくれるアーティストである。ニューアルバムを聴いている人を観察してごらん、きっと背すじをピーンと伸ばして聴いてるはずです。

収録曲目:APOLLO(不二家アメリカンバーCFテーマソング)/たわわの果実/BAY BOAT STORY(フジTV系「邦ちゃんのやまだかつてないTV」挿入歌)/舞子VILLA Beach/あなたは知らない/やっと気がついた/8年土産/竹林をぬけて/dear/これから/星空に歩けば/全11曲

[INFORMATION]

■ニューシングル「あいたい」12月1日発売※12/15より公開の東宝系大江千里主演映画「スキ!」主題歌
■SENRI OE CONCERT TOUR '90-'91「APOLLO」来年4月まで全国ばく進中
チケット絶賛発売中 ¥4,120(税込)(問)ハンズ TEL.03-470-3601
■単行本「レッドモンキー・モノローグ」10月22日角川書店より発売
■12月24日(月)横浜アリーナにてライブ
(問)FLIP SIDE TEL.03-770-8899

Dreams come true

「うれしはずかし朝帰り」などの刺激的なラブソングで、全国の女の子たちの胸をくちゃくちゃにしてしまったドリームズ・カム・トゥルー。ライブではうるうると涙を流して立ちつくす美女たちが跡を絶たないというウワサです。さて今回のアルバムも、恋愛関係の人々をジェット噴射で巻き込むキャッチーな曲ばかり。パパの前で歌ってあげましょう。

「WONDER 3」NEW ALBUM NOW ON SALE!

●CD:ESCB 1104 ¥2,800税込定価(¥2,718税抜価格)

バンビーナ吉田美和がピピッときてつけたアルバムタイトル、「ワンダー3」。この"3"という数字は数字の世界が一挙に何兆倍にも拡がる可能性を秘めたすごいパワーの数字だそうです。アルバム・テーマも"Longer than forever"となんだか奥の深い、ありがたいお言葉。じっくり聴いて研究すれば、何かいいコトありそな予感です。

収録曲目:OPEN SESAME/戦いの火蓋/さよならを待ってる/KUWABARA KUWABARA/Ring/Ring/Ring/(S・H・H VERSION)/今度は虹を見に行こう/ひさしぶりのI Miss You(東宝系映画「山田ババアに花束を」オープニングテーマ曲)/笑顔の行方(ORIGINAL VERSION)/かくされた狂気/ESCAPE/2人のDIFFERENCE/時間旅行/全12曲

[INFORMATION]

■ニューシングル「雪のクリスマス」絶賛発売中
C/W「VERY MERRY CHRISTMAS―サンタと天使が笑う夜」
●CD:ESDB 3171 ¥800税込定価(¥777税抜価格)
■スーパーFMマガジン 中村正人のNORU SORU
ラジオレギュラー番組 毎週月曜25:00～27:00オンエア
TOKYO FM/FM新潟/FM長野/FM静岡/FMとやま/FM石川/FM愛知/FM山陰/広島エフエム放送/FM愛媛/※FM北海道/※FM大阪/※FM福岡(※のみ26:00～27:00)

明るいよ

音楽なら、
一度にいろんなタイプを好きになっても、
許してあげる。

明るくナイーブなティーンの気持ちを綴る、放課後のポップス・シンガー。

大塚純子

誰もが経験してきた10代の頃の傷や思い出を、素直に歌うポップ・シンガー。飾り気のない歌とルックスが、今ティーンの共感を呼んでいます。

デビュー・アルバム「HURTS」NOW ON SALE

ナイーブな心情を内に秘めた、カッコイイ天才的音楽クリエーター。

森田浩司

ごく普通に見える青年が、音楽に対しては天才的個性と才能を発揮する。内側にサムシングを秘めているような、甘いルックス、噂の22歳。

デビュー・アルバム「ARTY」NOW ON SALE

ナイーブね

パワフルだ!

パワフルで限りなく明るい、サイケデリック・コミカル・ポップ。

すかんち

ヴォーカルのローリー寺西を中心とした、超ド派手なパフォーマンス集団。強烈な芸人魂が、貴重な"B級カルト"の面白さを爆発させる。

デビュー・アルバム「恋のウルトラ大作戦」NOW ON SALE

まさに台風のような存在感、パワフル&カッコイイ本格派ロック・バンド。

Typhoon NATALi(タイフーン・ナタリ)

紅一点、LISAのスピリチュアルなヴォーカルと、それを固める本格的バンド・サウンド。音楽もルックスも、ハード・ロック・バンドの王道。

デビュー・アルバム「CAT&SPIDER」NOW ON SALE

ウワキも許す。

かっこい〜い

CBS/SONY RECORDS

SPECIAL ISSUE PATi-PATi PRESENTS STYLE YEAR BOOK '90-'91 PRICE=980YEN

CONTENTS

お待たせしました。おかげさまで恒例のパチパチ・スタイルも今回で5冊目。単なるYEAR BOOKにとどまらず、撮り落ろしPHOTO、未公開PHOTO満載、スペシャル・インタビューもいつもよりボリュームアップして充実のこの内容。これを読まなきゃ、始まりませんぜ。

TMN ㉒

●なんとバンド名が変わってしまいました。けれど'90年も巻頭はこの３人です。'90年が始まったとたんに、2000年の幕開けを認識し、カウントダウンを始めてしまった３人です。自らが歌ったり、Mr.マリックと一緒にアルバムを作ったりする小室哲哉。お茶の間の女性をＴＶの前にクギ付けにした"村木さん"宇都宮隆。3冊めの長編小説を書き上げた木根尚登。

３人に関するニュースは驚くべき内容を次から次へと伝えたけれど、それでも誰もが予想し得なかったバンド名が変わるという事実。その上ＴＭＮのファーストアルバムにはハードロックが収められていて。けれど彼らから目を離す気持ちにはさらさらなれないのは、３人が作り出すサウンドとエンターテイメントの質の高さを充分知っているからでしょう。

COVER

▶小室哲哉のソロアルバムを特集。『Digitalian is eating breakfast』というタイトルにちなんで、Digitalianの朝食を用意して食べてもらったり、割れた鏡に写し込んだりのファンタジックな写真にファンタジックなコピーが添えられました。

◀ＴＭＮになって初の表紙巻頭特集は、渇いた読者に潤おってもらおうという、すべてがタップリの構成。インタビューも、写真もタップリでした。この号の読者は30歳以上が通常よりかなり多かったけれど、やっぱり"村木"さんのせいでしょうか。

DATA

小室哲哉

●S33年11月27日生まれ。射手座。血液型Ｏ型。東京都出身。キーボード。

宇都宮隆

●S32年10月25日生まれ。蠍座。血液型Ｏ型。東京都出身。ボーカル。

木根尚登

●S32年９月26日生まれ。天秤座。血液型Ｂ型。東京都出身。ギター。

B'z ⑩⓪

●90年、"BREAK"という言葉はこの２人のためにあったようなモノ。

COVER

◀初の表紙・巻頭を飾った11月号。写真の手前にボヤッと写っている謎のオブジェは、Ｈ・Ｂのソメッチ製作の電池で動く針金細工。題して「ゆがんだ時空と交錯する空間」。プレゼントに出したんだけど、当選した人は超ラッキーでした。

DATA

松本孝弘

●S36年３月27日。牡羊座。血液型Ａ型。大阪府出身。ギター。

稲葉浩志

●S39年９月23日。天秤座。血液型ＡＢ型。岡山県出身。ボーカル。

BUCK-TICK ⑥⑧

●B-Tの1990年を振り返ってみよう。すぐに飾れる(笑)ビジュアルも仲々だし、今井先生の髪型遍歴も特集してるぜよ。

DATA

桜井敦司

●S41年３月７日生まれ。魚座。血液型Ｏ型。群馬県出身。ボーカル。

今井寿

●S40年10月21日生まれ。天秤座。血液型Ｏ型。群馬県出身。ギター&コーラス。

ヤガミトール

●S37年８月19日生まれ。獅子座。血液型Ａ型。群馬県出身。ドラムス。

星野英彦

●S41年６月16日生まれ。双子座。血液型Ａ型。群馬県出身。ギター&コーラス。

樋口豊

●S42年１月24日生まれ。水瓶座。血液型Ａ型。群馬県出身。ベース。

COVER

◀２大アルバム『悪の華』&『HURRY UP MODE』を特集した究極のB-T表紙&巻頭号です。この号を仕上げたあと、カメラマン北岡氏、デザイナー染谷氏&村井姉さん、担当編集者の４人がブッ倒れたというブッチギリの内容です。凄い。

UNICORN 130

●1990年におかれましては大変に充実した音楽活動をなされたUNICORNさんであります。その活躍ぶりは皆さんも周知の事実だと思われますので再び列挙することはいたしませんが、とにかく他の追随を許さぬほど奇妙な…… もとい、素晴らしいものであったことは火を見るより明らか、でありました。お偉方にも才能を認められ、お茶の間にも顔が浸透し、海外にも何度かお出かけになって国際感覚を身におつけになり、"もんだった"は世界的に流行、長岡サイフ事件は日本全国に波紋を呼び、あげく奥田くんは5分刈りにアベさんはリーになり時は流れた。

UNICORN 1991カレンダー

DATA

奥田民生

●S40年5月生まれ。牡牛座。血液型は不明。広島県出身。ボーカル&ギター。

手島いさむ

●S38年8月27日生まれ。乙女座。血液型B型。広島県出身。ギター。

西川幸一

●S35年10月20日生まれ。天秤座。血液型O型。広島県出身。ドラムス。

堀内一史

●S40年10月2日生まれ。天秤座。血液型B型。広島県出身。ベース。

阿部義晴

●S41年7月30日生まれ。獅子座。血液型A型。山形県出身。キーボード&ボーカル。

COVER

◀熱くるしいタミオくんのおヒゲにあわせて熱くるしい真赤な表紙となりました。めくってもめくっても熱くるしい赤いページにさらに熱さを添えたメンバー2人のからみ合い。唯一愛くるしかったのは人文字かしら。

◀UNICORNさんによる、UNICORNさんにしかできない企画、全26曲イメージビジュアル化! を15時間かけて実現させてしまったもんだった。こんなに笑い転げた撮影も他には例を見ないもんだったよ──。

◀メンバー自らが付けたタイトルは、「イナゲ」。いくら広島県人が4人いるったって、いくらマジでヘンなやつらだからって、本の中身も、表紙だってほ──らこんなに愛くるしいってのに。皆さま。タイトルと中身は半分ぐらいしか関係ありませんっ。

BAKU 315

●2度目のパーソナル・インタビューです。「あいつらがいないから言っちゃうけど……」と少し照れながら、3人はいつもよりゆっくり、じっくり自分について話してくれました。テーマは"デビュー前、デビュー後"。デビューしてから半年ちょっとしか経ってないのがウソみたいにみんなの心のなかへ入りこんじゃったBAKU。その間に彼ら自身の心のなかは、どんなふうに動いていったんだろう……。読んだら少しだけ、わかるかな?

DATA

谷口宗一

●S46年8月29日生まれ。乙女座。血液型A型。栃木県出身。ボーカル。

車谷浩司

●S46年8月29日生まれ。乙女座。血液型O型。栃木県。ギター。

加藤英幸

●S46年7月26日生まれ。獅子座。血液型A型。栃木県出身。ドラムス。

会議室より愛をこめて 213

●イヤー、今年もあります、このコーナー。アー良かったとホッと胸をなでおろす私。その内容はと言いますと、絵とお得意の(?)筆談でつづるパチ▶パチの1990。そして、ユニコーンで遊ぶシ、モーダのコーナー。それから、少しみんなに考えて欲しいファンのこと、などなど。みんなに読んで欲しくて書きました!

高野寛 276

DATA

●S39年12月14日生。射手座。血液型B型。静岡県出身。ギター・ベース、何でもこなすマルチプレーヤー。

●90年から、パチパチに本格的にレギュラーとなった高野クン。2曲のヒット・シングルとアルバムは「恋人たちのBGM」(本人はこれを言うといやがる)というか、90年のポップスのスタンダードになりました。そんな1年をふり返ってみてと、来年の展望もちょっと語ってくれました。

渡辺美里 163

●アルバム『TOKYO』には新しい美里があふれていました。年を追うごとに彼女の声は表現力を増し、力と感情を帯び'90年代も歌姫であり続けてくれることを示唆しているかのような内容でした。

DATA

●S41年7月12日生まれ。蟹座。血液型O型。京都府出身。'91年にはデビュー6周年を迎える。

COVER

◀ピンクの表紙は彼女自身もお気に入り。ピンク、黄色、水色、赤をバックに、それぞれの色の衣装を着た美里ちゃんが、それぞれの色の表情で立ちました。24歳を記念しての24問の美里クイズにはたくさんの応募をどうもありがとうございました。

◀ペンギンとライオンのぬいぐるみに思わずお茶目に瞳を輝かせた美里ちゃん。読者の皆さんには申し訳なかったけれど、なぜかインタビューなしの巻頭特集でした。その代わり、と言っては申し訳ないですが、ラジオの美里大百科の再録付きでした。

KUSUKUSU 331

●90年は、KUSU KUSUがメジャー・デビューした年だったんだよね。彼らの周辺ではいろんなことがありました。そんなKUSU KUSUの1990を振り返る…なんて企画じゃありません。(笑)読者から募った質問を大特集!! いったいどんなリアクションが飛び出すやら?

COVER

◀デビュー・アルバム『世界が一番幸せな日』に合わせて、パチ▶パチから増刊が発売されました。パーソナル・インタビュー、N.Y.日記、ライブ・レポート、KUSU KUSUの歴史…担当編集者を失神に追いやった盛りだくさんの内容です。

DATA

次　郎
●S45年10月12日生まれ。天秤座。血液型B型。北海道出身。ボーカル。

M　U
●S45年8月20日生まれ。獅子座。血液型O型。北海道出身。ギター。

MAKOTO
●S44年7月1日生まれ。蟹座。血液型は不明。北海道出身。ドラムス。

S A Y
●S46年6月14日生まれ。双子座。血液型O型。東京都出身。ベース。

PRINCESS PRINCESS 115

DATA

奥　井　香
●S42年2月17日生まれ。水瓶座。血液型O型。東京都出身。ボーカル&ギター。

富　田　京　子
●S40年6月2日生まれ。双子座。血液型B型。横浜出身。ドラムス。

渡　辺　敦　子
●S39年10月26日生まれ。蠍座。血液型B型。九州出身。ベース。

中　山　加　奈　子
●S39年11月2日生まれ。蠍座。血液型B型。横浜出身。ギター&コーラス。

今　野　登　茂　子
●S40年7月18日生まれ。蟹座。血液型O型。埼玉県出身。キーボード。

COVER

◀「楽器と一緒に撮りたい」というメンバーの希望で行われた撮影。写真はこれからツアーに出かける彼女たちの気持ちをそのまま写し取り、インタビューは別々のテーマで行われたものの、すべて"今はバンドがいちばん"という結論に至るのだった。

●マジメ過ぎるほどマジメなライブバンドであるプリンセス²は痛いほどファンの気持ちを知っている。だから、"女のコの体力では無謀かも"と言われた全県ツアーに臨み、無事にすべてのスケジュールを終了するという快挙を成しとげた。PATi▶PATiからはマンガ家・喜国雅彦氏の手下である女スパイ・への1号がツアー先に出没。ライブの前日の超マジメ・ヨイ子プリンセス²から、オフの日の飲んべえ・酔っ払い・カラオケ歌いプリンセス²までをボス喜国雅彦氏に報告し、喜国氏がそれをマンガで表すという「まんが日本全県ツアー」が6ヶ月に渡って掲載された。やがてマジメ過ぎるほどマジメな音作りバンド・プリンセス²はアルバム『PRINCESS PRINCESS』を発表し、大いに我々を震え(ROCK)させてくれたのだ。

LÄ-PPISCH 307

●年末企画じゃあーりません。91年元旦にリリースされる、シングル「ハーメルン」をクローズ・アップ!! 作者・上田現先生の大フィーチャー他、凄い内容。

DATA

狂　市
●S38年3月20日生まれ。魚座。血液型O型。熊本県出身。ギター。

雪　好
●S42年11月26日生まれ。射手座。血液型O型。東京都出身。ドラムス。

TATSU
●S37年2月7日生まれ。水瓶座。血液型B型。東京都出身。ベース。

MAGUMI
●S38年9月24日生まれ。天秤座。血液型A型。熊本県出身。ボーカル。

上　田　現
●S38年3月3日生まれ。魚座。血液型AB型。大阪府出身。キーボード。

BARBEE BOYS 323

●アルバム、ビデオともにオリジナリティーにあふれ、完成度の高い作品をリリースした'90年のバービーボーイズは、安定充実した年だった。'91年の活動も期待。

DATA

いまみちともたか
●S34年10月12日生まれ。天秤座。血液型AB型。東京都出身。ギター。

エ　ン　リ　ケ
●S39年2月3日生まれ。水瓶座。血液型A型。コロンビア出身。ベース。

小　沼　俊　明
●S37年7月17日生まれ。蟹座。血液型O型。東京都出身。ドラムス。

近　藤　敦
●S35年7月25日生まれ。獅子座。血液型O型。東京都出身。ボーカル&SAX。

杏　子
●S35年8月10日生まれ。獅子座。血液型A型。長野県出身。ボーカル。

JUN SKY WALKER(S) 47

●忙がしい…あまりにも忙がしいジュンスカイウォーカーズである。そんな彼らの1990年を振り返るなんぞ、暴行中の愚行…とはわかっていても、どーしても締めくくっておきたかったわけですよ、やっぱり。徹底パーソナル・インタビューによって、そのあたりをクローズ・アップしてみたんですが、さすがはジュンスカ。自らの軌跡というものをシッカリ考えている。そればかりか、来たるべき1991年を予感させるヒントまで語ってくれました。とりあえず、90年に彼らが残した全ライブの足跡と共に、メンバーひとり〜〜の言葉をかみしめてもらいたいと思います。加えて、『パチ▶パチ読本』第2号に掲載されていた「森純太殺人事件」の謎も解明されています。こりゃあ見逃がすわけにはいきません。どうぞ!!

DATA

宮田和弥
●S41年2月1日生まれ。水瓶座。血液型B型。東京都出身。ボーカル。

寺岡呼人
●S43年2月7日生まれ。水瓶座。血液型A型。広島県出身。ベース。

森純太
●S40年3月10日生まれ。魚座。血液型A型。大分県出身。ギター。

小林雅之
●S40年5月13日生まれ。牡牛座。血液型B型。東京都出身。ドラムス。

COVER

◀ミニ・アルバム『Let's GO ヒバリヒルズ』を、リハーサル→レコーディング→完成・パーソナル・インタビュー→ライブ初披露…と、4つの角度から検証した究極の表紙&巻頭特集です。デザイナー&担当編集者を入院へ追いやった凄まじい内容。

DREAMS COME TRUE 337

●'89STYLEのなかの質問「来年の今頃どうしていると思う」答えて美和ちゃん「たぶん、3rdアルバムが発売された頃でせう」──大当たりです。『WONDER3』は初登場チャート1位の大快挙。でも3人はいつも自然で、みんなのことを沢山幸せにしてくれた90年でした。

DATA

吉田美和
●5月6日生まれ。牡牛座。血液型A型。北海道出身。ボーカル。

西川隆宏
●5月26日生まれ。双子座。血液型A型。北海道出身。キーボード。

中村正人
●10月1日生まれ。天秤座。血液型A型。東京都出身。ベース。

SPECIAL▸ISSUE PATi·PATi PRESENTS STYLE Year Book '90 '91 PRICE=980YEN

大江千里 171

●'90年も高いテンションをキープし続けた千里くん。'90年もパチ▶パチ、皆勤賞です。70数本の長かったツアー、NYで曲作りの段階から始めるという無謀にも見えたレコーディング。横浜球場での、舞台裏をスクリーンに映し出すという斬新な構成の「納涼千里天国」。そしてリリースされた『APOLLO』。エッセイ集の出版、映画出演、CM出演、再び始まった長いツアー。いったいいつ眠っているんだろうと不思議になるような彼の活動のほんの一部を毎月伝えてきたパチ▶パチ、5回めのスタイル恒例企画です。

DATA

●S35年9月6日生まれ。乙女座。血液型O型。大阪府出身。パチ▶パチ創刊号から皆勤賞。

THE BOOM 85

●サイレンツアーが終わってから、すぐに分解して、みんなにプレゼントしなくちゃいけなかった"おひさま"、STYLEの撮影に使いたくて。今はもうバラバラ。

COVER

◀忘れもしない、8月10日。ツアー先から東京に戻って来れないTHE BOOMをおっかけて、なんと大阪のスタジオで表紙を撮影! カメラマンとメンバーの準備は着々だったのに、当日、新幹線の野郎が遅れたもんだから、衣装が来なくて待ちぼうけ♦

DATA

宮沢和史
●S41年1月28日生まれ。山羊座。血液型O型。山梨県出身。ボーカル。

山川浩正
●S40年5月11日生まれ。牡牛座。血液型A型。山梨県出身。ベース。

小林孝至
●S40年12月26日生まれ。山羊座。血液型A型。山梨県出身。ギター。

栃木孝夫
●S33年7月11日生まれ。蟹座。血液型O型。山梨県出身。ドラムス。

THE CHECKERS 227

●STYLEといえば、パーソナル・インタビュー攻撃！　今年最大のニュースは……ときくと、こちらから聞いたわけじゃないのに、7人の第一声が「兄の結婚」。そういえば、あまりにも自然にファンのみんなに祝福されてたので、もう忘れてた。(笑) そういった意味でも「夜明けのブレス」というシングルは名曲なのです。

COVER

◀8年目のチェッカーズが、8月8日発売のパチ▶パチで表紙巻頭特集！　年に一度のアルバムリリースで、撮影スタジオは大さわぎっ。たった3時間で30ページ分の撮影と7人分のパーソナルインタビュー、更に全員インタビューも完全終了。拍手。

DATA

藤井郁弥
●S37年7月11日生まれ。蟹座。
血液型A型。福岡県出身。
ボーカル。

藤井尚之
●S39年12月27日生まれ。山羊座。
血液型A型。福岡県出身。
サックス。

武内享
●S37年7月21日生まれ。蟹座。
血液型A型。福岡県出身。
ギター。

鶴久政治
●S39年3月31日生まれ。牡羊座。
血液型A型。福岡県出身。
ボーカル。

徳永善也
●S39年6月7日生まれ。双子座。
血液型A型。福岡県出身。
ドラムス。

高杢禎彦
●S37年9月9日生まれ。乙女座。
血液型A型。福岡県出身。
ボーカル。

大土井裕二
●S37年11月2日生まれ。蠍座。
血液型B型。福岡県出身。
ベース。

UP-BEAT 261

●やっぱ、UP-BEATは毎月パチ▶パチに載ってないと！　'91年は岩永ぴいき宣言。

DATA

広石武彦
●S40年1月24日生まれ。水瓶座。
血液型A or B型。福岡県出身。
ボーカル。

岩永凡
●S40年10月20日生まれ。天秤座。
血液型は不明。福岡県出身。
ギター。

嶋田祐一
●S39年11月17日生まれ。蠍座。
血液型O型。福岡県出身。
ドラムス。

COVER

◀ほんとに、おまたせしました。こんなに出るのが遅かったのは全て、パチ▶パチが悪いのです。のべ30時間に渡るインタビューもスゴかったけど、真夏のロケ、浅草の裏路地で、傘をさしながらチャリンコを乗り回す、広石武彦の姿は一生忘れられない。

フリッパーズ・ギター 271

●'91年は時代が彼らに追いつく。彼らの時代が来る！　そんで、90年はというと。

DATA

小沢健二
●S43年4月14日。牡羊座。
血液型O型。神奈川県出身。
ギター。

小山田圭悟
●S44年1月27日。水瓶座。
血液型B型。東京都出身。
ボーカル。

ソフトバレエ 218

●シングル2枚、アルバム1枚、ミニ・アルバム1枚、ビデオ2本…。これ、ソフトバが90年に発表した作品の数なんですよ。しかも、その合い間にツアーをやってたってんだから…いやはや彼らのエネルギーにはただただ脱帽でございます。

DATA

遠藤遼一
●S42年12月6日生まれ。射手座。
血液型は不明。東京都出身。
ボーカル。

藤井麻輝
●S40年8月17日生まれ。獅子座。
血液型B型。愛知県出身。
キーボード。

森岡賢
●S42年3月15日生まれ。魚座。
血液型B型。東京都出身。
ベース＆キーボード。

KATZE 342

●GREAT FUCKIN'KATZE'S 1990

DATA

中村敦
●S43年4月24日生まれ。牡牛座。
血液型O型。山口県出身。
ボーカル。

尾上賢
●S42年8月1日生まれ。獅子座。
血液型O型。山口県出身。
ギター。

高山克彬
●S38年10月31日生まれ。蠍座。
血液型B型。山口県出身。
ベース。

高山靖彬
●S42年1月20日生まれ。山羊座。
血液型B型。山口県出身。
ドラムス。

ザ・真心ブラザーズ 267

●「どかーん」大ヒットなど'90は、とにかくすごかった真心ブラザーズの'91年は。

DATA

倉持陽一
●S42年7月14日生まれ。蟹座。
血液型AB型。東京都出身。
ボーカル＆ギター。

桜井秀俊
●S43年6月6日生まれ。双子座。
血液型B型。広島県出身。
ボーカル＆ギター。

米米CLUB 291

●春から夏にかけて、いつもは水着のお姉さんが出てくる航空会社のキャンペーンCMになぜか出て来た、米米CLUB。BGMはあの名曲「浪漫飛行」。というのも90年のことだったんですね～。CM以外にも、異常に大がかりで、手の込んだ、しかもメニューの多いライブを精力的にこなしてきた彼ら。音楽集団ってことを越えて、他に例のない存在になった彼らが、90年を振り返りました。

DATA

C.S.石井
●S34年9月22日生まれ、乙女座、血液型B型、茨城県出身。ボーカル。

ボン
●S35年3月5日生まれ、魚座、血液型A型、神奈川県出身。ベース。

J.得能
●S34年8月10日生まれ、獅子座、血液型O型、東京都出身。ギター。

F.金子
●S39年3月22日生まれ、牡羊座、血液型A型、千葉県出身。サックス。

J.小野田
●S33年11月8日生まれ、蟹座、血液型A型、神奈川県出身。ボーカル。

リョージ
●S34年4月25日生まれ、牡牛座、血液型A型、福岡県出身。ドラムス。

ミナコ
●S36年12月18日生まれ、射手座、血液型B型、茨城県出身。コーラス。

マリ
●S41年11月20日生まれ、蠍座、血液型O型、茨城県出身。コーラス。

BAND1991 195

●'90～'91年にかけて登場したバンドの特長は個性的ってことかな。飽和状態にあるシーンの中で聞き手は異色、本物、強烈、そんなバンドを求めているのだろうか。色々なバンドがシーンを盛り上げているのは楽しいことだが、それだけに、アーチストも自分のスタイルを真剣に追求することが必要なんじゃないかな。もちろん、聞き手であるみなさんも、色々な音に触れて耳を肥やして欲しいな。

DATA

すかんち
●あまいあま～いハードロックとハデハデのルックスとガンガンのMCにはまったらぬけ出せないのだよ。

SPARKS GO GO
●元気、パワフル、カッコイイ。スパゴーを表現する言葉はみんな健康的だ。正しいロックバンドの鏡だね。

COBRA
●ライブが最高に気持ちいいコブラ。それは、ロックを本当に理解しているからなんだよ。あ～気持ちいい。

TRACY
●適当に生きてる人達! トレイシーを聞いてごらん。きっと何か感じるものがあるはずだ。きっと……。

ガラパゴス
●南国から来た歌姫はロックがお好き。独特のサウンドで聞く人にインパクトを与え続ける異色のバンド。

松岡英明 181

●ほとんどアルバムの製作が中心だった90年。たまりにたまった言いたいことを、このインタビューで一挙に吐き出した!?

DATA

●S42年12月23日生まれ、山羊座、血液型O型、神奈川県出身、もちろんボーカル。

COVER

◀編集部では誰も12月22日に発売できると思ってなかったが、発売できた第2弾の単行本。はっきり言ってこれは名作だ。装丁もこりまくっていて、カバーをはずすと、ナ、ナント……。買った人は確かめてみて下さい。買ってない人は、スグに買え!

BUHi♥BUHi 351

●なんだか、内輪うけに磨きがかかったこのブヒブヒ・スペシャル版。いいんじゃないスカ、1年に一度なんだから。きっと読者の皆さんも、本を作ってる人のこと知りたいよね。ねっ。そうだろ～。

BY-SEXUAL 247

●オーディション出身でも、イカ天出身でもない。CMソングやドラマの主題歌もやっていない。たぶん、'89年の今頃は、BY-SEXUALの存在を知ってる人って世の中に800人くらいしかいなかったんじゃないかなぁ。でも、今月、パチ▶パチにBYが載ってなかったら怒るでしょ?

COVER

◀"両面表紙"とか言いながら、やっぱし裏表紙は裏表紙。このくやしさは、来年晴らすとして。この時は、かわいい"MINI" BY-SEXUAL"が登場。今だにメンバーは、「子役に会いたかった」って言うけど、Jrさんがいっしょじゃダメって言うからさぁ。

DATA

SHO
●S45年8月25日生、乙女座、血液型AB型、大阪出身。ボーカル。

RYÖ
●S45年8月14日生、獅子座、血液型不明、大阪出身。ギター。

DEN
●S45年6月10日生、双子座、血液型O型、大阪出身。ベース。

NAO
●S45年7月7日生、蟹座、血液型O型、大阪出身(?)。ドラムス。

TMN

●宇都宮隆はよりショッキングなドラマに挑戦し、木根尚登は小説を書き、ラジオであたたかい喋りを続ける。小室哲哉は自らが歌ったのちも、違う分野の人々と組んで音を生み出し続ける。全く別々の個人活動。その後の沈黙と突然の、あのTMN宣言。そして今、再び3人で動き出したTMN。相変わらず人を驚かさないと気が済まないような3人の、記念すべき'90年を振り返って——

takashi utsunomiya

TMNを飛躍させたい。せっかくデビューしたんだから。

いよいよ本格的なツアーがスタートしたTMN。その忙しさの中、宇都宮隆をキャッチする。より一層激しく、より一層刺激的に歌う彼の姿が、全国各地で露出されている真っ只中なのである。

けれど、撮影スタジオのメイク・ルームで見つけた彼は、やはり以前からの物静かなイメージのままだった。彼の本質を見破るのは至難の技だ。

まして、"あなたにとっての90年"というテーマでインタビューをしなければならない。彼に、振り向かせるなんて……！

—90年はドラマの仕事がメインだったと言っていいんでしょうか。

宇都宮 ウン。半年以上やってたから、そうだね。

—年明けは何をしてました?

宇都宮 レコーディング。"ポイント……"の。それから3月ぐらいまでちょっと空いてたんです。ちょうど、ドラマどうしようか、って時期で。最初はそういう連続のドラマとか考えてなくて、とりあえず、よくある2時間ドラマ? みたいなのでいい脚本があればいいな、っていう探し方をして。で、何本か候補があったんだけど、なかなか納得できるものがなくて、どうしようどうしよう、って言ってるうちに『誘惑』の話が出てきたんですよ。人気が下がったみたいですね、あれで。(笑)

—新しいファンもできたから、いいじゃないですか。(笑) でも、そうすると前半は3人バラバラの仕事が多かったんですね。

宇都宮 滅多に会わなかったんじゃないかな。

—単独行動ってどうですか?

宇都宮 いつもは一緒にいるから、それでも話すことってあるじゃない? それが、それ以上に話すことが溜まって、あれ観たよ、とかって話題がね、会ったとき、いっぺんにボンッっていう感じになるから、それぐらいじゃないのかな。

—個人的には、家で音楽聞いたりしてました?

宇都宮 ないですね。家では音楽聞かないです。

—本当?

宇都宮 テレビだけ。テレビとビデオぐらいしか見ないから。テレビっ子だから。(笑) 音楽は聞かないですね。よっぽど何か聞きたいものがないかぎり。

—自分が出てるドラマも見てました?

宇都宮 一応見てました。

—どんな感じ?

宇都宮 ウーン、『誘惑』の前までは、やっぱりちょっと見てて違和感があったけど。3本目ぐらいから、やっと……。

—違和感っていうのは?

宇都宮 恥ずかしい……というか、自分では納得してないからさ。いつもそうなんですけど、演ってて。納得してなくて。で、結局OKとか出ちゃうからさ、まぁ大丈夫なのかなと思ってさ。(笑) どんどん進んじゃうんだけど、テレビで見ると、やっぱりなー、みたいな。(笑)

—それは次に反映させる?

宇都宮 歌とかだったら……例えばレコーディングね。あそこはもっとこういうふうに歌えばよかった、って思っても、その思ったことがきっとできると思う。でも演技に関しては、その時点の僕にはきっとまだできないと思う。頭の中ではわかってるんだけどね。それを表現するのは難しいね。歌だったら、さすがに自分の本業なんで、なんとなく自分のイメージに近いようなことができるけど。……思ったとおりに表現できないっていうのは、つらいですね。

—でも、やってよかったと思いますか?

宇都宮 ウーン……。

—歯切れが悪いですね。(笑)

宇都宮 やってよかったんじゃないですかね。一応、小さい頃から憧れてた職業というか。やってみたいな、って気持ちはすごいあったからね。まだ、これからですね。人それぞれ、ね、1本ぐらい出ただけでさ、すぐ演技がうまくなっちゃう人もいればさ、いろいろタイプはいるわけで……。僕は遅い方かもしれない。

—これからですね。

宇都宮 これからですよ。(笑)

—90年1年を振り返って、パッと思い出すのは、どんな場面ですか?

宇都宮 場面ですか? ……やっぱり、ベッド・シーンかな。(笑)

—篠さんと?

宇都宮 あれはやっぱりインパクト強いですね。いざ、やっちゃうって自分で言っときながら、やっちゃったヤツなんですけど。(笑)

—前にTMのプロモーション・ビデオでもありましたよね、女の人と抱き合う……。

宇都宮 でも、ちょっと違うんじゃないかな。設定がベッドだしねー。上半身、裸だしねー。

—緊張しました?

宇都宮 やっぱ、すっごい緊張した。(笑)

—じゃ……。90年いちばん後悔してることは何ですか?

宇都宮 ……90年は後悔するようなこと、ないんじゃないかなー。うまく、一応順調にTMNも進んできたような気がする。……だから、ないですね。

—じゃあ、いい年でしたね。

宇都宮 そうですね。なんか、無駄なことをしたというのは、あまりないですね。90年は頑張ったんじゃないでしょうかね。

—89年も頑張ってたじゃないですか。

宇都宮 頑張り方がちょっと違うけどね。やっぱり、責任感みたいなものを痛感したしね。足のケガして、ケガしなければちゃんと4月に終わってたツアーだったから。それが8月まで続いちゃったでしょ。一応アクシデントだよね。90年の方が順調にいってるんじゃないのかな。

—じゃあ、90年いちばん嬉しかったこと。

宇都宮 ウーン、やっぱり、ツアーが始まったことかな。その前のツアー(89年『CAROL』)が終わったときは"しばらくツアーはいい"と思ったんだけど、(笑) さすがに1年以上やってないと、だめですね、やりたくて。

—90年いちばん怖かったことは?

宇都宮 ウーン、ない。(笑)

—じゃ、90年いちばん怒ったことは何ですか?

宇都宮 腹の立ったこと? やっぱり、ニュース見てると、腹の立つことは多いよね。連続殺人とかさ。

—普段は?

宇都宮 普段はあまり怒らないからさ、3人とも。そうじゃない? きっと3人とも(腹の立つことは)ないんじゃないかな。特に小室とかは。

—じゃ、日常の波風っていうのは、結構ずっと穏やかな感じなんですか?

宇都宮 ウン。そうですね。性格が温厚ですからね。(笑)

—普段は羊のように温厚でも、一度ステージに上がると、どっかにスイッチがボンと入っちゃうんでしょうかね。

宇都宮 入っちゃうんですね。だからケガしちゃうんですよ。(笑) あとになって"ああいうことしたっけ?"っていうこと、結構あるからね。

—どっか糸が切れるんですね。

宇都宮 まぁ、冷静なとこもあるんですけどね。曲によって、考えながらやらなきゃいけないような演出だったり、そういうときは。

—でも最後の方は……。

宇都宮 もう、後半とかは。(笑)

—そういう興奮状態はステージでだけということですね。

宇都宮 そうですね。だから、普段とかは、あまり自信がないんですよ。こう、普通にしている自分っていうのは。その、ステージに比べちゃうとね。

—そうなんだ……。

宇都宮 同じ自分なんだけど、なんか違うの。

—(笑) 90年いちばん笑ったことは何ですか?

宇都宮 ………大変だなっ、振り返るのって。

—ねえ。(笑)

宇都宮 いっつも笑ってるからね、メンバーといるときは。

—そうですか。

宇都宮 木根とかテッちゃんと一緒にいるとき、今の(ツアーの)メンバーといるときは、いちばんおもしろいことしてるかもしれない。本当にお腹の底から笑うようなさ。結構みんなそうかもしれない。変かな。(笑)

—では、91年の抱負は?

宇都宮 前半はツアーを成功させるっていうことがいちばんと、91年はTMNをさらに飛躍させたい、と。せっかくデビューしたんだから。

—具体的に言うと?

宇都宮 もう少し、例えば、今このくらいの人数がいたとしたら、とりあえず、その倍の人には聞いてもらいたいな。

—でも、今で相当の数のファンの人たちがいると思うんですけど。さらに?

宇都宮 そうです。

—個人的な抱負は?

宇都宮 91年に34歳になっちゃうんで、なんとか音楽に負けないように、若さっていうんじゃないけど、いろんなものを常に吸収したり、発見したり。そういう自分でありたいですね。さらに磨くこと。

インタビュー・文●森田恭子

ラジオで、しゃべる。本を書く。バンドで、歌う。ステージで、いつになく動く。ソロ活動からTMNへ。'90年のキネ君は全身を使って展開してきた。その表現手段の幅広さという部分でこの年は、彼にとっていつにもまして経験量の多い1年だったハズ。その中でどんなことが頭をよぎり、どんなリアクションが引き起こされていったのか？ きいてみました。

——エー、本日の議題は〝'90年を振り返る〟ということでして……。

木根 アッ、そうかー。もう、そんな……。

——師走ですからネー。

木根 うーん、毎年やってくるこのテーマ（笑）

——去年末に話したのがきのうの様でしょう？

木根 うん。（笑）毎年思うんだけど、こういう風にパッと言われた時にすぐ振り返れないの。ほんと1年がアッという間に過ぎていて、〝エッ、何やってんだろう？〟ってかんじで。

——ちなみに'90年の正月のこと、覚えてる？

木根 今年は正月の3日から〝オールナイトニッポン〟が始まったんだよね。'91年は…ウッ、1日繰りあがって2日からだ（笑）

——これまでお正月なんかしら仕事が入ってた？

木根 デビューから何年かはよくTVに出てて…最近では紅白、だよね。紅白の時は除夜の鐘を聞きながら着替えしてて。クツ下はいたら年が明けちゃった、というなさけない元旦で。（笑）クリスマスとかだと街も騒がしいからいいんだけど、シーンとしてる正月は家にいたいねー。休みを確保した喜びを味わいながら。（笑）

——で、1月3日の〝オールナイト・ニッポン〟から始まった'90年。

木根 なんか大きなことが1つだけあったんならスグ思い出せるんだけど…大小とりまぜ色々あったからねぇ。ま、でも一番大きいのはTMが活動を再開して、リニューアルしてアルバムを出した、ってことでしょうね。1年を通してみれば、去年からやってきたソロ活動を今年の春でひと区切りつけて、気持ちを〝TMNのキネ〟の方に持ってくよう務めていった、っていうカンジ。

——ソロ活動からTMNへ。その切り換えはスンナリいった？

木根 自分の意識とは裏腹に半ば強制的に切り換えさせられていた、っていうのが正しいかな？（笑）TMNとして活動再開してからも2冊目の『ユンカース』とか書いたりはしてたんだけど、ラジオで〝今度シングルが出ます〟とか〝12月からツアーだから見に来て〟とか言ってる時は、ついついその本のことも忘れてたり。TMNとしてレコーディングして、リハーサルして、ツアー始まって…いつの間にかドップリとTMNにつかってる。

——知らぬ間にソロからTMNの一員にすりかわってたと？

木根 そうだねー。うしろから何千、何万の群集にウワーッと押されて、気がついたらそのウズの真っただ中にいた、っていう雰囲気。

——TMNとしての最初の作業はレコーディングだったと思うんだけど、その時期から渦中にいたカンジ？

木根 いや、レコーディング期間はまだ冷静だったよ。ボクらって'88年、'89年、'90年という風に区切って仕事してないでしょ？ アルバム作ってツアーして1つのテーマが閉じる、っていうサイクル。その始まりであるレコーディングの時って、〝これからどういう風に行けばいいのか？〟って冷静に考えるから。

——昔からレコーディング中は冷静だったの？

木根 うん…いや、考えてみると今回がそうだったのかな？ 今まで…例えば『CAROL』の時とか、その前のツアーの最中に「今度作る『CAROL』っていうのはどんなストーリーにしよう？」とか考えてたから。アルバムを作ってツアーやってる時には、もう次のアルバムとツアーの事を考えてる状態。それが今回に限り充電期間があった。'89年8月にツアーが終ってからのソロ活動の期間が。それがあったから、冷静な気持ちでレコーディングに入れたのかもね。

——ニュー・アルバム〜ニュー・ツアーという、バンドにとって新しい1年を迎えるにあたって、今回のような充電期間があったことはベターだった？

木根 そうだなー。充電期間はあったんだけど今になってみれば全てがセキを切ったような状態だからねー。ゲネプロ（通しリハーサル）やると言いつつ普通のリハーサルやって、（笑）リハーサルやりつつテレビに出て、その間にこうして取材も受けてるという。でも、こういう状態に耐えられるか耐えられないかは事前にどれだけ考えていたかで決まる、っていうことはあるだろうね。で、実際、こういう状態にもなんの不満もない。ということは充電期間、いろいろと考えていた時間が役に立っているということなんじゃないかな？

——考える時間。どんなことを考えてたの？

木根 たとえばリニューアルとしてTMNになるんだったら、ビジュアルも変えていかないといけない。で、レコーディング中に〝こういう曲調になるんだったらライブの動きはこんなかんじかな？〟って考えたり。あと、髪の毛を染めるといったことでも、時間的な余裕があった分、色々と試行錯誤できたよね。最初は薄く入れてみる所から始めて、〝これで似合うかな？〟って確かめつつもうちょっと大胆にして、そこでまた〝2人と並んだ時にはこれっくらいでどうだろう？〟って考えたり。もしコレが時間も限られていた去年あたりだったら、こわくて染めてなかったかもしれない。（笑）やっぱりいきなり、じゃねぇ。

——キネ君て、時間があるとけっこう考えるタイプだっけ？

木根 あると、ネ。ないと知らない間に何10日もたってるってカンジだけど。（笑）でも…どっちかというと考える方かもネ。ノリ一発でバーッとは行けない、というか。自分でいろいろと想像してみて〝何か違うな〟と思ったらやらないタイプ。

——ツアーが始まって、ほぼ想像通りに事は運んでると思う？

木根 今んとこそうだね。こんなハズじゃなかった、てことはないみたい。

——初めて〝歌う〟ことに関しても？

木根 もう、ぜんぜん心配してない。だから大丈夫なんじゃないかな？

——今回のツアーでは歌以外にも色んなトライを披露してるけど…。

木根 〝歌〟っていうのはこれまでのライブでのパントマイムにあたる部分だよね。で、それ以外にも、TMはリニューアルしたわけだからそこで自分をどこまで表現できるか、っていうモノを出していきたい。たとえば動きの部分とかね。今まではココっていう所以外はわりとひっこんでたじゃない？ それを「オレだって動くよ」っていう風に変えてきたいしね。（笑）自然に動いてる、かんじで。

——自然、だと思ったよ。

木根 かな？ でもオレ、動きながらも色々と考えたりするからね。「ここで前に出なくちゃならない」って思ってその事に抵抗がある時は、歩きながらも考えてしまう。そこもなれれば自然になってくと思うんだけど。

——今回のツアーって、ステージ毎に曲の長さが違ったりということも有りえるわけでしょ？ となると、考える前に動く場面も増えてくるんじゃない？

木根 そうだね。そういうことが出来るようになると、またラッキーな方向に行けるかもしれないね。

——ラッキーな方向？

木根 振り返ってみると、ボクって運よく来てるような気がするの。いつも新しいことを始める時には不安がある。本を書き始めた頃は、みんな読んでくれるんだろうか？とか思ったりもした。でも、結果としてうまくいった。他のことも含めて、今まで大失敗みたいなこと、なかったんだよね。それは、不安を覚えつつも自分なりの判断をしつつ行動してるから、なのかもしれないけど。なんにしても、絶対こっちがいい、なんてことは言えない。で、ボクは55%ぐらいの勝算があったらやってみるの。反対に45%だったらやめちゃうけど。

——5%ぐらいが判断の境目？

木根 そう。（笑）

——キネ君の言う〝運〟というのも、その微妙な判断の勝利、だったりするのかもしれないね。

木根 かもしれない。ま、こういうのってあくまでも振り返った上で語ってることだから、本当のところはわからないけどね。ミュージシャンに限らず、誰でも年頭とかに色んなことを思うわけでしょ？ 〝今年こそはやせよう〟とかさァ。（笑）思って、色々と判断もするけど、結局はどれだけ出来たかっていうことが全て。出来たからアレコレ言えたりもする。ボクの場合、年頭に思ったことは出来てきたような気がする。'90年も、ね。で、今は、'91年のことを思ってるわけ。まだソレは〝想い〟の段階だけどね。

naoto kine

初めて「歌う」こと?—〝もう、全然心配してない〟

インタビュー・文●今津甲

INTERVIEW '90th and TMN

音楽というフィールドは同じでも、1ミュージシャンとプロデューサーではモノをはかる単位が違ったりする。例えばアルバム作りという作業を前にした時、ミュージシャンは〝作る〟いうことに全神経をそそぐ。それがプロデューサーとなると、その時のシーンを見渡し、アルバムが発表されてからのシーンをも予測して、作品作りに関わっていく。小室哲哉はミュージシャン。そしてプロデューサー。2種類の時間の流れの中で活動する彼にとって、'90年というのはどんな場所だったのか? 彼の中では'90年という単位があったのかどうか?その辺のことも確認しつつ、とりあえずは'90年末の声、聞いてみた。

小室 ボクはよく〝5年〟っていう。5年ごとの区切りで自分の色が変化してる。振り返ってみると10歳から15歳は完ペキ悪い5年。(笑) 15歳から20歳まではいい時期で、20歳から25歳は良くなくって、25から30まではイイ、ってカンジでね。

──30歳から今日までは?

小室 これまでは〝いい〟と〝悪い〟のが交互してきたんだけど、ここへ来て初めていい時期が続いてるの。

──それにしても10歳の頃からそういうサイクルが続いてるって不思議だね。

小室 もちろん10代の5年間と20代の5年間とでは、いい悪いって言っても質は違うんだけどね。

──1つの〝5年間〟の中では、良きにつけ悪きにつけ同じ状態が続いてくの?

小室 細かい浮き沈みを別にすればトーンは同じ。暗い5年、とかさァ。(笑) で、いつも5年目にその状態は終了しちゃうの。尾をひかないっていうか。

──それが今回のみ、いい方向で尾をひいている。

小室 そう。

──じゃ、TMを始めてからはズッといい状態が続いてるんだ。

小室 おかげさまで。何に対して〝おかげさま〟なのか、わかんないけど。(笑)

──TMが自分にとってイイ場だった、ということなのかなァ?

小室 ていうのもあるだろうね。あと、TM以前にイイ時期、悪い時期をいろいろ経験してきたから防衛本能みたいのが備わってて、その上でのTMだったからうまくいったのかもね。悪い事は自然と避けて通れる体で始めたバンド、っていう。(笑)

──小室クンにとってイイ時、悪い時を作り出す要素、どんなものが考えられる?

小室 対人関係、っていうのが大きいかな? 別に選んでいるわけじゃないんだけど、周りにいい人ばっかりいる時期、合わない人がいる時期があるの。やっぱ、自分のことを〝どうかな?〟って思う時って、周りにいる人を鏡にして自分を見るでしょ? で、その鏡が良ければ自分もイイ方向に進んでいける。もしそれがゆがんだ鏡だと本当の自分が見えなくなってしまう、という。

──すでに7年目を迎える〝いい時代〟。そのなかでの'90年とは?

小室 切迫感の年、かな? 自分にとってこのイイ時期も、もしかしたら明日おわってしまうかもしれないっていう切迫感の年。だから、なんか作るにしても〝今日やっとかなきゃ2度と作れないんじゃないか?〟って思ってしまう。

──で、すさまじいペースで作ってると?

小室 今ってドンドン作れる時期でもあるの。レコーディングとかの物理的な労力はあるものの、曲を生み出すための労力はほとんどなし。〝さっ、作ろう〟と思った瞬間、どこかわいてくるのかパッと出来ちゃう。SFで描くと、イナズマがピカッと走って体から曲がわいてくる、みたいなカンジ。

──そういう体験て、これまでにもあったこと?

小室 あんまり…なかったよねー。たとえば「GET WILD」っていうのはスタジオで、キネが寝てる横で2時間キーボードに向かって出来たのね。ちょうど彼が起きた頃にさァ。で、〝アレッ、もう出来たの?〟とか言われたけど。(笑) とにかく昔は「何か生み出さなくちゃ」って駆り立てられながら作ってたから、今とは違う。

──「何か生まなくちゃ」から「今日やっとかなくちゃ」へ。そして今は、すぐ曲の形になる。

小室 うん。パチンコと同じだよね。いま出てるからここで他のことしちゃったらもったいない、みたいな。出まくってる時ってタバコも吸わないし、腕を動かすのにも気を使うでしょ? ハンドルの位置がちょっとでも狂うと出なくなったりするから。そういうのに近いなァ。だから今の台は大切にしたい。(笑)

──そういえばニュー・シングルに収録の「DREAMS OF CHRISTMAS」すごい早さで作ったんでしょ?

小室 うん。(取材日を基準にして) おととい〝クリスマス・ソングを作ろう〟って思って、TV見ながらシンセ弾いてたら1分ぐらいで出来ちゃった。〝ここはどうしようか?〟なんてことは全く考えない内に。

──考えないで、ってところがポイントだったりして。

小室 かもね。前はどういうモノをやれば皆んなが気に入ってくれるのか? とか色々かんがえて作ってたからねー。「TWINKLE CHRISTMAS」にしてもそう。ほんと、色んな努力をつめ込んだ結果がアレ、ってかんじだったから。その点、今は「わいてくるモノを形にできればいいや」っていうだけ。「DREAMS…」の歌詞もそう。そんな調子でパッと出来て。

──きのう、昼に会った時は「詞はまだ」って言ってたよネ。

小室 うん。

──同じ日の夕方からは取材もあったハズ。取材のあとは歌入れだって聞いた。

小室 うん。

──じゃ、取材と歌入れの間に詞ができちゃったり?

小室 うん。(笑) ま、そんな高尚な詞じゃないから。ちょっと書いてみたいシチュエーションがあったからソレを形にしてみました、っていう。

──今や、人に寝る間も与えず作る奴。(笑)

小室 でも、周りの人達もそういうペースのこと当り前みたいに思ってるから、誰もほめてくれない。(笑)

──アルバム『RHYTHM RED』を作った時も相当なスピードで曲が出揃った、って言ってたよネ。今日のペースはあの頃から?

小室 いや、『天と地と』のサントラを作り出した頃から。その前の『CAROL』ん時は詞を1つ作るのに2週間、とかいうペースだったんだけど。

──『天と地と』のサントラを作り始めた頃っていうと'89年の前半でしょ? すでに1年以上ハイ・ペースをキープしてるわけだ。

小室 だから、こわいわけ。明日、突然作れなくなってたらどうしよう、ってなるわけ。

──「DREAMS…」をほとんど1〜2日で作り上げた背後には、そういう感情もあると。

小室 うん。ま、あの曲はほんとに短時間で仕上げたからラフな作りではあるんだけどね。ウツのコンディションが良くなかったから各パートを1人づつ交代で歌うことにした、っていうアイデアも含めて。そういうのって事前に考えてたものじゃなくて、ほんとにその場の判断だから。

──ここにきて、ラフなものも良しとする気持ちも出てきたんじゃない?

小室 それはある。えらそうに言うと、ビートルズ後期の〝これでいいじゃん〟っていうモノをそのまま作品にしてしまったような部分、分かるような気もするし。

──その辺、TMNが掲げたロック感とも通じてるかもしれない。

小室 うん。いつ終りを迎えるか分からないけど今は突っ走ることが大事だ、っていう事も含めてね。止まっちゃいけない。ローリング・ストーンズだ、っていう。

──止まることはこわい?

小室 ボク、止まって落ち着いたりすると顔の表情から何から、全部変わっちゃうんだよね。実際、そういう時期もあってさ。きっと落ち着いちゃいけない人なんだよね。もし、生まれてくるモノに喜びを見い出すか、落ち着くことに喜びを感じるか、どっちかを選びなさいって言われたら、前者を選ぶだろうし。

──今まで過去にそういう選択をしたこと、ある?

小室 25歳の時に1回。30歳の時に1回。25の時は…実は落ち着くことを選んだんだよね。だけどTMが動き出して動かざるを得なくなった、という。(笑) で、30ん時にもう1回選択の時期があって、今度は動いていくことを選んだの。

──30歳の時というと…。

小室 『CAROL』を発表した頃。で、『DRESS』を作って動き出したという。

──その運びは分かるような気がする。

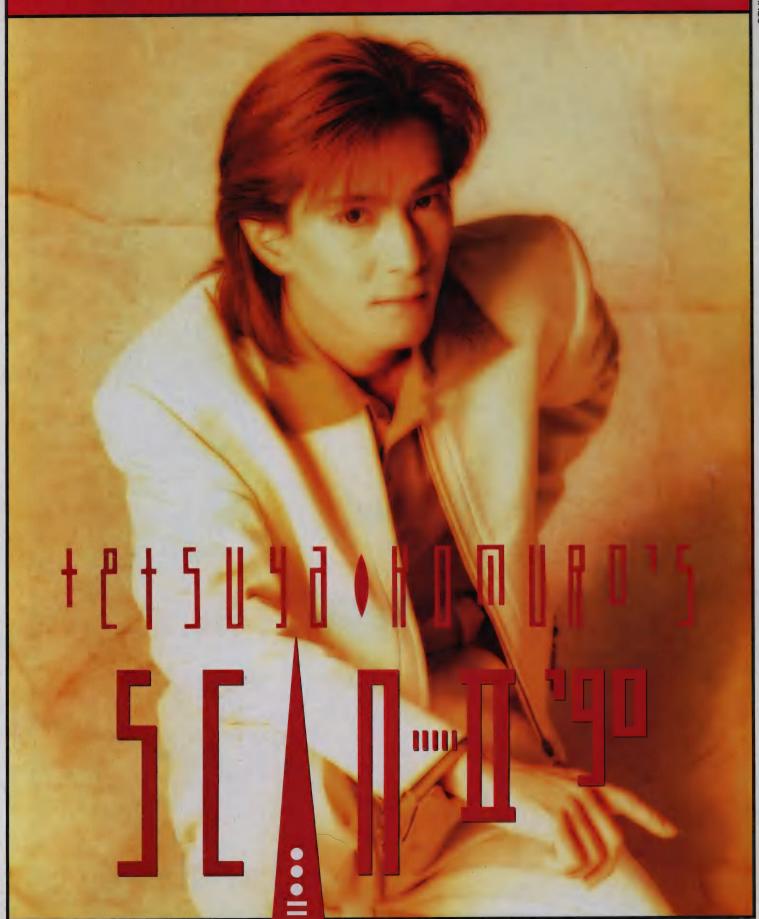
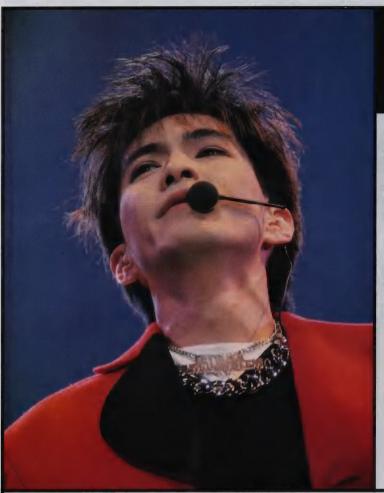
小室 作品の内容とミュージシャンの気持ちって完璧に重なってるから。ここ1年余りのボクで言えば、全部が全部シンプルでストレートな考え。フェラーリ買っちゃえ、これでいいんだ! みたいな。(笑)
だからTMNの音楽もそのノリだし、次のアルバムもストレートな物になるハズなの。

tetsuya komuro

91年、次のアルバムもストレートな物になるハズ。

インタビュー・文●今津甲

●小室哲哉の徹底解剖シリーズ『SCAN』が、彼の初めてのソロ・ステージをきっかけに再び始まった。尽きることなく話題を提供し続ける彼の、活動を追うだけでも精一杯だった'90年。PATi▸PATi 3月号〜7月号まで掲載された『SCANⅡ』の5回のシリーズをこぼれ話と共に振り返ると……

COPY● KOU IMAZU

1 THE FIRST STAGE

Photo/GORO IWAOKA

●名古屋はレインボー・ホールで行なわれたテツのソロ・ツアー初日のレポート。それが〝SCANⅡ〟の第1回目。

この日のステージは1日目ということでシンクラビアのトラブルとかもあったけど、今まで見たことのなかった〝小室哲哉・オン・ステージ〟を目撃できたこともたしか。

彼がリード・ボーカリストとしてみんなの前で歌う、っていうこと自体も勿論だけど、けっこう感極まった風になって声をつまらせてしまった所なんか「ハッ」としてしまった。

その時、マイクもなしに地声でハミングし始めたのがウォーレン・ククレロ。客席に向かって、指揮者のように軽く手を振りながら。

アレはすごくいい光景だった。『Human system』以来の仲とは言え。ウォーレンとテツ。『RHYTHM RED』まで続く2人のパートナー関係の証し、みたいなものを目撃した想い。そしてこの次の号で2人は対談という形をとった。

T E T S U Y A　K O M U R O ' S **S C A N '9 0**

2 TETSUYA VS WARREN

Photo/TAKEO OGISO

●一方は（ラテン系？）アメリカ人。一方純日本人。なのにどうしてこんなにルックスが似ているの？　っていうのがウォーレン・ククレロと小室哲哉が並んだ時の印象。

ウォーレン自身もその辺のことについてはしゃべってくれたけど、そういう人同志が同じツアーをまわってしまったってことの裏には、なにか深いモノがあったような気がして。ルックスのみならず、話し方の調子もなんか似ていたし。

ただ、ウォーレンにはやっぱ西海岸のロックンローラー、みたいなノリはあった。「きのうデイル（彼が昔いたバンド、ミッシング・パーソンズの女性ボーカリスト）と寝た夢を見たんだ」とかいきなり言ったりして。それから、何かハプニングがあると「R&R！」って叫ぶ感じ。昔、インタビューしたブラッド・ギルスとかにも通じてたネ。

ま、いずれにしてもウォーレンはナイス・ガイって奴だった。日本人とアメリカ人のハーフ的ロックン・ローラー、でネ。

3 HEAVEN AND EARTH

Photo/KAZUHIRO KITAOKA

●この時の撮影は強力に寒かった。季節的にも3月くらいのことだったし、彼がポーズしてるテラスというのがビルの吹き抜けの底で寒風がバシバシ。写真で見る限り春っぽい服装でなごんでる風だけど、撮影の合い間には皮ジャンはおって、熱いコーヒーすすって、という状態で…。それでも取材というと文句ひとつ言わないのがテツのいい所。カメラマンの指定通りのポーズ、作るしネ。

当日のインタビューは、やっぱ彼の口から上杉謙信とか武田信玄っていう名前がでてきたことがおもしろかったかな？さらに突っ込んで400年前と今、西洋生まれの音楽スタイルと東洋の世界観、みたいな話が。当時は自称・新人歌手を名乗っていた彼の、ひと皮めくれば深い話もバリバリ、カバー・エリアも広大っていう部分。ほんと話しててつきることのない人です。

それからTMNになってからのハイ・スピード作曲状態と同じ内容のことが、この時の会話の中に出て来たりもしてます。

TETSUYA KOMURO'S SCAN '90

4 THE MOVIE

Photo/NAKAYA NAKAI

●'90年4月3日。この日は、鈴木東京都知事もおでましだーっていう映画〝天と地と〟VIP試写会があった。いならぶ政、財、芸能界のお歴々を前に舞台あいさつがあって、2時間半近い試写が始まって…。

それが終ってから都内のレコーディング・スタジオの一室に場所を移してインタビュー。けっこうドーッと疲れた雰囲気があったの、覚えてる。それと弁当。すでに出前の時間が終っていて、机の上には近所のコンビニで買ってきた風の弁当がわびしく2個、3個。それがけっこう冷えてててテツは食べながら「寒いよー」とか言ってた。

製作費50億とかいう大作の音楽監督とその光景。私にとっては試写以上に印象的場面で。そういえば、ほんとに時間のない彼のこと。取材のたびに目撃する食事風景はすっごくチープ。スタジオで取材ってケースが多いから、かもしれないけど、控え目に言っても議員さんとかよりはシンプルな食生活。だからあんなにスリムなのかッ？

SPEED!

Photo/KENJI MIURA

●最初の"SCAN"がスタートするっていう頃から出しモノ候補として有力視されていたテツと車。でも、その話が実現したのは"SCANⅡ"が最終回だったという…。

でも、エラク待った甲斐があって登場した車はスゴかった。"007"シリーズにも出演してたロータス・エスプリの最新モデル。しかも全世界50台限定仕様車。

ちょこっと乗せてもらって走ったんだけど、シートに体を沈めてまず思ったのは、ふつうの乗用車とはまるで違う視線の低さ。路面をはうように、っていうアノF－1感覚なんだよネ。

人とは違う視線というのがプロデューサー・小室哲哉のポイントでもあるわけだけど、そういうものが彼の愛車の中にもあったわけ。

ちなみに、このとき車内で流れていたのがガンズ&ローゼズ。『RHYTHM RED』を作る際の参考文献、だったわけ。今になってこの時の"SCAN"を読み返すと、モロに同アルバムの内容に直結してたりします。

TETSUYA KOMURO'S SCAN '90

●新人のシンガー、シンクラビアに魅せられた音楽マニア、激しくキーボードを叩くプレイヤー、アイドルが歌う曲と映画音楽のプロデューサーでありコンポーザー。作詞家。とても語り尽くせない彼がTMNのリーダー。

tetsuya komuro's SCAN-Ⅱ'90

SCAN-II STYLE SPECIAL

tetsuya komuro:

With Mr. magic

●Mr.マリックと小室哲哉。一見、どこにも共通点を見い出せないような2人がアルバムを作ってしまった。いったいどんなきっかけで2人はお互いに魅かれ合い、アルバムを作るまでに至ったのか。STYLEでしか読めないSCAN番外編はMr.マリックのお話。

9月21日、『サイキック・エンターテイメント・サウンド』というアルバムがリリースされた。小室哲哉とMr.マリック、という超〝！〟な組み合わせによるコラボレーション作品。この1枚のことをキッカケに、なんとあのマリックさんにインタビューする機会があったのだ。それはのっけから驚きの会見だった。取材前のちょっとした時間、ソファに1人座っていたマリックさんが何気なく両手を動かすと、なんと…机の上のマッチ箱がツーッと動いてしまったのだ！　生まれて初めて体験したゾクッとするような感覚。けれども話しを始めた当の本人はやたらと親しみやすく、それでいて実に鋭い言葉を持ち合わせた人だった。マリックさんてすごいッ。

マリック　音楽って今まではじゃまなモノだったんですよね。マジックをやる上で。

──そうなんですか？

マリック　音楽っていうのは常に喫茶店や家庭で流れてる。ステージ上で何か現象が起こっている時、そういうモノが流れてくるとフッと冷めてしまったりする。全てが作り物っぽく見えてしまったりする。特によく耳にする類の音楽だと「あー、あの曲だ」ってなってしまいますから。そういう理由で〝じゃまモノ〟だったんです。で、例えばバリ島の音楽だとか、ふだん余り耳にしない様なものを選んだりしていたんですけど。

──そういえばバリ島を舞台にしたマリックさんのビデオ、というのもありましたね。

マリック　エエ。ああいう、周りが全て自然、というシチュエーションだと疑いなくマジックに入っていけるんですよね。そこに人間の作った物はないから。逆に言えば、この科学に埋まった世界の中でマジックを楽しんでもらうためには、やっぱり周りから作ってかなくちゃいけない。それも、なるべくオリジナルで固めないと意味がない。そう思ってた所に、小室さんが連絡をくれたんです。

──どのような切り出し方で？

マリック　ボクのTVを見てヒラメイた、って。その後、横浜アリーナでのコンサートを見させてもらったりしたんですけど、特に〝天と地と〟の曲は丹田（ヘソの下。気を集中するポイント）にズシーンと来ましてね。この人なら大丈夫だ。耳で聞くだけの音楽ではなく心の中で聞ける様なモノを作ってくれるだろう、って思ったんです。

──小室クン自身から受けた印象はどんなものでした？

マリック　現実の人ではないですよね。日本人にも見えない。宇宙人のような人。（笑）そこがいいですよね。そのわけのわからなさが曲に出てる（笑）

──TMも昔のアルバムにはテーマがあって、それは〝大気圏外からながめた地球の様子〟といった様なものだったんですよ。

マリック　なるほどね。人間、大気圏を出ると変わるみたいですからね。（笑）宇宙飛行士の、「私は神と出会った」って話、よく聞きますし。

──アルバム作りに関して、小室クンとはどんな話を？

マリック　私の世界の事をお話しして。それからボクのパフォーマンスに曲がつくことで、見てる人の心の奥のモノがもっとわき出てくるようにしたいと。一番強調したのは…行動力が起きるような曲がいい、ということだったと思います。

──パフォーマンスを見てる人に？

マリック　エエ。私のマジックに来る人の中には、どこか「自分を変えたい、変わりたい」っていう願望があると思うんです。そんな時にストレスを解消するための環境音楽みたいなモノは必要ない。ストレスをとっただけでは行動力は起きませんから。それよりも、この曲を聞くと変わっちゃう、というものが欲しいんです、と言って。聞いたことがなくて、変わってて、おどろけるようなモノが。

──その辺はマリックさん自身の好み、でもあるんですか？

マリック　そうですね。自分をおどろかせてくれたモノっていうのは何らかのエネルギーを与えてくれたモノでもあるから、それに感謝する意味でもすごく大切にしますね。霊能者にしても、ものすごいオドロキを体験して、ポッと能力が開けた人がほとんどなんです。霊能者に限らず、人間ってオドロキ〜奇跡と出会うことで潜在能力が火事場のバカ力みたいに出てくる。（笑）だからオドロキは大切にしたいんです。なんか今って、スピルバーグが作った映画でもすぐに裏を明かしちゃう。見る方も早く裏を見たがる。それって悪循環のような気がして。夢を作る人よりソレをこわす人の方にバランスが傾むきすぎてる。だから私とかが、がんばらないと…。

──夢を作る人＝エンタティナー、と結んでもいいですか？

マリック　もちろんです。世の中にはドキュメントかエンターテイメントか、2つしかない。でも、かといってエンターテイメントだけで表現していくと、これは単なる作り事で終わってしまう。

──そこでサイキックというものが登場する？

マリック　エエ。ただ、サイキックというドキュメントの世界だけだと、これは暗すぎるんですよ。「1ミリまがった、曲がらない」っていう暗さなんですよ。（笑）笑いがない。というか、そういう光景って笑って見てるから逆に笑いが起きないんです。そこに笑いというものを入れて、初めてエンターテイメントの世界に持ってけるわけです。私はソレを3.5次元の世界、と呼んでるんですが。間（はざま）という世界ですね。ネ。

──その辺のニュアンスって、さきほどの〝夢と夢のウラのバランス〟という話にも通じるものがありますね。

マリック　エエ。私はこの3.5次元の世界、CMみたいなものだと思ってるんです。CMは現実の商品に空想を織り込んでる。だからインパクトがある。それと同じですね。

人の頭の形のマイクに向かって……

TVを見てマリックさんに連絡をとった

レコーディング中にも話し合いを繰り返す

いきなりマッチ棒を動かしたマリックさん

Q1、中学生の頃の夢は何でしたか?（青森県　前山秀子）
A——有名なバレーボールの選手になる事。
Q2、タイムマシーンを使って歴史のある一ヵ所だけを変えることができるとすれば、どこを（誰を）どういう風に変えたいですか?（宮崎県　ライオンおじちゃん）
A——あまり興味がない。
Q3、英国にはどの車が一番似合うと思いますか?（神奈川県　西澤和恵）
A——プジョーカブリオレの赤
Q4、家に帰って最初にすることは?（鹿児島県　山田順子）
A——猫と話す
Q5、生きがいは何ですか?（愛媛県　多賀まし）
A——仕事。
Q6、今まで一番〝幸せ〟だと感じた出来事は何ですか?（静岡県　八木三智子）
A——怪我が治った時。
Q7、40歳になってもミュージシャンしてると思いますか?（三重県　K）
A——はい。
Q8、好きなペットのことを教えて下さい。（茨城県　木本教子）
A——猫。
Q9、ロンドンでお気に入りのスポットをひとつだけ教えて下さい。（大阪府　東珠緒）
A——遊ぶヒマはありませんでした。
Q10、ストレスとかたまらないんですか?たまったらどうやって解消しますか?（静岡県　鈴木利恵）
A——ビデオ鑑賞。
Q11、おフロで歌ったりしますか?　またおフロでメロディーが浮かんだことってありますか?（福岡県　池田美紀）
A——なし。
Q12、宇都宮さんが歌を作るとしたら、どんなメロディーでどんな詞の歌を作ると思いますか?（宮城県　佐藤亜矢子）
A——バラード。セクシーな詞。
Q13、幼い頃、どんな性格でしたか?（長野県　金井千代）
A——今と変わらず温厚
Q14、昔憧れたアーティストは?（静岡県　野田倫代）
A——加山雄三
Q15、好きな色を教えて下さい。（大分県　佐藤よしみ）
A——赤。
Q16、オフの日はどんなことをしてるんですか?（北海道　佐藤久美子）
A——おしえない。
Q17、今、長期のオフがあったら何をして過ごしますか?（長崎県　金子久美）
A——身をかくす。
Q18、これだけは1度やってみたいということを教えて下さい。（大分県　幸直美）
A——東京ドームで野球をすること。
Q19、自分に自信がなくなってしまいそうな時、思い出したりすることや言葉ってありますか?（神奈川県　大谷恵美）
A——なし。
Q20、自分たちの曲の中で一番好きな歌は?（山口県　スヌーピー）
A——さよならの準備
Q21、魔法が使えるとしたら、何をしますか?（香川県　細川朋子）
A——教習所にいかずに自動車免許をとる
Q22、お酒で一番好きなのは何ですか?（兵庫県　浜森和子）
A——バーボンウイスキー
Q23、今凝ってるものは何ですか?（鹿児島県　山田順子）
A——カタ
Q24、何かしている時、口ずさむ歌はありますか?（千葉県　後藤ミドリ）
A——泣きなさい——笑いなさい——い
Q25、自分のクセはどういうところだと思いますか?（奈良県　今川敦代）
A——分からない。
Q26、他の2人のメンバーより、自慢できるというところは何ですか?（佐賀県　上原康子）
A——背が高い
Q27、クリスマスプレゼントをもらうとしたら、どんな物が一番欲しいですか?（富山県　川上恭江）
A——プジョー605又はスーパーファミコン
Q28、自分を動物に例えるとしたら、何でしょうか?　その理由も教えて下さい。（茨城県　藤田亜矢子）
A——猫。前世が猫だと思っている。

Q 幼い頃、どんな性格でしたか?

A 今と変わらず温厚

QUESTION ⇒ KINE

Q1、中学生の頃の夢は何でしたか？（青森県　前山秀子）
A——プロサッカー選手

Q2、タイムマシーンを使って歴史のある1ヵ所だけを変えることできるとすれば、どこを（誰を）どういう風に変えたいですか？（宮崎県　ライオンおじちゃん）
A——第2次世界大戦勃発をくい止める。

Q3、英国にはどの車が一番似合うと思いますか？（神奈川県　西澤和恵）
A——ジャガー

Q4、家に帰ってまず最初にすることは？（鹿児島県　山田順子）
A——アディダスのジャージに着がえる

Q5、生きがいは何ですか？（愛媛県　多賀まし）
A——人々に夢をあたえること

Q6、今まで一番〝幸せ〟だと感じた出来事は何ですか？（静岡県　八木三智子）
A——オーバーヘッドキックがきまった時

Q7、40歳になってもミュージシャンしてると思いますか？（三重県　K）
A——わからない

Q8、好きなペットのことを教えて下さい。（茨城県　木本敦子）
A——犬

Q9、ロンドンでお気に入りのスポットをひとつだけ教えて下さい。（大阪府　東珠緒）
A——ウェンブレイサッカー場

Q10、ストレスとかたまらないんですか？たまったらどうやって解消しますか？（静岡県　鈴木利恵）
A——スポーツで汗をかく

Q11、宇都宮さんが歌を作るとしたら、どんなメロディーでどんな詞の歌を作ると思いますか？（宮城県　佐藤亜矢子）
A——ロッドスチューアートみたいな曲

Q12、幼い頃、どんな性格でしたか？（長野県　金井千代）
A——明朗快活

Q13、昔憧れたアーティストは？（静岡県　野田倫代）
A——吉田拓郎

Q14、好きな色を教えて下さい。（大分県　佐藤よしみ）
A——紺、黒、エンジ

Q15、オフの日はどんなことをしてるんですか？（北海道　佐藤久美子）
A——TV、ビデオ

Q16、今、長期のオフの日があったら何をして過ごしますか？（長崎県　金子久美）
A——バイト

Q17、これだけは1度やってみたいということを教えて下さい。（大分県　幸直美）
A——国立競技場でサッカー

Q18、自分に自信がなくなってしまいそうな時、思い出したりすることや言葉ってありますか？（神奈川県　大谷恵美）
A——誠実

Q19、自分たちの曲の中で一番好きな歌は？（山口県　スヌーピー）
A——ドリームズ　オブ　クリスマス

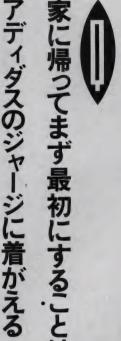
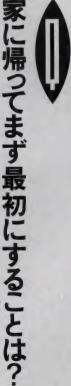
Q20、小室さんや木根さんはどうやって楽器の練習をしたのですか？（東京都　谷津とし江）
A——あんまり練習しない（独学）

Q21、魔法が使えるとしたら、何をしますか!?（香川県　細川朋子）
A——いたずら

Q22、お酒で一番好きなのは何ですか？（カクテルも含む）（兵庫県　浜森和子）
A——サザンカンフォート

Q23、今凝ってるものは何ですか？（鹿児島県　山田順子）
A——アディダスファッション

Q24、何かしている時、口ずさむ歌はありますか？（千葉県　後藤ミドリ）
A——石丸電機のCMソング

Q25、自分のクセはどういうところだと思いますか？（香川県　今川敦代）
A——せっかち

Q26、他の2人のメンバーより、自慢できるというところは何ですか？（佐賀県　上原康子）
A——ホウヨウ力

Q27、クリスマスプレゼントをもらうとしたら、どんな物が一番欲しいですか？（富山県　川上恭江）
A——洋服

Q28、自分を動物に例えるとしたら、何でしょうか？　その理由も教えて下さい。（茨城県　藤田亜矢子）
A——サル

家に帰ってまず最初にすることは？

アディダスのジャージに着がえる

question

kine

Q 今凝ってるものは何ですか?
A レーシングチームづくり。ほんとだよ～!!

Q1、中学生の頃の夢は何でしたか?（青森県　前山秀子）
A——もちろんROCK STAR!!ですね。

Q2、タイムマシーンを使って歴史のある一カ所だけを変えることができるとすれば、どこを（誰を）どういう風に変えたいですか?（宮崎県　ライオンおじちゃん）
A——レオナルド・ダ・ビンチをあと50年、後に存在させる。

Q3、英国にはとの車が一番似合うと思いますか?（神奈川県　西澤和恵）
A——?かも知れないけどフェラリーが似合う。

Q4、家に帰ってまず最初にすることは?（鹿児島県　山田順子）
A——Junkers&BUSとKISS

Q5、生きがいは何ですか?（愛媛県　多賀まし）
A——楽曲が世の中に出ていくプロセス。

Q6、今まで一番〝幸せ〟だと感じた出来事は何ですか?（静岡県　八木三智子）
A——たくさんの女の子がFANだと思っていてくれた時。

Q7、40歳になってもミュージシャンしてると思いますか?（三重県　K）
A——YES

Q8、好きなペットのことを教えて下さい。（茨城県　木本敦子）
A——Junkersは特別なキャラクターの犬です。

Q9、ロンドンでお気に入りのスポットをひとつだけ教えて下さい。（大阪府　東珠緒）
A——コベントガーデンは好きです。

Q10、ストレスとかたまらないんですか?　たまったらどうやって解消しますか?（静岡県　鈴木利恵）
A——たまりません。

Q11、おフロで歌ったりしますか?　またおフロでメロディーが浮かんだことってありますか?（福岡県　池田美紀）
A——曲は浮かばないけれど、コンセプトとかタイトルとかはある。

Q12、宇都宮さんが歌を作るとしたら、どんなメロディーでどんな詞の歌を作ると思いますか?（宮城県　佐藤亜矢子）
A——フォーク調

Q13、幼い頃、どんな性格でしたか?（長野県　金井千代）
A——今と同じでわがまま

Q14、昔憧れたアーティストは?（静岡県　野田倫代）
A——MARK BOLAN! &KEITH!!

Q15、すきな色を教えて下さい。（大分県　佐藤よしみ）
A——トリコロール

Q16、オフの日はどんなことをしてるんですか?（北海道　佐藤久美子）
A——ドライブレースとかMotorSportsです。

Q17、今、長期のオフがあったら何をして過ごしますか?（長崎県　金子久美）
A——F1の世界のおっかけをやる。

Q18、これだけは1度やってみたいということを教えて下さい。（大分県　幸直美）
A——F1のチームのオーナー

Q19、自分に自信がなくなってしまいそうな時、思い出したりすることや言葉ってありますか?（神奈川県　大谷恵美）
A——小学校6年～中学校1年

Q20、どんなキーボードを買ったらいいか教えて下さい（初心者です）（富山県　南）
A——EOS B500

Q21、自分たちの曲の中で一番好きな歌は?（山口県　スヌーピー）
A——むずかしい。

Q22、小室さんや木根さんはどうやって楽器の練習をしたのですか?（東京都　谷津とし江）
A——地面にキーボードを書いて弾くまねをしていた。

Q23、魔法が使えるとしたら、何をしますか?（香川県　細川朋子）
A——何でも出来る人になる。

Q24、お酒で一番好きなのは何ですか?（カクテルも含む）（兵庫県　浜森和子）
A——うめ酒

Q25、今凝ってるものは何ですか?（鹿児島県　山田順子）
A——レーシングチームづくり。ほんとだよ～!!

Q26、何かしている時、口ずさむ歌はありますか?（千葉県　後藤ミドリ）
A——あかいくつ

Q27、自分のクセはどういうところだと思いますか?（奈良県　今川敦代）
A——しゃべり方がとろい。

Q28、他の2人のメンバーより、自慢できるというところは何ですか?（佐賀県　上原康子）
A——歳がひとつ若い。

Q29、クリスマスプレゼントをもらうとしたら、どんな物が一番欲しいですか?（富山県　川上恭江）
A——あなた!!　なんてネ。

Q30、自分を動物に例えるとしたら、何でしょうか?　その理由も教えて下さい。（茨城県　藤田亜矢子）
A——占いの人にですね、ゴキブリだと言われました。

takashi utsunomiya
naoto kine
tetsuya komuro

TMN

世紀末に奏でられる速いスピードの優しいうた。再び目の前に広がった夢は以前と随分違う色をしているけれど、時代の彼方を見つめる繊細な横顔も、吸い込まれそうになる目も、柔らかい空気を生み出す口許も全部好きだから。同じ夢の中で、踊りたい。

TMN QUIZ

●2年前のSTYLEのお詫びに（エッ？知らない。あー良かった）再びお届けするTMNクイズ。（ちょっと簡単なので）全問正解者の中から抽選で20名様にTMNグッズをプレゼントします。下の応募方法をよく読んで、どんどん応募してくださいね。

1. リニューアル前、TM Networkの頃の、デビューシングルのタイトルは？
A. 日曜日のフラミンゴ　B. 水曜日のオカピ　C. 金曜日のライオン
2. 小室哲哉がMr.マリックと作ったアルバムに収められてない曲は次のうちどれ？
A. 心霊感応　B. 発光夢想　C. 念力誘動
3. 木根尚登の小説「ユンカース・カム・ヒア」の主人公、瞳の叔父の名前は？
A. 田代順　B. 吾郷輝樹　C. 安西雅輝
4.『RHYTHM RED』に参加しているギタリストD・クレムソンがいたバンドは？
A. ナポレオン・ケーキ　B. ホット・チョコレート　C. ハンブル・パイ
5. サントラ盤を作った「ぼくらの7日間戦争」の主役を務めた女優は？
A. 宮沢りえ　B. 後藤久美子　C. 牧瀬里穂
6. 3人がCFにも出演した音楽テープのメーカーは？
A. SONY　B. AXIA　C. MAXELL
7. 小説『CAROL』の主人公、CAROLが通う学校のある街は？
A. ロンドン　B. バース　C. マンチェスター
8.「RHYTHM RED TMN」ツアーのドラマーの名前は？
A. 藤本昌俊　B. 阿部薫　C. 今津甲
9. 小室哲哉のソロ・ツアーに参加したギタリストの名前は？
A. ウォーレン・ククレロ　B. 葛城哲哉　C. キース・リチャーズ
10. 宇都宮隆を主人公にした小説、『彼女』に出てくるスチュワーデスの女性の名は？
A. ミドリ　B. アキ　C. マリ
11. 木根尚登が初のボーカルを務める曲のタイトルは？
A. Reasonless　B. Tender is the night　C. Looking at You
12. 3人が初めて野外コンサートをした場所は？
A. よみうりランドイースト　B. 東京ディズニーランド　C. 深井丸広場
13. 宇都宮隆が出演したドラマ「誘惑」の原作者は？
A. 宮本輝　B. 高橋源太郎　C. 連城三紀彦
14. TMNに詞をたくさん提供している小室みつ子さんの最新アルバムの発売日は？
A. '90年10月25日　B. '90年11月1日　C. '90年12月21日
15.「RHYTHM RED BEAT BLACK」のビデオに登場した男性ダンサーは何人？
A. 7人　B. 9人　C. 11人
16. パチ▶パチのSCANシリーズにユンカースの写真が載ったのは何年の何月号？
A. '89年7月号　B. '90年3月号　C. '89年5月号
17. 3人で出演する（のが一応基本）のTBS系ラジオの番組名は？
A. ロックン・マップ　B. ポップン・マップ　C. ファンクス・マップ
18. 木根尚登のエッセイ「えんぴつを削って」が連載されていた雑誌は？
A. GB　B. Pee Wee　C. TYO
19. '89年12月24日、小室哲哉がコンサートを行なった場所は？
A. 横浜アリーナ　B. 東京ベイNKホール　C. CBGB
20. TMNがツアーの前に合宿をした場所は？
A. 明治の森　B. 合歓の郷　C. サロベツ原野
21.「RHYTHM RED TMN」ツアーに登場するMr.Gとは？
A. Mr. GALBOUR　B. Mr. GULBOAR　C. Mr. GALBOWA
22. '90年12月にリリースされたシングルに入っている2曲めのタイトルは？
A. CHRISTMAS CHORUS　B. DREAMS OF CHRISTMAS　C. きよしこの夜

●応募方法●官製ハガキにクイズの答えを、「1-A　2-B…………22-C」のように書き、TMNへの質問をひとつ（ひとつだけだヨ）書いて、次の宛て先まで送って下さい。［宛て先］〒156-91　東京都世田谷区千歳郵便局　私書箱25号　CBSソニー出版　パチ▶パチ編集部　STYLE TMNクイズ係。全問正解者の中から抽選で20名の方に、TMNグッズをプレゼントします。応募の締め切りは'91年1月31日（当日消印有効）です。なお、当選者の発表は商品の発送をもって変えさせていただきます。クイズの答えは、パチ▶パチ3月号（'91年2月9日発売）に掲載予定。どこまでTMNを知っているか、テスト代わりに挑戦してみてくださいね。

CAN'T STOP JUN SKY WALKER

★ジュンスカの90年は、ライブで始まりライブで終わる。しかも、その最初と最後がパチ▼パチTOMATOだってんだから嬉しいぜっ!! とにかく怒濤の365日を駆け抜けた彼らだからこそ、堂々と1991年をにらんでいられるんだろうな。そんな〝ジュンスカの90年〟を、まあ軽〜く本人たちに振り返ってもらおうかな、と。パーソナル・インタビューの他に、完全ライブ・スケジュール1990、そしてなんと、業界騒然の一大事となった、あの『森純太殺人事件』の謎までもが解明される。こりゃあ見逃がせないぜ。（笑）

PHOTO●YUKIO FUKUZATO TEXT●DAI ONOJIMA THANKS●MICHAEL CORLEONE

CAN'T STOP JUN SKY WALKER(S)

宮田和弥
CAN'T STOP
JUN SKY
WALKER
(S)

今までハッチャキになってたとこが、肩の力を抜いてやれるようになった。

今年は……どうだったかなあ……アッという間でしたね。ツアーとレコーディングの多さで、もちろん自分のためでもあるんだけど、まさにジュンスカイウォーカーズの生活をしてたなと。

ツアーが3種類違うのをやりましたからね。「HEAVY DRINKER」「レッツゴー4匹」「LADIES AND GENTLEMEN」……レコーディングも2回、初めてのスタジアム……よく働きましたよね。オフはなかったけど、充実してたと思いますよ。楽しかったし。

今年はいい意味で余裕が出てきたと思いますよ。今までハッチャキになってやってたところが、肩の力を抜いてやれるようになってきた。雑誌の取材も、コンサートも、レコーディングも、また違う捉え方ができるようになってきた。また違う挑戦ができるような……。

たとえば、インタビューだと、昔は、なにがなんでも全部言っとかなきゃ、みたいな部分があったんだけど、今は、ま全部言いまくらなくてもいいだろう、みたいな。写真の写り方にしても、昔は全部こう、カッコよく表情作ってたのが、今はリラックスして写れるようになった。レコーディングも、昔は音程狂わないように必至になってワンテイクこなしてたのに、今はいい意味で実力が向上してきた。前は3テイク歌ったらもう声が枯れたけど、今は10テイク歌っても平気だ。逆にそれぐらい歌い込んだ方がいい声が出る、そんな余裕が出てきてるんじゃないかな……。

でもそういうときって一番緊張感がなくなってきてるときだからね。そういう緊張感を取り戻さなきゃいけないから。今度のツアーではスクリーンにバンド紹介のMC入れてみたりとか、アルバムだと全員歌ってみたりとか、ヨヒトの曲を多く入れてみたりとか、初めての挑戦、新しい刺激を取り入れてみたり。それは余裕があって初めてできるんだけど。

個人的には……まあいろいろあったよね。フライデー事件もあったし、「笑っていいとも」も出たし……でも、過ぎちゃったことだからねえ。過去のこと……。落ち着いてきた？　うーん……。

中堅になって安心だとか、そんなことは思ってないけど、周りがそうならざるを得なくなってくる。雑誌に書かれるときだって、新人とは書かれない。インタビューするときも記事書くときも、ある程度のバンドとして評価してくれるし。ジュンスカもひとつのブランドになったというか……あれはジュンスカみたいだね、ジュンスカ・タイプだね、みたいな。そういうのも固まりつつあった年かな。

でもそこで安心したり、手を抜いたり、活動停止したり、勉強のためとか言ってアメリカ留学してみたり、（笑）そんなことやったら、こうしてえらそうなことも言えなくなると思いますよ。

「いいとも」に出た……「いいとも」が特別なものとは思ってないけど、ひとつの世間的な評価があるでしょ。ロックとは関係ないところで。「いいとも」に出て一人前みたいな、有名人になったぞ、みたいな。近所のオバサンに声かけられたりとかね。実際俺もあったし。そこで変な勘違いして、ああ俺も有名人になったぜ、みたいな錯覚を起こすと、すごい丸くなっちゃうと思うんだよね。

……でも、俺らも結局丸くなってるところはあると思うけどね。ライブハウスやってたころの角と、今じゃ。そりゃ昔の方があると思うんだ。でも丸くなっても、いつでもそれを叩き割って角を作ったりする余裕とか、勇気とか、そういうものを持ち続ける精神を保ちたい。当然大きくなれば、丸くなる、言っちゃいけないことも増えてくる。僕の一言が影響力を持つみたいなことも出てくるし。そういうのをとっぱらったところの、初々しさ、荒っぽさみたいなところは持ち続けたい。また楽器車乗ってライブハウス廻ることを恐れないような精神を持ってれば問題ないと思う。やりたいことどんどんやって、そうなるのはいいしゃないか。その時にやるライブハウスは武道館や西武球場の上にあるってことだと思いますよ。

周りの意見とか評価とか、そういうのに対していつも自分なりに戦っていられたらな、と思いますけど。「ああそうか、あいつはそういう意見か、ま、いろいろな考えの人間がいるよな」で済ませない精神。「バカヤロウ、フザケルナ」みたいな。それがあればいいんじゃないですかね。

まあこの1年……すごく楽しかったですよ。僕は。今はちょうど厄年なんですよ。24だから。苦労の時期なんですけどね。

バンドの中での役割分担ができてきたってこともあると思いますけどね。

今年ですか？　別に変わらないっていうか……。(笑)

いろんな意味で、慣れてきたっていう感じですね。ベースが掴めてきたっていうのかなあ……。自分のベースっていうのは……前からそうでしたけど、勝手にしてるっていうか……わがままっていうか……そういうので自分ではバランスとってるから。好き勝手にやってるっていうのが、自分のベースなんじゃないでしょうか。周りのことを考えながら、その中で……。

デビューしたころは、わかんないことが凄く多かったから、ベースが掴みきれないところがあったと思う。でも今はいろんなことが少しずつわかってきたから、そん中でどういう風にわがままっていうか、自分のやりたいことをバランスとっていくか、っていうのがわかってきたような、そんな気がする……。どういうことなのかなあ……。落ち着いてきたなとは思いますけどね。バンドの中での役割分担が出来てきたってこともあると思いますけどね。

やたら文句言ってた時期があるんですよ。「やだっ」って一言で全部片付けちゃうみたいな。みんな見てると、やなんだけど、とりあえずやってみてから、決めるってノリがあるでしょ。でも僕の場合、やなもんはやだ、それでいいやみたいなとこがあるんですよ。でも、他の3人やスタッフとか見て、それじゃちょっとまずいかな、やなんだけどやってみようかなって。やだって決めつけずにとりあえずやってみよう、みたいな考えには変わってきてますけどね。それはちょっと変わった部分だと思います。たとえば……雑誌の出方とか、新たな試みのメニューとか、曲作りとか……あまり自覚はしないですけど、あんまりやだやだ言ってたら、話が進まないですからね、その辺は改善しようと。

「なんでそんなにやなんだ、やな理由を言え」って言われて、そんなの知るか、やなものはやなんだって、そのときはアタマ来てるから言うけど、あとでじっくり考えてみようと。

なんでも頭からやだって言うのは、まあ子供のわがままですよね。(笑) でもとりあえずやってみてから言うのは、筋の通ったわがまま。そういうわがままの通し方みたいなところを変えようとしてるところですね。でも基本的に意地っ張りですからねえ、僕は……。ドラマーってそういう人多いんですかねえ。確かに知り合いとか見てると、そういうところで通じる人って多いですよね。あんまり僕のこと知らない人も、オマエは子供だって言いますねえ。(笑) きっとそういう人は僕の子供っぽさをひがんでるんだと思いますよ。(笑)

(今度のツアーで、初めてチャンと歌ってますねえ。それについて是非)

曲作ってるうちに、みんながワン・コーラスずつ回していけばいいんじゃないかってことになって……。今まではわめいたりしてるだけだったから。歌好きな割に、ねえ。苦節何年にしてボーカリスト・デビュー？(笑)　そういうのはないけど、歌ってるのは楽しいですよ。なかなか高い声も出るんだなって発見もあったし。

ドラマーとしては……なんやかやと、いろいろ試してみた年ですね。夏ころはほとんど立って叩いてましたから。そのころはそれがやりやすかったんだけど、今はすごく低くなってる。でも元々低かったんですけどね。なんで高くしたかというと、リンゴ・スターが高いところで叩いてたから、それを真似したらやりやすかったというだけなんですけど。

ライブハウスのころは低かったんですよ。そのころの原点みたいなところに戻ろうって意味もあるし。パワーとか、勢いとか。雰囲気的にそうしたいなって感じで。ここ1年ぐらいで感動したドラムの人が3点セットだってこともあるし。

別に意識して初心に戻ろうと思ってるわけじゃないけど、そういうのもあるのかも知れない。最近昔のラママのころのビデオとかよく見るんですけど、髪の毛が30センチぐらい立ってるころのビデオを見ると、(笑) 今にはないワイルドさみたいなものは、すごいあるのは事実なんですけどね。だから12月にラママやるの、すごく楽しみなんですよ。ラママってステージ出るのに客席通っていくでしょ？

別にビッグになった自分に違和感があるわけじゃない。自分で望んでいたことだし。本当は今でも、ライブハウスが月に2回ぐらいあるのが理想なんですよ。前みたいに夜中中車で走って、寝ないで翌日ライブみたいな無茶をしてみたいって気もあります。今も楽しいけど、かといって昔のことは忘れたくないですね、絶対。

小林雅之
CAN'T STOP
JUN SKY WALKER
(S)

寺園呼人

CAN'T STOP JUN SKY WALKER(S)

自分なりのペースが確立できたというか、どんな生活にも合わせられる。

今年は……（考えている）……こう……デビューした年とかは、がむしゃらにやってすごく早く感じたんですけど、3年目の今年はもっと早く感じました。（笑）年々時間がたつのが早くなってるような気がする。

（笑）

今年はオフらしいオフもなくて、1年中働きっ放しって感じでしたけど……でも、オフがなくてもレコーディングとかツアーとかみっちりやって、そっちの方が良いんじゃないかって言い聞かせてやってましたから。忙しいっていうよりは、むしろ僕なんかは前年、前々年に比べれば、ずっとゆとりを持ってやれたような気がしますね。スケジュール的には詰まってたけど。

（ジュンスカのメンバーであることに慣れて、ある程度余裕が出てきたということかな?）

どうかなあ……余裕っていうんじゃないような気がするけど、そう自分を忙しいとは思わなくなってきましたね。自分なりのペースが確立できたというか、どういう生活にも合わせられるようになった。

デビュー以来3年たちましたけど、自分で変わってきたのかどうか……自分ではよくわからないですよねえ。……ただ、昔はガキだったなと、（笑）気付くことは多くなりましたけどね。たとえば……結構いきがってたところがあったような気がしたんですよ。

前、ベースは自分に向いてないって言いましたよね。だけど、大して追求もしないで、努力もしないで、そういうことを言ってたみたいな、甘えがあったんじゃないかと（笑）思い出してきたんですよ。知り合いでジャズ・ベースやってる人がいるんですけど、50歳60歳すぎても頑張って、音楽楽しそうにやってて。それを見て、あんまりえらそうなことを言うのはやめようと。ベース始めて2~3年しかたってないのにね。（笑）別に壁らしい壁なんかなかったのに。別にギタリストであったことにこだわりはないですよ。ベースだっていやいや始めたわけじゃないし。波があるんですよね。面白い時期と、それに慣れてもっと上に行きたいと思う時期と。それでそういうこと言い出したんだと思うけど。

（ここ1年ぐらいのアルバムで、ヨヒトくんの曲が多くなってきたし、グループの運営に関する発言力が強くなってきたような気がするんだけど）

いや、まあ……そんな時期なんじゃないですかねえ。それが板に着くのかどうかわかんないけど、そういうのって言ったもの勝ちみたいなとこ、あるじゃないですか。（笑）ひとりで、コレやりたい!って力んでると、周りもそれに気押されて「ああ……いいよ」って言ってみたり。（笑）そんなもんじゃないですかねえ……そう言っちゃうと身もフタもないけど。（笑）別に僕が仕切って「次のツアーはLADIES AND GENTLEMEN」にしようって決めたわけじゃなくて、なにもアイディア出てない時期に僕がひらめいて、提案したら……顔に書いてあったんじゃないですか、コレにしたいぞ絶対に!って。（笑）そういう気迫と情熱だけで行ってましたから、今年は。

作曲でも……僕は僕なりに、ジュンスカイウォーカーズの曲として書いても、僕の書く曲なんだから、変わった趣向で持っていこうって考えはどっかにあったと思うんですよ。それで幅が広がればいいなという部分があったし。はまったのもはまらなかったのもあるだろうけど……自分ではまってたと自負してるんですが。（笑）最初は僕の曲は目先を変えるぐらいの意味だったと思うんですけど、それがジュンスカの王道になってくれればいいな、と思ってたんですよ。王道っていうか、ジュンスのイメージをあまり簡単にとられたくないというのがあって、最初は異端でもそれがジュンスカのイメージになればいいなと。マグネシウム焚いてドッカン、だけじゃなくて、ピアノの弾き語りもジュンスカのひとつになるように、みたいな。

今年はツアーが多かったですけど……ベースは出来てきましたね。ただ、アルバムが出たツアーでないと、すごくやりにくいなというのはあります。だから今回のツアーもアルバム出る前と出た後じゃ、ずいぶん意味が違ってきますよね。

「HEAVY DRINKER TOUR」が今年なんですよねえ……ずいぶん昔のような気がするけど。成長が早い? そうかなあ……そうだといいんですけど。

来年は……アルバム作るだろうけど、まったく予想できないですね。今までは多少予想はついたんだけど、来年作るアルバムはまったくわかんない。そういう期待と不安はあります。

自分自身を素直に出して理解してもらえる自信がついてきたってことかな。

今年は……人間的にはすごく成長したと思います。より人の話を聞く耳を持つようになって……こだわりはナシにして、いやこだわりはこだわりであるんだけど、もっと素直に自分自身に向けて問い正したりとか。バンドのメンバーを引っ張っていくときとか、ツアーやレコーディングのミーティングのときもそうだし、ファンとのやりとりも。2年前は突っ走るだけだったし。なにやるんでも、なんでこんなことやんなきゃならないんだよって、まるで周りの言うこと聞く耳持たなかったから。自分では大きな成長したと思ってますよ。

聞く音楽も広がりましたね。去年の『パチパチ読本』のインタビューやったころから、好きなものは好きだって素直に言えるようになってきた。デビュー当時だったら「エアサプライ好きです」なんて言えなかった。（笑）クラッシュ好きだって言ってなきゃいけないんじゃないかって。（笑）そのあたりはやっぱり精神的な成長だと思いますよ。デビュー当時はパブ・ロックやパンクを聴いてたから、そういうのが好きだって言うのがカッコいいと思ってた。AC／DCでさえ好きだって言えなかった。もともとのルーツから言ったらクラッシュよりはむしろAC／DCなんですけどね。まあ、こういう商売ですから、自分のイメージを作るという作業は必要だったんだけど、今はそういうことをしなくても、自分自身を素直に出して理解してもらえる自信がついてきた……てことなのかな。そうだったら万々歳ですね。気持ち的に飾る必要がなくなってきたということもあるし、何か好きだってところで判断される必要を感じなくなったってことかなあ。

そのあたりの心境の変化がバンドに反映してるかっていうと……よくわからないですね。「HEAVY DRINKER」をまたやりだしたのはそのあらわれだと思うけど。『ヒバリ』で松任谷正隆さんに協力してもらったり、キーボードやストリングスを入れることに抵抗がなくなってきたのも、そういうことなのかなあ……ファンからの手紙とか読むと、『ヒバリ』はそんなに違和感ないみたいですよ。初期のジュンスカやクラッシュやピストルズしか聴いてない人が聴けば違和感あるかも知れないけど、ほとんどの人は他に聴いてるのがユニコーンとかですからね。むしろ『ヒバリ』あたりの音作りの方が今の日本のロックから言ったら普通でしょ。結局、俺が普段聴いてる音が素直に出たというだけですから。

別に聴くものとやるものが別だとは思ってないですよ。自分のバンドを、ジャンル的に限定しようとは全然思ってない。昔からゴロゴロ変わってるし。あくまでも歌とメロディが優先で、曲調とかはそのときの俺のインスピレイションで。「雲にのりたい」みたいなのにもなるし、「全部このままで」も、「HEAVY DRINKER」みたいなのにもなる。

ただ、聴くものと同一とは言っても、そのときの流行の音をすぐ取り入れたりするのは絶対やりたくない。借り物だけはイヤだから。今アンスラックス聴いてても、それが今のジュンスカとは結びつかない。あくまでも、3～4年前から聴いてたニック・ロウなりエルヴィス・コステロなりAC／DCなりが、今血となり肉となり出てきているということだから。じゃあ5年後にスラッシュやるかっていったら、それはまた別なんだけど。（笑）

『パチパチ読本』のインタビューのときは、ちょうどパブ・ロック系統の影響が出ていたころですけどね。今は……デイヴ・エドモンズの曲をAC／DCが演るような、小細工のないストレートなヤツがいいなあと思い出してきたんですよ。細かいとこよりは、全体の重量感みたいなものを重視したい。新しいアルバムはそれとはまったく反対の方向。そのころはそういうのが良かったから。アルバム1枚作って吐き出して、今はまた違うことを考え出した。

いつも言ってることだけど、アルバム1枚だけで判断して欲しくない。いや、出しちゃった限りは、もちろんそれで判断されても仕方ないんだけど、手の内は一杯あるんだと。とりあえず、自分のそのときの状況を記録するってぐらいの意味だから。もちろん力は100%使うんだけど、脳ミソは5%ぐらいしか使ってない。本当は日々の心境の変化みたいなのをメモみたいに音として残しておけばねえ。大袈裟なレコーディングとかじゃなくて。まあ、それが俺にとってはコンサートなんだろうけど。プリンスみたいにひとりで全部出来れば、それも可能なんだけど、リズム・マシーンの操作も出来ないようじゃ、その道ははるかに遠い。（爆笑）

森純太

CAN'T STOP JUN SKY WALKER(S)

〈1990年〉

1月5日　徳島郷土文化会館
7日　高知県民文化センター
10日　鹿児島県文化センター
11日　熊本県立劇場演劇ホール
13日　大分文化会館
15日　福岡市民会館
16日　佐賀市民会館
2月16日　岩手県民会館
17日　仙台イズミティー21
19日　福岡市公会堂

22日　大阪城ホール
24日　名古屋レインボーホール
26日　日本武道館
27日　日本武道館
28日　日本武道館
4月15日　日比谷野外音楽堂
17日　浦和市文化センター
19日　茨城県立県民文化センター
20日　宇都宮市文化会館
21日　群馬県民会館
24日　静岡市民文化会館
25日　浜松市市民会館
27日　名古屋市民会館
28日　名古屋市民会館
5月1日　広島郵便貯金会館
2日　神戸文化ホール
4日　倉敷市民会館
6日　島根県民会館
7日　徳島市文化会館
9日　下関市民会館
11日　大阪厚生年金会館
12日　大阪厚生年金会館
13日　大阪厚生年金会館
15日　姫路文化センター
16日　和歌山市民会館
19日　平塚市民文化センター
21日　大津市民会館
22日　岐阜市民会館
23日　四日市市文化会館（第1）
26日　千葉県文化会館
29日　八王子市民会館
30日　川崎市立産業文化会館
6月2日　旭川市公会堂
3日　北海道厚生年金会館
4日　函館市民会館
6日　青森市文化会館
8日　岩手県民会館
9日　秋田県民会館
11日　宮城県民会館
12日　郡山市民文化センター
13日　山形県県民会館
15日　山梨県立県民文化ホール
17日　長野県県民文化会館
18日　富山市公会堂
20日　金沢市観光会館
21日　福井フェニックスプラザ
25日　福山市市民会館
26日　高松市立市民会館
27日　徳島市立文化センター
29日　高知県民文化ホール

1 ALL LI

7月1日 松山市民会館
4日 那覇市民会館
7日 福岡サンパレス
9日 小倉市民会館
10日 大分文化会館
11日 宮崎市民会館
13日 熊本市民会館
14日 鹿児島市民文化ホール（第1）
16日 久留米市民会館
18日 佐賀市文化会館
19日 長崎市公会堂
22日 真駒内オープンスタジアム ☆
26日 玉野レクレセンター ☆
28日 神戸グリーンスタジアム
31日 西武球場
8月3日 名古屋城深井丸
4日 名古屋城深井丸
5日 名古屋城深井丸
11日 石川森林公園 ☆
12日 スポーツランドSUGO SP
広場 ☆
15日 小木町グランド ☆
17日 新潟県民会館
10月15日 グリーンホール相模大野
17日 静岡市民文化会館
18日 焼津市文化センター
20日 浜松市民会館
21日 蒲郡市民会館
23日 一宮市民会館
24日 桑名市民会館
26日 瀬戸市文化会館
27日 土岐市文化プラザ
11月10日 和歌山県民文化会館
11日 大阪国際大学学園祭
12日 姫路文化センター
14日 高槻市市民会館
16日 八尾市文化会館
17日 泉大津市民会館
19日 佐世保市民会館
21日 第25回福岡教育大学学園祭 ☆
22日 大牟田文化会館
23日 神戸チキンジョージ ☆
26日 渋谷公会堂
12月3日 函館市民会館
4日 北海道厚生年金会館
5日 旭川市民文化会館
7日 帯広市民会館
8日 釧路市民文化会館
10日 北見市民会館
13日 八戸市公会堂
14日 仙台イズミティ21
17日 京都会館
18日 神戸文化ホール
20日 徳島市文化会館
21日 下関市民会館
23日 倉敷市民会館
24日 島根県民会館
26日 福山市民会館
27日 メルパルクホール広島
31日 新宿コマ劇場 ☆

〈☆印はイベント〉

森純太殺人事件

『パチ▼パチ読本』第2号掲載・懸賞付！　書きおろし推理小説!!

「森純太が死んだ!?」1990年夏・業界中を駆け抜けた衝撃のウワサの根元は『パチ▶パチ読本』第2号に掲載されたショッキングな推理小説であった。ここでは、謎の作家マイケル・コルレオーネ氏自身に、この事件の解明をお願いした。果たして犯人は？　そしてそのトリックは？　バカバカしくってもう…。

謎の作家マイケル・コルレオーネによる謎解き

みなさん初めまして。わたくしが謎の作家などと言われておりますコルレオーネです。

さてさっそくですが、この事件の解明をさせていただきます。

ズバリ申し上げて、森純太さんは死んでいません。彼は気絶していただけなのです。と言うのも、森さん、実は永年の演奏生活がたたってか？〝ピッキング・ドランカー〟に侵されていたのです。

「そりゃ、なんだ？」とおっしゃるむきもおありかと存知ますが…よくボクサーの方々に見受けられる〝パンチ・ドランカー〟と似たようなもの、と考えてくださって結構です。

要するに、ギターを抱えた瞬間から、左右の手が勝手に動き出し、失神するまで弾き続けてしまうという怖しい病気なのです。

故に、その摩擦熱によってピックガードが溶け、彼の居た室内にはプラスチックを焼いたような匂いが漂っていたわけです。

マネキンも実は、春川さんです。森さんに気を取られていた訪問客のみなさんは、そこに立っていた春川さんを、あまりの無表情さにマネキンと勘違いしてしまったのです。

ツートン・カラーのジャケットは、単にそこにあっただけです。森さんがツートンを着たらいけないんでございますかあ!?

…てなわけで、正解は「森純太さんは死んでいない」。理由は「ピッキング・ドランカーだったから」でございます。

応募のあった全てのハガキを拝見しましたが、当然正解の方はいらっしゃいませんでした。唯一、非常に〝ちかい〟方がいらっしゃったので紹介します。

【犯人】森純太【理由】何かにとりつかれたようにギターをかきむしっていた。（中略）あまりの速さにピックに火がつき有毒ガスでたおれてしまった。（岡山県　金田基裕）

スバラシイッ!!　あなたにはギター・バッチを送ります。

…とは言ったものの、これでは読者のみなさんは納得できませんね。

じゃあ、「森さんの自殺」的な答を送ってくださった神戸市の池田弥生さん、川崎市の十河和子さん他5名の方々にもバッチを送ります。

さらにっ!!

【犯人】倉持陽一【理由】廊下から声をかけただけなのに、部屋の中にマネキンがあったことを証言した。

（福岡県　小手川あづさ）

と同じ答を送ってくださった寝屋川市の笹田あいさん、新潟市の阿部都美子さん他60名の方々にもバッチを送ります。発送は91年2月ごろになりますので楽しみに待っていてください。

それにしても、ものすごい応募数でした。その数、約6千通（！）…全てに目を通すのに一昼夜かかりました。また、この小説の筆者を寺岡呼人さんだと勘違いなさっている方が何人かいらっしゃいましたが、それは間違いです。寺岡さんご自身のところにもそのようなお手紙が届いたようで、大変ご迷惑をおかけいたしました。申し訳ありません♡

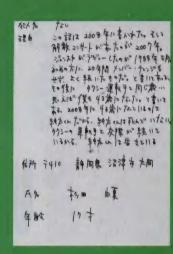
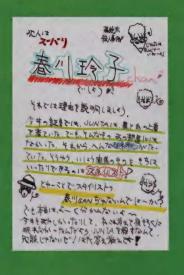
さて、あまりのバカバカしさに、「ッザケんなよコノヤロー」との声が聞こえ始めてまいりましたので、わたくしはそろそろ失礼いたします。

尚、左のページでは〝爆笑の珍解答集〟なるものを掲載いたしましたので、併せてお楽しみください。

せっかくですから、採用(?)の方々にも、もれなくバッチをお送りしますので、お納めください。

わたくし、今後も『パチ▼パチ読本』等で、みなさまとお会いできるかと思います。本業は別に持っておりますが、またどこかでわたくしの作品がみなさまのお目にとまれば幸いでございます。

それではサヨウナラ。

爆笑の珍解答集

★いやはや来るわ来るわ…。『パチ▶パチ読本』第2号に、この「森純太殺人事件」が掲載されてからというもの、滅多に会社に来ない担当編集者の机の上は、毎日届けられる応募のハガキで谷川岳もビックリというような山の状態だった。さて、その中から、爆笑を誘う珍解答を特集だ。関係各位のみなさま、スミマセン。

ジュンスカイウォーカーズ
森純太殺人事件
ズバリ
犯人は
三戸華之介 氏 でしょう
住所 群馬県山田郡大間々町
氏名 小倉典子 年齢 15歳
理由 バッヂがほしい♪ よよーん!!
さかさまさ… さかさまさ… さかさまさ… さかさまさ…

犯人名 なし
理由 この話は2008年に書かれた。そして解散コンサートがあったのが2007年。ジュンスカがデビューしたのが1988年5月。初めの方に、20年間メンバー・チェンジもせず、よく続いたものだ。と書いてあって、その後に、タクシー運転手と同じ歳…思えば僕も43歳になった。と書いてある。2008年に43歳になっているのは純太くんだから、純太くんは死んでいない。タクシーの運転手と交際が続いているから。純太くんは生きている
住所 〒410 静岡県沼津市大岡
氏名 杉田由夏
年齢 17才

犯人はズバリ
春川玲子chan
でしょう
それでは理由を説明しましょう。
今井の証言では、JUNTAは、黒と白の上着を着ていた。でも、そんなもの、あの部屋にはなかった。それから、へんなマネキンがたっていた。そういう、いしょう関係のものを、もちはいったりできるのは スタイリスト!
とゆーことで、スタイリストの春川SANじゃないんでしょーか?
でも本当は、よーく分かんないよ〜
今井をあやしかったりして、あれこれ考えて夜もろくに眠れなかったんだぞう。JUNTAを殺すなんて、冗談じゃないぜ！ はやく答え教えろ！

〈犯人〉奥田民生の巻

【理由】2人とも小泉今日子さんが好きなのでもめた。（川口市 金子奈美子）

(編)…なんの関係が…。

〈犯人〉春川玲子の巻

【理由】春川がマネキンを焼いて部屋を酸欠状態にした。カギは着換え

るので純太が自分でかけた。

（神戸市 小泉志保）

【理由】地味な服をJUNTAに着せようとしたけどJUNTAがいやがって、春川がくやしくてピックを燃やしたうえにJUNTAを殺した。（富士吉田市 小俣竹美）

(編)あまりにもスゴすぎる…。

【理由】部屋にカギをかけ、殺したあとマネキンのまねをしていた。（寒河江市 土田真紀）

〈犯人〉阿部義晴の巻

【理由】阿部の経営する音楽学院の裏金について純太に知られてしまった。殺害は純太の後から襲い首の骨を折る。プラスチックの匂いは娘の匂いを消すためになにか燃やした。（小野市 藤原静香）

【理由】純太さんがライブの最後に結婚発表をする、と言ったから。娘の美樹が「他の女にわたすくらいなら…」と言ったので、阿部Bの親バカが高じての殺人。（藤沢市 新井結美子）

(編)どうも阿部Bは立場がないようで。

〈犯人〉今井寿の巻

【理由】今井さんだったら外からチェーンをかけることも可能だと思う。（三原郡 古浜千砂）

【理由】純太さんの持っている貴重なギターが気にくわなかった。（行方郡 宮本勝美）

【理由】わかんないけど態度が怪しいと思った。（名古屋市 宇津野栄）

【理由】昔、マネキンを持って取材してたから。（熊毛郡 河野なおみ）

【理由】今井寿はマネキンの中に入っていた。（東筑摩郡 高野緑）

【理由】うそをついた。（那賀郡 根来恵）

【理由】アンガス・ヤングのSGを見せてもらおうと思ったけど断られたから。（小野田市 松本留美子）

【理由】無言が多いから。（流山市佐野公子）

(編)今井くんの場合は、どうも不条理な理由が多い…。さすが宇宙人…。

〈犯人〉田沼功の巻

【理由】森高千里は田沼さんと結婚

したが、純太さんと不倫し

てしまい、それで田沼さんは純太さんが気にくわなかった。（山武郡 飯田真理）

【理由】マネキン→マネ、ジャケット→ジャー、ゴムかプラスチックを焼いた匂い→くさい→マネージャーがくさい。（徳島市 宮井友紀）

【理由】女のカン。（堺市 大黒英美）

【理由】この人だと誰にも迷惑がかからない。（中新井郡 永原美紀）

〈犯人〉三戸華之介の巻

【理由】天津甘栗はゴムを焼いたようなニオイ。（府中市 田代恵理）

(編)ウソだっ!!（笑）

【理由】「チューニングルームはカギがかかるし、そこで食えばいいぜ！フィーバー！」と言い、毒入り天津甘栗で殺害した。（新潟市 阿部洋子）

【理由】三戸さんの顔がちっとアブナイから。（小笠郡 織部千香子）

(編)ヒドすぎる…。

〈犯人〉意味不明の巻

【理由】純太くんは部屋のカギをかけたあと、栗を1人で食べようとしてのどにつまらせてしまった。（湯河原町 小沢理佐子）

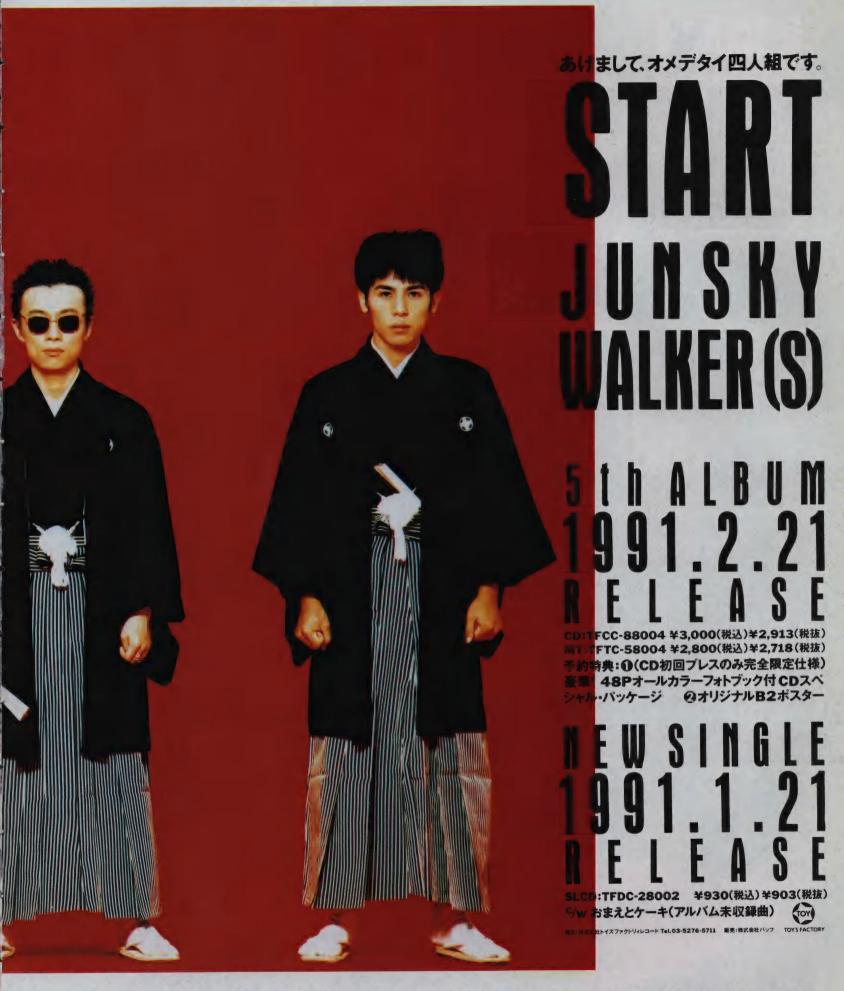
【理由】マネキンに霊がのりうつって純太を殺そうとしたが純太はそれに気づいてライターを投げたらマネキンが溶けた。（長岡京市 四方マミカ）

【理由】純太の服が今井さんのほかったから。（静岡市 永田美和子）

(編)みなさん、どうもありがとう。

和弥は焚き火が趣味。（名古屋市 関屋志帆）

森さんのコメント

先日、森さんとお会いしたところ「何回読んでも犯人がわからないんですよ。ヒントくださいヒント」と、おっしゃっておりました。『パチ▶パチ読本』が発売されたばかりの時は「殺さないでくださいよお（笑）」といきなり言われ—でも断ったじゃない—と申しましたら「そうでしたっけ？（笑）」とおっしゃいました。わたくしは、そんなゴーカイな森さんがとても魅力的に感じました。「そーか…殺される動機がないもんなあ…」と一言おっしゃってました。

3/22(金) 群馬音楽センター㊡アクト 0286-21-2241 3/23(土) 八王子市民会館㊡ディスクガレージ 03-5485-3200 4/1(月) 福島市公会堂㊡キョードー東北022-223-2188 4/2(火)山形県民会館㊡キョードー東北022-223-2188 4/4(木)出雲市民会館㊡夢番地(岡山)0862-31-3531 4/5(金)米子市公会堂㊡夢番地(岡山)0862-31-3531 4/9(火)沼津市民文化センター㊡サンデーフォーク(静岡)0542-84-9999 4/11(木) 川崎市立教育文化会館㊡たむとむスコープ 045-251-3491 4/23(火) 沖縄市民会館㊡PMエージェンシー0988-64-1616

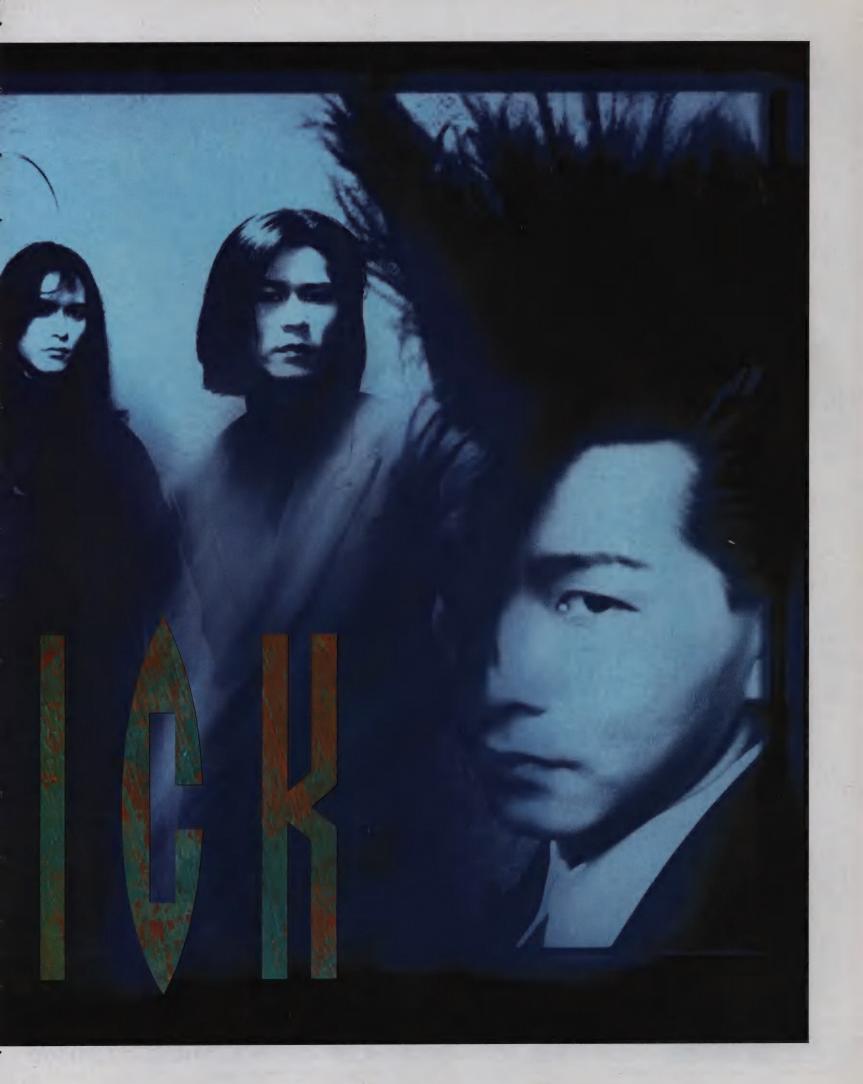
※4/23(火)沖縄市民会館に関しては、1/20(日)チケット発売になります。

チケット発売日'91.1/6(日)

■J(S)Wテレホンサービス:1991年「START」発売を記念して、新曲「START」をバックに、メンバーからのメッセージが聞ける、テレホンサービスを設置致しました どこよりも早く新曲が聞ける、このチャンス!! どうぞ、ご利用ください TEL.03-3250-2700 ★期間:1991.1.1～1.31、24時間OK!です

TOUR '90〜'91
LADIES AND GENTLEMEN
第4弾

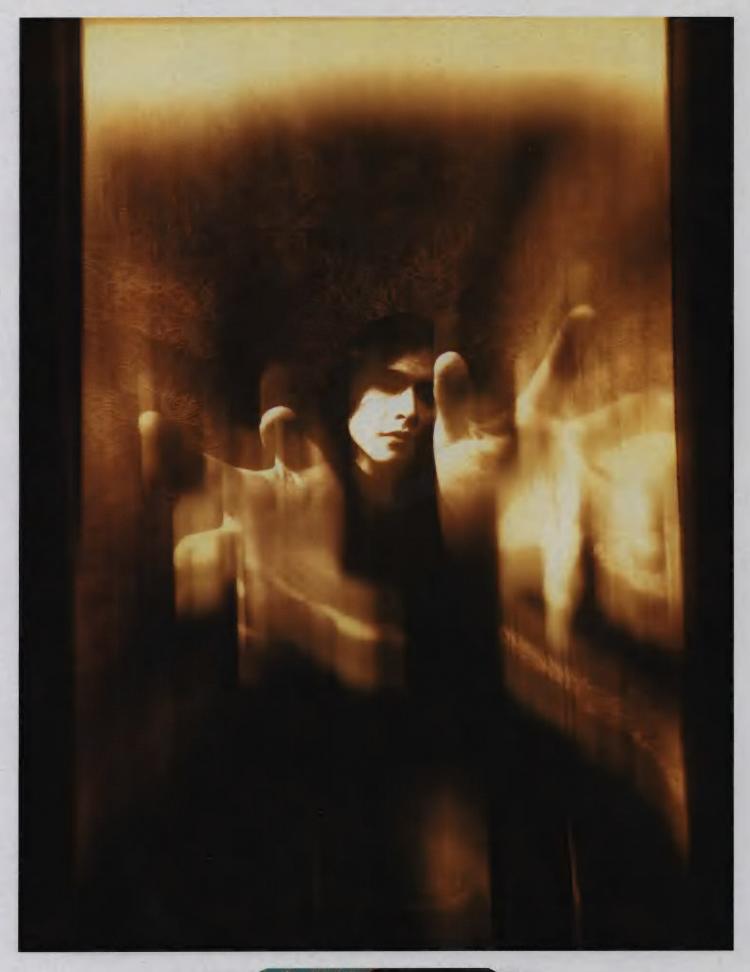
1991. 2/23㈯・24㈰大阪城ホール㊓キョードー大阪06-345-2500 2/27㈬・28㈭名古屋レインボーホール㊓サンデーフォーク(名古屋)052-320-9100

■ジュンスカの最新プロモーションビデオ「START」がいち早く見れるよ！➡12/31夕方〜 汐留スキーステーション(JR新橋駅から5分)、1/1 10:00〜 原宿・渋谷周辺を「START」をオンエアしながら「モボトロン」(大画面の車)が走ります 東京近郊の方、要チェック!!

BUCK-TICKの1990年は、『悪の華』から始まったと言っても過言ではなかろう。このテーマは実際、彼らの存在を崇高な位置にまで導いた重要な核であったような気がする。さて、彼らの残した1990とは。

PHOTO●KAZUHIRO KITAOKA　TEXT●DAI ONOJIMA

NARROWLY 1990▶1991

BUCK-T

BUCK-TICK ATUSHI SAKURAI

LOVE BUCK-TICK

BUCK-TICK HISASHI IMAI

EEL BUCK-TICK

BUCK-TICK HIDEHIKO HOSHINO

GENTLE BUCK-TICK

BUCK-TICK YUTAKA HIGUCHI

AFFECTION BUCK-TICK

BUCK-TICK TOLL YAGAMI

EXCITABLE BUCK-TICK

人生のうちで一番長い一年という感じがしました。

ヤガミ「今年俺らの関連だけで3枚もアルバム出したんだよなあ。そう考えるとよく働いたよなあ」

――去年は休みが多かったから、今年はその分フルで活動したという感じですね。ユータはどうですか。

ユータ「ツアーが今までで一番長かったですからね。レコーディングから始まった年でしたけど、とにかく忙しいなあと思ったぐらいだから、それだけ充実してたんじゃないかなあ。やりたいなと思ってたことができたし。だから来年は改めて自分たちを転がしていけるんじゃないかと。今年は転がり方が、去年があまり活動しなかったこともあって、無理な転がり方もあったかも知れないから」

――1年前と比べて自分のここが変わったとか、自覚ありますか。

ユータ「……物事をはっきり言うようになったってことですかね」

――自分に自信が出てきたってこと?

ユータ「いや、そういうんじゃないけど……自分をアピールするようになったんじゃないですかね」

――アピールする自分とは?

ユータ「スケジュールとかでも、前は言わなかったけど、今はもう、ガンガンに……(笑)こんなもの出来っこないよって。(笑)前だったら無理でもなんでもやれって言われたけど、今は、もっと考えることがあるだろうって言うようになった。自分のペース的なことで」

――音楽的にはどうですか。

ユータ「ツアーでの流れが……自分で多少わかってきたかなと。いや、ホントはわかってないかもしれないけど、昔だと、初日はもうメチャクチャになるっていう感じだったけど、それがだんだんと、押さえて押さえて、ダメだダメだ走っちゃダメだって思うようになってきた」

――ベースの配分。

ユータ「ええ。でもコンサート中にこういう風に考えてること自体が、自分でもハマってる証拠かなって(笑)」

今井「(爆笑)」

ヤガミ「オマエ、そんなこと考えてライブやってるのか(笑)」

ユータ「そういうのが自分の中でうまく……前はもう、アンコール前になるとハアハア息が切れちゃって大変だったけど」

――前は100メートル全力疾走するだけだったけど。

ヤガミ「今は短距離走からマラソンに変わったようなものか(笑)」

ユータ「マラソンまではいかないけど、400メートルぐらい……前だったら400メートルカッコつけてトップ走ってるんだけど、実は危険……。(笑)ツアーの初めのころはそれっぽかったですけど、長いツアーだったから、やってみてだんだんそれがわかってきた。それが収穫」

――ツアー好きですか。

ユータ「ええ。でもあまり長いのはちょっと。(笑)ハウンド・ドッグぐらいになっちゃうとねえ……(笑)」

――アッちゃんどうですか。

桜井「……忙しかったですね。……それだけです(笑)」

――自分の中で、一年間の変化は。

桜井「人生のうちで一番長い1年という感じがしましたけど……」

――へえ。それは忙しかったから?

桜井「いろいろ……いろんな出来事があって、いろんな人生経験したという……へへっ、言わなくてもわかりますよね?(爆笑)」

ユータ「なんて俺の方見て言うの?(笑)」

――それで自分は成長したと思いますか。

桜井「成長……したとはあまり感じないけど、変化はすごくあったと思います」

――たとえば?

桜井「その時々で違うんですけど、卑屈になったり素直になったり……感情が……激しく起伏がすごくなった……」

――表に出すようになったってこと? 自分の中で?

桜井「そう……ですね。個人的なことだから、表に出しちゃってるときもあるけど……」

――わりと普段から冷静なように見えるけど。

桜井「いや、臆病もんです……」

――感情の起伏が激しくなったのは、いいことだと思いますか。

桜井「いや……すごく自分にとってプラスってわかってることとか、楽しいことや嬉しいことが感情になって現れるんだったらいいことですけど。でも、楽しくないことや喜ばしくないことが……まあいろいろあったんで……少しふてぶてしくなれていいかなって(笑)」

――でも……感受性が豊かになったってことで……無感情よりはいいと思うんだけど。

桜井「いや……感情はすごく出すと思うんですよ。誰かと比べてっていうんじゃなくて。昔っから、表面的に感情を抑えてるっていうのは……育った環境とかで。でも感受性っていうのは……いつもビクビクしてるっていうのが、自分なりの感受性だと思ってたんだけど……それがなんか、ビクビクどころか、どうでもいいやっていうか、開き直りに転じるっていう……前向きになったりもするんですよ。どうにかしなくちゃ、俺が悪いのは全部わかってるとか、自分を認めたりとか否定したりとか……そういうのが全部出るんですけどね、仕事に。コンサートやるにしても文書くにしても、機械じゃないから変われない。自分の気に入らないこととか……昔から感情の起伏は内側にはすごくあって、神経がピリピリして、変な風に気を回して……恰好つけてえばってるって感じですけどね。(笑)だせえんだ、俺は(笑)」

ヤガミ「ぎゃははは、今日ハイじゃん(笑)」

――音楽的にはなにか反映されましたか。

桜井「音楽的って言っても……漠然としか持ってないから……いつも雰囲気でこう、レコーディングのときとか曲全体を捉えて、なにかがあったらいいとか、ここは省いた方がいいとか、ステージの上では精神的に自分を後に残さないというか……あまり音楽的にどうのというのはなかったですね」

――ステージはどうでしたか。長いツアーで。

桜井「ステージは……ただもう、思いっきり声出そうってだけで」

――それが発散できた。

桜井「発散……満足感ですね」

――自分がボー[illegible]して成長したという実感はありますか。

桜井「いやあ……なんていうか、思い切りがつくようになったっていうか……成長してないかも知れないし、音程が取れるようになったかどうか……よくわからないし、声は……多少出るようになったと思うけど……」

――星野くんは。

星野「ツアーとか……やけに多かったなって印象ですね……結構充実した日々だったと思います」

――最近ハイだって話じゃない。(笑)

星野「えっ? 誰に聞いたんですか(笑)」

――今井くんが言ってたよ。(笑)

星野「……そんなことはないですけど(笑)」

ヤガミ「そうかねえ…ハイになってるんじゃないの?(笑)」

星野「いやそれは……。(笑)充実……忙しかっただけかも知れないけど(笑)」

――1年前の自分と比べてどうですか。

星野「精神的に……変わってないような気がするんですけど」

――曲もいっぱい書くようになったし、そういう自己主張みたいな部分が出てきたんじゃないの。

星野「それは……ええ、自分としては前からもう、書こうと思ってたから……」

――今までにない長いツアーを経験して、プレイヤーとしての自分になにか変化がありましたか。

星野「……曲作ったりして、多少自信とかついてきたから」

――とても自信がついたような喋り方とは思えないなあ。(笑)

星野「(笑)……結構、休養期間で溜まったものを出してきた……徐々に徐々に……スタジアムのライブとかにしろ、今までとは違った部分が出せてきたかなと」

――どういう部分。

星野「……お客さんに対して自分を……全部出していこうかな……とか思ったりして……(笑)」

――目立とうと。

星野「(ちょっと声が大きくなる)目立とうとは違う。(笑)……ステージ上での自分の役割とか、自分なりに……」

――自分の役割はどういう風に認識してるんですか。

星野「うーん……今井くんとか、前にいるわけだから、バランス良くっていうか……今井くんとかアッちゃんとか動いてるから……」

ヤガミ「ジャマしない程度に(笑)」

星野「そうです。(笑)ジャマしない程度に。……そんなことはないですけど。(笑)……お客さんから見てそういうステージを……バランス良くっていうか……。前は……自分だけで精一杯って感じで……やっぱり5人いるわけだし、動きとかもバランスを考えて……」

――じゃあ来年はもっと前面に出て。(笑)

星野「いやー、そんな……出るところは」

――期待したいですね。(笑)今井くんは。

プロ・デビューして初めて老いを感じた一年。(笑)

今井「……忙しかったです」

――忙しかった？

今井「忙しかった」

――……。

今井「……」

――……それだけ？（笑）音楽のここが変わってきたとか。

今井「……バンド全体のアンサンブルとか気にするようになってきた……」

――具体的には？　アレンジ？

今井「ええ。特に自分以外の楽器を……。前は自分のギターをまず中心に考えちゃうところがあったんだけど……」

――なにかきっかけあったの？

今井「いや、だんだんレコーディングやってるうちに自然にそうなった」

――レコーディング好き？

今井「だんだん好きになってきました」

――最初は嫌いでしたか。

今井「ええ、大嫌いでした（笑）」

――レコーディングの面白さがわかってきたわけだ。

今井「ええ、そうですね」

――個人的には今年どうでしたか。

今井「……いや別に何も……」

全員「（笑）」

ユータ「酒呑んだだけ……（笑）」

今井「ええ（笑）……。ふだん生活がバンド絡みだから、ふだん酒呑みに行くんでもメンバーと呑みに行ってるから、あんまり変わらない」

――音楽と酒以外の楽しみってなに。趣味とか。

ユータ「ゲーム？」

今井「………特にないです（笑）」

ユータ「ヒデがコイン集め（爆笑）」

星野「（大声になる）バカなことを……（笑）」

ユータ「寛永通宝とか（笑）」

――やってるの？

星野「やってないですよお」

ヤガミ「ユータやってなかった？」

ユータ「ガキのころ集めてた。2枚」

今井「それは集めてたじゃなくて、持ってたっていうんだよ（笑）」

――『悪の華』作る前と、今回の心境の違いはなにかありましたか。

今井「……レコーディングが楽しめたっていうか……その点で……今回の方が楽だったですね。曲の面では、自分の作った曲は不安があったから。でもそれもやってくうちに解消されましたけど」

――お兄さん、どうですか

ヤガミ「プロ・デビューして初めて老いを感じた一年でした（笑）」

――老い！　どんなところで。

ヤガミ「肩が凝ったりとか（笑）」

――ツアーのとき。

ヤガミ「普段も。体が固くなってきたみたいですね」

――ドラマーってそうなのかな。

ヤガミ「大山（ZIGGY）とか、年中マッサージしないとダメだって言ってましたね」

ユータ「最初から最後まで思いっきり叩くからじゃないの」

ヤガミ「俺？　いや、そんなことねえよ。さっきビデオ見てたら、昔の方が思いっきり叩いてたもん。（笑）だから……テクニック的にうまくなったんですよ、きっと。（笑）腕力に物言わせる世界から、テクニックに逃げてるんです（笑）」

――へえ……それは切実だね。（笑）〝老い〟とか聞くと、俺もギクッとするけど。（笑）

ヤガミ「前はねえ、ホントに自覚がなかったから。無理がきいたんですよ」

――忙しかったからねえ。

ヤガミ「プライベートなんかないような一年でしたからねえ。（笑）群馬に帰ったぐらい。俺東京嫌いだから。出来れば通いたいぐらいで」

――どこが嫌いなの。

ヤガミ「人口密度が。だから俺外に出ないんですよ。だからオタクになる」

ユータ「アニイが一番出てるような気がするけど、人のコンサートとか」

ヤガミ「あ、そういうんだったらいいんだよ、音楽がらまいだったら」

ユータ「がらまい？（笑）」

今井「（爆笑）」

ヤガミ「そう、がらまい（笑）」

――去年と比べてなにか変化は。

ヤガミ「……変化……そうですねえ……一番大きいのは収入が突然変わったことじゃないですか」

――増えたと。それによってなにか変わりましたか。

ヤガミ「自分は変わらないけど」

――お金たくさんあると、いいことたくさんあるんじゃないの。

ヤガミ「いやー、別に使わないから」

――ふ～ん、じゃあ増えた分どうしてるの……なに立ち入ったこと聞いてんだ。（爆笑）

ヤガミ「預金してます（笑）」

――BUCK-TICK全体としては今年はどうだったんでしょうか……桜井さん。

桜井「え？……やっぱりすごい加速的な一年だった……と思います」

ヤガミ「結局去年が少なかったでしょ。その分余分にやったような」

桜井「デビューしたときも同じような……内容は違うんですけど。ああいう、周りが見えない忙しさで……」

――来年に向けてBUCK-TICKはどのように飛躍していくんでしょう。一度一等賞になったバンドだから、その後の目標をどこに置くか、すごく難しいと思うんだけど。

ヤガミ「でもうちのメンバーはみんな一等賞になった自覚なんてないんじゃないですか」

――上は限りない？

桜井「自分で満足感求めるだけ…人の上とか下とかあんまり意識しない」

――バンドの存在感としての具体的な目標とかは。

桜井「ない……。（笑）そういうこと話たことはない」

ヤガミ「個人的には……ワールド・ワイドな感じにしたいですけどね」

――世界に進出？

ヤガミ「そういうんじゃなくて、スケール的に。……個人的に趣味で言っちゃうんだけど、メンバー移動はやっぱリムジンでやりたい（笑）」

――それがアニイの言うワールド・ワイドってこと？（笑）

ヤガミ「自家用飛行機を持っていたいなとか。（笑）幼稚なんですよ。そういう、ロック幻想というか、バンドマン幻想というか。なりたいですよね。日本にないようなタイプの」

――そういうことハッキリと言う人珍しいね。（笑）

ヤガミ「そうスか？　でもそういうのに憧れてたから。キッスとか来たとき、飛行機にキッスってでっかく書いてあるでしょ。ああいう、バカじゃねえのっていう。（笑）そう言われるぐらいトンでもないことしたいなって。俗に言う、怪物みたいな感じになりたい」

――昔のツェッペリンみたいな。

ヤガミ「セールス的にはユーミンが今そうですよね」

――矢沢永吉ですね。

ヤガミ「ああいう風になれたらいいですねえ」

――『野望のロック道』（爆笑）

ユータ「なにか終るごとに〝また一歩野望に近づいた〟って（笑）」

――一曲叩き終わるごとに『また野望に一歩近づいた』。（笑）今井さん、音楽的にはなんか今後の進路はあるんですか。

今井「いや……これって決まってないから。今までもチョロチョロ変化し続けてきたし……」

――変わり続けていく？

今井「変わらなくても……自分たちで気に入ってれば……」

ヤガミ「でもこのままで行くと、レコーディングの時間ばかり長くなっていきそうだなあ。今回のアルバムは800時間ぐらい行きそうだから」

――へえ……いずれサザンみたいになるのかな。半年ぐらいスタジオにこもりっ放しで……。

ヤガミ「時間競うわけじゃないですけどね、でも自分たちで納得行くものを作るまではOK出さないというのが本当じゃないですか」

――やはりレコーディングはそれが理想ですね。でもそれが許される環境になってきたということだよね。

ユータ「ファーストのころなんか、こんなに時間かけてオマエら何考えてんだって感じでしたからね（笑）」

――時間とお金かけるに見合うだけのセールスやバンドのスケールがあれば、いくらでも使わせてくれるわけですよ。だから……あと5歩ぐらいで野望に到達できるかも知れない。（笑）

ヤガミ「ストーンズの来日のときのテレビとか見てると、バカみたいですもんねえ。（笑）同じドームでやったっていっても、全然ちがう。向こうはステージの後ろにゲーム・センターがあるんだもん。（笑）ありゃ尋常じゃねえなって。（笑）開演直前までビリヤードやって、さあボチボチ、ライブやるかって（笑）」

ユータ「御堂会館でそんなことやったら、スタッフいるとこねえよ（爆笑）」

かなりキレイに色を抜いてらっしゃいます。90年3月号の巻頭特集の頃の写真です。もともと洋風の顔立ちでらっしゃるので、これでは宇宙人です。（とのウワサでした）

89年末、完全復活直前の髪型ですね。かなりすさんだ髪を、かなりすさんだアレンジ（笑）でまとめて（？）らっしゃいます。もしかして無頓着なのでは？と思わせた頃です。

お〜っと!! 秋風が頬をなでてる頃…。"真夏の夜の夢"と題されたスペシャル・ライブ、大阪での髪型です。ちゃんと髪をお立てになったのはセカンド・アルバム以来？

そして最後にこの髪型。またもご自分でジョキジョキと…。ソフトバのケンちゃんではありません。「洗うときラクですよ」とおっしゃってますので、皆さんもどうぞ。

型遍歴

かつてUNICORNの奥田民生氏が、"髪型がよく変わるアーティスト"として注目されていたが、何を隠そうこの今井寿大先生こそが、"髪型七変化"の大御所中の大御所なのであります。上に並べた写真を見てください。１年間に８パターンですぞ!! そしてこの号が出る頃には既に…。

今井寿 1990▸1991 髪

と、思いきや!! いきなりマッカッカ…。さすが今井先生は大胆不敵です。髪を真っ赤にしたのは、デビュー直後の日本青年館公演以来かと思われます。嗚呼凄マジヤ。

90年の春先ですね。この頃は、色もだんだんさめてきて、帽子などをよくかぶってらっしゃったようです。ビデオ『悪の華』でもこんな雰囲気をよくお見受けしました。

ありゃりゃ…。松田聖子ではありません。赤の次はナント緑です。流行りのエコロジーを意識したもの…かどうかは定かではありませんが、90年初夏・ツアー中の頃です。

そして夏の暑さに耐えきれず(?)バッサリ気味の前髪です。どうやらいつも通り、ご自分で切られたようです。色も緑からパンプキン・イエローへと。信号が揃いました。

BUCK-TICK

NARROWLY 1990-1991

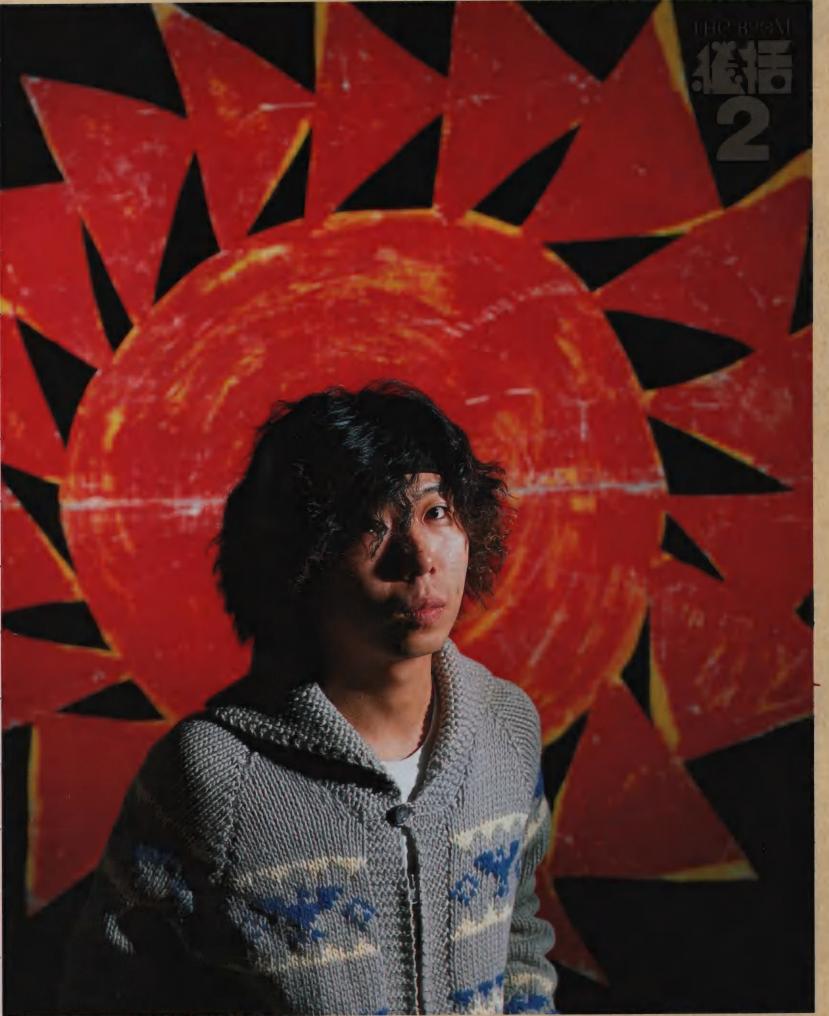
BUCK-TICKの1990年は、いったいどんな意義を携えていたのか？　…その答が少しでも見えたんではないだろうか？　彼らは1991年初頭に発表されるニュー・アルバムの製作を終え、時代の覇者となるべく、虎視眈々と1991年を睨んでいるのだ。

THE BOOM

●いつもは、小杉之子が全員にインタビューしてるけど、たまには新鮮な顔ぶれでっ！　ってことで昨年同様、STYLEのパーソナルは、"ミニ^{2}オールライターズ"で。

撮影●加藤晶人
文●BOOM内ミニ^{2}オールライターズ
スタイリング●佐野美由紀

THE BOOM
総括
2

もっといろいろギターに執着しようかと思いはじめて。

今年のBOOMはすごかった。武道館をはじめとする一連のツアー、サードアルバム『JAPANESKA』のヒット。全く第三者の私からみても、今年のBOOMはすごかった。そんなBOOMのタカシくんに実に1年振りにテレコをむけた。

——忙しい1年間だったんじゃないですか。

「そう…ですね。年の初めから〝ザイレン・ツアー〟が始まって。んでレコーディングやって〝JAPANESKA〟だから」

——お休みとかもあまりなかったんじゃないですか。

「あ、でも休みはまとめて貰ってたから。それほど超忙しいってほどでもなかったかな。たまにライブが続いたりとかすると、移動が結構きついなと思う時はあったけど」

——移動中はなにをしてるんですか。

「最近はもう寝てますね。夜寝ない分、移動中寝る。(笑)夜、1人になるといろいろやりたいことが出てきますからね」

——1人の時はなにをしてるんですか。

「もっぱら、ギター弾いてたりとかが多い」

——じゃあ、ツアー中はずっとギターもちっぱなしですね。

「そう…ですね」

——飽きませんか。(笑)

「イヤ…飽きます。(笑)だいたいまあ、1番最初に〝東京戻りてえな〟とか言い出すのがボクですね。ホテル生活があんまりむいてないというか。どこ行っても同じだしライブが終わってホテルに帰るとホテルの機能ってだいたいストップしてますからね。地方行くと、もうその街自体機能がストップしてるとことかあるから」

——それが続くとローになっちゃう方?

「そうでもないですよ。逆にやる気になっちゃうというか……。無駄に時間を過ごしたくないって思うから」

——あ、そうなんですか。

「うん。最近ね、地方に行くと結構街を1人で歩くようになった。前はホテルにこもってたんですけど。そういうことができる時はそういうことしてたりしてる。東京にいると出不精なんですよ。人混みに出るのがあんまり好きじゃないからほんっと用事がある時しか外にでない」

——じゃあ休みのときは家にいて。

「うん」

——昼まで寝て。

「そう…ですね。あ、でも最近は歯医者に行ってるからね。休みで東京にいる時は朝早いですよ。うん。午前中に歯医者行って、午後取材みたいな。(笑)それが変わったところといえば変わったところかなあ(笑)」

——自分が大事になってきた。

「そうそうそう。オレ今年になってから引っ越したんだけど、引っ越して1番最初やったことがどの辺にどういう医者があるかっていうのを調べたことなんだ。そしたら、皮膚科とか胃腸科とか歯医者とか多かったから良かったなって思ってる」

——アハハハ。(爆笑)

「今まで(スケジュールが)キチキチであんまり医者とか行けなかったから、もう歯なんかボロボロになっちゃって。(笑)後楽園とか武道館のライブの時なんかもう、ピークだった。歯が痛くて眠れない状態で。もう、夢にまで出てきましたからね」

——どういう夢なんですか、どういう。(笑)

「イヤァ、歯医者に行って楽になるという夢を。(笑)昔さ〝リトル ショップ オブ ホラーズ〟っていう映画があったじゃない。あれでさ、こう画面の上の方に歯が映ってて、口の中から外を見てるようなシーンがあったじゃない。んで、向こうっかわにちょっとラリったような歯医者がニタニタしながら見てるっていうシーン」

——医者の手が震えてるやつですよね。

「そうそうそう! あぁいう夢をよく見てね。(笑)もう限界だったんだ。んで歯医者に行ったらさ〝もうボロボロですね。全部治すのに1年ぐらいかかりますよ〟とか言われて〝今治しておかないとな。またいつ行けなくなるとも限らないし〟とか思って。今のうちに行ってる」

——そうなるまでよく我慢しましたね。

「我慢しましたよ。今治水(歯痛の代表的な薬)でだましたり、正露丸つめたりもういろんな手を使った」

——それ、周りの人に嫌がられませんでしたか?(笑)

「結構。(笑)なんか正露丸くさいけど、どうしたの〟とか言って。え? ちょっとおなか痛くて〟とか言って」

——歯が痛いとは言えなかった。

「うん。歯が痛いってなんかカッコ悪いなと思って。オヤシラズが痛かったからね。だから1番最初に抜いてもらったのはオヤシラズだった。で、それ記念にもらって帰ったんだ」

——下の歯は屋根の上に投げるとか、上の方は土に埋めるとかしたんですか。

「ハハハハ。(笑)もう永久歯しかないですから(笑)んで、2本目抜いた時も、モノホシそうな顔してたらしくて、歯医者さんの人に〝いる?〟とか言われたんですよ。でも、ここはつっぱねた方がいいかなと思って〝イヤ、いいです〟とか言った」

——なんか、へそのおみたいですね。(笑)

「そうそうそう(笑)」

——で、レコーディングはどうだったんですか? 去年のインタビューではもっといろんな楽器とか、いろんなことをやりたいという話をしてくれたことを覚えているんですけど。

「うん。そう…ですね。でも、レコーディングで三味線弾いて、ライブでピアノ弾いてるぐらいで。最近またギターがおもしろくなってきたっていうか。ラグタイムブルースみたいなギターをやりたいなと思っているんですよ。楽器屋さんで偶然教本を見つけて、やり始めたら結構おもしろい。今それにちょっと凝ってる。ほんとに個人的な趣味でやってみたいなと思ってるんですけどね」

——弾き方とか普通と違うんですか。

「全然違いますね。まずピック使わないし。だから今、そういうラグタイムスタイルのギターを弾いてる人探してみようと思ってるし。いろんなスタイルのギターを自分なりに消化したいなと思ってるんですよ」

——そういう風に考えるキッカケは?

「バンドにいろいろホーンセクションとか入ったんで、その分自分に…ギターに目を向けようかなって思うようになったんじゃないかなぁ。きっかけはレコーディングだったんですけどね。もっといろいろギターに執着しようかなと思い始めて。『JAPANESKA』自体、その曲の中のギターみたいなものを追求したアルバムだったんで。だから、エレキだけじゃなくてアコースティックギターとかやったりしたんですよ。ギターって、アンプとエフェクターとギターと全部ひっくるめて楽器でそれで結構ギリギリの音出したりとかしてるでしょ。偶然的な音ですよね。そういうので自分の表現したいものを表現できる人ってすごいなと思いますね」

——『JAPANESKA』でいろんなタイプの曲があったように。

「うん。そうですね。例えば、今んとこ全曲ギターが参加してるんだけども、参加してなくても、ボクなりの感じが……こうにおいとかが感じられたらいいなとか思うんだけど……」

——ギターが入ってなくても鳴ってる感じみたいな。

「うん。でも、わかんないですけどね。今思いつきでいったから。(笑)まぁ、いろんな音楽もあるし、いろんなギターもあるんで。これからの音楽とかもいろんなことを考えると、結構ドーッとか落ち込むけど。でも、ゆっくり大きいスタンスで考えた方がいいかなと思ってるから。そんな焦らないでね、ゆっくり自分のカタチを見つけていきたいですね」

文●伊藤亜希

言えないですよね。常にみんなと一緒にいますから。

2年目で2度めのインタビュー。YAMAさんは、真剣に答えてくれるその口で冗談も言います。彼なりの照れ隠しかもしれません。

栃木さんが「最後に〝なんつって〟と言ったらホントなんだよ」と、教えてくれました。でも真面目に話をしていたら1度も出てこないのです。

「何度か言おうと思ったんですけど我慢したんです」とは言ってくれましたが、ちょっと違うみたいです。

YAMAさんは、ウソを答えるような人ではありませんが、ホントを答えたがる人でもありません。

だから、冗談まじりの会話がいちばんよいのでは、と思いました。

――栃木さんと仲いいですね。

栃木「最近ねえ、私をないがしろにするのよ」

「違う。いたわってあげてるの」

栃木「いたわって（苦笑）」

――愛情表現の裏返しかも。（笑）

「まだ若いですからね。そういう人間の心理がまだわからないんですよ。ハハハ…なんつって」

栃木「えー!? それじゃあホントかー!? だって」（一同笑）

「今度ひざの療養に温泉へ連れてってあげなきゃ」

栃木「ハハハ。いいとこ紹介してッ」

――ははは。何かおかしい。そう言えば去年「引っ越したい」って言ってましたけど、どうなりました？

「あ、引っ越したんですよ。ツアーの始まる前、9月に」

――じゃ今がいちばん楽しい時ですね。いいなあ。

「だけどまだ家に10日ぐらいしか泊まってない（インタビュー現在）」

――あるあるある。それってありますよね。

「引っ越してすぐ10日ぐらいツアーに出ましたからね」

――あらら。え〜と、今年いちばんシリーズを聞きましょうか。今年いちばん嬉しかったことは何ですか。

「子供が産まれたこと。春に産まれたので〝春子〟と名付けました」

――ホント!? 嘘でしょ？ とか言いつつ自分の中の信ぴょう性が80%ぐらいになってたりして（笑）

「へへへ。ハハハハ」

――今年いちばん悲しかったのは？

「その子供が死んだことですね」

――（笑）「秋に死んだんで…」とか言って？

「産まれてすぐ死んだんですよ。未熟児だったんで」

――え!? 一応産まれたことは産まれたんですか。

「そう」

――でも未熟児だった!? じゃあいちばんショックだったことは？

「やっぱソレですか」

――だけど子供が出来たときもショックだったんじゃないですか。

「ソレがいちばんですかね（笑）」

――今年いちばん楽しかったのは？

「クリスマスですかね」

――え？ 今年の？ まだ来てないんですけど。

「へヘッ（笑）でもコレ発売1月でしょ？」

――いや、クリスマスに出ます。

「あッ…（笑）」

――本気で答えてくださいねッ。そうじゃないと、誤解されて、それが発言の重くなるもとになるんですから。今年いちばん嬉しかったことは何ですか？

「今年何かあったかなあ」

――じゃ今年いちばん印象に残ってることは。

「んー…何だろうな。今年……」

――ハワイとか？ ハワイはそんな中に入らない。

「うん」

――〝'90年〟って言われて、ふっと思い浮かぶことは何ですか。

「1年間、全部思い出す。（笑）アレもやったコレもやったっつーのも」

――中でも特に嬉しかったのは？

「ほんのささいなコトでも嬉しい。すぐ喜んでるんです」

――山川史上に残りそうないちばんはないでしょうか。

「そんな歴史的に残るようなことは……」

――子供が産まれたこと!?

「ぐらいですかねえ。やっぱり」

――あー。ハズしてしまった。思わず言ってちょっと後悔……。

「（笑）」

――じゃあ悲しかったことも？

「日々、悲しいですから（笑）」

――最後に、いちばん頑張ったこと。

「頑張ったことですか…？ 日々頑張ってますからねえ。でもやっぱり3枚目のアルバムってやっと、いままでやれたことの…中でいちばん素直になれた、あのアルバム出来たっちゅうのは3枚目でやっとなんかスタートが切れたかなあ、みたいな。〝こっからだなあ〟って。1枚目とかってまだ、ねえ？ アマチュアでずっとやっててそのままやって、レコーディングの仕方もよくわからないし、上手くいかなかったことが多かったですからねえ」

――頑張ったことは3枚目のレコーディング、と。そしてスタートが切れたこと？

「んー。いいアルバムが出来たから嬉しいですね」

――ついでに他のメンバーの今年1年頑張ったなと思うところを。

「他のメンバーはみんな頑張ってますからね」

――いちばん答えやすそうな、栃木さんで頑張ったなと思うところは？

「栃木さんですか？ 栃木さんはねえ……やっぱよく練習してるから。ひとりでも。だから上手くなった」

――それは昔からですよね。

「でもここに入って特に。で、10年間の努力がここにきて、やっと使いもんになるかなって（笑）何となくなんのかんの言っていままでプレイしてきて、リズムのノリとかもライブなんかで最近やっと、納得のいく演奏が出来るようになってきてるから、その辺は嬉しいとこですね」

――TAKASHIさんの頑張った点をどうぞ。

「TAKASHI？ んーTAKASHIは……ないっ（笑）」

――ない!?（笑）

「うそうそ、そんなことない。TAKASHIも見えないとこで頑張ってるから、ハタ目にはわかりにくいですね」

――宮沢さんは。

「MIYAはもう日々いろいろ…詞の面とか曲の面とかやっぱりTHE BOOMの今後の音楽性とか、常に考えてますからねえ。いつもそれは思ってますけど。だから、いちばんっていうか毎日常に向上心があるし、気ぃ抜いてないし」

――それは見ててわかりますか。

「見ててわかるし、このままでイイわけないなっていう感じは、いつもある」

――そうですか。じゃメンバーの頑張った点はそんなとこでしょうか。……何か違う気がする。マジメだ（笑）

「そお？（笑）でも、特に〝ナニ〟ってこう言えないですよね。毎日、常にみんなと一緒にいますから。でも一緒にいたくない時はいないし、いなくなっても誰も何にも言わない。（笑）やっぱり無理するとつらくなったりするでしょ。いままで一緒にやってきて、自然の流れでお互いにその辺はわかっているからね」

「自分はバンドの中でもベーシストだからひとりだけ目立とうとかいうコトは嫌い」

そんなYAMAさんがいるから、THE BOOMはあんなにやさしいんでしょうか。

文●霜田桂

総括
2

永遠に80点でいいような気がします。

1年振りに会った栃木さんは、相変わらず真面目で謙虚な人でした。私がここに真面目とか謙虚などと形容するよりも、栃木さんの言葉の方が、そのことをより伝えてくれると思うので、前置きはこれくらいにして早速インタビューを再現することにしましょう。

——今年最大の出来事は何ですか?

「……やっぱり、武道館かなぁ。昨日、アマチュアの頃のミニコミみたいなやつを読んでたんだけど〝夢は何ですか?〟っていう質問があって、で、自分のトコに〝武道館でスポットライトを浴びること〟って書いてあるのを読んで、〝んー、終わったんだよなー〟みたいな。武道館っていろいろ見てきた場所だからね。見る側から演る側になったっていうのは、やっぱりすごいことだと思いますね」

——緊張感は。

「なかったですねー。自分ではもっと緊張すると思ったんだけど。その前に2日間、後楽園があったりして、上手い具合にいい意味での緊張感を持続できたから、武道館では1番いい精神状態でやれたみたいな気がします」

——武道館でやった感想は。

「いつもより広いな、という感じ。だから特殊といえば特殊なライブだったような気がします。あそこじゃないと……あのくらいの所じゃないとできないライブだったなーって気がするし、センターステージっていうことも。いろいろ心配もあったけど、〝ま、いいや〟みたいなね。気にしてもしょうがないかって開き直って。(笑)でも、またやりたいですね。ああいうセンターステージで、広ーい所で……すごく気持ちいいだろうなぁ」

——その他に、今年印象に残ったことはありますか。

「………んー、特にないなー」

——滅多に起こらないこととか、一生に一度しかないことが身にふりかかったとか。

「(笑)。……うーん。ないねー。ただね、今年1年間って丸々プロで、それって初めてのことだからね、そう考えると1年間プロとして、意識しなくてもいろんなことが自分の中に蓄積されたな、と思いますね。いいことも悪いことも全部。アルバイターの頃は、貯まるっていうよりも、何か抜けていく部分があったんだけど、今年1年間というのは、起こったことが全部貯って圧縮されている。自分の中に少しずつ、その塊りみたいなものができているなーという実感がね。去年1年間を振り返るよりはありますね」

——確か、去年1年間に点数をつけるとしたら80点ぐらいっておっしゃってましたけど、今年は何点ぐらいになりますか。

「今年はねー…うーん…。あんまり自分に満足しない性質(たち)なのかもしれないけど永遠に80点でいいかなっていう気がします。つまり、去年の自分が思っていた残りの20%っていうのはね、今年になってみるともう20%の価値もない。…っていうか、もっともっと自分の100%のところって、高くなって、残りの20%の重みってもっと増えてるから。去年はやること全てが初めてで手探りの状態だったから、終わってから〝ああすればよかったな〟っていうことが必ず残ってて。そのへんでマイナス20点だったんだけど、今年は〝こうしよう〟〝こうすればいいんだ〟ってやっても、やった結果として〝あ、やっぱりでもまた……〟って。どうすればいいかっていうところまではまだ見えてないんだけど、もう少し先があるなっていうのは見えてきた」

——100%っていうことは、それでもう終わっちゃいますもんね。

「そう」

——例えば、いつ、どういう時に感じたんですか。

「レコーディングにしても、ライブでの演奏にしてもそう。レコードなんかは、3枚目はかなり……いい意味ですごい悩んで、いろんなことを考えてやって、で、でき上がったものに対してすごく満足できた。でも、ここまで来て、うーん…また違う努力の方向っていうのかな、見えたような気がしたし。ライブにしても、メンバー4人プラスホーンセクション2人の6人でやってるんだけど、ステージの上の6人のバイブレーションの盛り上がり方みたいなものが上手く転がっていく瞬間のようなものがあるなっていうのを感じるようになったし」

——じゃあ、余裕がでてきた。

「余裕なのかなぁ(照れ笑い)。余裕ではないと思うんですけどねー」

——(笑)。

「余裕っていうほど、余裕はない」

——余裕が出てきて、それで自分以外のものにも目が行くようになった、っていうんじゃないんですかね。

「(笑)ホントはそうなりたいんですけどね。うん。つまりさ、ドラムっていろんなものがあるんだけど、それをすっかり取り込んで、余裕を持ってね、それ全体を1つとして自分がコントロールした上で、他の人のことにも気が使える……もちろんそうなって行きたいんだけど、まだそこまでって感じではない。まだ時々見え隠れするっていう感じ。でも、昔に比べたら、バランスの取り方っていうのが、少しわかってきたような気がします」

——ふーん。

「なんて思ってると急に器材が増えたりして、また見えなくなっちゃって(笑)」

——上手く行きませんよね。

「でも、それが生きてるってことだからね、バンド自体が。その時その時必要なものが増えてくる、やっぱり。人間と同じだと思いますよ」

——仕事には、もう慣れましたよね。

「いやぁ、どうなんだろう。30歳になってプロっていわれるようになったから全然仕事っていう感じしないんですよ。まだ好きなことをやってるって気持ちが強いから。でも、ライブに関してはホント、100%。慣れてしまうっていうのはないですね。同じ曲順で2日続いたとしても、やっぱり2日目も気持ちの張りつめ方っていうのは変わらないと思う。あのねー、曲に対する気持ちの張りつめ方っていうのは不思議なもので、昔からやってる曲でも、新曲と同じぐらい緊張感っていうのかな、そういうものが必要なんですよ」

——そういえば、去年のインタビューで'90年の抱負は、〝死んでもいいと思えるようなライブを演りたい〟っておっしゃってましたけど、そういうライブ、ありましたか。

「まだそれはないですねー。もしかしたら一生ないのかもしれないけどね」

——では最後に来年の抱負を。

「とりあえず、無事に今のツアーを終了させたいな、と。で、夏頃にBOOMらしいイベントを、何かおもしろいことをやりたいですね。あとは……そうですね、とりあえず結婚は考えてないですね。(笑)あ、そうそう、来年は昭和33年生まれの人が33才っていう大変歴史的な年なんで、感慨深いものがあるんですよね(笑)」

——(笑)。ドラムに関しては。

「新顔が増えたんで、手なずけるのが大変なんですよ」

——どんな性格なんですか、新顔は。

「大変律義で、YESかNOしかない」

——ハッキリした性格。

「そう。まだファジー理論が入ってない。非常にハッキリした性格なんで、なんとか微妙なことまでいうことを聞いてもらえるようになればいいんですけどね(笑)」

視野が広がる、細部(ディテール)に目が届く、という正反対のベクトルをもつこれらのことをクリアしつつある栃木さん。謙虚な言葉、穏やかな口調の裏に、秘かな自信が感じられました。やっぱり来年も、栃木さんは真面目で謙虚な人のままなのだろうと思います。

文●田中弥寿代

来年はエログロを歌いたいですね。ギトギトのヤツを。

——宮沢君、変わったあ。
「えっ、いきなり何ですか（笑）」
——顔とか。
「最近、鏡見ないんですよ」
——じゃあ、ホラ、今見て。
「（見て見ぬふりをしながら）…最近、老化が激しくて。ひげあとが濃くなって、イヤなんですよ。ヘビーフェイスだったのに」
——やっと年相応になってきたんじゃないの、それって。
「（苦笑）」
——去年の今頃、初めて会った時はなんてちいちゃいのって思ったけど。
「あっ、そうなんですか（笑）」
——いや、だから、カラダがちいちゃいとかじゃなくて、雰囲気的にこぢんまりしてたっつーか。それが一年たった今じゃあ、なんか、ドーンとしてるっつーか。
「疲れてるんですよ」
——そうじゃないだろーに。
「何も変わってないですけどね。自信ないところはどんどん倍化していくし」
——でも、逆に自信のあるところは、どんどん自信が付いていくわけでしょ。
「そう信じ込んでるだけなんだろうな、きっと。自分の曲が本当にいいなぁって思うのは飲んだ時ぐらいなんだけど。そうじゃない時もそう思うようにしてるっていう。そのかわり、コンプレックスとか弱点はどんどん増えていくし、他人にいろいろ言われる機会も増えていく。まあ、あんまり大きくならないでしょう、これ以上は。タレント性はないし（笑）」
——うん、確かにないけどさ（笑）、アーティスト性があればいいんじゃないのかな。
「それはわかんないや」
——で、今年一年を振り返ってっつーことなんですけど、どうでしたか。充実してたんじゃないかと思うのですが、ワタシは。
「確かに矢野さんや16TONSの連中との出会いとか、いいアルバムが作れたとか、ひとつひとつは充実してたけど、それを全部足して〝充実してますか〟っていわれても、マイナスの部分もあるからプラス・マイナス・ゼロかもしれない」
——マイナスの部分っつーと、何？
「レコードとライブの落差とかね。自分の理想はどんどんあがっていってさ、そういうふうにやりたいんだけど、なかなかそうはいかないし。例えば、一回いいライブができても、次の日のライブが悪かったら元に戻って落ち込んじゃうし。〝ザイレン・ツアー〟でも、手放しでやった！っていうライブはないですね」
——1本ぐらいはあるでしょーに。
「（しばし考える）うーん、博多かなぁ」
——宮沢君から見て、この一年間で他の3人に何か変化はありましたか。
「山川は、すごく熱心に音楽を聴くようになった。吸収の時期なんじゃないのかな。あいつは来年、再来年あたりに今ためてるものが出てきそうな気がする。栃木さんはマイペースなんだけど、探究心が出てきた。知らないものをどんどん取り入れていくって感じ。タカシ君は、バンドマンっぽくなってきた。ギタリストとして、とか。今、みんな吸収してる時なんだと思う。アマチュア時代、ほとんどサラリーマンみたいにまじめに働いてたんで。音楽も聴きたくても聴けない状態だったから、その分今たくさん音楽聴いてるっていう」
——宮沢君は？
「僕は昔から相変わらずの生活ペース」
——いろいろあったくせに。山奥に隠遁とか。なんで隠遁しちゃったの？
「この一年忙しくて休みとかがあまりなかったんで、せめて休みの日ぐらいはホッとしようと思って。だから、無理矢理の隠遁なんですよ」
——とはいってもねえ、山奥だよ山奥。
「そんなに山奥じゃないですよ。（笑）でも隠遁ってやりたかった生活なんで、そこで充実しちゃってもいいのかなっていうのが、また難しくて。東京の狭いところで不平を言いつつ生活してる方が、曲ができたりするのかな、なんて。満たされすぎてもねぇ……でも、来年はゆっくりしたいな、もっと。で、真の隠遁生活に入りたい」
——……じじくさい。25のくせに。
「じじくさいっていわれても。（笑）でも、一年のうち、半分人と接して、半分一人でいるっていうのが理想なんですよ。やっぱ一人の時間って必要だから」
——他に必要だと思ったものってある？
「ゆるぎないパワーというか、茶々を入れられても耐えられる頑固さとか」
——まだ頑固になるか、なんつって。
「うん。だって、頑固になるのと依怙地になるのって違いますからね。頑固な時に笑える感じがいいなぁ。笑いながらも頑固っていうか。しかめっ面して頑固だと、ただの依怙地にしかならないけど」
——また顔付きが変わっちゃうの？
「柔和な顔になる。不自然な柔和な顔」
——そんな顔、ヘンだよ。（笑）いいよ、頑固な顔のままで。
「こっちの方がまだわかりやすいか」
——うん。せっかく宮沢君のキャラクターが浸透した一年だったのに。
「どういうキャラクターなんですかね」
——じじい。（キッパリ）
「へんだな、ポップなつもりなんだけど」
——どこが。でもさ〝よく恋人にしたい人〟とか〝セックスしたい人〟とかのベスト10ものってあるじゃん。意外に宮沢君が入ってたりするんだよね。
「じじいっていうジャンルはないんですか」
——そんなもんはないっ！　でも、あったら上位確実だよ。上田現といい勝負かも。
「あちゃあ……」
——じゃあ、来年は〝セックスしたい人ベスト10〟の上位常連になるっていう計画をたててみたら？
「うーん……来年のテーマはエッチかな」
——似、似合わないなあ、やっぱり。
「今までにもエッチな歌ってあるんですよ。アマチュアの時に作ったのとか。ただ、そういうふうに捉えられないようにしてただけで。それよりも、そういうエッチな歌が、きれいなラブソングに聞こえたりするようなイタズラが好きだったんで。露骨にエッチなことを歌うのって、すごいカッコ悪いと思うから」
——でも、なんでここにきて突然、エッチなものに興味がいったんでしょーか。
「それは異性に目覚めて……」
——いくつだよ。（笑）
「じじいと呼ばれてますが、性に関してはちょっと奥手で。行動はじじいなんですが」
——それ、アブナイ人だよ。（笑）
「ただの変質者か。（笑）でも、来年はちょっと、エログロを歌いたいですね。出口のないギトギトのやつを。にっちもさっちもいかないエッチな歌を。ただ、美しいメロディ・ラインを崩しちゃうようなエロい言葉ってさぁ、まだ歌えないんだよね。特に3枚目なんかメロディ重視のアルバムだったんで、言葉に耳がいっちゃうような——エロとかバイオレンスとか——は、まだ使いこなせないっちゅうか」
——でもさ、ホントにエロな世界に興味があるの？
「うん、それは前からあったよ。なんで？」
——だってさ、ステージとか見てても全然エッチっぽくないんだもの。
「まあ、あんまりセックス・イメージはないかもしれない。やっぱり、陸上の長距離歴が長かったんで、ついストイックなイメージになってしまうんですよ」
——……そういう問題かあ。
「そうそう」

セックス・ドラッグ・ロックンロールならぬ、「セックス・隠遁・フォーク宣言」（笑）をした宮沢和史25歳。既に頑固じじいの生活に片足をつっこんだ彼の前途は如何に。
それにしても。宮沢君は一体どんなエッチな歌を作るのだろう。SMだろうか。

文●根田美聡

総括2

●'89年、ド新人のTHE BOOMは、“自分たちを呼んでくれるなら”と、署名・無料ライブを行い、それに対して、全国から1万8000名が署名を返してくれた。'90年、“サイレン・ツアー”が終了した時、THE BOOMは彼らと全国を巡ったこの“おひさま”を私たちに分けてくれた。撮影後、おひさまは、希望者数、8000個に分かれて散って行った。'91年になっても、THE BOOMと彼らの歌が好きな人々の、この近い関係は、変わらないハズ。だって、4人のピュアな視点はデビュー当時のまんまだもの。

●ジミだけど、毎月毎月休まず発行してる、じゃあじぃ心聞。いつの間にか、創刊10号を越えています。さて、STYLEでは、みなさまから、〝今年、THE BOOMのファンでよかったと思ったこと〟をハガキで送ってもらいました。スペシャルにふさわしい内容でしょ？　私たちの、THE BOOMっちゅう、ウキウキルーキーぶり、60選を、〝パラパラ・ブーム〟でお届けします！

PATi▶PATi初〝動くBOOM〟の作り方

▶そんなに、オオゲサに言うほどエライもんじゃないが。(笑) まぁ、いくら年に一度、ページのムダ使いのできるSTYLEだからって、カラー2ページも使っちゃう勇気っつーの？　そのへんでがんばってるかな、みたいな。(笑) 要は、単語帳で作ったパラパラ・マンガをTHE BOOM様が1年間のごほうびに自らやってくれるっつー企画なり▶まず左の97ページ、キリトリ線にしたがって、ていねいに切り離してください▶次に、左すみにある数字を①から順番に、㉚番まで番号の若い順に重ねて下さい。あとは、これを、ホッチキスマークのトコで、ガッチリとめればできあがり！　くるりと裏かえせば、あ――ら不思議！裏のBOOM様も動くって寸法だっ▶パラパラってする時やりやすいように、左スミを〝トントンッ〟って揃えるのがコツ。ぜんせん、むつかしくないっしょっ。そんでも失敗したら？　失敗したらねぇ……

失敗したら、もう一冊買いなさいっ!

1

●「過食症の君と拒食症の僕」の歌詞を全部覚え、暗記力に自信を持った。(北海道　山田環　16歳)

2

●友達が増えた。「私もその曲好き!」からはじまって、「ライブ一緒に行こうね!」となる。(大阪府　田中千穂)

3

●9月30日、台風のためライブ延期。利益を考えればそのままやれたのに。ありがとう。(神奈川県　羽島宇子)

4

●TAKASHIくんの笑顔と〝宮沢和史ストリップショー〟はイ・ケる。(三重県　岡野代道　18歳)

5

●人前で踊ることが、ハズかしくなくなった。(静岡県　佐野仁美)

6

●オレンヂジュースとか梨とか、ビタミンC豊富な食品が好きになった。(千葉県　小久保江津子　17歳)

7

●10年前引っ越して、音信不通だった友達とBOOMのライブで再会した。(熊本県　吉田妃佐　21歳)

8

●BOOMの曲をきいて涙もろくなった分、他人にやさしくなれた。(広島県　谷口康子　13歳)

9

●なんだか、夢がかなう気がして、楽しくて、BOOMERがやめられない。(静岡県　鈴木律子　17歳)

10

●BOOMの曲をきいて、母がはじめてコンサートへ行くのを許してくれた(エロガッパ)

11

●最近BOOMERになった友人に、BOOMの昔のVTRを見せて自慢できた。(新潟県　北村美保　18歳)

12

●BOOMの曲を聴いて、はじめて〝安心できる音楽〟を知った。(兵庫県　田村芳実)

13

●BOOMのライブのためにセブンイレブンに応募したら、プリペイトカードも当たった。(神奈川県　倉田敦子)

14

●ひねくれものの私が自分より尊敬できる人を知った。それは、MIYAさん。(滋賀県　高田百利)

15

●ホコ天行くようになって、アウトドアなヤツになった。(神奈川県　小川香)

16

●BOOMのCDを聴くためにCDプレーヤーを買うためにバイトをはじめたこと。(山梨県　スナフキン)

17

●〝釣り〟という趣味ができた。(香川県　真鍋ユキ)

18

●ダラダラ受験勉強をしていたが、明大という志望校ができてからはがんばっている。(大阪府　木村早枝)

19

●ラジオでYAMAさんがかけた、所ジョージの曲の詞が、数列のテストに役立った。(愛知県　芳山るいこ)

20

●お兄ちゃんに泣かされた日、耳の奥で「なし」がきこえてきます。(葛飾区　丸喜代美)

21

●BOOMの影響で矢野顕子さんのファンになったら、嫌いだったピアノの先生と話があうようになった。(長

22

●MIYAさんのMCのせいで、へんなギャグ&ダジャレのセンスが身についた。(和歌山県　ナス)

23

●今、ハーモニカに夢中だ。(神奈川県　うお)

24

●私だってまだまだ飛べる。こんなに体が軽いぢゃないか〟と気づいた瞬間。(神奈川県　桜木町駅の女　23歳)

25

●軽い気持ちで、詞で日記をつけはじめた。(大阪府　氷山三奈子)

26

●BOOMの曲をリクエストしたら、はじめてラジオで私の名前が呼ばれた。(福岡県　岩本由紀)

27

●思いきって、自転車を買った。(高知県　横山隆子)

28

●今年も赤い羽根を買った。いいことをした。(栃木県　山崎博美)

29

●おかあさんと2人で歌える曲ができた。「星のラブレター」と「からたち野道」です。(福島県　小野英子)

30

●すぐ熱が出る体質だけど、BOOMの曲を聴くと、あつくなって汗が出てなおる。(沖縄県　呉屋綾子)

●うちのいとこに30歳過ぎて、アルバイトしてる人がいて、嫌いだったんだけど、少し、見方がかわった。㊄

●機械音痴の母が、ビデオの予約録画ができるようになった。私とBOOMのために。（茨城県　中里浩子）

●今まで双子ってツラかったけど、栃木さんを見てて、イヤじゃなくなった。（山口県　野村明代）

●バンド組んだよっ。（調布市　浅川まゆみ　12歳）

●沖縄県民っておいしい。『JAPANESKA』がもっと売れると、もっとおいしい。（沖縄県　東　遊子）

●親友に〝星のラブレター〟のオルゴールを注文して、プレゼントしたら、すごく喜んでくれた。（ゆめ）

●私は、BOOMを撮るために、将来、カメラマンになることに決めました。（秋田県　阿部早苗）

●YAMAさんがダイエットのお手本だ。（静岡県　吉川孝子　14歳）

●お金の大切さを知った。（埼玉県　そうそう）

●同じ学校以外の友人ができた。（千葉県　西田康子　12歳）

●〝おさかな〟が好きになったからかなぁ——背がのびたよ。（千葉県　金内美穂）

●有線放送へのリクエストのしかたを覚えた。（練馬区　大木之代）

●文化放送で歌った〝グッド・ナイト〟という曲のおかげで、不眠症がなおった。（八王子市　ZZ　16歳）

●筆マメになった。（埼玉県　坂本美登子）

●MIYAを見習って、ボロい服を着てたら、父が昔の服をくれた。（京都府　西田恵子）

●THE BOOMのグッズの、とうめいのファイルが便利だ。（大阪府　石本正子　15歳）

●MIYA・ZARUの似顔絵を書くのに熱中してると、授業中、けっこう楽しいんだな、これが。（山梨県　も）

●16TONSのことを知ってて、男子に見直された。（神奈川県　大沢圭子　15歳）

●いきおいで陸上部に入ったけど、けっこう続いている。（長野県　島津優子）

●うちは、姉妹BOOMERだが、BOOMのことで、楽々、妹を手なづけられる。（広島県　小林和子　16歳）

●読書家になった。そして、月が好きになった。（茨城県　大畠るり子）

●中央線での満員通勤が、つらくなくなった。（立川市　山本典子）

●自転車に乗れるようになった。気球に乗りたいという目標ができた。（北海道　鈴木広美）

●MIYAの詞を理解しようとして、勢いで英英辞典を買ったけどよかった。（愛知県　山）

●〝理想の男の子のタイプ〟と聞かれるといつも悩んでたけど、今は〝山川浩正みたいな人〟って言える。（YAMA）

●東海ラジオで、はじめて、ラジオで名前を読まれてうれしかった。（愛知県　さくら）

●合唱祭で、〝中央線〟をやって準優勝した。（武蔵野市　しま）

●なんか、〝ぴゃくまん粒〟を聴くと、死ぬのもコワくないと思った。（新潟県　大谷陽子）

●〝父さん、母さん、白髪はふえたかい〟って歌ってたら、〝ふえたよぉ。心配してくれたの？〟と感謝された。

●けっこう、友達が少ない私ですが、BOOMのテープがあれば、一人がさみしくないです。（秋田県　田中紀子）

THE BOOM

パチ▸パチ特別編集1st BOOK発売決定!

「君がいっぱいⅠ」

発売日変更（おくれてごめんなさい）

'91年1月下旬予定

- ●四六版
- ●スペシャルハード・カバー上製本
- ●撮りおろし30ページピンナップ付
- ●著者・小杉之子
- ●全272ページ
- ●定価・1300円

●原稿を書くにあたって改めて調べてみたら、平均して、なんと8日に1回はTHEBOOMを取材してたという、まさに、"日本一、THE BOOMを取材したライター"小杉之子。彼女が、毎月の取材で書ききれなかった4人の全てを、原稿用紙350枚分、ドッと書きおろしました。今まで、あまり語られたことのなかった、デビュー直前の4人の心情など、初めて知るTHE BOOMの姿がいっぱいつまってます。あなたの愛読書として、将来、あなたの子供にも読ませてあげたくなるくらい、素敵な単行本です。

発売日が約1ヵ月遅れたおわびに、予約特典のしめきりも1ヵ月延長しました。

●これを"勢い"と呼ばずして、何を"勢い"と呼ぶのだろうかっ！　えっ、誰だよ誰だよ、この予約特典考えたのはよぉー。(笑)　ってなわけで、常に一味ちがうギャグを目指していたら、たどりついた今回の"盃(さかづき)"。でも、かわいいっしょ♡　初のTHE BOOM単行本発売を記念して、編集部から心いきでいっ。

●では、予約&予約特典応募方法です▶まず、下の注文伝票に必要事項を記入してお近くの書店カウンターで通常の予約手続きをしてください▶その際、この注文伝票の左側についている「応募カード」に書店印を押してもらって、この「応募カード」部分は書店に渡さず、必ず持ちかえって下さい▶この、書店印をもらった「応募カード」と、返信用切手120円分を、あなたの住所・氏名・電話番号を明記したメモといっしょに封書で、次の所に送ってください。(返信用封筒はいりません)▶〒156-91 千代田区千歳郵便局私書箱25号 CBS・ソニー出版　パチ▸パチ「THE BOOM単行本」係まで▶'91年1月7日消印有効です▶今回、特典が定形外郵便になりますので、120円分の切手をお願いします。その際、作業を少しでもスムースにするため、なるべく右の種類の切手でくださるよう御協力を。

THE BOOM単行本

書店印

応募カード

CBSソニー出版

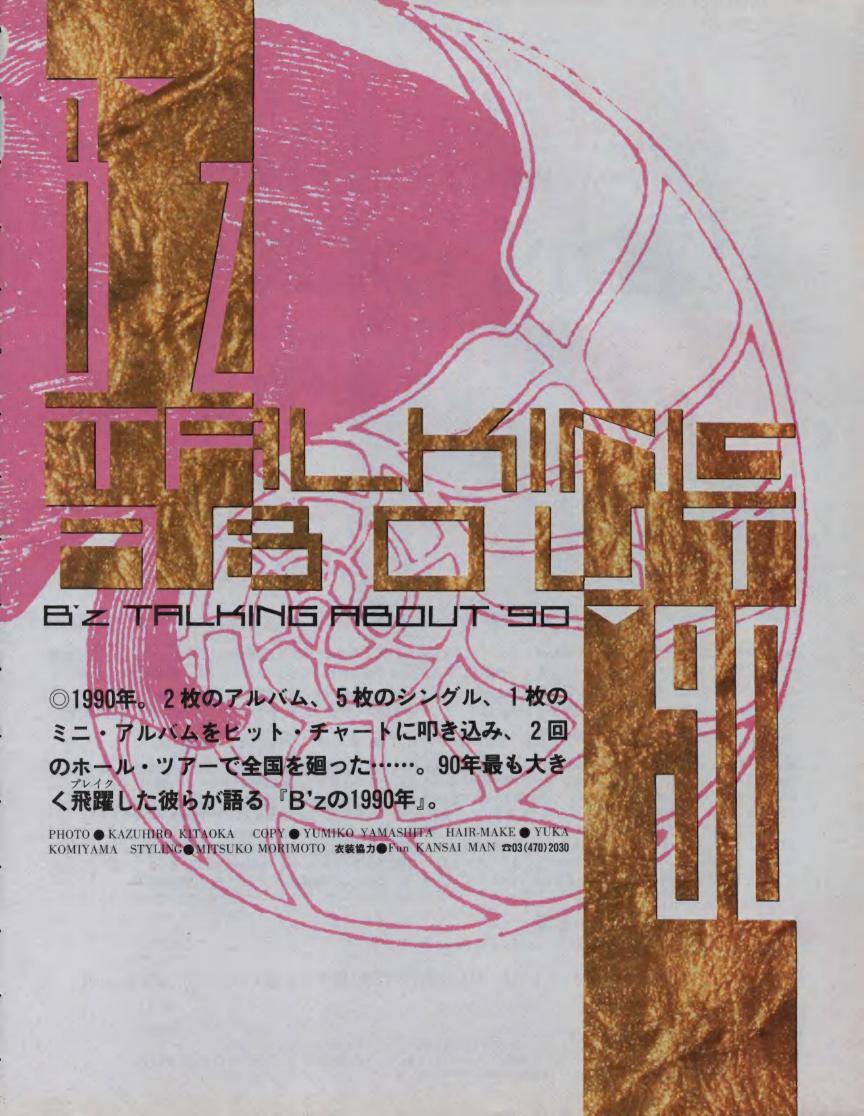
●書店（番線）印	●注文伝票（注文は書店で）		
	THE BOOM単行本「君がいっぱいⅠ」		'91年1月下旬 ●定価1300円
	●住所		●TEL
書籍扱い	●お名前	●年齢	●職業
	〒102 東京都千代田区五番町6-2　TEL 03-234-5811　CBS・ソニー出版		

※書店様へ：このカードがまいりましたら、台帳にお控えの上、お取引の販売会社へお早めにご注文ください。

▸この注文書は切り取らないで、コピーして使ってくれてもOKだ。お友達にもあげよう。

◎1990年。２枚のアルバム、５枚のシングル、１枚のミニ・アルバムをヒット・チャートに叩き込み、２回のホール・ツアーで全国を廻った……。90年最も大きく飛躍（ブレイク）した彼らが語る『B'zの1990年』。

PHOTO●KAZUHIRO KITAOKA　COPY●YUMIKO YAMASHITA　HAIR-MAKE●YUKA KOMIYAMA　STYLING●MITSUKO MORIMOTO　衣装協力●Fun KANSAI MAN ☎03(470)2030

やっとB'zの稲葉としての人格ができてきた気はします。

それでは、ここでは2人にプライベートとしてのこの1年を振り返ってもらいましょう。名付けて90年の私生活、神秘のベールを剝ぐ! ……しかし、仕事と私生活を充実感は反比例する、を地で行った彼ら。私生活に何の衝撃の告白もありません。(笑)期待を膨らませてしまったら困るので念のためお断りしときます。

——まず今年の稲葉さんの重大ニュースを3つ教えて下さい。

「僕ですか? 引っ越しと……引っ越し以外には……(しばし沈黙)B'z以外はとくに変わりばえなかったなー。ホント、ないや。何にも。ああ、でも今年は僕にとって海外に行けたのが一番かもしれませんね。それが一番大きかったかな」

——得たものも大きかったですか?

「いや、べつに何も得てないんじゃない?(笑)わかんないけど。でも行ったという事実が大きかったし、出無精の僕にこれからもっと出かけてみたいと思わせてくれたのが収穫ですね。ホントに今はどこでもいいから、いろんな所に行きたい。それはすごく思うようになりましたよ」

——例えば?

「……マレーシアとか……いいですね」

——意味あるんですか?

「うん、あるよ。理由は、まあいいじゃないですか」

——じゃあ話題を変えて、今年は稲葉さんにとってどういう1年でしたか?

「やっとB'zの稲葉としての人格ができてきたかなって気はします。今年になってから。それに対する自覚も出来てきたかな、みたいな感じですね。とにかく、去年は精神的に余裕が全然なかったですから」

——余裕って?

「ちょっと周りを見てみるとかね。それで僕もB'zの一端を担わなきゃいけないなというのはね、今年になってやっと自覚してきたし。それができる力も少しずつついてきた気がするけど。ホント、今になって思うもの。松本さんってデビュー当時は大変だったんだろうなーって。なんせ、ズブの素人みたいな僕が相棒ですからね(笑)」

(「大変だったよォ」と横で松本さんがチャチャを入れる)

——それは自然な流れの中で、活動を通して徐々に出来ていったのかしらね。

「例えば詞を1つちゃんと書くとか、コンサートを確実にこなしていくとか。そういうことで自然に出来ていったことだと思うから。結局、自分が請け負ってることをちゃんとやれば自然に出来てくることなんだと思うな。でもまあ、よくここまで来れたもんだってのは、自分でも思います」

——B'zを離れたところでは?

「だから、それは全然なかったですね。大体B'z中心ってことしか考えてなかったし、この先、当面もそういう風に考えてるし。僕に私生活って今は必要ないから。もっともっと他にやらなきゃいけないことはたくさんあるんですよ」

——あとどのくらいかかりそう?

「それはわかんないけど……。状況によるでしょうしね。でも当面はいらない。今はB'zが良い作品を作るための時間だから。そこを最終的に頭において、いろんなことをやるようにしてるんですよ。体が、頭が自然にそうなっちゃったからね」

——でも作詞家としてはね、例えば日常生活の過ごし方ってすごく大切じゃないですか。自分の見聞や体験が詞に反映したりね。そういう点も貪欲になってます?

「そう。跳ね返ってくるものは確かに大きいですよ。でもまあ、それも自然にそうなっちゃったんですけどね。だから、まずB'zっていうモノがあって、逆にその後に個人的な部分がついてきてるみたい」

——そんな詞を聴いて、「ああ、稲葉さんってこういう人なんだ」とか「こんなこと考えてるんだ」ってファンは思ってるかもしれないでしょ。そういう事に対して、照れとか恐さとかありません?

「いや、全然かまわないですよ。それはそれでいいです。でもそう思えるようになったのは、最近のことで。『OFF THE LOCK』作った後くらいだけど。結局、生身の自分って詞の中に反映されてくるし。僕だって人の歌を聴いてそういう風に思ったりすることもあるし。若いコなんかとくにそうですよ。でも、『こういう人なんだ』とか『こういうセンスを持った人間なんだ』とか。微妙だけど若干のニュアンスは違うでしょ。そういう風に考えてくれたら嬉しいけどね」

——では、作詞の元になるプライベートですが。この1年、オフって何してました?

「ほとんどボーッとしてた時が多かったですね。だから、これといって何も覚えてないな。覚えてることっていったらさ、正月に飲んで酔っ払ったこととかさ(笑)」

——酔っ払った!? その話聞きたいな。

「今年は元旦が休みで、2日にお正月の挨拶も兼ねてミーティングで集まったんですよ。その時、年をまたげての『BREAK THROUGH』のレコーディングの最中でね。あと1週間で残り半分の詞をあげなきゃいけない時期だったんですよ。僕、そのプレッシャーで気が狂いそうになっててねー。で、その日の帰りに松本さんとディレクターと3人で焼肉食べに行ったんだけど、ビールにワイン、日本酒飲んで。夕方6時半にはできあがってて。どうやって家に帰ったかも覚えてない(笑)」

——それって人間的ですよ。(笑)あと部屋ではどういう風に過ごしてるんですか?

「だからホントにボーッと。ビデオ見てたりもするし、音楽はけっこうかけてる。ジャンル? ハードロックですよ。疲れててもつい聴いてしまうし、逆にスッキリするからね。ノリノリになりますよ。(笑)その反対に音自体を聴きたくない日もたまにはあるし。そんな感じかな。でも、何をするってこともないけど、そんな風にボーッとしてる時間って必要だからね。……あ、僕、引っ越ししたんですよ。これ言ったけ」

——あ、そう言えば「引っ越ししたい」っていうのは聞いてた気がする。

「電光石火のごとく。身軽だから。それでね、家に帰るとまだ完璧には片付いてないんだけど、けっこうホッとするんですよね。単純に部屋が広くなったんです。それと、引っ越した瞬間『頑張らなきゃな』とは思いましたね」

——疲れも吹き飛ぶ?

「けっして全部は取れないけど。まあまあ。それに基本的に1人ってすごい好きだから。1人でいる時間って必要ですよ」

——みんな、稲葉さんのプライベートって覗いてみたいと思ってるんじゃないのかな。

「そうかなー。僕が1人で部屋にいる様子なんて……普通ですよ、普通。実際、見ても何でもないけどね」

——(笑)でも、ほとんど松本さんと2人の時間が多いでしょ。

「それはもう。でも待ち時間から移動から仕事中から、それなりに松本さんがフル回転して楽しくしてくれるから」

——目に見えるよう。(笑)自分自身は笑いはとりません?

「最近、時々あるよね。というか、松本さんに突っ込む材料を与えてるって感じ。全部ギャグにされるから」

——とにかく、2人のコンビは周りで見ても、うまくいってると思うけど。

「まあ、そうでしょうね」

——来年やりたいことは?

「僕、ペーパードライバーなんですけどね。今まで車って全然興味なかったけど、松本さんがすごく好きなんで、よく会話に車の話題が出てくるんですよ。そしたら話聞いてるうちに段々と欲しいなと思い始めちゃってね。もしかしたら買いたいのかなぁと思いますけど。あとは……これといってないな」

——やっぱりお互い影響しあうのね。

「いや、影響しあうこともあれば、全く興味がひかれないこともあるし。車はたまたまハマったんですけどね。松本さんが言うわけ。『車って1人の時間が持てるし、例えば夜高速で走ったりするのっていいよ。家にも代えられない、誰も介入してこないパーソナル・ルームだ』って。そういうの聞いてるといいな~って思いますね」

——あとは?

「あとはね、これは勉強不足だから何も言えないけど、B'zと映像っていうの? そのへんで面白いこと出来ないかなと思ってたりしてる。まあとにかく仕事の面でやりたいことは一杯ありますよ。私生活は……さっきも言ったようにあんまりなくてもいいと思ってるから」

——B'zの中で、今後の稲葉さんの役割ってホントに大きくなってくると思いますよ。たとえば、もっとパーソナリティーとしての動きも期待されるだろうし。

「そこらへんはねぇー。個人的には……これはいつも言ってるけど、音楽中心で行くってこと。それは今後、長い期間は変えたくないなと思ってますよ。他の要素もっていうのは……活動を続ければ話も出てくると思うけど、音楽中心という核を変えないで、何とかうまくやっていければいいなと思ってますね」

とにかく、仕事の面で、ホッとするのはまだ早いと思う。

TAKAHIRO MATSUMOTO

—個人的な話を聞かせて下さい。

「今年1年？ やっぱり忙しかったよね。うん、ホントにすっごい忙しかった。まあ、僕の場合はけっこう仕事が趣味的なとこあるから、こういう風にやっているのが一番いいんじゃないかと思うんだけどね。とにかく、これといって何したって思いあたることがないよな」

—B'zの仕事が忙しくて、自分自身のプライベートはなかったってことですか？

「うん。プライベートはあまりなかった、今年は。だって休みなんて数えるくらいしかなかったし」

—どのくらい休みました？

「年間でね、たぶん20日くらいかな？ でもまあ、僕だって少しはやりたいことあるじゃない？(笑)で、やりたいことをオフの1日に凝縮しちゃうでしょ。そうするとかえって疲れたりするよね。これは悪循環ですよ。それに僕はあんまり仕事を忘れられないタイプかもしれない。テレビ見ながらでもメモ取ったりしちゃう人間だからね」

—松本さんのやりたいことって例えば？

「うーん、ビデオを見たいとか映画見に行きたいとかさ。そういうまとまった時間もないからねぇ。っていうか、頭がそういうことにいかなかった。だから私事だけど引っ越しをしたり歯を治したり。そんなこんなで大変だったね」

—あれ、引っ越ししたんですか。いつ？

「NY、ロンドンから帰ってすぐ。稲葉とほぼ同時期だよ。時間的にもそこしかないと思って、ツアー始まる前に済ませちゃおうと思ってたからね。NYにいる時から稲葉は引っ越し話してたし、帰国するなりパッと引っ越しされたからさ。じゃあ、オレも引っ越そうかなという感じね」

—今年は遊びよりはメンテナンスですね。

「うん。今年1年は、自分のメンテナンスに時間をかけたって言えるかも。引っ越しなんか、おかげで気分が変わったよ。前の家だと何かの拍子に家具とかにぶつかったりしてたもの。イライラしてる時なんか、それで頭きちゃったりするじゃない？(笑)でも今度の部屋は広くて体も家具とかにあたらないし、圧迫感がなくなった。それはいいよね」

—高慢な言い方に聞こえたら困るけど、私生活がグレードアップできたのも、B'zの仕事が好調だからって言えますよね。

「そうだね。……なんてね。(笑)けっこう日本人ってそういうこと言うの、イヤらしいと思う国民性でしょ。でも僕はわりと正直に言っちゃうほうなんだよね。と言いながらも『嫌味に聞こえたらどうしよう？』って思うんだけどさ。まあ、だからそういうのって自分の力の間接的な証明だからさ。何で証明されるかっていったら、そういうことしかないしね」

—創造を生業とする人間にとって、環境の整備とか、そこから影響されるモノって多々あると思うんだけど。

「うーん……それはどうだろ。まだ新しい家で曲書いてないんだけどね。今、フッと思ったんだけど、前の狭い家のほうがいい曲書けるんじゃないかなという気もするけどな。以前はほとんど5畳半のキッチンで書いてたからなー。とにかく付随して、個人的に守るものができてきちゃうじゃない？ それはそれで難しいところで。けっこう夢がなくなっちゃう発言かもしれないけど、社会生活してる一人の大人としてはそうだよね。でも、物を守るためにとか、もっとたくさんの何かを手に入れるためにとか、人は生きてるモノでもあるし。それがなきゃやってられないでしょう」

—松本さんの生活って音楽中心みたい。息抜きしなくてもいいのかしらね。

「でも、プライベートでは音楽は聴かないよ。ていうか、あんまり聴きたいと思わないしね。前はとりあえずBGMに流してたけど、今はテレビの映像だけつけて音声消してとかね。そういうのが多いかな」

—仕事がパワフルだから私生活は静かに暮らしたいとか。

「そこらへんは別に理由なんてないけど、とにかく仕事の面でさ、ホッとするのはまだ早いと思うんだよね。B'zが始まってまだ2年。まあ来年、さ来年くらいじゃない？ ホッとするってのは。たぶんそう思うよ。昔、TM NETWORKで仕事してた時、ツアー終わってとうぶん活動しないっていう時期に木根君がさ、『5年間ノンストップでやってきたからね。やっと休めるよ』って言ってた。その言葉を実感として感じるよね。今、B'zも走り続けなきゃいけない時期だし、今年もこうやるべき年だったと思うし。だけど思うんだけどさ（エネルギーとか才能とかの）放出と吸収は同時にも出来るんじゃないかな。休んだからといって、吸収できるもんじゃないんじゃないかなと思うけど。よくはわかんないけどね。僕なんか『休みがほしい！』ってわりには、実際あると、もて余すだけだろうし。(笑)だから一番いいプライベート・タイムって、明日はオフだ！ って解放感で、仕事終わってから飲みに行くとかさ。そういうので十分幸せですよ」

—今、立ち止まってはダメ？

「うーん、どうだろうねぇ。でもパタッと休むとシンドイかもね。日本の音楽シーン自体サイクルが速いし、とって代われる人たちって一杯いるから」

—では、アーチストは馬車馬のごとくと。

「とくにここ2、3年の流れとしてそうなんじゃないの？ 音楽シーンの中でもロック・シーンのほうがそうだよね。アイドル系のほうがかえってお気軽さんだったりするんじゃないの？」

—お気軽さん。(笑)

「昔は逆だったけどね。今はだから大変だよ。バンドは一杯いるしねぇ。それはもうしょうがないよ。その中をこうやって頑張っていけるのは単純に嬉しいことだと思わなければいけないと思う」

—ここでこんな事聞くのも何だけど……今年の松本さんの重大ニュース3つを。

「仕事も含めていいの？ じゃあね、シングル3作、連続1位ってのはかなり大きいよね。私生活では引っ越したってこと。あとは（うんうん考え込んで、挙げ句に）出てこない！ ホントに今年1年何もなかったのかな。(笑)とにかく、オレは体も含めてメンテナンスの年だったと言うことにしておこう。精密検査受けたり、歯を治したり病院によく行ってたね。来年、いろんなこと達成するための準備の年だったかな。とにかく仕事中心のまる1年でしたよ」

—旅行とかは一度もナシ？

「旅行はいいの。海外にも行ったしさ。それにツアーで一杯やってるから。僕はツアー大好きなんですよ。自分たちの作品に対して目の前でリアクション返ってくるって最高じゃないですか！」

—自己形成の時間もナシ？

「ハハハ。人間形成なんていう暇はなかったからね。(笑)でも、やっぱり毎日B'zとして仕事してることが一番人格形成の場になってるんじゃないの？ 僕らはいろんな人と会うし、いろんな話を話してる。それが自分にはためになってると思うけど」

—来年、個人的なことでやりたいことは？ まず音楽面から。

「僕はね、今一番考えてることは、ギタリストとしてのメンタルな部分。気持ちっていうかさ、存在感ですね。ライブってのは視覚的な部分に負うこと大きいけど、音で威圧するってことを僕、何年も忘れてたような気がするんですよ。今までよりひと皮向けるためには、そこが大事だと思う。それが出来てこそもう1ランクアップ出来る気がするんだけど。あとは……何だろな。とにかく、B'zは最初の出発点からとても楽な位置には来れた気がするからね。最初はホント、こういう言い方をすると何だけどスタッフの陣頭指揮から僕がやってたんだけどね。業界長いですから、一番いろんなこと知ってる人間が自分であったわけだから。でも、今では稲葉を始め立派に一人立ちしてくれたし。(笑)それ以上にB'zを背負って立ってくれてるし。これからはB'zも分業制だなと思う。これは嬉しいことだよ」

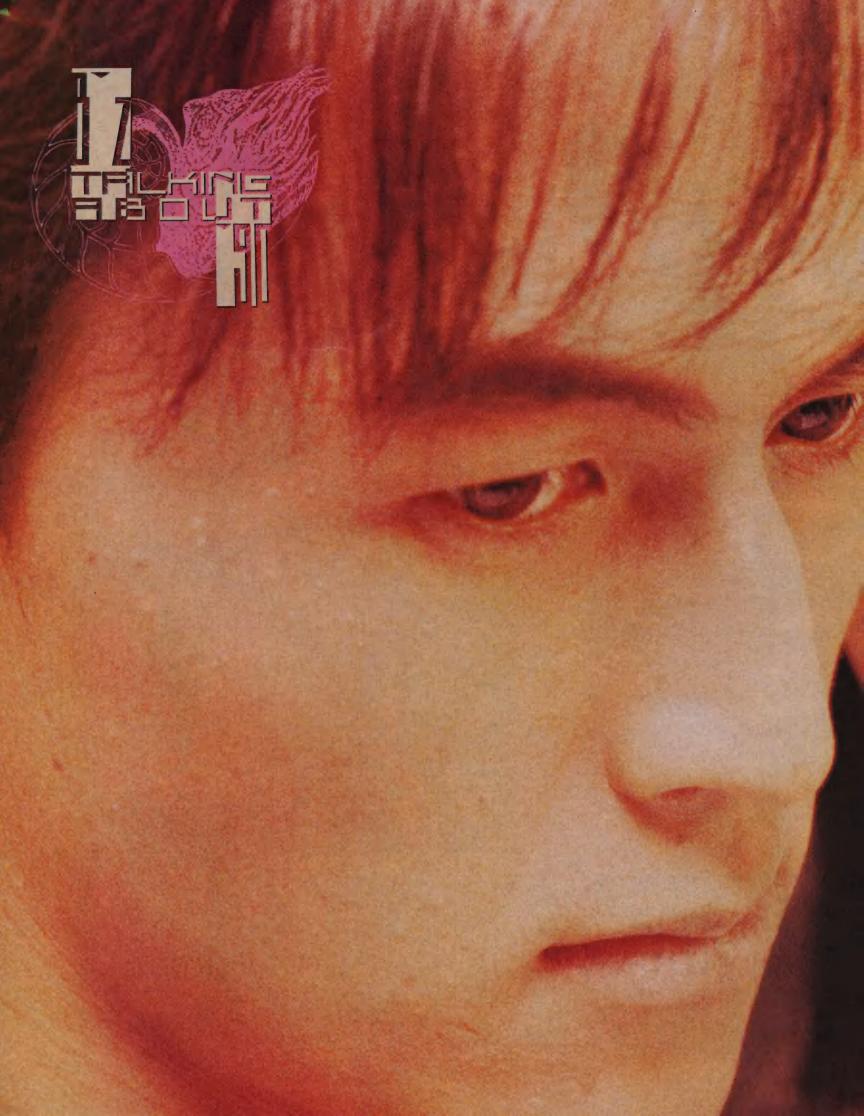
—プライベートでは？

「車しかないな。今、車がすっごく欲しいです。もともとすごい好きなんですよ。最近、車の話ばっかりして稲葉も洗脳してますけどね。ほかには……恋！(笑)恋したいですよ」

—私生活をいろいろ突っついてスミマセンネ。(笑)でも、ファン心理としてはやっぱりプライベートを知りたいと思って。

「みんな、それは一番知りたいでしょ。でもいわゆる夢を売ってる職業としては、虚像の部分ってのも大事だからね。それを膨らませるのがテレビや雑誌というメディアの仕事でもあるし。ホントはさ、アーチストなんてみんな普通の人間だよ。それを普通じゃないんじゃないかと思わせてくれる。材料をどんどん与えてくれるのが、マスコミだしね。だけど僕らの〝素〟の姿なんて知らないほうが幸せだって。(笑)ただ、歌ってることはホントでないといけないよね。音楽にのせてそういう素顔が出てればいいんじゃないの？」

TALKING
ABOUT
ART

——'90年の幕開けの仕事は何でした？

松本「アルバム『BREAK THROUGH』のレコーディングだよね。それが'89、'90年にまたがってから」

稲葉「大晦日も一緒だったし、元旦だけ休みで、2日がミーティング、そして3日からもう詞を書き始めて（注・稲葉さんのソロ・インタビューに面白いエピソードあり）。5日からレコーディングに入ってましたからね。幕開けから仕事仕事の毎日だった」

——ミーティングの話はどんな内容。

松本「1年間のプランみたいなもの。それは前の年から練ってたんだけど」

——この1年はそのプランに基づいて計画通りの流れでしたか

松本「いや、去年の時点ではさ、こんなにCDが売れるとは予想もしてなかったからね。もっとノンビリ考えたよな？」

稲葉「そうそう。その時に一応、『BAD COMMUNICATION』は調子良かった時期だったけど、僕は目先の詞のことで頭一杯だったから。先のことなんてとても考えてる余裕もなかった」

——じゃあ、この1年を振り返ると。

松本「1年でここまで行くとは思ってなかったから、思った以上だったと思うよ」

——ブレイクするのが予定よりも速かった。

松本「いや、まだ弾けてはいないと思うけど（笑）」

——でも、このCDの売り上げは……。

松本「そうね。ヒットしたってことはあるけど。でもオリコンにトップ10で出てても正直言ってあんまりピンと来ないんだよね。ダイレクトに感じる要素じゃない」

稲葉「それより、カラオケ行った時に『太陽のKomachi Angel』があったとか。（笑）そういうことで感じるけど」

松本「それとコンサートでは感じるね。あとは、こうやって取材でライターの人にそう言われて『あー、そうなのかー』って思ったり。そういう間接的なことかな」

稲葉「でも、知ってる？　事務所にナックファイブ（FM埼玉）から賞状来てたよ。夏のベストサマーソング1位だって。こういうことやってて、賞状なんかもらえるんだって思ったけど（笑）」

——B'zの傾向として、アルバムが長期に渡ってランキングしてるでしょ。それもアーチストにとって喜ばしいことと思うけど。

松本「ああ、それは嬉しいですよ。それと以前のアルバムがチャートに入ったのも嬉しいし。やっぱり最近の作品を聴いて『B'zっていいな』と気に入ってくれた人が遡(さかのぼ)って聴いてくれてるってことでしょ。？　僕らがずっとやって来たことが間違いじゃなかったんだという実証になるわけで、それが一番嬉しいことですね」

――とくに、前半は目覚ましい仕事しましたよね。アルバム発表とか、シングルをたて続けに発表したりとか。

松本「アルバム『BREAK THROUGH』が1位になったでしょ。あれは単純に嬉しかったな。でも、あの頃って僕は比較的楽だったの。曲とかホントにボンボン出来てた時期だし。それと出す曲出す曲どれも好評だったけど、自分の意識としては『Easy Come，Easy Go！』の連続3週1位とか、『愛しい人よ Good Night…』1位ぐらいになってから、やっとって感じするな」

――どういう意味で？

松本「みんなは『太陽のKomachi Angel』路線を期待してただろうし、その延長線でヒットを出すことは楽なことだったと思う。でもそれをあえてやらなかったから。そこでしか勝負出来ないって思われることがイヤだったからね。だからあえてああいう違った曲調をシングルにしたんだけど、それでも不安があったよね。1つの賭けではあったかもしれない」

――賭け……ですか。そして勝ったんだ。

松本「発売日が近づけば近づくほど、負けるような気もしてたけど（笑）」

稲葉「ダンス・バンドとしてレッテルを貼られる。踊れる音楽をやるってことに対しては、僕らも好きだからいいんだけど。でもB'zはそこからスタートしたわけでもないし、それだけが中心でもない。だからこそ今、固まったら後がヤバイかなって危機感があったから。『Easy Come，Easy Go！』が出来た時、ホントにいい曲だって確信あったけど、これが認められるかどうかにかかってるなとは思ってましたね。そこだけ恐れてた」

――あそこが今年のヤマバでしたね。

松本「うん、そうだね。でもまだ全然僕ら自身としては、今年だけでは落ち着いていないんですよ。アルバム『RISKY』にしても評価はしてもらったけど……やっぱり来

年じゃない？ ホントの意味でのB'zの位置付けって。例えば久保田利伸さん、プリンセス・プリンセスとかNo1クラスの人達と同じ部類に仲間入り出来るかどうか。それは来年の仕事にかかってくると思う」

――今年はそこまでいくための……。

松本「ステップではあると思うけど」

――そのステップは階段状でした？

松本「僕らとしては階段のつもりでした」

稲葉「うん。とくにツアーやってる時は、『うわー、階段だ』と思ってたし」

――苦労も一杯ありましたか？

稲葉「そこらへんはどうだろ？ いや、もっと気楽ですよ」

松本「シングルだって、あんなにチャート行くと思ってなかったから、全然プレッシャーなかったし。気楽にいいと思うものを作ってきたし。曲作りにしても『こういうって面白いかも』っていう、そんな感じでやってたから。プレシャーったってね、まだ守るものなんて全くないもの、僕達」

――今年その何かができたとも思わない？

松本「いや、できた感じしないよね」

稲葉「うん。失うものは何もないですよ。逆にこれからも上がって上がって、頑張っていかなくちゃいけない一方だし」

――じゃあ、'90年っていうものはB'zヒストリーにどう位置づけられる年ですからね。

松本「'90年がってことじゃないけど、根本的にこれをやりたいなとか、こうなりたいなっていうモノが1つずつ形になっていけばいいんじゃないのかな。来年もそう思うし。別にそれでいいですよ。やってる時は日々こうやって忙しくしてるから、あんまりヒットしたとか、コンサートがたくさん出来るようになったとか、有難みを感じてる暇がないっていうか。それは決しておごってるわけじゃなくってさ。『あー、良かった！（拍手）』って感動する時間がないってことなんですよ。1日づつ『で、明日は何の仕事だっけ？』って走りっ放しなの。だから守るモノが出来た時、振り返って『'90年はけっこういい年だったな』って言える気がするんだけど」

――走りっ放しはいいけど、目標からズレていかないように気をつけなきゃね。

稲葉「それは大丈夫でしょう。松本さんが見張ってますから（笑）」

松本「まあもうちょっと先までは、B'zのビジョンはちゃんとあるんですよ」

B'z TALKING ABOUT '91

稲葉「考えてるよねぇ」
松本「ここまではね。でも、うまく言えないんだけど……。B'zが歩んできたここくらいの段階までは、みんな同じじゃない？ どんどん売れていくバンドの進み方って。だから、これからが勝負だよね。ここからどうなって行くのかってことは非常に楽しみでもあるし。そこで思うのは、B'zはB'zなりのものを作っていかなきゃいけないってこと。今後、僕と稲葉が組んだことによって、どういうモノが生まれてくるのかすごく期待してるんだけど。それが今はまだ何であるか見えないんですけどね。B'zとして、今年すごく進歩したと思う。だけど、もうちょっと僕が知らない、経験したこともない世界を見てみたいよね」
稲葉「でも、僕個人にはまだ見たこともない世界ですよ（笑）」
松本「ああ、そうだった（笑）」
——'91年は次のステップですけど。どういう方向性を考えてます？ このまま疾走するのみですか？
松本「来年1年はとにかく私生活も投げうって（笑）、音楽活動に終始するよ。アルバムはもちろん力を入れて作るし、とにかくツアーの本数はすごくやりたい。でも、僕は言いたいですよ。今年の一番の収穫は稲葉ですね。稲葉、すごい変わったよなー。とくにステージングの成長は目覚ましいものがあるよ」
稲葉「ハハッ。そう言っていただけると…」
——それとツアーですが。今年は前期、後期でツアーの柱が2本ありましたよね。
松本「前半は、今みたいにどこへ行ってもソールド・アウトってことはなかったからね。でも、いいステージが出来た」
稲葉「それに僕自身が初めて楽しかったツアーでした。今年からですよ。それまではダメだった。"OFF THE LOCK"ツアーまでは精神的にギクシャクしてましたからね。でもここから、ある意味ではフッ切れたのがわかったし」
松本「今は背負って立ってますよ」
稲葉「でも、今だってステージでは自信満々にギンギンにやってるけど（笑）、だけどどれだけ自分がお客さんを引き込んでるのかなと思ったら……疑問ですね」
松本「まあいろいろ課題も山積みだけど。でも、とにかくこの1年はB'zにとっていい年だった。それは間違いないですよ」

DISCOGRAPHY

●一年の間に、アルバム2枚・ミニアルバム一枚、シングル5枚、そしてビデオ1本。彼らこそが、90年に最も多くの作品をチャートに送りこんだバンドではないだろうか。ここにB'zがリリースしたものを一挙に公開！

SINGLE

LADY-GO-ROUND

LADY-GO-ROUND
LOVE&CHAIN

2月21日発売。アルバム『BREAK THROGH』からのシングル・カット曲。最高39位を記録。

BE THERE

BE THERE
星降る夜に騒ごう

5月25日発売。テレビ朝日系全国ネット「水曜スーパーキャスト」テーマ曲。最高7位を記録。

太陽のKomachi Angel

太陽のKomachi Angel
Gobd-bye Holy Days

6月13日発売。カメリアダイヤモンドのCFイメージソング。初のチャート1位を確得。

Easy Come, Easy Go!

Easy Come、Easy Go！
NUDE！ GO！

10月3日発売。これもカメリアダイアモンドCFイメージソング。連続チャート1位を確得。

"愛しい人よGood Night

愛しい人よGood Night…
GUITAR KIDS RHAPSODY〜CAMDEN LOCK STYLE〜

10月24日発売。テレビ朝日系ドラマ「代表取締役刑事」エンディング・テーマ曲。三連続1位を記録。

ALBUM

BREAK THROUGH

1、LADY-GO-ROUND 2、BUM 3、BREAK THROUGH 4、BOYS IN TOWN 5、GUITARは泣いている 6、LOVE&CHAIN 7、となりでねむらせて 8、HEY BROTHER 9、今では…今なら…今も… 10、SAVE ME 11、STARDUST TRAIN

2月21日発売。通算3枚目のアルバム。チャートは最高3位を記録。超ロング・セラーのミニ・アルバム『BAD COMMUNICATION』の後に発売されただけに、多くのファンが待ちに待ったフル・アルバム。

RISKY

1、RISKY 2、GIMME YOUR LOVE 3、HOT FASHION 4、EASY COME、EASY GO！ 5、愛しい人よGood Night… 6、HOLY NIGHTにくちづけを 7、VAMPIRE WOMAN 8、確かなものは闇の中 9、FRIDAY MIDNIGHT BLUE 10、It's Raining…

11月7日発売。通算4枚目のアルバム。チャートでアルバムとしては初の1位に輝く。NYでミックス・ダウンしたサウンドは、それまで以上にバラエティに富んだ内容となっている。

MINI ALBUM

WICKED BEAT

1、I Wanna Dance Wicked Beat Style 2、Komachi-Angel Red Hot Style 3、Bad Communication E. Style 4、Lady-Go-Round "W-40" Style

6月21日発売。チャートでは3位を記録。全ての曲が、既に発表した曲の英語バージョンでアレンジもオリジナルと異なるなど、かなり実験的なアルバムで、前回のミニ・アルバム『BAD COMMUNICATION』の延長上にある作品。

VIDEO

FILM RISKY

1、BAD COMMUNICATION 2、RISKY 3、HOT FASHION 4、GIMME YOUR LOVE 5、EASY COME、EASY GO！ 6、VAMPIRE WOMAN 7、GUITAR KIDS RHAPSODY CAMDEN LOCK STYLE 8、愛しい人よGood Night…

12月16日発売 初のビデオ集。

FILM
B'z
Kohshi Inaba on Vocal
Takahiro Matsumoto on Guitar
RISKY
B'z FIRST VIDEO
FILM RISKY
Now On Sale
レーザーディスク同時発売
New Album 『RISKY』 Now On Sale
BMG VICTOR, INC.
ZEZ

SONY

この世の音楽を、残らず録ろうと決めました。

ノイズを抑え、高域に強い。ハイポジションCDixⅡ

新登場 身近になったすごい音。メタルポジションCDixⅣ

力のある音を響かせる。ノーマルポジションCDixⅠ 10分、46分、60分タイプも新追加。

PRINCESS PRINCESS

分別うす型

音楽まるのみカセット

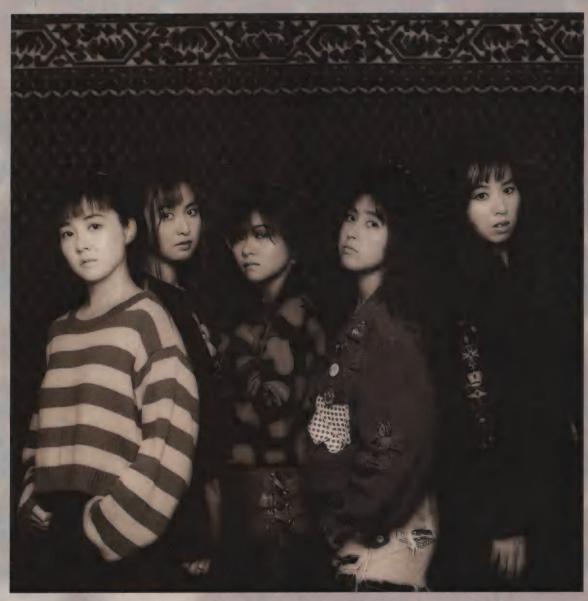
●CDixⅠは8タイプ、Ⅱは10タイプ、Ⅳは9タイプ。CDがうたい終わるとテープも終わる時間ぴったりサイズ。
●どのCDixも、テープの性格をよくあらわした個性的な顔である。
▼メタルの音、CDixⅣを存分に楽しむ「メタル録音/再生付きCDラジカセ」登場

CFD-500 標準価格54,800円(税別)新発売

CDix

CDixⅠ(NORMAL POSITION) CDixⅡ(HIGH POSITION) CDixⅣ(METAL POSITION)

新うす型ケース

●あなたが録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。●カタログさしあげます。ハガキに住所・氏名・年齢・職業・機種名を明記の上、〒108 東京都港区高輪局区内ソニー(株)カタログ係へ。

PRINCESS^2

●全国をくまなく回り、白地図を真赤に埋めて帰ってきたプリンセス^2。着実に身に付けたしなやかで強靭な筋肉は、新作『PRINCESS PRINCESS』の内容を豊かで質の高いものにした。'91年はどんなふうに震え(ROCK)させてくれるのだろうか——。

撮影●杉山芳明　スタイリング●前原郁子

ROCK YOU !

PRINCESS PRINCESS

PRINCESS² ROCK YOU!

まんがにっぽん全県ツアーで振り返る '90年にっぽん全県ツアー

●プリンセス²が90年に成し遂げた偉業、日本全県ツアー。普段はめったにコンサートが訪れない土地のファンにも会いたい、という5人の気持ちがカタチになったツアーだった。パチ▶パチではツアー先での彼女たちの様子を喜国雅彦氏による漫画で連載レポート。メンバーにも大ウケのシリーズとなった。この漫画をもとに、再びあの記念すべきツアーを振り返ってみた。

PRINCESS² ROCK YOU!

PRINCESS まんがにっぽん全県ツアー

①金沢の夜は今日もホテルでふけていく

喜国雅彦

＊ほんとはノドを暖めてるんだよ
カナちゃんが大ファンでもある喜国先生は現在ヤングサンデーやシンバッドに連載中。ロックバンド"大島渚"のベーシストでもあり、近頃CDもリリースした。

1 マジメでジミなライブ前日の夜

●への1号が最初にスパイした場所は金沢のホテル。ツアーが始まって間もないころでメンバーは体調を整えるのに全神経を集中していた。ツアーの前日はお酒も飲まず、ウーロン茶でご飯を食べて、(香ちゃんのみビール)ホテルに帰ってひっそり。プリンセス²のマジメさを改めて確認。

(京) キョンちゃんはほんと風邪ひいて苦しんでたんだ。

(加) でも日ペンはやってたんでしょ。

(京) そう。(笑)そんで香の部屋に遊びに行ったんだよね。香はこの頃たいてい夕方まで寝てたから。みんなは買い物とか行ってて……。

(香) 前半だよね、金沢。私そのころまであんまり具合が良くなかったんじゃないかなお休みの日、寝てたんだよね。

(京) 起きたらケマンが買って来てたんだ。

(加) そうね。パンも買い物行ったよでも。

(登) 私このあたりはすごく買い物ばっかり行ってたんだよなぜか。

(加) 私こん時カオリにTシャツと、黒にハートのくつ下買ってたんだ。

への一号(以下(へ))沖縄で着た水着もこの時買ったんですよね?

(加) そう。

(京) キョンちゃんはナベちゃんと水族館に行く約束してたんだけど、起きたらすっごい具合が悪かったんだ。

(敦) 行くはずで私準備とか全部整えちゃって仕度しちゃって化粧とかして……、だから本屋さんにブラブラッと出かけて……でもゲームボーイやってたんだよね。対戦とかやってたんだもんね。

(加) ペンギンクォースとかがはやったんだよね。

(敦) そうだね。

(へ) その後上達しましたか? 日ペンの方は。

(京) 日ペンはまあまあです。

(香) まだやってんのアレ?

(京) だってもう1年以上かかるわよ、このペースだと。

②広島の楽屋に来たジョン!(柴犬♂) 喜国雅彦

特別付録 私の秘密

切りとって定期入れに入れよう

▶喜国雅彦先生は現在ヤングサンデー、シンバット、ビッグコミックスペリオールに連載中。"大島渚"のベーシストでもあります。

ジョンもプリンセス^{2}もパニック!

●2度めにスパイしたところは広島。メンバーの〝楽屋に動物がいればいいなあ〟という長年の願いが初めてかなった土地。イベンターさんのバイトくんの飼い犬が楽屋にやって来て、5人は大喜び。メンバーも犬もパニック状態に。翌日はオフだったため夜は飲んだくれ大会。全員、とってもとっても強かったのです。

(京) なんだコイツ。

(敦) こんなにマタ広げて入ったら……(笑)

(京) 湯ぶねに入りながら洗ってるように見えますが、(バスルームの)水道のところで洗うんです。

(加) アレ、この時足の指ひらきやったの? あ、でも同じ服着てるからこの日なんだね。正確だもんね、喜国さん。

(京) (ネコのぬいぐるみを指して)コイツどこ行ったんだヨ、コイツ?

(加) この2匹ねー、まだ楽器車に積んであんじゃないかなー。

(へ) みんなマスコットがいましたよね。キョンちゃんはオバQでしたっけ?

(京) オバQもいたんですけどー、途中からね、変わって鉄腕アトムとかねー、で途中からまたお面になっちゃったんですよ。

(香) 私のリーは取られちゃった。みんなの中をタライ回しにされてたゴリラがいてね、かわいそうだったの。

(京) 途中から人格持って怖くなっちゃった。

(香) 目が生きてる感じでねー、私が歌ってるとピアノの上からじーっと見てるんですよ。それで結構愛着わいちゃってね、ビーズ付けてあげたりとかしてね、かわいくしてたけたら取られちゃって。

(へ) 犬が来た時異常に盛り上がりましたね。

市村マネージャー(以下(市)) 黙ってたんだもんね、(楽屋に)連れて来るの。

(香) 〝トントン〟とかいって〝ハイどうぞ〟とか言っても入って来なくて、〝ハイ〟とかってバンッて開けたら犬が……。

(加) 踊り出て来たんだよね、ほんで、ビャ~~~~~~~~~~って言ったら、

(敦) おしっこしちゃったんだよね。(笑)

PRINCESS^2 まんがにっぽん全県ツアー

③青い空、青い海、白い砂、熱き肌(?)……沖縄 喜国雅彦

▶喜国雅彦先生は現在ヤングサンデー、シンバット、ビックコミックスペリオールに連載中。ヤングサンデーに連載中の「傷だらけの天使たち」のNEWビデオも出たよ。

夏の沖縄、熟れた4人の美女と足

●そして沖縄。ツアーも中盤にさしかかった頃。沖縄ではプライベートビーチでのオフが用意されていたため、メンバーはとても元気。ちなみにこの時の5人の水着姿は水着のみの写真をもとに、喜国さんが合成した想像図。なのに〝ゾックリ〟だとメンバーに大評判になった。

(京) ここに香がナゼいないかというと……

(香) ナゼだっけ?

(加) (ホテルの)上のバーラウンジに飲みに行ったんだよ。

(香) ああそうだ。ミキサーの人と。

(加) もともと香はあんまりゲームセンター行かないもんね。

(京) ケマンはここでゴジラを取ろうとしてたんだけど取れなかったんだよね。

(加) だから細かいんだよねー。喜国さん。

(へ) プライベートビーチはどうでした?

(香) タヒチ行ったからかなり薄れちゃったけどねー、すごいキレイで感動しましたよ。

(京) ホテルのプールで泳ぐ免疫があったんで、何の抵抗もなく。

(敦) こん時も水中メガネとか足ヒレとかしたんだっけ。

(加) うん。やっぱりパンがポーズつけてる。

(京) ホントだ。

(登) 私の足の指がここでも開いてんだヨ(笑)

(京) この坐り方がすごい似てるよね、この足のかんじ。

(加) なんでわかるんだろ。このマンガは奥が深いってみんなで感動してたんだよね。言葉があんまりないのに。

(京) この顔もいつもと違うもんね、なんかトキメキを含んだ……

(加) (笑)コンちゃんは……

(登) 足だけ登場して——

(加) かなり喜国さんにウケたんだね。

(へ) でこのゲームセンターの後がカラオケでしたっけ?

(京) キョンちゃんは行かなかったの。キョンちゃんは飲みに走ったんだこの後。

(加) 私が行った。この2日前はパンが行ったんだよね。

喜国雅彦
Masahiko Kikuni

⑤秘話3つ

さて酒が入った加奈ちゃんは
どれでしょう

喜国雅彦
Masahiko Kikuni

発表！PRINCESS² カラオケ大賞

今だにどこがどこやらわからない

5

●連載も5回めを数え、への1号が全国各地で撮って来たポラロイド写真も増えてきた。喜国さんはポラロイド写真を参考に、ポラロイドには写っていないメンバーの姿までソックリに描いてしまうので、いつも感心されたり、不思議がられたり。への1号が新しくでき上がったばかりのマンガをメンバーに見せるたびに感嘆の声や笑い声が上がった。特に喜国さんのマンガの大ファンであったカナちゃんは繰り返し読んで細かいところまで覚えていた。

（京）みそ煮込みが大好きだなあ。

（へ）この落書きの話は本当のことですよね。

（登）多少のアレンジはあるけれど。

（香）前は、この絵じゃなくて、もっと昔の写真だったんだよね、落書きされてたのは。

（京）これはパンが書いたヤツだよね。

（香）喜国さん見たんでしょ。

（へ）喜国さんのバンドが「ハートランド」でライブやって、その時に見たみたいですね。

（京）こないだのツアーの前の前のツアーの時に「ハートランド」に〝懐しい〟とかって夜行ったら…… ハァー？って。最初はアッコちゃんだけだったんだよね、落書きされてたのは。

（敦）そう。そうだよー。

（へ）これはもちろん事実とは違いますけれど。ステージの上では間違えることはないですものね。

（京）でもキョンちゃんはぜんぜん場所がわかんないの。

（加）ホントに東北わかんなかったもんね。どこにどの県があるのか。

（へ）全県廻ってみてわかるようになりました？ 場所って。

（京）あまり。（笑）

（加）これはたぶんポラロイドの写真がどれもこれも笑ってて……。人はこうだと思っているけど、ぜんぜん違うってことが言いたかったんじゃないかな。

市ヤン登場にメンバー湧きかえる

4

●そして山形→青森という移動バスに乗り込んだへの1号。山形の夜はカラオケで盛り上がり、青森では着いたとたんパチンコ屋さんに向かったメンバー。ツアー先での楽しみ方もバリエーションが増えつつあった。でも誰もかなわないのは市村&安藤マネージャーコンビのドトーのカラオケ合戦。

（加）コレ最高だねー、市ヤン。

（敦）すごい市ヤン似てるよ腕の感じとかも。

（市）私ってこうなの？

（京）そのとおり。このまま。口も似てるよ。

（市）嬉しかったよねでも。メンバーってカラオケ行かないと思ってたから。それが行ってくれたっていうのは嬉しかったよね。沖縄でカラオケ盛り上がって、で山形で、みんなで行ったんだよね。ムリヤリ……。

（京）ムリヤリ開けてもらって。

（市）私たちが先に行って交渉して来るって。カナちゃんとアッコちゃんが。

（加）でどうしてもダメですかぁって言って。

（市）12時までだったのに行ったのがもう12時ぐらいだったんだよね。

（加）15分だけでもいいとか言ってるうちに、2時ぐらいまでやってたんだよね。

（市）3つボックス借り切って。

（加）パン、このとおり。

（登）シーツは持ってなかったじゃない。

（市）きっとあったら持ってるよ。

（京）でホラ、みんなは前を見て歌うけど、パンて何か遠くを見て歌いそうだよね。でもアッコちゃんあんまりこういうことはやらないよね。

（加）ウン。でも〝半音上げて下さーい〟（←この部分ウラ声）はアッコちゃんだ。

（敦）そう。自分で勝手にやるんだよね。

（市）カラオケBOXの使い方覚えちゃって。

（敦）私はイヤイヤ行ったんだけどけっこう歌っちゃったっていう。

（京）オリちゃんは〝1回元気な時に行ってちゃんと歌ってやる〟とか言ってたんだよね。

（香）私が本気で歌ったってしょうがないじゃん、〝みんなだけなら歌ってやるウ〟とか言ってたんだ。

PRINCESS²

ROCK YOU!

PRINCESS²から喜国雅彦さんへ。

PRINCESS² まんがにっぽん全県ツアー

喜国雅彦 Masahiko Kikuni

最終回●喜国版・王女(プリンセス)新聞

スタッフの謀略　失敗に終わる!!

ツアー最終日　スタッフがメンバーを驚かそうと風船を天井から　降らすことを計画。しかし　いたるところで割れる風船に、メンバーには早々と気づかれてしまいスタッフたちはちょっぴり悲しくなってしまったそうだ

フリフリに何かあった　奥居ハメられる!

横浜アリーナ最終公演において「へっちゃら」の曲の時メンバーが「元気じゃない」のイントロを演奏。奥居をはじめ、スタッフ、クルー総勢があわてるというハプニングがあった。が、メンバーは何事もなかったかのように「へっちゃら」のイントロに流れこむ。調べによると前日のラジオ収録のため会場入りが遅れた奥居をメンバーがひっかけたものとわかった。

主犯と見られている渡辺容疑者

川柳

ニューアルバム　それより　気になる　スーパー・ファミコン

千葉県　渡辺敦子

文通コーナー

そば屋さんにあったデカイ七味入れで笛を吹くのが好きな私です

縁日で売っているお面を集めるのが趣味の人　お手紙下さい

神奈川県　富田京子

広告

尋ね人

街で足の指をこんな風にしている人を見かけました　知っている人は連絡下さい

東京都　山田二平

れんさいマンガ　香ちゃん♡　No.2748

●8ケ月続いたメンバーにも大ウケのこの連載も今月で最終回です。御愛読ありがとうございました。

PRINCESS²

ROCK YOU!

奥居　香ちゃんはホカロンがたくさん登場して、いろいろソックリな似顔絵で、水着姿は特に抜群でした。ありがとうございました。

中山　どうもありがとうございました。締切りとかもあって忙しかったと思いますが、これでひと区切りということで、残念ですが、どうもお疲れサマでした。これからもヤングサンデーはちゃんとチェックし続けます。

富田　終わってしまうのはとても残念です。また春からは長いツアーとかもあるし、お正月もライブあるんで、見に来て下さい。そしてまた絶対書いて下さい。

今野　足です。あなたの書かれた足は元気にしております。ほんとはまだまだ続けて欲しかったんですけど、また気が向いたら書いて下さい。どうもありがとうございました。

渡辺　それぞれのメンバーの写真以外のとこをよくとらえてあって、ほんとうにびっくりしました。ほんとにさびしいなという感じもしますが、今後もライブなんかに遊びに来て下さい。どうもありがとうございました。

喜国さん、もっと私たちを書いて

6

●全県ツアーは横浜アリーナでスペシャルもすべて無事に終了し、白地図は見事に真赤に塗り変えられた。メンバーに〝もっとやってーッ〟と叫ばれながらも連載は終了してしまい、多忙を極める喜国さんは御自身の単行本、「まんが大王」の執筆のため、より多忙な生活に突入、プリンセスもレコーディングの日々に入っていった……。

(香)　誰が言い出したの、アレ。

(教)　誰だろう?　スタッフのことはでも前から言ってなかったっけ。ハメたいねって。

(香)　そだね。何回かやられてたんだよね。でタマにはこっちから何かしようって。

(京)　前からでも香をハメる案はあったんだよ。「スパイインラブ」の時とかに、ケラマンとキョンちゃんで急に遅くしようとか…

(へ)　本気でビックリしました?

(香)　ビックリしたよ、あん時は。

(京)　でもハメられたとは一瞬思わなかったんでしょ?

(香)　最初はねー、何が何だかわかんなかったんだけどー。〝あっやられたナ〟と思った時にさぁ、歌い出すかどうしようか困ってたら、アッコちゃんが〝へっちゃらっ〟って言って始まったからしょうがなく跳んだ。

(教)　〝へっちゃら〟って言ったのはね、今だにカオリだと思ってる人がいるみたい。

(へ)　でこれが青森で聞いたパチンコの話。

(加)　そっくり。エッて言った時の顔。

(登)　このうなだれ込んだのも似てない?

(京)　パチンコ行くとねー、たいていよくウチのアルバムがかかる。気きかしてだか何だかわからないけど。

(加)　キョンちゃんはいい子の役が多かったよね。アッコちゃんは……　あそっか、スーパーファミコン出るんだもんね。

(京)　コンちゃんまた顔出ないで足だけ……

(登)　わーん、キリンのサンダルが……

(へ)　そして加奈ちゃんは広告に……

(加)　私は広告しますよ!

(へ)　どうでしたか、喜国さんのマンガは、

全員　もっとやって欲しーい!　ずっとやってほしーい!!

KYOKO'S BEST 5 1990

最も印象的だった場面

○レコーディングでにつまって苦しんで朝車で帰る途中子供の頃以来見たことのなかったようなアーチ型の虹が出ていた。
○「パレードしようよ」ツアーの某会場のいくつか
○17日間ツアーで家に帰れなくて久しぶりに帰ったら25歳の誕生日のプレゼントがたくさん事務所から送られてきていた。
○ミシシッピー河のあの雰囲気
○８年前のメンバー５人の雑談みたいのを録音してあるテープをきいたこと

よくきいたアルバム

○BABY A GOGO／RCサクセション
○リフレッシュ／SAY BOW
○ベストオブブロンディ／ブロンディ
○ベスト／レッドツェッペリン
○ラバーズ／プリンセス[2]

よく飲んだ飲み物

○ジャワティー&ウーロン茶&午後の紅茶(緑のやつ)
○うめ酒
○杏露酒
○ピーチツリーフィズ
○りんごジュース100% プラス玄米酢（これでいつも健康）

好きな時間

○ライブ中ももちろんだが疲れているのでライブが終ったあとのグターッとしてる時間
○寝る前電話してる時間
○お休みの日（晴れだとベスト）
○車に乗っている時間
○メンバーや友達とうだうだしてる時間

好きなＴＶ番組

○知ってるつもり（関口宏は素晴らしい）
○わくわく動物ランド（関口宏は素晴らしい）
○邦ちゃんのやまだかつてないテレビ
○夢で逢えたら（ダウンタウンが好きだ。ブリブリも出た。嬉しい）
○元気がでるテレビ

かわいかったもの

○ムツゴロー王国の動物たち
○２歳になっためいのゆりちゃん
○あらいぐまのまりちゃん
○道でバッタリ出逢った犬たち
○水族館で見たイルカ、スナメリ

好きな出前

○かき玉うどん
○ピザ（パイナップルののってるの）
○オムライス（信濃町ソニーのスタジオにあるVEGAのやつ）
○広東めん

笑ったこと

○タヒチダイビング高網さん事件（内輪話）
○大昔の私たちのライブテープ
○THE LAST MOCHANTうた入れ
○佐藤くんのカラオケ（内輪話）
○人には言えない

失敗

○駅にバイクをとめてそのままヘルメットをとらずホームまで行ってしまった
○THE LAST MOCHANTうた入れ事件
○香んちの近所で車をすった
○太った
○これも人には言えない

希望すること５つ

○週休２日にして欲しい
○渋滞のない道路
○江の島にくじらとイルカが遊びに来るといい
○１日８時間寝たい
○犬を飼いたい

KAORI'S BEST5 1990

最も印象的だった場面

1アビーロードで世界中の人たちがビートルズに各国の言葉でメッセージを残しているのを見た時
特にジョンに対するメッセージで涙が出たのがあった。
2ある時ラジオで曲作りで少しにつまってるってポロッと言ったら、次の週ファンの人たちが山ほど手紙をくれて、みんなが「きっといい曲が書けるよ」「香ちゃんの曲は全部大好きだからきっと今度の曲も好きです。だから頑張ってね」「いい曲書けるように毎日祈ってます」などとはげましの言葉をもらって、なんかみんなに見守られているみたいで泣きそうになって頑張らなくちゃ!! と青春ちっくな気持ちになった。うれしすぎた。
3ある日、聞いていたテープのコードがどうしても知りたくって渋谷のある楽器屋さんに入って入口のピアノでコードをさがしていたら、奥で小学生の女の子がぎこちない指で、一生懸命「ダイアモンド」をひいているのを見た時、この曲を書けたことを、本当に心から感謝しました。
4タヒチの海でスキューバダイビングをやって水の世界を見たこと。
5仲井戸さんに会って話をしたこと

よくきいたアルバム

1ビーチズ/ベッド・ミドラー
2タペストリー/キャロル・キング
3レットラブ・ルール/レニークラビッツ
4オール　ザ・ベスト/ポールマッカートニー
5ベスト/ホール&オーツ

よく飲んだ飲み物

1バドワイザー
2コロナビール
3コーヒー（レコーディング中に1年分ぐらい飲んだ）
4ウーロン茶（食事にはつきもの）
5お水（ライブ中にいつも飲む）

好きな時間

1寝つく前のひと時
2レコーディング・スタジオに居る時間
2ライブ中の2時間
4デモテープをつくってる時間
（明るいおタクなんです）
5好きな人と一緒に居る時間

好きなＴＶ番組

1誘惑
2想い出にかわるまで
3卒業
（テレビをあんまり見ないのでわかりませんが……強いて言うなら）

かわいかったもの

1うちのボンちゃん（ネコ）
2うちのボンちゃん
3うちのボンちゃん
4うちのボンちゃん
5うちのボンちゃん

好きな出前

1冷やしたぬきそば
2ベガ（信濃町ソニーStの喫茶店）のドライカレー

笑ったこと

1〜5　1年中笑ってた

失敗

1ライブ中に歯が抜けたこと
2レコーディング中「THE LAST MOMENT」のエッチなかえ歌を㊙と㊡とディレクターが作って、それをあまりに真剣に歌ってハモリまでやってた自分が情なかった。
3TDの時トイレに行きたいのをガマンしながらミキサーに注文出したら「ギターが…」って言おうとして真剣な顔で「おしっこが……」と言ってしまったこと。
4リバプールの大聖堂でへをしてしまったこと。ザンゲしました。

最も印象的だった場面

1 全国ツアーでまわった各地のホールとファンの人たち
2 タヒチ、モーレア島の自然な美しさ 海や山や星座
3 20年ぶりに故郷に帰って幼なじみと遊んだこと
4 26歳のバースディにたくさんのプレゼントをいただいたこと
5 ムツゴロウ王国に行って動物たちと遊んだこと

よくきいたアルバム

1 CAN'T FLYGHT FATE／TAYLOR DAYNE
2 ラブバラード コレクション／IF WE HOLD ON TOGETHER
3 J-BOYS／ジャマイカボーイズ
4 BUT／フィルコリンズ
5 SAVE THE RHINO／RHINOCE-ROS

よく飲んだ飲み物

1 牛乳
2 ワイン
3 ジン（タンカレー）
4 オレンジジュース
5 ミロ

好きな時間

1 ボーッとしてる時
2 ライブの時
3 ライブが終わって部屋でのんびりくつろいでいる時
4 メンバーとバカ話をしてる時
5 風呂に入ってる時

好きなTV番組

1 想い出にかわるまで
2 誘惑
3 予備校生ブギ
4 ムツゴロウ王国の番組
5 EXテレビ

かわいかったもの

1 ピーコちゃん（小桜インコ）
2 ピーコちゃん（ともちゃんからもらったけど死んじゃったインコ）
3 兄の子供で賢一くん
4 歯のとれた香ちゃん
5 ムツゴロウ王国の狼犬のローラ

好きな出前

1 信ソ（CBSソニー信濃町St.）の喫茶VEGAのドライカレー
2 カレーライス
3 天ぷらうどん
4 みそラーメン
5 ハンバーグ弁当

笑ったこと

1 香ちゃんの日比谷野音でのハプニング
2「THE LAST MOMENT」の加茶ちゃんとキョンちゃんの作ったかえ歌
3 タヒチでの飲み会の場
4 ツアー中、スタッフとメンバーで遊んだ時
5 自分のボケ

ATSUKO'S BEST5 1990

失敗

1 ステージから降りて気付いたことだけど、ズボンのチャックが開いていたのだ
2～5 よくある言いまちがい

ショックな（残念な）できごと

1 ともちゃんからもらったインコが死んでしまったこと
2 日焼けによるシミが手にたくさんできてしまったこと
3 体力が衰えたこと
4 インドに今年こそ行きたかったけど、来年に延びてしまったこと
5 友達の結婚式に行けなかったこと

TOMOKO'S BEST5 1990

最も印象的だった場面

1全国無事にまわってこれたこと
われながらよく頑張ったと思う
2どこに行っても、みんなが待っていてくれたこと
うーん、ありがたい！
3アルバム『PRINCESS PRINCESS』のレコーディング
終わってホッとした
4ロンドン、パリに行ったこと
とっても親近感がもてた
5お誕生日にたくさんプレゼントをもらったこと
どうもありがとう、幸せ

よくきいたアルバム

○プリンセスプリンセス／LOVERS
○エマーソンレイク＆パーマー／タルカス
リハのモニター決めでよく使った
○シンニードオコナー／'90年に出たもの
すてきなお母様
○イエス／ソングス
車でよくきいた。やっぱりねぇカッコイイ
○フリードウッドマック／グレイテスト・ヒッツ
全曲とてもさらりとした感じのイイ曲ばかり

よく飲んだ飲み物

1天然パイン果汁100%ジュース
寝る前のどがかわいた時に
2天然オレンジ100%ジュース
毎朝飲んでいた
3ヨーグリーナ
ツアー中、とりあえず健康にもよさそうだし、味も好きだし
4はちみつレモン
ライブのステージドリンクはこれとポカリスウェット
5JAVAティ
ウーロン茶からこれに変わってしまった。おいしー

好きな時間

1コンサートをしてる時
ちがう人間になっている
2コンサートが終わった瞬間
ひと安心
3「さぁ寝よう」という時
しあわせ
4電話してる時
たのしい
5メンバーみんなと笑っている時
しあわせ

好きなTV番組

1京ふたり
NHK朝の連続テレビ小説、久しぶりに良い
2追跡
これがおもしろい
3ニュースステーション
9時……久米さんが何を言うか楽しみ
4衛星映画
良い映画をたくさんやっている
5EXTV
関西、東京、どちらバージョンも好き

かわいかったもの

1モップ
うちの小桜インコの子供
2パッチ
うちのセキセイインコの子供
3ピーコチャン
アッコちゃんちに行った小桜インコ
4キャンディ
ムツゴロウ王国のパグ犬
5ボンちゃん
香のうちの猫

好きな出前

1天ぷらうどんかたぬきうどん
とりあえずどこでも無難
2なべやきうどん
のびてもとりあえず食べれる
3冷やしたぬきうどん
食欲がなくても食べれる
4カレーライス
ご飯がムリなく食べれる
5みそラーメン
時々、むしょうに食べたくなるので

面白かったこと

1LIVE中の香のアクシデント
2㊍と㊎のつくったかえ歌
3タヒチのスキューバダイビング
スタッフの1人が沈んでるつもりでずっと浮いてたコト

失敗

1道をまちがえてとんでもないところに行ってしまった
勉強になった
2Uターンしようと思って、交番のある歩道に入ってしまった
笑ってごまかした
3休みあけのリハ
データ類全て持ってくるのを忘れたけど…なんとかした

好きなお酒

1ワイン
2日本酒
3桂花珍酒か杏露酒
4テキーラ
5カルアミルク

KANAKO'S BEST 5 1990

最も印象的だった場面

1 ステージ上から見た客席
楽しそうなお客さんの顔は何にもかえ難い
2 ローリングストーンズのコンサート
最高でした。涙出まくり。
3 レコード会社のパーティーでキースリチャーズが会場に入ってきた瞬間
…………♪♪♪
4 ロンドンの街並
古い建物とダブルデッカーバス。プライドを持った人たちが足早に通り過ぎる中、私もロンドンッ子の顔で歩いてました。
5 タヒチの砂浜
天国とはこういうとこなのかなあと思えた。

よくきいたアルバム

○クワイヤーボーイズ／a bit of what you fancy
○ローリングストーンズ
○モトリークルー／DR. FEEL GOOD
――他、いろいろたくさんきいた

よく飲んだ飲み物

1 ジャック・ダニエル
みなさんにたくさん頂いたので、いつもおいしく飲まさしてもらってます。ロックまたはストレートで飲んでます。ありがとう。
2 いいちこ&二階堂
バーボンがなくなると一升びんのしょーちゅーに突入。これもロックかストレートで。慣れるとおいしいし、すぐ酔えるし。
3 Beer
ツアー中は禁ビールをしてたから、ツアーが終わってから飲むとうまいうまい！ 日本のBeerのコマーシャルはすごくよくできてて、がまんするのはつらかった。
4 ウーロン茶
ごはんを食べるときに飲む

KANAKO'S BEST5 1990

5 紅茶
イギリスに行ってから紅茶をいつも飲んでる。絶対コーヒーより紅茶好き。

好きな時間

1 ステージの上にいる時
何よりもこれが最高です。
2 部屋でレコードをきいてる時
次から次にひっぱり出してききまくり大会。これがあれば無人島でも生きていける。
3 お酒を飲んで酔っ払った時
解放的な気分で調子が上がる。
4 人と音楽の話をしている時
好きなアーティストの話をしてると顔がにやける。
5 休みの前の日に寝る時
目覚ましをかけずに寝るのは幸せ

好きなTV番組

1 夢で逢えたら
面白すぎるのでいつも見ている。多分メンバーも見てただろう。私は"ガラガラ"が好きだった。
2 ダウンタウンのガキの使いやあらへんで
関西弁が好きだから、ダウンタウンは好きです。VIDEOにとって、面白いところはメンバーに見せた。
3 知ってるつもり
勉強になる。感動して涙を流すこともしばしば。"スタルヒン"の回は特に泣いた。山下清もよかった。
4 EXテレビ（上岡龍太郎さんの方）
上岡さんの話が大好きだ。
5 誘惑
ストーリーが超おもしろかった。女は恐い

かわいかったもの

1 合宿先のコテージに現れた人みしりする猫。しまいに慣れてくれた
2 ロンドンのレコード屋にいた犬
5分間ぐらいずっと私にお手をしてくれた。
3 合宿先のスタジオに現れた白い犬
「友達つれておいで」と言ったら本当に一匹つれてきた。
4 歯がとれた顔の香
5本ぐらい頭のセンが切れたような顔になってからかわいかった。
5 とある店にいるマリちゃんというあらい熊

好きな出前

1 天ぷらうどん
おつゆにひたひたになった衣が好きだ。中身のエビは残すこともある。
2 力うどん
おもちが大好きだから。
3 オムライス
レコーディングスタジオでいつも食べるオムライスは　すごく　うまい。
4 たぬきうどん
絶対にそばよりうどんが好きだ！ 特に関西風がいい。
5 天丼
「米くわにゃあかん！」と思った日食べる。

笑ったこと

○吉本のギャグ100連発の間寛平さんのさるもう何10回も見た
――他は面白すぎて下品すぎてとてもここには書けない。

失敗

1 タヒチでひもなし水着がめくれて胸を見られた。
2 下北沢で酔っ払ってサイフを落とした。
3 酔ってホテルで吐いた時洗面所にセンをしたまま吐いてしまった。(きょんちゃんが手を入れてセンをはずしてくれた)
4 来日したキースリチャーズにプレゼントをしなかったこと
5 ロンドンで日本語で喋りまくったこと。
「すいませーんからしください」や「THANK YOUごめんね」など。友人が大笑いした。

今欲しいものベスト5

○もう一度ロンドンに行ける時間
○ジョーン・ジェットとの対談取材
○飲んでも飲んでもなくならない魔法の酒樽
不思議なぐらいすぐお酒がなくなる
○パンク少年が着るような、えりの開いたセーター
なかなか売ってない
○皮ジャンの下に着るカッコいいTシャツか、タンクトップ。もうネタ切れ状態なのだ

PRINCESS^2 ROCK YOU !

●もう何も言いますまい。UNICORN さんが'90年に大暴れしたのは周知の事実。恒例広形東洋年鑑で振り返った。で。そんなイナゲなやつらの体のサイズと性格にちょっとメスを入れてみた。そしてっ。何よりも、"キメた顔しか載せないんだから〜パチ▶パチは"とお嘆きのメンバーに捧げましょう NG 写真の数々を。カレンダー付きでどおだっ。

撮影●三浦憲治　スタイリング●高由貴子　ヘアメイク●国沢拓　イラスト●原美恵子

UNIOORN：イナゲな嵐1990

なんていうか、人間がおおらかになったっていうか

テッシーといえば、泣く子も黙るユニコーンの御意見番、最近頭にくることは？
「交通道徳を守らない人が多すぎる！」
というくらいで、人に迷惑をかけるルール違反は容赦しないのだ。
そういう人だから、まわりのことに関しては特に神経細かい。
「まぁ、神経は細かいですね。人のことを考えますよね、とりあえずは、気使いますね、どうしても」
例えば、こんな話がある。
「みんなでワゴン車で移動してて、誰かがタバコを吸ったときに開けた窓がそのままになっているとすると、そういうときに、自分のことじゃなくても、『寒くないのかなぁ』とか、いろいろ考えてる。『なんで、俺は、人のことまで考えなきゃいけないんだ』って、思うんだけど、考えちゃう」
神経の細かさは、つまり、やさしさだ。
そして、自分のやさしさが通じないことがあると気になってしょうがない、という人でもある。
「言い方を変えると、あれですよ、どんなにカッコイイことを言っても、いまいちアカ抜けないところがあるですよ。いい意味でも悪い意味でも田舎もんだなぁっていうのがある。『今、ベイエリアが新しい』とか言われてるのを見てると『覚悟しとれよ〜って(笑)』カッコイイって感じに、なんか敵意があるみたい。(笑)よく言えばハングリー精神。でも、しょせん田舎もんたい(笑)」
笑ってばかりはいられない。世の中、大切なものを忘れて突走っているというところがある。「やさしさ」がカッコ悪く見える今日この頃だし、「強さ」も弱い者を守る本来の強さとは違う。自己中心的な強者の論理が、地上げのように大通りを支配する。だから、自分の価値観なんて、あとまわしになっている。こりゃ、ちょっと変だ。
「やっぱり、格好というのは人間が出るものですよ。漠然と、こうしたいなというのは、いつもあるけど、『人間がまだだからやめておこう』というのが、僕の場合はある。例えば、フェンダーのストラトキャスター。いくら子供の頃から憧れていたからって、お金があれば買えるという問題じゃない。フェンダーを買うってことは、ステータスなの。『ギタリストとして、ここまで来たら買おう』と思っていて、踏ん切りがつかなかった。それが、やっとこの間、1年前ぐらいかな、気合を入れて『買うぞー』と決めた」
どうだ、いい話じゃないか。同じ根性でも、必死で稼ぐ根性より、腕を磨く根性のほうが、根性がすわってる。
「憧れている分だけ、簡単に手が出せない。〝宝の持ち腐れ〟や〝豚に真珠〟はヤだ。最初は豚でも、『おっ、だんだん耳が小さくなってきたぞ！』とか、そういうふうになってきたらいいかもしれない。(笑)だいたい、演奏下手なのに、いい楽器を使ってるヤツ見ると『楽器に失礼だぞ！』って、言いたくなってくる」
そーだそーだと思っていると、正義の怒りが爆発しそうになってきた。御意見番とは、そういうもので、筋が通ってないことが大嫌いなのである。
「親父が、マッスグなものはマッスグっていう人だから。頑固親父とはちょっと違うんだけれど、例えば、ケンカに負けて帰ってきたら、家に入れてもらえなかったり」
厳しい。ちなみに、テッシーのお父さんの名は、星一徹と言う、わけないよな〜。
さて、そんな根性のギタリストは、気になることがあると、すぐ表情に出てしまう人でもある。で、デビューしたての頃、機嫌が悪いように思われて損をしたこともあったという。僕としては、そういう表情を見かけたことすらないので、ちょっと残念だ。
最近はないと言う。どうして？
「なんていうか、人間がおおらかになったっていうか。やっぱり、結婚したのも大きい。メンバーもそう言うけど、うちは、ほのぼのしているみたい。それだけに、外に出たらバカになれるっていう感じになってきたから、誤解されなくてすむようになった。だんだん、わかっていただけるようになってきた。あーよかった、よかった」
一言で言えば、頑固ということになるのだろうか。けれど、テッシーは、頑固と言われる自分の性格をよくわかっていて、あっさり「うん、頑固ですよ」と言う。そういう人が本当に頑固なのだろうか？　やっぱり頑固だな。(笑)といっても、こういうことだろう。〝わからず屋〟と〝頑固な人〟は違う。〝わからず屋〟は自分のことばっかりだが、頑固な人は、人のことを思うやさしさがあり、また、自分の筋も通そうとする。それが、テッシーの頑固。

文●高橋竜一

解剖

© Charlie

典型的な
テ　ッ　シ　ー

●外見的特徴——眉間の上にでっぱりがある。百万ドルの笑顔の保持者。花柄模様、マーブル模様などの、極端に派手なブラウスがよく似合い、これになぜかスティーブ・バイ・モデルのブーツを合わせるのが得意。「ブーツは生き物だからねぇ」と日々ブーツ磨きに余念がない。

●内面的特徴——頑固。言い出したら他人の話しをまったく聞かない。たとえそれがどんなに間違っていても、一直線。ヘンな理屈を語らせると夜が明けない。

オクダタミオ解剖

身長171
血液型？
頭のまわり58
首まわり35、5
肩幅45、5
胸囲90
手の長さ57
手首まわり15
ジーパンのサイズ：29
ひざ下43、5
ひとさし指の長さ8
足首まわり21
くつのサイズ：25、5

Ⓒ Charlie

〝真面目〟でですねぇ、〝気難しい〟って感じですね

かの〝ミュージック・マガジン〟誌において特集記事など組まれ、ここにきて音楽的評価の高まるユニコーンさん。その中核を成す奥田民生さんにおかれましては、さぞや誉れ高いことでありましょう。

ねぇ!?

「そーお！」

そーおじゃんっ。

「そうかなぁ!?」

謙虚なのか、単に鈍いのか、ワタクシにはわかりません。

「でもその魅力に昔から気づいていたウッシーはエラいです」

素晴らしいですねー。

「ウハハハハッ」

とかいって、まさかここまでやるとはワタクシシも思っていませんでした(笑)実際、常日頃の奥田民生さんの言動、または素行から、あのような磨かれた感性の楽曲が生まれるとは信じ難く、それこそ〝才能〟と呼ぶのかとハタと思ったりする次第。さて、そんな奥田民生さんの性格とは。

「僕の性格ですか？ 僕はですねぇ〝真面目〟でですねぇ、〝気難しい〟って感じですね」

シーン。

「ン？」

〝気難しい〟？

「ええ」

〝気難しい〟？（しつこい）

「僕はそう思いますけど、違いますか？」

ワタクシは本当に気難しい人というのを知っている。（それは岡村靖幸、そしてハリー、そして佐野元春）なので、奥田民生さんのことを気難しいと思ったことは一度もない。オのつく人や、ハのつく人や、サのつく人に較べれば、ネバー気難しくはありません。

「でもややこしいですよ。僕の血液型がもしAB型とするならばですよ、やっぱその二面性っていうのがあると思います」

なんの根拠もないところから、AB型論を引っぱり出すあたりも、奥田民生さんの簡単なところではありますまいか。

「やっぱねぇ、B型のテッシーやEBIクンの感じとですねぇ、A型の阿部の感じと両方持ってると思う。西川クンは僕は自分とはちゃうと思う」

著しく論理性に欠ける説明ではありますが、確かに「こうだっ」と言い切れるものは、ない。

「大体、気が小さいですからね。それはわかるでしょ？ 気が小さいのは」

というか、テレ屋ですね、極端に。

「そうそう。やることが人並み外れてないもんね。普通の行動するでしょ？ 基本が。MAGUMIのようにボコチン出すまでも行かないわけじゃないですか」

気持ちがあっても（ボコチン出したいというわけじゃないだろうが）行動に出ないのが奥田民生さん。それは〝気難しい〟というんじゃなくて〝内気〟というんだよーん。

「スパーッとは行けないところはねぇ、嫌いですよ、自分でも」

自分の性格、好きじゃない？

「うん。あんま好きじゃないです」

奥田民生さん、ワタクシが昔、若かりし頃にオノ・ヨーコさんに頂いたサインには〝あなたがあなたを好きでありますように〟と書かれていましたよ。なーんちゃって、でもパッと見はラクそうなんだがなぁ。いつでもボヨヨ〜ンとしてて。

「そんなバカな」（笑）

驚くほどのことかい!?

「そしたらアホじゃんけ、それ」

アホなのかもしれない。

「アンタねぇ!?（笑）そお〜れは、努めてそうやって、やっぱフロントマンとしてですねぇ、バンドのイメージっちゅうもんがあるからやってることで……」

と以下ごたくを並べるも「全然関係ない」と横から言い切るEBIクン。メンバーにも恵まれております。

「だからぁ、そういうふうな感じに僕もなりたいんでしょうけど、ラクなねぇ？ なりきれてないとこがやっぱ嫌ですね、自分では」

落ち込んだりしますか、さすがに。

「します。毎日ですもん」

ありゃりゃ。

「やっぱり自分ではちょっとくだらんことで悩んでいたりなんかしてですねぇ、こう……〝なんで生きてんのか、俺は〟って思ったりしますから」

世間の自分への風向きとは裏腹に、浮いたり沈んだりのファジーな（笑）アナタ。

「僕自身はだからなんにも変わってないっていう。ねぇ!?」

曲と人格は必ずしも一致せず、でしたー。

文●宇都宮美穂

典型的な タ ミ オ

●外見的特徴――口がデカい。まつげが長い。(山瀬まみに誉められて以来の自慢)ステューシーの帽子にジーンズ、NIKEのエアージョーダンがパターン化しつつあり、これは一歩間違うと渋カジになってしまう。

●内面的特徴――とりあえずエバる。しかしながら、内気ゆえのカラエバリだという説もあり。態度は常に曖昧に、核心を突くような発言はできるだけさける。地味ながらちょっとヘンな毎日を信条に生きている。

アベヨシハル

解剖

やっぱ、僕がいちばんだっ、と思ってますからね

さて、阿部君はいったい、どんな人なのでしょう。

「自己分析？　分析しようがないでしょう、もう。それは人に聞きたいよね、逆に」

何を根拠に〝分析しようがない〟と言っているかというと、ただ勿体ぶっているわけではなく、既にいろいろな雑誌でこういう企画を体験しているから、ということである。それでもやるのがPATi▼PATiなのだ。まだわからんか、と、編集担当の吉田さんが腰に手を当てて怒っている。だから〝自己分析〟を続けよう。

そもそも、ステージでは進んでおちゃらけまくり、笑いをとりに突っ走る、カンフー・キーボーディスト阿部君である。走り続けるその細い足首に、ちらりと引きずる影を垣間見ることもあったりして、彼のパブリックなイメージと現実とを、つい比べてみたくもなるのだけど。

「ギャップですか？　いやー、感じないですよ。感じないっていうか、……そういうふうにしようとしてる部分っていうのはありますよね」

曖昧な答えだ。

要するに、本当はギャップがあるけど、あると言ったら語弊があるし、ないって言ったらまるっきり脳天気だし、どうしようかな、なんか、いい答え方ないかしら、って感じなのかい、阿部君。

「あんまり、そういう部分を見せるのが嫌だっていうかねぇ、あんまり言いたくないですよ。そんなこと。で、ちょっとボーッとしてると、また、何かあるでしょ、とか言われるのも嫌だしね」

それは、いつも元気な人の宿命である。だからって、いつでも必要以上の元気を見せつけたりするのは、逆効果ではないのか、と他人事ながら心配している次第。

「でも明るいのは悪くないでしょ。ある程度バカ言ったりする方が、その場が盛り上がるし。それを言ったことによってバカにされても、印象に残ればいいし。別にかっこつけてもねぇ……。ウン。何にもしなくてもカッコイイEBI君、とかはいいけどね。(笑)そうもいかないですしねぇ。顔がヨッチャンの弟に似てるし。それか、おいしんぼ君(笑)」

確かに、似ている。素晴らしい自己分析だ。これほどまでに自分を客観的に見ることができて、自分の役割を把握しまくっている人もめずらしい。

いや、気をつけよう。このコメントも彼の策略かもしれない。こんなこと言って、女の子の母性本能くすぐろう、なんて思ってるんじゃないの!、本当は。

「もう、悲しいですよ。スーパーでひとりで買物してると、見つかって、阿部さん、料理作るの、って言われて、そうだよ、とか言ってさ。えー、本当は女の子に作らせるんでしょ、女いっぱいいるって知ってるよっ、って言われちゃうわけですよ。いいんですよ、それはそれで。言われても。そいで家に帰って、実際誰かがいて作ってくれるんならいいんですよ。だけどトントン……って、こう、自分で。(笑)……俺はなんなんだっ、っていう」

どうも女好き、というイメージがつきまとうらしく、彼は困っているようだった。あ、いや、全然困ってはいなかった。

困ってる、なんて思われるのがいちばん嫌なんだってさ。揺れ動く阿部君だ。

「気にしますんですよ、僕。(笑)気にしますんでごじゃるよ(笑)」

無邪気だったり、繊細だったり、わがままだったり、やさしかったり、強かったり、弱気だったり。いろいろな阿部君が、1時間のインタビューの中で、ぐるぐるまわっている。喋りながら眉毛がピクピク動くのが、おもしろいなぁ、と思った。

「自由にやってると思われたいから、本当は自己分析なんてしたくないんだよね。でも素直だから、何でも言っちゃうんですよ。損な性格なんですよ。でも、その性格が僕は好きなんですよ。これが。やっぱ、僕がいちばんだっ、と思ってますからね」

どんなに疲れていても打ち上げの2次会まで行く、という阿部君。そこに自分がいなくちゃ嫌なのだそうだ。カワイイことを言う人だ。バンドで演奏してて、いいフレーズを弾いたときに、相手がいい顔したら嬉しいのだそうだ。頼もしいじゃん。

そして、がむしゃらに、やっぱり今日も頑張る阿部君。

「がむしゃら……って、そういう言葉は嫌だっていうか。かっこよすぎるっていうか。だいたい、似合わないですから、そういうのは(笑)」

神経質がたまに傷。でも、阿部義晴の真価が問われるのはこれからだ。我らがアベチャンの行く道はどこまでも……。

文●森田恭子

身長171
血液型A
頭まわり57.5
首まわり33.5
肩幅46
胸囲81
手首まわり15
手の長さ55.5
ひとさし指の長さ8
ジーパンのサイズ：27
ひざ下43
足首まわり19.5
くつのサイズ：25.5

典型的なアベ

●外見的特徴――まゆげが太い。困ったときの顔がいちばん可愛い。ジャケットがいつもデカい。デフォルメされた、コミカルなデザインの洋服がよく似合う。いわゆる定番モノが全然似合わない。

●内面的特徴――几帳面だが、どこかで抜ける。若気のいたりの多い人。甘えん坊なので孤独を嫌う。嘘をついているつもりで全然つけておらず、逆にだまされやすい。結局はいちばん真面目な人かも。

最近は、EBI君は変わったとか言われてるんじゃない？（笑）

さて、EBI君はいったい、どんな人なのでしょう。

「……どうなのかなぁ、わからないなぁ」

と、思ったとおりのリアクションで彼は考え込んでいる。

「学生の頃はね、みんなにプレイボーイとか言われてね、そういうイメージがあったんですよ……」

おっと、今度は予想を裏切る答え。自ら"プレイボーイ"という言葉を持ち出すなんて、なかなか男らしい側面を忌憚なく見せてくれるものだ。

〈①EBI君は、屈託のない人である〉

では、実際は？

「そんなことはなくてねぇ、シャイで、奥手の人ですからね（笑）」

それなのに、あらぬ噂を立てられるのはやはり彼の外見が原因なのだろうか。

「今となっては結婚もしてるしね。子供もいるしね、ファンの人たちが抱いているイメージは、いいお兄さん、なんじゃないですか？　昔は、クールな人だなぁ、って思われてたみたいですよ。握手とか全然しないし、EBI君、とか呼ばれても無視してたんですよ。（笑）だから、あまり近づいてこなかった。なんか、自分でそういうイメージを作ってたんじゃないかなぁ。チャラチャラするの好きじゃないしね、もとから。普段からそんなことする必要ないなぁとか思ってたしね。だから、それは変わってきたかな。最近は、EBI君は変わったとか言われてるんじゃない？（笑）」

それは去年、例の大きなお世話フライデー事件があったあと、ファンの反応がとても温かかったことにある、と彼は断言する。

「嬉しかったんですよ。それでもやっぱりついてきてくれるファンっていうのは、大切にしたいし。……握手とかしちゃうしね、ファンを見る目が変わりましたね。あれ以来。すごい大事にしていかないとな、ってホント思いましたよ。百八十度変わったんじゃないかな。（笑）昔は気取ってたんですよ。髪立ててね、パンクっぽいかっこして、かっこつけてたんでしょうね」

〈②EBI君は、素直な人である〉

性格を分析するときに必要不可欠な方法として、血液型がある。信憑性はともかく、EBI君がB型という事実は変えられない。

「テッシーもBなんですよ。なんとなくテッシーの気持ちがわかったりする。（笑）あの人って、いろいろ細かいこと言ったりするけど、テッシーの言い分もわかるなぁと思う。B型ってね、たぶんすごい、人に勘違いされるとこってあるんですよね。そんなつもりないのに、誤解を招くタイプなんですよ。根本的には人が好きっていうか、淋しがりやっていうかね、そうだと思いますよ」

テッシーのことに置き換えて、自分のことを言っているようなEBI君。彼のB型的な部分はこんな発言からも伺える。

「争いごとは嫌いですね。平和主義者。でもバンドの中で意見が対立するときは、意見を言いますよ。……意見があったらね。（笑）どっちでもいいときは何も言わないです。だいたい西川君とタミオが言ってるでしょ。ウーン、どっちでもとれるし、どっちでもないなぁ、まぁ、ふたりでやってよ、みたいなね（笑）」

〈③EBI君は、臨機応変だ〉

それでは敢えて、EBI君の欠点を探してみよう。人間にはいいところと、そして必ずよくないところがあるものだ。それがたとえ、アナタのEBI君であってもだ。

「自分で嫌なところはね、あんまり……人の心に入ったりするのが苦手なことかな。深く付き合えないっていうか。それをもっとできたらいいなと思いますね。もっと相談に乗ってあげたりね。そういうのができる人だったらいいのに、って。人に頼られたりするのって、いいもんじゃないですか、やっぱり」

個性的なメンバーが揃うバンドの中にいて、穏やかに、けれどポジティブに存在を主張し続けるEBI君。若さに反して、どこか達観してる雰囲気があるのは、やはり人の親、というところでしょうか。いっそ思い切って、日本初の"パパドル"としてギョーカイに君臨するというのはどうだろう。ウソだよ。けれど今後の彼の動向が気になる。もっともっと新しい面を見せてもらいたい。ということで、まわりにいる人たちもEBI君が大好き、そんな現場からレポートをお届けしました。バハハーイ。

文●森田恭子

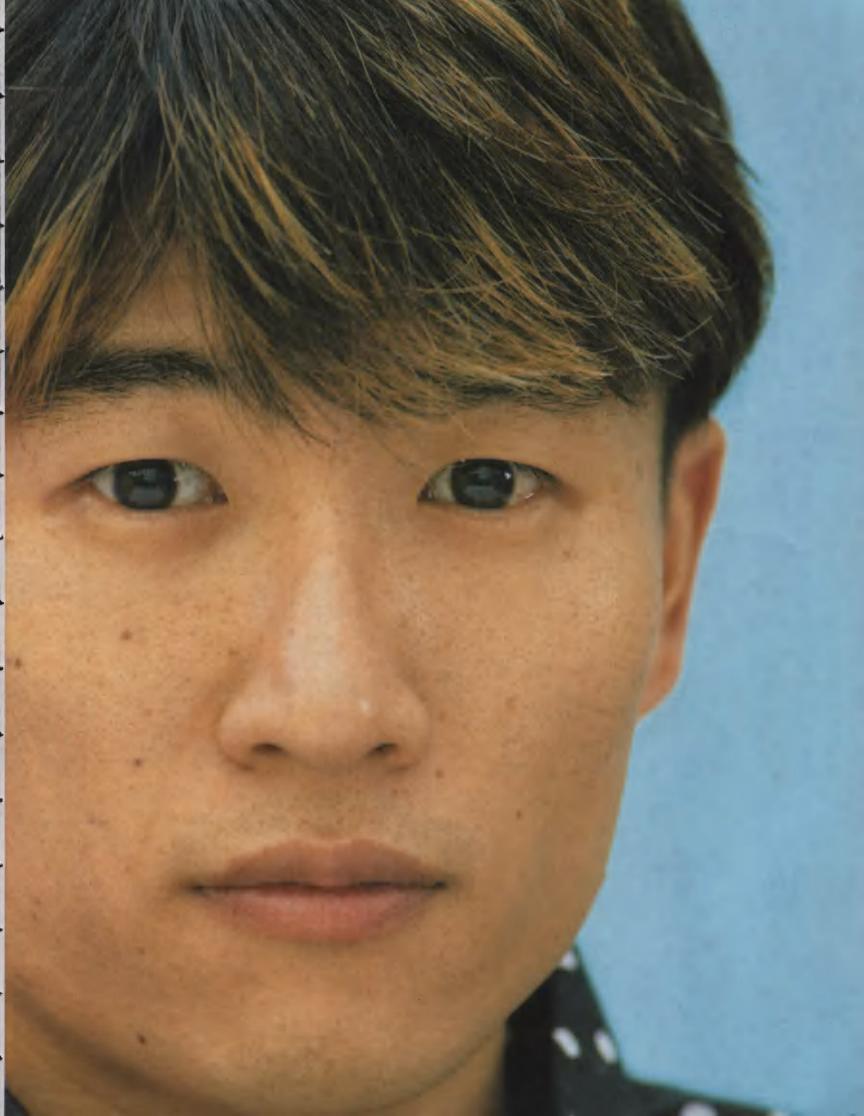
解剖

身長172
血液型B
頭のまわり54.5
首まわり34.5
肩幅41.5
胸囲93
手の長さ62
手首まわり14
ジーパンのサイズ：28
ひざ下44
ひとさし指の長さ8
足首まわり20.5
くつのサイズ25.25

© Charlie

典型的な EBI

●外見的特徴――絵に描いたモチのようなハンサム。オフィシャルでは口を閉じたまま笑う。髪の毛にはいつでも天使の輪っかが。ARBを追いかけていた頃のなごりで、今でもラバーソールが必須アイテムだ。

●内面的特徴――明るい。会話にズレがある。みんなが笑い終わった頃に、急に笑い出す。良い意味でも悪い意味でもマイ・ペース。ユニコーンで一番の変態という説もあるが、本人はまったく気がついていない。

ニシカワコウイチ

解剖

首まわり35
頭まわり57
肩幅48
身長173
血液型O
手の長さ56
胸囲91.5
手首まわり16
ひとさし指の長さ8
ジーパンのサイズ：30
ひざ下45
足首まわり23
くつのサイズ：27

© Charlie

典型的な
ニ　シ　カ　ワ

●外見的特徴——怒っていてもニコニコ顔。つぶらな瞳がチャームポイントだ。人間に年季が入っているので、ついついTシャツもツェッペリンやザ・フーなど、歴史的なミュージシャンのものに手を出しがち。NYで買った25万円の革ジャンがお気に入り。(そうは見えなくても)

●内面的特徴——リーダーのくせに話しをまぜ返すのが得意。31歳にしては、あまりに楽天的と大評判。週に1度広島へ帰るのが好き。

気分をハイにして落ち込まないようにして次にビシッと

西川クンはいつも笑ってるように見える。時には大魔神（昭和40年代生まれの大きい人）のようにコワイ顔もするんだろうけど、それは見たことがない。いつも微笑んでるカンジのエビ君が観音様だとしたら、彼は大仏に見える。もちろん大仏とは比べもんにならないプロポーションの持ち主。だけど、安定した表情というとこでは似てる。そこが不動の男、って風でもある。

「そりゃ、31年も生きてりゃもうあんまり変わらないよね。凝り固まりたくはないけど今さら〝ファッションに敏感〟とかなりたくもないし。(笑)ま、それはすごい表面的なことだけど、例えば他人に迎合することだってもう出来ない。ある程度人の意見も聞くけど、最終的には『オレはこうだ』って言うしね」

ファッション＝流行だとしたら、そこは無視してしまえる彼。でもファッション＝スタイルだとしたら、とてもスタイリッシュな奴だと思う。例の皮ジャン、皮パンの組み合わせにしても、生まれた時からそれを着込んでたぐらいにフィットしてるんだから。これはユニコーンのメンバー全員に共通することかもしれないけど、自分のことを良く分かっててそういう自分をコーディネイト出来る男、という言い方もできると思う。

ユニコーン。レコーディング、ツアー、取材…と、各々の親よりも一緒にいる時間の長い仲間である。そういう中にいて、他のメンバーのある部分がいつの間にか自分の一部になってた、ということはないのだろうか？

「オレらの場合、『アイツはこうなんだから』って分かってるでしょ？　だからメンバーから影響を受けるってことはないと思う。ただアベのね…あいつ、ステージで色んなことやるでしょ？　あの成りきり方は大切だなァって思うんですよ。アベも今24ぐらいでしょ？　だからハタチ位の奴からすれば、ふつう〝アベさん、あの歳でよくやるよ〟って言われてもおかしくない。そこをぜんぜん不思議に思わせないでやってのける所が素晴らしいよね。オレも彼がやってるようなことは心に留めときたいと思う。オレがやっちゃうとアベに失礼だし(笑)」

スネアを1つ体にくくりつけてステージを飛び回る西川クン。その姿を想像するとおかしい。けど本人は「そんなことが有りえないバンドでもないから」と、それなりの覚悟は決めてる模様。いざとなったらためらうことなくやる人だろうしネ、彼もまた。一方で「31歳」を口にしながら、他方で24歳のメンバーの数10倍のダジャレを連発する人でもあるのだから。音楽の世界で、低音から高音まで出せる幅のことをダイナミック・レンジという。西川クンの場合、精神的なダイナミック・レンジ㊅だと思うしネ。

ま、といったことは、ユニコーンの一員としてうかがい知ることの出来る西川像。それはバンド外、オフの時の彼とも一致してるんだろうか。

「多分、おんなじでしょうね。でも…どっちかというと、仕事してる時は弱い部分は見せないようにしてるかもしれない。たとえばオレが『31にもなってこんなことするのー』とか言ったりすると、みんなも『31になるとああなるのかしらん？』ってガックリするかもしれないし。そこは希望を与えとかないとね。(笑)ライブにしても〝今日は良くなかった〟と思う時もあるけど、そこは気分をハイにして落ち込まないようにして、次のライブでビシッと決める方向で。そこで皆んなも納得するハズだしね」

西川クンはバンド・マスターである。その彼がグラグラっときてしまっては、ユニコーンという世間様に申し訳が立たない。大仏スマイルをキープし続けながら、皮ジャンの奥に隠された胸の内では色んなことを考えてもいる、のかもしれない。そしてそれを〝考え〟だけにとどめとかないのがポジティブな所。考えて実行する、っていうのも勿論だけど、その都度考えは言葉になってったりもする。隠しごとはなし。言いたいことは全部言ってしまう。その言い方に笑いがある。絶妙に相手の言葉からトゲをぬぐってたりもする。そこがナイスな所でしょう。

「ウチはライブ終わって〝オマエ、あそこで間違っただろう〟とか言うバンドじゃない。全て1人ひとりに任せっきり。だから一見バラバラに見えるけど、自分のパートは自分で責任もってやってますからね。これってバンドがいちばん長く続いてくパターンかもしれない。思ってることは全部吐き出してるし。全部出してるとカリスマ性、ないんですけど(笑)」

文●今津甲

そらかぶりすぎや、かぶりすぎ。誰かわからへんやんかー。

わりとフツーなんですけど。

いちおうEBIに注目してみましょうか……

ポーズとりながら眠るアベ。

そして、EBIくんに注目しましょう、特にアゴのあたり…

1人やりすぎテッシー君。

さらに、EBIくんに注目してみましょう、特に目と口です。

顔が横に広いよテッシー君。

寝るなって。おデコの特徴がステキ。

なんだか変だよテッシー君。

やっぱしEBIくんがポイントかと思われます。

顔をつっこんでるテッシーが何か妙。

サラリーマンのかっこうだっつーのにブーツがトカゲなの。

だからEBIくんが──

だから撮影中なんですけど西川くん。何もそんなに熱弁…

カワイイんだけどねェ……

そんなわけでここでも御活躍のEBIくんでした──っ。

そこまで魚眼レンズな顔にならいでも。

N.G! N.G! N.G! N.G! N.G! N.G! N.G!

"リー!"という声で自動的にこの顔。

友情出演① スターな男、"$2000ならOKよ"を抱くの図

友情出演②。ボサノバ父さん、人ん家へ。

オクダくんイッてます。危いです。テッシー、盗み見です。

こーゆー顔も、実は得意。

手のポーズ、足の開き方、目線。すばらし過ぎるEBI様。

EBI、アベのからみ刺激的。

テッシーだけがおちょぼ口。

EBIさ―――ん。おーい。

みんななんとなくダレてる。

NYにおける日本人スマイルとピース。なぜか暗いアベ君。

遂に歯を出して笑ってしまったEBI。

ジャパニーズビジネスマンオクダ。しかし注目はテッシー。

じっと手を見つめるイサム。

だからEBI様、他の人とノリが違うんですってばあ!

なんかムーミン谷に住んでる人みたい。

1人ポーズをとるアベくん。その瞳は何を見つめるのか!?

やっぱりあやしい2人です。

だからEBI様、そこまでノッてくれると嬉しい反面……

広形東洋年鑑

文●ウッツー宇都宮　写真●オギソタケオ
三浦憲治、山内順仁、三浦麻旅子、一色仁

●「働く男」なんつー曲を発表してしまったばっかりに、この1年、働かさるを得なかったUNICORNさんであります。それをいいことにレコード会社もイベンターさんも雑誌社もTV局も、そしてもちろん事務所（CSA.／）も働かせまくった感がありますが、まーファンにとってはいっぱい会う機会があってウンザ……ちがう、嬉しかったもんだった。

3枚ならOKよ！

●1990年のユニコーンさんは、なんとアルバムを10、11、12月と3ケ月たて続けにリリースするという快挙を成し遂げられました。実は『ケダモノの嵐』に収めるつもりの曲が余っただけという説や、続く『おどる亀ヤプシ』『パヴァナイスデー』はやはりオマケのニュアンスが色濃いという説や、様々な憶測があるにはありますが、それでも結局3枚出したというのがスゴイ。

ワタクシは日頃、このバンド・ブームにあって、ライブは好きでもレコーディングは好きじゃないみたいという、パフォーマンスとして評価が出来ても、クリエイターとして評価の出来ないバンドの多さが日本のロックの底の浅さ、または弱点と思っていたので、このユニコーンさんの暴挙はひたすら感動。音楽の基本は創ることであり、そのあとに鳴らすという行為が生まれるわけですからねい。

と、まぁ、今年のユニコーンさんはピカいちエラかった。音楽的評価も増々高まり、いよいよ来年はロックの殿堂入りか!? と思いきや、解散説、EBIクン内閣発足説と、これまた様々な憶測が飛びかっている今日この頃なのだった。

BALIにはアベBとタミオくんのみが行った。いにしえのクサイモン＆ワキガーファンクルのおかげだ。

テッシーの結婚式を兼ねたツアーの打ち上げ（笑）で訪れたグアム島。海に繰り出したりして珍しくサワヤカ。

グアム BALI 香港 沖縄

フジテレビさんのおかげで香港へ。2泊3日をそれなりに楽しんでNIKEも4足／

「沖縄はマイヘブンカントリーよ／」と大ゲサな原田公一が言っていたが、ロックンロールニューズメーカーのイベントで訪れた沖縄にはメンバーも一目ぼれ。日本にもあんないいところがあることに大感激。

●1990年のユニコーンさんは、海外渡行を数多くこなされました。3月、テッシーの結婚式を兼ねてグアム島へ、5月、奥田民生さんとアベ・リーさんでNT21の特番のためにバリ島へ、8月、R&Rニューズメイカー誌のイベントで沖縄へ、9月、レコーディングのためにNYへ、10月、フジテレビ〝夢で逢えたら〟の録画のために香港へ。

ま、沖縄を海外とするのは問題多いかと思われますが、それにしても忙しいスケジュールのなか、よくぞこれだけ行ったもんだった。そして、すべて仕事を兼ねての遊びというのが実に憎らしい。

グァム島ではしゃぎ、バリ島で笑って、沖縄で酔っ払い、NYで暴れ、香港で買い物する。ミュージシャンっていいよねぇーと、つくづくワタクシは思う。思いながら、来年も負けないぞーーと、海外脱出率を競おうとするあたり。

そういえばこの間、某PeeWee誌を見ていたら〝ユニコーンとロスへ行こうツアー〟が企画されていた。敵はすでに来年の旅行も着々と準備中だ。こうしてはいられない。ワタクシもなんとかどこかの旅を計画せねば。

家に1冊 よい子の「イナゲ」

UNICORN INAGE イナゲ

●1990年のユニコーンさんは、とても豪華な、そしてとても立派な単行本を出されました。そのとても豪華な、そしてとても立派な単行本のタイトルは『イナゲ』。4月27日に書店に並び、翌週にはヒット・チャートの3位に躍り出た人気本であります。

総天然色で綴られたこの単行本は、今やユニコーン界でこの本を持っていない人には著者から不幸の手紙が届くことで大評判。万が一、今この記事を読んでいるアナタのお手元に『イナゲ』がない場合、早速明日にでも書店に駆け込んで頂きたい。『イナゲ』を持たずして、ユニコーンを語るべからず、というわけです。

しかしながら、著者のワタクシが言うのもなんですが、『イナゲ』はそう大した本でもございません。派手なのは色だけで、中味はちょっと地味かもね。今考れば、あーすればよかった、あーしなければよかったと反省と後悔がうず巻くことしきり。このふがいなさから脱出するには、そうだ！ 来年も単行本を出せばいいんだ！ なんちゃって、ダメ？ ダメだそうです。やっぱり『イナゲ』を買いなさい。

しまった!! イベント最多出場だっ！

●1990年のユニコーンさんは、今夏のイベント最多出場を誇られました。実際はそんなことになろうとは思ってもおらず、中堅バンドにふさわしく数を減らしてシブいところを見せるはずだったのが、なんと同年期のバンド、レピッシュは不参加表明、J(S)Wもたった4本という少なさ。あげく最多出場バンドに輝くという、この情けなさはなんなのでしょう。

泣き笑いの顔で奥田民生さんはこうおっしゃった。

「こうなったら来年も最多出場を目指しますよ。人気がなくなっても出続ける！」

そんなこんなで、夏の間、全国津々浦々、イベントに嵐を巻き起こしたユニコーンさん。奥田民生さんのサッカーのユニフォームもすっかりおなじみになり、シュートを決める姿は鮮やかですらありました。(ウソ)

また、中堅バンドらしく、トリを務めた場所も何本かあり、ユニコーンさんのいまいち地味な楽曲で、ムリヤリ盛り上がろうとする観客の姿が涙を誘ったシーンもありました。

来年も最多出場なるか!? もはやイベントに行く気のないワタクシは東京よりエールを送ろう。

名古屋のイベントにて。金のシャチホコに敬意を表し金のサッカーボールをけった奥田くん。けどその左手は何？

NYでレコーディングしたもんだった

●1990年のユニコーンさんは、初の海外レコーディングをなされました。場所はNY。『おどる亀ヤプシ』を、かのジミ・ヘンドリックスが作ったサイケデリックなエレクトリック・レディ・スタジオでTDし、続く『ハヴァナイスデー』を、かのラモーンズやルー・リードが使用するR&Rスタジオとして有名なソーサラー・スタジオでレコーディング。遠く異国で厳しくもテンション高い作業がされていたかと思いきや、和気アイアイ、または淡々と日々が過ぎ去っていったのであります。

取材と称して、完全な観光ノリで同行したワタクシ、および吉田さんは、毎日スタジオにちょっとだけ寄ってあとはタラタラ遊んで、ヒジョーに楽しい思い出ばかりです。それなので現場の様子にいまいちうといのも事実。

さて、そのミキシングを行ったのがジョー・ブレイニー。プリンス、キース・リチャーズ等々の大物を手掛ける彼がなぜユニコーンさんの作品を手掛けたのか、その謎は未だ解けておりませんが、彼とのコミュニケーションにプロブレムを感じた奥田民生さんは、来年は英会話を習う決意。健闘を祈りましょう。

撮影のためにウロつき回ったNYC。天気が良くて暑かった。

夢で逢えたらはお友達

●1990年のユニコーンさんは、フジテレビ〝夢で逢えたら〟の最多出場ロックバンドでありました。というのも、3月末より「働く男」がメイン・テーマに、11月より「スターな男」がメイン・テーマになり、モハヤ牛耳っていると言っても過言ではありません。おかげさまで毎週ユニコーンさんの姿が拝めるばかりか、ときにはバッハ・スタジオに出演し、あげくコントまでやるユニコーンさんが拝めてしまいました。

そういうワタクシは、実は「働く男」のメイン・テーマでのユニコーンさんしか見たことがありませんので、以下にそれを確かに見た人として稲田[illegible]のレポートをお届けします。

確かに見たのは『ケダモノの嵐』発売前後のことであります。不思議と髪を切ったハズの奥田さんの頭には未だに58本のアレが揺れていた……。

まず1週目はダウンタウンの浜ちゃんに「この番組はユニコーンに貢献してる」と恩を着せられつつ「働く男」を演奏。2週目は奥[illegible]さんの司会で逆にゲスト〝夢で逢えたらバンド〟を迎え「働く男」でない曲を演奏して頂くという変則パターン。(正式バンド名、[illegible]名忘れる) 2週ともエラく楽しげな姿が拝めました。

UNICORN界 めでたく 2人めのパパ誕生

●1990年のユニコーンさんは、EBIクン宅に続き、西川クン宅に2世が誕生。(といっても、この原稿を書いている時点ではまだお腹の中にいる) 男の子でしょーか、女の子でしょーか。ワタクシは女の子という気がしてならない。

さて、家庭円満、仕事順調。ニコニコ顔の西川クンでありますが、そのニコニコは今に始まったことではなかった。そのあたりに詳しい奥田民生さんに語って頂きましょう。

「西川クンの結婚式にはねぇ、俺[illegible]たよ。俺と阿部とで。軽井沢ですからねぇ、なんといっても。かっちょよかったですよ。んでねぇ、西川クンニコニコ、ニコニコしてるんですよ、入場してくるとき。髪の毛を降ろしてね。一応こうなんか、照れ隠しにね? 彼なりにその〝ロッカーが結婚するときはどういう結婚式をするのがいちばんいいのか〟を考えたあげく、終始にこやかにするのがいいと思ったんだよ、っていうか、思ったんでしょうねぇ。ニコニコ、ニコニコしてましたよ、なんか知らないけど。(笑) んで、〝誓いまぁす〟とか言ってたよ。(笑)」

というわけで、お子様の誕生も、オメデトーゴザイマス。

熱くるしいのはお好き?

撮影中に5回くらい髪を切って板前に。

三つ編みくん。どーやって洗ってたの?

90年初め。ソバージュ。あげく太ってた。

ほとんど5分刈り。本人は気に入ってる。

ただの浪人生みたいな青い山脈カット。

ヒゲ。レコーディング中のばしていた。

おデコを上げて後ろを少し切る。天パー。

トレッドをほーふつさせる細かいパーマ。

●1990年のユニコーンさんは、もとい、奥田民生さんは、次から次へとヘアースタイルを変えられました。んーと、どんなヘアースタイルしてたんだっけかぁ!? こういう原稿を書きながらいっこうに思い出せないワタクシ。

①単にズルズル伸びたロングヘアー。ヒゲ付きだっけか!?
②三ッ編みクン。
③青い山脈カット。
④キューピーさん天然パーマ。
⑤チータのオジサン。

こんなもんでしょーか。若い読者の皆さんは、不潔という理由でロングヘアー、またはヒゲなどを忌み嫌われるそうですが、若くないワタクシは、ロングヘアーが大好きです。ヒゲもどうでもいい。なんたって奥田民生さんが伸ばしたのも、そったのも、どっちも気がついてなかったっていうくらいで。

どうせ他人の髪なんだからどうでもいいじゃないかと思いますが、今のチータのオジサンはなかなかステキですね。いよいよ体育会系のノリが出てきて、ちっともアーティスティックじゃないところがポイントでありましょう。若返りにも成功したしねっ。

UNiCORN

1991 CALENDAR

PATi ･PATi STYLE

JANUARY	FEBRUARY	MARCH	APRIL	MAY	JUNE
1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9
10	10	10	10	10	10
11	11	11	11	11	11
12	12	12	12	12	12
13	13	13	13	13	13
14	14	14	14	14	14
15	15	15	15	15	15
16	16	16	16	16	16
17	17	17	17	17	17
18	18	18	18	18	18
19	19	19	19	19	19
20	20	20	20	20	20
21	21	21	21	21	21
22	22	22	22	22	22
23	23	23	23	23	23
24	24	24	24	24	24
25	25	25	25	25	25
26	26	26	26	26	26
27	27	27	27	27	27
28	28	28	28	28	28
29		29	29	29	29
30		30	30	30	30
31		31		31	

January

Let's walk with our heads up. 'Cos there's no good in walking heads down.

JANUARY 1991

TU	WE	TH	FR	SA	SU	MO	TU	WE	TH	FR	SA	SU	MO	TU	WE	TH
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17

FR	SA	SU	MO	TU	WE	TH	FR	SA	SU	MO	TU	WE	TH
18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31

FEBRUARY

If Abe-B died, but his craving for sex lives.

FEBRUARY 1991

1 FRI 2 SAT 3 SUN 4 MON 5 TUE 6 WED 7 THU 8 FRI 9 SAT 10 SUN 11 MON 12 TUE 13 WED 14 THU 15 FRI 16 SAT

17 SUN 18 MON 19 TUE 20 WED 21 THU 22 FRI 23 SAT 24 SUN 25 MON 26 TUE 27 WED 28 THU

MARCH

This is the person who plays drums with a smile on his face.

MARCH 1991

1 FRI 2 SAT 3 SUN 4 MON 5 TUE 6 WED 7 THU 8 FRI 9 SAT 10 SUN 11 MON 12 TUE 13 WED 14 THU 15 FRI 16 SAT 17 SUN

18 MON 19 TUE 20 WED 21 THU 22 FRI 23 SAT 24 SUN 25 MON 26 TUE 27 WED 28 THU 29 FRI 30 SAT 31 SUN

april

Who did shit at Holland Village!?

APRIL 1991

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17

THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE
18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30

MAY

Such a happy-go-lucky, but he's the father of a family.

MAY 1991

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17

18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

JUNE

Like rainbow, Unicorn will disappear one day.

JUNE 1991

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON

18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN

AUGUST

Whether dressed or not, animal is an animal.

AUG

AUGUST 1991

THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31

SEPTEMBER

Work is beauty.

SEPTEMBER

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17

18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

OCTOBER

We love you Tessy, so smile !

10 OCT

OCTOBER 1991

1 TUE 2 WED 3 THU 4 FRI 5 SAT 6 SUN 7 MON 8 TUE 9 WED 10 THU 11 FRI 12 SAT 13 SUN 14 MON 15 TUE 16 WED 17 THU

18 FRI 19 SAT 20 SUN 21 MON 22 TUE 23 WED 24 THU 25 FRI 26 SAT 27 SUN 28 MON 29 TUE 30 WED 31 THU

NOVEMBER

Devils with angelic face.

NOVEMBER 1991

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN

18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT

dECEMbEr

Who's the leader of 1992?

dECEMbEr 1991

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17

18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

UNICORN

1991 CALENDAR

Misato

●アルバム『tokyo』の発表。そして5回目を数える西武球場でのライブと、「tokyo」ツアー。『tokyo』の中でより複雑になり、深みを増した彼女を声の表情は、ライブではどんなふうに表現されているのだろうか。目を見張るような演出が次々と飛び出して、息つく暇も与えないようなそのステージの上で。NKホールのライブレポートです。

撮影●山内順仁　文●宇都宮美穂

MISATO
24

misato
MISATO WATANABE
LIVE in TOKYO 1990
12. AUG SEIBU STUDIUM

misato
MISATO WATANABE
LIVE in TOKYO 1990
LIVE in TOKYO 1990
12.NOV NK HALL

12.NOV NK HALL

コンセプトが明確で、イマジネーションが豊かなステージ

京葉線の古びた電車でガタンゴトンと揺られながら、車窓に映るディズニー・ランドのシルエットを見ていた。真っ暗な闇夜にそこだけが浮かびあがる金色のネオン。隣りに座っていたカップルの男の子は、疲れたのかぐっすり眠っていた。じっとディズニーランドを見ていた女の子は、振り向いて男の子に「ねぇ、やっぱりディズニーランドってきれいだね」と話しかけ、「あ、ごめん見過ごした」とそっけない返事をもらった。気まずい空気。

いつでも同じ夢が見れるわけではない。同じ場所にいても同じところに気持ちがあるわけではない。ほんのすれ違いがそれまでのことをかき消すのなら――恋人たちはいつも緊張していなくてはいけない。

明らかに、そのディズニーランドを意識して作ったと思われる東京ベイNKホール。ロックのコンサートをやるには、ロマンチックに過ぎる建て物だ。今年の夏、5回目の西武球場での渡辺美里のコンサートを思い出した。あの大自然の中でのコンサート、山があって、空があって、風があって、星があるコンサート。人間の手では作り得ない自然による環境が、彼女の野性を引き出していた。実際、強い風が彼女の声をさらい、いつ降るかもしれない雨が、彼女の心を揺さぶっていた。そうした力に抗うように歌っていた彼女の姿を、今日この会場にあてはめるのは私にはちょっとむづかしい。

客電が落ちる。と、目の前のスクリーンにローマ数字が刻まれた巨大な時計が映し出される。ぐるぐる廻る時計の針。行ったり来たりする時計の振り子。そして現れた時計の持ち主であるウサギ。不思議の国のアリスの中での役割りと同様、今日の時間を支配するのが、このウサギだ。この思わせぶりなイントロは何の意味があるのだろうと思う間もなく、ステージ中央にアリス（つまり渡辺美里）が立っていた。

「すき」から始める潔さ、この1曲に込められた隠せない気持ちが彼女らしい。堂々と両手を広げたのは、今のこの瞬間、この空気を思いきり抱きしめたかったからか。いつも彼女のコンサートを見て思うのは、この歌うことに対する照れのなさ、あるいは歌う相手に対する百パーセントの開放だ。この屈託のなさがファンを魅きつけたと言ってもいいだろう。続く「MY Revolution」は、およそ5年前の作品で、彼女が19歳のときから歌われてきた曲だが、誕生したその日から、もう照らいのない、素のままの渡辺美里で歌われていた。その詞の世界に自分自身を投影し、励まして、拳を上げる観客。このような反応も、彼女を評価するのに〝青春の応援歌〟といった言葉が使われたりするからかもしれない。

が、本来の彼女（といっても取材で見せる表情や発言に限られるが）は、青春を応援するには、繊細すぎる。わずかなねじれや、小さなヒビを感じさせる、体育会系では決してないという印象だ。その人が、歌う行為、また歌う場所においてのみ、自分を開けるからすごいと私は思う。もしも、彼女自身が根っから明るく、なんのひずみもない人であったなら、彼女の歌の世界はもっと浅いものになっていただろう。彼女が歌いながら自分を開放すればするほど、反対に固く閉じた部分も感じ、私自身はそこに魅かれる。

「10 Years」を歌い終えると、暗闇に包まれるステージ。再びウサギが現れて、ボールを使ってのパントマイムだ。非常にビジュアライズされた今回のステージは、ショウとして構築されているだけでなく、歌の意味やステージの意図を伝えるのに大きな役割を果たしているが、反面、頭を空白にして自分勝手なイメージを作る効果もある。どちらを選ぶかは受け手の自由。私にとっては西武球場での渡辺美里を遠くへ置いて、新しい彼女を受け入れるのに、このブリッジが役立った。

「悲しいね」そして「跳べ模型ヒコーキ」。彼女の一連の作品の中で異彩を放つ2曲だ。パキッとした極立ったカラーはここにはなく、曖昧に滲む不思議に美しい曲。色でいうなら深いブルーを想像させ、聞いていると自分も溶けてどこかへ流れていきそうだ。いつか私は、彼女に「優しいR&Bを歌って下さい」と頼んだことがあるが、こうした曲での彼女の歌、というより声は静かでありながら威厳があり、冷たいのに優しい。

ステージの両端にいつの間にか浮かび上がった黄色い月。「ムーンライトダンス」が始まって、月に女性のシルエットが。その動きと、彼女の動きが見事に同調して、曲のインパクトをより強める。

コンセプトが明確でありながら、イマジネーション豊かなステージ。むき出しのままの彼女はここにはいないが、数々のオシャレで、チャーミングなヒントを投げ出しながら、歌の本質を見せていく。ともすれば何度となく聞いていくうちに、同じイメージばかり持ってしまう曲を、壊体して新たに見せるという手法だ。先の「ムーンライトダンス」など、その顕著な例で、今回のステージで一段と大人びた、精神性の高い曲に聞こえた。

ウエイトレスが二人、ウエイターが一人、ダンス・パフォーマンスで、ダークになったステージを一転、コミカルな世界を創り出す。曲は「ナイフとフォーク」。ハウス、あるいはゴダールの映画のように、場面がどんどん変わる。この曲のスピードと難解さが私は好きだ。渡辺美里の曲の中ではいちばんシュールで、いちばんやんちゃな曲ではないだろうか。そのテンションをそのまま引き継いで「POSITIVE DANCE」ファンクの要素が色濃いこの曲を、どんなふうに表現するのかが楽しみのひとつであったが、なんと群舞で見せることに重点を置いた。黒のタイトな衣装に身を包み、彼女が中心となってダンサー達を引っぱる。かなり激しいダンスで、これまで歌うことのみに焦点を合わせてきた彼女のステージを考えると、大きな変化だ。そして「TOKYO」。

ステージ中央に浮かんだ地球が燃えて真っ赤に染まる。ツアー・タイトルがそのまま「TOKYO」だったことを考えると、これまでのストーリーが読めてくる。時間とスピード、マテリアルと心。大仕掛けなビジュアルを絡めることで浮きぼりにされたキーワードが、一瞬に合致する瞬間だった。

「パイナップル・ロマンス」からは、彼女の王道的世界。パワフルで、ポジティブでエネルギッシュ。「恋するパンクス」では大きな風船がいくつも落ちてきて、それが客席を渡って歩く。さらに本編のラスト曲「Boys Kiss Girls」ではシャボン玉がステージを埋めつくし、オモチャ箱をひっくり返したような騒ぎになった。

アンコールまで、スクリーンにはそれまでのステージでのシーンが次々映る。そして、ウサギが追いかける時間。それを見ながら、私は彼女がこんなステージを創るに至った5年間と、電車の中で逢った恋人達のことを考える。東京には夢があふれすぎているから、本当の夢を一緒に見るには時間が必要だ、と。

夢（ワンダーランド）の中でもうたっているというあなたが、現実の世界で見せてくれる夢（ワンダーランド）。迷い込みたい。ずっと探してるから。

APOLLO

1990のAPOLLO

SENRI ØE

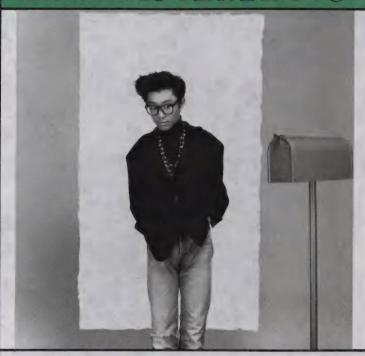
●'90年もまた、いやもしかしたら例年よりさらに激しく動いていた千里くん。にもかかわらず1度も休むことなくPATi▸PATiに登場し続けてくれた千里くん。今回で5度めになります。その12の記録をここで一気にたどるのは――

撮影●小木曽威夫　文●天辰保文　スタイリング●宮沢真紀

MAR. '90 往復書簡

大貫妙子から大江千里へ

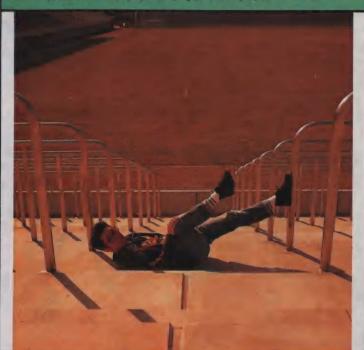
魅力的な人たちの往復書簡その①

往復書簡

●千里くんと大貫妙子さん。どちらもオリジナリティーあふれる作品を生み出し、独特の世界を持ち活動しているアーティスト。『red monkey yellow fish』でコーラスに参加していたり、ステージにゲストで出たり、というような交流もある大貫妙子さんの千里くんへの手紙が3月号の記事でした。流れるような文章の中に、透明感のある世界が広がっていくような手紙。撮影では、便せんをイメージしたペーパーをバックに、NYで買ってきたジャケットに珍しくジャラジャラしたアクセサリー、斜めに立てた髪という新鮮な千里くんの姿がカメラに収められました。

DATE '90・1・12　PLACE 六本木スタジオ
PHOTO 岩岡吾郎　COPY 大貫妙子

FEB. '90 Period

新しい時代のうねりに向かって

period

●時代や社会の動きを常に敏感に感じとり、曲や詞にさまざまな形で反映させている千里くん。彼は90年代の幕明けにどんなことを考え、実現させていこうとしているのか、90年代という時代をテーマにインタビュー。インタビューの中で偶然にもアポロに乗って月に行った飛行士たちが撮った地球の写真の写真集の話が出ました。その写真を見ていると、「スコーンと抜けてきてね。……プラス発想で事に当たろう、みたいな。……ああいうのに会えたってことも大きいですね」とのこと。"体を鍛えたい"ということにちなんで撮影は秩父宮ラグビー場にて行われました。

DATE '89・12・3　PLACE 秩父宮ラグビー場
PHOTO おおくぼひさこ　COPY 野口顕

——この1年は、本当にいろんなことをやられて、大変忙しい1年だったような気がしますが、まず、順追って振り返っていただけると、嬉しいんですが。

「『red monkey yellow fish』ツアーの前半で、激しめのビートのやつを組み込んでたんですが、旭川くらいだったかな、暮れも押し迫った頃に、息切れしだして、こりゃ、やばいなと思ったんです。腰から下の部分にちゃんと重心がきて、それでいて軽く歌えるような状態ではなくなっていた。そこで、プールに通うとか、腕立て伏せをやるとか、縄跳びをやるとか、そういう方法もあったけど、手っ取り早く気分を変えたかったから、とりあえず、12月24日に横浜文化体育館のコンサートを終えて、その足でニューヨークに飛んだ。ぼくにとって、ニューヨークは初めての街でしたが、そういう気がしなかったのも、不思議でしたね。そうやって、ニューヨークのディスコで踊っているうちに89年が終わって、90年が始まった。雪が降ってましたね」

——じゃあ、かなり印象的な年開けだった訳ですね。

「ええ、寒くってね。(笑) 指がかじかんで、公衆電話もかけれないくらいでした。だけど、朝起きては美術館行ったり、散歩したり、エスニック料理を食べたり、夜は夜で、ディスコに繰り出したり、ブロードウェイでミュージカルを見たり、深夜、アーティストがウロウロしているようなカフェに入り浸ったり、1日が48時間に思えるくらいフルに使いましたね (笑)」

——1年のスタートとしては、身体の中に何かポーンと投げ込まれた感じで、新鮮なスタートが飾れた訳ですね。

「ええ。それまで、放出するばかりでしたからね。吸収する時間がなかった。もちろ

MAY. '90 "red monkey yellow fish" tour

73本の日常を非日常のテンションで

redmonkey yellowfish tour

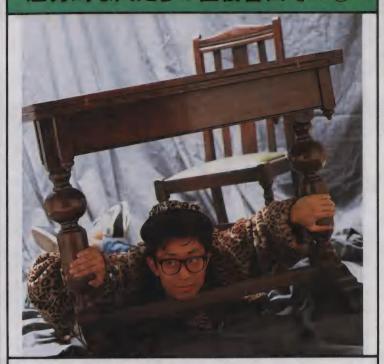
●73本という長い長いツアー。その61本め、大阪厚生年金会館でのステージをレポートし、翌日インタビューが行われました。何度も衣装を着替えるのはもちろんのこと、セットの大がかりな動きに合わせ、跳び、踊る。キメが多いそのステージに、「毎日が初日」という気持ちで臨んでいる千里くん。「その日に持っている自分のテンションの最高点があって、ステージではどうするとその最高点の1歩上、1歩先に行けるのかってやってる」。"ここはお客さんとステージの距離を感じ易い所だけど、今日は違ってた"というカメラマンの三浦さんの言葉が印象的でした。

DATE '90・3・6　PLACE 大阪厚生年金会館
PHOTO 三浦麻旅子　COPY 落合昇平

APR. '90 往復書簡

大江千里から大貫妙子へ

魅力的な人たちの往復書簡その②

往復書簡

●3月号の大貫妙子さんの手紙に出された千里くんの返事は、ツアー先の広島でしたためられました。旅先での千里くんが、どのような旅を楽しみ、旅の中でどんな風に暮らしているかが浮かび上がってくるような内容です。旅先でのおいしいものの話、風景の描写と共に、さりげなく曲作りのことが書かれてあったりして、アーティスト同士の2人の関係がとてもいいものであることがたやすく想像できます。ところでこの時のスタイリストさんの名前はルーシー・スー。パティ・カーター改めということで何のことだか誰のことだか、カンのいい人なら気付いてますよね。

DATE '90・2・16　PLACE 麻布スタジオ
PHOTO 小木曽威夫　COPY 大江千里

ん、そんなことは言い訳でしかないんだけど、人間の許容量なんて決まっている訳で、自分でその辺のところを考えながら吸収する作業を組み入れていかないと、枯れちゃうに決まっている。身体も頭も健康でないと、健康的に人のこととか、音楽のことを見れなくなっちゃうんですよね。物事を感じとる細胞が、死んじゃうんですよ」

——その後、またツアーが続いた訳ですが、ニューヨーク行く前とでは、気分は変わりましたか。

「ええ、ニューヨークから帰ってから風邪が流行っていたこともあって体調を崩したけれど、気分はアッパーでしたから、風邪なんて、その程度は何てことないみたいで、そのまま一気に盛り上がって、最後の武道館の3日間では、気分も抜け切っていて、力みもなく楽しめました。ぼくって、立っているだけでも力んじゃっているから、ちょうどよかった（笑）」

——そうやって、ツアーを終えたときって、ひと仕事を終えたって気分ですか。それとも、これからだって気分が強いですか。

「ぼくの場合は、これからだって気分のほうが強いですね。最後のステージが終わると、スタッフは抱き合ったり、泣いたりするんだけど、ぼくはそういうことがない。気持ちが既に先に行っていて、そういう自分が情けなくて、スタッフに申し訳ないことさえあります。だからと言って、感動していない訳ではない。半年かけて作り続けたものが、そこで形になって、千秋楽を迎

1990 SENRI OE
1990のAPOLLO

JUN. '90 たわわの果実

新しい潮流の糸口、「たわわの果実」

●「たわわの果実」というタイトルの曲が出ました。まずタイトルに目を奪われてしまうし、そのリズムや歌詞もこれまでの千里くんのものとは全く違って。「ライブをいつも観てくれているファンの人はこういう流れはいつ出てきてもおかしくないと納得してくれると思うんですけど、そうじゃない人がいきなり聞いたらビックリするかもしれない。そういうのもいいでしょ」理屈ヌキで楽しめて、奥も深い曲。撮影はツアーの終わり頃ホウズにしてしまった頭で。"たわわの果実"のイメージでビックリハウスのような(実は手作りの)セットの中、弾ける千里くんでした。

DATE '90・4・5 PLACE 六本木スタジオ
PHOTO 小木曽威夫 COPY 野口顕

JUL. '90 短編小説 たわわの果実

たわわBOY編とたわわGIRL編

●「たわわの果実」の名曲ぶりに、"あの曲を1号分の記事だけで終わらせるのはモッタイナイ"ということで企画された、短編小説「たわわの果実」。歌詞や曲のイメージからふくらませたストーリーを、男女1人ずつの作家に自由に書いてもらったら……。BOY編、北吉洋一氏による「グラデュエーションパーティーにて」は、'60年代のアメリカの高校生の青春を描いたものかと思いきや、実はＳＦ小説、そしてＧＩＲＬ編、「夏がやってきた日」は奔放な女の子の本物の恋との出会いを描いた恋愛小説というふうに見事に違う展開に。写真もお気に入りだった千里くんです。

DATE '90・4・20 PLACE スタジオフォリオ
PHOTO 小木曽威夫 COPY 北吉洋一、野中ともそ

えたことに物凄くこだわっているし、今日で最後だと思うと切ないけれど、それよりも走り続けている感覚を大切にしたいという気持ちが大きいんですね。ドンドン加速してきて、自分の中でエンジンが思うように動いている、この感覚を忘れないうちにこのまま何かを作りたい、止まりたくない、そういう気持ちが強い。だから、ぼくにとって、ツアーの最終日というのは、創作の為の初日みたいな感じですね」

――それから、再びニューヨークでレコーディングに入った訳ですから、ズーッと働き詰めでしたね。(笑)

「ええ、睡眠時間も、実際少なかったけれど、短い時間でも集中して寝ますからね。獣的なんですよ。(笑)自分の身体がそれを要求して、次の行動の為に必要だと思うと、他人の話を聞きながらでも寝れる。腹に虫が湧いているなと思えば、草、緑のものばかり食べて押し出しちゃうような、そういう臭覚で生きている。(笑)それに、『red monkey yellow fish』ツアーも、楽しいツアーでしたからね。コンサートの回数を重ねるうちにドンドン形が変わっていって、いままでのツアーの中でも、いちばん形が変化して、見えるものも見えないものも、凄く蓄積されたツアーだったような気はします」

――そのツアーでも感じたんですが、『APOLLO』を聞いていると、大江さんの視界が広がって、時代との照り返しの中で御自分を見詰め直しているようなところが、印象的だった。例えば、ここ1、2年、世界がいろんな形で変わってきましたよね。ベルリンの壁の崩壊に象徴されるような大事件が日常的に起きていて、ぼくたちが生活する範囲で、テレビや新聞を通じて、そういう情報が次々と流れてくる。そういう動きを実感しながら、その中で音楽をやっていることの意味とか価値とかを考えるこ

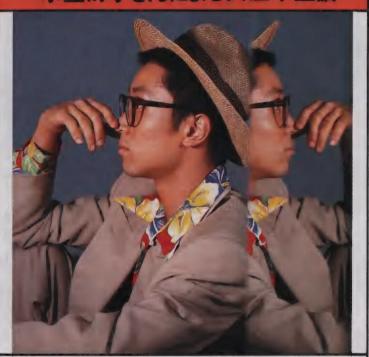
SEP. '90	SIX PIECES OF SENRINEWS	AUG. '90	大江千里の謎

千里くんをめぐる6つのニュース

SENRI NEWS

●いつも動き回ってる、何かしらの活動をパワフルに行っている千里くんの周辺から、6つのニュースをピックアップ。パチパチ苦手の(笑)細かい記事作りに挑戦してみました。千里くんはNYでのレコーディングを終え、『APOLLO』を作り上げて帰国したばかり。"納涼千里天国"のリハーサルに余念がない頃。この時、「降りません、絶対!」と断言したけれど、"納涼千里天国"当日、本当に雨は降らなかったのです。都内はどしゃ降りだったのに隣りの横浜では一滴も。撮影には、彼自身がスタジオで、青い絵の具で描いたキャンバスも使われました。

DATE '90・7・5 PLACE スタジオフォリオ
PHOTO 小木曽威夫 COPY 宇都宮美穂

氷室冴子さんによる大江千里論

●まんが家、小説家、女優さん。各界にいる千里くんファンの人たち。東京のライブともなると各界で活躍している、超多忙な人たちもチケットを握りしめてやって来ます。小説家の氷室冴子さんも千里くんのファンを自称する人のひとりです。この号では氷室冴子さんに千里くんの魅力はいったいどういうところからやって来るのか、氷室さんが千里くんファンになったキッカケまでさかのぼって探っていただきました。写真は2人の千里くんがいろんなポーズをとっていたり、1人が消えかかってたりという不思議なもの。実は鏡の大活躍のおかげだったのでした。

DATE '90・4・25 PLACE スタジオフォリオ
PHOTO 小木曽威夫 COPY 氷室冴子

とがあったんではないかと。

「ええ、それは確かにありましたね。皮膚感覚なんだけど、どんなフィールドでも、性別や年齢に関係なく、危機感を含めて、そういう時代の動きに参加している実感とかを持っている人がいると思うんですよね。ただ、それが形にならないもどかしさっていうのが、ぼくの場合にあったけれど、それでも、自分の知っている範囲のことを、自分が日常使っている言葉や自分の呼吸で、丁寧に、何かを生み落としていきたいという気はありました。いまから思えば、そういうことを求めて曲を作っていたのかもしれないですね」

——だから、『APOLLO』は1990年にしか出来なかった、そういうアルバムではないかと思っているんですけどね。と同時に、大江さんにとって30歳のアルバムでもある。その年齢的な角度から意識したようなところはありませんでしたか。

「29年間の決算としてとらえようと思えばとらえられないことはない。だけど、ぼく自身不思議だったのは、作っているうちに、特に詞に関しては、割りと淡々とした方向へと向かっていったことでしたね」

——音楽活動以外にも、CMに映画に、テレビのバラエティにと、本当にいろんなことをやりましたね。

「ええ、意識していろんなことに取り組んだところもあるんです。例えば、コンサートで、客席の中にいると、普段ステージの上からでは見ることがないところも見るこ

1990のAPOLLO

NOV. '90 このごろの風

映画ロケ中の千里くんをたずねて

大江千里

●映画「スキ!」で初の主演に挑戦した千里くん。俳優としても既に評価の高い人です。9月の千里くんのスケジュールはほとんどこの映画のロケのために費やされていました。撮影はロケ中の彼を追って葉山まで。ウインドサーファーたちがたくさん海に出ている良い天気の、しかし風が強い日でした。インタビューはとりたててテーマを決めず、"近況を聞く"というコンセプトで始まったのですが、話題はおのずと映画のことに。テーマ曲「あいたい」も彼自身によるもの。久し振りにアレンジャーに小室哲哉氏を迎えたきっかけは「ひらめき」だそうです。

DATE '90・9・12　PLACE 葉山
PHOTO ハービー山口　COPY 森田恭子

OCT. '90 APOLLO

『APOLLO』を完成させて

APOLLO

●ニューヨークで2ケ月間。曲作りの段階からトラックダウンまで、すべてをNYで行うという冒険的な試みによって生み出されたアルバム、『APOLLO』。10月号はこの『APOLLO』に関するインタビューと、恒例になった彼自身によるライナーノーツが掲載されました。「怒濤のように、曲書いてレコーディングして、また書いてっていう日々でしたね」と千里くんは振り返ります。「APOLLO」に象徴されるように全11曲は、過去のことを歌っている曲も意識は前を向いていて。「失恋の歌とか多いけど、それは常にこれから先を生きる為のヒントのようなもので」

DATE '90・7・17　PLACE 六本木スタジオ
PHOTO 小林曽威夫　COPY 野口顕

とが出来るということってありますよね、新しい発見みたいなことがね。もっと極端に言えば、ウォルト・ディズニーとかの遊園地に行くと、子供の目から見ていちばん綺麗に見える高さに、木を切ってあげようとか、丸みをつけて刈ってみようとか、そういうのってありますよね。そういう発想と近いところで、ぼくの歌だって、子供が聞いても、言葉がわかんなくても、いい歌であれば耳を傾けてくれるはずだし、そういうところにもうって出たいという気持ちがあった。ロックだとか、ぶつぶつ言いながら一箇所に踏み止どまっている自分が許せなくて、そういうのを壊したかった。だから、テレビのクイズ番組に出ていても、阿倍野の歩道橋の上でアキ缶持ってても、自分の目指すところはこれなんだというのを見極められるくらいに強くなりたいっていうのがあった」

——そうやって、音楽以外の活動で、目立った収穫はありましたか。

「いろんなフィールドの人、いろんな価値観を持っている人と仕事をしましたから、ちょっとずるい言い方をすると、いろんな視線で、いろんなポジションに立って、ものを見るいい訓練になったなっていう気はしています。音楽界の中にいても、音楽をわかっていない人って沢山いる訳でね、そういう人の意見を貰うよりは、違ったところでもものわかっている人、自分と近い価値観を持っている人と話が出来た。それが、大きかったような気がします」

——大雑把な言い方ですけど、大江さんにとって、意味のある1年でしたか。

「結局、音楽人として8年間やってきて、この1年間で思ったのは、力不足だってことでしたね。これは、謙虚な言い方じゃなくてね、つまり、走れないってことでもなく、実際に結果も出しているんだけど、昔あった引き出しの増え方をいまはしていいな

JAN. '91 APOLLO TOUR

時代のダイナミズムを吸収して

●10月22日、神戸を皮切りに再びスタートした長いツアー。天辰保文氏による初日のコンサートレポートです。ツアーごとに、千里くんのライブにはさまざまな仕掛けや、あっと驚くような演出があるのだけれど、今回はその楽しい驚きの回数がさらに多くなっていて、けれどももちろん歌もきちんと聞かせてくれるから、見終わった後に残る余韻や、刻まれるものが多いステージです。天辰氏は「彼なりの解釈で時代をとらえた視線が、ステージの隅々に注がれ、息を弾ませている」と述べ、千里くんのファンがいかに幸せかということにも言い及んでいます。

DATE '90・10・22　PLACE 神戸国際会館
PHOTO ハービー山口　COPY 天辰保文

DEC. '90 スキ!

「スキ!」の撮影こぼれ話COMIX

●再び映画「スキ!」をめぐって。撮影中のこぼれ話のマンガ化です。大阪在住の千里くんファン(ファン歴はかなの長さ)のイラストレーター宇田恵美さんの手によるものでした。3つのこぼれ話以外にも、"ケンカのシーンで植木が倒れてきて、実際にキズだらけになった"などとさまざまなエピソードがありました。千里くんらしく、周囲のスタッフとも楽しい交流が持たれていることが感じとられました。得意のモノマネの腕も発揮していたそうです。千里くんの声を"夕暮れ声"と名付けた小貫信昭氏による「あいたい」の曲解説も掲載されました。

DATE '90・10・6　PLACE TOKYO
ILLUSTLATION 宇田恵美　COPY 小貫信昭

いってことなんですよね。もちろん、増やし続けてはいるし、その為に食欲な挑戦もしているつもりなんだけど、昔のように乱雑な、不整然な増え方はしていない。だから、いろんなものをいったん捨てていかないと、新しいものは手に入らないというのを実感した年でもあったんですよ。ただ、手に入れる為に、何かを捨てる勇気というがいまのぼくにはないから、いずれそれをやるというのが、ぼくにとっての90年代における課題というか――」

――そういう気持ちはよくわかります。どんな仕事でも一緒だと思うんですが、ある段階に入ると、もうひとつ先に進むためには、何かを切り捨てなければならない勇気を課せられるときが必ずある。

「お金を捨てるとか、そういうんだったら溝に捨てちゃえばいいんだけど、そうじゃなくてね、イメージみたいなものですからね。ひょっとすると、これはこういう形で羽ばたくかもしれないという可能性を捨去って、まったく何もない荒野に鍬を入れるみたいな、そういうことですからね」

――最後に、この1年間で、大江さんがいちばん印象に残ったシーン、それは音楽でも本でも映画でも、実際の生活の中でもいいんですが、ひとつあげて下さい。

「今年、ぼくはいろんな映画を見て、いろんな音楽を聞いて、沢山の人に逢ったけれど、いちばん印象に残るシーンはと言えば、夕焼けなんですよ。今年は空が高い日が多くて、夕焼けが綺麗な日が多かった。それが、とても印象に残っていますね」

1990のAPOLLO

SENRI ON CF

●'89年の終わりから'90年はTVから千里くんの歌が聞こえてきたり、街角で千里くんの笑顔に出会うことがよくありました。けれども中には地区によってオンエアされないものや、期間が短いものもあったので、見逃してしまった人たちのために、千里くんの出演CFを一挙アンコール掲載。

味覚糖
DATE KISS

記念すべき初のCF出演は味覚糖の"DATE KISS"。このCMで千里くんに注目して現在に至るファンも多い。「(録った時のことは)覚えてないなあ」 曲はあの"十人十色"です。'84年。

ぴあ
PIA MUSIC COMPLEX

「僕自身の表情がいちばんたわわに出るのと、石の表情がうまくかみあうまでに時間がかかった。石を見つけて来た人がこだわってね」曲は"WE ARE TRAVELLIN' BAND"。創刊号のCF。'89年。

NEC
98 NOTE

千里くんのサラリーマン姿がハマリ役だった98NOTEのシリーズ。「自分ではあんまり演技しているような気は……。ああいうのがいちばん難しいんだけどね」曲は入らないドラマ仕立て。'89年。

NEC
98 NOTE

このシリーズには千里くんが会話をするシーンはない。このタクシー編も、周りの2人のサラリーマンが千里くんを囲んで話をしていて、それを聞きつつ98NOTEに熱中するという設定。

NEC
98 NOTE

髪を切った斬新なサラリーマン姿。沢たまきさん演ずる女性のセリフがビシッと決まる。設定がほぼ同じで、彼女の話す内容が違う、"おいしい仕事編"と"骨をうずめる編"の2パターンがあった。

SUZUKI
ニューカルタス

「ゴージャスなCMが多いから、ああいうホリゾントにポンと僕だけがいて、ベンチがあって、というのは自分でも新鮮で」“カルタス、千里走る”のコピーで3パターン。曲はできたばかりの“dear”。

SUZUKI
ニューカルタス

“ベンチ編”。“僕はぜったいうまくいく”というセリフをベンチに坐った千里くんが何度も言う。パーカーにTシャツにGパン、スニーカーというほとんど普段着のままの千里くん、存在感があります。

SUZUKI
ニューカルタス

“行こうぜ編”。これは、アドリブで、カメラが千里くんの呼びかけにうなづいたり、NOと言ったり反応するのを千里くんが受けて、画面に向かってコミュニケーションを計るという設定。曲は“あいたい”。

FUJIYA
アメリカンバー

NYロケ。千里くんがアメリカンバーをかかえて走り去ったあと、そこにいた人々の口にアメリカンバーがくわえられている。NYらしさがふんだんに盛り込まれたCF。曲は“APOLLO”でした。

NEC
ハンディー98

千里くんが巨人になっていたり、飛行機に腰かけていたり、ちょっと不思議な場面が展開して。「ああいう経験ふだんできないからなかなか楽しい」映画をほうふつとさせるBGMや画面になっています。

APOLLO

1990

SENRI OE

NINETEEN NINETY

MATSUOKA HIDEAKI

●90年を振り返ってみると意外に彼のインタビューは少ない。それは、12月にリリースされた新アルバムの製作にかかりっきりだったせいもある。この一年溜まってきた思い、全てを吐き出す様に語った密度の濃いインタビューを一挙掲載。かなり過激な発言もあるので要注意！

PHOTO●ATSUSHI UEDA COPY●KOU IMAZU STYLING●TSUYAKO HARADA HAIR-MAKE●AYUMI AIZAWA 衣装協力●渋谷フロンティア ☎03(464)4579

1990

自分の音楽はファンのために作ってたんだけど……

松岡の5thアルバム『LIGHT AND COLOUR』は'90年代の幕開けと共に着手された。そして完成までに10ヵ月。ということは、1990年の彼を振り返る＝(イコール)同アルバムとそれを取りまくAtoZを語る、ってことにもなる。なるほど。すでに恒例行事と化した1年振り返り物。たまにはそういうのもおもしろいかもしれない。'90年が生んだ1枚。1枚にこめられた'90年。聞いてみました。

——松岡の'90年。どういう風な始まり方をしたんだっけ。

松岡　例の〝バンド・スタンド〟。ボクが出たのは1月1日になってからだったし。ステージから「ようこそ'90年代へ!!」って言って、今年が始まったわけ。

——今年はライヴで始まったわけネ。

松岡　うん。

——なのにほとんどライヴをしなかった年でもあった。

松岡　(笑)

——その原因ともなった『LIGHT…』は年明け早々、作りはじめたの？

松岡　そう。その時点で曲、詞、アレンジ…全部のイメージがもう頭の中にあったんだよネ。頭の中に初めからCDが入ってたわけ。いまレコード屋さんの店頭に並んでいるのと同じモノが。(笑)

——じゃ、アルバムを作るっていうのは頭の中のCDを現実のCDに変える作業だったわけだ。

松岡　そうだネ。そういう所で気持ちは楽だった。ただ、頭の中で見えてるだけに「これをどんな言葉にしたらいいんだろう？　どんな音色にしたらいいんだろう？」っていうのがあった。本物のCDからギターをコピーするっていう時だって、何回きいてもわからない部分ってあるじゃない？　アレと似てる。しかもソレをアルバム丸ごとコピーするとなったら…そこにはムズカシイのひと言ではすまされないものがあって。

——最初はどういう所から始めたの？

松岡　絵でいう所の下描き。アルバムが完成するまでに10ヵ月かかったわけだけど、その内の半年はソレかな？　半年下描きして、あとの4ヵ月で色塗って。(笑)

——最初の半年はほとんどフルに描いてたの？

松岡　実際に作業してた時間はそんなでもない。そこにいくためには精神状態をハイに持ってかないといけないから、刺激材料を求めていろんな所をさまよったりして。絵を見に行ったり、街に出てみたり…基本的にルーズな生活をするようにして。

——ルーズな時間っていうのはいわゆる〝オフ〟の過ごし方ということ？

松岡　逆だネ。ボクにとってはそういう時間こそ仕事の時間、生きがいを感じる時間。だから〝オフ〟って考え方をしないところから始めていったの。だけど、一方で取材とかの時間ていうのもあるわけだよネ。で、この〝2つの時間〟のリズムをキープして、バランスをとりながらやっていった、ってカンジかな？

——リズム・キープね。

松岡　前にNHKのミナトさん（彼がパーソナリティーを務めてたFM番組のプロデューサー）が、ジュリーの歌にたとえてこんな事を言ってた。「片手にピストル。片手に花束。男の生き方はアレかもしれないゾ、松岡」って。〝花〟は自分が一番やりたい事、純情。その純情を守るためにはピストルも持ってないといけない。それって'90年のボクにすごくあてはまる考え方だったな。

——いい言葉だネ、ソレって。でも、時には「ピストル、重いなー」って時もあるでしょう？

松岡　うんうん。今回みたいな時間の使い方、そう簡単にみんなが分かってくれるとは思わないしネ。だけど、ボクの中では直接言葉にふれないでフーッとしてる時が、自分の中から音楽をわき上がらせることへの何よりの手段だったりする。音楽が好きな事と音楽をやってる事って重なっている時もあるけど、その正反対の時もあるっていう。

——どういう状態になると2つは重なったりするのかな？

松岡　こっちが音楽を作るっていうより、音楽がボクに「作れ」って…。音楽の噴きを感じて作る、っていうカンジでもあるかな？　キーボードの前に座って何気なく歌ってたりすると、一瞬だけそういう感覚が来たりするの。何かにふれるんだよネ。で、「アッ、コレか」って思った瞬間、さっき言った頭の中のCDがまわり出したりして。

——それをすかさず聴き取っていく？

松岡　うん。だけどウッと来るのはほんと一瞬だからネ。それを追っていくのって、夕べ見た夢を想い出そうとするのに似てる。決して全部は想い出せないんだけど、「こんなことだったかな？」って思いながらストーリーを作ったりして。そこで〝作る〟っていうのが大切だと思うわけ。

——というと？

松岡　全てを思い出せないからっていって、また新たに探し始めるっていうのはよくないと思うの。感じたことを形にすればいい。新たなもの、オリジナルって最近はどうでもいいことなんだよネ。知らず知らずの内にいろんなモノから影響を受けてる人だからさァ。松岡英明っていう人間は1人しかいないけど、〝人間〟っていう中ではボクもその内の1人にすぎない、決してオリジナルな存在じゃない。っていうのもある。(笑) 家系っていう所ではズーッと昔からの血を受けついでたりもする。そういう、〝流れ〟を感じるオリジナルこそステキな物のような気がしてきて。

——'89年、'90年っていうのは世界中が急速に流れ始めた年でもあるよネ。そういうことも今の自分の気づき方に関係してると思う？

松岡　それもすごくある。世の中の動きを見ていると「じゃ、今までの歴史と自分はどういう関わりを持ってるんだろう？」とか考えたくなる衝動、あるよネ。考えさせられてる、って気もするし。

——〝今までの歴史〟っていうのを〝松岡英明のディスコグラフィー〟と置き換えてみると、どういうことになるだろう？

松岡　自分の音楽、今までは漠然(バクゼン)とファンの為に作ってたと思う。その中に分かってくれる奴がいて、ファンの数が増えれば相対的にそいつらも増えると思って安心してた。でも、わりと最近になって自分を見つめた時、「オレは〝分かる奴〟に分かりにくい行動してたんじゃないか？」って気がしてたわけ。例えば久保田利伸をTVで見たら「アッ、こいつってこういう奴なんだ」って分かるじゃん？(笑) じゃ松岡は？　っていうと今までのアルバムとかでは見えなかったかもしれない。特に〝分かる奴〟にはネ。だとしたら、そういう人に向けたアルバムを作ろうって思ったわけ。

——それは…

松岡　自分のスタイルに結びついたアルバム。そういうモノを作らないと、刺激し合える奴とは通じ合えないから。

——今回のアルバムも含めて、'90年代の松岡は何を発信しようとしているの？

松岡　ボクのような立場にいるということはメッセージを送れるってことだよネ？　だったら言葉にしていかないといけない。

——で、何を語ろうと？

松岡　そこはアルバムを出した今でさえあやふやなんだけどネ。ただ、何かを感じてはいる。ふだんは女の子のこと、TVのこと、ファッションのことしか考えない松岡でさえ「なんか世の中で起きてるな」って思ってる。(笑) で、そういう時にただ「何かを感じてるよ」って言ってもダメなわけで、とりあえずはソノ感じてることをより強烈に見せてやろうか、って思ったの。

——より強烈に？

松岡　テーブルの上にオレンジとトマトがある。ただそれだけだとみんな何にも思わない。でも、2つを両手に持って相手の前に突きだして「ここにオレンジとトマトがあるんだけどどっち食べる？」って言ったら、「アッ、おれトマトきらいだからオレンジ」とか答えなきゃなんなくなる(笑)。せめて、そういうとこから始めなくちゃ、って思ったわけ。といって相手がトマトきらいなこと最初から知ってて今いったようなことしたら、ソレは汚いやり方になってしまう。だから、そういう時は、「オレンジはどう？」っていう言い方をしてあげられる位の気持ちではいたい。

NINETEEN
NINETY
MATSUURA HIDEAKI
1990

HIDEAKI 1990

12月11日からツアー〝色彩〟をスタートした彼。でも年内は2度だけ。メインは1月から2月にかけてということで、〝ライヴに向かう今の気持ち〟のこと、聞いてみようと思った。そして、彼の口から出てきたのは、たぶんみんなが初めて耳にするような、かつ、アーティストとして心から誠意のある発言。だから、しっかり受け止めてそれからコンサートに足を運ぶなりして欲しいな。

——今回のツアー。どんな想いで消化しようと思ってる？

松岡　ライヴで自分のいる位置、パフォーマンス…すべてにおいて地に足がついてくればいいな、っていうのはあるネ、地に足が＝（イコール）自分らしく。この間の〝VISION〟〝AHEAD〟っていうのも、その自分らしさがテーマになってたギグだったし。

——ライヴで自分らしくって、これまでだって実践してたことじゃないの？

松岡　今までってお客さんにずい分サービスしてたような気がするの。そこを今回はけっこう排除してやろうとしてるんだよネ。ボクらって基本的には〝お客さん商売〟だからサービスも当たり前だと思う。でも、「自分の位置を知りたい」とか考えた時には、そういうことに疑問を感じたりもしてネ。

——サービスすることで見えなくなってる部分があると？

松岡「オレ、ほんとに目の前にいる全員のこと、好きなのかな？　本当はそうでもないんじゃないかな？」って。「なのに全員に向けてサービスするのはずるくないか？」って。なんか、自分は何を大事にしたくてライヴをやっているのか、感じたくなってきたんだよネ。

——なにをキッカケに？

松岡　ステージから客席をみてて「オマエら本当にオレのこと分かってんのかよ？」って思い出しちゃってネー。

——その辺、もう少し具体的に言ってくれる？

松岡　いつもみんなが踊ってくれるし叫んでくれるけど、それはボクが満足

NINETEEN NINETY

MATSUOK

できるようなもんじゃないわけ。たとえばボクが思ってる〝ダンス〟っていうのは、心で感じたことを体で表現すること。決してリズムに合わせてライヴの間じゅう動いてくれる事じゃない。〝SHAKE YOUR FIST〟って歌った時に、皆んなで一丸となってコブシを振り上げるのも違うような気がする。

——それは今の日本のライヴ全てに共通したことでもあるネ。

松岡　うん。みんな悪気はないんだと思う。他の方法を知らないだけで、で、ボクがこういう事を言って「分かる」って思った奴はそのまま変っていってくれればいい。もし分からないままボクから離れていく人がいたら、それはしょうがない。やっぱファンを大切にするってことは、自分が大切にしたいファンだからそうするわけでさァ。出来ることなら、そういう奴等であって欲しいけどネ。

——いま言った様なこと、今後も発言していくつもり？

松岡　取材とかではネ。一度、ラジオで近いことは言ったけど。

——どんなこと？

松岡　〝今度のアルバムは18才未満おことわり〟だって。（笑）

——18才っていうのは例えとして？

松岡　いくつか理由はあるの。例えば22才のボクが15才の女の子を好きになるのも変。でも、その子が「15なのにスゲェー！」って思える様な奴だったら大好きになってしまえるんだよ、っていう。それに関連して、相手かまわずステージから「愛してるよー」って叫んでしまう様なノリはいやだな。って事もあった。アーティストが〝オレ達、中学生のヒーロー〟みたいなダサイ存在であって欲しくない、とか思うしさ。

——最後に'91年に向けて。

松岡　これからボクはどうしても変わっていっちゃうと思う。ツアーも含めてネ。そこで離れてっちゃう人達には心から「ありがとう」って言いたい。ここまで松岡を支えてくれたものもその子達なんだから。

OF STORIES

Hideaki Matsuoka

THE STORY OF STORIES・製作秘話

●「SHAE YOUR FISE」を下敷きにした、ショート・ストーリを書いて頂いた、折原みとさん。本業のまんが家はもちろん。小説家としても超多忙のせいか、ロケ日にストーリーが完成せず。ストーリーに沿って写真を撮影するので、大まかな話の骨組みだけを聞いて、写真はとったものの、完成したストーリーと写真が全く合わなかったらどうしよう……と心配しました。結果は、バッチシ、はまりまくり。でも、結局ストーリーが完成して、編集部に届いたのは、あと2日で、パチパチの松岡英明のページは写真だけで文字がない！ という風になるくらいの日時でした。

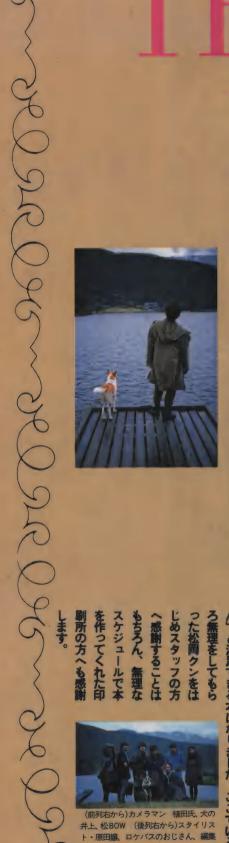
●撮りおろしフォート・ストーリーは、映画の字幕風の文字で文章が入っているけれど、あれは実際に、外国映画の日本語字幕を書く専門の人に書いてもらったものです。書いて頂いた片平さんは、その業界の大ベテランで、古くは「ベンハー」「ゴッド・ファーザー」から最近では、「バック トウ ザ フューチャー3」「ダイ・ハード2」とかを書いているようです。片平さんの書いた字幕を映画館でみた人も多いハズ。

●「欲望の的」でディック・トレーシー風ハードボイルドのシルエット男は、レコード会社の宣伝の皆川氏。パンティストッキングをかぶって撮影したので、顔は超ヘン、でした。店の人はどう思ったのだろうか……。ちなみにこの撮影の後に、チェッカーズが来て撮影して行ったそうです。

●マネージャーの關氏の、ぬるいギャグ攻撃。言った本人が自分で大笑いしてるだけなんだけど、二十五回に一回は他の人にもウケてました。

THE STORY

未発表PHOTO&製作秘話

編集後記

昨年と同じ12月22日、松岡英明の単行本を出すことができて、今はホッとしている。ファンの方は御存知のように、彼の誕生日は12月23日。クリスマス・イブの前日(イブ)のイブ。彼のオフィシャル・ファンクラブが「EVE EVE(イブ イブ)」だから、本はそのまたイブの「EVE EVE EVE」に出そうとしたものだ。考えてみれば、一見どーでもいい語呂あわせだけど、松岡英明はそういった遊びに異常にこだわる人なのだ。そのため、どれほど苦労したか、トホホ……。

新(ニュー)アルバムを聴いてもらればわかるが、このアルバムに、こだわりまくって、予定より二ヶ月もレコーディングが延びてしまった。おかげでロンドンで遊びに行って撮影しようなんてノンキなアイデアは吹き飛んでしまったことはもちろん、撮りおろしの写真を撮るスケジュールさえ飛んでしまうところだった。なんとか、彼には徹夜に徹夜を重ねてもらって、インタビューやロケを敢行した。

連日のハード・ワークの中マネージャーの関氏は、ナチュラル・ハイになって、通常ではとても笑えないギャグを言いまくっては一人で笑ってるし、松岡クンは松岡クンで異様にテンションが高く元気だし、何か少し恐い気がした。まぁ、そのおかげで無事ロケは終了したのだけど……

スケジュール的にきつかったけど、とにかく本はできたのだ。個人的に「なかなかオシャレじゃん」と満足できる本になりました。ここでいろいろ無理をしてもらった松岡クンをはじめスタッフの方へ感謝することはもちろん、無理なスケジュールで本を作ってくれた印刷所の方へも感謝します。

(前列右から)カメラマン 植田氏、犬の井上、松BOW (後列右から)スタイリスト・原田嬢、ロケバスのおじさん、編集フジモト、エピック・皆川氏、マネージャー・関氏、ヘアメイク・相沢嬢。

THE STORY OF STORIES

Hideaki Matsuoka

HIDEAKI

MATSUOKA

NEW ALBUM

"LIGHT AND COLOUR"

生まれるのは、きっと虹だよ。

12.9 RELEASE

ESCB1110 ¥2,800(税込) ¥2,718(税抜)

Light and Colour

HIDEAKI MATSUOKA

VISUAL GIGS NINETEEN-NINETY

"DESIGN" 君の街へ

倉敷	11/3(土)	15:00	インディスク	0864-22-1457
広島	11/4日	15:00	カワイショップ	082-243-9291
福岡	11/6火	18:00	RSクッキン	092-721-1852
熊本	11/7水	18:00	マツモトレコード	096-352-5671
札幌	11/17土	16:00	市内玉光堂	011-231-7571
秋田	11/18(日)	15:00	フリーウェイ秋田	0188-32-1616
仙台	11/19(月)	17:00	スーパーレコードフリーウェイ	022-222-2021
静岡	11/20(火)	18:00	すみや本店	0542-51-1234
横浜	11/21(水)	18:00	シヤル音楽館	045-311-1745
浜松	11/25(日)	13:00	名豊ミュージック浜松	0534-52-6888
豊橋	11/25(日)	17:00	名豊ミュージック豊橋	0532-55-5754
名古屋	11/26(月)	(未定)	音楽堂	052-961-7637

HIDEAKI MATSUOKA TOUR 1990—1991 色彩

〈1990〉			
12月11日火	京都府立勤労会館	J音楽企画	075-231-7776
12月13日木	熊本市民会館	ヒッツバーグユニオン	096-356-1808
〈1991〉			
1月 5 日土	鹿児島市民文化ホール第二	九州労音	0952-26-2351
1月 6 日日	福岡市民会館	ブレインズ	092-771-8121
1月 9 日水	仙台市民会館	キョードー東北	022-223-2188
1月12日土	金沢市文化ホール	サウンドソニック	0762-91-7800
1月14日月	新潟県民会館	キョードー北陸	025-245-5100
1月17日木	秋田市文化会館	エムズコーポレーション	0188-34-8558
1月22日火	名古屋市民会館	ジェイルハウス	052-936-6041
1月25日金	メルパルクホール広島	キャンディープロモーション	082-249-8334
1月30日水	札幌市民会館	ウエス	011-613-9000
2月 1 日金	NHKホール	ホットスタッフ	03-857-9999
2月 6 日水	大阪厚生年金会館大ホール	グリーンズ	06-454-8834

ORIGINAL VIDEO/SHAKE YOUR FIST=12.21 ON SALE

12.22 単行本「THE STORY OF STORIES」CBS・ソニー出版より発売

TOUR ORIGINAL GOODS=1."色彩" Tourパンフレット¥2,000 2.松岡英明オリジナル・ロゴ入りベレー帽¥3,000 3.松岡英明オリジナル・ロゴ入りバッヂ¥500 4.'91年度版カレンダー¥2,500 5.ツアー・ポスター¥500 ●お問い合わせ/HIP LAND F.C. TEL 03-477-1389

"あら、水もしたたるいいトカゲ"

Masahiro Motoki

water dragon

本木雅弘

1991.2.25 DEBUT ALBUM water dragon RELEASE予定

1991.2.25 LIVE VIDEO「Out of Control Circus」RELEASE予定

1990. 7/24・25・26 新宿スペースゼロにて収録

COMING NEXT YEAR "TOUR" 1991. 3/22(金)福岡ビブレホール、3/23(土)名古屋ボトムライン、3/29(金)NKホール、3/30(土)・31(日)大阪MODAホール、4/6 札幌ペニーレイン　INFORMATION: 03-794-8040 SUZUYA 促進室

ORIENT
BARBEE BOYS
ほしいのは、YOUです。
ほしがる気持ちには勝てません。つのる思いが大事です。そんな気持ちや思いを、きちんと満足させてくれるのがオリエントの新型YOUです。YOUは「あなた」という意味でしょ。だから、プレゼントする相手(それが自分であっても正しいね)をよく考えているウォッチなのです。その上、YOUは「遊」と同じ発音ですから、遊びごころも知ってるんです。ほしいのはYOU、とキッパリいいましょう。贈ってうれしい、もらってうれしいリボンウォッチなのです。
SENTIMENTAL GRAFFITI
YOU
ORIENT
①WY9011LR ②WY9011KL ¥25,000 ・金色銀色側・サファイアガラス・10気圧防水 ③WY9061LR ④WY9061KL ¥19,000 ・金色側(イブシ仕上)・球面サファイアガラス・5気圧防水
●電池寿命約2年●携帯精度(常温)平均月差±15秒以内●掲載商品の価格は、メーカー希望小売価格(税抜)です。 オリエント時計株式会社 〒101 東京都千代田区外神田2-4-4 TEL.03(255)1457(代表)

ラクラク記憶術

作：かしわひろし
画：あずまひろみ

記憶術に慣れたら歴史年号を1時間で数十個暗記できちゃった。試験では社会系が大きな得点源です。
山村貴史くん　宮崎県（中3）

英語が苦手であきらめてた志望校。でも、記憶術を知ってから得意になっちゃって、いま希望高校で頑張ってる！
菊池香織さん　岩手県（高1）

今から高校入試が楽しみだ！テスト中でも正確に思い出せる記憶術のおかげで平均20点はアップしてるもの。
港真佐雄くん　北海道（中3）

私の場合、世界史2日、理数3日、英単1日でテスト準備OK！成績上位の私にみんな"なぜ"って顔してるわ。
水沢　葵さん　京都市（高2）

NEXT SCENEを予想するこのコーナーBAND1990に登場したバンド13組（ドリカム、ジッタリン、B'z、真心、フリッパーズ等）は今や音楽シーンの最前線で大活躍中だ。今回のBAND1991に登場している5組のバンドもみんなそれぞれ強力だ。ちょっと目が離せないぞ！

NEXT SCENE BAND 1991

すかんち

す　か　ん　ち

●曲良し、詞良し、ライブ良し。あまいハードロックとローリー寺西の毒舌にライブに行った人は、すぐ感染しちゃうことでしょう。70年代ハードロックの影響がありありで気持ちよさ100点。
●1981年、すかんち結成。その後の活動はなぞ。しかし活動拠点は関西地方である。なぜならメンバー全員、ビシバシの関西弁。88年、「ロッキンF」アマチュアバンドコンテストグランプリ獲得。アルバム『スカンチン・ロールショウ』完成。「CBSソニーオーディション'88」優秀バンドに入賞。89年、各地イベントに出没。90年5月21日シングル「恋のTKO/ウルトラロケットマン」でデビュー。その日デビューライブも行う。7月21日アルバム『恋のウルトラ大作戦』リリース。10月21日シングル「恋の1000000$マン」をリリース。
所属レコード会社＝CBS・ソニー
所属事務所＝CSアーティスツ

TAPPASHI・BAND・GA・O・MO・SHIR・I

やっぱしバンドがオモシロイ!

Q1　バンド名の由来を教えて下さい。
ローリー　僕にもわからない……教えて、いちごちゃん。
シマちゃん　ヘブライ語　す＝世界＋かんち＝平和という意味です。
ポンプ　秘密です。
田中　サンスクリット語で「唯一」という意味の言葉。

Q2　名前の由来を教えて下さい。
ローリー　小学生の女子と仲がよかったから。ローリーとはロリコンの意味。
シマちゃん　ホテルの人に中国人と思わせるため。
ポンプ　日本で3人しか生き残ってない人間ポンプのうちの1人なので。
田中　光明寺博士の大脳が移植されているので。

Q3　生年月日と出身地は。
ローリー　9月6日。京都。
シマちゃん　70年(?)6月26日。明石市。
ポンプ　10月6日。大阪府。
田中　99年8月25日。エジプト。

Q4　バンド内でなんと呼ばれてますか。
ローリー　あさりちゃん。
シマちゃん　かに喰いザル。
ポンプ　おばりん。
田中　ポッキー。

Q5　小さい頃のニックネームは。
ローリー　〝ウルトラ電気ブタナマズ君〟or〝どんくさ〟
シマちゃん　しま。
ポンプ　おばりん。
田中　ファニーもしくは日吉丸。

Q6　身長・体重・靴のサイズ・視力。
ローリー　171.5cm・59kg・26cm・0.04。ジーンズは26インチ……はビッグサンダーマウンテンと呼ばれてる。
シマちゃん　150cm・1.5g・23cm・0.2。
ポンプ　170cm・71kg(公称170kg)・25.5cm・右0.3左0.9。
田中　172cm・62kg・24.5cm・0.1くらい。

Q7　趣味。
ローリー　鏡をのぞくことです。
シマちゃん　ムツゴロウさんのテレビを見ること。
ポンプ　オートバイ乗り、釣り(ルアーフィッシング)、パソコン、競馬。
田中　生体解剖。

Q8　特技。
ローリー　1日中鏡を見ていられること。
シマちゃん　いつどこででも眠る。
ポンプ　ギャンブル(最近はパチンコ)。
田中　3段逆スライドハイトーンボーカル。

Q9　今1番欲しい物。
ローリー　カッコ良い姿見(カガミ)。
シマちゃん　脳。
ポンプ　バイク買いかえたい。ホンダのスティード400ってのが欲しい。
田中　マッキントッシュSE30。

Q10　今一番お金かけているもの。
ローリー　自分自身。
シマちゃん　服とか化粧品でござる。
ポンプ　バイク、ギャンブル、食料。
田中　楽器、実験動物の飼育費。

Q11　血液型と自己分析。
ローリー　O型。カッコ良いけど、最低にカッコ悪い奴。
シマちゃん　B型。弱気だが短気。がんこ。おっとりしている。
ポンプ　B型。興味がないのでわかりません。すいません。
田中　AB型。どうもパパの研究によって作られたアンドロイドの様な気がする。

Q12　癖。
ローリー　せくくせ。(関西弁のシャレ)
シマちゃん　わかんない。
ポンプ　女癖が悪い。(ウソ)
田中　初対面の人の耳たぶをついついなめてしまう。

Q13　尊敬している人物。
ローリー　自分。
シマちゃん　のび太くん。
ポンプ　父親・母親。
田中　A・アシモフ。

Q13　目標としている人物。
ローリー　自分。
シマちゃん　しずかちゃん。
ポンプ　特になし、しいていえばナイジェル・マンセル。
田中　シェークスピア。

Q14　最初に買ったレコード。(いつ頃)
ローリー　山本リンダの「きりきり舞い」。
シマちゃん　ピンクレディのベスト。
ポンプ　ベイシティローラーズの「青春に捧げるメロディー」小5位の時。
田中　クリちゃんXマスレコード。

Q15　最初に見たライブ。(いつ頃)
ローリー　ノベラだったかなあ。
シマちゃん　すかんち。すごく前。
ポンプ　寺西さんがアマチュアの頃やってた「M・M・O・P」というバン

●撮影　桃太郎

ド。中2頃。

田中　ディープパープル（第2期）まだ幼児だった。

Q16　好きな異性のタイプ。

ローリー　ロングヘアで茶色の髪で目がでっかくて、ビロードの服を着ている子は、すぐにTEL番号を教えちゃうのです。

シマちゃん　体のでっかいめの人。しゃべり方がやさしくて早口じゃない人。

ポンプ　背が割と小さくて、髪方が本人に似合ってて胸がおおきくて、ポッチャリ型の人。このうち2つがそろっていればOK。タレントでは、高岡早紀さん、AV女優では、小森愛さんが好きだよーん。

田中　学究的な人。神経の細やかな人。

Q17　愛読書。（好きな作家）

ローリー　クイーンの詩集。

シマちゃん　筒井康隆。

ポンプ　筒井康隆「七瀬シリーズ」半村良なんでも好き。

田中　A・アシモフ「ファウンデーション」（銀河帝国の興亡）。

Q18　好きな映画。

ローリー　大活劇青春ホラー物。

シマちゃん　「トミー」。

ポンプ　ハリソン・フォードの出てる映画。特に「ブレードランナー」「モスキートコースト」他は単純にスカッとする映画「ロッキー」とか。

田中　アンソニーパーキンスの「サイコ」。

Q19　好きなTV番組。

ローリー　白石まるみさんと木の葉のこさんが出てるテレビ。

シマちゃん　CBSドキュメント。

ポンプ　「飛び出せ！釣り仲間」「釣りロマンを求めて」「F1グランプリ」。

田中　「モンティパイソン」。

Q20　好きな漫画。

ローリー　手塚治虫さんのもの全部。

シマちゃん　「風呂あがりの夜空に」小林じんこ←ライブに来てくれた。マンガのはしっこに登場させてくれてうれしかったのだ。

ポンプ　内田春菊さんのマンガなら全て好き。一番好きなのは小林じんこさんの「風呂上がりの夜空に」小林まことさんのも好き。

NEXT SCENE BAND 1991
すかんち

ROLY TERANISHI　SHIMA-CHANG　Dr. TANAKA　OBATA POMP

田中　漫画はキライです。
Q21　よく買う雑誌は。
ローリー　QAとゆー本。
シマちゃん　「パズラー」。
ポンプ　「テレパル」。
田中　「マックライフ」。
Q22　好きな言葉。
ローリー　たすけてーとゆう女の悲鳴。
シマちゃん　んがっ。
ポンプ　ガッツだよヤマちゃん。
田中　言葉はとても大切ですがそれ自体には深い意味は無いのですよ。
Q23　好きなスポーツは。
ローリー　ロックンボーリンとみボーリン。
シマちゃん　球技。最近はボーリングしかできない。
ポンプ　釣り、アメフト、オートスポーツ。
田中　モータースポーツ。特に三輪車競争。
Q24　行ってみたい所。
ローリー　すごい所。
シマちゃん　ディズニーランド。
ポンプ　カナダで釣りをしたい。
田中　あなたの部屋。
Q25　ペットはいますか。飼うとしたら何。
ローリー　今はいない。飼うとしたらイタリア人の娘。
シマちゃん　実家に超ヨボヨボの犬がいる。部屋でポメラニアンが飼いたい。
ポンプ　猫がすごーく好きなので、ぜひ飼いたい。
田中　Yes。美少年を2、3匹。
Q26　あなたのフェイバリットミュージシャンは。
ローリー　70年代のフレディ・マーキュリー（クイーン）。
シマちゃん　トム・ピーターソン。
ポンプ　テリーボジオ。ジミーペイジ。チープトリック。とにかくレッドツェッペリン命。
田中　10cc。
Q27　あなたのフェイバリット・アルバムは。
ローリー　クイーンのもの。
シマちゃん　『IN COLER』『HEAVEN TONIGHT』チープトリック。
ポンプ　UK『デンジャーマネー』L・ZEP『1st』ガンズ『アペタイト・フォー・デストラクション』

田中　「オリジナル・サウンドトラック」
Q28　サインってもらったことありますか。
ローリー　小泉ラナさん。（ストリッパー）
シマちゃん　岸田智史。母親の友人の親せきだった。
ポンプ　小林じんこさん。伊藤つかさ。大槻ケンジ。
田中　Yes。医師、検死報告書に。
Q29　休日は何をしていますか。
ローリー　休日はない。もしあったら仕事。
シマちゃん　おせんたく。おそうじ。おファミコン。お買物。
ポンプ　家で勉強。ウソ、バイクで走り回っている。
田中　執筆活動（小説）。
Q30　デートしてますか。
ローリー　した、した。今日したよ。白石まるみさんと（夢の中で）。
シマちゃん　してない。ほっとけ!!
ポンプ　しょっちゅう。相手がたくさんいるので。ウソ。
田中　NO。
Q31　生まれ変われるなら、何になりたい。
ローリー　水晶。
シマちゃん　ポメラニアン。
ポンプ　ムツゴロウさん。
田中　宇宙人。
Q32　あなたにとって音楽とは。
ローリー　カッコ良い。
シマちゃん　催眠術。錯覚。
ポンプ　今の生活全て。
田中　分かりません。
Q33　世間に対して、自分(とバンド)はどういう存在でありたい。
ローリー　カッコ良い奴。
シマちゃん　枕の下に写真をひいて、夢の中で見てほしい。
ポンプ　変な存在、忘れられない存在。
田中　毒眉薬。
Q34　最後になんでも一言。
ローリー　カッコ良い僕にだまされてみましょう。パチパチのおじょーちゃん……けけけけ。
シマちゃん　「ツモ」
ポンプ　ライブをがんばる。レコーディングをがんばる。ドラムもがんばる。
田中　「うりゃうりゃ」とにかくすごい奴らです。

スパークス ゴーゴー

SPARKS GO GO

SPARKS GO GOは、Vo&B、G、Drという3人による最小ユニットのバンドである。3人編成の持ち味である“ムダのない音”がすごくかっこいい。しかもパワフルでストレートな曲がいいのだ。注目度ナンバー1だ。

●1989年、「Be Modern」解散後、個々に活動していた八熊、橘兄弟が「Moderns」として全国のイベントに出演。ユニコーンの奥田民生とのセッションバンド「BAND HAS NO NAME」L・Aでレコーディング。日比谷野外音楽堂のイベントで最初で最後のセッションライブを行う。90年、民生を除く3人で「SPARKS GO GO」としての活動開始。5月21日シングル「BLUE BOY」7月21日アルバム「SPARKS GO GO」リリース。

●所属レコード会社＝EPICソニーレコード

●所属事務所＝CSアーティスツ

TAPPASHI・BAND・GA・O・MO・SHIR・I

やっぱしバンドがオモシロイ！

●撮影　小木曽威夫

Q1 バンド名の由来を教えて下さい。
八熊 10個くらいマネージャーが並べて、そんなかから決めた。
厚也 マネージャーがいつの間にかつけたから由来は知らん。
哲也 特にない。明るきゃいいという感じ。SPARKして行け行け、ってなもんです。

Q2 名前の由来を教えて下さい。
八熊 わからん。
厚也 親が勝手につけたから由来は知らん。
哲也 知らない。

Q3 生年月日と出身地。
八熊 S41年11月28日。北海道。
厚也 S40年7月5日。北海道。
哲也 S41年11月18日。北海道。

Q4 バンド内で何と呼ばれていますか。
八熊 YACK。
厚也 あに！
哲也 Tecchi。

Q5 小さい頃のニックネームは。
八熊 YACK。
厚也 あっちゃん、あっち。
哲也 Tecchi。

Q6 身長・体重・靴のサイズ・視力。
八熊 172cm・53kg・7½以上（でっかければすてき）・1.5と1.5。
厚也 172cm・53kg・26cm・1.2と1.2。
哲也 170cm・52kg・25.5cm・1.5と1.5。

Q7 趣味。
八熊 バイク、パチンコ、靴集め（NIKE、Champion、VANS、Adidas）
厚也 パチンコ、猫、ギター、女。
哲也 バイク、ビデオ鑑賞、etc。

Q8 特技。
八熊 最高に似てない物まね。どんなに無理しても病気しない身体。
厚也 腰が悪い。
哲也 ヒゲが伸びる。

Q9 今いちばん欲しいもの。
八熊 NIKEのAIR JORDAN5。
厚也 健康な身体。
哲也 ひま。

Q10 今いちばんお金をかけているもの。
八熊 バイク。
厚也 ギター。
哲也 バイク。

Q11 血液型と自己分析。
八熊 O型。さらにいて座というとんでもない脳天気野郎。
厚也 Btype。よくわからん。
哲也 Rh+B、らしくない。

Q12 癖。
八熊 寝ててもベースを弾く。
厚也 大ボケ。
哲也 特にない。

Q13 尊敬している人物。
八熊 八熊慎一さん。
厚也 北里晃一。
哲也 所ジョージ。

Q14 目標としている人物。
八熊 八熊慎一。
厚也 Joe Perry。
哲也 5年後の自分。

Q15 最初に買ったレコード。（いつ頃）
八熊 小学4年生のときに買った、ジグゾーの「スカイ ハイ」（ミル・マスカラスのテーマ）
厚也 KISS『ALIVEⅡ』。小学5年ぐらい。
哲也 小学3年生。ピンクレディー「SOS」。

Q16 最初に見たライブ。（いつ頃）
八熊 小学2年生のとき。何とかハワイアンセンターのベンチャーズ。
厚也 中3。ロッカーズ。
哲也 中2か中3のとき。モッズ。

Q17 好きな異性のタイプ。（具体的に）
八熊 可愛いけりゃ良い。ルックスもあるが話してて可愛いいとかいろいろあるでしょ。
厚也 自分にピッタリの女性。
哲也 かわいい人。特に他はない。

Q18 愛読書。（好きな作家）
八熊 村上龍。特に『愛と幻想のファシズム』
厚也 横溝正史の本とか、スピリッツ。
哲也 本は読みません。

Q19 好きな映画。
八熊 「ゴッド・ファーザー」「ワンス・アポン・ア・タイム・イン・アメリカ」「ブリキの太鼓」「チャイナタウン」。
厚也 「STING」「ディアハンター」「ゴッド・ファーザー」。
哲也 「アビス」。

Q20 好きなTV番組。
八熊 「19××」
厚也 CXの「TVでNONFIX」
哲也 ドラマ。

Q21 好きな漫画。
八熊 「すすめパイレーツ」 by江口寿史。
厚也 ない。
哲也 エロマンガ。

Q22 よく買う雑誌は。
八熊 「cut」「03」。
厚也 「ロッキン・オン」「ギターマガジン」「プレイヤー」。
哲也 「TVぴあ」。

Q23 好きな言葉。
八熊 楽あれば楽あり。
厚也 ゆうゆうと急げ。
哲也 好きです、さっぽろ。I feel Coke。

Q24 好きなスポーツは。
八熊 野球、スキー、ゴルフ。
厚也 Rock'n Roll。
哲也 走ること以外。

Q25 行ってみたいところ。
八熊 未来、イタリア、新島。
厚也 ペルー。
哲也 ハワイ。

Q26 ペットはいますか。飼うとしたら何。
八熊 いない。自分と同じくらいの大きさの犬。しゃべればなお良い。
厚也 いる。猫。
哲也 いない。女。

Q27 あなたのフェイバリット・ミュージシャンは。
八熊 RICK NEELSEN。
厚也 Led-Zeppelin、AEROSMITH、KISS。
哲也 ボンゾ。

Q28 あなたのフェイバリット・アルバムは。
八熊 Led-Zeppelin『the Song Remain the Same』、『Cheap Trick at Budokan』、KISS『ALIVEⅡ』。
厚也 KISS『ALIVEⅡ』、Led-Zep『the Song Remains the Same』。
哲也 KISS『ALIVEⅡ』。

Q29 サインをもらったことがありますか。（それはだれ）
八熊 森尾由美。
厚也 ある。the MODS。
哲也 ある。石川ひとみと中森明菜。

Q30 共演したいミュージシャンは。
八熊 森尾由美。
厚也 いない。
哲也 無回答。

Q31 〝教え〟を乞いたいミュージシャンは。
八熊 森尾由美。
厚也 松浦善博。
哲也 バディー・リッチ。

Q32 あなたのライバルは。

SHIN'ICHI YAKUMA

TETSUYA TACHIBANA

ATSUYA TACHIBANA

八熊　森尾由美。
厚也　自分。
哲也　グレッグ・ビゾネット。
Q33　許せない奴って、どんな人間。
八熊　森尾由美の彼氏。
厚也　れーぎ知らず。
哲也　許せない奴。
Q34　恋しくて、泣いたことってありますか。
八熊　ある。100回くらい。
厚也　たぶんある。
哲也　近い経験はある。
Q35　最近嬉しかったことは。
八熊　バイク、自宅録音機材を買った。
厚也　ギターをもらった。
哲也　ない。
Q36　最近悲しかったことは。
八熊　あんまり高いもん買ったために、すっからぴん君になってしまった。
厚也　ない。
哲也　毎日。
Q37　今日のウォークマンに入っているカセットテープは。
八熊　ウォークマンは持っとらん。
厚也　ウォークマンは持ってない。
哲也　フィッシュボーン。
Q38　45分テープでオリジナル・テープを作って下さい。(アーティスト名、曲名)
八熊　45分だけじゃ私は作れん。
厚也　ヤダ！
哲也　BAND HAS NO NAME。
Q39　休日は何をしていますか。
八熊　いろいろ。パチンコ、旅行、ねる。
厚也　ねる。
哲也　買物、睡眠、デート。
Q40　デートしてますか。
八熊　してんに決まってんでしょ。
厚也　してない。
哲也　たくさんしてる。
Q41　生まれ変わるなら何になりたい。
八熊　森尾由美。
厚也　男。
哲也　別に希望はない。
Q42　もしもミュージシャンになっていなかったなら、何になっていましたか。
八熊　森尾由美のスタッフ。
厚也　ちんぴら　or　政治家。
哲也　板前　or　職人もの。
Q43　夜、寝る前にすることは。
八熊　布団をかける。
厚也　ふっキン。
哲也　TVを見る。
Q44　あなたにとって音楽とは。
八熊　社会と唯一ふれあうためのもの。
厚也　あそび。
哲也　生活必需品。
Q45　世間に対して、自分（とバンド）はどういう存在でありたい。
八熊　怖すぎず、やさしすぎず、音は重く、性格は軽く。
厚也　神。
哲也　申しわけないものでありたい。
Q46　90年代、音楽はどうなっていくと思いますか。
八熊　原点に帰りつつ、民族音楽に近づく。
厚也　わかってたら苦労しない。
哲也　クズは消える。
Q47　パチ▼パチに対して、一言。
八熊　すごろく作って。
厚也　ガンバレ！
哲也　実にいい雑誌だ。泣けるぜ、クゥー！
Q48　90年最大のニュースは。
八熊　SPARKS GO GOデビュー。
厚也　スパークス　ゴー　ゴーのデビュー。
哲也　今年の夏バイクに全然乗れなかったこと。
Q49　最後に何でも一言。
八熊　91年は私たちの年なんで、よろしくおねげいします。
厚也　長い。
哲也　お金持ちの人へ。お金ください！

89年夏▼Be Modern解散後バラバラに活動していた八熊真一（写真右）と橘厚也（写真中央）・哲也（写真左）兄弟が〝ベクトルの方向一致〟により、Modernsとして全国のイベントに出演する。
秋▼奥田民生（UNICORN）とModernsによるセッション・バンドBAND HAS NO NAMEがL.A.にてレコーディング。9月30日、日比谷野音のイベントにて最初で最後のライブ出演。
90年冬▼1月21日アルバム『BAND HAS NO NAME』をリリース（全6曲）その後、奥田を除いた3人は本格的に活動を開始。SPARKS GO GOとなる。●5月21日㋛「BLUE BOY」7月21日㋐『SPARKS GO GO』12月21日㋪『R&R SUPERMARKET』㋛「ダイヤモンド・リル」を発売。

NEXT SCENE BAND 1991

コブラ

COBRA

●今、最っも気持ちのいいライブといえばCOBRAのライブであろう。"僕らはこの音楽が好きなんだ"的に存在するビートパンクミュージック族とは一線を画するCOBRAはバカじゃない。
●1982年、ヨースコーとナオキが中心となり「COBRA」結成。84年、ナオキがラフィンノーズに参加するため脱退。その後、リリース、ライブ順調に活動が続くが、87年、突如活動停止。89年、ナオキとポンがラフィンノーズ脱退。ヨースコー、ナオキ、ポン、キーヤン（元々コブラのドラムス）の4人で10月20日京都「礫々」にて「COBRA」を復活。90年5月5日アルバム『OiOiOi』10月10日『CAPTAIN NIPPON』9月5日シングル「オレたち／REAL LOW」をリリース。
●所属レコード会社＝ポニーキャニオン
●所属事務所＝パブリックイメージ
●ファンクラブ＝「OiOi警備隊」585-2643

TAPPASHI・BAND・GA・O・MO・SHIRO・I

やっぱしバンドがオモシロイ！

●撮影 ホンマタカシ

Q1 バンド名の由来を教えてください。
ヨースコー チェリーエンジェルの乗っていた車。
ポン ヨースコーがつけてくれました。
ナオキ ヨースコーに訊け。
キーヤン しらん。
Q2 名前の由来を教えて下さい。
ポン 自分では最高にポップだと思ってるんですよ。
ナオキ 直木賞から直樹になった。
キーヤン 北澤のきでKI-YAN。
Q3 生年月日と出身地は。
ヨースコー S40年6月15日。
ポン S37年9月13日。大阪府。
ナオキ S40年6月18日。大阪生まれ兵庫育ち。
キーヤン S42年1月14日。大阪府
Q4 バンド内でなんと呼ばれてますか。
ヨースコー ヨースコー。
ポン トッシュ。
ナオキ ナオキ。
キーヤン ボケ。
Q5 小さい頃のニックネームは。
ヨースコー よごれ。
ポン ヒデ坊。
ナオキ ナオキ。
キーヤン ない。
Q6 身長・体重・靴のサイズ・視力。
ヨースコー 176cm・63kg・26cm・わからん。
ポン 178cm・64kg・9インチ・1.5。
ナオキ 175cm・59kg・26.5cm・1.2。
キーヤン 185cm・53kg・24.5cm・0.1。
Q7 趣味。
ヨースコー アクション映画、レコードかん賞。
ポン できるだけ執着はもたないようにしています。
ナオキ 野球。
キーヤン 音楽、○メ○。
Q8 特技。
ヨースコー ジョンオクトーバー（キェルシー）のものまね。
ポン チョウチョ結び。
ナオキ 記憶力、野球。
キーヤン S○X。
Q9 今一番欲しい物。
ヨースコー スクリュードライバー「hail the new dawn・white riden」、コックスペアー「1st LP」
ポン ウォークマンとカセットデッキ。
ナオキ ひとり暮しの部屋。
キーヤン お金。
Q10 今一番お金をかけているもの。
ヨースコー めし。
ポン レコード。
ナオキ 食事。
キーヤン 電話代。
Q11 血液型と自己分析。
ヨースコー O型、普通じゃない。
ポン A型、やってます。でもB型っぽい。
ナオキ A型、天王星人そのもの。
キーヤン A型、へたれ。
Q12 癖。
ヨースコー ひとり言。
ナオキ 髪をよくさわる。
キーヤン ない。
Q13 尊敬している人物。
ヨースコー 親。
ポン 全ての活動家、パワフルであれ。
ナオキ 両親。
キーヤン おじいちゃん。
Q14 目標としている人物。
ヨースコー 目標427店。
ポン いません。
ナオキ 特になし。
キーヤン おじいちゃん。
Q15 最初に買ったレコード。（いつ頃）
ヨースコー 仮面ライダー。
ポン マンダム男の世界。
ナオキ 木綿のハンカチーフ（小学生）。
キーヤン わすれた。
Q16 最初に見たライブ。（いつ頃）
ヨースコー クイン1979・20・Fri・AP 大阪フェスティバルホール。
ナオキ ドリフの国語・算数・理科・社会（小学生）。
キーヤン わすれた。
Q17 好きな異性のタイプ。（具体的に）
ヨースコー 世話女房（ジェーン・フォンダ、ファラ・フォー・セットメジャース）
ポン 女なんか目じゃないですね。杉本彩。
ナオキ 仕事上手遊び上手。
キーヤン べっぴん、年上。
Q18 愛読書。（好きな作家）
ヨースコー ロックマガジン（阿木ヅル）
ポン 阿部譲二。
ナオキ なし、どうくまん。
キーヤン 本は読まない。
Q19 好きな映画。
ヨースコー アクション（チャックノリス、ジェームスカーン、ジーンハックマン、バートレイノルズ、藤岡弘）
ポン わんわん物語。
ナオキ 青春コミカル。
キーヤン 映画は見ない。
Q20 好きなTV番組。
ヨースコー ドリフ大爆笑。
ポン ない。
ナオキ プロ野球ニュース。
キーヤン TVはあんまり見ない。
Q21 好きな漫画。
ヨースコー なにわ遊侠伝。
ポン もりかねこ先生、全種。
ナオキ 特にない。ヤング・ジャンプをひまつぶしに読むくらい。
キーヤン 漫画は読まない。
Q22 よく買う雑誌は。
ヨースコー アサヒ芸能、週間まんが。
ポン ティーンズ・ロード。
ナオキ 週刊プレイボーイ。
キーヤン 買わない。
Q23 好きな言葉。
ヨースコー ファイティングスピリッツ。
ポン "スタイルとしてのパンク"
ナオキ 一喜一憂。
キーヤン 殺すぞ。
Q24 好きなスポーツは。
ヨースコー キックボクシング。
ポン サッカー。
ナオキ 野球。
キーヤン 野球。
Q25 行ってみたい所。
ヨースコー イングランド。
ポン アフリカだと思うんですが、一度、幽体離脱して行ったことあるんですよ。
ナオキ 正月のハワイ。
キーヤン ない。
Q26 ペットはいますか。飼うとしたら何。
ヨースコー 犬。
ポン いません。できるだけ長くつきあっていける奴がいいですね。
ナオキ 今はいない。犬（プードル）
キーヤン いない。
Q27 あなたのフェイバリット・ミュージシャンは。

BAND 1991 next scene

COBRA

ヨースコー　スティンキー・ターナー。
ボン　ブリリアントのユース。
ナオキ　特になし。

キーヤン　いっぱいいる。
Q28 あなたのフェイバリッド・アルバムは。
ヨースコー　ユックニーリジェクツ「1st」「2nd」
ボン　水口晴幸「……ing」
ナオキ　特になし。
キーヤン　たくさんある。
Q29 サインってもらったことありますか。
ヨースコー　タイガース時代の田淵。
ボン　あります。カオスUKのカオスに。
ナオキ　紳助、竜助。
キーヤン　ある、たくさん。
Q30 共演したいミュージシャン。
ヨースコー　カールスミス。
ボン　CONDEMNED84。

ナオキ　トップタレント達。
キーヤン　いっぱいいる。
Q31 〝教え〟を乞いたいミュージシャンは。
ヨースコー　フレデリックバルサラ。
ボン　馬鹿にしているんですか。
ナオキ　絶対いない。
キーヤン　いっぱいいる。
Q32 あなたのライバルは。
ヨースコー　スティンキーターナー。
ボン　自分です。後メンバー。
ナオキ　自分。
キーヤン　ミッキーローク。
Q33 許せない奴って、どんな人間。
ヨースコー　常識のないミュージシャンよーけおる。

ボン　許せない人間なんてこの世にはいませんよ。
ナオキ　本気で死んでほしいと思える人。
キーヤン　わからん。
Q34 恋しくて、泣いたことってありますか。
ヨースコー　ない。
ボン　ありません。でも、ふられた時は、涙が出ました。
ナオキ　泣くまではいかへんけど、瞼の裏に焼きつけ、ひとり遊びしたことはある。
キーヤン　ない。
Q35 最近嬉しかったことは。
ヨースコー　ロンドンにはまだスキンズがいっぱいいてるという話。

ボン　ディスチャージのニューアルバム。
ナオキ　飲んで騒いでる時。
キーヤン　ない。
Q36 最近、悲しかったことは。
ヨースコー　ライブでスキンズが少ない。
ボン　VINYL JAPANでアメピクスの１ｓｔを2時間ならんでも買えなかったこと。
ナオキ　秋の夜なが。
キーヤン　LIVEの前にホールのロビーに行ったのに誰も気づかなかった。
Q37 今日のウォークマンに入っているカセットテープは？
ヨースコー　COBRA。
ボン　Oーiですね。それも激しいやつ。
ナオキ　ウォークマンがない。
キーヤン　ウォークマンは持ってない。
Q38 デートしてますか。
ヨースコー　最近少ない。
ボン　なかなか納得できる奴がいなくて。
ナオキ　したい！
キーヤン　してません。
Q39 生まれ変われるなら、何になりたい。
ヨースコー　白人（イギリス人）もしくは、日本空手チャンピオン。
ナオキ　女、プロ野球選手。
キーヤン　大学まで行ける頭を持った人。
Q40 もしもミュージシャンになっていなかったなら、何になっていましたか。
ヨースコー　ただのスキンヘッド。
ボン　武闘家。
ナオキ　プロ野球選手。
キーヤン　飲み屋のマスター
Q41 あなたにとって音楽とは。
ヨースコー　いいレコードにめぐり会った時幸せ～て感じ。
ボン　音楽はきらいですね。パンクが好きなんですよ。
ナオキ　生活。
キーヤン　人生。
Q42 世間に対して、自分（とバンド）はどういう存在でありたい。
ヨースコー　「コブラのライブ楽しいぜ」ってみんなが言うそれだけでいい。カリスマなにそれ。
ボン　自分の後継者が見付かり引退ですね。
ナオキ　HERO。キャプテンニッポン。
キーヤン　わからん。

NAOKI　YOSU-KO

KI-YAN　PON

NEXT SCENE BAND 1991

トレイシー

TRACY

●そこらへんにいるバンドにあきたら、トレイシーを聞けばいい。カミソリのような緊迫感、スリリングな歌いまわし、真実が何かを見付めなおすことができるだろう。
●1987年、柴垣（リーダー）、梅田、鎌坂により「TRACY」を結成。89年、斎藤が参加し現在のメンバーになる。神戸チキンジョージを本拠地にライブ活動を展開。90年5月23日アルバム『GIGA』でデビュー。11月7日シングル「RUDE WAY-FEEL WAY」、12月5日アルバム『IMITATION LOVE&PEACE』をリリース。
●所属レコード会社＝東芝EMI
●所属事務所＝ハートランド
●ファンクラブ＝渋谷区神宮前3-1-24 ソフトタウン青山519「TRIPPING TRACY」

Q1 バンド名の由来を教えて下さい。
柴垣 響きだけ。
斎藤 知らん。
梅田 カマが突然言いだした。
Q2 名前の由来を教えてください。
鎌坂 誠実からとったんとちゃうかなあ。
柴垣 姓名判断で。
斎藤 知らん。
梅田 親がかってにきめた。
Q3 生年月日と出身地は。
鎌坂 S44年2月4日。神戸。
柴垣 S38年4月8日。
斎藤 S39年11月22日。京都。
梅田 S39年7月18日。京都。
Q4 バンド内でなんと呼ばれてますか。
鎌坂 カマ。
柴垣 柴やん。
斎藤 きもち。
梅田 全員がちがった呼び方をするので。
Q5 小さい頃のニックネームは。
鎌坂 カマヤン。
柴垣 ラルピン。
斎藤 きもち。
梅田 特になし。
Q6 身長・体重・靴のサイズ・視力。
鎌坂 171cm・50kg・25.5cm・1.5。
柴垣 174cm・53kg・25.5cm。
斎藤 172cm・58kg・25.5cm・左1.5右2.0。
Q7 趣味。
鎌坂 寝る。
柴垣 作曲。
斎藤 ブラボー極II（松竹梅）。
梅田 単車、GIANT7。
Q8 特技。
鎌坂 寝る。
柴垣 忘れもの。
斎藤 彫物。
梅田 車の長距離運転。
Q9 今一番欲しい物。
鎌坂 金、皮ジャン。
柴垣 皮ジャン関係。
斎藤 車。
梅田 コルベット スティングレイ、AK AI S1100。
Q10 今一番お金をかけているもの。
鎌坂 家賃。
柴垣 楽器、録音機材。
斎藤 生活費。
梅田 部屋の内装。
Q11 血液型と自己分析。
鎌坂 O型。内向的。
柴垣 O型。温厚。
斎藤 A型。普通の人。
梅田 Rh＋AB型。フツーの人。
Q12 癖。
鎌坂 寝る。
柴垣 忘れもの。
斎藤 自分ではわからない。
梅田 特になし。
Q13 尊敬している人物。

TAPPASHI・BAND・GA・O・MO・SHIRO・I
やっぱしバンドがオモシロイ！

●撮影 小木曽威夫

TERUHIKO SHIBAGAKI　**KATSUNORI SAITO**　**MAKOTO KAMASAKA**

鎌坂　にいちゃん。速水誠さん。おさむさん。
柴垣　ジョン・レノン。
斎藤　おやじ。
梅田　ケヴィン・シュワルツ、リドリー・スコット、テリー・ボジオ、H・Rギーガー、ルチオ・フルチ。

Q14　目標としている人物。
鎌坂　?
柴垣　ポール・マッカートニー。
斎藤　特になし。
梅田　特になし。

Q15　最初に買ったレコード。(いつ頃)
鎌坂　ピンポンパンのLP。幼稚園の頃。
柴垣　スカイハイ。12歳。
斎藤　沢田研二「サムライ」。
梅田　「走れコータロー」。幼稚園の頃。

Q16　最初に見たライブ。(いつ頃)
鎌坂　吉田拓郎。小学5年生の頃。
柴垣　ボストン。14歳頃?
斎藤　小学生の時、おやじにつれられて、弦楽四重奏。
梅田　クラッシュパッド（アースシェーカーのマーシー在籍）。中学1年生。

Q17　好きな異性のタイプ。(具体的に)
鎌坂　小さい子、ぼーっとした子。
柴垣　あくび娘。
斎藤　気のきく子、ひかえめな子。
梅田　観月アリサのような人。

Q18　愛読書。(好きな作家)
鎌坂　なし。
柴垣　ランボーの詩集。
斎藤　大藪春彦。
梅田　スティーブン・キング、ラヴ・クラフト。

Q19　好きな映画。
鎌坂　ゾンビ。
柴垣　ゴースト。
斎藤　ブラックレイン。
梅田　スティーブン・キングが原作をしている映画。リドリー・スコット、ジョージ・A・ロメオ、ルチオ・フルチ、フランシス・コッポラなどが監督している映画。

Q20　好きなTV番組。
鎌坂　「ガキの使いやあらへんで。」
柴垣　「夢で逢えたら」「ガキの使いやあらへんで」。
斎藤　「パペポ」。
梅田　Weather report。

NEXT SCENE BAND 1991
TRACY

KAZUYA UMEDA

Q21 好きな漫画。
鎌坂 なし。
柴垣 「ブラックジャック」。
斎藤 「コージ苑」。
梅田 ビッグコミックスピリッツ、ヤングサンデー。

Q22 よく買う雑誌は。
鎌坂 なし。
柴垣 なし。
斎藤 ない。
梅田 オートバイ誌。

Q23 好きな言葉。
鎌坂 たごさく。
柴垣 七転八起。
斎藤 ない。
梅田 殺(ヤ)ラレルマエニ殺(ヤ)レ。

Q24 行ってみたい所。
鎌坂 シドニー。
柴垣 エジプト。
斎藤 インド。
梅田 温泉。

Q25 好きなスポーツは。
鎌坂 ベースボール。
柴垣 バスケットボール。
斎藤 野球、バスケットボール。
梅田 サッカー、モータースポーツ。

Q26 ペットはいますか。飼うとしたら何。
鎌坂 いない。飼うとしたら羊。
柴垣 いない。飼うとしたらイヌ。
斎藤 います。猫が一匹。名はCHI-C(チッ)CHI-(チー)(♂)。
梅田 猫のツン太。

Q27 あなたのフェイバリット・ミュージシャンは。
鎌坂 吉田拓郎。
柴垣 ビートルズ、エルビス・コステロ。
斎藤 マイケル・シェンカー。
梅田 テリー・ボジオ、ロジャー・テイラー、秋田鋭次郎。

Q28 あなたのフェイバリット・アルバムは。
鎌坂 INU「メシ喰うな!」。
柴垣 ビートルズ「ホワイトアルバム」。
斎藤 マイケル・シェンカー・グループ「神」。
梅田 ミッシングパーソンズ「スプリングセッションM」、ノベラ「パラダイスロスト」。

Q29 サインってもらったことありますか。
鎌坂 たかちゃん(元ラブポーション)。
柴垣 なし。
斎藤 ロバート・プラント(ソロで来日した時に、京都の清水寺にて)。
梅田 コージー・パウエル、子供バンドのうじきつよし、大和ゆう。

Q30 共演したいミュージシャンは。
鎌坂 ワクチン5。
柴垣 エルビス・プレスリー。
斎藤 マイケル・シェンカー。
梅田 THE MAD CAPSULE MARKETS。

Q31 あなたのライバルは。
鎌坂 かっちん、マッドカプセルのKYONO。
柴垣 いない。
斎藤 別になし。
梅田 デランジェのTETSU。

Q32 許せない奴って、どんな人間。
鎌坂 別にいない。
柴垣 口だけの奴!
斎藤 裏切り者。
梅田 裏切り者。

Q33 恋しくて泣いたことってありますか。
鎌坂 ある。
柴垣 なし。
斎藤 なし。
梅田 ビキンのことですか?

Q34 最近、嬉しかったことは。
鎌坂 ロンドンになった。
柴垣 別になし。
斎藤 松・竹・梅。
梅田 7・7・7。

Q35 最近悲しかったことは。
鎌坂 別になし。
柴垣 別になし。
斎藤 松・竹・7。
梅田 7・7・6。

Q36 休日は何をしてますか。
鎌坂 寝てる。
柴垣 寝ているか、曲をつくっている。
斎藤 寝ているか、パチンコ。
梅田 寝ているか、パチンコ。

Q37 デートしてますか。
鎌坂 してない。
柴垣 いいえ。
斎藤 してません。
梅田 当然、男として。

Q38 生まれ変われるなら、何になりたい。
鎌坂 羊。
柴垣 ライオン。
斎藤 人間。
梅田 梅田一哉。

Q39 もしもミュージシャンになっていなかったなら。何になってましたか。
鎌坂 羊。
柴垣 だらしない普通の人。
斎藤 商人。
梅田 レーサーかトラックの運ちゃん。

Q40 夜、寝る前にすることは。
鎌坂 羊を数える。
柴垣 特になし。
斎藤 ふとんをひく。
梅田 ×××。

Q41 あなたにとって音楽とは。
鎌坂 いなさく。
柴垣 フラストレーション最終出口。
斎藤 字のとうり、音を楽しむ。
梅田 Life Work。

Q42 世間に対して、自分(とバンド)はどういう存在でありたい。
鎌坂 たごさく。
柴垣 山伏。
斎藤 異端児。
梅田 フツーのヤツ。

Q46 45分テープでオリジナル・テープを作って下さい。
鎌坂 A面 INU「フェイドアウト」アナーキー「シティーサーファー」スターリン「玉ねぎ畑」TRACY「ジックオブアイドル」ジグザグ「イチビリ」 B面 スタークラブ「パワートゥザパンクス」INU「おっさんとおばはん」マッド「あやつり人形」拓郎「知識」TRACY「イミテーションラブ&ピース」
柴垣 A面 ビートルズ「ストロベリーフィールズフォーエバー」「アクロスザユニバース」「ヘルプ!」「イエスタディ」 B面 ダムド「ラブソング」エルビスコステロ「ノーアクション」トレイシー「ダーティーボーイ」
斎藤 A面 トランスビジョン バンプ「ベイビーアイドントケア」ポリス「メッセージインアボトル」TPAU「ビトウインザラインズ」ウルトラVOX「ヤングサベイジ」フェイストゥフェイス「コンフェス」 B面 ゲーリームーア「バックオンザストリート」アクセプト「ブリーカー」スコーピオンズ「カロンの渡し守」レインボー「キルザキング」MSG「イントゥザアリーナ」
梅田 A面 ザマッドカプセルマーケット「ライフゲーム」スターリン「コールホーズの玉ネギ畑」INU「ライトサイダーB」ジクザク「イチビリ」アナーキー「シティサーファー」ノベラ「逃げろ」デランジェ「アンアフロディシャク」 B面 アダムアント「アントミュージック」フランクザッパ「アイムソーキュート」ミッシングパーソンズ「ロックンロールサスペンション」クイーン「アイムインラブウィズマイカー」カーズ「キャンディーO」フランキーゴーズトゥハリウッド「ウェルカムトゥザプレジャードーム」トムトムクラブ「GENIUS OF LOVE」

next scene BAND 1991

ガラパゴス

GALAPAGOS

●熱帯地方もしくは原始時代から登場したかのような魂をゆさぶるハードなリズム、そしてドラマチックにイマジネーションを喚起させる歌。それは、世界中の音楽を消化し吸収したもののみに許される音の世界であった。ガラパゴスは、まさにその音を自由にあつかう。全っく新しいオジナリティーにあふれるバンドだ。
●1988年、ライブハウスで知り合った上西（B）と狩野（Vo）が田中（G）を率いて「GARAPAGOSU」を結成。4ヶ月後飯塚（Dr）が加入する。定期的にライブ活動を展開し、1990年9月27日1stシングル「INDIAN BOY」でデビュー。10月24日1stアルバム『DOWN BY LAW』をリリース。
●所属レコード会社＝東芝EMI
●所属事務所＝IRc2・コーポレーション

Q1 バンドの名前の由来を教えて下さい。
狩野 ナタカが決めた。
田中 はずみ。
上西 島の名前。
飯塚 ガラパゴス諸島から。

Q2 名前の由来を教えて下さい。
狩野 教えない。
田中 よく知らない。
上西 本名。
飯塚 生まれてすぐ親が徹にしようかといったら、姉さんがすぐ徹と呼び出してしまった。

Q3 生年月日と出身地は。
狩野 S42年1月11日。群馬県。
田中 S43年9月11日。大分県。
上西 S42年2月27日。大分県。
飯塚 S44年7月12日。群馬県。

Q4 バンド内でなんと呼ばれてますか。
狩野 タマちゃん。
田中 ナタカ。
上西 やっちゃん。
飯塚 徹。

Q5 小さい頃のニックネームは。
狩野 みーちゃん。
田中 教えたくない。
上西 やっさん。
飯塚 親→徹。友達→徹でん。

Q6 身長・体重・靴のサイズ・視力。
狩野 164cm・40kg・23cm・ふたつで3。
田中 教えたくない。
上西 175cm・56kg・26cm・1.2。
飯塚 180cm・52kg・27cm・1.5。

Q7 趣味。
狩野 ダジャレ。
田中 盗聴。
上西 遊ぶこと。
飯塚 バイクと車。

Q8 特技。
狩野 かけっこ。
田中 特になし。
上西 ワープロ。
飯塚 別になし。

Q9 今一番欲しい物。
狩野 髪の毛。
田中 愛。
上西 酒。
飯塚 家賃。

Q10 血液型と自己分析。
狩野 多分O型。おーちゃきー人間。
田中 AB型。二重人格。
上西 A型。ふつう。
飯塚 O型。ゆっくりしている。

Q11 癖。
狩野 バスに乗る。
田中 しつこい。
上西 家のまわりをうろうろする。
飯塚 貧乏ゆすり（リズムをとっているともいう）。

Q12 尊敬している人物。
狩野 お母さん。
田中 別にいない。
上西 父母。
飯塚 お父さん。

Q13 目標としている人物。
狩野 いない。
田中 別にいない。
上西 いない。
飯塚 別にいない。

Q14 最初に買ったレコード。（いつ頃）。
狩野 チャー（小学生）。
田中 細川たかし「心のこり」（小学生）。
上西 ロックなら「NEVER MIND」（中学生）。
飯塚 およげ たいやきくん（小学生）。

Q15 最初に見たライブ。（いつ頃）。
狩野 チャー（中学生）。
田中 JAPAN（中2）。
上西 アナーキーだっけ（高校ぐらい）。
飯塚 アマチュアのバンド。

Q16 好きな異性のタイプ（具体的に）
狩野 目の玉のキレイな人。女嫌いの女っぽい人。
田中 けつの小さい女。
上西 気をつかってくれて、お金を持ってる人。
飯塚 一緒にいてあきない人。

Q17 愛読書。（好きな作家）
狩野 ない。
田中 別にない。
上西 別になし。

●撮影　北岡一浩

飯塚　別にない。
Q18　好きな映画。
狩野　ベティーブルー。
田中　ブルースブラザーズ。
上西　あもしろい映画。
飯塚　ダイハード、リーサルウェポン。
Q19　好きなTV番組。
狩野　あっぱれさんま大先生。
田中　クリスマス・イブ。
上西　ガキの使いやあらへんで。
飯塚　元気が出るTV。
Q20　好きな漫画。
狩野　ない。
田中　ダンドリくん②。
上西　おぼっちゃま君。
飯塚　染まるんです、くまのプーさん、傷だらけの天使たち。
Q21　よく買う雑誌は。
狩野　買わない。
田中　スピリッツ。
上西　ヤンマガ、スピリッツ。
飯塚　少年マガジン、スピリッツ、DRUMマガジン。
Q22　好きな言葉。
狩野　弱肉強食。
田中　からゲロ。
上西　酒は飲んでものまれるな。
飯塚　ローマは一日にしてならず。
Q23　好きなスポーツは。
狩野　たっきゅー。
田中　ない。
上西　別になし。
飯塚　モータースポーツ全般。
Q24　行ってみたい所。
狩野　東芝の3階のトイレ。
田中　パリ。水着パブ。
上西　フランス。
飯塚　セイシェル。
Q25　ペットはいますか。飼うとしたら何。
狩野　いなかにいる。犬2人で。飼うとしたらネコ。
田中　いない。飼うとしたらウシのよーなネコ。
上西　いない。飼うとしたら魚かカメ。
飯塚　いない。飼うとしたら猫か犬。
Q26　あなたのフェイバリット・ミュージシャンは。
狩野　いない。
田中　多すぎてわからない。
上西　日によって変わる。
飯塚　とりあえずテリー・ボジオ。
Q27　あなたのフェイバリット・アルバムは。
狩野　立花ハジメ『H』。
田中　クラッシュ『ロンドンコーリング』
　　　ガラパゴス『ダウン・バイ・ロウ』
上西　日によって変わる。
飯塚　フラング・ザッパ『ライブ・イン・N・Y』
Q28　サインってもらったことありますか。
狩野　教えたくない。
田中　リーダー。
上西　ない。
飯塚　ない。
Q29　〝教え〟を乞いたいミュージシャンは。
狩野　リバイロ。
田中　わからない。
上西　スティーブえとうさん。
飯塚　教えてもらえない。
Q30　あなたのライバルは。
狩野　いない。
田中　いる。
上西　スバリ田中詠司でしょう。
飯塚　上西やすし。
Q31　許せない奴って、どんな人間。
狩野　ウソつく人。
田中　ウソつき。
上西　人の事を考えないやつ。
飯塚　渋滞をおこすやつ。
Q32　恋しくて、泣いたことってありますか。
狩野　言いたくない。
田中　毎日。
上西　忘れた。
飯塚　ある。
Q33　最近、嬉しかったことは。
狩野　ある。
田中　あるけど教えられない。
上西　ない。
飯塚　宝くじが当たって、ロンドンに行って買い物した夢を見たこと。
Q34　最近悲しかったことは。
狩野　ある。
田中　あるけど教えない。
上西　ない。
飯塚　愛車のGSX-Rがこわれた。
Q35　今日のウォークマンに入ってるカセットテープは?
狩野　ウォークマン持ってない。
田中　ウォークマン持ってない。
上西　ウォークマン持ってない。
飯塚　ウォークマン持ってない。
Q36　休日は何をしていますか。
狩野　寝てる。
田中　テレビを見て、昼寝して、本を読む。
上西　ごろごろしてるか、人と遊んでます。
飯塚　寝てる。
Q37　デートしてますか。
狩野　さあ。
田中　ツアーでタマちゃんとコンビニまで。
上西　まずまず。
飯塚　どうかな。
Q38　生まれ変われるなら、何になりたい。
狩野　私にかってもらうネコ。
田中　女。
上西　岩。
飯塚　やっぱり人間。
Q39　もしもミュージシャンになっていなかったら、何になっていましたか。
狩野　よめ。
田中　パチンコ好きのPA。
上西　ふつうの人。
飯塚　家業をついで自動車整備士。
Q40　夜、寝る前にすることは。
狩野　足をさする。ツアーでは盗聴。
田中　トイレ。
上西　TVを消す。
飯塚　乱れたシーツをなおす。
Q41　あなたにとって音楽とは?
狩野　薬。
田中　バクハツ。
上西　生活。
飯塚　世の中から絶対になくならない物。
Q42　世間に対して、自分（とバンド）はどういう存在でありたい?
狩野　変。
田中　無口。
上西　マイペース。
飯塚　わからない。
Q43　91年、音楽はどうなっていくと思いますか。
狩野　考えたことない。
田中　なるようになる。
上西　おもしろくなる。
飯塚　国境を越える。
Q44　90年最大のニュースは。
狩野　毛がはえた。
田中　ツアー。
上西　デビュー。
飯塚　デビュー。
Q45　45分テープでオリジナル・テープを作って下さい。(アーティスト名、曲名)。
狩野　作れない。
田中　名曲アルバム。
飯塚　フランク・ザッパ「BLACK・PAGE」Ⅰ・Ⅱ、ミッシング・パーソンズ「ウインドウズ」、坂本龍一「CODA」、デビッド・バーン、ラシッド・タハ。
Q46　パチ▼パチに対して一言。
田中　又、よろしくおねがいします。
上西　来年もよろしくおねがいします。
飯塚　けっこう買ってます。
Q47　最後に何でも一言。
狩野　ゴンザエモン。
田中　かくちかこ。
上西　おつかれ様でした。
飯塚　宝クジが当たりますように。

TAMA KANO

EIJI TANAKA

YASUSHI KAMINISHI

TORU IIZUKA

［イングリッシュ・アドベンチャー］体験レポート

英語をしゃべるヤツは、エライ！のだ

超ベストセラー作家シドニィ・シェルダン氏が書き下ろし、名優オーソン・ウェルズ氏が朗読する『家出のドリッピー』をはじめとする〔イングリッシュ・アドベンチャー〕は、「物語の面白さと臨場感溢れる朗読に引き込まれ、ウソみたいに英語を覚えてしまう」と大評判。現在ではすでに100万人の方が参加、このコーナーにも、全国からその成果や感謝のお便りが寄せられています。今回もそのなかから2人の方にご登場いただき、体験を語っていただきました。

E・Aで残り少ない大学生活が充実。もちろん社会人になってもずっと続けるつもりです

●広田真次クン（22歳）大学4年生

去年の9月のこと。ある男性雑誌を読んでいて気になったページがある。それは、高校3年生から大学2年生までの3人の少年たちがカッコつけてキメているグラビアだった。

内容はイングリッシュ・アドベンチャー（以下E・A）の『家出のドリッピー』を始めたら英語がしゃべれるようになった、というものだった。

僕はその頃、ある会社からなんとか内定をもらってホッとしていたときだった。サークルも引退したし、あとの楽しみといったら2月に予定していたアメリカへの卒業旅行くらい。社会人を控えて今さらバイトでもないし、もうのんびり遊んで過ごそうかなって思っていた矢先だったんだ。

でもあのグラビアはショックだった。僕より若いヤツらがなんか目標持って頑張ってるな、ってカンジで。あと半年、遊んで暮らすって考えた自分が情けなく思えたってわけ。

（ウーン英語かあ、そういえば今度就職する会社でも面接のときに英語は話せますかって聞かれたもんな。……やっぱりこれからは日常英会話くらいはしゃべれるのが常識だよな）

それに年下の彼らでも英語ができるようになった教材なら、大学4年生の僕にできないはずはない、っていう気

●Let's Enjoy English

持ちもあったしさ。

そんないきさつでE・Aの『家出のドリッピー』を始めて4ヵ月になる。最初に比べて少しずつ内容が高度になってきたけど、いよいよストーリーも盛り上がってきて、卒業までの時間が有意義に感じる今日この頃。

ようやく耳も英語のイントネーションに慣れてきたしね。ヒアリングをしてて意味が分からない語句が出てきても、前後の文脈からおおよその内容は把握できるようにまでなってきたんだ。

そこで、最近つくづく感じてるのは、英語はやっぱり言葉だってこと。

ほら、今までの受験英語だと、文法を気にしながら一言一句に神経を使って訳したりしてたでしょ。でも、そんなことよりも毎日ナマの英語を聴き込んだほうがはるかに上達するんだよね。僕たちだってそうやって日本語を覚えたんだしさ。

まだペラペラってわけにはいかないけど、ドリッピーを聴くたびに確実に力がついてきているみたい。オーソン・ウェルスに合わせてしゃべっていると、以前より発音がグンとよくなっているのが分かるんだ。高校時代には英語の教科書を朗読してても、クラスのみんなが笑うほど発音オンチだったのにさ。まさに習うより慣れろ、だよね。

今では社会人になってもずっと続けていく気になったし、この調子で頑張れば、入社後は海外勤務だって夢じゃないって、欲も出てきたしね。あの9月に目にしたページには、ほんとに感謝してるんだ。

さて間近に控えたアメリカへの卒業旅行で、まず腕だめししてきます。

やればできるってことを教えてくれたE・A。おかげで念願の大学にも見事、合格！

●中野靖夫クン（19歳）大学1年生

受験シーズン真っただ中のこの季節。今でこそ念願の大学に受かってキャンパスライフをエンジョイしていますが、僕も一年前に受験生だったときのことを思い出します。

そもそも僕は中学から理系教科が大の苦手。大学は受験科目が少ない私立の文系にと、早くから決めてたんです。

ところが2年の3学期、進路相談で担任の先生にこう言われました。

「最近の私立はレベルが高いから、今の英語の成績では難しいなあ。科目が少ない分、点数の差がでるのが英語なんだから。ましてや文系はほかの教科より英語の配点が高くなるケースが多い。でもまだ1年あるから基礎から勉強していけば何とかなるかな……」

さすがにショック。それからというもの一生懸命英語の勉強を始めました。

でも、思うように成績が伸びません。それどころかテストを受けるたびに自信が喪失していくといった感じ。もともと上がり症だから、テスト中に分からない単語が出てきただけで訳が分からなくなるんです。3年生になって受験ムードが高まってくると、もう気持ちばかりが焦って、手辺り次第に参考書を買い込んだり、予備校へ通い始めたり……。

そんな矢先のこと。大学生になったばかりの先輩にE・Aの初級編『家出のドリッピー』を勧められたんです。

「今は難しい問題集をやるより、夏までしっかりと基礎を固めたほうがいいよ。僕も使ってたんだけど『家出のドリッピー』は基本的な単語や熟語は使われてるし、気分転換にもなるからいいんじゃない」

勉強方法に息詰まっていただけに、さっそく試聴の申し込みをしました。

数日後、待ちかまえていた第1章の教材が届き、勉強を開始。なるほど、物語形式で会話やBGMが盛り込まれているE・Aは、今までの参考書や問題集と違ってとても新鮮でした。

最初は息抜きがてらに聴いていたのですが、だんだん夢中になってきて、ほかの参考書と併用して毎日2時間はE・Aで勉強をするようになったのです。分からない語句はサブノートに写し、とにかく文章を口に出してスラスラ言えるまで暗記するようにしました。

こうしてE・Aを3ヵ月も続けた頃、その成果が少しずつ現れてきたのです。

模擬試験を受けてて、問題中にドリッピーで使われていた単語や熟語が出てくるようになりました。これってすごく自信が湧いてくるんですよね。それに今まで苦手だった発音問題も正解率がアップしてきたんです。

秋あたりからは偏差値も伸びてきて、自信もついてきました。そしてもちろん、受験当日も上がることなく全力を出し切ることができたのです。

すごく辛い受験勉強だったけど、やればできるんだってことを教えてくれたE・Aには本当に感謝しています。

イングリッシュ・アドベンチャーの入会方法はとても簡単です

『イングリッシュ・アドベンチャー』の組織は会員制です。でも、試聴制度をとっているので、半信半疑の人も安心して申し込めます。第1章を試聴してみて、これを続けようと思えば、そのまま使っていれば会員として登録され、翌月には第2章が送られてきます。入会を見合わせたい場合は、第1章を受け取ってから10日以内に返品すればいいシステムになっています。

大好評の初級コース『家出のドリッピー』は12章、1年で完結しますが、これを終えると自動的に2年目の初中級コース『コインの冒険』に進級します。もちろん途中退会も常に自由です。会費は、カセットの場合は毎月4,000円。CDなら4,500円(いずれも税別)。入会金、郵送費などは不要です。

試聴の申し込みには、このページについている専用ハガキに必要事項を書いてお送り下さい。

電話でのお申し込みの場合は、つぎの番号におかけください。

東　京　03(496)6666
新年から03(3)496-6666
札　幌　011(631)7777
仙　台　022(265)5555
名古屋　052(971)2222
京　都　075(701)6666
大　阪　06(452)2222
福　岡　092(831)3333
日本全国フリーダイヤル
0120－077077
電話は休日も受け付けています。
〒150 東京都渋谷区鉢山町15－5
アカデミー出版

※あなたのイングリッシュ・アドベンチャー体験談を募集中です。記のアカデミー出版編集部までお便りをお寄せください。

NEW SINGLE NOW ON SALE

THE BELL'S

HELLO! HELLO! HELLO!

(シングル・バージョン) テレビ朝日系アニメ"おぼっちゃまくん"エンディング・テーマ曲
c/w ● ELVISな夜 ● HELLO! HELLO! HELLO!(オリジナル・カラオケ)

(初回プレスのみ)「おぼっちゃまくんW(ダブル)ステッカー」(封入)

会議室より愛をこめて スペシャル

ファンはみんなWONDERFUL

〝好き〟ということを表現することは、ものすごく難しい。言葉にできない、うまく伝えられない。そんなもどかしさがあっても、思いは募るばかりだ。それが、自分の手の届かない人たちなら、なおさらかもしれない。幸か不幸か、私はそんなみんなの言葉を感じられる機会に実に恵まれている。

アンケートハガキという代物だ。

〝ライブに行けない時は、ライブビデオを何回も何回も見ます。そしたらビデオが壊れてしまいました。家族には冷たくされているけど、直ったらまた見てやるぅ〟

この一通からでもわかるように、その思いは複雑で深い深いものなのだろう。他にも、〝つまらなかった記事——コンサートスケジュール　理由　私の県には来ないから〟〝つまらなかった記事——ジュンスカ　理由ページ数が少ない！　巻頭にして〟など、〝そんなこと言ったって、あーた〟とつっこみたくなるようなものもあるにしろ、ハガキ1枚にいろいろな思いがちりばめられているように思う。（大ゲサかなー♪）

毎日アルバムを聴き、掲載誌をチェックし、授業中は切り抜きがきれいにディスプレイしてある自分だけの下じきを眺める。そして、より自分だけの情報と〝私は○○のファンなのよ！〟という証明と、なによりも特典を求めてF・Cに入るのも、もしかしたら一種の〝好き〟の表現なのかもしれない。

「私が、ファンクラブの仕事をはじめたのは今年の10月頭からなんで、ファンの子たちの様子っていうのはまだはっきり把握できてないんですけど。よく電話なんかをとってて思うことは、みなさん何を言いたいのかはっきりしないってことなんですよね。こう…好きだっていうのはすごく伝わってくるんですけど」（オイル青山さん・BY-SEXUALファンクラブ担当）

みんな、そのバンドが好きでたまらないのだ。ある種、アーティストに恋をしている状態なのかもしれない。

そして、恋にボーソーはつきものだ。

「今、〝TOUR JAPANESKA〟で全国を回っているんですけど、困るのはライブ中ステージに向かって物をなげること。歌詞にあるからティッシュとかよくとんでくるんですけど、缶ジュース（〝オレンジ・ジュース〟にあわせたのだと思う）が飛んできた時には、さすがに怒りましたね。（笑）危いでしょ。たとえ、運よくメンバーに当たらなくても、兄元に転がっているとこわいんですよ。メンバーはライブ中、ずっと動き回ってるし、特にうちの宮沢（MIYA）は眼が悪いですからね。ものすごく危いんですよ。それから、魚の形をした入れものにチョコを詰めたものを投げこまれた時は、ライブ中にそれをメンバーが踏んじゃって、終わってから掃除するのが大変でしたね。1度、ライブの前に注意したこともあるんですけど、それもあんまり効果なかったみたいです。ファンのみんなの気持ちもわかるんですけどね。ファンレターとか見ると〝物をなげることでしか、ブームを好きだっていうことを現すことができないんです〟とか書いてあるのを目にしますから。でも、スタッフから見ると嬉しいよりも危ないっていうのが先にあるんですよ。〝自分にむかって物がとんできたら…〟って冷静になって考えてみると、やっぱこわいでしょ。メンバーに伝わる表現方法ってもっと他にあると思うんですよね」（若月千春さん・THE BOOMマネージャー）

そして、そのコンサートが終われば、出待ち入り待ち合戦がくり広げられる。アンコールも聴かずして、ダッシュする様子には正直言ってムッとする。

オメーラは、何しにライブ会場に来てんだよっ。いー加減にしろっ。

逢えたとしても数秒。そんなことするよりも、ライブの余韻をしっかり受けとめた方が、ずっとずっとアーティストを感じることができるのではないだろうか。

確かに、恋は盲目だ。もしかしたら痛みも感じないほどに感情がたかぶっていることもあるだろう。それに、恋特有のドキドキやワクワクは、とても大切なものだ。

でも、ボーソーはよくない。伝わるものも伝わらなくなる。ゆっくりゆっくり歩いてみようよ。そうすれば、もっといろんな〝君のあの人〟に逢えるはずだから。（伊藤）

もうだいぶ前のことなんだけど、すごくがっかりしたことがあります。しかもそれが楽しみにしてたコンサートだっただけにとてもムッとしました、はっきり言って。もうこのミュージシャンのライブ、絶対見たくないとまで思ったもん、その時は。今はまた見たいと思うけど。でもまたその時と同じようなことがあったら今度こそ逆上するでしょう、きっと。

これだけじゃなんだかよく分からないからはっきり言っちゃうと、客席のマナーがすごく悪かったから、ステージを見るどころじゃなくて（途中から座った。頭にきたから）後味悪く帰った、ということです。

コンサートに来たんだからノリノリになりたい気持ちはよくわかる。私だってそうだから。だけどそれにも限度ってものがあるでしょ。ステージの上のミュージシャンしか目に入らないのもわかる。だけど、自分たちのほかにも同じコンサートを見てる人がいるってことに気が付いてほしかった。

その時、いやな思いをしてたのは、なにも私一人ではなかったらしくて、実際に途中で席を立ってしまった人が何人もいた。大騒ぎしてた女の子たちはきっと気が付かなかっただろうけど。

別に騒ぐなってことじゃなくて、もっと…なんて表現すればいいのかな、聞くところは聞くとか、騒ぐところは騒ぐとか、メリハリがあってもいいんじゃないかなぁ。静かな曲の途中でメンバーの名前を叫ぶとかさ、笑っちゃうようなことやめるとか。せっかく楽しみにしてきたのに、後味悪く帰るなんて、しかもコンサートの内容が関係してないとこでそんなこと感じなきゃいけないなんて、腑に落ちないとは思いませんか。ねぇ。

と、これはコンサートに行った時にただのひとりの観客として思ったことなんですが、じゃあ実際ナマで全国のファンの人たちと接しているスタッフの人はどんなふうに見ているのだろうっていうことでプロジェクトBAKUのスタッフの方にお話をうかがってみました。

「そうですねぇ、レコード店の方は『BAKUのファンはいい子が多い』って言ってくださるんですよ、どこでも。ただ、他のミュージシャンのファンがどんなふうだっていうのがわからないですからね。比べようもないんですが。

でも、本当に少ないんですけど、まだ地方では『KURUちゃんだいすき』って書いてあるボールが飛んできたり、はぶらしが飛んできたり（BAKUには『はぶらし』という曲がある）することがあるんですよ。ファンの子からすると自分が持ってきた物を投げたい…メンバーに渡したいっていう気持ちがあるんでしょうけど。わかるんですけどねぇ。コンサートに水を差すことにもなるし、なにより危ないですから。ステージに向かって物を投げるのはやめてほしいですね。

本当はこういうことを言っちゃうのってあんまりかっこよくないでしょう。だから言いたくないんですが、常識をもったファンでいてほしいですね」

こういう話をするとみなさん「結局モラルの問題になりますよね」って言われるんですよ。やっぱり。

「そうでしょう。最終的にはそういうことなんですよね。コンサートって演奏する側と見てる側と両方で作り上げるものですから、どっちも楽しめないと。ちょっとしたことで不愉快な思いはしたくないですからね、お互いに。

マナーが特別目立って悪い子は、いないと思いますよ。ファン同志でよりよいファンになろうっていうのか…そういう意識があるみたいですね。

プレゼントは預かったものは必ずメンバーに渡してるんですが、それを買うお金をもっといろんな音楽聞くとか、映画を観るとかに使ってほしいんですよね。これはメンバーもよく言ってますけど」

自分を磨くために、ですか。

「ええ、そうですね」

それがめぐりめぐって結局はミュージシャンを磨くことになるんじゃないか、と。

「そういうことだと思います」

そう思います、私も。

（江頭）

奥田民生あそんだモンダッタ。

パチ▼パチ増刊・ニューアーティスト特集号でのこのページの『アーティストの髪型遍歴～TAMIO編』はご覧いただけましたでょうか。〝ただのヒゲおやじ〟から半年。もはや1991年以降の彼の髪型遍歴は髪のみぞ知る。……なんつって。

そんなわけでようやく霜田桂のウサンクサさにも落ち着きが見えたと思いきや、最近では編集の吉田好見さん（美人↑あのUNICORNさんが素直に肯定するわけがないでしょう）の「ウサンクサぁイ」だけでなく、ライターの宇都宮美穂さんにまで「霜田さんの奥田くんへの愛は薄くなってしまったのよね」etcと、言われてしまいます。

●阿部義晴▶A型を感じさせない程気を使い、バカをやってしまう

弁明の余地などございません。

こんなに霜田桂は奥田民生が好きなのに。愛しているのに。いまの2行を書くだけで霜田はもう4日も家に帰らずイトウアキを待たせているというのに。

「片思いってツライのね」というコトで90年最後のおあそびは奥田民生の血液型を勝手気ままに決めてみました。本人大迷惑、奥田民生であそんだもんだった。

設問① A型の父ちゃんとB型の母ちゃんの子供である霜田桂は何型でしょう。／設問② 父ちゃんと母ちゃんのどっちかがA型でもうひとりがB型の子供である奥田民生は何型でしょう。

回答① どうでもいいことですが、4分の1の確立で霜田桂はA型です。どうでもいいことですが、堀内一史に「A型なの!?」と驚かれた、見えないA型。／回答② 確かにどうでもいいことかもしれませんが、高校生時代生物の時間にとなりの人と血の採りあい、混ぜあいの血液型検査をしなかったんでしょうか。4分の1の確立なだけに、なんでもありで奥田民生は不明。

●手島いさむ▶世の中不条理なことがさぞかし多いでしょう的B型

『奥田民生は何型か!?』

吉田好見さん（美人・B型）も、なぜだかこの話題だけはウサンクサがらずにノッてきてくれます。以下は会話からの抜粋および資料提供・吉田好見さま＆宇都宮美穂さまによります。スペシャルサンクス・トゥーでありまず。写真も提供してくださった吉田さま。「キャラクターにあった」という願いどおりです。おありがとうございます。

そう言えばSTYLEのUNICORNさんのページでは、自ら奥田民生の性格を血液型で説明してらっしゃいます。それによりますと、どうやら本人はAB型をご希望の様子。ホホホ。〝人の振り見て我が振り直せ〟と申しましょうか。メンバーや周りにABがいないのを幸いに「A型の阿部の感じとB型のテッシーやEBIの感じと、両方持ってる」とA型とB型を比較に出して自分はAB型だと言ってしまいます。あげく「二面性はあると思う」のだそうです。だけど、それでは、A型の父ちゃんの感じとB型の母ちゃんの感じの両方を持ってるのにA型な霜田の立場はどうなりましょう。

●堀内一史▶一挙一動・一言一句全てがマイペースなB型の王様。

確かに二重人格とは話に聞きますが、躁鬱が激しかったらみんなAB型です。まあ天才が多くてよく寝る人が多いらしい点からは、本人の希望どおりAB型と認めてもイイかもしれません。

しかーし。マネージャー原田さん（B型）が「民生はA型だなあ。間違いない」と言うように、B型のB型によるB型のための直感で奥田民生のB型的要素は否定されつつあるのも事実。

同じB型でも「Aじゃないと見た。ABだよ」などとかつてA型の霜田を否定した堀内一史の発言。何の根拠も感じません。

そしーて。A型のA型によるA型だから言える直感で「奥田民生はA型である。同じじゃ、同じ的なものを感じる」と断言する霜田桂がここにいます。

「O型ならあり得るかもしれないけど、西川くんを見てると俺はアレじゃないと思う」という奥田民生。気持ちはわかります。

西川幸一▶物ごとは何でも全て幸せに考えましょうの31歳的O型

A型説強力の雰囲気が漂う中、奥田民生を語らせたら日本一の宇都宮美穂さんが「会った時にA型じゃない何かだと思った」という爆弾発言をいたしました。

「自分がA型だからよくわかる。仲間じゃない」そうなのです。だけど「調べなくても、両親が〝A型だ〟と言うから」と続くあたり、誰かを彷彿させます。

A型とは絶対認めたがらない自称AB型のOさんと、絶対A型といって退かない宇都宮さん。「ふたりともA型だと思うよ」という原田さんに〝ばらたいらに全部〟で10万点目指します。

今年最後のはがきたち

いつもハガキありがとねぇ。感謝の気持ちを込め、今年最後のハガキたちを御紹介。ただ、ここに選ばれたハガキの内容にあんまり意味はない…かもしれない（笑）来年もよろしく。

●民生が髪切ったラッキー（愛知県 佐藤恵子）㊎でも、七三だよ。

●最近の感動話。奥田モーンが若返られたこと（香川県 たみたみ）

●民生さん。どうして髪を切ってしまったの？ あなたの髪を編むのが私の夢だったのに（高知県 サンバ・サンバ）㊎大きな反響。民生の髪型。じゃあ、ここでユニコーン・オタッキーの霜田に登場してもらおう。「あたしも切る♡」（↑わけわかんないリアクションだなあ）でも、今はもっと短いんでしょ。「そう。しかも撮影中の切ったらしいよ」これからこの人の髪型はどうなるんでしょうね。「やっぱりスキンヘッズが好き♡」ここはだじゃれのコーナーじゃないってば。でもそのテのハガキは実に多い。じゃあ、ここで一気に紹介だ。

●このぶどう、ひとつぶどう？（三重県 くるちゃん）㊎季語を使ったね（笑）

●アルトリコーダーがあると利口だ（栃木県 日丸特攻隊）

●そういえば、総入れ歯？（栃木県 稲葉の白うさぎ）㊎オーイ山田君。座蒲団全部とってしまいなさい。

●日本海の波の音は？ 答・ジャパン（杉並区 ケダモノの私）

●わけわかんないのバリエーション。わけわかめ。わけわかはげ。わけわかはなだ。わけわかしらが。わけわかどしより。わけわかだんな（神奈川県 わけわか……）㊎マグミなんか「今日この頃野口五郎」につづく第2弾として「つい最近菅井きん」っていうの考え出したんだから（笑）というわけで次はレピッシュねたをちょっと。

●最近悲しかったこと。地方のラジオ番組でレピッシュのニューアルバムが『マケ』と紹介されたこと。涙（大分県 南の島のカメハメハ女王）㊎ホントだな（笑）

●私の家で飼ってる文鳥は上田現といいます。理由は若いのか年とっているのかわかんないからです（茨城県 ケダモノ）㊎現ちゃんは本当に年をとってるんだよ。

●最近感動したこと。大阪国際空港が兵庫県にあったこと（愛知県 まいちゃん）㊎そうなのよ。ちなみに小松空港ってどこかわかる？ 石川県なのよ、これが。

●私は今までラッキョウはタマネギのしんかと思ってたけど、違うことに最近気がついた（大阪府 らっきょうきらい）㊎おー。

●BAKUって嫌い。だって私より肌がキレイなんだもん（京都府 本当は大好き）

●つまらなかった記事――BY-SEXAUL 理由 あたしより肌がきれいだから（福岡県 あ～あ）㊎切ないねえ。

●文通のコーナーを作って下さい（福岡県 田中恭子）㊎ここはそういうコーナーじゃないのよ。

それじゃあみなさんよいお年を。91年もパチ▼パチはがんばります。ハガキもよろしくね。

〔使用上の注意〕

上の絵とあわせて御覧下さい。

イトーアキ(以下㋑)「というわけで、テーマは90年をふり返る、私はカエル」えがちゃん(以下㋓)「今年は2冊スタイルが出たね(笑)」

㋑「そうだ。(笑)今年の1月はパチ▼パチスタイル発売。(笑)」

㋓「この頃は『会議室〜』で〝今月の今井寿〟とかやってたんだよ。ずいぶん前の話な気がするけどねぇ。あ、B'zとかフリッパーズギターとか、まだモノクロページ」

㋑「この号は、呼人とかテッシーとかフミヤとかパーソナルが充実してたね。そしておおみそかには恒例のパチ・トマ」

㋓「この日熱を出して寝込んでいたのは㋑。で、2月号は…と、その前の日にスタイルが…ってしつこい(笑)」

㋑「今年は大丈夫でしょうきっと。2月は美里ちゃんが表紙。発売は1月9日」

㋓「表紙からさわやかな写真が続いて、パッと次の米米のとこにいくと、いきなり小野田さんが、えぐい。この差って(笑)」

㋑「そしてBYちゃんが本誌初登場! しかも雑誌に載ったのはうちが初めてというじゃあ、あ〜りませんか」

㋓「世界初、ですね。そしてブームの軍服姿は、ちょっとした反響があったよ」

㋑「この頃、パチ▼パチ読本の第1号が発売されたよね」

㋓「ん。あーっという間に売り切れ。確実に手に入れるためには、書店に予約することをおすすめします、です」

㋑「うまいフリ。(笑)そして3月号。B-Tが初の表紙」

㋓「悪の華だー。が、コバヤシくんのパーソナルもあったぞ。でも4コママンガがついてる〝実は広告〟のページがおもしろいの。あの部分だけお店で配ってたみたいだよ」

㋑「それから、大貫妙子さんから千里くんへの往復書簡。あれ、おもしろかったなぁ」

㋓「大貫さんの文章、感動しちゃった、私。実はこの月にBYちゃんがデビュー。そしてユニコーンは武道館ライブ。ちくっちゃえで中村教のレギュラー化(笑)」

㋑「そんで、読者スタッフの応募がはじまったのもこの号。でも、めでたく4人が選び出されたのはついこの間だったりして」

㋓「みんながんばってね。期待してるぜ。じゃ次は4月号、㊞のハガさんが金魚を飼いはじめた。今も生きてるよ」

㋑「森純太くんのページで使ったラッキーちゃんのことでしょ。飼育係はデスクのゴトちゃん。でも、私が4月号で強烈に覚えてるのはMAGUMI。(笑)」

㋓「さ、もくじで間違いさがしをしましょう(笑)私はこの号の次郎くんのような髪型にしたかったが…まいったな、ガッチャンになっちゃったんだよーん」

㋑「だからBAKUに同い年だと思われんのよ(笑)」

㋓「ほっといてちょうだい。この号の表紙で愛が復活しかけたのは誰よ、ねぇ」

㋑「イヤ。別にこの表紙(COMPLEX)で復活したわけじゃなくって。(笑)11月8日のBIGEGGのライブで復活したのよ、吉川晃司への愛が。編集部の千脇〝ぢーちゃん〟晶子だって、吉川晃司のためなら四畳半一間で生活してもいいって言ってるんだから。(笑)」

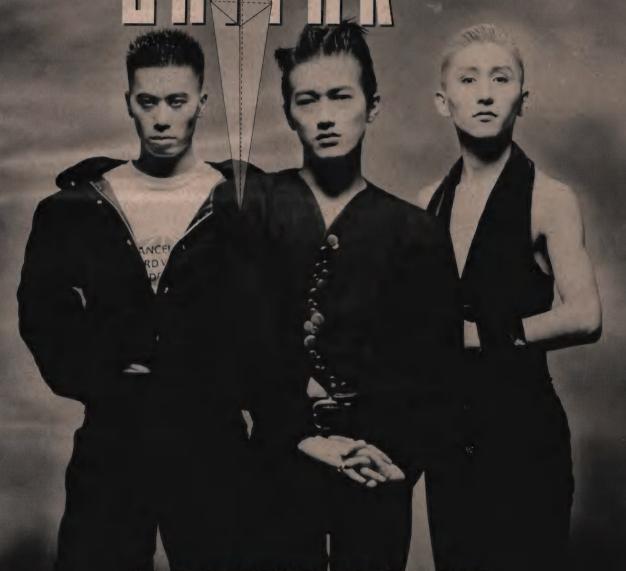
㋓「ほぉ。やってもらおうじゃないの」

㋑「いいな、それ。ちーちゃんに絶対に実

Do you remember 1990?

行してもらおう。そして4月9日。5月号の発売ですね」
㋓「この号のバンド1990の取材日はたった1日。つまり連続ワザでやった。しかも熱出してまた寝込んでたのは㋑」
㋑「要するにデリケートなのよ、私」
㋓「バリケートの間違いじゃないの（笑）うー、ぶたないでっ。『イナゲ』も発売になったし。イナゲは広島弁で〝へん〟て意味なのよねぇ。もう売り切れよ」
㋑「さすがUNICORN様。アッ、えがちゃんCOBRAだよ、編集部来てるー」
㋓「Oーの人だー。（喜）夏、就職の面接やってる時も来てたんだよ。学生さんびっくり」
㋑「そういえば、今年って編集部にたくさんアーティストが来たような気がする。ま、そんなことはどうでもいいとして……」
㋓「6月号に行きましょ。J(S)Wのは、バチバチ初なんだよ、知ってた?」
㋑「あ、そうなんだ。あのJ(S)Wのメンバーの体が透けてたやつでしょう?」
㋓「心霊写真じゃないですかって問合せきちゃったり（←マジ）。でも、EBIくんと香那ちゃんの2ショット。こりゃすごい」
㋑「でもプリプリのカナちゃんじゃないよって、ボケたりして。（笑）でも笑ったのはタミオに似てるフェスタくん（笑）」
㋓「しかも電車、しかも88人乗り、さすがだ（←いったいなにが）。で、BAKUが初登場したんだよ、やっと」
㋑「この日のインタビューから、私のBAKUのインタビューにおけるテーマは〝いかにして加藤英幸をしゃべらせるか〟になったのよね。（笑）でしょ、えがちゃん」
㋓「ん。『ホント無口なんですね（まだ丁寧語だった）』って言っちゃったもん、私」
㋑「そんなBAKUも6月1日にデビューして。8日後には7月号発売」
㋓「この表紙、書店で目立ってたよ。でも、インタビューがないの、不思議だー」
㋑「トシちゃんも載ったよ」
㋓「桜井くんが髪を切ったよ」
㋑「ドレッドから江頭風に（笑）」
㋓「だから、似てないよ、もう私とは。似てるのは歯ならびだけ。そして夏季集中講座。受験生のみなさん大喜び」
㋑「受験に必要なのは恋っていったのは桜井くんだっけ?」
㋓「そう。で、別冊はなんと両面が表紙。1回で2度おいしいってやつよ」
㋑「KUSU KUSUとBY-SEXUALだったよね。あん時は死ぬかと思った。よく倒れなかったわ、病弱な私が（笑）」
㋓「ご、ごめん、私が変なことに手を出したばっかりに♪」
㋑「8月号はUNICORNのヒゲの民生の表紙。36ページの大特集」
㋓「36ページってのはすごい。EBI&アベBの2ショットに女の子はメロメロ（笑）」
㋑「ホホホホホ。でも私は西川さんの耳に息をふきかける民生が……うらやましい」
㋓「そして民生のヒゲが…ううっ悲しー」
㋑「でも超目玉は…。MAGUMIとフミヤの対談!」
㋓「バチ▼バチ以外じゃたぶんこういうことってできないよねぇ。しかもこの2人は私服です、かっこよすぎ。あーでも81ページの桜井くんの写真が一番好き」
㋑「そして9月号。チェッカーズ9回目の表紙&巻頭特集。シコちゃんが大変だったよね。忙しくって」
㋓「そう、香川に出張してたし。おサルが飛行機に乗って（笑）」
㋑「検疫にひっかかったらしいよ（笑）」
㋓「10月号のブームの取材の時もシコちゃん大阪日帰り出張。しかも台風直撃。新幹線にカンズメ。ううっ苦労している」
㋑「でもいい巻頭だった。今までのバチ▼バチのブームのページを全部集めたページには感動したなぁ」
㋓「感動したといえば雪好さんの笑顔よ。あとかまいたちのカエルの広告（笑）」
㋑「そしてブヒ♡ブヒで大好評の逆インタビューはこの号からスタートしたんだよね」
㋓「11月号は初の表紙B'z。フッチー初の表紙。編集後記に涙を流した人も数知れず」
㋑「んで12月号はTMN。リニューアルして初の表紙」
㋓「と、ぶっとばして1年を振り返ってみたけど今年一番楽しかった仕事は?」
㋑「そうだなぁ……。おもしろかったのは伊豆に行ったことかな。なんせ修学旅行だし。（笑）でも、全部楽しかったよ。なんせ私、仕事が恋人ですから。（笑）愛、注ぎたいしね。でも今1番気になるのは……卒論」
㋓「今、この2人は卒業が確定していません。来年も学校通ってたらどうしよ（笑）」
㋑「シャレにならないってば（笑）」

SOFT BALLET

UNITAR

★膨大な作品数と、密度の濃いライブ・ツアーをこなしてきたソフトバレエ。彼らにとっての1990年は、いったいどんな1年だったんだろうか？　そのあたりを振り返るインタビューと共に、メンバー3人3様のテーマ（遠藤遼一「詞世界」・森岡賢「音楽」・藤井麻輝「ソフトバレエ」）によって、パーソナル、インタビューを試みた。この記事によって、彼らの1991を探ってもらいたい。

ALL PHOTOGRAPHED BY MASANORI KATO

1年でそれだけ働いたってことですよ。働かざる者食うべからずっていうヤツですね。

あー困った。彼らの真意（言葉に秘められた事）はこの内容で伝わるか？ 語感をフルに読み取ってね。

——ソフトバレエの'90年は？ 1年をふり返ってもらおうと思います。

森岡　今年はよく働きました。1年で休んだってのは夏休みだけですよ。

藤井　あとは馬車馬のごとく。こら、休むな。ヒシヒシッ！ という感じで。（笑）

——1年の計はなかったんですか？

森岡　いや、何もないです。

遠藤　コンサートに関しては（ホール規模として）渋公くらいではやんなきゃなってのはありましたけど。あとはあんまり、大体計画性というものがないバンドなんです。

藤井　過去をふり返ることも苦手。

森岡　1つ1つの作業を思い出そうとしても……全てはるか昔のことみたいで。ただただとにかく、1年アッという間でした。どこかで記憶が飛んだんです。（笑）

遠藤　感覚的に時が経つのが早く感じられたでしょうね。

——走ってましたからね。

藤井　いや、馬車馬のごとく働いたけど、重荷があるためアリのスピードで。だから距離的にはそんな進んではない。1歩1歩踏みしめながら時間をかけてここまで来ましたよ。

——ツアーで動員数の増加とか手応えあると思うんですけどね。

遠藤　そうですね。それはその通り。

——どういう風に受け止めてます？

藤井　過ごしにくい世の中になった。

——イヤなんですか？（笑）

藤井　いや、そんなことないですよ。気持ちいいんですけどね。まあ意味のない、俳句みたいなもんです。俳人藤井と呼んで下さい。

森岡　でも手応えは素晴らしいモノありますよ。ただ立ってるだけでお客さんの方で盛り上がってくれるような状況になって来てますね。

——それって危険感じないですか？

森岡　いや、このへんの所で危機感を感じるような次元にはしないようにしたいなと思ってるし。もちろん動員数も増えないと、ビジネス的にアレですよ。僕達の懐も寂しいってことだから、それは困っちゃうんで。だから大事なことは、自分達が何をすべきかということを確認しつつ、進むってことなんじゃないかな。

——作品もシングル2枚、アルバム1枚、ミニ・アルバム1枚。あとビデオが2作ですよね。

藤井　凄い量ですね。1年でそれだけ働いたってことですよ。働かざる者食うべからずっていうヤツですね。

——1年で1サイクルの仕事を済ませて。これで一通りわかって、また来年に生かせるんじゃないですか。

遠藤　そうですね。だから下積みってのも変ですけど、この一連の作業で何かがよくわかった気がしますね。それと個人的には自分に自信をつけるための1年だった気もするんです。また、バンドとしての条件もやっと整ったんじゃないかな。それは音楽性としての話じゃなく、あくまで状況的な部分ですけど。

——藤井さんのこの1年は？

藤井　僕は……やっぱり作品ですか。

——満足できる作品が出来ました？

藤井　そんなことはないです。満足してたら、そこで辞めてますよ。

森岡　僕はプライベート面では思い悩んだ1年でしたね。混乱はするし、大変な年でしたね。でも、大変な時にはいいこともあるし。だけど来年は平静な1年を過ごしたい。

——平成に平静な1年を。

森岡　いやー、本当にいい年号で。

藤井　そうですね。過ごしやすい世の中になればいいですね。

——音楽的には？

藤井　過ごしやすい音楽が出来れば。

遠藤　ハッハッハ！（という笑い方）

森岡　でも曲に関してはまだまだまだ、くらいの段階ですよ。

——今年は曲作りも大変でしたか？

森岡　でも働いたっていう意識はあっても、仕事したって意識はそんなになくて。仕事が趣味の延長線上にあるからかな？ 義務感みたいなものはあるけど、それがプロというものでしょう。……あ、そうだ。某プロダクションの社長に「趣味を仕事にするほど辛いことはないよ」と言われたんですが、そう思ったことはこの1年、よくありましたね。

遠藤　僕の場合、苦しいのはステージかな。でも苦しさも楽しさを生み出すためには当然のことですし。

森岡　それは日本だけですよ。

藤井　勝手に中身もないのに祭り上げられ、今年デビューしたバンドでもいくつが消えていくことか。だけど人は人。周りは全く関係ない。僕らはうまくいいペースでいいスタンスで行けてるじゃないですか。地道にやっていくのが一番。テクノ界のハウンドドッグと呼んで下さい。

森岡　僕はヤだよ！ ああ、そうそうそう。この1年で思ったことはソフトバレエって業界ウケするバンドなんだなってことですね。

遠藤　それで終わらないようにしようと思いますけど。（笑）

森岡　でも世間の方にも、電車待ちの時とか声をかけられるようになりました。24時間ストアーでも……。

藤井　とにかくこの1年はコンクリート流し込んだとこですよ。ガッチリした土台固めは出来たから。

——来年の豊富は？

遠藤　とりあえず腰は低く。（笑）方向性は……まあやってみないとわかんないですけどね。でも今年は満足してます。1歩下がった時もあったけど最終的には前進出来ましたし。

藤井　己れも知れて収穫はあった。

森岡　自分自身について、世の中について。学ばせていただきました。私生活は辛かった。ちっとも楽しくはなかったですけど。でもソフトバレエの3人にとっては、良い年だったでしょう。

遠藤　嬉しいことはソフトバレエが浸透……定着というか、理解というかされて来たと思いますね。こういった形態のバンドだし、このくらいの時間が必要だったんでしょうね。まだ中にはとんでもなく勘違いしてる人もいたりするんですが。

森岡　勘違い……そうだ。最後に一言言っていいですか？ 女性物の下着を僕に送らないでください。（笑）

INTERVIEW●YUMIKO YAMASHITA

THEME INTERVIEW

LYLIC

RYOICHI ENDOH

最も興味を感じるのは、人間が持つ〝可能性〟。

——「遠藤遼一の詞世界を探る」なんつうテーマで。（笑）

「えっ？　はあ（笑）」

——最近、興味あることってなに？

「根本的な部分で言えば、争いごとが最近多いなあ…という（笑）」

——そういったことに関して、自分の意見をハッキリ持つタイプ？

「言葉で表現するのはむずかしいと思うんですけど…ただ、実際に心地よくない状況に置かれてる人に対して〝こう考えればいいんだよ〟って僕が言ったりしても、それは単なる精神的な……気安めにしかならないと思うんですよ。だから〝こうあればいいなあ〟という最終的な〝場所〟を提供できれば、と」

——直接的なメッセージはしないと。

「ええ。状況的なことは、いかんともしがたい……」

——それが表現者（プロ・ミュージシャン）としての自分に、どう結びついていくわけ？

「周囲が起きていることを具体的に否定していけば、それはそれでメッセージになるんでしょうけど…。僕が最も興味を感じるのは、人間が本来持つ〝可能性〟とか……〝自由〟とか……それを訴えることによって、現実的な部分が変わっていけばいいな、と考えるんですよ」

——すると、言葉を操る時にオブラートでくるんだり、自分の意志をストレートに出したりできなくなるね。

「絶対的な何かっていうのはないと思うんですよ。自分の判断や価値感が正しいとも限らないし…。だから〝信じてる〟というか（笑）」

——じゃあ自分の意見は、意見としてとどめておくわけ？　作品として発表したら、必ずそこに〝対象〟が存在しちゃうわけだし。

「ある意味、音楽の持つ恐さってあると思うんですよ。例えば〝あいつは許せない〟（笑）と言ったとしたら、聞く側に少なからず影響があるかもしれないし」

——でも、併害を避けてたら、自分のメッセージの形がどんどんせばまっちゃうんじゃないかな。

「対象によっては危険ですね。でも、今のところは併害を産むような方向に自分が向いてないから…。それに、マイナスに働くような歌は、多分自分の中から出て来ないような気がするんですよ」

——出ちゃったらどうするの？（笑）

「責任とらなきゃいけない。（笑）でも、こちらが答を限定することだけはしたくないですね」

——方法論として。

「ええ」

——でも、自分の発した言葉の真意を、聞く側が理解できなかったら…。

「…言葉がまずあって…でも、それを歌う時点での〝自分が出すパワー〟というか（笑）…そっちの方が興味あるんですよね」

——なるほど。すごい話だね。（笑）

「（笑）そういった意味からすれば、まだまだ…表現しきれたことってないんでしょうね」

——以前は全て英語で歌ってたじゃない？　けど、より聞く側に伝わり易いように日本語で歌うようになった。ところが、その楽曲の〝テーマ〟が、タイトルやサビに含まれてるんだとしたら、それが英語だったら前と同じじゃないかと思うんだけど。

「……そう…ですねえ（笑）…。キーワードとしてのバランスもありますからねえ」

——ライブとかでは特に感じない？　自分のメッセージと明らかに違う方にお客さんが向かってるな、とか。

「最近はなくなりましたね。まあ、限定するような言葉は使いたくないっていうのが、ソフトバレエを始めた時からずっとありましたから。だから仮にキーワードが英語だったとしても、聞く側の解釈を尊重したいというか…」

——それでも〝遠藤さんはこう言った〟（笑）となる人がいる。

「それはしょうがないですね。（笑）…でも、言葉の持つ美しさ（笑）…そういう部分はあると思うんですよね。だから、〝そんなこと言うならストレートに歌うゾ〟（笑）とは思わないですね。そういう美意識はあります」

INTERVIEW●TAKASHI HAGA(PATi▶PATi)

THEME INTERVIEW

MUSIC

KEN MORIOKA

今の僕の中にはデカダンってあまりないんです。

—音楽っていうテーマですけど。

「本当は、おかまについてとか、そういうのじゃないんですか（笑）」

—そんなことはないですが、（笑）音楽とメイクが連動した経験ってありますか?

「中2ぐらいの時にゲイリー・ニューマンを聴きまして」

—ニューロマンティックの頃。

「そうです。で、これこそ私の世界だ、と思って。（笑）それから、ニューロマンティックのアーティスト達をよく聴くようになりました。ヨーロッパ・インテリジェントみたいな。その中にデカダンスの匂いを見つけて、そこにドーッと入っていたんです。中学校時代は、どっぷり漬ってましたね。高2ぐらいまで。部屋をまっ暗にして、『ああ僕はなんて不幸なの』なんて言いながらベッドでもがいてみたり（笑）」

—ちなみに、その頃の愛聴盤というのは。

「ベルベット・アンダーグラウンドですかね。（笑）あと、デビッド・ボウイ」

—『ロウ』とか。（笑）

「そう。（笑）あと忘れちゃいけないのは、ジャパンの『クワイエット・ライフ』（笑）」

—かなり、デカダーンですねえ。

「うん。でも今僕の中には、デカダンってあんまりないんですよ」

—いつ頃から性格変わったんですか?

「黒人ミュージックを聴き始めた頃かな。トーキング・ヘッズをよく聴いてた時がありまして、『スピーキング・イン・タングス』っていうアルバムが好きだったんですよ。で、これにパーラメントのメンバーが参加していて、アルバムのうねりはこの人達が出してるんだなって思って、パーラメントを聴いてみたわけです。そしたらまあ素晴らしいこと素晴らしいこと（笑）」

—そこから黒人音楽に。

「で、黒人音楽聴いていると、退廃的にならないでしょう?」

—確かに。（笑）

「ヨーロッパの人達って自己完結しちゃってるでしょ。僕はなんて可愛相なのって感じで。（笑）でも、黒人はどんなにひどい状況でも明るいっつーか力強いでしょ。同じ状況でもアプローチが正反対っていう。基本的にヨーロッパ人って女々しいんですよね、日本人もそうだけど、でも、そうした女々しさの中にも希望が見えてればいいんだけど、女々しいだけっていうのはイヤですね。僕、退廃で完結してる音楽は嫌いなんです。崩れ落ちる一歩前で光を出してような美しさは、すごく好きなんだけど」

—じゃあ、最近よく聴く音楽は。

「今はハワイアン・ミュージックかな。僕、基本的にあんまりロックって好きじゃないんですよ（笑）」

—それにしてもハワイアン…。キッカケは何だったんですか?

「僕の友達が、ハワイアンをやってる人と知り合いでね、その人のライブを見にいったら気に入ってしまって。空気感が伝わってくるんですよ、ハワイアンって。それがすごく気持ち良くてね、一種の民族音楽かもしれないけど、それよりもうちょっと発展してて、すごく平静な空気感が感じられるんですよ。だから、聴き込むっていうよりは部屋の空気が変わるからBGMとしてかけてるんです」

—ハワイアンってウクレレ思い出しちゃうんですけど、私なんか。

「でも結構奥深いんですよ。ハワイアンからフラダンスを連想する人がいるかもしれないけど、そうじゃなくて、もっとカッコイイのがあるんですよジャージーなやつとか」

—へえ、意外。

「でも、あと一ヶ月ぐらいしたら趣味が変わるかもしれない。だって、その前はパット・メセニーがすごく好きだったし。（笑）あっ、そうだ。僕今、モトリー・クルーにも興味あるんです。ポップ・ロックの真髄をやってるなってことを発見しましてですね、よく聴くんですよ。気持ちいいでしょ。あのバカさ加減っていうか（笑）スコーンと抜けた気持ちよさってありますよね。それをなんか勉強できないかなって思って」

INTERVIEW●MISATO KONDA

THEME INTERVIEW

SOFT BALLET

お互い多くは関与しないわかりにくい結びつき。

—藤井さんへのテーマは〝ソフトバレエを語る〟……なんですけどね。アマチュア時代から今の形態だったんですか?

「そうですね、変わらない。僕と森岡が自分の家でほとんど完成の形に近い曲を作ってきて、それをテープに編集し、歌をのせる。そういう作業を繰り返してきました」

—作品として形にしたのは?

「自分達で自主盤作ったのは、シングル1枚かな。あとオムニバス・アルバムという形で2曲」

—バンドの活動としては?

「2か月に1回会えばいいほうで。本当にたまに会って、1年に2、3回ライブやって。そんな感じですね。デビューするまで7、8年活動してたわりに、20~30本ぐらいしかライブやってませんしね」

—結びつきが薄いですね。(笑)

「そうですよ。曲作りにしてもお互いに干渉しあったりすることも全くなかったし。ミーティング? そんなの今だにありませんよ(笑)」

—プロ指向とかなかったんですか?

「デビューの話が来た時は、やっと来たか遅かったなという気はしました。でも実際悩みましたよ。音楽はあくまで趣味でやってるつもりでしたからね。そこを踏み切ったのは……とりあえず首を突っ込んだからには、一度は極めてから辞めようかなと思って。そこらへんは各自の思惑が違ったかもしれないけど」

—最初は英語の詞だったんでしょ。

「もともと始めた頃は日本をターゲットにしてなかったから。〝向こうにデモ・テープ送ったりしよう〟ってノリのバンドだったので。また英語のほうが普遍性もあって後々いいんじゃないかと。でもとりあえず日本で出すことになった以上は、ムリはないかというくらいの気持ちで」

—だけど自分達が思ってた方向性とはズレてませんか?

「それはズレてますね。(笑)こんなハズじゃなかったのにって」

—例えば?

「まさかこんな女のコがキャーキャーいうようなバンドになるとは思わなかったし。(笑)これは何なんだ?という社会現象を作ってですね。その正体は実はソフトバレエだったという偉大なビジョンは抱いてたんですけどね……ダメでしたね(笑)」

—だけど認知度も高くなったし。日本に止まらずというビジョンはいつか実現出来るのでは。

「ええ。近い将来には実際あってもいいとは思うんですけどね。でもそんな遠い話はわかりません(笑)」

—確固なテーマってあります?

「別にないなー。ソフトバレエはね、本当になるようにしかならない。そういうバンドですよ。各自が異なった音楽性を持ちつつ、また3人でいる意義もあるから一緒にやってる。そんな感じですね」

—この3人は実力が伯仲してるし、資質が似てるんでしょうね。

「それって打算なのかなー。(笑)ひょっとしたらこの3人の結びつきっていうのはメディアなり何なりの、今の流行はコレだ! っていう言葉に猫も杓子も右を向く。そういう時に右をパッと見てなかった人間が集まってるのかもしれないですね。アンチテーゼ? いや、それも違うな。時代の大きな流れとは関係ない場所で生きてきたけど、例えばニュー・ロマンティックのムーブメントの時はそっちに行った人達だし。でもお互いに多くは関与しないし。わかりにくい結びつきですよね」

—でも、この3人が結びついたからこそ今の形態のエレクトロニクス・サウンドを生み出した。先駆者的なバンドとしてね。

「いや。それはYMOもいたし、先駆者というにはおこがましいですよ。だけど、エレクトロニックスを使いながらも肉体的だという事に関しては、日本における先駆者である自負はありますね」

—どういうバンドだと思って欲しい?

「変なバンドであると。それが一番ラクかもしれない。なんかミョーだなと言われるくらいがいい、かな」

INTERVIEW●YUMIKO YAMASHITA

BEST SELECTION

CBS/SONY Publishing Inc.

定価はすべて税込です

「クリスマスが何だっていうのよ。どうせ私にはイブをいっしょに過ごす相手もいないのよ。」なんて言っていじけてばかりじゃ、徹底的にみっともないよ。男の子の紹介は無理だけど、キミを元気づけてくれる本をたくさん紹介してあげるよ。

★新刊★ ニュー・キッズ・オン・ザ・ブロックの全て

人気グループ自らが語る、世界唯一の公認書。

●ニュー・キッズ・オン・ザ・ブロック著●A4判●予価1,600円●'91年1月下旬発売予定

全世界のNo.1人気グループ、ニュー・キッズ本人達が書いた彼らの全て。メンバー一人一人が秘蔵の写真を使いながら、子供時代のこと、家族のこと、そして、音楽のことを語る。ストリート育ちの彼らの秘密と、ご機嫌な私生活がいっぱい。

NOW PRINTING

好評既刊 徒然なる毎日 狂市のMADE-IN TODAY

飾らないロッカーがつれづれなる日常を説く

●杉本恭一著●四六判・ソフトカバー●定価1,000円●好評発売中

Pee Wee誌の人気連載、レピッシュのギタリスト杉本恭一の「MADE-IN TODAY」が単行本になった。好評の連載原稿に新たなイラスト、文章の書きおろしを加え、ロッカーの日常における真実をブチまける！読んで笑い、泣け！

好評既刊 どうにも目の離せぬ男たち。

時代を操る男たちが本音を語る

●四六判●240頁●定価1,200円●生和寛・選●好評発売中

齋藤令介＝ハンター、三浦憲治＝カメラマン、エドワード鈴木＝建築家、徳大寺有恒＝自動車評論家ら、各界一流の男12人が登場。著者との対談のなかからその人それぞれの人生観、体験が浮きぼりに。

好評既刊 RHYTHM RED(リズム・レッド)

新生・TMN初の写真集

●B4判・豪華特殊パッケージ入り●定価3,200円●好評発売中

"TM NETWORKからTMNへ"—10月25日、TMNとしてニュー・アルバム『リズム・レッド』をリリースしてリニューアルする彼らの新しいヴィジュアルを収めた、全編撮り下ろしによる豪華仕様写真集。

好評既刊 BARE〜裸のジョージ・マイケル

ジョージ・マイケル自らが語る自伝！

●トニー・パーソンズ著●沼崎敦子・訳●A5判●定価2,200円●好評発売中

ルーツ、ギリシャのキプロス島に思いをはせ、転校が多かった子供時代、アンドリューとの出会い、WHAM!の結成、そして解散。スーパー・ヴォーカリストとして今日と、新アルバムに関して。ジョージが思いのたけを語った唯一の公式書籍。

好評既刊 地上の虹

新しいロックンロール小説の誕生!!

●須藤晃著●四六判●定価1,200円●好評発売中

GB本誌で好評連載中のプロデューサー・須藤晃氏によるロック小説「ロックンロール・ロマンス」の単行本化。書き下ろしの1編を加え、堂々登場！　表題作他全8編収録。

好評既刊 いたずら天使

日向敏文へのオマージュ〜短編小説集

●四六判●定価1,400円●好評発売中

"ひとつの写真から、1枚のアルバムが生まれ、そこからまた5つの短編小説が生まれた"—日向敏文のニュー・アルバム『いたずら天使』をモチーフにして、5人の若手ライターが短編小説を競作。映画音楽を思わせるインストゥルメンタルの世界を、活字が再現！

好評既刊 黒いスーツのサンタクロース

劇団●座●キュービーマジック作品初の単行本。

田窪一也著●カバー・挿絵・小松修●A5変型判●定価1,400円●好評発売中

クリスマス・イヴの夜、女優の麻子の部屋に訪れて来たのは、ちょっと小太りのおかしな死神でした。麻子と死神・デニスグッドのほのぼのとした関係がかもし出す、楽しくて、そしてちょっと泣かせるストーリー。

好評既刊 背中のラブソング

いよいよ単行本化！

●小嶋さちほ著●A5変型判●定価1,100円●好評発売中

Pee Weeにて連載、大好評だった恋愛小説「背中のラブソング」。ZELDAのベーシスト、小嶋さちほさんの書き下ろしによる、フツウの女の子と"憧れ"のロックスターとの恋の物語。熱烈な声援に応え、ついに単行本化！

好評既刊 MY SELF(マイセルフ)

徳永英明アーティスト・ブック

●A5判●定価1,500円●好評発売中

3人のインタビュアーが彼の声を拾った"VOICE"。ツアー中を追った"FOLLOWIN"。以前GB誌上で連載した"徳永英明の気ままなドライブ・スケッチ"。デビューから"序曲―夏の日"までのライブを写真で振り返る"LIVE MEMORIAL"etc……。ビジュアル／読み物ともに充実した一冊です。

森田恭子の単行本、発売決定!

あの森田恭子さんが本を作りました。

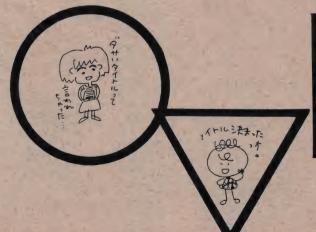
▶森田恭子さんが出会ったたくさんのアーティストのこと、強く印象に残ったインタビューやコンサートのこと、そしてライターという仕事のこと。愛する音楽と、さまざまなことを、パチ▶パチでもお馴染みの、独特の感性がヒカる文章でまとめたエッセイです。

▶登場する人々

BARBEE BOYS　チェッカーズ
TM NETWORK　C-C-B
UNICORN　J(S)W　LOOK
KATZE　KAN　三上博史
GO-BANG'S　Be-Modern
RCサクセション…and many more

▶大好評の手書き文章とイラストや、4コマまんが、お友だち対談などもあります。
▶短編小説（これがまたすてきにかわいい）イメージ写真、それにコピーも載っています。

●四六判●248ページ●定価1000円（税込）

絶賛発売中
NOW ON SALE!!

P.S. 世界でいちばん長い追伸。
P.S.…森田恭子の本。

PATi▶PATi PRESENTS

BUCK-TICK
HYPER BOOK

▶スペシャルポスター付
▶A4ワイド▶160ページ
▶1545円(税込)

3月7日…カリスマ桜井敦司が、この世に生を受けた日。1989年のこの日、本書『HYPER』が発売された。想像を絶する写真点数と、インディビジュアルなデータで構成された空前絶後のアーティスト・ブック…それが『HYPER』である。現代のサクセス・ストーリーを体現してみせる5人の戦士を、パチ▼パチ&パチロクが総力を結集して凝縮した究極の書である。

大増刷出来!!

UNICORN
●初のアーティスト・ブック『イナゲ』

▶A4変型・ケース入り
▶240ページ
▶1650円(税込)

初のアーティスト本は、"内容充実。キュート&豪華!!"を売り文句(笑)に、堂々のベストセラーを記録。パーソナル・ロングインタビューは当然、徹底した企画満載、もちろん撮りおろしフォト、ビシバシで、この一冊で、ユニコーンの5人が裸になるほどの徹底解剖本だ。ユニコーン・ファンのバイブルといえば、この『イナゲ』。

大増刷出来!!

BOØWY
『大きなビートの木の下で』
●感動のBOØWYストーリー

▼四六判▼280ページ▼1339円(税込)

早くも伝説となりつつある、スーパー・ロック・バンドBOØWYが、出来あがるまでの唯一のオリジナル・ストーリー・ブックが、この『大きなビートの木の下で』です。4人のメンバーの過去、そしてBOØWYとしての出会い。これは、すべてのロック・バンドにとってバイブルともいえる、ロック・ストーリーです。

大増刷出来!!

UP-BEAT
●初のパーソナル・ブック『Weeds&Flowers』

▶B5判上製本
▶152ページ
▶1800円(税込)

3年かけて、やっと完成したUP-BEAT初の単行本。15万字の文字と撮りおろしスペシャル・フォトがどっさり。生い立ち、UP-BEAT結成、メンバー脱退、現在まで、初めて明かされる事実がいっぱい。UP-BEATを知るために、絶対欠かせない一冊です。

絶賛発売中!!

バービーボーイズ
初のスペシャル・ブック『WELCOME』

▼A4ワイド▼160ページ▼1339円(税込)

バービーボーイズ初のスペシャル・ブックは、彼らのデビュー後3年間を、パチ▼パチで一冊の本にまとめたものです。ロング・パーソナル・インタビュー、メンバーのオリジナル企画、ライブ&ツアー・レポートあり、完全データ集、こぼれ話エピソードなどなど、まさに、この一冊でバービーボーイズのすべてが知れるという、超お得なスグレ本です。まっ赤な表紙が目印。

大増刷出来!!

米米クラブ
●第1回配本 暴かれた米米クラブの過去

罪と罪
▶A5変型
▶212ページ
▶1236円(税込)

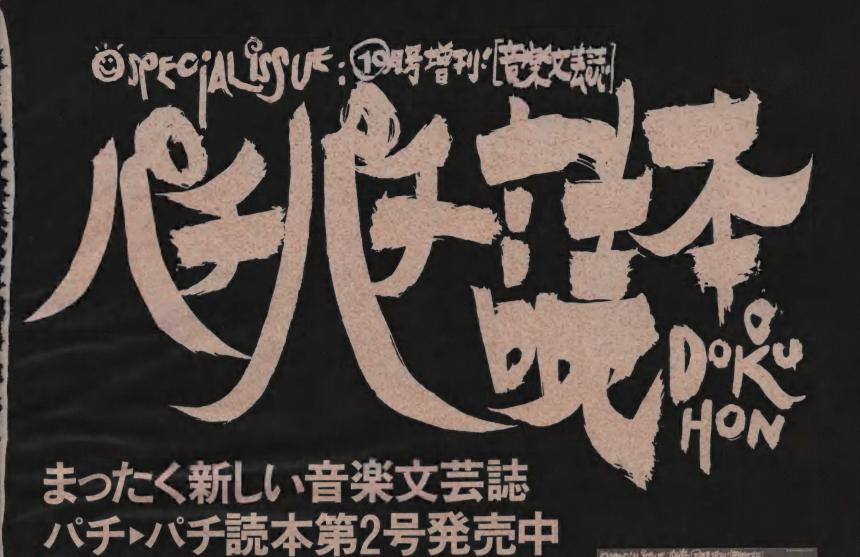
●第2回配本 徹底追求米米クラブの現在

車輪の上
▶A5変型
▶248ページ
▶1236円(税込)

大増刷出来!!

宇都宮 隆
『彼女』

最新、撮りおろしフォト。そして、あの長編小説『彼女』をふたたび……

▶四六判・ケース入り
▶256ページ
▶サービス価格880円(税込)

尾崎 豊
『WORKS』

『WORKS』プラス、パチ▼パチ5年間のインタビュー集大成100ページ

▶四六判・ケース入り
▶304ページ
▶サービス価格1200円(税込み)

BOØWY
『RENDEZ VOUS』

新装『ランデブー』は、未発表フォトに加え、BOØWYオール・データ集付

▶四六判・ケース入り
▶224ページ
▶サービス価格1200円(税込)

3大ベスト・セラーをサービス価格軽装版で発売中!!

松岡英明
FIRST BOOK『NOT FOR SALE』

▶A4変型上製
▶176ページ
▶1650円(税込)

松岡英明がパチ・パチに連載した『NOT FOR SALE』。すべてを集めてみると松岡'S WORLDが見えてくる。ロンドンでの特写。10月バンコク、香港ライブでの特写も加え、ビジュアルも充実。松岡の様々な世界を全解剖のスグレ本。デビューから1989年までの松岡のすべて。

絶賛発売中!!

SECOND BOOK『THE STORY OF STORIES』
ものがたり物語

▶A4変型上製
▶128ページ
▶1500円(税込)

松岡英明セカンド・ブックです。前作『NOT FOR SALE』に続いて、撮りおろしフォトが充実の一冊。加えて、オリジナル曲をベースにイメージ・ストーリー『松岡英明劇場』を完全収録。そして、ニューアルバムをインタビュー他で完全解剖。1990年の松岡のすべて。

絶賛発売中!!

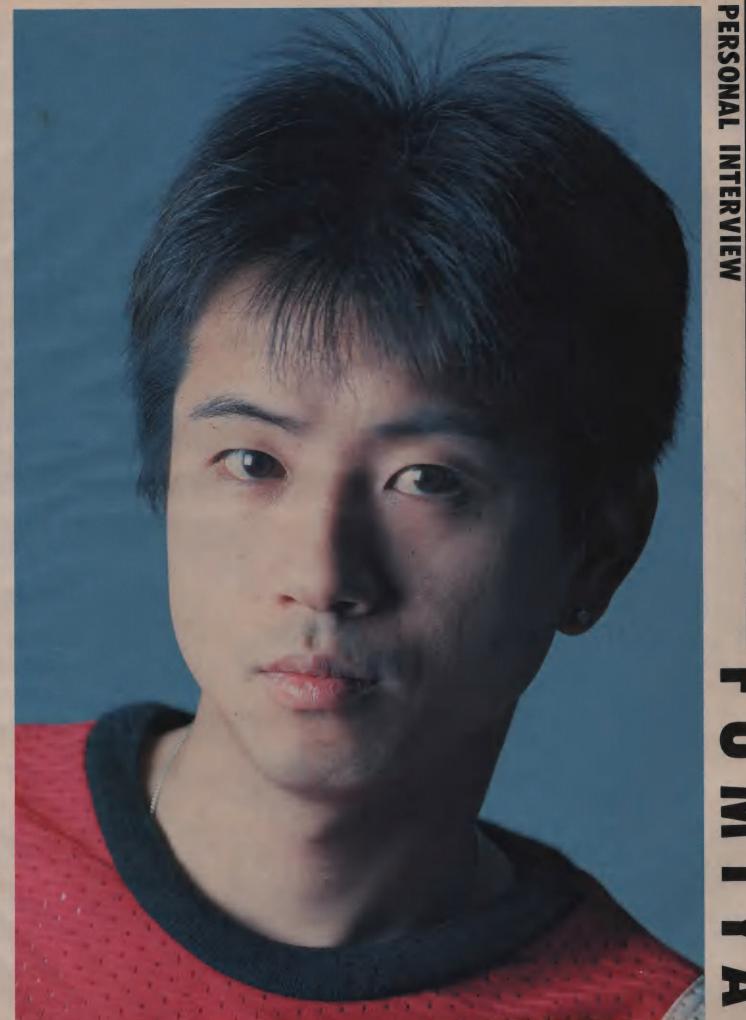
●たとえば、高杢禎彦は、"どんな番組に出る時でも、俺はチェッカーズをしょってるから"という。藤井郁弥は"享がおらんと何もできんもん"だし、MASAHARUは"ソロでも、クロベエがドラムだと、ずうずうしくなれる"らしい。やっぱり㊟中心だった1990をパーソナルでっ！

PHOTO by HISAKO OHKUBO, COPY by "ALL WRITERS"

THE CHECKERS ▶ FUMIYA FUJII ▶ LEAD VOCAL

PERSONAL INTERVIEW

FUMIYA

THE CHECKERS▶藤井郁弥▶FORM A CIRCLE!

たぶん、今年、いちばん取材したのは、この藤井郁弥君だと思う。そこで、会うたびに〝もう聞くことないやろ〟と言われてしまう羽目に私はなった。でも、そうではなかった。聞くことは、あとからあとからたくさんあった。長期の休み、結婚、アルバム・リリース、ツアー……彼は次から次へと、けれど無意識に、話題を投げかけてくれていたのだった。

そして、豊富なニュースよりもっと雄弁な彼の感性が、取材する側のやる気をかき立ててくれたものだ。

さて、'90年最後の、郁弥君へのインタビューである。

フミヤ 今年は……しょっぱなが休みだったからね、2ヵ月。ほいで帰ってきて、アルバムに急に参加して、大変だったね。それからツアーが始まって、で、結婚があったからさ。それに対して向かってたね、途中からは。何よりも一大イベントだからね。それさえ成功させりゃ、だいたい今年1年は大丈夫なんじゃないか、っていうのが自分の中の目標だったかな。

—それは、ツアー始まる前でしたよね。

フミヤ 前。ウン。

—その時期っていうのは、どうして選んだんですか？

フミヤ ツアーの前かいいかな、と思って。

—どうして？

フミヤ （ファンに）報告するにはラクじゃない。

—ああ、全国で言えるもんね。

フミヤ ウン。そういうのもあって。……いろいろラッキーだったよ。

—みんな温かく受け止めてくれたしね。

フミヤ で、シングルが〝100Vのペンギン〟か〝夜明けのブレス〟かどっちかでいこうっていうことになって、それで結婚のこともあるから、俺は逆に〝100V〟がいいかなと思ったんだけど。

—照れくさいから？

フミヤ ウン。……っていうか、何歌ってもさ、あの時期だとああいうふうになるから。でもみんなが一致して、こっちがやっぱりいいんじゃない？ってことになって、そうか……って。結構悩んだんだよ。結局、みんなが、あんたに委ねるみたいになって、んー、じゃいいや、イッテやれぇ、みたいな。（笑）……そしたらね〝ダスマニア〟に使われちゃったわけよ。それで、えらいラクになってさ。気分的に。

—郁弥君の結婚ウンヌンよりも、すごい露出量だったから、どうしても映画のイメージの方が先に来るもんね。

フミヤ そう。ついてるなぁ、とか思って。（笑）で、ツアーまわって、ボチボチきたかな、みたいな感じだね、今年は。

—そうですね。

フミヤ あと、歌番組がなくなったからね。秋ぐらいから。それと、バンド・ブームがあったからさ、かなりのバンドがデビューしたろうねぇ。

—しましたよぉ。

フミヤ もう俺らが入るページはないね、PAT－PATに。（笑）

—何を言ってるんですか。（笑）でも、チェッカーズみたいなバンドはなかなか出てこないですね。

フミヤ 出てこないね、ウン。やっぱりなんかねぇ、商業化されてるよね、バンドが。長く売ろうとかあんま考えてないようにしか見えないもんね。まぁ、アーティスト側も別にそれを気にしてないように見えるね。

—あ、それはあるかも。なんか、青春の思い出になれば。

フミヤ いいや、みたいなね。そういう感じがするなぁ。だからAVギャルも似たような感じはするよね。（笑）パッとひと花咲かせよう、みたいな。

—（笑）そうい人もいるでしょうね。

フミヤ 俺らがほら、ミュージシャンになるとかいう意味合いって違うじゃん。田舎から何かを背負って出てきて、もう二度と帰れないぞとかさ、そういう考えって、今はあんまりないのかもしれない。それで、よく知ってるよね、音楽的なことは。単語とか名前とか、音楽の専門用語とか。俺なんか何にも知らないじゃん。（笑）

—未だに？

フミヤ ウン。なんとかのアルバムのなんとかのギターが最高だ、とか言われても、何のこっちゃか全然わからんもん。（笑）

—でも、これはちょっとヤバイ、って思うようなバンドはいました？

フミヤ いないね。全然違うバージョンではね、やっぱスカパラとかは、きてるな、と思うね。カッコイイナァ、とか。……あとはないな。天は二物を与えずっていう感じがするよね。あー、この子もうちょっと顔がよかったらヤバかったな、とかさ。歌超うまいんだけどセンスが……とか。そしたらヤバかったなぁ、とかさ。……俺に身長をくれなかったようなもんだよ。（笑）俺、身長175センチぐらいあったらなぁ。

—でも、そうじゃなかったから……。

フミヤ 売れたのかもね。……もっとのぼせ上がっとったろうね。俺が175あったら、超ナンパで、なんかもう。（笑）

—（笑）で、今年の話に戻りますけど、結婚したことって仕事にも影響を与えていますか？

フミヤ ゆっくり物事を考えられる。ウン。

—精神的に落ち着く？

フミヤ 落ち着くね。うちにオモチャ（楽器関係、コンピューター関係、AVシステムなど）を買い始めたね。いっぱい。雑誌とかいろんなものを見る機会が増えたね。

—家にいる時間が長いから？

フミヤ そうそう。

—実際に、物を作ることに対しても、影響はありますか？

フミヤ あるだろうね、ウン。それでも時間が足りないんだから、なんでかなぁ……。

—やりたいことが、いっぱいあって？

フミヤ やりたい、やらなきゃいけないこと……いろいろ考えてる。ちょっと難しくなってきたからね、だんだん。

—何が？

フミヤ チェッカーズを維持しながら、先へ突き進むってことが。

—チェッカーズは安定してるから。

フミヤ 安定がいちばん危険だね、でも。

—そうだよね。

フミヤ でも、音楽に興味は持ったね。今年は。ウン。デビューして初めて。（笑）

—え、だって、今までは？

フミヤ 持ってなかったもん、興味。

—何に興味があったの？

フミヤ そう言われると不思議なんだけど、何をやろうかなって思うことに興味を持ってたのかもね。

—フーン。それがたまたま音楽だったっていう……。

フミヤ 音楽は嫌いじゃないから。

—（笑）そうでしょうけど。

フミヤ でも、さほど興味はなかった。って言ったらあれだけど、興味あったけど、そう真剣にはっつっちゃあ、あれだけど、俺は音楽だ、みたいなことはなかったね。

—あ、そう？

フミヤ ウン。今年になって芽生えたかな。リード・ボーカルだっていうのが。

—（笑）。

フミヤ ボーカルっていいなって。ミュージシャンっていいかもしれない、って。知らないあいだに、ものすごくボーカルっていうものを勉強してたなっていうことに気づいたの。8年間、歌ってきて。

—へぇ……。何がいちばん素晴らしいことですか？ ボーカルに関して。

フミヤ 体が楽器だからね。ギターとか見てて気持ちいいだろうなと思うけど、このあいだ享にそれを言ったら、でもボーカルはもっと気持ちよさそうに見えるぜ、って。歌えるって、オマエ、えらいイイぜとか言われた。そうやんね、大事にせにゃいかんねと思ったもん。（笑）

—でもお芝居とかもやったでしょ。

フミヤ 芝居はね、やるけど……本気でやってんだけど、さほど本気じゃないんだよなぁ。っていうのは、ステージで歌ってるときの俺よりカッコイイことができりゃね、そのときは芝居に行っちゃうかもしんないけど……歌よりカッコイイ自分をみせるものっていうのは、今んとこないもんね。

—そうかぁ。

フミヤ 俺は本気になるよ、来年。

—本気に？

フミヤ ウン。大本気。だって、…やることないもん、本気になるしか。今まではほら、遊んで、夜飲みに行ったりとか、女の子と遊んでたとか、そういうことに結構時間使ってたりもしてたからね。野郎どもと集まって飲んだりとかね。そういうことかすっげぇ楽しかったから。毎日、朝方まで革ジャン連中20人くらい連れて。クラブでもう5時間ぐらい踊ってたりとかさ。そんなことばっかりやってたじゃん。

—そういうエネルギーの延長線上で仕事もこなしてるっていうイメージは、確かにあったよね。

フミヤ そう。結構ね。でも、来年は本気になるよ。本当に。今までノラリクラリやってきたけど、俺。

—じゃ、来年はまず、何から？

フミヤ 休み。

—あ、休み……。

フミヤ それからレコーディング。でも俺は休みを返上して、ちょっと新しい分野……映像とかにも手を出すからね。それが今から楽しみ。もう、やりたいことは、みんなやる。

郁弥君はいつになく頼もしく、笑うと相変わらず童顔だけど、その奥底には、自信とか意欲とか、前向きなものがいっぱい詰まっているような気がした。いい仕事を続けている証拠だよね。

でも、今年最大のニュースは、やっぱり彼の結婚。これはチェッカーズにとってもしかして大きな冒険だったかもしれない。新しい夢を蓄えて、チェッカーズはまたもう1歩進む。

また新しいニュースを、来年、彼はたくさん届けてくれそうだ。

「今年になって芽生えたかな、リード・ボーカルだっていうのが」

Q．今年買った中で一番高かったものを教えてください。 A．おくさん。

Q．今年捨てた中で一番大きかったものを教えてください。 A．燃えたベンツ。

文●森田恭子

THE CHECKERS▶藤井尚之▶FORM A CIRCLE!

【真剣に自分を見つめたら、俺、酒は飲まないだろうしね】

去年のようにソロ活動はなかったものの公私共々、なにかといろいろあった今年の藤井尚之さん26歳。チェッカーズというバンドのこと、そのバンドにいる自分のことについて、あれやこれやと考えてみた一年だったらしいが、そこには太宰治タッチの苦悩はナイ。あるのは、カッコよくいえば自己の解放。ひらたくいえば「ラックな方がイイやぁ〜〜〜」のお気軽スピリット。

そこんとこ、もうちょっと詳しく訊かせて下さいな、つーことでインタビューだ。

——今年は、いつもとはちょっと違った年だったのではないでしょうか。

ナオユキ そうですね、今年は一大イベントもありましたし。肉親のノリなんですけどね、なんかホッとしたものもありました。

——落ち着いてよかったな、みたいな。

ナオユキ うん。あとはだから、うちの看板が世帯を持つと、バンドにどういうふうに作用するのかなっていうのはありましたけど、あんまり変わりはなかったですね。

——ファンが離れていくんじゃないのかなみたいな不安があったとか。

ナオユキ 正面切っていうわけじゃないけど、そういうようなことを周りに言われたしね。でも、結果的に何の問題もなかったし。

——別に変わったこともなく。

ナオユキ そうですね、ただ、気持ち的にゆとりがでたっていうか、大きくなったっていうか。

——自分も結婚を考えたりとかは。

ナオユキ ちょっとぐらいは。

——ちょっとだけ。(笑)

ナオユキ 今は一人がいいから。ホントに。

——一人で勝手気ままに飲み歩いてる方がたのしい、みたいな。

ナオユキ 現実的にモノを見ちゃうんですよ。もし結婚して子供ができたりしたら無茶っていうか、今みたいにフラフラできないっつー。でも、こんなこと言っててもシユミレーションにすぎないからね、結局。

——結婚してみないとわかんないっつーか。

ナオユキ これはっかりはね。

——確かに。で、話が変わるんですけど、去年話をきいた時に、今年はソロをやらないっていってましたよね。

ナオユキ そう、もったいぶった言い方じゃなくて「やらん」って言ったような気がするな、俺。わからない、とかじゃなくて。

——それで、自然とバンドだけの活動になってしまったわけですが、じっくりバンドをやってみてどうでしたか。

ナオユキ なんかね、改めて自分は何をすべきだろうか、みたいなことを考えなきゃいけないところが出てきたっつーか。っていっても、別に悩むってことじゃなくて。

このあいだのパチ▼パチを読んだファンの子から「煮詰まってるんですね」とかいう手紙をもらったんですよ。そんなふうに誤解されたからね、いやだなあと思ったんですけど、悩んでるわけじゃないんですよ。要するに、うーんうーんって考えに考えぬいたって感じじゃなくて、あー、どーしようかなぁっていうカルいもんだから。やらなきゃやらないでいいか、みたいなね。

——あくまでもカルーく。

ナオユキ うん。でも、ヘンな話なんですけど、あんまり音楽に向いてないんじゃないかなっていう(笑)そういう気もしてきた。

——ここにきて、ですか。

ナオユキ そういう時期ってあると思うんだ、みんなに。ありませんか? 私にはこの仕事向いてないんじゃないかなあ、とか。

——ある。(即答)他に何かあるんじゃないかな、なんて考えたりする。

ナオユキ でしょう。何か一番はまったものが、きっとあるんだろうってね。

今まではね、俺はできるんだぞぉーみたいなね。(笑)なんかそういうノリで見せてたっていうか、よくよく考えたら「あいつは何にもしてねえんじゃねぇか、おい」って言われてもおかしくないよなって。ようするに、世渡り上手だったわけですよ。

天使と悪魔がいて、悪魔がささやくんですよ。「ホントはお前は何もできないんだよ」って。それに天使が肯いてるような。(笑)

——でもまあ、そういうのも気楽でいいかみたいな。

ナオユキ そうそう。ラクな方がいいかなあ、と。根本を辿れば自分がこのバンドに入ったのは、小判ザメみたいなもんなんですよ。それが今でもやってるっていうのは、もう基本的にラクだから、これにつきるでしょう。だから、俺がこのバンドに革命的なことを起こしてやろうとか、そんなふうには全然思ってませんしね。

——その手の役を周囲の人が期待してたりしませんか。

ナオユキ してないでしょう。だから今年は逆に、こんなもんだ俺はっていうのがわかった。バンドの中での自分の位置は、こんなもんなんだって。

——あくまでも肯定的な意味で。

ナオユキ うん。

——変えようとかは思わないんですか。

ナオユキ あんまり思いませんね。変えようもないし。メンバーそれぞれ、ちゃんと自分のできることをちゃんとやってるんだし。まっ自分もそういう意味では、ちょっとはちゃんとやってるし。(笑)

——ちょっとだけ?(笑)

ナオユキ ずば抜けてるっていうのでも…。

——自分を客観的にみると、そうなるんだ。

ナオユキ うーん…たぶん。でも、どうだろうなぁ、本当のところはよくわからない。考えたことないし、自分を見つめるとかね。(笑)そういうことってできないもん、俺。

——つーか、したくないんですかね。

ナオユキ したくない…うん、したくないって逃げてる部分があるかもしれませんけど。

——なんで逃げちゃうんですか。

ナオユキ めんどくさいから、かな、やっぱ。

——ただ単純に。

ナオユキ うん。だって本当に真剣に自分を見つめたら、俺酒は飲まないだろうしね。もっとちゃんとした生活するだろうし。

——じゃあ、いっそ、酒をやめるとか。

ナオユキ あ、それはできない。もうね、「飲んでる?」「飲んでる飲んでる」っていう世界ができちゃってるから。(笑)これはっかりは。それに、飲んでると楽しいし。

——快楽主義的なところはあったんですか。

ナオユキ 酒飲むようになってからかな。若い頃は酔払うという行為が楽しいっていう感じだったけど、最近は楽しい飲み方がわかってきたからね。

——やめるにやめられない状況ですね。

ナオユキ 酒に溺れた人間ですから。(笑)でも、もう違う話にしましょう。またか、こいつはって思われるから。(笑)

——(笑)。酒の話は置いといてですね、チェッカーズの一年を振り返ってみて下さい。

ナオユキ 今年はちょっとした進歩がありましたね。自分達で自分達のイメージを、いい意味で壊していくっていう。チェッカーズっていう看板がでかすぎるから、何やってもいいみたいな。看板を利用して、何やっても売れるから何でもやろうとかじゃなくて、その看板のせいで今までできなかったことがいっぱいあるから。

自分達は企業なんです。芸術家じゃない。自分達で曲作って演奏して、それを商売にしてるでしょ。こういう言い方って淋しいっていうか全く夢がないのかもしれないけど、事実だから。で、出すものに関してはチェッカーズの王道路線っていうものをすごく大切にしてるんですよ。一般大衆を相手にしてっていうのがすごくあるから、こういうのがチェッカーズだよな、みたいな王道路線を、例えばシングルにしたり。

でも今年はそればかりじゃなくて、こういうこともやった方がオモシロイとか、ああいうことも一回やってみようかとか、そんなノリがあったんじゃないかなぁ。

——バンドの成長を感じた年、だったと。

ナオユキ あとは、ここ最近仕事しててつくづく思うのは、本当にオールマイティなんだな、俺達はって。バラエティに出てギャグやるわ、『ミュージックフェア』でデュークエイセスと一緒にコーラスやるわ、みたいな。なんでもやる便利なバンドだなぁって思いましたよ、本当に、「おまえらにはプライドがないのか——!?」って言われたら、「ない」ってハッキリ言えるし。(笑)「なんでもやるよ」みたいな。でも、音楽はちゃんとやってますからね。基本となる音楽はちゃんと全部自分たちでやってますから。

——音楽活動に専念したいと思いませんか。

ナオユキ それも必要だと思いますよ。でもやっぱり飽きるんじゃないかなあ。だから、音楽を中心として、他の仕事もやっていうんだったらいいけど、ドップリ音楽に漬かるっていうのは、あんまりよくない。

——ライブとレコーディングだけやってるのが理想だって言う人多いけど。

ナオユキ うちらはそういう人達と違うもん。違う人種だから比べられない。うちらは特殊っていうか、他にないバンドだから。

——バラエティから音楽までこなせる人って、いそうでいないですからね。

ナオユキ ほとんどのこと、やったもんな。ないのは料理番組ぐらい。水泳大会も出たし。うちらって割りばし的なものじゃなくて、普通の箸みたいに洗ったらまた使えるっていう(笑)そういうノリなのかなぁ。

——わかりやすいけど、すごいたとえ。(笑)でまあ、最後に来年の抱負をひとつ。

ナオユキ やっぱ、いもじゃないとダメだな、シブイとか言われたらダメ。年がいもなく、とか言われた方がいい。

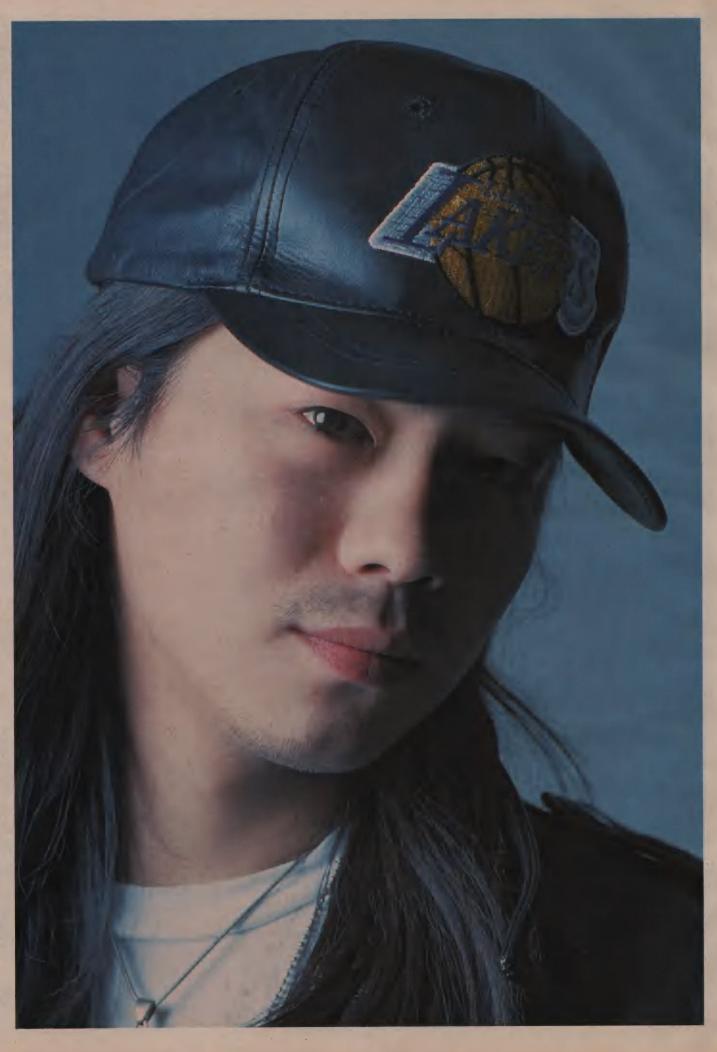
——シブイ＝落ち着くっていうか。

ナオユキ それはやろうと思えばできるし、それって逃げてると思うから。バカやるんじゃなくて、ハデをやる。ハデを楽しく、カッコよくやる。これだなぁ、うん。

——ちなみにハデなことっていうと。

ナオユキ やっぱ遊びでしょう。遊びが上手い人はやってることも成功してるもん。

——遊び上手になりたい、とか。

ナオユキ そうそう。俺って自分の中で妙に偏見持って拒否してるとこが今まであったから、これから何でも顔出した方がいいなぁと思って。行ってみると面白いですからね。だから、自分で稼いだものは自分で使う。一人もんだから、今のとこ。(笑)

文●根田美聡

Q. 今年買った中で一番高かったものを教えて下さい。　A. レーゾーコ。
Q. 今年捨てた中で一番大きかったものを教えて下さい。　A. レーゾーコ。

PERSONAL INTERVIEW

THE CHECKERS ▶ NAOYUKI FUJII ▶ SAXOPHONE

NAOYUKI

TOHRU

PERSONAL INTERVIEW

THE CHECKERS ▶ 武内享 ▶ FORM A CIRCLE!

「あれが最後だったなあ、作っといて良かった」

一度ガーッと頭洗いたくて三ツ編みをはずしちゃったんで今、田村正和してるんだ、ってテレてた今回の享氏。そんで、もみあげを生やしてる最中で、もみあげを伸ばして尾崎紀世彦になるんだ、ってわけわかんないこと言ってました。へ？　享氏ってこんなに平和、いや失礼、無邪気なことも話す人だっけ？　とお思いのみなさん。インタビューはもっとおかしいよ。なんでも最近はグループ交際と〝やっぱりLOVEだよねっ〟をコンセプトに日々精進してるそうで。しかし、裏の努力を表に見せないリーダーの生き方って、カッコイイよね。

——今年の幕明けから回想してください。

トオル　今年の幕明けはでございますね、新しいLPのことで頭がいっぱいだった。『OOPS!』の準備段階から始まったね。

——そういえば初日の出はGOLD（芝浦のクラブ）で曲を作りつつ迎えたとか。

トオル　うーん！　さすが、その通りでございます。紅白が終わって打ち上げで、紅白もいちおう打ち上げがあるんですよ、NHKの食堂に寿司とか置いてあって。そこで鐘がゴーンとか鳴る中で新年を迎える挨拶がなんか〝ひとつ今年もよろしく〟みたいにあって。それにチラッと顔を出して、それでそのままGOLDに行ったね、衣装のまま。で、そこで友達と合流して日の出見て、おみくじ引きに行ったらスゲエ日立っちゃった、ということがありました。

——おみくじは何と出たか憶えてます？

トオル　吉じゃなかったかな？

——やっぱり1回しか引かないんですか？

トオル　や、あんなもん何度も引いたら絶対ダメだよ。そんなことできない。怖くて。

——ふむ、まあ今年も良い新年だなと。

トオル　日の出も見たし、富士山も見えたし。すごくヤルゾ！　って気になってた。

——そこで『OOPS!』の準備ですね。

トオル　この時郁弥がいなくてね。〝修業に行きたい〟ってロンドンに3ヵ月かな、行ったの。それでこっちは、曲を固めとこう、って曲出しして。それで決まった曲を向こうに送ったりしてたんだよ、デモテープを。

——そこで彼はそれに詞を付けてたの？

トオル　遊んでた、アイツ、充電だったから。まあ分かってたんだけどね、どうせやらないだろうってのは。（笑）

——3月に「運命」が出ましたね。

トオル　こん時はまったく個人的にだけど遊ばしてもらったな。尚之の曲なんだけど、個人的に引っ掛かるものがあったんで、例のリミックス。これはもうハッキリ言って無駄だと言われたらしょーがないんだけど、ディレクターに持ち掛けて〝いいんじゃない？〟って言われたんで、私仕切って、12インチ・シングルを500枚作らせてもらいましたよ。もうレコードって作んなくなっちゃったから、あれが最後だったなあ。作っといて良かった。

——それって売らなかったんだ。

トオル　売らなかった。メンバーに1枚ずつあげて、DJに配っておわり。いちおうオレは2枚持ってて、家で武内享リミックス・バージョンとか作って遊んでて、ラジオとかでもかけたなあ。

——4月には享さんの本が発表されましたね『だんだん気持ちよくなってきた』。この本はどういう……申し訳ないんだけど私、読ませていただいてないんです。

トオル　そりゃダメだなあ。そりゃ読んでほしいなちょっと。（笑）これはね、4年くらい前から月刊プレイボーイで〝だんだん気持ちよくなってきた〟ってコラム書いてたんです。その連載をまとめて、さらに書き下ろしとか対談とか写真とかマンガを加えて本にしたという。でも最初は本にするつもりなんてこれっぽっちもなかったから、いろんなこと書いてて。だから日記っぽくってね、メンバーとかは面白かったって言ってくれてた。メンバーとかは分かるから、書いてることの意味が。あっこの頃って煮詰まってたよね、とかさ。

——変化もありました？　自分自身の。

トオル　すっごいよね。だから、本の下にちゃんと注釈付けといたの。分かりやすく。わざと分かりにくくした部分もあるけど。

——書き下ろし分はいつ頃書いたの？

トオル　うーん、そういえば1月。1日に実家に帰って3日から原稿書いてたな。

——で、思い通りのものには仕上がった？

トオル　うん、うれしかったよね。異常にコストがかかって高くなっちゃったけど。

——というと上等な本？

トオル　びっくりするよ！　とんでもないよ、重いし。本で重いってのは大事だよ。あれはタレント本には見えないね。ハードカバーの、布製の、ちょっと読んでくださいよ。読んでもらうと私のこう、こんな奴なんだってことがすべて分かると思うから。

——自分ではどんな奴だと思いました？

トオル　ああそうだから、自分を掘り下げる意味でもすごく面白かったね。今だから言っちゃうけど、最後のあとがきってあるでしょ、文学小説とかには。ほら、全然違う人がさ、解説するじゃない？　彼は何年に生まれて、とか。それを名前変えて自分で書いた。

——うそォ書いてもらったんじゃなくて!?

トオル　真鍋新一郎とかよく分かんない人の名前にして〝私と彼は何年来の付き合いになるんだが、彼の性格は…〟って。

——そりゃ面白い。面白かったでしょう！

トオル　うん、バカみたいで。でも結構うまく書けて、これは才能あるんじゃないかと思ったね。笑ったもんオレ、自分で。あと対談の中にもオレとオレの対談って企画があって、それは結構深いものがあったね。オレって多面性持ってるから、真面目な人と不真面目なオレに分かれて…。

——で、いきなり書いたんですか？

トオル　いや、スキー場に行ったんだ。スキー場で酔っ払って、ヨシッやろう！　ってテープ回して1時間ぐらい喋ってたの。

——ひとりで？

トオル　そう。〝いや、どぉもこんにちわ〟〝最近どおっ〟なんてひとりでブツブツ。

——周りは誰もいないの？

トオル　うん、恥ずかしいから、みんな飲んでたけど〝オレ別の部屋に〟って言って。

——それをわざわざスキー場でね。いつだってできるのにね、テレコ1台あれば。

トオル　でもね、やってごらん、結構アブナイよ。その多面性ある自分を笑わすんだから1時間もやってると、どっちがどっちか分からなくなってくるから。だからちゃんとステレオで振り分けてやってたんだけど、頭ボーッとしてくんのよ。

——分裂症になりそう？

トオル　ほんとほんと。だんだんやってると自分を追究しちゃうもんだからね、話が暗い方に暗い方になっちゃうの、なんか。こういうのはどこから来たんだ？　って幼児体験の話になっちゃったりとかさ。

——〝GO GO BOYS!〟も。毎週木曜深夜の4時間半年勤続は脱帽です。

トオル　4時間ほとんど台本なし。もうラジオ怖くないね。今急に2時間ひとりでやってくれ、って言ったらオレ、10分くれれば企画考えてできると思う。

——体力的にもヘヴィだったでしょ？

トオル　最初は、早く寝たりとかしてんだけどね、元々夜型だし、大丈夫だった。でも毎週なんのかんの言ってもファンの子が雨の日でも寒い時とかでも朝方まで外で待っててくれたりしたのよ。もう最終回の時なんか100人近く、局の前に来てくれて。

——いい話だなあ。そういやTV〝U.S.A. EXPRESS〟も4月からでしたね。

トオル　これはキテタな、超好きだった番組。オレ、なんにもしなくていい司会者だったから。ビデオ見て、なんだこれ？　とか言ってるだけ。物事をヨイショできない人間だからね、好きな風にやらしてもらってた。でね、今向こうで流行ってる合法的パーティードラッグ〜!!　とか言って本当にスタジオで飲んじゃったりしてたもんね。

——そして遂に8月『OOPS!』発売。しかし、いつレコーディングしたのかな、3、4、5、6月って感じですか？

トオル　かな？　とにかく忙しかった。そんなこんなでございましたね。やっぱオレって忙しいの性に合ってる人間みたい。

——平均睡眠時間どのくらいです？

トオル　6時間。いつも朝6時に寝て12時頃仕事に出掛けるから。ん、すると5時間か、少ないな。その代わりたまにガーッと寝だめするからね、13時間くらい。

——さてこの時のツアーの思い出というと。

トオル　これまた良くできたコンサートだったからねえ。良かったなっていうか……チェッカーズの歴史を振り返るみたいな構成だったから必然的にすごく長くなっちゃって、2時間半。年喰うごとに長くしてどーするんだって自分達でも言ってたんだけど、まあいい。自分達でいいと思ったからヨシと。で、このツアーの後、オレ、N.Y.行ったんだよね12日間。いつものように。今回三ツ編みのドレッドにしてたからジロジロ見られちゃってね。黒人の連中が寄って来て〝この頭どーしたんだ？〟〝触わらせて〟とか言って、結構恥ずかしかった。

——次のツアーはどうなりそうですか？

トオル　また三ツ編みに戻るよ。（笑）や、いいコンサートになりそうですよ。って、毎回無難なことしか言えないけど。

——'90年を総合的に見た反省点を最後に。

トオル　反省？　はあるけど忘れた。悔いは残さない、結果オーライな人間だから。ちょっと最近辛いとか甘いとかが分かんなくなってきて、なんかオレ、頭が悪くなってく気がするんだよね、どーしたんだろ。

そんなわけで私、遅ればせながら本を拝読させていただきました。だ！　こりゃスゲエ。圧巻の面白さに才能感心しましたねー。しかし享氏、イイ加減なのは新一郎じゃなくて真鍋浩一郎なんだもんな。頭悪くなってきてるって言ってたけど、合法ドラッグのやり過ぎなんじゃないっすか？

「違うよォ！　あれは番組で、3つ飲まなきゃいけなかったから飲んだだけよ。あんなのただのビタミン剤なんだから！」

いいな、いいな、享氏のこのノリ。ますますキテます享さん。'91年も期待してます。よろしくポンタ！（これ享氏の真似っこよ）

Q．今年買った中で一番高かったものを教えてください。　A．ギター。（ギブソンのJ−160というエレアコ）

Q．今年捨てた中で一番大きかったものを教えてください。　A．ダンボール箱。

文●三浦雅子

NOTE OF 1990

1月

1月21日 ビデオ発売
「New Editional SEVEN HEAVEN THE CHECKERS」

2月

2月4日 TV
スーパージョッキー（日本テレビ） 出演▼鶴久政治「Girl」
2月15日 TV
とんねるずのみなさんのおかげです（フジテレビ） 出演▼チェッカーズ
2月17日 TV
ねるとん紅鯨団（フジテレビ） 出演▼鶴久政治
2月17日～2月24日 TV
花燃える日々（日本テレビ） 出演▼高杢禎彦
2月20日 TV
東京イエローページ（TBS） 出演▼鶴久政治「Girl」
2月21日 LD発売
「New Editional SEVEN HEAVEN THE CHECKERS」
2月21日 シングル・アルバム発売
シングル「Girl」鶴久政治
アルバム「Timely」鶴久政治
2月21日～2月24日
高杢禎彦 グラミー賞 LAロケ
2月23日～3月1日
鶴久政治 シングル「Girl」アルバム「Timely」キャンペーン
2月23日 福岡
2月24日 広島
2月26日 名古屋
2月27日 大阪
2月28日 札幌
3月1日 仙台

3月

3月1日 TV
とんねるずのみなさんのおかげです（フジテレビ） 出演▼鶴久政治・徳永善也
3月3日 TV
SOUL天国（テレビ東京） 出演▼高杢禎彦
3月3日 TV
オールナイト・フジ（フジテレビ） 出演▼鶴久政治
3月8日 TV
グラミー賞（テレビ朝日） 出演▼高杢禎彦
3月8日 TV
とんねるずのみなさんのおかげです（フジテレビ） 出演▼鶴久政治・徳永善也
3月12日
第4回日本ゴールドディスク大賞受賞・Album of the Year賞ポップス部門「SEVEN HEAVEN」
3月15日 TV
とんねるずのみなさんのおかげです（フジテレビ） 出演▼鶴久政治・徳永善也
3月16日 TV
夜のヒットスタジオR&N（フジテレビ） 出演▼鶴久政治「恋におぼれて」
3月17日 TV
日本ゴールドディスク大賞（日本テレビ） 出演▼武内享・高杢禎彦・大土井裕二・藤井尚之
3月21日 シングル発売
「運命」（マツダ・ファミリアCMソング）
3月21日～4月8日
鶴久政治ソロコンサート（SPECIAL GUEST PLAYER 徳永善也）
"Timely TOUR"
3月21日 名古屋市民会館
3月22日 大阪厚生年金会館
3月23日 大阪厚生年金会館
3月26日 中野サンプラザホール
3月27日 中野サンプラザホール
3月28日 大阪フェスティバルH
3月29日 大阪フェスティバルH
3月31日 中野サンプラザホール
4月1日 中野サンプラザホール
4月4日 広島厚生年金会館
4月5日 福岡サンパレス
4月[illegible]日 日比谷野外音楽堂
4月8日 日比谷野外音楽堂
3月21日～3月23日
「運命」キャンペーン
3月21日 大阪▼武内・高杢・大土井・藤井（弟）
3月22日 名古屋▼武内・高杢・大土井・藤井（弟）
3月23日 札幌▼高杢 仙台▼大土井 広島▼武内 福岡▼藤井（弟）
3月22日 TV
とんねるずのみなさんのおかげです（フジテレビ） 出演▼鶴久政治・徳永善也
3月26日 TV
歌のトップテン（日本テレビ） 出演▼高杢禎彦
3月26日 ラジオ
スーパーFMマガジン高杢禎彦のNORU SORU終了（FM東京）
パーソナリティ▼高杢禎彦
3月29日 TV
とんねるずのみなさんのおかげです（フジテレビ） 出演▼鶴久政治・徳永善也
3月31日 TV
ねるとん紅鯨団（フジテレビ） 出演▼大土井裕二

4月

4月
ビデオ発売（ファンクラブのみ）
「心の旅 素顔Ⅱ」徳永善也
4月5日 本発売
「だんだん気持ちよくなってきた」（河出書房新社） 武内享
4月5日 TV
カウントダウンテン（フジテレビ） 出演▼鶴久政治
4月5日～ ラジオレギュラー
ミッドナイトスペシャル・木曜日 武内享のGO GO BOYS!（FM埼玉） 出演▼武内享
4月7日～6月30日 TV
U・S・A・EXPRESS（テレビ朝日） 出演▼武内享
4月～日 TVレギュラー
プロ野球ニュース（毎週月曜日担当） 出演▼高杢禎彦
4月10日・4月11日 TV
カウントダウンテン（フジテレビ） 出演▼武内享
4月17日 TV
カウントダウンテン（フジテレビ） 出演▼徳永善也
4月18日 TV
夜のヒットスタジオSUPER（フジテレビ） 出演▼チェッカーズ「運命」
4月19日 TV
カウントダウンテン（フジテレビ） 出演▼高杢禎彦
4月22日 TV
世界の常識・非常識（フジテレビ） 出演▼高杢禎彦
4月27日 TV
ミュージックステーション（テレビ朝日） 出演▼チェッカーズ「運命」
4月29日 TV
ミュージックフェア（フジテレビ） 出演▼チェッカーズ「運命」

5月

5月4日 TV
CLUB紳介（ABC） 出演▼高杢禎彦
5月8日 TV
所印の車はえらい！（TBS） 出演▼高杢禎彦
5月13日 TV
朝シャン音楽壱番館（テレビ東京） 出演▼鶴久政治
5月21日 シングル発売
「サドルシューズの砂」鶴久政治
5月21日
鶴久政治「サドルシューズの砂」大阪キャンペーン
5月23日 TV
東京イエローページ（TBS） 出演▼鶴久政治「サドルシューズの砂」
5月24日 TV
OH!エルクラブ（テレビ朝日） 出演▼高杢禎彦・鶴久政治
5月28日 TV
カウントダウンテン（フジテレビ） 出演▼藤井尚之
5月29日 TV
カウントダウンテン（フジテレビ） 出演▼大土井裕二

6月

6月9日 TV
ねるとん紅鯨団（フジテレビ） 出演▼鶴久政治
6月9日 TV
オールナイト・フジ（フジテレビ） 出演▼鶴久政治
6月10日 TV
世界の常識・非常識（フジテレビ） 出演▼高杢禎彦
6月13日 TV
夜のヒットスタジオSUPER（フジテレビ） 出演▼チェッカーズ「夜明けのブレス」
6月17日 TV
スーパージョッキー（日本テレビ） 出演▼チェッカーズ「夜明けのブレス」
6月17日 TV

▲PCCA－00094

▲PCCA－00046

▲PCDA－00051

▲PCDA－00111

▲PCDA－00082

▲PCDA－00140

▲PCVD—10133

▲PCDA—00089

▲PCDA—00131

▲PCDA—00061

動物の天国タスマニア大紀行（フジテレビ） 出演▼チェッカーズ「夜明けのブレス」

6月20日 TV
東京イエローページ（TBS） 出演▼チェッカーズ

6月21日 **シングル発売**
「夜明けのブレス」（東宝映画『タスマニア物語』キャンペーンソング）

6月22日 TV
ミュージック・ステーション（テレビ朝日） 出演▼チェッカーズ「夜明けのブレス」

6月22日 TV
華麗にAh!SO（テレビ朝日） 出演▼チェッカーズ

6月24日 TV
それ行けマーシー（TBS） 出演▼高杢禎彦

6月29日 TV
華麗にAh!SO（テレビ朝日） 出演▼チェッカーズ

6月29日 TV
カウントダウンテン（フジテレビ） 出演▼藤井郁弥

6月30日 TV
ねるとん紅鯨団（フジテレビ） 出演▼武内享

6月
ビデオ発売（ファンクラブのみ）
『Timely A Live』鶴久政治
「Timely B Voice」
鶴久政治

7 月

7月3日 TV
火曜ワイドスペシャル「とんねるず初上陸!! Oh!NY→ロンドン部乗っとらせていただきます!」
出演▼チェッカーズ

7月4日 TV
夜のヒットスタジオSUPER（フジテレビ） 出演▼チェッカーズ「夜明けのブレス」

7月13日 TV
カウントダウンテン（フジテレビ） 出演▼徳永善也

7月14日 TV
聞けば聞くほど（TBS） 出演▼高杢禎彦

7月14日 TV
オールナイト・フジ（フジテレビ） 出演▼チェッカーズ

7月18日 TV
愛川欽也の不思議ミステリーツアー（テレビ東京） 出演▼高杢禎彦

7月29日 TV
世界の常識・非常識（フジテレビ） 出演▼高杢禎彦

8 月

8月4日 TV
ねるとん紅鯨団（フジテレビ） 出演▼高杢禎彦

8月8日 **アルバム発売**
「OOPS!」

7月19日～8月31日
"THE CHECKERS '90 SUMMER TOUR OOPS!"
7月19日 香川県県民ホール
7月20日 香川県県民ホール
7月22日 愛媛県民文化会館
7月25日 メルパルクホール広島
7月26日 メルパルクホール広島
7月27日 メルパルクホール広島
7月30日 大阪城ホール
7月31日 大阪城ホール
8月1日 大阪城ホール
8月2日 大阪城ホール
8月4日 倉敷市民会館
8月5日 徳山市文化会館
8月7日 福岡サンパレス
8月8日 福岡サンパレス
8月9日 九州厚生年金会館
8月12日 北海道厚生年金会館
8月13日 北海道厚生年金会館
8月16日 日本武道館
8月17日 日本武道館
8月18日 日本武道館
8月20日 日本武道館
8月21日 日本武道館
8月27日 横浜アリーナ
8月29日 名古屋市国際会議場センチュリーホール
8月30日 名古屋市国際会議場センチュリーホール
8月31日 名古屋市国際会議場センチュリーホール

8月10日 TV
ミュージック・ステーション（テレビ朝日） 出演▼チェッカーズ「See You Yesterday」

8月15日 TV
笑っていいとも（フジテレビ） 出演▼藤井郁弥

8月21日 TV
笑っていいとも（フジテレビ） 出演▼武内享

8月22日 TV
夜のヒットスタジオSUPER（フジテレビ） 出演▼チェッカーズ「One more glass of Red wine」他

9 月

9月2日 TV
世界の常識・非常識（フジテレビ）
出演▼高杢禎彦

9月7日 TV
音楽・ユメコレクション（NHK）
出演▼チェッカーズ「one more glass of Red wine」

9月7日 制作発表
花王ファミリースペシャル「森田芳光の今夜だけのお遊び」（関西テレビ）
制作発表（東映・大泉撮影所） 高杢禎彦・鶴久政治

9月14日 TV
東京ルーフ（日本テレビ） 出演▼高杢禎彦

9月15日 TV
ねるとん紅鯨団（フジテレビ） 出演▼鶴久政治

9月19日 **完成試写及び記者会見**
花王ファミリースペシャル「森田芳光の今夜だけのお遊び・一話」完成試写及び記者会見（東京会館） 高杢禎彦・鶴久政治

9月21日 **シングル発売**
「明日に向かって走れ」 鶴久政治

9月28日 TV
ミュージック・ステーション（テレビ朝日） 出演▼藤井郁弥

10 月

10月4日
ミッドナイトスペシャル・木曜日 武内享のGO GO BOYS終了（FM埼玉） 出演▼武内享

10月5日～ TVレギュラー
サウンドループ（日本テレビ） 司会▼高杢禎彦

10月7日
高杢禎彦のサンデーヒットパラダイス終了（ニッポン放送） 出演▼高杢禎彦

10月7日
高杢禎彦のサンデーヒットパラダイス"ユウジの汗かきバンバンバン"終了（ニッポン放送） 出演▼大土井裕二

10月7日 TV
スーパージョッキー（日本テレビ）
出演▼鶴久政治「明日に向かって走れ」

10月8日 TV
プロ野球ニュース終了 出演▼高杢禎彦

10月～12月
花王ファミリースペシャル「森田芳光の今夜だけのお遊び」
10月14日O・A 第1話
「ペットがオジャマ」
11月4日O・A
「留守番電話に御用心」
12月2日O・A
「アブナイ写真はどうする」
出演▼高杢禎彦・鶴久政治

10月14日 TV
女はダバダ（フジテレビ） 出演▼高杢禎彦

10月19日 TV
ヒットパレード 90'S（フジテレビ）
出演▼チェッカーズ「one more glass of Red wine」

10月29日 TV
月曜ドラマスペシャル「代議士秘書の犯罪」（TBS） 出演▼藤井郁弥

11 月

11月9日 TV
金曜テレビの星～激突!!私がアニメの王だ!（TBS） 出演▼高杢禎彦

11月16日 TV
金曜テレビの星 1億2000万人の流行語大賞（TBS） 出演▼高杢禎彦

11月16日 TV
ヒットパレード 90'S（フジテレビ）
出演▼チェッカーズ「さよならをもう一度」

11月21日 **シングル発売**
「さよならをもう一度」 チェッカーズ

11月23日 TV
華麗にAh!SO（テレビ朝日）
出演▼チェッカーズ「さよならをもう一度」

11月25日 TV
ミュージックフェア（フジテレビ）
出演▼チェッカーズ「さよならをもう一度」他

11月25日 TV
スーパージョッキー（日本テレビ）
出演▼チェッカーズ「さよならをもう一度」

11月30日 TV
ミュージック・ステーション（テレビ朝日） 出演▼チェッカーズ「さよならをもう一度」

11月30日 TV
夢の球宴（フジテレビ） 出演▼高杢禎彦

12 月

12月4日～12月29日
"THE CHCKERS 90' WINTER TOUR OOPS!"
12月4日 福岡国際センター
12月7日 仙台市体育館
12月15日 横浜アリーナ
12月17日 大阪城ホール
12月18日 大阪城ホール
12月19日 大阪城ホール
12月20日 大阪城ホール
12月23日 名古屋レインボーホール
12月24日 名古屋レインボーホール
12月26日 日本武道館
12月27日 日本武道館
12月28日 日本武道館
12月29日 日本武道館

12月14日 TV
ヒットパレード90'（フジテレビ）
出演▼チェッカーズ

12月22日 TV
ねるとん紅鯨団（フジテレビ）
出演▼藤井尚之

12月23日 TV
ONE of NIGHT（フジ）
出演▼藤井郁弥、藤井尚之

●歌番組全体が不調の波をかぶった'90年。でも、チェッカーズはだいじょうぶ。こんなに、いろんなトコに出没しまくってる。うーん、よっぽど仕事が好きなんですねぃ。

THE CHECKERS ▶ 鶴久政治 ▶ FORM A CIRCLE!

［現場が引き締まってないとイヤなんですよ、ドラマも］

きけば、もう、次のソロ・アルバムがほぼ完成しているという!! 鶴久政治、働き者じゃあありませんか。チェッカーズとソロ、どちらもぬかりなくやってきた多忙な1年。それでも、「まだまだ」だと厳しく自己鍛錬する人なのだ、政治氏という人は。プロだなあと思う。プロの厳しさと快感を体験的に知っている。にも関わらず、どっかトボケタ持ち味は変わらずキープ。プラス、たくましさまでしっかり身につけて。

——今年の初仕事、覚えてます？

マサハル　チェッカーズの曲出しから初まったのかな？ アルバムの。藤井兄が1、2、3月はロンドンの方に行くことになっていたから早目にってことで。

——ソロ・アルバム、「Timely」が出たのが2月でしたね。

マサハル　2月はキャンペーンやら、チェッカーズのレコーディングやら、ソロ・ツアーのリハーサルやらでかなり忙しかったですね。それで、クロベエと2人でとんねるずの〝みなさんのおかげです〟にも出演してたから。

——〝矢島工務店〟ね。（笑）

マサハル　そう、そう。あの頃はチェッカーズでのテレビ出演がなかったから、出たのって「ねるとん」と「おかげです」くらいですね。

——ソロのキャンペーンもやりつつ。

マサハル　やりつつ。あれは地獄でした。一週間で7大都市を廻ったんで、キツかった。今年一番キツイ仕事だった。そんなにわかってる人達ばっかりじゃないですからね。地方の新聞社の人とかもう全然。何の資料も調べてないし、音も聴いてないし。メモもしなきゃ、テレコも回さない。（笑）

——一人でやる実感がヒシヒシと……

マサハル　実感と苦しさを感じましたね。2枚目となると、いろいろ厳しいんですよ。周りの応援もそう当てにできないですから。

——ソロ・ツアーはどうでしたか？

マサハル　けっこうすぐ慣れましたね。酒飲んだり、夜遊びもしませんから、体調崩すこともないしね。夏じゃなかったからラクでしたよ。

——チェッカーズと並行してソロ活動するペースが掴めた？

マサハル　ヒマはなくなりましたけどね、やっとかなきゃいけないことが増えたでしょ？ ソロを始める前は何やってたんだろうって感じですよね。今思うと。

——ひたすら曲作りに没頭してたんじゃないですか？ 創作期間というか。

マサハル　うん。そういう時期も大事だったんだなあと思いましたね。レコード屋に通ったり、好きな音楽探したり。吸収する時期でしたね。

——ということは、ソロ・デビュー以降は発散／行動期になるのかな？

マサハル　うん。でも、このペースをキープしながら吸収もしていかないとね。他のバンドの人ならソロも気が向いたとき作るんだろうけど、バンドと並行してやるとなると大変は大変です。高杢氏もそうだけど。

——時間効率が高いというんでしょうね。

マサハル　そうでしょうね。

——チェッカーズのようなスタンスで活動してるバンドって考えてみればいない。

マサハル　いませんねぇ。音楽やるときはこだわり持ってしっかりやって、他では自分のプラスになるような場にどんどん出ていく。自分は気楽にやってますけどね、音楽以外の仕事は。

——ソロの難しさも感じました？

マサハル　ソロの方が考えすぎになる傾向がありますね。いろいろ出来るだけに、逆に難しい。2枚アルバム作っても、まだまだだなぁと思うし。アコースティック系の匂いのする音楽をやってる人っていっぱいいるけど、自分みたいにドラマやお笑いの話があれば喜んで出ていく人っていませんからね。それがプラスなのかマイナスなのかはまだちょっとわかんない。

——いわゆるソロ・アーティストとは露出の方法が違いますもんね。

マサハル　ウチの場合は本人まかせなんですよ。イメージ戦略で無理矢理売ろうっていうのはないから。だから、本人が調子悪いときもそのまんま。イメージが最初っからないからポーズのつけようがない。

——怖いっちゃ怖い？

マサハル　そう。だから、精神面も体調も自分で良くしとかないとダメなんですよ。調子良いときはそれがそのまま出るけど、悪いときに仮のポーズがつけられないから苦しいですよ。

——今年、特にそう感じたことがあった？

マサハル　一瞬、ありました。シングルの「運命」の枚数がイマイチ伸びなかったでしょ？ 新しめのサウンドでいってみたんですけど難しかったわけです。セールス的には。ファンの反応もね。やっぱり、どっか手作りっぽい、温い、うたいやすいものを求められているみたいですね。

——けど、『OOPS!』は「運命」の延長線上のサウンドをかなり大胆に導入したアルバムでしたが？

マサハル　『OOPS!』には王道モノの曲も入れましたけどね。ただ、〝カッコイイのはわかるけど、あんまりそっちに走ってほしくない〟という反応も多かった。

——そういう反応があるのも覚悟の上で、あえて挑戦したわけでしょ？

マサハル　そうそう。アルバムはそのとき自分達がやりたいことをやろうと。で、シングルは、みんなが求めていて、なおかつ自分達が新鮮だと思えるものを、と、考え方をはっきり分けて。シングルが注目されないと、アルバムも伸びないしね。

——「夜明けのブレス」がちょうど郁弥氏の御祝事と重なったんですよね。

マサハル　候補曲には「100ボルトのペンギン」と「グラス・オブ・レッド・ワイン」も入ってたんですけど、この時期には親近感のある曲がいいんじゃないかって。「運命」の後だっただけにね。テレビにも出ていなかったし、結婚は決まるしで、これは王道を行っとかないと危ないぞ、と。今、今年を改めて振り返ると、あそこが大きいポイントでしたね。

——テレビの音楽番組が減って、シングルの有りかたがターニング・ポイントを迎えた年でしたね。

マサハル　そう。だから、逆にドラマの主題歌になったりすると、すぐ売れちゃうんですよ。楽曲がメインの時代じゃないんですよね、今は。「おかげです」が充電期間に入ると、ウチが出れる視聴率の高い番組がないんです。だから、直接ファンの人に会えるコンサートはしっかりやらないとね。そこをしっかりしないとダメな時代。

——郁弥氏の結婚が影響したことってありましたか？

マサハル　世間の見方がワンランク上ったって感じなんじゃないですかね。齢とともにうまい具合に来てると思いますよ。ファンの人も温かかったしね。だから、あと他のメンバーの誰が結婚しようがそんなに影響されないでしょうから、これから、ちゃんとした曲をしっかり作っていかないとね。昔は人気先行でしたからね。それで売れてたところもあったんでしょうけど。

——また、『OOPS!』がかなりの冒険作だったんで、守りの体制に入ったというわけでは全くないですからね。

マサハル　そうですね。すごく遊んでも、自分達を見失うようなことはないですからね。そこは自信あるところですし。王道の基準もバンド・ブームが来て一回崩れたしね。見てて思ったのは、やっぱり生き生きした魅力のあるバンドしか売れてませんもんね。ただ、良い曲が当たると本人達が生き生きするっていうのはあるんですよ。

——活性化するってこと？

マサハル　そう。コンサートでよくわかりますね。お客さんのノリが良いと、もう、それだけで気持ち良くなるし、それが自信につながって、表情も生き生きしてきたりするんですよ、自信があった曲で、シーンとされるとやっぱり不安感が出てくるもんで、不思議ですよ。

——初の本格的ドラマ出演はどうでした？

マサハル　演技はさて置き（笑）、そういう場に出ていく、声がかかるっていうのは嬉しかったですよ。ドラマもレコーディングと似てて、現場に活気がないとダメだってこともわかりましたし。音楽基本でやってるだけに、音楽を置いてやるだけに、現場が引き締まってないとイヤなんですよ。今までいろんなスタッフと仕事してきてますからね。オーラみたいな、気流みたいなのがあるでしょ？ 現場の。それはわかりますね、やっぱり。

——バンドだって似たところあるでしょ？

マサハル　ある、ある。一人一人がしっかり自分の持ち場にいないと、全部がコケちゃうところは同じ。

——ドラマ出演は予定外としても、ソロ活動がかなり活発になった1年でしたよね。絵本、ビデオクリップ、CDをパックしたクリスマス企画モノも発売されるし。

マサハル　個人的にはあんまり企画モノには興味ないんですけどね。性格的にいくと王道のド真ん中が好きですから。たまたまそういう話が来たんで、まあ、たまには面白いかなあと、作曲も今回はあえて坂田晃一さんという方にお願いして。

——じゃあ、この「サイレント・クリスマス」及び3曲は一シンガーに徹して。

マサハル　はい。自分も刺激になっていいですしね。まだいろんなことやってみたいんで、全然問題ない。

——今年はとにかく、チャレンジの年だったといえそうですね。

マサハル　ホント、そうでした。あとはヒット曲を作るのに中身を濃くもっていくことが目標ですね。休まずに、コンスタントに続けていくと乗り越えていけるもんですから。それはチェッカーズで学んできましたから。一所懸命やってそれが良い方に出たときの快感知ってるしね。

——けっこう欲張りだったりしません？

マサハル　それはあるかもしれない。やるからにはね、欲がないと。

Q．今年買った中で一番高かったものを教えてください。　A．馬券。

Q．今年捨てた中で一番大きかったものを教えてください。　A．馬券。

文●佐野郷子

PERSONAL INTERVIEW

THE CHECKERS ▶ MASAHARU TSURUKU ▶ VOCAL

MASAHARU

THE CHECKERS ▶ YOSHIYA TOKUNAGA ▶ DRUMS

KUROBE

PERSONAL INTERVIEW

THE CHECKERS ▶徳永善也▶FORM A CIRCLE!

パフパフパフパフ。スタジオに突然鳴り響いたラッパの音に驚いて振り向いたら、そこにクロベエが立っていた。「オッハヨウゴザイマース」というあいさつの代わりの(!?)パフパフパフ♪ 遅刻のクロベエに思わず先手を取られてしまった。「なにそれぇ」とか「そのラッパ、レコーディングで使うの?」なんて質問してしまったじゃないか! クロベエの遅刻をネタにプンプンと怒った真似をしようぜぇ、と編集者Ⓚ嬢とたくらんでたのにさっ。

――さてさて、『STYLE』恒例の(笑)1年を振り返るシリーズがやってまいりました。ということで、なんですが…。

クロベエ なんか、いろいろ刺激があったな、うん。結構ね、緊張感があった。

――それは、マサハルのライブでドラムを叩いた事とかで?

クロベエ うん。あっれは緊張したぁ。(笑)

――あと、チェッカーズのアルバムで初めて打ち込みにも挑戦したとか。

クロベエ うん。それも緊張。(笑)

――あとねぇ、その打ち込みを、どうライブでやるのかっていう挑戦もあったでしょ。

クロベエ あった! あった! あの打ち込みに挑戦!っていうのは、いい勉強になったよね。あの時は何にも知らずに初挑戦だったけど、あれをやってからね、みんなで今度は自分達で打ち込みをやろうって計画になったりした。やってみなくちゃわからんっていういい教訓だったな。

――いろいろ刺激のあった、緊張感のあった'90年だったようだけど。クロベエは1年の始まりとかに目標を決めたりする?

クロベエ ま、一応は決めるけど、だいたい実行に移すのは少ないね。(笑)

――あ、そうなの(ちょっと拍子抜け)。一応決めていた今年の目標ってなに?

クロベエ 去年の暮れぐらいに思ってたのは…。なんやったか…。忘れたよ、そんなもん。(笑)

――忘れた(またしても拍子抜け)。

クロベエ それくらいのもんだって。(笑)

――来年に長いオフがとれたら、どこそこに行きたいとか。そういうのもないの。

クロベエ うん。

――ドラムでこんなことをやってみたいとかさぁ(つめよる私)。

クロベエ うん。

――とにかく、忘れるほどちっぽけな…。

クロベエ ヘンにデカイ事を言わないの。そうねぇ…うん。だいたい思ってる事って、自然にやりよっちゃないとや?

――あ、努力とか精神しなくても自然に事が運んでるんだ。

クロベエ うん。たとえば、実現したのは今年だったけど、チェッカーズ以外でもドラム叩いたら、どんなもんかなあとか。

――で、実現してみてどうだった?

クロベエ ああ、こういうもんかなぁ、と。(笑)でも、やっぱりバンドが楽しいなって思ったな。っていうかね、チェッカーズとまず違うって感じたのは、スタジオ・ミュージシャンの人たちってあんまり話をしないんですよ。譜面を見ながらって感じで、一人一人が自分の雰囲気を持ってて。

――クールな感じ?

クロベエ うん。でもみんなでライブの初日っから酒飲んでなごんだ。悪い人じゃなかったのねって感じ。(笑)

――チェッカーズ以外でやってみて、改めてチェッカーズの良さがわかったのかな。

クロベエ それもあるし、一人でスタジオ・ミュージシャンとして活動している人達も、やっぱり一番いいのはバンドだよっていう気持ちなんですよ。そうやってオレがバンドがいいって感じてたことは、みんなも同じように感じてるんだってわかった。

――また、チェッカーズ以外で叩きたいって思った?

クロベエ んー、難しいものやったらイヤだな。(笑)やれる範囲だったらやってもいいな、と。

――でも、自信ついたんじゃないの?

クロベエ 自信!? いや、まだ自信はついてない。(笑)でも、普通のミュージシャンになってもしょうがない……。

――それは、どこで叩こうがクロベエはクロベエのドラムを叩くしかないってこと?

クロベエ そう、かな。(照れ笑い)

――それはある種の自信だった。

クロベエ (ポリポリと頭をかきながら)いやぁ、まだまだ。

――マサハル君はクロベエが参加してくれた事に対して、何か言ってた? チェッカーズのクロベエではないクロベエについて。

クロベエ 緊張感が持てるとか? そういうのは直接いわんよ。うちのメンバーってほとんど言わない。

――でも何か感じてる、みたいな雰囲気?

クロベエ うん。雰囲気でこっちが感じ取る、みたいな。

――長年つれそった夫婦のような関係と申しましょうか。(笑)

クロベエ そうそう。そういう感じ。

――今年はチェッカーズも忙しかったよね。ライブ・ツアー、シングル、アルバム、そしてソロ・活動。

クロベエ あ、でも歌番組が少くなった分、時間はあったよ。

――あぁそうか…。私は個人的に歌番組を見るの好きだったから、ちょっと淋しいんだけどねぇ。

クロベエ うん。あんまりテレビに出なくなると、人に気づかれなくなってくるでしよ。それってえらい悲しかろうが。やっぱり気づかれた方がいいや。(笑)あぁ、どこの、あのバンドの人でしょって言われた方がいいけん。(笑)誰でしたっけ? あ、そうでしたって言われるよりは、なんか、ね。(笑)

――でも、その歌番組の失くなってしまったぶんと言っては何なんだけど、受け手のイメージとしてはチェッカーズの今年の活動は"アルバムとシングル"それと"ツアー"の印象が強い。

クロベエ うん。基本というか、マイ・ペースというか。いいことやけんね、それは。やっとね、ひとつのものをゆっくり作れるような感じになってきてるなって思う。昔はね、時間がない、ないってやってた。で、マイペースでやっていながら、マサハルのソロしかり、ドラマやったりっていうソロ活動もやってるから。バンドとしても一人一人のメンバーにしても、いやぁ、すごい充実してた。うまい具合にっていうの? たとえばドラマとか入ってても、チェッカーズのスケジュールとうまい回転してる。そこがまた素晴しいっちゃ。(笑)

――フミヤ君のドラマ、代議士役の見た?

クロベエ あっ俺、寝とって見そこねた。

――ウソッ!

クロベエ 8時? あれって9時から?

――なんでそんな時間から寝てるのよー。

クロベエ いやぁ、えらい眠かったんよ。6時くらいに仕事が終わって。よーし、今日はあるぞって思ってて……横にこう……。あっ、12時! 見そこなってしまった。(笑)

――8時や9時に寝てしまう! 子供。

クロベエ アハハハッ。

――まさか寝たとは思わなかったわ。だから、フミヤ君にしても"代議士"っていう新しい役に挑戦してたりするでしょ。じゃあクロベエも次なる新しい挑戦ってものがあるのかな、なんていう質問をしようと思ってたわけですよ、私は。(笑)

クロベエ あらら。

――ドラマ、役者に挑戦っというのは?

クロベエ 絶対に無理やね。あっても台詞が少ないのがいいなぁ。(笑)

――地のままの自分でやれる役とか。

クロベエ うん。それならばどうにか、ね。

――興味、あんまりない?

クロベエ 俺、欲がないっちゃね。もともとの性格的に。うん……ある時期がくれば欲も出るんじゃないかってくらいで。

――ある時期って?

クロベエ うーん、まだ全然きてないけど。

――いつかはくるんじゃないか、と。

クロベエ うん。

――1日をちゃんと過ごせればいいな、なんてね。

クロベエ そうそう! 平凡。(笑)平凡な人生よ。(笑)

――ドラムが叩ければいいとか、バンドをやれてればいいとか。

クロベエ うん。ソロは別にしなくていいって思っとうもん。こっちの母体、チェッカーズがマジにね、マジに音楽をやっていき始めてるっていうか……。だからこそなおさら自分達でもっともっと考えていかんとって思ってる。あ、そうそう。俺、マーさんのツアーの時の叩いている表情と、チェッカーズの時の表情が違うって言われた。

――どう違うって?

クロベエ 外に出た時の顔、みたいな。でも笑ってるっちゃ。緊張を通り越した笑い。

――ちょっとブッツンきてる、みたいな?

クロベエ そうそう。緊張しすぎて"あっ"って顔してた。その笑顔だったんだよ、読者のみなさん。(笑)

――ガハハーッ。

クロベエ だって、チェッカーズでドラム叩いてる時って絶対マジメな顔してるもん。

――なんて言うのかなぁ。クロベエの話を聞いてると、バンドをやって、ドラムを叩いて、それが充実しているから、他に欲求が沸いてこないって感じがした。

クロベエ うん。また出てこないっちゃね。

――でも、いつかはわからないけど欲が出てくるかもっていう。なんか相変わらずマイ・ペースだなぁ、クロベエって。

クロベエ 変わらない平凡、ですかね。(笑)

――クロベエのインタビューのテーマは"平凡"に、どうやら決まっちゃいそうですが。

クロベエ 平凡。日々、平凡のワタシ。(笑)

――いつか欲は出てくるなんて言っておきながら、来年は欲深くなってたりして。(笑)

クロベエ いや、平凡でしょう、来年も。

笑ってばっかりのインタビューだった。いつのまにかクロベエのペースに巻き込まれてしまっていた。これじゃパフパフパフパフのラッパが登場しなくても、きっと彼に向かって怒る振りなんてできなかっただろうな。偉大なるマイ・ペース。クロベエは相変らず魅力的な人。きっと来年もそのまんま。

Q．今年買った中で一番高かったものを教えてください。 A．車のコンポ。

Q．今年捨てた中で一番大きかったものを教えてください。 A．ゴミ以外ない。

[笑ってるっちゃ。緊張を通り越した笑い]

文●松浦靖恵

THE CHECKERS ▶ 高杢禎彦 ▶ FORM A CIRCLE!

「証明するにはね、やっぱ"酒なんかいらねえ"が大きかったね」

昨日、久々にやった野球のせいで"あいたた…"を連発しながら、モクは取材場所にあらわれた。そして、大好きなプロ野球界が自分の生き方に似ている、と話した。

シビアで実力がすべてを左右する世界。

モクは自分の今やっていることについて、"仕事"や"商売"という言葉をよく使う。ときにはそれが微妙な誤解を招くこともあるけれど、やはり彼にとって、"今やっていること"はまぎれもなく"仕事"や"商売"なのだ。そしてその一方で"文化祭の続き"のような夢を、チェッカーズの中にいる彼の表情がときおりのぞかせる。

そして、チェッカーズの中だけにいたら、「そんな間違った考えをもってたかもしれない」と言う。それが間違っているかは誰にもわからない。けれど、シビアさを身につけた人間がとてもタフに成長していくのを、目の前で見るのも素敵なことかもしれない。

―今年を振り返っての感想をまず。

モク うーん、そうねえ。今年は結構、転機の年、じゃなかったのかな。

―チェッカーズとして? 個人的に?

モク チェッカーズとしてね、ホラ、俺達が初めてレコード大賞出た年あったじゃん。それとか"NANA"を初めてオリジナルとして出したとか…そういうのに似てた気がする。

―たとえば今年ってどういうところからどういうところへ変わった年だと思う?

モク 変わったというより、なんつぅのかな。再認識したっていうか、初心に戻るって点でね。やっぱ"夜明けのブレス"が、あれが売れたってことはね、転機になったと思うの。"夜明けのブレス"と"運命"っつうのは、結構俺の中じゃ印象的だったな。

―今までの曲とは違うなっていう価値観もモクの中では生まれたりした?

モク いや、曲はね…もう新しいとかそういうのはない。音楽誌だし俺がこんなコト言っちゃいけないかもしれないけど、曲自体はね、俺はチェッカーズはどんな曲歌ってもいいと思ってんの。7人がフューチャーされる曲なら。自分達で作って自分達で歌うってことさえ守ってれば…いや、曲自体誰が作ってもいいと思ってる。俺はね。

―チェッカーズが演奏して歌うってことで、もう自分達のものになる?

モク そうそう。もうチェッカーズの曲だから。

―そのへんの意識ってここにきて固まってきたことなのかなぁ。

モク っていうかずっと思ってたことなんだけどここにきて言えるようになったっていうか。だけど証明するにはね、やっぱ"酒なんかいらねえ"が大きかったね。

―うーん、モクのソロの曲。あのときにはシンガーになりきって、どんな曲でも歌えるようになりたいって言ってたよね。

モク そう。俺は何回歌ってもいいんだ、俺が歌えばいいんだからって思ってたから。それが、チェッカーズの方でも、もうちゃんとわかってきたんじゃないかなってね。

―そういう"転機"としてのチェッカーズの中にいて、個人的な活動の方でもかわってきたことってある? 前にドラマの収録におじゃましたとき、いい仕事をやれるようになってきたって、そう言ったよね。

モク うん、やれるようになった自分つうのが嬉しい、そっちの方があるね。それはやっぱりゼロから始まったことだから。個人活動としては。いきなりこうパッと華やかな場から始まってないし。自分で言うのもなんだけどすごい苦労したから俺は。(笑) だからツブシがきくんじゃないかと思うよ、でそのぶんチェッカーズに戻ってきたときの幸せも感じていたしね。個人活動はもう一種の俺の商売だから。要するに、これやんないと俺はメシ食ってけない。ま、そんなせっぱつまったもんじゃないけど、仕事だからやる。うん、どうのこうのじゃなくて、"俺の仕事がある"ってこと自体、俺はすごく嬉しいからね。やれるよね。そういう意味でも今年はいい年だったな個人的にも。仕事の質って意味でもさ。

―あと、だんだん"役者"としてきちんとその必要性を認められてドラマの依頼が来たりしてるよね。去年から今年にかけて。自分の、役者として求められてるキャラクターってどんなところだと思う?

モク 熱いトコじゃない?

―男としての熱さ。あるよね。

モク なんか、"男はつらいよ"の軟派版、みたいなさ。(笑)

―"軟派"がついちゃう。(笑)

モク 軟派版というか若い版というか。やっぱ、こう、またドロ臭いっつうか、油っこい人が段々求められてくる時代になってきたんじゃないかなぁ。役者としては。

―いろいろ役をやってきて、一番そういうのが自分に合ってるのかなと?

モク でもそれはね、まだまだ無限にあると思うから。まだまだ自分で"これは私の役だ""これは違う"って状況じゃないと思う。芝居の話がくれば、どんな役でもうれしいしやりたいと思うからね。

―来年の展望みたいなものってある?

モク ま、今年みたいに仕事があればいいなと思ってるけどね、うん。(笑) 仕事やってるときはね、あとちょっと休みたいなとか思うんだけど、なくなるとどうしても…なんか切なさっていうのがあって。

―ドラマは司会やラジオのキャラクター、そしてもちろん歌っていろんなものを平行してやってるよね。ひとつのものに方向を定めるっていう感じではなく、そのまま?

モク やっぱひとつ決めるとしたら、喋りじゃなく歌だよね。うーん。マサハルみたいに定期的にレコード出して、チェッカーズとしてのローテーションとはまた違う高杢禎彦としてのローテーションでシングルとLPが出せればいいなとは思う。それが最終目的だからね、やっぱり歌手だから。あとそれ以外で言えば、役者の部分。トークに関してはね、ラジオと、トーク番組のゲスト、という感じで。けどね、俺ひとつすごく楽しみにしてるのは実はプロ野球界。あれは来年も、もうどんな話でもいいから野球界の話があるといいなぁ。

―プロ野球ニュースも趣味の部分でやってたという。(笑) こうやって宣伝してるとまたくるかもしれないよ。(笑)

モク そう。基本的にうちの事務所"仕事くれ"って言わないから。(笑)

―そういえば昨日の野球で体が痛いってさっきから……。

モク そ、あれは仕事なんだけど。でも昨日やって野球はとにかくやれないって思ったからね。あとはプロ野球の広告部っていうのをやりたいね。何年か野球界に貢献するとどこの球場の公式戦も入れる記者のバッジもらえるんですよ。それを芸能人で初めてもらえるっていう風になりたい、ウン。

―なんか急に小学生の男の子のような。(笑) でもずっと関わっていたいなという感じなんですね。

モク うん、どっかで携わっていたい。俺の気性に合ってるの、プロ野球っていうのは。要するにほんっと実力の社会じゃん。私生活でどんな派手なことやってようが実力あれば名前は残るんだから。

―どんないい人でも実力がなければ2軍におちちゃうし。

モク そっ。で、とにかく正義感がないとね。悪いことやってると追放されちゃうわけじゃない? 昔、名投手がいてね、西鉄ライオンズに。でも黒い霧って八百長事件があって。その人、永久追放されちゃって名前も残ってない。それぐらい俺としてはやっぱ野球界ってシビアなとこだと思ってる。子供が見るぐらいの価値、あるよね。俺、シビアっての、やっぱり好きだからね。

―芸能界は違う?

モク うーん、ある種実力の世界だけど…でもなんつぅの?やっぱり一つの仕事で結構それにしがみついて生きてるって人いるからね一発売りで。でも俺としてはチェッカーズにしがみつくとか、高杢禎彦が今までやったことにしがみつくっていうのは嫌だし。今やってることに絶対満足してたい。

―結構でも、その野球界に対する考え方ってモクの"仕事"に対する考え方だよね。

モク そう俺の生き方に似てんの。だからすごく野球界に貢献してたいっていう、俺の仕事にマイナスになんない程度で。でも一回"俺、審判のテスト受けてプロの審判になろうかなぁ。そしたら球場に立てるし"とかって言ったら、マネージャー軍団の"バカみたいなこと考えないでくれ"の一言で終わっちゃったけどね。(笑)

―確かに。(笑) でもさっき言ってた"方向"ってことで言えば、そうやって来年は定めようというのがあるの?

モク いや、選ぶとしたらの話で。方向ってのはないですから、俺にとって。全部がそれぞれ、一方通行でね、とにかく帰ってくることはないんだから、ずーっと進んでやろうと。道はいっぱいあるから。それをこの道しかないって決めないでおこうと思ってる。決めるのは死んだあとだって、"あの人これがすごかったな"って回りの人が決めることだから。だから俺は芸能界だけだとも思ってねえし。自分の中に他にもメシ食う道はいっぱいあるなって。だから来年どうなるかはわかんないし。ただ、チェッカーズは定めていかないとね。

―バンドとしての方向性を?

モク うん。7人いるからね。俺一人で決められるもんじゃないし。そういう点で協調性っていうのは来年のうちのテーマかもしれない。とにかく協調性、チェッカーズ7人は。あと自分に関しては歌手っていう部分もきちんと打ち出していきたいよね。なんにも出来ないからいろんなことやってるって思われたくないから。なんでも出来るからあの人はやってるんだって、ちゃんと証明したいね。

渡らないでその道が歩きづらいから嫌だ、とは絶対いわないモクのこと。来年も新しい分野で……と言ったあとで、彼がほとんどの分野に挑戦しているのに気づいた。

その中でいちばん大切で大きい未踏の地は"ソロ・コンサート"であるらしい。どうか、実現しますように。

文●野中ともそ

Q. 今年買った中で一番高かったものを教えてください。 A. V-MAX。
Q. 今年捨てた中で一番大きかったものを教えてください。 A. 冷蔵庫。

PERSONAL INTERVIEW

THE CHECKERS ▶ YOSHIHIKO TAKAMOKU ▶ VOCAL

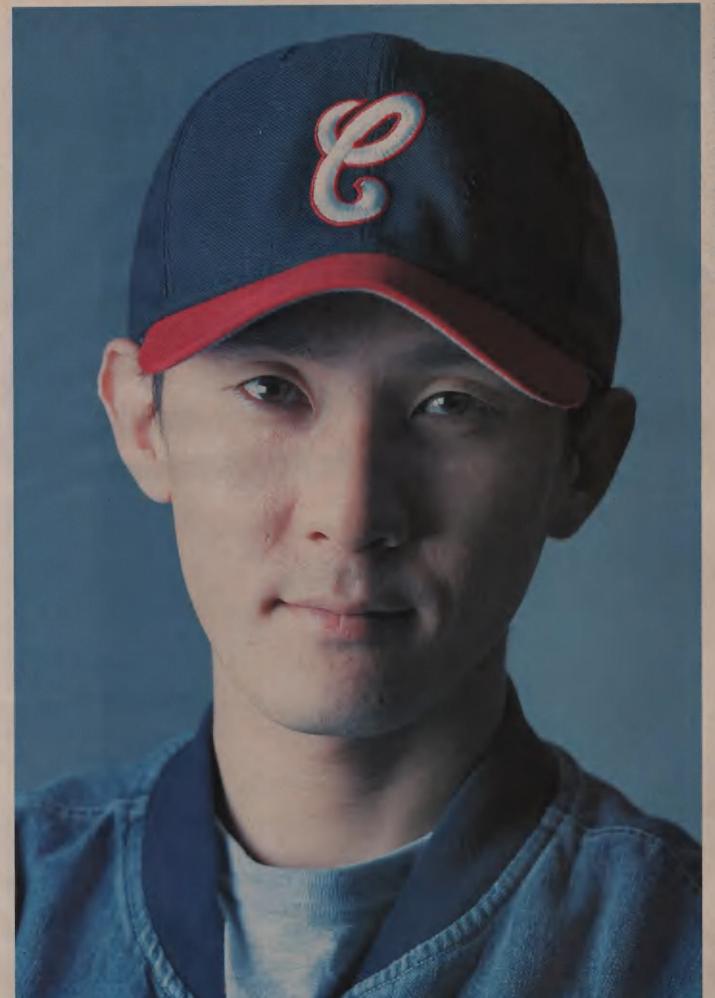
MOKU

THE CHECKERS ▶ YUJI OHDOI ▶ BASS

PERSONAL INTERVIEW

YUJI

THE CHECKERS ▶ 大土井裕二 ▶ FORM A CIRCLE!

[今や僕はスキーもできるオタクですから]

—さて本日は、毎年恒例の一年を振り返るという企画ですが。

ユージ　うん〝一年を振り返る〟ね。私の場合、何もない一年だった。（笑）

—エーッ!?（笑）

というわけで、初めはいったいどうなることかと危ぶまれたこのインタビュー。だけどユーちゃんファンの皆さん安心してね。何もない、なんてとんでもないっちゃ。

—と、とにかく'90年のお正月から行こう。

ユージ　お正月といえば、そうだカナダにスキーに行ったんですね。しょっぱないきなり遊びから始まった。

—なんとトレンディな若者なのだろうか。（笑）カナダのどこですか。

ユージ　ウィスラーっていう所。

—それは有名なスキー場なの。

ユージ　けっこう知られているよ。だから行ったら日本人ばっか。日本のスキー場ですべっているのと変わらないの。（笑）

—景色とかはやっぱりいい?

ユージ　そりゃあ、広いね。滑っていても視界から入ってくる風景がとにかく雄大だから気持ちいいよね。

—スキーって上手なの?

ユージ　中の上ぐらいじゃない。えっ、ワザ?　パラレルができるぐらいまでだね。だけど途中にコブがあると、ジャンプできないからダメだけどね。

—ブルークボーゲンの私とはたいへんな違いだと思いますが。（笑）スキー始めて何年ですか?

ユージ　3年ぐらい。あと'90年というと（手元の資料用チェッカーズ年表を見ながら）……そうか「運命」をリリースしたのって今年だったんだね。なんかもう去年みたいな気がしてた。

—チェッカーズ恒例、春のキャンペーンは今年は「運命」だったんだね。ユーちゃんは大阪、名古屋がトール君とモクとナオちゃんと一緒で、仙台はひとりで頑張ったんですね。ひとりってどうですか?

ユージ　いつも誰かと一緒っていうのに慣れてるから、たまにはひとりっていうのもおもしろいよね。ただ、ひとりでラジオに出演したり、インタビュー受けても新曲のキャンペーンだからしゃべる内容は他のメンバーがいる時とそんなに変わらないんだけど、他のヤツが言ってくれる時と違って気が抜けないからたいへんだけどね。そういえば名古屋の時だったかな、前日の大阪で朝の5時ぐらいまで飲んで、2時間ぐらいしか寝ないで名古屋のキャンペーンがスタートしちゃったの。そうしたらそのうちハイになっちゃって、もう口だけが勝手に動くっていう状態で。あれはすごくおもしろかったなあ。（笑）

—an・anで洋服のモデルやって話題になったのはいつぐらいでしたっけ。

ユージ　春だね。

—あれはすごくカッコ良かったです。

ユージ　評判は良かったね。だけどべつにたとえばパチ▼パチなんかで写真を撮られてる時とそんなに変わらなかったんだ、雰囲気はね。でもモデルの女の子がいたっていうのはいつもとまるで違うんだけどさ。

—でしょう?　仲良くなったりした。

ユージ　ぜんぜん。一緒にポーズ取って笑ったりジャレている感じを作るだけ。

—あくまでお仕事?

ユージ　そうそう。（笑）

—ユーちゃん、頭と体のバランスがいいからモデルやっても映えるよね。

ユージ　俺、バランスよくないよ。

—いいじゃん!

ユージ　ハイ、いいです。（笑）

—たとえばマサハル君のソロ・コンサートとかは、必ず見に行くの。

ユージ　行くよ。春のマサハルのサンプラザに行ったのかな。最初のナオユキの時には緊張して見てたけど、この時にはもう安心して見ていられるようになった。

—まるで親戚のコンサートを見ているような気持ちかな。（笑）

ユージ　そういう感じはあるね。運動会に出ている息子を応援する父親みたいな感じ。（笑）でも、いつもステージではマサハルって俺の前に立っているじゃない。それを客席で正面から見るっていうのは、なんか不思議な感じでもあるんだ。

—そろそろ夏に話題を進めると、何かトピックスは。

ユージ　夏は新しいバイクを買いました。これが生活に変化がついたという意味では大きい。

—ハレーの1500だっけ。

ユージ　1340かな。

—シンプルなヤツなの?

ユージ　そう、わりとシンプル。シルバーメタリックのね。手を加えるとどんどん加えたくなるから、できるだけ直さないで乗ろうと思ってるんだけど。

—もとからハーレーが好きだったの。

ユージ　モクとフミヤが乗っているんだけど、それを見ていいなとは思っていたんだ。やっぱりハーレーだからね。だけど別に自分も買おうってほどではなかったんだけど、去年モーターショーで新しいモデルを見てこれなら欲しいって思ったのね。それから教習所に通って練習して、府中の試験場で大型の免許を取った。

—大型って難しい?

ユージ　まず、一度で受かるヤツいないからね。みんな何度も試験受けるんだ。試験場でしか取れないし。

—たいへんなんだ。で、今も乗ってる?

ユージ　乗ってる。気持ちいい。冬はものすごい寒くて、夏はものすごく暑くて、バイクってものすごいナチュラル。（笑）

—通算8枚目のアルバム『OOPS!』の発売は8月8日でしたね。

ユージ　このアルバムのことは何度も言ってるけど、打ち込みを入れたりアレンジャーの人にまかせた曲もあって、いろんな意味でチェッカーズのすごくいい勉強になったと思う。で、この時のツアーというのがアルバム発売前にスタートしてしまって発売するまではけっこう苦しかった。

—多少、盛り上がりに欠ける?

ユージ　やっぱり、みんなアルバム聞いてから来てくれるのとは違うね。とはいえツアー後半はそれなりに盛り上がって無事終了するわけです。

—そして秋になりラジオ番組『高杢禎彦のサンデーヒットパラダイス』（ニッポン放送(日曜)7：00〜12：00）終了とともに〝ユウジの汗かきバンバンバン〟も……。

ユージ　終わってしまった。残念!（笑）

—こうして早くも冬。90年チェッカーズ最後のシングル「さよならをもう一度」の発売とともに〝'90WINTER TOUR OOPS!〟に突入という今日この頃。

ユージ　ツアーも昔のように体が効かなくなってきたからね。（笑）頭から最後まで動き回るというよりは、だんだん見せる所は見せる的な方向に向かいそうです。だけどステージに乗っちゃうと、そんなこと関係なく動いちゃうんだけどね。

—ところで来年の3月に発売されるシングルのレコーディングが終了したそうだけど、ちょっと予告を。

ユージ　今回はですね。コーラスがいっぱい、みたいな曲。私たちが昔からよくやっているドゥ・ワップ的なナンバー。最近コーラスが減ってきたということで、たまにはいっぱいコーラスを入れた曲を。さわやかな春に向かって、雪解けのような……。雪解けといえば、今や僕はスキーもできるオタクですから。

—はあ?

ユージ　いや、本当だよ。コンピューターを買って、家でコンピューターグラフィックを楽しんでいる。これが面白くてけっこうのめりこんでいます。

—えっ、購入した直接の動機は。

ユージ　簡単に言うと、時代的にコンピューターの1台も扱えないとまずいなと。そのうち、それこそ☎のように一家に1台パソコンは導入されるようになると思うし。あれはただの箱だから、ソフトによってはいろいろなことができるわけじゃない。音楽もできるし、絵も描けるし。

—データ通信とかもできるしね。

ユージ　そう。使い方を覚えていたほうが何かと便利ではないかと思って。で、とりあえず一番やりたいのはCGだなって。コンピューターグラフィックスには興味あったから。なんか不思議じゃない。絵なんだけど立体でツルッとしてて、本当にソコに物があるように見えて。ま、手始めに安いので遊んで、おもしろくなってきて続けられそうだったらいいもの買おうと。

—機種は何を使っているの。

ユージ　コモドール社のアミーガというのは安くてけっこう良いといわれていて。それを購入して、暇を見つけてはやっている。たとえばコンピューターっぽいギザギザの絵とか、3Dっぽいのとか。テレビで見るような完璧なのはできないけど、立体とか、そういうことができる。基本的にはモロ3Dじゃないから、マウスというのを使って描くんだけど、でもサイズを変えたり色を変えたりとかは簡単にできるから。あと。テレビから移動させてビューンて取り込んだりできるから。

—人に見せると何て言われるの。

ユージ　おもしろいねって言ってくれる。

—昔から絵は興味あったの?

ユージ　そうね。専門的にどうのこうのとか、シュールレアリズムがどうとかはわかりませんが。嫌いじゃなかった。

—う〜ん、まさか今日ここで、オタクにお会いできるとは。（笑）でも、オタクにしてはワイルドだなあ。

ユージ　いや、けっこう家にこもりっきりよ。外に出てもおもしろいことないからね。

—本当にオタクらしい意見だなあ。（笑）だけど何もなかったというわりには、私生活の充実をはかった年ですよね。

ユージ　そうね、そういう意味ではね。やっぱりこれからの男はオタクよね。そうかワイルドなオタクか。'91年はそれをキャッチフレーズにしよう。（笑）

Q．今年買った中で一番高かったものを教えてください。　A．バイク。

Q．今年捨てた中で一番大きかったものを教えてください。　A．ラックの入ってたダンボール箱。

文●高山真由美

藤井郁弥へ

▼子づくり／藤井尚之より
▼せっかくパソコンを買ったのだから、それを仕事に結びつけて欲しい／武内享より
▼日本一のリードボーカルとして、いっそうのみがきを／鶴久政治より
▼若さ／徳永善也より
▼はやくJrをつくって下さい／高杢禎彦より
▼子づくり／大土井裕二より

15 FEBRUARY, HITOKUCHIZAKA STUDIO

15 FEBRUARY, HITOKUCHIZAKA STUDIO

藤井尚之へ

▼ソロと作曲／藤井郁弥より
▼酒で死ななければそれでいい／武内享より
▼"尚パラ"をバシバシ作って下さい／鶴久政治より
▼酒／徳永善也より
▼またソロを再開して欲しい／高杢禎彦より
▼曲づくり／大土井裕二より

10 SEPTEMBER, HITOKUCHIZAKA STUDIO

19 JULY, KAGAWA

4 JULY, ARTPLAZA 1000

4 JULY, ARTPLAZA 1000

15 FEBRUARY, HITOKUCHIZAKA STUDIO

11 AUGUST, ARTCENTER

鶴久政治へ

▼作曲とコーラス／藤井郁弥より
▼よりいっそう曲づくり／藤井尚之より
▼顔色があまり良くないので無理せずがんばって／武内享より
▼体重／徳永善也より
▼体に気をつけて、来年も今年のペースでがんばって／高杢禎彦より
▼体づくり／大土井裕二より

7 SEPTEMBER, OHIZUMI

11 APRIL, ARTCENTER

21 MARCH, NAGOYA

11 APRIL, ARTCENTER

希望します…。

●㊠解剖学は、9月号で思いきりやっちゃったからなぁ。今年は少し質問の内容を変えてみよう。"個人的に、自分以外の6人に、1991年にがんばって欲しいと思うことは何ですか?"──徳永善也様、年長者に対して、少し大胆過ぎませんかねぇ。

徳永善也へ

▼役者のできるドラマー/藤井郁弥より
▼心/藤井尚之より
▼㊠のリズム強化のためにもっと勉強。当然ウチコミはオマエがやれ/武内享より
▼国語の勉強/鶴久政治より
▼どんどん外の人たちとドラムたたいてください/高杢禎彦より
▼音づくり/大土井裕二より

19 JULY, KAGAWA

19 JULY, KAGAWA

大土井裕二へ

▼モデルのできるベーシスト/藤井郁弥より
▼ベース/藤井尚之より
▼これからはリズム隊が重要なので、徳永とホモになる勢いでリズム強化を/武内享より
▼そのままで/鶴久政治より
▼肉体強化/徳永善也より
▼来年もガンバロウ/高杢禎彦より

15 MAY, ARTPLAZA 1000

1 JUNE, OHMORI

19 JULY, KAGAWA

武内享へ

▼プロデューサー/藤井郁弥より
▼若づくり/藤井尚之より
▼若さ/鶴久政治より
▼髪の毛/徳永善也より
▼来年もガンバロウ/高杢禎彦より
▼若づくり/大土井裕二より

30 MAY, FLAMINGO STUDIO

19 JULY, KAGAWA

15 MAY, ARTPLAZA 1000

高杢禎彦へ

▼役者とコーラス/藤井郁弥より
▼声の低さ/藤井尚之より
▼今以上にカッコイイ男になって欲しい/武内享より
▼体に気をつけてイロイロな仕事を軽くこなしてください/鶴久政治より
▼ダイエット/徳永善也より
▼バイクづくり/大土井裕二より

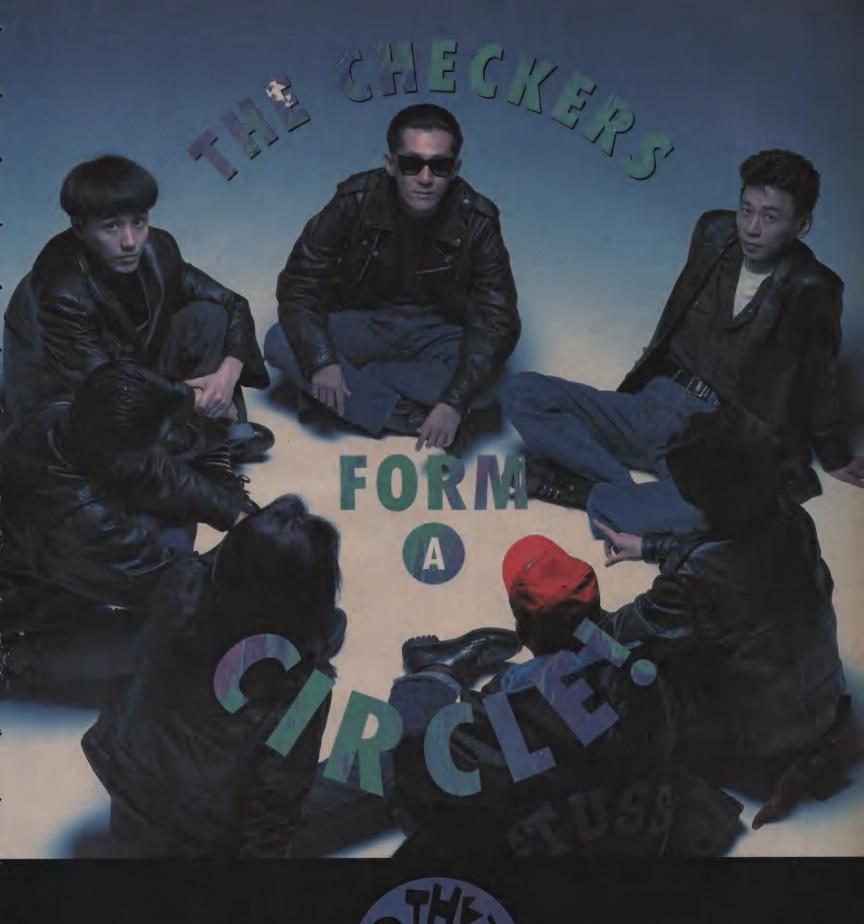
15 MAY, ARTPLAZA 1000

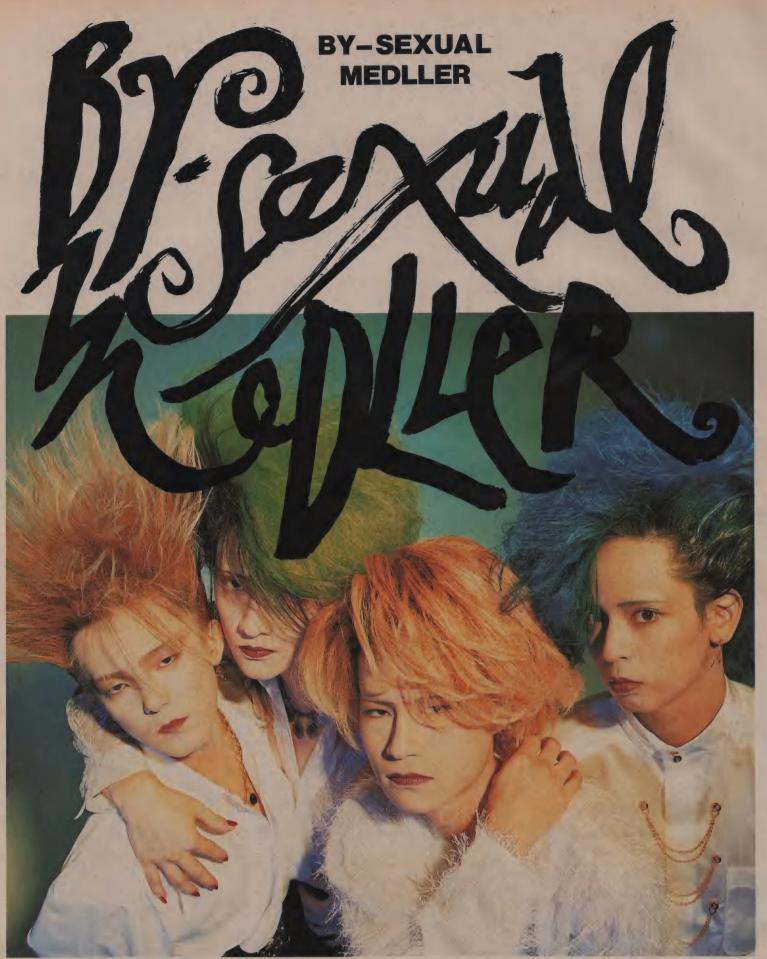
15 FEBRUARY, HITOKUCHIZAKA STUDIO

19 JULY, KAGAWA

29 MAY, JOLF

THE CHECKERS

1991年に、

●"集合写真撮りますから、円陣組んで座ってください"とお願いしたら、自然とこんな並びになった。カメラマンの準備を待ってる間、横のテーブルに座ってた時とおんなじ。しかも、シャッターを切ってない時は、さっきまでの話題のつづきをしゃべってる。"円"の持ってる魔法の力だっ。

BY-SEXUAL MEDLLER

●なんたって、根が宇宙人なバイ・セクの4人だし。彼らの1991を聞き出すことも、予想することも、超困難。だけど、放っとけないから、"大きなお世話攻撃"に出た。つまり、勝手に、なおかつ真剣に彼らの1991を占って、その結果を4人につきつけたらどうだろう——っていう作戦。

撮影●小木曽威夫(P247−P251,P256−P260) 杉山芳明(P252−P255) 文●鉄石美保子 スタイリング●深井みき ヘアメイク●NIYA

衣装協力●CRAZY CAT/JUNIOR LONDON POISNING

BY-SEXUAL MEDLLER!

この4人の中で唯一占いなるものに若干ではあるものの、興味を持っているSHO。「やっぱり乙女座、ロマンチストなんですよ、フッ」……好きなように言わせときましょーか。それにしても、当たってます。

□　□

「当たってますねえ」

――この"暴飲暴食"とか?

「(笑)ねぇ。これ、素晴らしいですよ。22・23歳っていうのがなかなかついてるなぁ(笑)、ヒットじゃないすか? これ。ま、でも今は食ってもぜんぜん平気だもん」

――それがイケナイんでしょ、それがっ。

「今まで食い物で病気になったりしたことないし(ワカッテイナイ)」

――でも食いしん坊が災いして病気っていうのは、ちょっと悲しいものがなーい?

「食い物で……かっこ悪いなぁぁ。(笑)ホントけっこうシリアスっていうか、チクチククるなあ、これは」

――(笑)。じゃ、出てきた結果の順番にダーっといきましょうか。まず大器晩成型ということですが、前にもそう言われたんだって?

「ん、親が自分の子供はどうなのかなぁって占ってもらったりするじゃないですか。それで年をとってから出世するとかって…人からもよくそんなふうに言われたりするけど、そうなのかなぁってぜんぜん実感はしてないなあ。今もまだ先が見えてないし、まだどうなるのかもわからないから、年とって本当に出世するのかなぁみたいな感じですよ。あと普通に働くよりは、なんかこういう商売とかの方が向いてるっていうのも、そのときの占いで出たんですよ。だから昔言われたことを思い出すと、それなりに当たってるのかなと。…でも、このへんはよくわからない」

――"サポートに専念して吉"ってとこ?

「うん。まあ、あんまり表面に出て行く方じゃないから、性格的にね。そう思うと、こういうふうにいくのが似合ってるのかな」

――じゃあ、"外部の仕事"っていうのはどうかな。

「うん……ひとつ話があるんですけどね」

――えっ、どんな話?

「言わない……(笑)、ウソウソ。やっ、『オールナイト・ニッポン』でひとりでパーソナリティやらないかっていう話が」

――え――!! ほんとにっ?

「そう。それがきたんですよ。オレもビックリして、でもまぁ最初はオーディション受けたときも"ごんなんじゃどーせダメだろう"とか思ってて。(笑)けっこう悩んだ部分もあるんだけど、ちょっと思い切ってやってみようかなと思って」

――へえ。じゃあ"活動のエリアー"…?

「これ、よくわからないな」

――もしかして海外ってことかな?

「永住するんですかねぇ、…違うな(笑)まあずっとそこに住むっていうのは考えられないけど、息抜きで突然、逃亡したいなっていうのはよくあるから」

――逃亡ときたか。(笑)

「(笑)なんていうか、けっこう無意識のうちにずっとあるもんだと思うんですけどね。ひとりの時間とか好きな方でしょう。それがなかったら苦しい性格だから、そういうところでずっと思ってるんじゃないですか? べつに仕事から逃げたいとかじゃないけど、実際違うところに行ってみたいっていう願望が強いんだと思います」

――じゃ、SHOの放浪癖を語ってるということで。(笑)

「老後の話じゃないですか、これ(笑)」

――ハハッ。では、その次。

「……この"分が悪い"ってなんかヤだな。どういうことだ、何が悪いんだ……?」

――"ライバル"っていうのも、SHOの性格に合ってないっていうか…ねぇ。

「そうでしょ。あんまりライバル意識とかないしねえ。仕事でライバルっていっても…なんだろう。想像がつかない!」

――ってことで、はい、じゃあ"派手なプライベート"。(笑)

「"はっきり言って仕事のアシをひっぱります"(笑)、知らないなぁ。プライベートはけっこう質素だと思うんですけどね」

――かなり?

「かなりっ。さびしいくらい……もう女の子とかが見ると"私があたためてあげる"みたいな。ねえ」

――思うかなあ。

「……思わないでしょーねっ(笑)」

――じゃあこの話はいいわ。

「ああ(笑)、とばされてしまった」

――だって本当になんにもなさそうなんだもん。

「あ――っ(笑)」

――これも"んっ!?"という感じのデータだと思うんだけど……

「調子にのり易いですからね(笑)オレ。"発言と傲慢な態度には注意"…うん、気をつけないといけませんね。最近調子にのってるみたいなんですよ、オレ」

――そうかな? でもほら、波にのってるの"調子にのってる"と"調子いい"っていうのは、紙一重じゃない?

「そうですよね。だから誤解されやすいので注意っていうことだと思うんですよ。けっこう、もしかして誤解されるんじゃないかなって感じても、そのままにしちゃう方なんですよね。本当はいけないんだろうけど……気をつけないとね」

――謙虚なSHOやんのことですから、大丈夫でしょう。それより、"暴飲暴食"。(笑)これこそ本人の自覚が問われるというもんでしょー。

「これはもう、今日の一等賞!(笑)」

――もう説明はいらないって?

「ファンのコが読んでも、たぶんこれは納得するんじゃないかという(笑)」

――素直です、この件に関しては。(笑)これもらしいなあって気がするんだけど、"精神的なストレスは出てません!"。

「あぁ、たまんないでしょうね、オレ。一瞬湧き出たものが蒸気となってパァッといってしまう方なんで……一応腹立つこととかもあるけど、すぐ忘れる方だから」

――(笑)。金運に関してはどう?

「ああ、これはどういう意味でしょうね? "何年後かに大きくなってかえってくる"うーん。……いつもいつもいいってときがないですね、オレは。それにすっげー儲かったとかもないし……(ここへ、占いの結果が実に当たってると大騒ぎのDENちゃん登場「当たってんねんコレ、すっげー当たってるわぁ。おっ、SHOやん"くされ縁の女性は大切に"やて。"本命の彼女と両天秤…"、本命の彼女って誰や?」)

――"誰や?"(笑)

「おまえなぁー(DEN「誰や?」)……もうほっときましょ」

――じゃあ、そのへんの恋愛の項目に関していかがでしょう?(笑)

「あれー、いきなり金運からとんじゃったの?」

――もちろんっ。

「……。いやぁ、これはわからないですね、両天秤? うーん…」

――じゃあ、くされ縁の女性とは?

「ん――………っ」

――もうノーコメント?(笑)

「いやっ、そんなことないっすよ。これは、……もうやめましょー(笑)」

――なんだかねえ。(笑)

「えっ? あ、オレ、いませんよ。いませんよ――……頼むよ、もう、おいっ、あぁどんどん墓穴を掘っていく……」

――ハイハイ。(笑)

「やだなぁ。(笑)この占い、トータルするとすっげー当たってますね。あー、冷汗かくわ、ほんと(笑)」

――じゃ、まとめると……

「とにかく忙しい一年で良かったですよ」

――そりゃ今年の感想でしょ?(笑)

「あっ(笑)、当たってます。いや、でもシビアだなあ、これは。もうやめません? こういうヤツ(笑)」

□　□

今回のこの占い、結果を見て陽気なヤツらは、かなり誇大してふざけたりからかったりしてくれてます。SHOに限らず他のメンバーのインタビューにも出てくる恋愛カンケーのデータ&コメント、あんまり真面目に受け止めないでねっ。騙されないように。(笑)

ってことで、最後の最後までらしい話っぷりのSHOやん。それにしても、すっかり雄弁な男になっちゃったもんです。(笑)PATi▼PATi定番となったバイセク・パーソナル・インタビュー。スタートした時点では、10分ほど話したところで、もういいでしょといわんばかりの寡黙さ。でも、その次のインタビューでは"……"の呪を一気に解いてしまうという成長ぶり。特に初めてのパワー・ステーションでのライブから、ボーカルとして作詞家としての括弧たる何かを会得した様子で、インタビューのたびに毎回ページに収まりきらないほどの勢いづいた言葉が飛び出しました。たとえばそれは、1~2月の代々木チョコレート・シティでのライブでBY-SEXUALの中での自分のポジションをはっきりと認識した話。もちろんそれは、ボーカリストとしての自分の位置。

「そう思うのが人に比べると遅いんだろうけど、自分としてはあのころやっとそれがわかってきたかなあっていう感じで……」

すでにまぎれもなく、バイ・セクのフロント・ボーイ。なのにいつも必ず、自分がスロー・スターターだと付け加えて、話をするSHOやん。この言葉が浄化するかのごとく出てきたのも、8月のことでした。

ニヤニヤヘラヘラの反対側で、いつも純度100%の気持ちに磨きをかけてる彼の来年は、

「基本的なものは変わらないけど、それをどう出していくか…今のまま浮上したままで、その形を変えていきたいです」

どーです、言うもんでしょ。(笑)

タロット・手相・姓名
葵　拡夢

【Total】
▶とにかく忙しい一年
▶他人から見ると、報われない一年かもしれないが、この人はかなり大器晩成型
▶6月以外は、自分が表面に出ていくよりは仲間のサポートに専念する方が吉

【仕事】
▶外部の仕事を手伝ってくれるよう以来が来ますが、受けるなら慎重な判断を
▶活動のエリアとしては現在住んでいたり本拠地としている以外の地域が吉
▶ライバルが出現 仲間内かもしれないし、全く今まで関係なかった人かも 後手になりやすく、分が悪い
▶ハデなプライベートは仕事の足を引っ張ります
▶組織の中では、今までどおり2番手、3番手になりやすい 先々の良い印象へつながるので心配ないです
▶大勢を前にした時の発言と傲慢な態度は誤解されやすいので注意して下さい

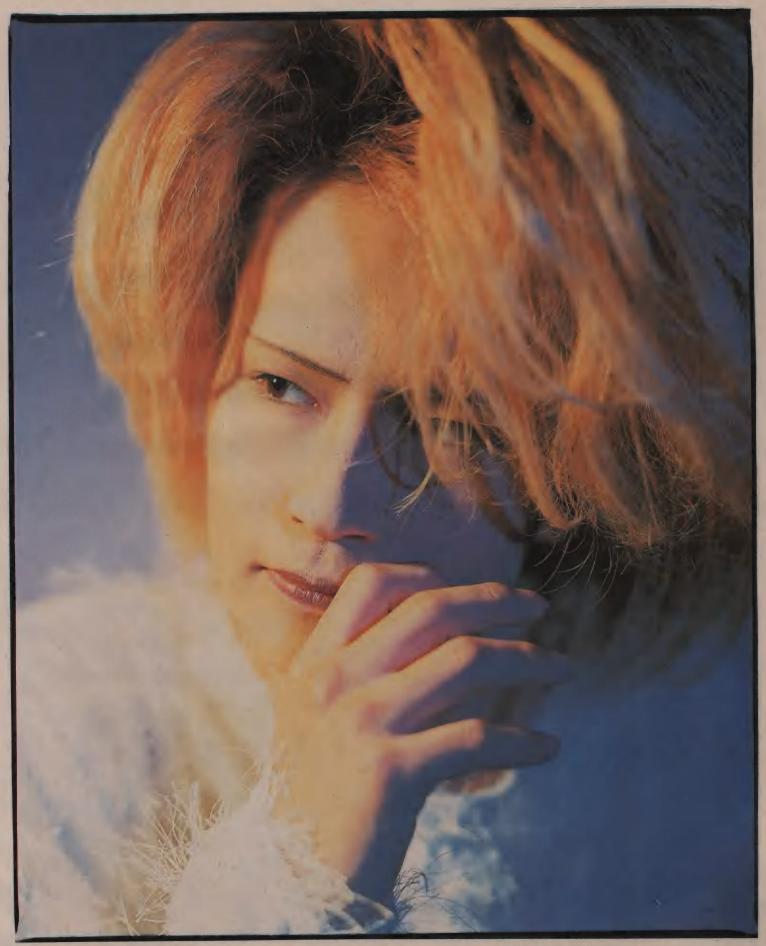
【健康】
▶暴飲暴食に注意 22、23歳に慢性的な内臓疾患の暗示
▶精神的なストレスはなし

【金運】
▶本人はお金儲けにあまり興味を示さないが、何年後かに大きくなってかえってくる

【恋愛】
▶今年後半、新しい理想の女性出現 本命の彼女との両てんびんになりやすい
▶くされ縁の女性は大切に 彼女が今の幸運の源
▶結婚運、'91年はなし

Fortune-tellers●自ら"占い界のパンク"と名乗る、主宰・弦エニシのもとに集う女神たち。(Fortune Café "Star" ☎03-486-7303)

SHO

●SHOの成長ぶりが騒がれてますが、"あぁ、コイツってホントに大物(おおもの)"って思ったのは、渋公で2階席に向かってニコニコしながら手ぇ振ってた時。お客さんの顔がいっぱい見えて、マジでうれしかったんだってさ。普通アガるだろ。

●こんなこと言うと、またムッとして無口になっちゃうかもしれないけど、RYÖの血液型はA型だと思う。本人はB型だと思うって言ってるが、B型の人間が、いちいち具体的な理想を語ってくれるかなぁ。来年はゼヒ、血液検査をね。

BY-SEXUAL MEDLLER!

「これは予言が混ざりつつもその人の精神分析みたいなものも入ってるでしょ。バカにできないかなぁっていうの、ありますね」とは言うもののやっぱり運は自分で作っていくものというRY:O。そんな彼らしい結果とあいなっておりますが……。

□　□

——どーお？　けっこう当たってるよね。

「うん、これは当たってるところはかなりありますね。健康のことなんか〝生まれつき大丈夫〟っていうのは、もう本当にそうでねぇ。〝痩せてしまうとかその程度〟、もうそのまんま。(笑)〝金運が良くなるのは25歳から〟というのは、25歳からパチンコやると勝ち続けるということですね」

——そっかなあ。(笑)

「財テクかあ……何をしようかなぁ。(笑)じゃ、順番にいきましょうか」

——はい、まず〝5年以内に新しい分野に触手がのびる〟。

「うん大丈夫。来年はたぶん無駄には過ごさないと思うんで。けど、新しい分野、なんでしょうね？」

——そういう予感めいたものはない？

「オレはそういうことぜんぜんよまない方だからよくわからないけど…でも、5年もあればなんでも出来ますよ」

——なるほどっ。言いましたね。(笑)

「ハイ。その次の〝頑固なところは——〟これもけっこう当たってるいうか、オレ実は気が小さいんですよ」

——っていうよりも細かいんじゃないの？

「いや、小さいとこは小さいですね。やること自体はすごく気は小さいんだけど、誰よりも勝りたい気持ちイコール、プライドですかね。そういうとこって大きいから、うん。あと、なるほどなぁって思ったのは〝イライラされしなければ〟ってとこ」

——(笑)突かれたかなって感じ？

「まさに。(笑)ちょっと開いた口がふさがんないという感じですけど。腹を立てずに地道にがんばろうかな(笑)」

——ただRY:Oがイライラするくらいでないと、コトが前に進まないっていうとこもあるんじゃない？　レコーディングにしても、まず曲が出来ないとね。

「まあそれはね。でもこれ以上イライラすると、逆にぜんぜん進まなくなるかもしれませんね、実は。あとね、さっき読んでこれはありそうだなって思ったのは〝10〜12月からわがままになりやすい〟。ちょうど来年の今ごろでしょう？」

——うん、そうだね。でもそんなにわがままなタイプじゃないでしょう。

「うーん、ただこう……周囲が思い通りに進まなかったら、もうわがままになるタイプだから……たとえばバンドのこととか、すごい一生懸命やってても、ぜんぜん〝がんばり〟がわかってもらえなかったりしたら、すぐわがままになると思う。見えないところで努力しつつも、それをいつかわかってもらおうと実は思ってやってるから。それが報われなかったとき、きっとすごいわがままになってしまうかもしれない。でもこの占いだとその孤独な状況が'92年まるまるってことでしょ、ちょっと淋しいですよねー。'92年の2月までとか書いてあればいいのに」

——(笑)。じゃあ、その対策としてRY:Oちゃんの思ってることは？

「うん、まずイライラすることをやめる。で、ひとりでがんばって報われなかったときは独りだけど、みんなでがんばって報われなくてもそのときはね、みんなで落ち込めるからひょっとしたらわがままにならなくてすむから……。ただみんなが勢いよくって、オレだけおいてかれるっていうか違う場所にいたりすると、わがままになってしまうかもしれないから…その対策は……旅に出る」

——どのあたりへ？　まあ季節から10〜12月といえば、

「いえば、北海道とか。そう、北海道のどっかの家ん中で籠もる、と。雪かきしながら。(笑)いいかもしんない」

——でも順番としては逆になっちゃうんだけど、その前まではすごくイイみたいね。〝5、6、7、8、9、10月と長期の幸運に恵まれている〟でしょう。

「そして10月からわがままになると、なるほどねえ。(笑)でも、まあこんだけいいコトがあると、来年もいい年になりそうだなあ(笑)」

——じゃ、次、仕事関係のデータにいきましょーか。

「はい、これ当たってますね。〝自分の意見で勝負〟、これはすごくいいかもしれない。このバンドでも他人の作った物で勝負に出たくないとはいつも思ってて、出来る限り自分で曲書いて、メンバーの曲を取り入れつつ勝負していきたいなあとか思っていたから……それでやるということは、いいということですね。あっ、これはメンバー内のことでしょーねぇ」

——〝これ以上目立とうとすると——〟っていうヤツ？

「そう。やっぱり目立ちたいんですよ、オレは。でも地味に攻めて他のメンバーを立ち上げることも必要かなぁとは思っていたから、たぶんこれは当たるんでしょうね。まあ、来年は今まで通りやっていって、それ以上はやらずに控え目にやっていけという感じでしょう」

——そして〝創作活動は8〜10月〟。

「じゃあ、このときソロでデビューしようかな(笑)」

——うたうのぉ？(笑)

「ダメ、オレ音痴だから。(笑)もうこのあいだの『FOR HURTED』の仮歌で、あまりの下手さにショックだった」

——(笑)。まあ、内外問わずガンガン曲を作るぐらいの気持ちでいけと、そういうことかな。

「そうですね。〝社会的地位をアップさせるために趣向を変えるのが吉〟、んー、やっぱり音楽と、あと動きでしょうね。趣向を変えるのが必要なのは」

——動きっていうのは、たとえば？

「もっとポピュラーに動いてマニアックにやる、みたいな。そういう方向がいちばんいいかなと思いますけど、変えていくのならね」

——幅も拡がるしね。

「うん。あと、これはやっぱり当たってますねぇ」

——金運。(笑)でもやっぱパチンコじゃダメでしょ。

「やっ、金運ですよ、あれは。オレの考え方ではバクチ運っていうのは金運につながるよね。(笑)バクチっていうのは金を賭けるもんだから、人生最大のバクチ、そのバクチに負けたらもう一文無しみたいな感じでしょ。勝負事のあとにはね、ついてくるんですよ、お金が」

——なるほどねえ。

「負けたら無くなっちゃうし、勝てば増える、と」

——はいはい。じゃあ、コレに関してはどうですか。

「恋愛……」

——〝とにかくモテる〟。(笑)

「(笑)しかも〝セクシーで女っぽいタイプ〟」

——なんなんだか。(笑)

「これは、だからきっと来年からなんですよ。来年、特にセクシーで女っぽいタイプ……いいなあ(笑)」

——見るからにボディ・コンシャスみたいな。

「ボディー・ライン綺麗だぞ、みたいな…いいなあぁぁぁ。(笑)耳元で〝ブッ〟みたいな、……ああー(笑)」

——……。

「や、でも見た目とかじゃなくて、行動とかやることがセクシーだったら、これはもう年上年下とか年齢に関係なく問題ないっ。うん、まあ、けどかわいいのも好きですけどね。だけど、モテるとはいっても、それでどうこうなるとかっていうのとは、また別モノって気もしますけど(笑)」

——〝のめり込むことを恐れてストップをかける〟ぞ、と。

「あーぁ、なるほどねえ。仕事一本を理由にのめり込まないようにするっていう感じでしょーかね。うん。のめり込むのはあんまり……一度のめり込むところまでいってみたいけど、…たぶん他のことが出来なくなるでしょうね、きっと。この〝決定的な状況〟って何でしょう？　悔しいけど、なんだかよくわからん」

——たとえば結婚とか、この人と思える相手に巡り合えないってことかなあ？

「ああ。いや、巡り合えないというよりもそうとは思いたくないんでしょーね、きっと。この人しかいないって思ったら、その愛が報われたときに落ち着いてしまってどうしようもならんだろうから」

——落ち着いた自分には、まだなりたくない？

「うん、まだね。結婚とか、まだぜんぜんねぇ。ほんとのめり込むのを恐れるから、そういう状況にはなりなくないんでしょうねー、来年とかだったら」

——じゃ、気になるスキャンダル。(笑)

「これは予告ですね。でもどうだろ、わざわざオレらの取り上げないでしょ(笑)」

□　□

なんだか来年を占うというよりも、もしかしたら今までみんなが知らなかった彼のキャラクターさえも急浮上した感じのデータ。強気でとびきりの運の持ち主、怖いもの知らず…なんてイメージの強いRY:Oだけど、実はけっこうこんなヤツだったんですねえ。(笑)リーダーでありバイセク・ビートのコンポーザーでありと、先頭切ってバンドの勢いを生み出してきたRY:O。

「この占いに関係なくして言えば、来年のオレらはどんどん派手に華々しく動き回っていきたいですね」

どうやら1991年も楽しいことだらけになりそーじゃない？　頼むよっ。

タロット・[illegible]・姓名霊視
サリィ・シルフィン

【Total】
▶5年以内に必[illegible]新しい分野に触手が[illegible]びる暗示が[illegible]の[illegible]、[illegible]のために来年はムダに過[illegible]ないように。
▶実は気が[illegible]さいところはプライドの高さが、[illegible]なところは仲間意識の強さが——[illegible]いうように弱点をカバーするパワー[illegible]勝っている。イライラさえし[illegible]け[illegible]思いどうりに進む年。
▶10〜12月がわがままに[illegible]りやすい。特に12月か[illegible]'92年に[illegible]けて、孤独に陥り[illegible]すい[illegible]注意。5、[illegible]、[illegible]、8、9、10月と長期の幸運期。
【仕事】
▶他人のつくった[illegible]ので[illegible]く、自分[illegible]つくったもの、自分の意見[illegible]勝負す[illegible]吉。
▶今で[illegible]十分目立っているのに、これ[illegible]上目立とうとすると[illegible]起こ[illegible]。
▶創作活動は8〜10月に。
▶社会的地位を[illegible]、趣向を変えるの[illegible]。
【金運】
▶'90〜'91年にか[illegible]、財テ[illegible]を始める[illegible]吉。金運がよく[illegible]は25歳から。
【健康】
▶生まれつき[illegible]。来年も何も[illegible]ない。〝やせてし[illegible]〟とかその程度。ストレ[illegible]には注意。
【恋[illegible]】
▶とに[illegible]く[illegible]る。特にSexyで女っぽいタイ[illegible]。ただし、本人が[illegible]めり込むことを[illegible]れ[illegible]ストップ[illegible]けるため、決定的[illegible]状況には至らず。仕事一筋。[illegible]月〜6月に弱いスキャンダルの暗示。

BY式解剖学 CHIKi ▸ CHIKi

CHiKi

Q
お金がもうかったら何をしたいですか？
A
いらない。

●5月号で、すっごく小さく、BY-SEXUALへの質問を募集しただけだったのに、約2,000通もいただきました。ありがとう。やっと発表できたっ。忘れていたわけじゃないよ。(笑)やっぱし、アーティスト解剖学Q&Aは、年末のパチ▸パチ STYLEでやんないとね。

Q 生年月日、血液型、身長、家族構成を教えて下さい。(北海道 阿部ちひろ)

A SHO 知らない。

RY:Ö 1970年8月24日、?、172cm、両親、兄2人。

DEN 1970年6月10日、O型、17[illegible]cm、[illegible]母がいる。

NAO S45年7月7日、O型、174～5cm、父・母・兄×1。

Q 好きな食べ物と嫌いな食べ物を教えて下さい。(北海道 恵利子)

A SHO うなぎさん以外なら何でも食べる。

RY:Ö 好き→いちご。嫌い→ピーマン。

DEN なんでも喰うけど、給食のインゲンはやだ。

NAO 好き→和食。嫌い→甘いもので黒いやつ。

Q 他のメンバーに初めて会った時のことを教えて下さい。(熊本県 原田こまき)

A SHO 中一の時に、転校した学校のクラスにRY:ÖくんとDENさんがいて、NAOは今のバンドをはじめる時に会った。

RY:Ö みんなひまそーな顔してました。

DEN んと、RY:Öとは中一の時に同じクラスになって、その後SHOがそのクラスに転校してきたのが2人との出会いで、NAOはその頃よく行ってたスタジオにいたという、たわいもない話です。

NAO RY:Öとスタジオで友達になった。それから、2人を紹介してもらった。

Q 好きな言葉は何ですか。(無名無住所)

A SHO 血わき肉おどる。

RY:Ö 気合一発！

DEN もけけ。

NAO 愛。

Q 自分の性格を一言で言うと何ですか。(福岡県 江口あき)

A SHO 意味不明。

RY:Ö エライ。

DEN ぬれ手にアワ。

NAO あまのじゃく。

Q 4人それぞれに質問します。ファッションポイントは？(福岡県 楠本美穂)

A SHO 地味に派手に。

RY:Ö 似合うもの、かっこいいもの。

DEN デーハー、イケイケ。

NAO シルエットの美しいの。

Q 化粧品はどこのメーカーを使ってますか。シャンプーも教えて下さい。(熊本県 原田こまき)

A SHO 化粧品はいろいろ。シャンプーはエッセンシャル。

RY:Ö いろいろ。ファンデは今ソフィーナ。MILDコートシャンプー、MILDコートトリートメント。

DEN 色んなのがあってわかんない。シャンプーはビオレ洗顔用（ピンクのやつ）↑髪立ってるとき。普段はメリット、んで、トリートメントはマイルドコート。

NAO 化粧品は国産の女性用。マイルドコートかサロンクリエイティブ。

Q 現在の髪の長さは何センチですか。教えて下さい。(埼玉県 杉浦布美子)

A SHO どんどん切れていく。

RY:Ö 20cmくらいだと思う。

DEN 後ろは長い。

NAO 肩ぐらいのワンレン。

Q BY-SEXUALのゴイスなところは？(静岡県 森明美)

A SHO 問答無用。

RY:Ö てんこもり。

DEN みんなバカ。

NAO 私生活。

Q 好きなファミリーレストランと、ファ

BY式解剖学。CHI…

Q
パ○ったもので一番高いものは？
A
売り物だったら25万円の。

ーストフードの店を教えて下さい。できれば理由も。（静岡県　堀尾千香）
A　SHO　すかいらーくとデニーズ。あとはマックン。
RY:Ö　フレンドリー・スカイラーク・フォルクス・ビックボーイ・デニーズ他色々。
DEN　マクド・ロッテリア・ファーストキッチン。
NAO　あんまり好きじゃない。
NAO　デニーズ。モスバーガー。
Q　誰かに似ているといわれたことがありますか。（松原亜希）
A　SHO　オレはオレ！
RY:Ö　田中美奈子、まっち、マークレスター、他色々。あとオフの時「バイセクのRY:Öに似てる」と言われた経験あり。
DEN　ハズカシイので言わない。
NAO　素顔がジュニアさん。
Q　今までに、一番きもちよかったことは何ですか。（群馬県　今井春）
A　SHO　教えない。
RY:Ö　ホールライブの快感。
DEN　アレ。
NAO　風呂に入ったとき。
Q　もし、車を買うとしたら、何に乗りたいですか。今、乗っていたら、何ですか。教えて下さい。（広島県　音出和恵）
A　SHO　チャリンコでいい。
RY:Ö　乗ってないけど、"がうんたっく"に乗りたいな。
DEN　F1のフェラーリ。
NAO　ACコブラ。
Q　親に見られたコトで、今までの中で、一番恥かしいコトは何ですか。（茨城県　木村由紀江）
A　SHO　肉体だ。
RY:Ö　単車のっていばってるところを見られた。
DEN　生まれるとき。
NAO　SEXしてるところ。
Q　ある朝、起きたら、なんとスリムな体がボテボテたるたるに……みなさんなら、どうする。（埼玉県　愛は地球を救う）
A　SHO　すもうをやってみる。
RY:Ö　別にかまへん。
DEN　カンナでけずる。
NAO　考えられない。
Q　今、カラオケがはやってますけど、カラオケには行くのですか。いくなら、どんな曲を歌いますか。（長崎県　熊本友紀子）
A　SHO　赤鼻のトナカイ。
RY:Ö　あんまり好きくない。ヘタだから。
DEN　オレ行く。色々歌う。
NAO　海援隊「JODAN」。
Q　はいてるパンツは、トランクス、ブリーフのどっちで、色は何色ですか。（宮城県　佐竹弓子）
A　SHO　どっちでもこいです。
RY:Ö　その時その時。
DEN　ヒ・ミ・ツ。
NAO　ライブはビキニ。普段はトランクス。
Q　使ってる楽器のメーカーを教えて下さい。（北海道　木村恭子）
A　SHO　え？
RY:Ö　アンプはピービー。ギターはイバニーズ・シェクター。
DEN　E・S・D。
NAO　TAMA。
Q　小さかった頃からの夢を教えて下さい。（石川県　中村公栄）
A　SHO　夢はいつもでっかく。
RY:Ö　バイクレーサー。
DEN　モデルガン屋さんになろうと本当に思った。
NAO　おもちゃ屋。
Q　最近、笑えたことって何ですか。（長野県　荻原佐保子）
A　SHO　笑いっぱなし。
RY:Ö　パチンコ大もうけ。
DEN　NAOのギャグ。
NAO　DEN。これいじょーはひみつ。
Q　今度生まれかわるとしたら何に生まれかわりたいですか。（長崎県　松原千浪）
A　SHO　藤井さん！
RY:Ö　鳥。
DEN　神。
NAO　ウィリー・ウィリアムス。
Q　自分を動物に例えたら、何だと思いますか。また、他のメンバーは？　その理由も教えて下さい。（宮城県　千葉志津枝）
A　SHO　自分はアザラシ、RY:Öはキツネ、NAOはパンダ、DENはタヌキ。
RY:Ö　よく人に「ヒョウの子供」だと言われます。SHO→ナマケモノ。DEN→すごいデブな猫。NAO→サカリのついた犬。
DEN　カメレオン←オレ。NAOはカピパラ。RY:Öはしし座。SHOはベンジャミン。理由はヒ・ミ・ツ。
NAO　NAO・リス、似てるとよく言わ

BY 式解剖学 CHIKi・CHIKi

CHiKi

Q
どういう死に方したいですか？
A
即死。

れる。DEN・たぬき、化けるから。RYÖ・ねこ、ずるがしこいから。SHO・きつね、目がきつね目だから。

Q 私は、今、学校をやめようかと思っています。何か、はげましの言葉をください。（兵庫県　小林幸恵）

A SHO 人生、山あり谷ありだ。思いっきり何ごとにもがんばってやるのじゃ〜い。

RY・Ö 自分で考えて下さい。本当にやめた方が良いのか。だけど僕は差別はしないから、好きな様にしたよ。

DEN んー、何かやりたいことがあったらやめてもいいと思うよ。あと、今よりも楽しく過ごせると思えれば、人に迷惑かかんないようにやればいいしね。まあ、よく考える方がいいよな。

NAO やめて自分のためになるならやめた方がいいけど、一時の不満からならやめたらバカをみる。

Q 最近、困っていることは何ですか。また、不満に思っていることは？（宮城県　菱沼百合子）

A SHO タヌキが俺をおそってくるんだー！

RY・Ö 寝起きの悪さに困ってる。部屋の汚なさに不満をいだいている。

DEN 家がキタナーイ。

NAO イタズラ電話。

Q 歴史上の人物で尊敬している人はだれですか。（新潟県　小路佳子）

A SHO いない。

RY・Ö 社会にがてです。

DEN チャプリン。

NAO 学帽政。

Q 顔、スタイル、ステージについて、"キレイ"と言われることについて、それぞれ、どう思いますか。（山形県　東野圭一）

A SHO すっげーうれしいなぁ。

RY・Ö ええんちゃうけ。

DEN うれひー。

NAO うれしい。

Q ライブのない日は何をしていますか。（栃木県　無名）

A SHO どこか浮遊している。

RY・Ö 取材、キャンペーン、パチンコ、レコーディング他etc…やることは山ほどあるよ。

DEN いろいろなこと。OFFは少ない。

NAO 取材や他のこと。

Q ライブ中は何を考えていますか。（埼玉県　利根川明美）

A SHO 特別なこと。

RY・Ö いろいろ。

DEN 世界の政治。

NAO ガンバレと自分をはげましてる。

Q LIVE中にファンの子が、いきなりアレ（メンバーの）をさわったら、どうしますか。（広島県　えいこ）

A SHO さわりかえす。

RY・Ö うれしいと思う。きっとそのまんまいるだろう。

DEN よろこぶ。

NAO 白い毒の液をだす。

Q BY-SEXUALのみなさんに質問します。吸っているタバコは何ですか。また、タバコを吸う女の子をどう思いますか。（千葉県　小島身和子）

A SHO タバコはセーラムです。タバコを吸う女の子はあんまり好きじゃない。

RY・Ö RY・Öはセブンスターです。吸ってても吸わなくてもいいけど、1日10本以内におさえましょう。

DEN オレはセーラムライト。

NAO セブンスター。1日2箱くらい。基本的に吸う女はきらい。

Q プレゼントで、もらって嬉しいのは、どんな物ですか。（長崎県　松原千浪）

A SHO 生活に必要なものなら。

RY・Ö 衣裳、服、たばこ、金、めずらしいもの。

DEN 1はバイクRI〜Z。2は服とかかなぁ。3は現金かもしれない。

NAO かっこいい洋服。お金。

Q 今、行ってみたい所はどこですか。（群馬県　福田恵子）

A SHO あなたの家。

RY・Ö ハワイ、沖縄ツアー。（オフ多い）

DEN 天国。

NAO アフリカ。

Q 今、いちばん大切なヒトは誰ですか。（横浜市　山田啓子）

A SHO 藤井さん！

RY・Ö スタッフとファンと、両親と兄。

DEN ジュニチャン。

NAO ひ・み・つ。

Q 男に生まれてよかったと思うのはどんな時ですか？　あと、1日だけ女になれるとしたら、何をしますか？（熊本県　原田こまき）

A SHO よい！やる！

Q

好きな感触って何の感触ですか？

A

ゲロを踏んでスベった時の感触。

RY:Ö　楽しいから／エッチ。
DEN　男にやられないですむからな／男に化ける。
NAO　出た時／ソープ嬢になる。

Q　自分が女の子だったら、メンバーの誰を好きになりますか。（北海道　本間香理）

A　SHO　藤井さん！
RY:Ö　RY:Ö！
DEN　ならん。
NAO　誰もイヤ。

Q　4人に質問。初恋はいつ、相手はどういう子でしたか？　あと、ファーストKISSは何歳の時？（埼玉県　利根川明美）

A　SHO　幼稚園で、どんな子か忘れた／覚えてない。
RY:Ö　ちっちゃい頃、いろいろ好きだった。年下から先生まで／赤ちゃんの時、お母さんと。
DEN　小さい頃／覚えがない。
NAO　小学一年生／4歳。

Q　好きな女の子のタイプと、嫌いな女のタイプをおしえて。（大阪府　大谷洋子）

A　SHO　すっげーマブイ子／知らん。
RY:Ö　好きになった子／俺を嫌う子。
DEN　よい人／他人のこと考えない人。
NAO　やせてて髪が長くシマリがいい／がめついヤツ。

Q　性格よくてブスな子と、かわいくて性格悪い子、どっちがいい？（広島県　A子）

A　SHO　どっちもどっち。
RY:Ö　かわいくてきれいで性格いい子。
DEN　性格よくてかわいいと、言うことないよなぁ。
NAO　顔が良くてしまりがいい女。

Q　かわいいなあと思う女の子のしぐさは何ですか。（名なし、住所なしちゃん）

A　SHO　体をのけぞるしぐさが好き。
RY:Ö　良くわからん。
DEN　いつもニコニコ現金バライ。
NAO　オナニーしてるところ。

Q　好きな女の子の前では、どんな態度で接っしますか。（兵庫県　吉野和子）

A　SHO　おそう。
RY:Ö　内気な男の子。
DEN　おとなしい。
NAO　よくわからない。

Q　みなさんに質問します。〝愛する〟って何ですか。（栃木県　冨山愛）

A　SHO　まず、自分を好きになること。
RY:Ö　思う気持ちです。
DEN　愛は盲目。
NAO　んー、いじわる。ひ・み・つ。

Q　結婚は何歳ぐらいでしたいですか。また子供は何人くらいほしいですか。（群馬県　中村春子）

A　SHO　結婚はしないと思うけど…そんなことないでー。子供はほどほどに。
RY:Ö　考えたことない。
DEN　結婚はどーでもいい。子供は男1人でいいや。
NAO　明日でも相手がいれば、いつでも。

Q　ファンレターは全部読んでますか。（群馬県　坂倉亜希子）

A　SHO　読んでます。
RY:Ö　100%読んでます。
DEN　読めるかぎりは読んでる。
NAO　必ず読む。

Q　ファンに望むことは？（大阪府　木下真美）

A　SHO　愛をください。
RY:Ö　みんなでバッチシ！
DEN　楽しくやろーぜ。でも、車にラク書きしないでね。
NAO　ケガしないでね。

Q　SHOってば、いつも首をふってません？　いわゆる〝くせ〟なんですか？（福岡県　上甲亜由美）

A　SHO　もう首がこっちゃって、まいったよ。

Q　RY:Öさんの血液型が不明なのはなぜですか？　大ケガした時調べなかったんですか？（青森県　三浦伸子）

A　RY:Ö　大ケガした時でも、輸血する程じゃなかったので。けどね、周りのみんながRY:ÖはB型だって言うんだけど、どうでしょう。

Q　DENがライブの時よく着ている、アミアミ、スケスケの服は自分の好みで選んだんですか。（熊本県　前田玲）

A　DEN　そーです。あれは、スズしく見えるけど、実はとーっても暑いです。

Q　DENの「つめの長さ」は何ミリメートルありますか。（栃木県　小諸幸）

A　DEN　一番なげーのは、10ミリメートルかな、あとは7〜8㎜くらいだと思う。

Q　NAOくんが着ているTブラみたいなのは、女の子用なんですか。（新潟県　BYちゃん）

A　NAO　そうです。

BY-SEXUAL MEDLLER!

すでにおわかりのよーに、今回のこの企画でいちばん喜んでたのは何を隠そうこの人。最後の最後（そう、最後の項目は笑えますっ。いや、DENにとってはシャレになんない!?）までぶっちぎりの"DEN、1991年はこうなる!"、データ順不同でビシバシいくのでヨロシクどーぞっ。

□　□

—はい、じゃあまずこれを読んだ感想を。

「感想は、……すごいっ（笑）」

—特にどのへんが?

「"血行が悪くなるかもしれません"とかなんか当たってるんじゃないですか。（笑）嬉しいのはこのへんですかね」

—"お金に困るタイプではない"?

「困ってるんですけどねぇ。（笑）この、"中国の方向特に強し"って一体なんだ?（笑）何の仕事をするんだ、オレはみたいな。でも当たってるよーな気はする、すごく。いちばん最初の"誰かに助けられるという星"っていうところとかねぇ。助けられた覚えはないけど、誰かに助けてもらってるんじゃないかなあっていう。今のバンドのことなんかもそうだけど、こう予定もなくパッとイイことがあったりするんですよね。で、特にそういうときに限ってけっこうグチャグチャしてるときだったりもして、自分ではどうしようもないんだけどそういう力で助かったり……そういうことがあるんですよ」

—自分が動いて解決していくっていうよりも、何かからの力で…っていう?

「そう。それまで自分で必死にやってるんだけどどうしようもなくて……、みたいなときにすっと救いの手があるのかなと、いう気はするな。前々からなんとなくそうは思っていたけど、こう改めて言われると」

—ああ、それはあるかもね。

「うん。でも、……この"新しい恋愛のきざしもまったくありません"? これはちょっとないんじゃないかなあ、と（笑）、新しい恋愛、これはしたいですね、打ち破ってでも（笑）」

—おおっ、いきなりいちばん最後の"女性関係"の項目にとびましたねぇ。じゃあこの1行目はどう解釈する?（笑）

「知らない、オレは知らない。（笑）新しい恋愛がなかったら、さびしいなあ。なんてさびしい人生なんだ……うっっ」

—……。じゃあさ、DENとしてはいったいどんな恋愛をしたいわけ?

「えっ!? そりゃ、こう明るく燃えるような……（笑）」

—タイプとかあんまりないんだよね。

「うん。オレはけっこう気分が変わる方だから、それについてきてくれる人ならいいですね。落ち込むときは、ガーッて落ち込む方だから。そのへんはここに出てるんじゃないかなっていう」

—ああ、"健康"運のところね。"理由もなくときどき神経質に——"。

「なんて当たってるんだ!」

—ねえねえ、霊体質っていうのは?

「や、なんでしょうかねぇ。鬱になるときって何かツいてきてるんですかね、オレには。幽霊って見たことないんだけど、ただ声はよく聞くんですよ。たいがい女の声ですね」

—へぇー。

「このあいだもね、ビデオの編集してるときスタジオであったんですよ。笑い声がどっかから聞こえて、ぜんぜん人のいないとこからするんだけど、でもおもしろくて笑ってるのかなんか変に笑ってるのかよくわからない声で、オレはあんまり気にしてなかったんです。そしたら、オレが声を聞いたそのちょっとあとに、NAOが見てるんですよ」

—ほんとっ!?

「そう（ここでNAO登場「え? うん、見ましたよ。おかっぱの頭して黒いワンピース着てて、疲れてたから目の錯覚だと思ったんですよ。で、気をとり直して見たらいなくて、でもフッと見たらエンジニアの人の後ろにビッタリくっついてるからビビッちゃってねぇ」）、みんな疲れてたから"へぇ"とか言ってて」

—ひゃ——っ。

「ホテルでもあったよなぁ。NAOがオレの部屋に来てるとき、角部屋なのに壁の向こうからやっぱり女の声が聞こえる……」

—やっ、もうそのくらいにしときましょう。（笑）

「オレはこんな女の人に憑かれるよーなことをした覚えはないっ!!」

—（笑）。じゃあ"大人の女性からモテます"、これはどーよ?

「……あのねぇ。（笑）でなんか昔に言うことがよく当たるおじいちゃんがいてそのおじいちゃんに"年上にモテる"って言われたことがある（笑）」

—気をつけろって?

「そうそう。（笑）でも、どーかなあ、そんなモテた覚えはないよ」

—はあー、年上に?

「年下もっ」

—（笑）自己申告フォローの入ったところで、その他にコレを見て気になったところってあるかな。

「うーん、この"幸運な年は'93年と'96年"、これが気になるなあ。オレ、3年周期みたいですね」

—ラッキーなことが起こる周期が?

「うん。'90年、今年がけっこう良かったでしょ? デビューとかの年で」

—その3年前っていうと……、あれ、けっこう大変な時期だったんじゃなかった? お父さんが病気になられたり……

「そう。だからこれからが3年周期でイイんですよ、たぶん。（笑）とりあえず、産まれるときが悲惨だったみたいなんですよね。首にへその尾が巻きついてたりとかしてて、大変だったらしくて。今までもまあ、楽しかったけど特に取り挙げるほどっていうのはなかったかなぁ……うん、今年からの3年周期に期待しよう（笑）」

—（笑）。金運についてはどうかな?

「出たり入ったり……、そう、たぶんそうなんですよ、オレの場合。（笑）あんまりまともに金貯ったことってないですよ。一年に一回くらい大きな買い物をドカンとするんだけど、今年はまだしてないからそろそろしそうですね」

—何か予定はあるの?

「今、バイクが欲しいんですよ。だけど原チャリの免許しか持ってないから、まずそっちからなんですけど、時間がないからねぇ。もう無免許とかで乗るのは、さすがにヤバイから（笑）」

—そりゃ、そーでしょう。（笑）ところでDENはこういう占いって信じる方?

「うん、良かったらね。悪かったら信じない、忘れるようにしてる。その反対に、けっこうね、いいことが書いてあると思い込むようにしてるんですよ。……一時凝ったことありますよ、思い込みに」

—それは何かきっかけがあって?

「友だちでやっぱりそういうヤツがいて、思い込んだらたいがい何やっても、絶対大丈夫っていうタイプだったんですよ。そいつ見てると気合が入っててね、体に。なんか、こう出てるのが見えそうなくらい」

—オーラとか…?

「うん。それぐらい勢いがあった。それで思い込みっていうのは大事なんだなあって、それから自分でも必死にそう思うようにし始めて、……ちょうど前の年くらいからかな。最近は精神的に落ち着いてるからそういう考えあんまりしなくなったけど、でもまた思い切りがんばんないといけないときは、そう思うんじゃないかな。今は自分の力で必死にやってたらまだなんとかなってる状況だから。そのころっていうのはもうむちゃくちゃだったから…自分の力以外になんか働いてたかな、みたいなね。やっぱり出来るんだとか大丈夫とかだったら、まだ弱い。実際には、もうそう思う以前の問題になるから。やったこともないのにそれが出来て当たり前みたいに思ってパッとやるとすんなりいけるという、そういう精神論が流行ったんですよ（笑）」

—気合が流行ったわけね。（笑）

「そのころは、考えただけで状況も変わるような気がしたんですよ。だからもう一回そういう波がきたら、やり直して…」

—やり直す。（笑）

「そう、前ぶれはきっとあると思うんで。何があることやら（笑）」

—じゃ総括すると、'91年のDENは……

「相変わらずだろうな、と。（笑）でもこう見てみると、お金がいっぱい入りますとか山のように女の人が集まって介抱してくれるとか、そういう夢のあるものがないなぁ……やっぱりいつも通りやってないと、ずっこけるんだろーなあ」

—（笑）じゃ、少し気が早いけど'93年を…

「ご期待下さい、と（笑）」

□　□

第一印象からそのままずっとイメージが変わらないのは、この4人の中で唯一DENかもしれない、なんて思う1990年の終わり。もちろん印象が変わった変わらないはべつに特筆すべきことでもないと思うんだけど、ただそれだけいつも自然体の人なんだなあと、実感してるわけです。NAOとはまた違う意味でのバイ・セクのムード・メーカー。もしかしたら超個性的なバンドの中で、いろんな意味でのバランス・シートが、DENなのかもね。

ベース・プレーヤーとして本当の意味でのスタートを切った今年、たった一年間での成長過程はご存知の通り。波が押し寄せてきたら、遠慮なくコンポーザーへのチャレンジもどーぞっ。楽しみにしてるよ。

「中国行ってみますよ、一回。何かあるかもしれない」

中国のみならず、たぶんどこへいっても愛されそうな愉しいお人柄と、しゃにむなまでのそのガッツを、1991年も惜しみなく発揮してよね、DENちゃん。

タロット・霊視・直感
ミミ月丘

【Total】
▶むこう10年間[illegible]彼にとって最も注意すべき年。人生を決めてしまうような大きな決定は下さない方が良い。キリキリの所で必ず誰かに助けられるという星を持っているので安心です。幸運な年は'93年と'96年
▶将来、国際的に活躍されるという暗示があります（中国の方向特に強し）また彼には"スピード感"を強く感じます

【仕事】
▶'90年もそうですが、'91年も仕事面でのバックグランド及び影響が良い
▶昨年何か大きな事件があって自分の今までの行動を反省しているハズ。そのため、来年は技術向上への努力を惜しまない一年になり、回りから評価されます

【金運】
▶今年も出たり入ったり
▶大[illegible]買い物を[illegible]かも
▶情にもろい性格ですから、金銭の貸し借りには注意

【健康】
▶内臓面に注意して下さい。秋は無理をしても大丈夫。4〜6月、仕事以外のことが元で血行が悪くなるかもしれません
▶1〜3月、10〜12月は神経質になりやすいので注意
▶特に女性の霊につかれやすいので、気をつけて

【女性関係】
▶今[illegible]あっている方がいたら、彼女とは絶対に切れません。また、新しい恋愛のきざしも全くありません
▶大人の女性からモテます

DEN

●別に、本人たちは深い意味なんてないんだろうが、何ヵ月か前から、DENは時々メンバーから"DENさん"と呼ばれてる。いいなぁ、"DENさん"。彼のニュートラルな存在をズバリ言い表してると思うが、どうだろう。

●NAOの中のバランス感覚がコワイ。"おキャン"なトコと"イってる"トコと。ねえねえ、ドレッドにしてもいいからさぁ、(今年はとうとうできなかったけど) あと2年ぐらいは、歳とってもできるコトは後回しにしときませんか?

BY-SEXUAL MEDLLER!

NAO

うっ、……さてどうしましょう。こんなNAOちゃんはめったに見ることが出来ません。シリアスです。かなりセンシティブな精神状態に、いるよーです。無情な結果もアリのこの占いデータ、なのに「あ、平気ですよ、インタビューしましょうよっ」……なーんてイイやつっ。ねえ。

□　□

——まずコレを全部読んだ感想から。

「これはー、ジプシー真理亜さんですか？」

——みたいですねぇ。

「ばかやろうですね(笑)、こんないい加減なこと書いて人から金取る仕事なんて、オレら以下ですよ。何がむこう10年間結婚はありませんだっ(笑)、腹立つなあー！」

——でもほら、健康そのものだって…あっそういやNAOってあんまり……

「身体は健康な方じゃないんですよねぇ、昔っからっ。今も実は風邪気味なんですよ」

——あー、フォローになんない。(笑)

「〝多額の金を手にするが入った分出ていきます〟(笑)、この人はオレらがどういう仕事をしてるとか知ってるんですか？」

——うん。〝恵まれた環境、特に家族が助けます〟とかは、当たってるんじゃない？

「ああ、はいはい。これはもう生まれたときからそうですね、けっこう。後はね〝新しい物を目指そうとしたり、将来の自分について思い悩んだり——〟ってヤツ、これは当たってるかもしれないなあ」

——〝一年中パニック状態〟ってやつだよ？

「うん、すでにパニック状態に陥ってきてますもん。なんかいろいろやりたいことが出てきてねぇ、だけどなかなかできなかったり…。たとえば思い切って髪の毛短く切っちゃうとか、なんかかっこよく見せる違う方法があると思って、案をいろいろ出すんですけどねぇ。うん、だめだなぁ、みんなちょっと遅れてるなあ」

——(笑)。そっか、じゃあNAOちゃんの心中、ちょっとフクザツなの？　最近は。

「常にフクザツですよー、何があっても。んー、なんつったらいいのか……非完璧主義者みたいな感じで」

——……NAOちゃんが？

「ん。完璧な自分を出そうと思ったら出せるんだけど、どっかでくずさないと気がすまないっていうのがあるから」

——ああ、かもしれないね。

「だから、人からカッコイイと思われようとすれば、そういうことも出来るような人間だとも思うんだけど、それは絶対にやりたくないって思ってるからね。たとえば身近なとこで言うと、取材のときって写真撮るときは恰好つけたりするけど、インタビューでちょっとくずしてみたりとか。レコーディングでもバッチリ決まったのは使わずに、どっかずらしたヤツをOKテイクにしたり……、そういうのをやんないと気がすまない」

——でもそれって自分の中の美意識でもあるんでしょ？

「そうそう」

——べつに遠慮してるとかじゃなくて…

「うんっ、遠慮はぜんぜんしてないです。あまのじゃくなんだな、だぶん。(笑)最近よく言われる、オマエはあまのじゃくだって」

——もっと素直になりなさいって？

「やっ、オレからすればそれが素直なんですよ。他から見たらそうは見えないらしいんですけど……たぶん価値感の違いだと思うんですけどね、そういうのって」

——どっちかっていうと、自分が困ってるときにそれをあんまり見せない人でしょ。弱音をはくことって少ないんじゃないの？

「弱音ははきますよ、すぐ。(笑)ああダメだ、これ！　って、すーぐ言っちゃう。ただなんかね、人がしんどい思いしてて、で、自分もやっぱしんどいんだろうけど、そういうときって……なんて言うのかなあ、オレはぜんぜんしんどくないコトしてて悪いねぇとかって言っちゃうんですよ。なんていうの、やさしい気持ちで。でも逆に相手からしてみるとかえってさかなでられてるような感じがするみたいで、けっこうヒンシュクかうんですよ。(笑)やっぱり考え方違うみたい、まわりにいる人と(なんてシリアスなトーンで話してるところへ、DENまたまた登場)なぁ、こんなもんで金取ってるヤツなんかロクな人間じゃぁないよなあ(DEN「いや、オレはむっちゃイイ人やと思う(笑)」)。だって、オレむこう10年間結婚運ないんやでぇ。(笑)前も占ってもらいに行ったことあるんですよ、大阪にいたころ」

——そのときはなんて言われたの？

「けっこう当たっててね、プロとして近々デビューするとかっていうのも言われたし、まぁ、そのころの女カンケイとかもその後ばっちり当たってたしねぇ」

——へぇー。

「そのときの彼女とは結婚はありえないしすぐ別れるだろうって言われて、実際にそうなったんですけどね。でも結婚はそんなに遅くないって言われた。巡り合いはいくらでもあって、自分がしたいとおもったらいつでも出来るような感じで言われて……ぜんぜん違いますよ、コレ。(笑)この一年くらいで内容変わっちゃったのかなあ、オレ……(←しょんぼり)」

——まあ、日々微妙に変わるっていうけどね。ほら、手相とか変わるんでしょ。

「オレ手相がすごい変わってるらしいんですよ。ちょっと手見せて下さい……ね、普通は両手でそんなに違わないでしょ。オレの両手の手相がぜんぜん違うんですよ。なんかね何万人にひとりとか何年にひとりっていう、織田信長とか豊臣秀吉とか天下とった人がこういう感じだったらしくってそれ聞いて、〝オレは天下をとれるぞ〟って自信持っちゃって(笑)」

——あっ、…うわぁ、生命線長いねぇ。

「きてるでしょ、けっこう。長生きしますよー。昔は短かったんだけどねぇ。あと、結婚のどうたらこーたらっていう線もいっぱいありますよ(笑)」

——何回か離婚すんのかしら。(笑)

「かもしんない。そう思うとこの占い、当たってることは当たってるかもしれませんねー。まあ、占いなんて10コ言ったうちのひとつ当たっただけで、信じ込んじゃうしね」

——そうそう。ほら、特に〝夏はのりまくる〟だってさ。

「うん。もしかしたら夏にオフがあるのかなあ(笑)、長期間のっ」

——おいおい。(笑)

「夏はイベントかなぁ。ここでノリまくるのかな？　……じゃ、秋は？」

——秋は辛抱が大事、と。幸運期前のお休みってところじゃないの？　22～24歳が幸運期って出てるからさ。

「そっかそっか。じゃあ、この22～24の間にもしかして結婚したら、コイツはハズレましたねっ。えっへん！」

——あ～あーあ———。(笑)

「詐欺で訴えられますよ。(笑)ところでコレ、いくら取られたんですか？」

——あのねぇ～。(笑)NAOちゃん自身は来年はこうしたいとか、考えてることって何かあるの？

「来年の自分なぁ……休みをとって、ひとりで長旅に出たいです。1週間でいいから国内でも海外でもどっか行きたい。前から行きたかったんですよ。で、まとまった金が……あっ、これがそうなのかなぁ、なんだっけ〝多額の金を手にするが入った分だけ出ていく〟？　これがそうなのかもしんない。旅って好きなんだけど、最近はないでしょう。ツアーとかあるけど、団体でいくのって好きじゃないんですよ。勝手に出来ないし。ひとりだったらバッーと行って、言った先で友だちつくってねぇ」

——あー、そういうの得意そう。

「うん、けっこう平気ですよ。すぐ慣れる方だから。車の免許取るときもね、大分まで合宿にひとりで行ったんですよ。そこで友だちいっぱいつくって、毎日飲んだりして盛り上がった。二日酔いで教習所行って車走らせて。(笑)それでも本校始まって以来といわれる満点を取って、ストレートで卒業しましたよ(笑)」

——(笑)。じゃあね、最後にBY-SEXUALのNAOとしての来年は？

「んー、どうだろう。オレはけっこう落ち着くかもしれないな」

——へえ、しっかり書いとこっと。(笑)

「守りに入るかもね」

——そーお？　つまんないなあ。

「あっ、でもわかんない(笑)」

——でしょ？　わからないでしょう？　じゃあ何、どーすんの？

「どーすんのって(笑)、えー、そんなムキにならなくてもいいじゃないですかぁ」

□　□

すっかりイケイケのNAOちゃんっていうイメージが定着してますが、どーです。ほんとはけっこうこういう一面が、彼のパーソナルの50%以上を占めてるってこと、チラリと感じてもらえたでしょーか。

エキセントリックな真面目さでもって、バイ・セクのリズムをしっかりキープ・オンするNAO。サービス精神旺盛なインタビューゆえ、いつも楽しい部分が大きくフューチャーされてしまう人ですが(そうしてるPAT・I▼PAT・Iも悪どい!?)実際にはその楽しい話しの半分以上は、NAOの好きな音楽のコトやアート、映画の話だったりするわけです。ちなみに興味のある映画は『マイ・ビューティフル・ランドレッド』『御法女のキス』『未来世紀ブラジル』などのカルト・ムービー。NAOファンは冬休みにこのへんのビデオを観るのもいいかもね。もちろん、バイ・セラのライブ・ビデオも、ですけどっ。「まわりと価値観がちょっと違うみたい」をなんだか連呼してるNAO。いいじゃん、ね。それでこそNAO！　だったりするんだから、1991年もあたりかまわず妙にかっこいいヤツでイケイケでしょっ。

タロット・バイオリズム
ジプシー真理亜

【Total】

▶21歳という年齢がトラブル期　これは一時的なもので22～24歳の幸運期前のお休みといったところ

▶心配事が多い年だが、恵まれた環境、特に家庭環境が彼を助けます

▶一年全体を通じて、本人の気力が充実している年

▶特に夏はノリまくる　秋は辛抱が大切

【仕事】

▶'91年をトータルでみて、ほとんど状況に変わりなし

▶'90年から通して、信頼を受けやすいが、ちょっとしたことがきっかけで、大事な人脈をなくす暗示あり

▶本人のやる気と裏腹に、彼を取りまく環境がそのやる気の力へとなります

▶将来の自分について思い悩んだり、今の仕事以外に興味のある仕事ができたり、今の自分自身の立場に疑問を持ったり……春先におおきな迷いが生じて、一年中精神的にパニック状態に陥ります　年上のアドバイザーをさがして下さい

【健康】

▶健康そのものです

【金運】

▶多額の金を手にするが入った分出ていく

【恋愛】

▶もし、今つきあっている人がいれば、その方とは、別れの暗示があります

▶向こう10年間、結婚運はありません

●1990、BY-SEXUALが、デビューしてくれちゃったおかげで、うちらは退屈するのを忘れてたから、1991も“楽しいこと”は彼らに任せておこう。欲をいえば、更に“情け容赦ない”やりたい放題を。で、はやく、SHO→RYÖ→DEN→NAOの4号連続表紙・巻頭特集、頼みますぜ。

●'90年のUP-BEATの"強さ"を、私たちはずっと忘れられないと思います。おそらく、あの強さは、UP-BEATをやること以外の全ての空気を"CUT"してしまった後の"潔さ"から、自然に生まれてきた力だと考えました。

PHOTO by NORIAKI OHSAWA,
HAIR & MAKE by YOSHIO YOKOHARA.

UP BeΛT
CUT UP-BEAT 1990
●たとえば、"CUT"には"要約する"という意味もあります。'90年が自分にとってどんな年だったか、なるべく短く語ってもらいました。
WORDS by YOKO SEKI
YUICHI SHIMADA
It was a great year.
I managed to get a way and recognized problems that I hadn't seen before,
and how I could resolve them with a lot of help from my buddies.
And keep on beating!

TAKEHIKO HIROISHI
This year I've experienced the most Ups and Downs ever with the hand.
But everything has worked out.
I've realized that I have the ability to solve problems far better than I imagined.
I think I'm more relaxed and I feel more freedom than before.
As a result of the circumstances,
I really examined myself closely last year.
HIROSHI MANAGA
We've gone through so many changes in such a short time.
It's hard to believe.

●意外にも"CUT"という単語は、使い方によっては"交流する"という意味もあらわすことができます。UP-BEATの支持者たちは、彼らの'90年を、どうみつめていたのでしょう。ついでに、聞きにくいことも聞いてみました。

AUDIENCES

① ズバリ、UP-BEATに弱点があるとしたら何?

▼誰かが雨男のような気がする▼"天狗"でしょう（笑）▼てれ▼遅刻▼オールナイトフジで女の子たちにこびる▼流行に関係なさすぎる▼弱みをファンに見せてしまったこと▼やせすぎ▼女性メンバーがいない▼古舘伊知郎▼音程のとりづらい曲▼漫才師の素質▼洋楽オタクであること▼広石さんが"さしすせそ"が言えない

② UP-BEATにライブでやってほしくないことを具体的に挙げて下さい。

▼歌舞伎▼広石さんの自分を抱きしめるようなポーズ▼何をやってくれてもかまわない。イヤだと思ったら、私が家に帰ればいいんだし▼1番前列の女の子と話したり、握手したりすると、後ろは哀しい▼終わりのあるLIVE…ずーっとやっててほしいなー▼銀色の月を持つこと

③ メンバーひとりひとりの、どーーーしても許せないトコを無理矢理書いて下さい。

●広石▼料理がうまいのを自慢する▼コンサート中に時計を気にすること!▼エアロスミスをいい席で見た!▼シャツをズボンにしまって。ランニング着ないで!▼ぼー頭が武田鉄也だよ▼側転をうまくやって下さい▼歌詩の中の変な女性観▼くさい大賞をラジオで始めたこと▼松田聖子に曲をかいたこと

●岩永▼容赦ないところ▼ギターを奏いてる時、腰をしずめたまま歩かないで下さい▼男ばっかりLIVE中見ないでっ▼シルベスタースタローンに似てるトコ▼火野正平なところ▼ボケすぎ?▼あまりにも広すぎるおでこ▼ころぶこと

●嶋田▼酒も飲まずにキレないで下さい▼お金をおとしたこと▼15年以上広石さんの友達をしてしまっているところ▼広石くんに"ボール牧"と言われて、黙ってるなんてだめ!!▼ヒゲをそりおとしてしまった嶋田さん▼スティックを投げてくれない▼ずばり"鼻"がいやです▼サングラスをかけてしまうこと

④ 世の中で、いちばんUP-BEATに似合ってない場所ってドコでしょう…?

▼オーストラリアでコアラを抱く▼プール▼常盤ハワイアンセンター▼朝のラッシュアワーの満員電車の中▼競馬場▼スキー場▼国会▼たたみの上▼ディズニーランド▼バーゲン会場▼デパート食料品売場▼温泉▼動物園▼カラオケ▼天国▼この世かも▼マクドナルド▼原宿ホコ天▼自衛隊▼銭湯▼ぼんおどり会場▼結婚式場▼横浜ベイブリッヂ▼田んぼ▼立ち喰いソバ屋

⑤ UP-BEATに絶対着て欲しくない服ってどんなの?

▼みずたま▼半ズボン▼パンタロン▼まわし▼えぷろん▼ビジネススーツ▼ふんどし一丁▼デビュー当時、着てた服▼つなぎ▼ぬいぐるみ▼ジャージ▼ピンクハウスの服▼ゆかた▼制服（ガクラン）▼オーバーオール▼色ちがいのおそろい

⑥ もし、1回だけ、UP-BEATがあなたのために何でもしてくれると言ったら、あなたは何をして欲しいですか?

▼コンサートの一番前の席のチケットを下さい▼女王様とお呼びっ、おーほっほっほっほ▼チャリンコの2人乗り（青春感じるでしょ?）▼頭なでさせてほしい▼モンキーズの「デイドリーム・ビリーバー」を演って下さい▼岩永さんに得意料理の"目玉つぶし焼き"を作ってもらって、一緒に食べたい▼岩永さんには三つ編みしてもらって、嶋田さんにはさらしを腹に巻いて着物を着てもらって、広石さんには浴衣を着てもらって、缶ビール片手に（嶋田さんは缶ジュース!?）4人で花火を見に行きたい▼1日、お兄さんになってほしい▼凡ちゃんに、ギターを教えてもらいたい▼皆さんと「音楽とは、なんぞや?」をテーマに朝まで話す▼一緒にセッションしましょう▼心臓の音を聴かせてほしい▼みんなで一緒にはとバスツアーに行ってみたい。2階建てバスに乗りたい▼UP-BEATの演奏で歌ってみたい▼私の書いた詩に曲をつけてほしい

⑦ もし、UP-BEATの3人が、音楽をやっていなかったとしたら、どんな職業が向いていたと思いますか?

●広石▼芸人▼青年実業家▼ダフ屋▼バラエティ番組の司会▼お花、お茶の先生▼名も知れぬ詩人▼D・Jとか▼食堂をついでた▼ザ・ドリフターズのメンバー▼黒服（笑）▼ヒモ▼弁護士▼貸しスタジオの受付の人▼自動車屋さん▼ヤリ手の商社マン▼ディレクター、プロデューサー▼平社員（笑）▼ミュージシャンをいじめるライターさん▼パチプロ▼サーカスの人気者ピエロ▼国会議員▼デビットボウイ▼ヘロインの売人▼マンションの管理人▼モデル▼サンドイッチ・マン▼パントマイムやってる人▼登山家

●岩永▼植木職人▼花屋さん▼レコード店の店長▼路上のアクセサリー売り▼羊飼い▼会社の課長▼ライブハウスのオーナー▼医者▼ツバメ▼色っぽい美容師さん▼貴族のおぼっちゃま▼不動産屋▼絵描き▼たこやき屋さん▼錬金術師▼セールスマン▼キャッチセールスマン▼占い師▼漁師▼牧場主▼田村正和▼吟遊詩人▼屋台のおやじ▼ビデオ男優▼さまよえるスナフキン▼闘牛士▼凡人▼F1レーサー▼空間プロデューサー▼Mr.レディー▼口下手なのに、売上げの高いセールスマン▼パン職人▼クレープ売り▼浪人生▼スーパーの店員▼ケーキ屋さん▼楽器屋のお兄さん▼呉服屋の若ダンナ▼英語カセットの訪問販売員▼工芸家、つぼとか茶わんとか山にこもってつくる人▼消防士▼結婚サギ師

●嶋田▼セザールのくま▼ほふさん▼大工の頭領▼事務員▼声優▼警察官▼ふつうの人かな?▼会社の社長▼番頭▼パチ▼パチの編集部員▼フランス料理とかのシェフ▼宝くじの売場の人▼すし屋▼ハワイのフラダンスのタイコたたき▼私のばばりん▼消防士▼俳優▼ブティック店長▼ニュースキャスター▼パーサー▼バンドのマネージャー▼高級ホテルのフロントマン▼質屋▼保険会社のサラリーマン▼先生▼古本屋でよくハタキかけてるおじさん

⑧ もし、UP-BEATからということで、1000円以内のクリスマスプレゼントをもらうとしたら、何がいいですか?

▼生写真▼セブンイレブンのプリペイドカード（サイン入り）▼30円を出して、くつ下3足もらう▼昔のデモテープとか▼バラ1本▼マクドナルドでおごってもらって、公園で4人でデート▼雑草でもいいっ!▼ハーモニカ▼サイン付の日記帳▼部屋の合カギ▼髪の毛▼目覚まし時計▼1000円でライブをしてほしい▼オリジナルの曲▼パチパチスタイル1冊!!▼広石さん、珠玉のギャグ集▼ライブのはじめにかかる曲のオルゴール▼千円分の電話をしたい▼広石さんが、コンサートのエンディングのときに吹いているラッパ▼一枚一枚サインを直筆でかいてくれた1円玉千枚▼120分テープにメンバーの好きな曲を入れてほしい▼宝石箱っていうアイス▼片っぽでいいからピアス▼おもちゃの指輪▼ぼんのマフラー▼サボテン▼1000円を給料として、UP-BEATの1日マネージャーの任務をあたえてほしい▼一緒に一杯飲む▼下着（?）▼ミドリガメがほしい。3匹。んで、凡、広石、しまちゃんと名付けかわいがる▼メンバーのクローン人間

⑨ あなたが落ち込んでるときUP-BEATにどんな風になぐさめてほしい?

▼ケンカしてたい▼旗を振ってほしい（白）▼マイムマイムを一緒に踊ってもらいたい▼たつまきのように、激しいやつ▼ばばんば、ばんばんばん▼耳元で「うな丼」とささやいてほしい▼広石さんのつまらないジョーク▼カエルのぬいぐるみを着て人生についてまじめな話をしてほしい▼けっとば

▼嶋田さんがヒゲを刈りおとしてしまったこと

UP BeAT CUT UP-BEAT

▼MCが時々谷村新司になってるよ

してもらう▼ぽんぽんと肩をたたいて〝大丈夫だよ〟と言ってほしい▼ブラインドエイジをうたってほしい▼こたつに入って、なべ▼どこからともなく「Dance to the Rain」を歌いながら現れてほしい▼メシ食いに行くぞ!▼「だいじょーぶ、だいじょーぶ」と歌ってもらいたい▼べロべロバー▼景色の良いところで、ボッーととなりに座っててくれるだけで、OK!▼下手に相談でもしようものなら、落ち込んでる以上にグサッとくるようなことを広石くんは言うだろうしな…ムズかしい

⑩ UP-BEATに'91年、望むことは?▼後ろをふり向かず、上へ上へと太陽そのものとなってほしいです▼24時間ライブ▼天下をとってほしい▼元気に不健康▼土、日にライブいっぱいやって下さい▼日本一!▼やりたいようにやって下さい▼事件をおこして下さい▼もっと普通でいてほしい。

⑪ '90年、あなたにとっていちばん印象に残ったUP-BEATの〝姿〟を教えて下さい▼R&N INT'Lでマイクさかさで歌う姿▼強い▼空!▼5〜7月のどぎつい厚化粧▼9/30の野音で広石さんがバケツの水を2杯かぶった姿▼花柄の服たち▼ライブの時、嶋田さんがしゃべったこと

⑫ 最後に、単行本『Weeds&Flowers』を読んだ方がいたら、感想をひとこと!▼広石のとーちゃんに怒られたい▼広石さんの口元が梅ぼしの種だった▼広石くん、岩永さん、嶋田さん、それぞれみんな違う人間なのに、よくUP-BEATをつづけていられるなって、しみじみ思った▼嶋田さんのページはショックだった。いろんなこと知りたいと思うけど、知らない方がよかったって思うこともあると知った▼凡ちゃんのほっぺたにkissしてる女の子がうらやましい▼黙っていたら、このままファンに知られずにすんだことを、あえて教えてくれたことについて、深く感動しました▼彼らの10代の頃がうらやましい▼私が越えられない困難、悩み、そんなもの全てがくだらなく思えました▼勇気のある人達だなーって思った▼もったいなくて少しづつ読んでます

Special thanks to Audiences,
SAITAMA & CHIBA.!

CUT

UP-BEAT

●そして、ミュージシャンだったら忘れてはならない、もうひとつの"CUT"。昔、CDじゃない時代、レコーディングとは吹き込んだ音を"ミゾ"として"CUT"することだった。人々がレコードのミゾのことなんて思い出さなくなっても、UP-BEATだけは、"CUT"し続けてるに違いない。

●ザ・真心ブラザーズにとって'90年は、まさに飛翔の年とよべるだろう。「どかーん」の大ヒット、ライブツアー、イベント、TV、ラジオ、CFなど超人気者の2人は、とどまることを知らない。'90年を振り返り'91年の抱負(野望?)を語ってくれました。

撮影●桃太郎　文●根田美聡

'89年9月、シングル「うみ」でデビューしたTHE真心ブラザーズ。とゆうわけでプロになってからの一年間を振り返っていただきました。

〈生活編〉

倉持「学生だったけど、一限の授業なんて取らなかったから朝遅いじゃん。だから10時ぐらいに起きて、サンチェーンかつファミリーマートに行って、マンガや2ケパックのヨーグルトを買うっていう基本的なところは変わってませんね。人の目も別に気にしないし」

桜井「僕は、自分の時間が減りました」

倉持「減ったよなあ。俺も忙しくて」

桜井「(苦笑)」

倉持「たまには一人の時間が欲しいっすよ。桜井ぐらいは欲しいな」

桜井「ハハハハ。(乾いた爆笑)毎日バンドやってます(マジ)。なんかしんないけど毎日やってます。あらかじめ覚悟はしといたけど、やっぱスゲエや、(笑)いざ現実になると。

学業はどっかに行っちゃったんですよ。高田馬場降りると、懐かしい〜〜って思うもん。マジで。これでも学校に行こうと努力してるんだけどね、うん。でも、両立はなかなか難しいですよ、やっぱ(しみじみ)」

——急に忙しくなったのはいつ頃から?

桜井「大西さん(現マネージャー)が現れてから。まあ、今までがいい加減すぎたからね、ちゃんとビシッとやると、ビシッとなっちゃうもんですね」

——昔のダラダラさが懐かしくなる時は?

桜井「今でもダラダラやってるんだけど、ダラダラが2つも重なるとダラダラじゃなくなるっていう。(笑)そういうことです。

あと、バンドやってると酒が飲みたくなるんですよ。だから、毎日バンドやってると毎日酒飲んじゃう。酒の量はグッと増えましたね」

倉持「俺も増えたよ。俺は、実は甘い酒が好きだってことに気付いてね」

桜井「アプリコット・フィズとかね」

倉持「そう。ビールとか日本酒よりも、あいうジュースっぽいのが好きなんだよ」

桜井「だからって5杯も6杯も飲むのって信じられないよなあ」

倉持「いっちゃうんだよ、俺。どんどん」

桜井「…一発やろうと思って甘い酒飲ませてるのに、なかなか潰れないイヤな女って感じだよな」

倉持「そうそう。そんな感じ」

——生活の中で音楽の占める割合が増えてきたと思いますか。

倉持「そうでもないですね」

桜井「人前で演る機会が増えたっていうだけで。今までだって、学校行って部室でギターつま弾いてたりしたから」

倉持「あんまり変わらないよ、音楽以外のことにも興味あるしさ、相変わらず。100%音楽が占めてるってことは、ないなあ」

〈それぞれの重大ニュース〉

桜井「去年の膀胱炎を越えるようなものはなかったですね、今年は」

倉持「あれはインパクトあったもんなあ。俺はねえ、舌が肥えた」

桜井「それあるわ」

倉持「俺はこんなに贅沢じゃなかった。もっと質素だった。出されたものは結構食った。それが今や、ハラが減ってても残す時がある」

桜井「家でメシ作るんだけど、マズイのよこれが。がんばって作ってもマズイ。以前なら食えたのに、今はツライもんなあ」

倉持「あとはねえ…桜井の髪とか」

桜井「あっ、そっか。本人はそんなに重大

毎日バンドやってると、酒の量がグッと増えますね。

俺は舌が肥えた。俺はこんなに贅沢じゃなかった。

なことじゃないんだけど」
〈これまでの作品を振り返る〉
──1stシングル「うみ」
桜井「一番いい（断言）」
倉持「いいねえ。ジャケットもいいし」
桜井「わあーっ（難）」桜井君に注目。
倉持「TD合わせて2日で録ったんだっけ」
桜井「ムチャクチャだよなあ」
倉持「それで3曲だもん、スゴイよ。でもいつか桜井を説得して、「ハナゲ」をライブでやりたいと思ってます」
桜井「…一人でやって下さい」
──2ndシングル「うまくは言えないけど」
倉持「ささやくように歌ってるやつですね」
桜井「俺達がスタジオに入ってる時、倉持さん飲んでるんだもん」
倉持「ZESHでライブやって、その後飲んでたら電話がきて、ボーカル取り直しだっていわれたんだよね」
桜井「まっ赤な顔してスタジオきてさ、まっ赤な顔して歌ってるの」
倉持「でも、あの歌い方はね、いわくつきっつーか。いろいろあったんですよ。で、普通に歌ったバージョンを『ねじれの位置』に入れて。B面は「ミュージシャン〜テレビジョン」が入ってるんだけど、あれはちょっともったいなかったね」
桜井「あれは打ち込みフォークでした」
倉持「ハウスフォーク（笑）」
桜井「時代を先取りしてましたね（笑）」
──1stアルバム『ねじれの位置』
倉持「売れ方がシブいんですよ、コレ」
桜井「ガンと上がるんじゃなくて、チョッと上がって、そのまま横にスーッと」
倉持「まだ売れてるんだって」
桜井「よく飛ぶ紙飛行機みたいな感じで」
倉持「一ヶ月ぐらい廃盤にして、一ヶ月後に復刻盤として出したいね」
桜井「再発運動とか起こしちゃって」
──3rdシングル「オバタリアンのテーマ」
桜井「本当は「ふわふわ人」がメインになってるはずだったのに、テレビの関係上あなってしまったんです」
倉持「初めてテーマに基づいて作る、ということをしたんですけど、途中で何度もくじけそうになりました」
桜井「オヤジの注文があまりにも多くて。でも「ふわふわ人」があまり認められていないっていうのが遺憾ですね。あの力作が、オバタリアンの影に隠れてしまったせいで」
倉持「あのジャケットって、『ねじれの位置』と一緒なんだよ（笑）。超やっつけ（笑）。俺あの時点で、シングルっていい加減でいいんだなって思った」
桜井「場つなぎなんだって思った」
倉持「一番苦労して作ったのに」
桜井「あれ録った時、試験中だったんだよなあ。ギャラより単位をくれっつーか（怒）
思い出しただけでもハラが立ちます。でも作品としては結構好きなんだけど、なごむじゃん。ああいう肩に力の入らない歌もいいですよ、うん」
──4thシングル「どかーん」
倉持・桜井「バカ売れ」
桜井「なんで「ふわふわ人」がウケなくて「どかーん」がウケるんだろう（不満）
〈デビュー2年後にかける意気込み〉
桜井「解散しないようにがんばります」
倉持「もっと端歩きなさいよ（By美川憲一）の精神でがんばりたいと思います」
桜井「深いなあ」
倉持「深いよ、悪いけど」

アンコールが好きなんですよ。アンコールやらないと気がすまない……。

〈ライブ編〉

――ライブのスタイルも変わったよね、デビュー当時から比べると。

倉持「デビューの時は、2人だったもんね。しかもエレキで」

桜井「ハハハハ。（爆笑）あれ、もう一回やりたいなあ」

――公式なライブは、'89年9月26日の代々木チョコレートシティですね。（その前に○○○の前座で日比谷野音、1stシングル「うみ」にちなんだイベント〝真心とうみを見に行こう〟船上パーティーでのライブ等が、こっそりある）

倉持「あのライブって西岡さん（初代マネージャー）が、とにかく一回やろうっていうんで無理矢理ブッキングしたんだよね」

桜井「そうそう」

倉持「〝びっくりしたな、もう〟の対バンで」

桜井「もうひとつバンドあったよ。たけのうちカルテット」

倉持「そっか。3バンドでやったんだ」

桜井「で、一回やって、やっぱフォーク・ギターにしようってことになって（笑）」

倉持「その頃って、一部と二部に分けてたよね。〝二人コーナー〟とかありましたね」

――フォーク・コーナーやエレキ・コーナーとかね。

倉持・桜井「あったあった」

倉持「あと、座ってやるコーナーとか。立ってる客を座らせたこともあったな（笑）」

桜井「あれ、結構すごかったよね（笑）」

倉持「後ろの人が見えないから座れ、とか。エッグマン（とゆうライブハウス）でやったんだっけ」

桜井「そう。で、あの時意味不明のドラムとベースを入れたんだよ。結局合わなくてそれっきりだったけど」

倉持「八っつあんとヒバさんと一緒にやるようになったのって今年だっけ」

桜井「そうだ」

倉持「この4人は続いてますね」

桜井「ちゃんと音楽やってくれる人がいて嬉しいです。安心してギター回せます。この人が歌ってる最中に、ずっと回してたんだ、この前のライブで。（笑）失敗してギター壊しちゃったけど（笑）」

倉持「桜井かピート・タウンジュントかっていうぐらいスゴイですよ」

――印象に残ってるライブを教えて下さい。

倉持「真心塾とか」

桜井「つかしんのテントでのライブ。3曲やるためだけに大阪行ったたっていうのが実に印象深かった。あとは、カステラ乱入」

倉持「あー、あったあった」

桜井「大阪バナナホールはね、客の盛り上がり方がよかった。あそこって1ドリンク1フード強制的につけられるから、みんなメシ食いながら見てるわけ。ディナーショウのように。で、ライブが進んでいくにしたがって、食べ終わった客が一人二人と運動し始めるっていう。（笑）最後には4回もアンコールやっちゃったもん、このお兄さん。（苦笑）あれは内容濃かったな」

倉持「この一年で気付いたんですけど、私アンコールが好きなんですよ。アンコールやらないと気がすまないっちゅうか」

桜井「私はですね、本編で体力をすべて出し切ってしまうタイプなんで、アンコールでこの人についていくのがやっとなんです」

倉持「アンコールの声がかかってるのに、えー、まだやるのォ、みたいな感じで出ていくのが好きなんですよ」

桜井「そういう気持ちもわからなくないけど、体力的に辛いっすよ」

倉持「俺は来年、アンコールだけのライブとかやりたいなあ」

――どんなライブだよ。（笑）

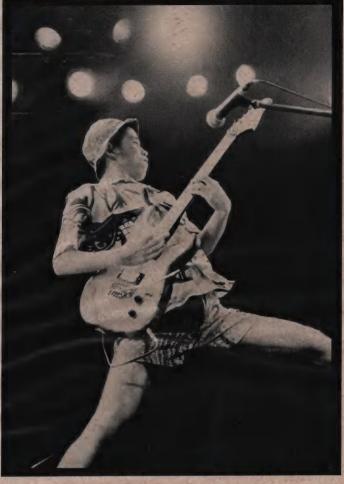
倉持「2曲ぐらいやって、すぐぶっ込むの。で、10回ぐらい出てきてやるの」

桜井「（MC調に）真心ブラザーズです！　ラスト2曲トバしていくぜっ!!ってステージ出てきたとたんにいうんでしょ（笑）」

倉持「そうそう。（嬉）やりたいなあ」

デビューしてわずか1年弱の間に、無謀なライブをついうっかり行なってきた彼らである。アンコールだけのライブをやっても不思議ではナイ。未知数の可能性が秘められた真心のライブの行く末は一体……。

THE 真心ブラザーズ

▶あらためて PROFILE

●フジテレビ系テレビ番組「パラダイスGOGO」の〝勝ち抜きフォーク合戦〟でグランプリを獲得。新しいスタイルのフォークデュオとして'89年9月1日シングル「うみ／恋する二人の浮き沈み」でデビュー。'90年に2枚のアルバム『ねじれの位置』と『勝訴』（ライフサイズ）をリリース。シングル「どかーん」が大ヒット。「オールナイトフジ」やJR東日本CFに出演。

ザ・フリッパーズ・ギター

なぜ『カメラ・トーク』は1,000,000枚売れなかったか？

◉90年の日本のロック・ポップスにおけるベスト・アルバムは彼らの2nd（セカンド）アルバム『CAMERA TALK』である。(と独断ながら私は思う) そのことと比較すれば、彼らのアルバムの売り上げ、知名度、パチパチでの人気は"いまいち"なのではなかろうか。そこら辺を分析しながら、彼らとロックシーンの90年を語ってもらった。

文●平山雄一　写真●桃太郎

なぜ『カメラ・トーク』は1,000,000枚売れなかったか？

『CAMERA TALK』の日本のロックの歴史に対する意味と意義。

1990年の初め頃、フリッパーズ・ギターは日本語の詞でアルバムを作ることをたくらんでいた。普通に考えればあまりに普通なこのアイデアを手に入れて、例の二人組、小山田圭吾と小沢健二は普通以上の張り切り顔で表参道の交差点を歩いていた。

日本のバンドが日本語で歌う。この一見あたりまえなことにも歴史がある。20年も前にさかのぼる頃、外国のロックに憧れてスタートした第一世代には日本語に対する気恥ずかしさがあった。10年前のサザンやザ・モッズたち第二世代もそのしっぽをひきずっていた。が、80年代に入ってからは日本語で歌うのは当然のことになった。それでもKUWATA BANDが全部英語のアルバムを出したときはああでもないこうでもないと取り沙汰されたものだった。

その80年代の終わりになってフリッパーズ・ギターがデビューしたとき、音楽ファンはただカッコいいものとして受けとめた。雑誌のインタビュアーが英語についてどうのこうのと聞いたのは、他に質問を思いつかなかったからである。それより小山田&小沢の胸にふつふつと湧き上がったのは、当然のように日本語で歌うバンド群の詞があまりに工夫のないものばっかりじゃねえかよという疑問だった。英語にコンプレックスはない。日本語でやるんだったら先輩はもちろん、今のバンド群もぶっとばしてやるという意気込みで、あまりに普通なアイデアはフリッパーズにとって非常にエキサイティングなものとなったのだった。

さて、90年、『カメラ・トーク』は完成した。アルバムのあちこちに詞やサウンドの冒険が散りばめられた傑作である。先輩アーティストの中には、「しまった。先を越されたか」と思っている人もいるだろう。バンド群の中にはこのアルバムにこめられた冒険の意味ですらわからない者も多いだろう。しかし『カメラ・トーク』の意義は歴史が必ず証明する。

フリッパーズのシーンに対する把握は的確だ。しかしそれは彼らのアーティスト性とは関係ない。が、その把握を通して自分たちの位置が固定化してしまうことを拒絶する。彼らは音楽そのものでアピールすることだけがフェアな方法だと信じている。だから音楽以外の発言や行動で人の気を引こうとは思っていない。バンドが人の魂のおもしろさで人気を得ているとしたら、フリ

ザ・フリッパーズ・ギター

フリッパーズ・ギターは性格は悪いけど、音楽はいいです。

ッパーズ・ギターは音楽そのものの良さでそれを得ようとする。

が、しかし、『カメラ・トーク』は100万枚売れなかった。

小山田　そのうち100万枚売れますよ。いつまでに100万枚っていう期限はないんでしょ。

小沢　トータルでね。

——あの名作が100万枚いかないっていう危機感はないんですか？

小山田　危機感ていうより虚無感を得たな。

小沢　そう。最近はニヒリズムに浸りながら生きてます。生きてるうちに100万枚、まあ廃盤になっちゃったら終わりですけど。

小山田　何が悪かったんだろ。

小沢　TVに出なかったのがまずかったかね、やっぱり。

小山田　レコード会社の宣伝戦略に責任なすりつけるっていうのはどうですか。

——なんでTVに出なかったんですか？

小沢　出してくれなかったんですよ。

小山田　ぼくらいつだって出たいですよ。

小沢　金の鳩賞だって狙ってたのに。今年2度目ということで。（笑）

小山田　ユーミンとかどうやってるんだろうなぁ。

小沢　やっぱタイトルを『J（S）W、BUCK-TICK、UNICORN』てしとけばよかったのかな。間違って買う人いたかもしれない。

——他のバンドのことが気になりますか？

小沢　別に。全然。チクショーとか思ってない。眼中にないです。

小山田　そういうことって話すとおもしろいじゃないですか。

小沢　んで、おもしろいからって話しちゃうと、そういうのが活字になってしまって悪循環ですね。

小山田　でもね、フリッパーズ・ギターは性格は悪いけど、音楽はいいです。

——100万枚売れたら他のバンドのこと言わなくなりますか？

小沢　そういうことは全然関係ないです。売れたら人が丸くなるとか、そういう話じゃなくて。（笑）ま、売れてテングになる。

小山田　うん。売れる前からテングだから、その点は自信がある。

——ではいってみましょう。90年ロック・シーン・スペシャル・トドメトーク・学校バージョン。ユニコーンは？

なぜ『カメラ・トーク』は1,000,000枚売れなかったか

ぼくらは、奥田民生とか高野クンとか見て「チクショー」っていじけてる。(笑)

小沢　奥田民生はサッカー部のキャプテンで学内の人気者。人に頼まれると断れないって感じで、楽器のうまい奴が集まってできたバンド。キーボードの人は音楽室でいつも練習してて、オフコースとかコピーしてて。あとはヘビメタのギターの友達とか。

小山田　学園祭でトリなんだよね。んで、キャンディーズとフィンガー5やりゃあ、盛り上がるでしょ。あの、このユニコーンの把握には何の悪意もないんですけどね。

——ソフトバレエは?

小山田　ニューウェイブの先輩って感じ。フールズメイトっていうマニアックな音楽雑誌の読者。

小沢　だけどいつも恐い顔して階段下のロック系の部屋にいて、最初はムチャクチャ取っつきにくいの。でもレコードきかせてもらいに行ったことあったりして。

小山田　で、ぼくらのレコード棚のはしっこにあるのと向こうのはしっこにあるのが重なってたりして。

——高野寛は?

小山田　高野クンはソフトバレエの人ともわりと仲良かったりする。

小沢　でも剣道三段です。

小山田　でもこの前スポーツ苦手って言ってたよ。

小沢　そう。体弱いんだよ。生徒会もやってたりして。で、文化祭の一日目のトリ。「ベステン・ダンク」とかって曲をやってたりして。それじゃあ、本当にある曲だ。(笑)

——スチャダラ・パーは?

小山田　ぼくらと同級生で、奥田民生とか高野クンとか見て「チクショー」とか言っていじけてる。(笑)

小沢　だけど住んでるところが近いから、ぼく、一緒に帰ったりするの。

——すかんちは?

小沢　伝説の超先輩。

小山田　絶対、伝説になってるよな。

——スカパラは?

小山田　スカパラはすごいよね。アウトサイダーだよね。

小沢　スカパラと同じ学校にいるっていうことが想像がつかない。きっと、仲のいい同級生かなんかがスカパラに入ってる。

——プリンセスプリンセスは?

小沢　俺らとかにブスとか言われてる。

小山田　スポーツやってる。

ザ・フリッパーズ ギター

90年ロック・シーンにおける勝手な分析と批評（学校編）

小沢　あっ、バスケ部なんだ。女バスのバンドなの。で、初日のトリの高野クンの前に出たりして。
——コブラは？
小山田　コブラは学校にいないでしょ。
小沢　駅前にたまってる悪い人。
——リンドバーグは？
小山田　アニメが好きなんじゃないの。
小沢　漫研の中でかわいいとか言われてる女の子が漫研の男集めて組んだバンド。
——たまは？
小沢　漫研と仲良くて、劇やってて。
小山田　で、けっこう話しかけてきたりするんだけど。でもイヤなの。
——筋肉少女帯は？
小沢　おもしろい先輩。
小山田　ユニコーンが明だとすると筋少は暗。で、独自のクラブやってる。超常現象研究会とか。
小沢　でも部員は自分ひとりで、部長なの。
小山田　でさ、こんな学校だったら俺らとスチャダラはいじめられる対象だな。
小沢　かわいそう。
——でもたくさんバンドありますね。
小山田　たぶん高校生の頃なんて、何だっていいんですよ。何だって聞いちゃう。
小沢　そうだよね、高校の頃なんか食費に二千円使うのが最大の問題だったからな。
小山田　だから、何だっていいんだから、フリッパーズでもいいんですよ。たぶんフリッパーズでもJ（S）Wでもどっちでもいいんですよ。でも、フリッパーズがなかったらJ（S）Wだけじゃないですか。
小沢　普通にいろいろあるほうがいいじゃないですか。それがカッコよくたって誰も文句言わない。
小山田　ぼくらって親しみやすいですよ。
小沢　隣のおにいさんというか。（笑）
小山田　隣の変人。（笑）
——もし100万枚売れたら何をしますか？
小山田　ギターの形したプールのついた家を多摩川べりに建てて、変人として近所には知られてるっていう。
小沢　じゃ、俺は庭に〝カリブの海賊〟でも作って、冷凍冬眠でもしますかね。
——90年でいちばん良かったことは？
小山田　『カメラ・トーク』を作れたこと。
小沢　そうですね。

※この取材後、『カメラ・トーク』は、レコード大賞最優秀新人アルバム賞を受賞した。

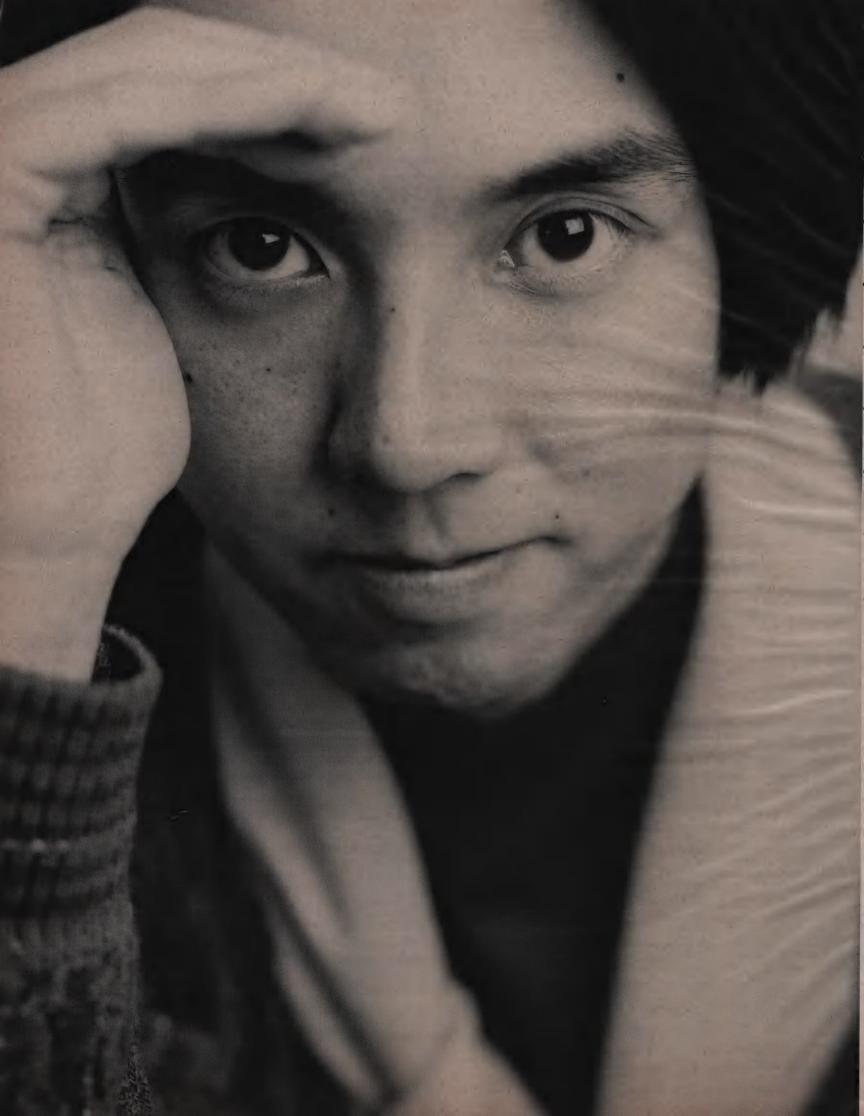
高野寛

HIT THE 90'S

●90年、音楽シーンにおいて高野寛の存在は誰もが一目おくことになった。二つのシングルのヒット、完成度の高いアルバムのリリース、積極的なライブ活動……。一年を通して振り返る彼にとっての'90。

PHOTO●TAKEO OGISO COPY●KYOKO SANO STYLING●YUKIYO OHNO

深く理解してくれる人が増えたのは良いことかな。

◆「虹の都へ」と「CUE」

90年の高野寛にとって、〃事件〃といえる出来事は、やっぱ「虹の都へ」のシングル・ヒット。89年秋から〃ミズノ〃のCM曲としてオン・エアされていたので、2月7日の発売と同時にバッと火がついたのも納得できる事態ではあったけれど。

「自分の頭の中では一段落したところで出たんで、かえって現象には冷静になってしまって」と、本人はあくまでもクール。

「そういえば90年の初仕事は〃MZA〃で行われたし〃ネオ・アコ〃のイベントだったなあ。僕の出番がちょうど新年一発目でしたね。ウ〜ン、〃ネオ・アコ〃ねぇ（笑）」

相次ぐテレビ出演に、十二分の異和感を覚えながらもシングルは大ヒット、人気はうなぎ昇り……。よく言われる〃ブレイク〃を結果としては果たしたことになる。

「1月にはトッド・ラングレンのステージにレヒッシュと一緒に飛び入りしてますね。あれはワタシの汚点ですね」って、そんなことなかったと思うけどなあ。ウッドストックでのレコーディング以来、3ヶ月ぶりの師匠との再会。その師匠をプロデューサーに作られた3枚目のアルバム「CUE」も、3月初旬に発売。まさに、タイトルが意味するとうり、〃大きなきっかけ〃になったのは周知の事実。

「アルバムを作った当初は東芝社内では、〃ぢょっとマニアックすぎるのでは?〃という危惧の声が上ったらしいですよ。でも、自分ではかなり自由に作れたアルバムだったし、それが一番認められたんで、あぁ楽になったなとは思った。前2作はわかりやすくしなくちゃという抑制が働いていたんだけど、『CUE』はそれがなかったしね」

わかりやすい音楽＝良い音楽ではなく、「何回も聴けることが大事」という彼にとって、「CUE」は説明に手こずったアルバムでもあった。

「もう少していねいに作りたかったとか、中盤ややダブつくなとか、今となっては欠点が見えちゃうんですけどね」

〃過去にピークは求めない〃という彼らしく、既に頭の中は次のアルバムのことで一杯。自画自賛するタイプではないから自分の音楽をある程度客観視できるのだろう。

前回の〃反省〃及び〃力不足〃を踏まえて、来年早々、再びトッドの元へ積雪ン10cmの真冬のウッドストックで、さて、どんなアルバムをこしらえてくるのやら。

◆ストーンズの来日

90年のスケジュール帳を見ながら、ハタッと思い出したのが〃R・ストーンズの東京ドーム公演〃。「あれは衝撃でした」、というのは、「その日、ラジオの公開録音があって、自分が演奏した後のストーンズを観たというカルチュアー・ショックにしばらく立ち直れませんでしたね」

いわゆる〃ストーンズ最高！〃タイプのヒトではないにもかかわらず、である。

「自分は今まで頭使って小難しいことをやってきたのに、ストーンズを観に行ったら、なーんてことない曲を簡単に演ってるわけじゃないですか？　これはちょっと考え方を改めなきゃなあと。曲作りに頭を使い過ぎてたなあとつくづく感じた」

〃ベスト盤1枚しか持ってないのにアリーナで観た〃ことを申し分けなさそうに語るあたり、筋の通った〃ロック・ファン〃らしいじゃないか!?

◆ヒットの余波

「久しぶりに会った友達に、〃最近、高野の曲をカラオケでうたってるんだよー〃という気さくな挨拶されたり」「友達が急に増え始めたり」という〃現象〃も起きた。「ファンレターもドッと増えましたね。やっぱり、テレビの影響力って凄い」

デビュー当初は、ファンレターの返事も全部書いていたというが、さすがに手に負える数ではなくなってきた。

「音楽を知る情報がテレビにかなり支配されているんだなと、実感として知って複雑な思いもしましたね。あと、ヒット曲ってCMで流れる何小節かがヒットしているんですよね」

メディアに関してはかなりシビアな意見もあるが、「ヒットしたことで、影口にならなくなった」とも。

◆ライブ

初のホール・ツアーが4日からスタートした。といっても、一部はライブハウス規模。「だから、ほとんどが満員で嬉しかったですね。今のツアーも100％満杯じゃないんで、現象面だけで見ると確立されたような感があるけど、実際はまだまだ……。なんで、かえってツアーは良いですね。やり甲斐があります」

ライブはいまいち不得手、という印象があったが、忙しくなるにつれミュージシャンとしての自分に立ち戻れるライブが楽しくなってきた。

「言葉でしゃべることより、音を出す方が自分にとっては全然楽だってわかったしね。肉体労働で健康になれるし、抑圧も溜まらないの〃発散〃というほど、良いですね。がツアーかな」

デビュー前のライブ経験が計50本未満だったことを思えば、今年だけでその数を上廻ったのだから鍛えられて当然。

「不必要な動きを極力減らして、ちゃんとした演奏を聞かせることに重きを置くようになりましたね」

夏のイベント、日比谷野音で行われた、〃ロックが生れた日〃への参加と、ライブでの外交にも力を注いだ。（かに見えた？）

「どこでも〃浮いた存在〃だなあとつくづく感じましたけどね」

独特の〃照れ〃の一種だと受けとめたい。

◆91年に向けて

7月末から8月頭にかけては、トッドを招いて「ベステン・ダンク」のレコーディング。曲作りの難行や、いろんな意味でのジレンマが反映されたシングルになったが、曲調のポップさやCMの影響、彼自身の勢いも相まって、「虹の都へ」に次ぐヒットを現在も記録中。

「忙しくしているつもりでも、久々のシングルですね、なんて言われたり。〃この声は小さすぎて……〃って気になりましたね」

そういえば、〃笑っていいとも〃にも出演を果たし、ついに〃一般有名人〃への仲間入りか？「歯医者で見ましたよっていわれたくらいで、リアクションはそんなに」と、スター扱いはどうにも慣れないらしい。

「個人的には引っ越しが大きかった。ようやくスタジオらしい部屋になったんです。で、曲作りがはかどるはずなんですけど」

通算16回目（！）の引越しになるが、「やっと僕も自分の稼いだ金でちゃんと生活できるようになったなあ」と、自立の感慨も。

ヒットに伴い〃一人歩きするイメージ〃にとまどいはしたものの、「深く理解してくれる人が増えたのは良いことかな？」

好調、好評に90年は過ぎた。けれど、そここにとどまってはいられない。

「91年の目標とする人が決まったんです。男らしくなるでしょう、きっと（笑）」

HIT THE 90'S

●表紙・巻頭20ページ特集&ジャンボ・ポスター

2 COBRA 初の大特集!!

●特集

BUCK-TICK
UNICORN
J(S)W
LÄ-PPISCH
X/ZIGGY
THE BOOM
BY-SEXUAL

●掲載予定アーティスト

東京スカパラダイス・オーケストラ
カステラ/ブルーハーツ/TRACY
ピーズ/SHADYDOLLS/ミンクス
すかんち/真心ブラザーズ/SUPER
BAD/16TONS/フリッパーズ・
ギター/スチャダラパー/マルコシ
アス・バンプ/BAKU/AURA
PILLOWS/ANGIE/筋肉少女帯
デランジェ/BAD MESSIAH/BLA
NKY JET CITY/プライベイツ etc.

●ジャンボ・ポスター/COBRA&東京スカパラダイス・オーケストラ

ロックンロール2月号
12月27日(木)発売

●180ページ
●B4WIDE
●600円(税込)

ロックンロール3月号
1月26日(土)発売

●B4WIDE
平とじ
●212ページ
●特別定価
680円(税込)

●特集

LÄ-PPISCH
UNICORN
J(S)W
COBRA
X/すかんち
BY-SEXUAL
THE BOOM

●掲載予定アーティスト

16TONS/東京スカパラダイス・オーケ
ストラ/スピッツ/BLANKY JET CITY
カステラ/BAKU/スパークス・ゴー
ゴー/ANGIE/BAD MESSIAH/PILL
OWS/LADIES ROOM/ZI:KILL/真心
ブラザーズ/AURA/TRACY etc.

1991ALL ROCKBAND CATALOGUE
メジャーからインディーズまで
200バンドを完全網羅
スペシャル仕様増ページ特大号!!

●表紙・巻頭30ページ特集&ジャンボ・ポスター

3 BUCK-TICK 大特集

2月号

好評発売中 定価590円(税込)

表紙★巻頭特集

PRINCESS PRINCESS

●ニュー・アルバム「PRINCESS PRINCESS」をさぐる!

UNICORN/TMN
大江千里

DREAMS COME TRUE/松岡英明/THE BOOM
B'z/THE ALFEE/徳永英明/米米CLUB/高野寛
BUCK-TICK/LÄ-PPISCH/遊佐未森/PERSONZ

別冊付録

①特製大型ポスター **TMN/松岡英明**
②SONG BOOK ニューアルバム全曲集
DREAMS COME TRUE[WONDER 3]
岡村孝子[After Tone II]
松岡英明[LIGHT and COLOUR]
永井真理子[Pocket]
高野寛[Better Than New]
UNICORN[Have A Nice Day]

サウンドが見える。リアルタイム音楽情報誌

POPGEAR

●連載ストーリー最終回。
最新ライブ・ルポ他総力特集。

NEW KIDS ON THE BLOCK

●RAVE ON/BRITISH NOW
HAPPY MONDAYS
CHARLATANS
SOUP DRAGONS etc.
CINDERELLA
FAITH NO MORE
●別冊付録 **1991 CALENDAR**
●'90年を総括 **LOOK BACK 1990**
●ビッグ・ポスター★デビー・ギブソン/スラッシュ

[1月号. JAN] **好評発売中!!** 定価600円(税込)

おしゃれに雑貨に、もちろん音楽に!
女のコの気持ちが弾けそうなマンスリー・マガジン

GIRLS BRAVO! PeeWee ピーウィー

[2月号] 1月7日(月)発売
定価390円(税込)

'91年、今年は賢く使いたい!

ピーウィーの…
お小遣いノート
山瀬まみ▶渡辺満里奈▶フリッパーズ・ギター▶深津絵里……

Pee Weeが選ぶ!!
'91年、BOYS BRAVO!
加勢大周▶萩原聖人▶永瀬正敏▶織田裕二▶16TONS▶リトル・クリーチャーズ……

今から準備♥**バレンタイン作戦**
●菊池桃子、松岡英明、設楽りさ子……
●バレンタイン直前集中占い!
●手作りチョレート&クッキー

[スペシャル対談]吉本ばなな×さねよしいさ子
[とじ込み保存版]
冬の休日が心地いい! 雑貨小物特集
[魅力的だから、ファン!]小室みつ子、岡崎京子、高野寛、狂市(レピッシュ)、久保田利伸……

1月号 Just **290** YEN

ロングインタビュー
奥田民夫(UNICORN)
村越弘明(THE STREET SLIDERS)

特別企画
21世紀型ミュージック おたくのすすめ
久保田利伸/フリッパーズ・ギター/小野リサ etc.

特集

/PERSONZ
/永井 真理子
NEW KIDS ON THE BLOCK etc.

年末年始2大企画 ①90人のアーティストが選ぶ90年のベスト・アルバム ②冬休みのTV&FM音楽プログラム徹底ガイド

AV特集 '91年型ミニコンポ大博覧会

ワッツイン1月号(新年スペシャル号) **好評発売中**

~HR/HM MAGAZINE FOR NEW GENERATION

METAL GEAR メタル ギア

[1月号 Vol.21] 好評発売中 定価520円(税込)

表紙★巻頭

AC/DC

東京ドーム公演直前
SKID ROW
JUDAS PRIEST

★どこよりも早く!★
SLAYER in JAPAN
SCORPIONS
TNT

伝説の数々がここで生まれた!
ニューヨーク・パンクの真実と歴史をこの一冊に集大成。

「CBGB伝説 ニューヨーク・パンク・ヒストリー」

●'70年代末、ロンドンでSEX PISTOLSが胎動を始めた頃、ニューヨークのクラブ〝CBGB〟でも新しい伝説が誕生した。TALKING HEADS、RAMONES、PATTY SMITH、そしてBLONDIE。〝あっ〟という間に全世界を制覇したパンク・ロックの大勢力が、ここクラブ〝CBGB〟から誕生したのだ。その隆盛の温床となった、ニューヨークの若者達の生態と、その変遷を、共に歩んだ筆者がドキュメントでつづった、全米で話題の書の日本版が完成。

バンド、アーティストの生の声、秘話を克明に収めた、パンク・ファン待望の書だ。

ローマン・コザック:著
沼崎敦子:訳
定価 1800円(税込)

好評発売中!

CBS・ソニー出版 〒102 東京都千代田区五番町6-2 TEL03(234)5801

EXHIBITION 1990

大人にしか出せない味のある顔というのがあります。激動の人生が、総て顔に凝縮されるのです。さて。彼らの顔はいかがでしょう？　TAROで明けた1990年のKOMEKOMEの顔をじっくりと見つめて今年を終わりましょうね。

写真●植田敦　堤あおい　北岡一浩　岩岡吾郎　石黒美穂子　COPY●山崎恵理子

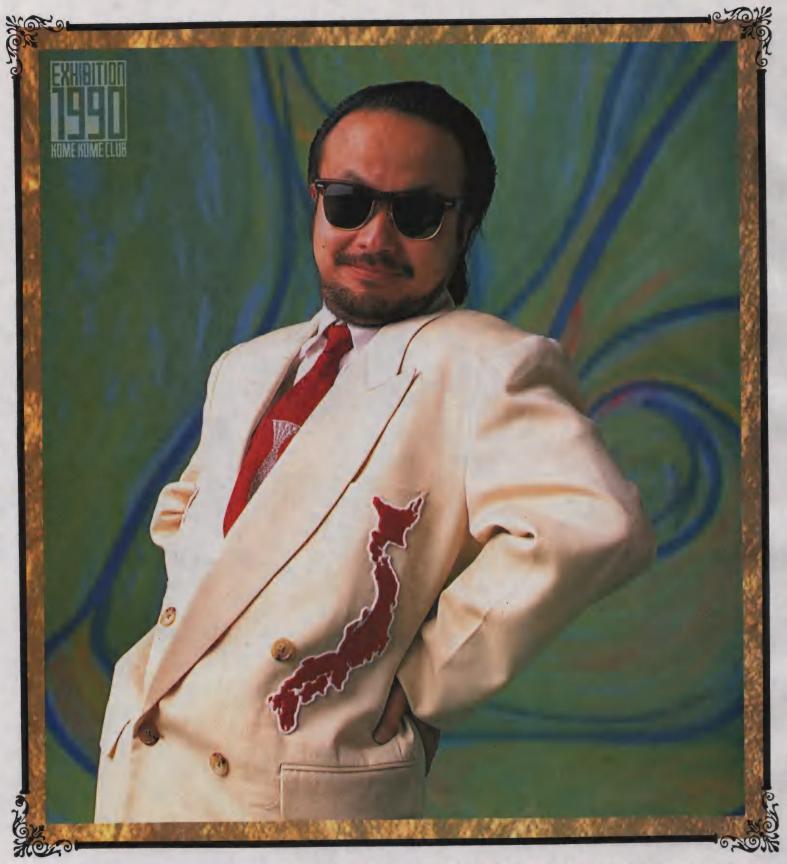
KOME KOME CLUB

CARL-SMOKY ISHII・K2C

EXHIBITION
KOME KOME CLUB

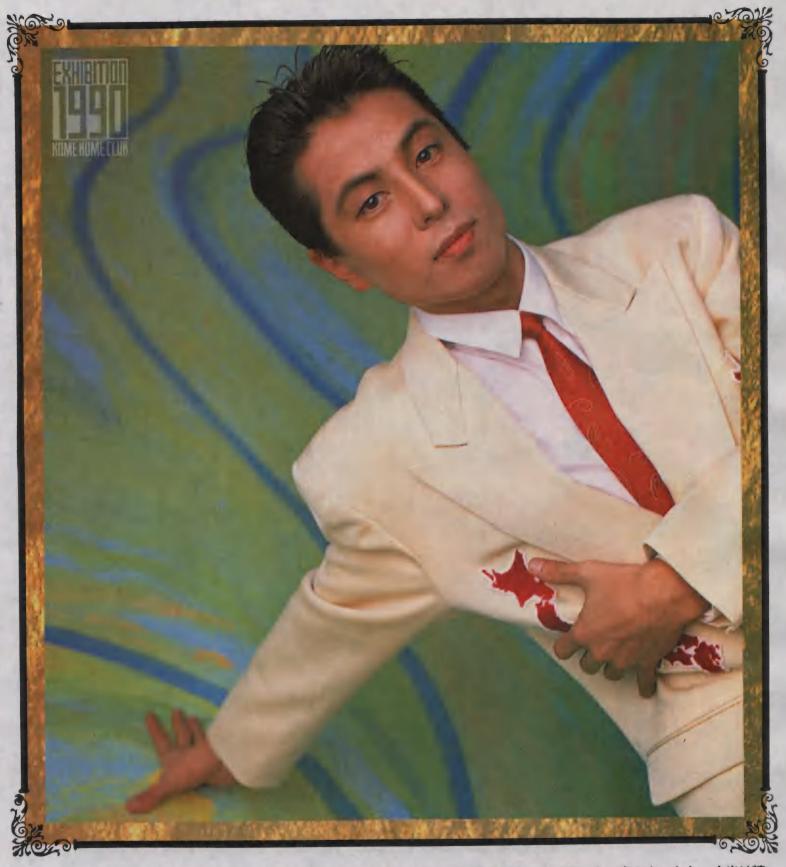
EXHIBITION
1990
KOME KOME CLUB

自分の顔は好きじゃありません。もしも生まれ変わったら、岩城晃一さんみたいな顔になりたい。あの顔に気さくなキャラクターっていうのがいいですね。髭は不精なんで、重宝しているんですよ。朝、髭を剃る習慣がなくなったのはいいことです。

EXHIBITION 1990
KOME KOME CLUB

髭、剃りたいんですけど、怖くて剃れないんです。太っているので……実は輪郭を髭でかくしているんですよ。だから痩せたら剃るつもりです。てっぺいちゃんには、いくらメイクしても変わらない顔だと言われますけど。個性が強いってことですね。

EXHIBITION 1990 KOME KOME CLUB

僕の顔のメイクはね、やっぱりてっぺいがいちばんうまいですよ。顔をいちばん知っているから。他の人にやってもらったこともあるんですけどね。最近は、歳喰ってるなって思います。フェイシャルとかやりませんし。髭ですか？　憧れですね。

EXHIBITION 1990 KOME KOME CLUB

自分の顔ですからね、好きですよ。いい顔だとか、美しい顔だとか思っているわけじゃなくて、しょうがないしね。本当は精悍な顔立ちがいいんですよ。彫りが深いタイプ。ほら、僕はすっとした感じですからね。感情は露骨に顔に出るらしいです。

EXHIBITION 1990

KOME KOME CLUB

顔は私の作品です。気を遣ってますよ。卵パックですか、それからモイスチャーリンスね。ま、その人の内容が見え隠れする顔を作らなくちゃ。え？　ウソをついているのが顔に出る？　唇を舐めるだろうって？　そうですか、今も舐めてましたか…。

CARL-SMOKY ISHII

EXHIBITION
1990
KOME KOME CLUB

顔つきはずいぶん変化してますね。まぁ、太ったり痩せたりで変わったんですけど、それでも最近は顔が定着してきたって感じています。メイクをしてもらうと、体調が肌に出ているので疲れているとかが判ります。健康のバロメーターといえますね。

EXHIBITION
1990
KOME KOME CLUB

小さい頃は兄弟ですごく似てたんですよ。その頃から比べると随分顔が変わったなって感じます。まぁ、歳と共に、シワも多くなってはいきますが、やさしい顔でいられればいいなと思っていますね。やっぱり顔に出ますもんね、女ですから。

EXHIBITION 1990

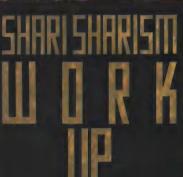
KOME KOME CLUB

好きなものを食べている時の私の顔は、見ていて嬉しくなるってみんなによく言われます。目が輝いてててイキイキしてるんでしょうね。昔はもっとパンッと張ってたんですよ。最近ちょっとね、指で摑める。顎も出てきたし、大人の顔になったのかな。

SHARI SHARISM
A R T
UP

EXHIBITION 1990

KOME KOME CLUB

EXHIBITION 1990

1991年1月。沈黙を破ってKOME KOME CLUB巻頭特集に登場。
ハチ▶ハチ2月号（1月9日発売）を待たれよ。

KOME KOME CLUB

LÄPPISCH
ハーメルン
91年元旦、上田現にとって初めてのシングルが発表される。その名は「ハーメルン」といい、アルバム『MAKE』に収録されていた珠玉の名曲である。パチ▸パチSTYLEとしては、あえて年末企画を排して、この「ハーメルン」を多角的に分析してみた。上田現先生も涙の特集だ(?)
PHOTO●YOUSUKE KOMATSU TEXT●MIKA SASAKI STYLING●KUMIKO HARA COSTUME●
HYSTERICS HYSTERIC GLAMOUR MICHIKO LONDON SWITCH MITSUMINE Ze-ro-Ze-ro

逃避の歌に聞こえてしまったら自分では失敗だと思う。

――初めてだよね、現ちゃんの曲がシングルになるのは。

「そうなんよ。うん、そうだね」

――言わゆる〝3分間で完結するポップス〟みたいなものには、まぁ実際に3分じゃないとしても、あまり興味がなかった？

「あーそうね。LPを作るってのが常に目的だから、シングル・カットってのは重きを置かれたものではないわね」

――「ハーメルン」も評判いいのが意外だったって言ってたよね。

「うん、そうやね。自分は常に同じようなスタンスで曲を作ってるから。〝ハーメルン〟をシングル用だと思って作ったわけでもないので、結構反応する人が多いってのは自分ではわかりにくい部分がある。まぁわかりやすいメロディかなって感じはするわね。ただ詞を読んでもらったらわかるように、みんなが普通に口づさめるような感じではないだろうと思うんだけど」

――この曲に限らず曲を書くことで自分を救済したり曲を書くことが自分にとって浄化作用になっていたりすることもある？

「うん、だから曲は人のためじゃなくて自分のために書くから。自分の曲によってなんか物の形を変えるんだとか世の中をどうこうっていうんじゃなくて……そうねえ……自己昇華……そうだね……昇華のためだね」

――自分の気持ちや考えていることを煮つめて詞とメロディにしていく作業ってのは楽しいもの？ それともシンドイ？

「うん、楽しいんだけどシンドイってのもすごく強い。だからこれがもうワン・ステップ・ビヨンドできれば、今ニワトリの鳴き声でコマーシャルに出ているあのおっさんのような笑顔になれるかもしれんという」

――エイドリアン・ブリュー？

「あの人なんかはホントにシンドイ音楽を作ってきた人やけど、もうそれを超えて、演奏してても何でこのおっさんこんなにニコニコしてるんだろうかってくらいニコニコしてるんでね。顔は笑って手足は泣いとるって人だから。まぁその境地にはまだ行けませんわねってとこでしょう。やっぱシンドイが先に立ってしまう部分があるんちゃうかという」

――「ハーメルン」の詞は結構苦労したんではないかと。一歩間違えたらただの現実逃避になりがちなテーマじゃない？

「そうだね。だから僕の詞で常に気をつけてるのは、言わゆる、僕はつらいんだ苦しいんだこんなとこにいないで夢の世界に行きたいんだ……ってニュアンスにとられるのが一番怖いという。そうじゃなくて、前々から言ってるように力強い……逃避って言葉はまず合わないよね……前向きな破壊っていうか……」

――その感じを出すのが大変。

「感じっつーか、だから逃避の歌に聞こえてしまったら自分では失敗だと思うから。逃避の歌は他の人に任せておこうと。あるAっていう現状があって、それを打破するために僕はこう動いてみました、君はどう考えますかって形が自分では一番ベストだと思うけど。〝28歳〟にしろ〝パーティー〟にしろ、どっちも言わゆる逃避の歌ととられがちなテーマが常にあるんだけど、そうじゃなくて主人公はこういう打破の仕方をやってみたけど、それがいいか悪いかって判断は聞いてる人に、最終的に28歳のおっさんが家焼いてもうて、それで幸せになったんか不幸せになったんかっていう判断は聞いてる人にしてほしいことやし。だから例えば、あーそうなんだ、もうサラリーマン社会なんかダメなんだ、家なんか燃やしちまって外に出ちまえばいいんだっていうとらえ方も怖いし、追いつめられて家を焼いちゃったのね、そういう逃避の歌ねってとられるのも怖いと。今は白黒がはっきりつけにくいすごく複雑な社会だから、これは間違っててこれは正しいんだぜって言ってしまう方が簡単な部分がすごくある。でもそうじゃなくて、いろんな状況をこっちが提示しつつも一人一人に考えてもらえる形の方がいいんではないかと」

――「ハーメルン」にはそれだけじゃなくて現ちゃんの願望も入ってる気がする。

「そうね。あれに関して言えば、本当にそんな楽団がいればついていきたいなってのがすごく強くあるね。あれはだから、〝連れて逃げよ〟って演歌ではなくて、僕がついていくんだっていう意志の表われだから」

――〝ハーメルン〟って童話が私はイマイチうろおぼえなんだけど、もともとどういう話だったっけ？

「うん、詞を書いてから僕も調べたんだけど、それでいいんだ。逆にね、童話の方の〝ハーメルン〟に結びつけて聞いてくれる人が非常に多いので、ちょっと困ってた位で。あの詞がつく前は〝ブレーメン〟って曲にしようと思ってたから。だから〝ブレーメンの音楽隊〟をイメージして作った曲で、詞をつけていくうちに内容的に〝バーメルン〟に近いなと思ったから〝バーメルン〟。わかりやすくするために題名をつけてあるんだよね。でもこれはあの〝バーメルン〟の童話の歌だよってとられる部分が多いんでねぇ……あの童話を今さら読まなくたっていいよ。僕も全然忘れたところで作ったから。あの童話を通して聞かれるとちょっと違うかなって感じになってしまう」

――フィルターとして邪魔なものになると。

「そう、ちょっと今邪魔なものになりつつある」

――今までに歌詞というものに感銘を受けたことある？

「それはいっぱいあるよ。例えば四人囃子の歌詞とかすごい好きだったし。もっと小さいときだと童話の歌詞は好きだったよ。〝ジャボン玉〟の歌詞とかさ。あれってなんかまことしやかに裏伝説みたいのが流れてんじゃん」

――実は子供が死んだときの父親の歌だという ね。

「うん、子供を亡くしたお父さんが一回だけ書いた歌だよとかさ。事実は知らないんだけど。で事実が重要なんじゃなくて、あの歌詞を読んでみんながそう思う、そういう幻想が流れる位あの歌詞は強い歌詞だったんだってことだよね。そういうものってすごく魅かれる」

――そういう歌ってお母さんがレコード買ってくれたり、どこかで習ったりして知ったの？

「お歌の教室に通ってたから、歌は妙にいっぱいおぼえさせられたね。このあいだ実家に帰ったときに小さい頃の歌を入れたテープが出てきて、ま、どれもヘタクソなんだけど、説得力ある歌い方してるのと全然ない歌い方といろいろ曲によって違うの。なんか本人も歌詞がわかって歌ってるやつはどこで切ればいいか理解して歌ってるんだけど、難しい歌だとお経を読んでるみたいで、なんつーか歌詞の重要さってのをすごく思ったよね」

――やたらとお稽古ごとが多い子供だったんだよね。

「そう、多かった。お絵描きやらされて書道やらされてお歌やらされて。まだその中

GENUEDA'S
ハーメルン
LÄPPISCH

役者の面で言わせてもらえば僕は大根役者なんでね。

で歌は長い間やってたからまぁ嫌いではなかったんやろな。書道とかは2年間やって2級しか上がらない奴なんてあまりいないという（笑）」

――キレイな声だったんだ。

「ていうか、聞いたらキンキンする嫌ーなガキの声やったね」

――まさかこんな声になってしまうとは。

（笑）

「そう、それはウチのお袋から言われた。いらんお世話や。でもあの頃はリズムってもんが存在してなかったみたいね。僕はだから今だにリズムが非常に弱いんだけど、幼年期に培われなかったものは今まで残るんだってそれはすごく感じるね」

――幼児期の情操教育の大切さ。

「そう。基本的に僕は情操教育として身についたものはほとんどないから」

――「ハーメルン」のプロモーションビデオは現ちゃんがディレクションするんでしょう？

「うん、しようと思ってるんだけど忙しくってさぁ。ビデオだったらビデオだけのことばっかりを3か月位考えられたら面白いんだけど」

――理想としてはどういうのを作りたいと思ってるの？

「あの歌詞に対して誤解のないもの。だから、"ハーメルン"って題名がついてるからヨーロッパ調のお城が出てきてさ、なんかピエロのような外人がいっぱい出てくるようなニュアンスには絶対したかねぇっていう。我々は日本でずっと生活をしているわけだから、"日本のハーメルン"みたいに作ろうかなと」

――メンバーは？

「なるべく出ないですむ方向へ持っていこうと思って」

――他のモデルさんを使うの？

「モデルでもダメだから、今僕、町で探してるの。人を。だけどそのへん歩いてたこのおっさん使えんかなとかそういう形でやってるから全然…」

――完全なシロートさんを使う。

「シロートっていうか、その道のプロですよ。だからもちろん楽団を作るんだけど、その楽団は別にさ、カステラ屋のおばちゃんでも風呂屋のおばちゃんでも誰でもいいんだよ。要は我々なんかよりもっと高いレベルで物の見えている人、見てきた人ってのが僕の"ハーメルン"に出てくる楽団の象徴だから。ストリッパーでもなんでもいいんよ。ただ別に年老いたっつーか、自分たちよりもある意味で全然優秀な人たちを撮りたいなっていう」

――映像のイメージは？

「幻想的っていうよりもう少し意地悪なものにしたい。この曲で一番怖いのは"あー美しい素晴しい曲だね"って言われておわることだから。映像をせっかく作るんやったら、なんかもっと自分の中の物を掘り下げて痛みだとかそういうものをすごく入れていきたいと思うね。どうも今回この曲が人気あったのが僕がいつも曲作るときにテーマになっている痛みだとか臭みみたいな部分があまり伝わらなかったからじゃないかっていう変な取り方を自分でしてたりするんで。イメージ・ビデオって今やなんかのが多いけど、そうじゃなくてそれも作品として取り込めるものをって考えた場合はかなり大変やなっていう。マジメに撮ろうとすればするほどクサくなるって部分も絶対にある。そのへんは紙一重なんで自分でもちょっとビビってるね。本人だけはわかってるつもりやのに見た人に伝わらなかったらかっこわりいものになるからね。それは紙一重やね」

――音楽を作るっていうのも映画を作るっていうのも小説を書くっていうのもクリエイトするって意味ではみんな同じことだと思う？

「うん、非常に似たものを感じる。ただ自分は今ある種スタイルを確立し始めた部分があるので少し楽になりつつあるんだけど、やっぱ他人の芝生の方が全然難しそうに見える。映画見ても絵見てても。自分の方が全然楽ちんな甘いことやってるような気がしてならないね」

――監督や小説家は人前でパフォーマンスすることはまずないよね。そこがミュージシャンと一番違うんだろうね。

「どうだろう。どうなのかな」

――自分の肉体を使って何かを表現するのとは違うじゃない。

「そうね。そういう意味では役者であり監督でありってニュアンスはあるわね、確かに。でも役者の面で言わせてもらえば僕は大根役者なんでね。やっぱ演奏は下手よ、僕。それは最近すごく感じる。嫌になるほど下手だなぁ」

――理想が高すぎるんじゃない？

「いや、自分が作った曲くらいちゃんと弾けたらいいのになぁと（笑）」

――そう？ "現ちゃんが下手"だなんて話は聞いたことないよ。

「それは裸の王様なのよ。（笑）誰も言えなかったけで。コイツ何も着てないぞーってのをそのへんの子供が言いだすのはもう時間の問題ですね」

――ハッタリ上手。（笑）人に見られると張り切る上田現。（笑）

「（笑）サービス精神だけは人一倍強いからねえ」

――ステージの現ちゃんだけを見ていたら「ハーメルン」みたいな曲を作る人には見られないかもしれない。

「（笑）だろうなぁ」

――片方だけがクローズアップされちゃうのは不本意？

「うん、でも最近は両方見てくれてるなって感じはあるけど。レピッシュ自身も音は常にステージが注目されてた部分があったじゃない。でも4～5年活動してたらある程度両面見てもらえるようになるなって感じはする」

――そういう意味でも「ハーメルン」がシングルになるのはレピッシュにとっていいことなのではないかと。

「うん、ただ最近急に思いはじめたんだけど、一年後にフタあけてみたら結局カラオケになっただけだったねって恐怖が常にあるから」

――ポップミュージックがああいう形で消費されちゃうようになったからね。

「でもそれが悪いことだって言い方はもうしない。そういう中で何ができるかってことを僕は考えるけど、ただまぁ"ハーメルン"に関しては一歩間違えれば歌いやすいカラオケになってしまうんじゃないかって恐怖がすごいある。（笑）メロディが憶えやすいってみんながみんな、口をそろえて言うからさ。知り合いとかから"よく口づさんでますよ"って言われて"ありがとうございます"って言いながら"何が言いたいんだろうコイツは"って。"サビの部分が口づさみやすくていいですね"とか言われてさ、でもサビはこうしようって作ってるわけじゃないからさ、結構ビクビクしながら頭下げてるよ（笑）」

GEN UEDA'S
ハーメルン
LÄPPISCH

ハーメルン
LÄPPISCH

FOUR MEN'S ハーメルン

上田現先生の深いお話によって、我々が「ハーメルン」をどのように感じ取ったらいいのかわかりましたね？ それでは残り４人のメンバーにも聞いてみましょう。さあ、どうぞ……。

〝ハルハル〟って感じがしたね、「パヤパヤ」の次は「ハルハル」。

―「ハーメルン」をシングル・カットしようと思ったのは?
マグミ　早い話が「マジック・ブルー・ケース」と「ハーメルン」とどっちをシングルにしようか悩んだから2つとも切ることにした。
狂市　シングル・カットって外タレみたいじゃん。
―スロー・テンポの曲をシングルにするのは初めてだよね。
マグミ　うん。
―レピッシュの新しい面が広がるんではないかと?
マグミ　もともとある面じゃん。
―でもシングルしか聞かない人は……。
狂市　ウチはシングルは売れないから大丈夫。
―(笑)じゃ現ちゃんが「ハーメルン」を初めて持ってきたときはどういう印象だった?
狂市　〝ハルハル〟って感じがしたね。
マグミ　そのイメージは正しい。
―(無視してテープレコーダを雪好と達の前に置き直す)どういう印象でした?
雪好〝ハルハル〟って感じが……(全員爆笑)
―!?(頼みの綱の雪好にかわされたので動揺を隠せない)わからないんですけど、達くん。
達〝ハルハル〟っていうのは、要するに、そういう風にしか憶えなかった人がいたんですよ。「パヤパヤ」の次は「ハルハル」だって。何度言っても憶えないんですよ、その人は。某ビクターの人ですけど。
―はあ。
達　この曲にはそういう深いいきさつがあるんです。だからみんな多くを語りたがらない。
―多くを語る必要がないとか?
達〝ハルハル〟で全てが言いつくされてる。
狂市　何?　今日取材?
―(無視)マグミくん、歌っててどうでした?
マグミ　いつもと同じ。何も変わりはない。別にあれだけ特別にやった記憶はない。
―特別に感情移入したとか……。
マグミ　ない!!　全部感情移入しとる!(笑)
雪好　ただ〝ハルハル〟って感じがしただけで。(全員爆笑)
―……。
狂市　初めて聞いたときは西城秀樹の「ブーメラン」を思いだしたかな。
―そのココロは?
狂市　タイトルが似てるから。
―じゃ〝ホームラン・ツアー〟の〝ホームラン〟も〝ハーメルン〟と似てるからだったの?
雪好　ハハハ、あーそうだったの。
達　でもまさか撮影でバットとグローブを持たされるとは誰も予想はしてなかったよ。(2月号をお楽しみに)
マグミ　ちょっと悲しい気持ちになったよ、そういうイメージで。(笑)
狂市　ま、パチパチ、パヤパヤ、ハルハル。
―(無視)で、カップリング曲として「さんまのまんま」に使われている「FAMILY」と、幻の名曲「ジェネレーションギャップ」が。
狂市　苦肉の策。忙しいから新曲が間に合わなかったの。ホントにそういう理由。
―いつ頃の曲だっけ?
マグミ　デビュー前。
狂市　あれはさすがに達はいなかったんじゃないか、作ったときは。
達。いや、いたいた。
―達が入ってすぐぐらいの曲?
雪好　そうですね。12月の屋根裏で初めてやった。(おそらく85年)
狂市　すごいな、雪好。やっぱりウチでは雪好だけ頭の構造が、算数以外はいい。(笑)
―それを今あえて入れるのは?
狂市　いつ聞いてもおかしくない曲なんだけど、意外にライブでしぶとく生き残ってたんだよ。まぁそれなりに好きな人もいるし。
―ではこの3曲で'91年のレピッシュは幕を開けると。それでいいですか?
全員　ハーイ。(トホホ……)

スタジオに足を踏み入れると、まず"青"が目に飛びこんできた。三方をとり囲んだ壁は青。足元の砂も青。赤白青の三角の旗が張られ、頭上には万国旗が揺れている。色調の毒々しさが少し懐しい気分を運んでくる。派手なのにうら淋しい。楽し気なのにどこか悲しい。サーカス小屋などにはいつも相反する2種類の空気がつきまとっている。

が、しかし。

レピッシュはやっぱりやってくれた。楽器を持っての個人カットを撮り終えた後の集合カット。まずマグミが前方の円形の台に乗る。電動でゆっくりと回るそれを見て現ちゃんが「ええなぁ、楽しそうやなぁ」。いったいアンタは何歳なんだ。

撮影スタート。CDに合わせ、口パクで歌うマグミ。その表情の豊かさ、迫力にさすがプロと気を許した私は甘かった。台が回ってメンバーの方をマグミがむくと、急に狂市の顔がゆがむ。現ちゃんがさかんに顔をなでたりつねったりしている。もしや、と思っていると案の定「カット」の声がかかると同時に「なんでやぁ!?」「ひどすぎるー」「コレやでコレ」。もうとっくに見慣れているはずなのにマグミの"変な顔"はやっぱりおかしいらしい。「こういうときはただ目が合っただけでおかしいのに」。と狂市。修業が足りないのではないか。

再度トライ。マグミの顔を見まいとする狂市。しかしマグミも目が合うまで狂市の方を見つづける。ついに見てしまった狂市は当然自爆。現ちゃんも同様。雪好と達は動じない。寝てるのかもしれない。北島に「編集のとき困るのはアナタよ」と怒られた現ちゃんは「見ちゃいかんと思うんやけど、つい楽しみにしてしまう」。狂市も「笑っちゃいけないと思うから余計おかしいんだよ。笑っていいよって言われたら笑わないよ」と屁理屈をこねる。2回目のマグミの技はタバコを鼻の穴に入れるというものであった。単純なネタほど普偏的な笑いを取れるものだ。

これ以上撮ってもムダだとあきらめたのか、次に現ちゃんが台の上に乗り、マグミは現ちゃんがいた位置へ。どういう手で攻めるのか、見ているこっちまでワクワクしてくる。あ、なんだ? 口から何か出したぞ。よく見えない。でも汚なそうだ。狂市とマグミが悶絶している。かなりの荒技と見た。終わると台を降りた現ちゃんは隅へ行ってツバを吐いている。何かと思えば下に敷いてある青いプラスチックの粉を交替するときに素早く口の中に入れ、何食わぬ顔をしていてメンバーの方を向いた途端にダーッと出したという。本人は「いや、青い砂がサラサラーッて流れたら悲しいやろなと思って」と言うが実際は唾液で固まってしまい、ただ汚ないだけで終わったのであった。ウケるためなら危険を冒すこともいとわない大阪人ならではの芸人根性を私はこのときの上田現に見た。別に見たくもなかったが。

続く狂市も言わずもがな。笑いをこらえる人の顔というのは何故こんなにもおかしいのだろう。達の番。何事も起こらない。しかしマグミの後ろに立った狂市がつらそうだ。手を後ろに回したマグミがリズムに合わせてずっと手を開閉していたらしい。そんなものが何故おかしいとも思うがこうなってしまっては何でもおかしい。背が高すぎる雪好が中腰にさせられて台の上にいるだけでもおかしい。もうダメだあぁ……。

どこにいても何をしていても決して期待を裏切らないレピッシュの面々に感心するやらアキれるやらの撮影現場。後日のロケにはフェリーニ的イメージを喚起する人々が楽団に扮し、上田現のインタビューにあるような雰囲気を作りだしていたので「ハーメルン」ファンの皆さんは御安心を。しかし完成作品がどんなにシリアスでも見たときに必ずや笑ってしまうであろう自分が悲しい。

珠玉の名曲を映像化する。考えただけでも、はりつめた緊張感とシリアスなムードが……と思いきや!! や…やっぱり…。

ハーメルン ビデオクリップ 撮影現場レポートッ!!

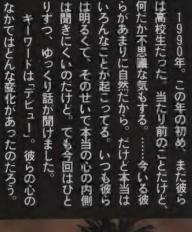
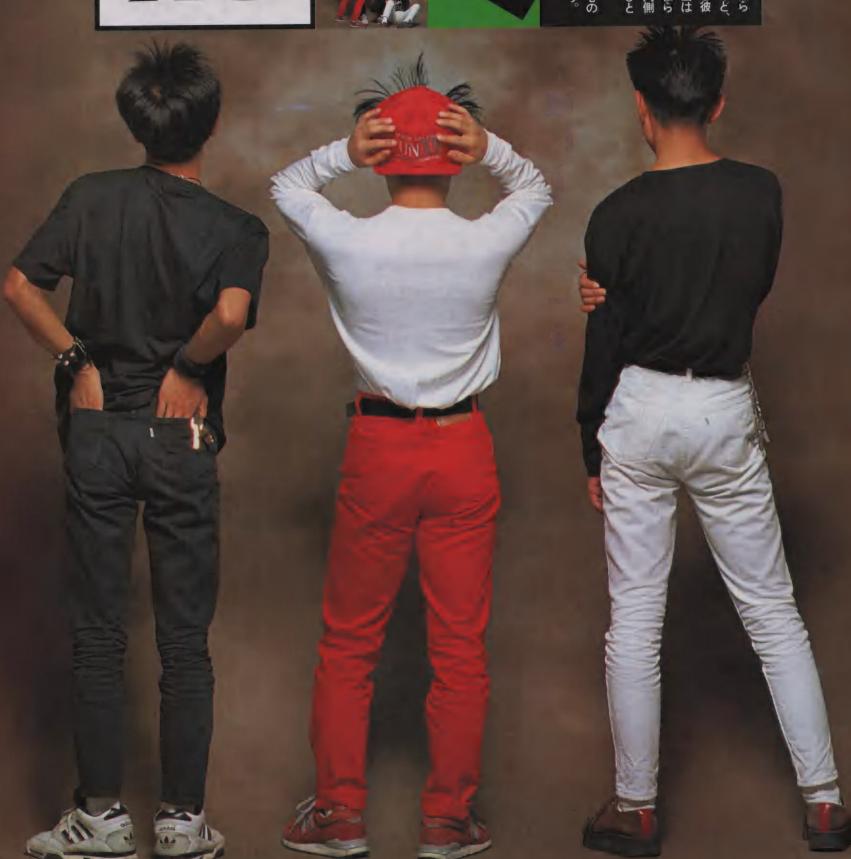
BAKU ガ行く

1990年。この年の初め、まだ彼らは高校生だった。当たり前のことだけど、何だか不思議な気もする。……今いる彼らがあまりに自然だから。だけど本当はいろんなことが起こってる。いつも彼らは明るくて、そのせいで本当の心の内側は聞きにくいのだけど。でも今回はひとりずつ、ゆっくり話が聞けました。

キーワードは「デビュー」。彼らの心のなかではどんな変化があったのだろう。

撮影●福里幸夫　文●伊藤亜希

●谷口宗一プロフィール
S46.8.29生
血液型A型
身長161cm
体重54kg
足24.5cm
視力左右0.1
ボーカル担当

BEFORE DEBUT

高校時代の生活。そうだなあ…。とにかくまわりにすっげーたくさん友だちがいたなぁ。ヒマだったら、呼べばすぐ来るっていうような友だちがいっぱいいた。県内(栃木県)どこへ行っても電話すればすぐ集まったから、いつも周りに人がいたような気がする。

家にいれば黙っててもメシはでてくるし、小遣いはもらってたし。んで、学校行って、好きなことやってたわけでしょ。今考えると、ずいぶん楽な生活してたなあなんて思いますよね。(笑)でもまぁ、あの頃はそれが普通だったわけですから、こんなこと全然考えもしなかったけど。

オレってね、昔モノゴトをあんまり考えたりしない人間だったんですよ。そりゃあ、大事なこととなればさすがに考えますけど。(笑)もう本能のままに動いていたと思いますよ。思いたったらすぐ実行っていう感じだったから。だから相手の言ってることが"ヤダ"と思ったらもう話なんか聞かなかったし。すぐケンカとかしちゃってましたね、あの頃は。

学生時代っていろいろな経験したと思うなあ。今もそうだけど、経験することって全部人間が関わってくることでしょ。例えば……恋愛でしょ。それから友だち。全部人間関係があって成り立って、経験になってたと思うんですよ。そう考えると、オレって学生時代に結構恵まれてたなと思うな。

で、高校卒業して。こっち出てきて。まぁ、いろいろあったじゃないですか。当たり前だけど学生時代とはガラリと変わりましたよね。とりあえず、周りの人間がまるっきり変わりましたから。学生時代は同年代の人間ばかりだったから。それが今度は年上の人たちばかりなわけでしょ。そういうので、自分も変わっていったんじゃないかと思うな。

AFTER DEBUT

んで、そうこうしてるうちにデビューして。一番初めに感じたのは、親戚が増えた。(笑)たま〜にですけどね。"この人だれ?"みたいな。(笑)ま、それはそれとして。

考え方がすこしずつ変わってきたなとは思う。前みたいにガキじゃないなっていうのが、自分で感じられるっていうかね。考えるようになったと思いますよ。ちゃんと最後まで人の話が聞けるようになりましたから。(笑)落ち着きがなかったのがちょっとは落ち着きがでてきたかなと。モノゴトをきちんと順序だてて考えられるようになったっていうところは、自分で成長したところかなと思う。でも、逆に変に素直じゃなくなったかなとも思うんですよ。オレ、いろいろなこと自分の中に閉じ込めちゃうほうだから。しゃべることってほんというとあんまり好きじゃないんですよね。いつもダーッとしゃべるけどね。(笑)普段はあんまりしゃべんないんですよ。なんか前よりそういうところでの二面性がはっきりしてきたかもしれないなぁ。だから、オレ今"谷口くんってどういう人?"って聞かれたら答えられないと思うんだ。自分自身に一番迷ってるかもしれない、今。

プロ意識?　う〜ん……。最近、自分の身体にすんごい興味があるってことかな。例えば、滋養強壮剤とか試してみたりしてる。そしたら「5時から男」のが一番良かった。(笑)そういうことやってると自分の身体っていうのが良くわかってきましたね。だから……友だちのような関係ですね、自分の身体っていうのが。こう、自分がいて、もうひとり別な人がいる。んで、その人っていうのは自分にとってすごい大事な人で、すごく大切にしたいと思ってるんですよね。え?　ナルシストですかぁ?　乙女座のA型だからかなあ。(笑)そんなことないってば。(笑)

谷口宗一がどうも最近気に入っているもの

オレが最近気に入ってるモノ…っていうか、いつも持ち歩いているモノがウガイ薬なんですよ。いろいろな種類を試してみたんですけど、この♪イソジン♪ってやつが一番効きますね。オレ、ノド弱いですから冬はやっぱり欠かせない。乾燥した空気ってすごくノドに悪いからね。ボーカリストですから気をつけなくちゃいけませんからね、ノドは。ちょっとでも"変だな"って思ったときはこれをこゆ〜くしてウガイすると、一発ですっきりする。なんにでも効きますからね、これ。だからいつも持ち歩いてる。

最近、自分の身体にいろいろ興味がありまして。こう、自分の身体で遊んじゃってるっていうようなもんなのかもしんないけど。(笑)なんか、おもしろいじゃないですか身体って。だから、酸素ボンベとか、栄養ドリンクとか機能性飲料とかそういうものをいろいろ買ってきて試してみたりしてるんだ。あとは、お風呂に入れる入浴剤。"なんとか温泉の素"ってヤツ。たくさん種類あるから選んだりしてると楽しいでしょ、ああいうのって。

まあ、こういうものって前々から使ってはいたんですけど、自分の身体のためにって思ってやってるのは最近ですね。やっぱ、自分の身体は可愛いですから。(笑)オレの宝物っていうのが"谷口ノド"ですから、その警備隊みたいなもんですかね。

モノゴトをきちんと順序だてて考えられるようになった

SOICHI TANIGUCHI

BEFORE DEBUT

BAKU組んだときは、テンポ的な部分とかでトイ・ドールズみたいな音をやりたいっていうのがあったんだ。だから、今までの曲はああいうテンポの速い感じの曲が多かったんだよね。んで、それをそのままやってきた。もう、結成当初は勢いオンリーみたいにやってきたから。ガーッとやって、ギターのカッティングがガガガガってきて、太鼓がツッタンツッタンツッタンってきて。そういうところは、それこそ今までのどこにでもあるようなバンド、いわゆるビートバンドと差別がなかったと思う。んで、BAKUをやるにあたって〝なにが他のバンドと違うのか〟って考えはじめたときに出てきたのがメロディだったんだよね。勢いと、童謡なんかが持つ日本人のメロディっていうのが、BAKUの中に同時に出てきたんだ。で、そのふたつのいいところが混ざり合ったとこを目指したいっていうのがあった。その基本的なとこは、今でも変わらない。

オレ、高校3年生にしてなんかいろいろ考えてたかもしんないな。一応プロを目指してやってきたから、いろいろ考えてたなあ。考えること好きじゃなかったけど。(笑)例えば〝プロになるためには、絶対男4人がいいな〟とか。なんかこれ単純だな、いきなり。(笑)んで、それにとにかく自分が思ってるようないい楽曲ができれば、夢は絶対かなうものだって勝手に思ってた。

あの頃の曲の作り方ってさ、ほんとに授業中つまんないから、ちょっとでも暇な時間があると思いついたこととかをパッパッパッとノートのはじとかに書いて。んで、メロディがあとからついてきてそれが曲になってたんだよね。

ほんと、自然にできてたから曲作りの苦労とかなかったなあ。今考えてみれば。(笑)

AFTER DEBUT

デビューしてから身をもって感じたのは曲作りの難しさですかね。だって、デビューしてからまだ5曲しかできてないんだもん。さー、困った。(笑)BAKUでやりたいことってほんとイッパイあるんだよ。自分の中にでてくる新しいものをどんどんやっていきたいっていうのがあるから。楽曲にしても、今までやってきたいいメロディラインを生かしつつ、独特の詞の世界も伝えつつ、これからのBAKUにとっての新しい音をドンドン取り入れていく…ってことを全部混ぜ合わせた一番オイシイとこをとって楽曲にしようっていうのがあるから。やっぱ、新曲にはこだわりますよ。やはり次のフル・アルバムリリースに向けて。プロになったからには、フル・アルバム出したいですからね、やっぱ。

でも、学校卒業してこういう状況になって、いざ曲を作るぞって考えてもなかなかできない。学校がなくなって詞とかなかなかまとまんなくなってきて、自分の思うような楽曲が全然浮かばないんだ。構想はいろいろあるんだけど、うまくまとまんない。でも、これからそういう状況の中で曲を作っていかなくちゃならないから、慣れなきゃいけないんだけど。これ、オレの課題かもしんない。この状況がうまい具合に曲に反映してきたら、また今までとは違うものができてくるわけだからイイとは思うんだけどね。だから、今度は苦しい歌ができるかもしれないよ、楽しい歌じゃなくって。(笑)

でもやっぱりイイ曲を作りたいですね。何年後かに、小学校の教科書に載るようなそういう曲。曲ってさあ、なんか人の人生決めちゃうようなところあるじゃん。やっぱプロになったからにはその1曲で人の心とか、人生を動かせるぐらいになりたい。オレが小さい頃、童謡に動かされたようにね。

車谷浩司がどうも最近気に入っているもの

新聞って小さい頃からよく読んでたんですよ。政治・経済面とかもちゃんと読んでた。そういうところのほうがおもしろかったから。だってオレ、TVの国会中継とか楽しみに見ちゃうような子だったもん。可愛くないでしょ。(笑)

一番最初に見るのは1面。んで、順番に読み始めていく。政治欄行って、スポーツ欄行って地方版見て一般記事のとこ読んで、最後にTV欄じっくり読む。

最近印象に残った記事はね……東西ドイツの統一とかもあったけど、やっぱ中東情勢かな。そんなかでも、それに伴った国内への影響とか気になりますね。例えば、国連軍への日本の自衛隊の派遣とかね。考えなきゃ考えなくてもいいんだろうけど、なんか考えちゃうんですよ。実際、今のオレたちには関係ないって言ったらそれで終わっちゃうんだけど。でもずっとつきつめていくと、個人個人明日どうなるかわかんないっていう問題にいきあたりそうな気がするんだ。

新聞ってね、オレにとっていい暇つぶしかな。オレ、本とかあんまり読みませんから。新聞って読むとこいっぱいありますからね。意識してるわけじゃないけど知識も身につくし。ホントおもしろいものだと思うけど。でも、今ひとり暮らし始めてすごい困ってるのが新聞の勧誘。すんげーしつこい。(笑)

1曲で人の心とか、人生を動かせるぐらいになりたい

KOJI KURUMATANI

●車谷浩司プロフィール
Ｓ46.8.29生
血液型O型
身長168cm
体重48.5kg
足26.0cm
視力左右2.0
ギター担当

●加藤英幸プロフィール
S46.7.26生
血液型A型
身長169.5cm
体重55.5kg
足25.0cm
視力左右1.5
ドラムス担当

BEFORE DEBUT

BAKUが結成されたのが89年の5月。あの頃は、ただ楽しい楽しいってだけでやってたっていう感じでしたね。だから事務所とかから話がきて、一応契約はしたけど、自覚なんかほとんどなかったなあ。だって、ライブ以外なんにもやってなかったもん。それこそリハーサルのときにしか練習しなかったし。ライブにしてもダーッて行って、ガーッてやって〝おつかれさん!〟って終わりだったな。あの頃は、ほんっとに体力が持てばいいっていう感じだったと思うよ。1日2回、2日で4ステージやったことあったんだ。('90年1月14日、15日、代々木チョコレートシティ）それがぜんっぶ同じなの、4回とも。メニューもMCも全部同じ。(笑)ほんっとあの頃は甘かったよ。オレ、最初はプロ志向じゃなくて趣味だったから、バンドって。ちょっと軽く考えてたとこあるのかもしれない。

でもだんだんはまってきたんですよ。高校3年生のときは専門学校に進学しようと思ったんだけど、とりあえずバンドができる余裕のある学校に行こうと思ってたから。そうやって自分の中でバンドってものがだんだん変わってきて、自覚が出てき始めたのは高校卒業してからですね。卒業してからいろいろ考える時期とかもあったから。んで、どうせやるんだったらトコトンやろうって思ったんだ。ちょうど、小山でのライブの頃かなあ。('90年6月1日、小山市市民会館）いろいろと考え始めるようになったのは。あのライブがなかったら今でもズルズルきてたと思う。バンドをやってくっていう自覚が足りないままダーッと流されてきちゃってたでしょうね。プロとしての意識もないままだったと思うよ。

オレにとって、小山のライブってすんごい大きかったな。

AFTER DEBUT

デビューして変わったこと……。基本的には変わってないと思うんですけど自分じゃわからないもんですからね。でも、気持ち的にはすごい変わったと思う。他の2人がいないから言っちゃうけど。(笑)

自分の成長ですか？　そりゃねぇ前から比べればあるだろうけど。だけどなんかね、最近オレ下手になったような気がする。(笑)小山でのライブってオレ自身の気持ちの中でカチッてはまるものがあったんですよ。んでそれからライブを重ねるごとに、だんだんしっくりこなくなって。EASTでズタズタになった。ライブをやったっていう満足感はあるんだけど、その後自分の気持ちの中でなんかしっくりこない。物足りないっていうか……。自分はもっとできるんじゃないかって思うようになってきた。自分自身に対して、求めるモノが大きくなってきたんじゃないでしょうかね。

プロになって改めて感じるのは、なにごともよく考えてから行動しなきゃなんないってことかなあ。例えばこういうインタビューの言葉ひとつにしても、ファンの子への影響力とかすごいからね。この頃、そういうことすごく感じる。だから、自分の言葉や行動にきちんと責任もたないといけないなって思うようになりましたね。昔は周りの人のことなんて考えてなかったもんなあ。自分さえよけりゃよかったから。(笑)

これからやってみたいこと。う〜ん、いっぱいありすぎてねぇ。とりあえずかたっぱしからやってる最中なんですけど。例えばドラムにロゴ入れたり、ツインペダルにしたり。んでね、これからやってみたいのはツーバス。ツーバスにしてクリスタルドラムにする。(笑)なんと言われようとがんばるよオレ。

だって、プロって根性すわってなくちゃできないもんだからね。

加藤英幸がどうも最近気に入っているもの

トイレ行こうと思ってドア開けたら、ちょうど洗濯機の上にあったんですよこれが。昔っから親しみあるし〝これいいな〟と思って。家（栃木）にいたときからずっとトップだったからこれしか考えられなかった。今、液体のものとか出てるけどあれは邪道だよ。(笑)やっぱり、洗剤は粉じゃなくちゃ。

まだ栃木にいたときとかさ、ときどき洗濯やってたんですよ。日曜日とかなんにもすることなくてボーッとしてると〝お前、洗濯でもしなさいよ〟とかカーチャンに言われて。最初はイヤイヤやってたんだけど、やってくうちにだんだん楽しくなってきちゃって。洗濯なんてやったことないもんだから、たま〜にやるとすごい楽しいの。(笑)なんか、ひとり暮らししたような気分になってすんごい楽しかったなあ。でも、家（栃木）にあった洗濯機ってすごかったんですよ。全自動はもちろんだけど洗剤までちゃんと入れてくれんの。洗剤の量も勝手に計ってくれるからもうほんっとに洗濯物入れるだけだった。

今？　これがもう……ぜんっぜんしない。(笑)みーんな宗一君に頼んじゃう。だから、宗一さまさまですよ。(笑)この間も飯作ってくれたし、世話になってます。(笑)

洗剤は生活に欠かせないもの。もし洗剤がなくなったら……生きていけない。

……ウソ。(笑)

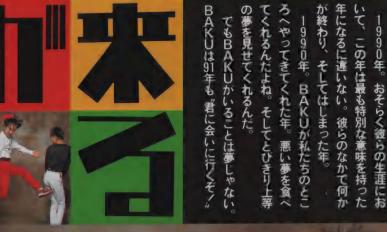
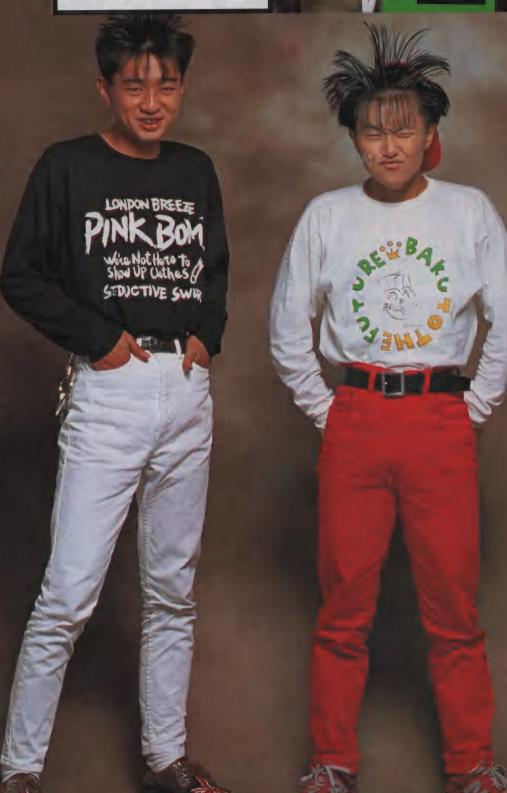
自分自身に対して、求めるモノが大きくなってきた

HIDEYUKI KATO

BAKUが来る

1990年。おそらく彼らの生涯において、この年は最も特別な意味を持った年になるに違いない。彼らのなかで何かが終わり、そしてはじまった年。

1990年。BAKUが私たちのところへやってきてくれた年。悪い夢を食べてくれるんだよね。そしてとびきり上等の夢を見せてくれるんだ。

でもBAKUがいることは夢じゃない。BAKUは91年も"君に会いに行くぞ！"

BARBEE BOYS

●1990年、バービーボーイズは２つのコンサートと２つのイベントで熱いライブを見せてくれた。完成度が高く、充実感にあふれる彼らのライブを見た人は幸せです。それじゃあ、あの興奮をふりかえってみようか！

撮影●三浦麻旅子　文●小島智／鉄石美保子

CONCERT TOUR
SPRING 4·17▶6·5 & AUTUMN 9·21▶12·1

BARBEE BOYS
LIVE YEAR 1990

BARBEE BOYS

LIVE YEAR 1990

EVENT

BODY 1・19,20,29 & JT SUPER SOUND '90 8・6,19,22

軌跡が作れたらって感じだったんじゃないかな、気持ちの置きどころとしてね

ビデオ「ノーマジーン」撮影、夏のイベント、杏子にいたってはミュージカル「マランドロ」出演……1990年も活動は幅広い。が、やはりふたりして盛り上がる話題は、これでしょう。取材時点でもまだ続行中だった〝オーバー・ホール〟ツアー。
――この一年を振り返るとなるとやはりツアーが大きなウエイトを占めてますよね。
コンタ「うん。今回、まぁニュー・アルバムの曲を全部やろうっていうのが目玉商品的なところで、それでメニュー作ってやってみたら動かし難いプログラムなんじゃないのって春・秋トータルでやったという」
杏子「でも春のツアーの半分くらいまでは定まんなかったよね」
コンタ「もっと全体の流れが、テンポ感が上手くいくテがあるんじゃないのかって」
――フロントに立つふたりとしては、それはたとえばどういうところで……？」
杏子「動きとか、ギリギリのラインまで行ちゃった方がいいかとかそういうとこにこだわり始めるでしょう。でもそうするともっと全体を把握してやった方がいいってスタッフから出たり……あと、こうガッと掴みにくいときに、この曲だとイマイチいけないとか。だから最初のころは入ってた〝タイムリミット〟ハズしちゃったりね」
コンタ「オレは、……そうねぇ春はなんか気持ち良くやれればいいかなって。この曲気持ち良くやるためには前の曲を気持ち良く出来てないとダメだぞみたいなさ。だから流れとかには気を使ってたような……流れながらひとつ爪痕残してく、そういうことにはすごく気使ってたような覚えはある。それまでのツアーだとね、オレはどっちかっていうと一瞬一瞬凍りつかせることの方に心砕いてきた感じなのよ、気分的には。でも今度はそうじゃなくて、しなやかに流れるようになってくればいいなぁと」
――動いた跡が見えるようなステージ。
コンタ「『ウルトラQ』の模様が。（笑）軌跡が作れたらっていう感じだったんじゃないかな、気持ちの置きどころとしてね」
――春、秋とそれぞれのツアーでの違いもあるでしょう。各地細かく廻ってるぶん、会館の広さも春とは少し違うだろうし…。
コンタ「ここ数年なかった規模だからね、2000程度のキャパの所って」
杏子「単純に考えてステージ狭くなってるぶん、セットも変えてるわけでしょう。で、

円盤に乗ってるみたいな感じ？いろんな方向性があるだろうし、それが楽しいしね

どうかなとは思ってたんだけど、実際かっこいいセットだしそれは納得いってるから」

コンタ「ホールやステージの規模が変わったからってさ、……額縁の中での世界が繰り広げられているんだな、と感じられないようにしたいっていうの？　どこか別の世界なんだけどここと確かに繋がっててみたいなところでやっていたいなっていうのがすごくある……そう、きっとねぇこの距離だからいいけど周囲3メートルには近寄りたくないって思われるようなステージをやりたいんだと思うね」

――ステージと客席との間の……

コンタ「近寄ると……ある意味危ないっつうか。この世のものとは思えない的なさ。にじみ出てくるものは何かってことだよね」

――なるほどね。ところで、初のミュージカルはどうでしたか？

杏子「そう、あれは勉強になった。いい人たちとも出会えたし作品自体もすごく面白かったし……ミュージカルは演出通りにやるしかないじゃない？　ガッて摑みに入るための決められた演出でも、摑めるときは半々でいけばいい方だったから、……なんて言うんだろ、こう自分が摑もうと思って摑めたときの快感？　そのためにはたとえば同じことをまた出来るようになった。前は自分のこの動き読まれてるんじゃないかみたいな、絶対にテレが入ってたのね。でもここだけはって狙うところで、テレずにできるようになったし、そこで摑むと他が余計ワイルドになれるの、安心してね」

――来年、音楽以外の活動の予定は…？

コンタ「いやぁやるもやらないもオレの場合、別物だから、音楽とはぜんぜん。そういうのって到来モノだからさ（笑）」

杏子「人に会えることに対しては貪欲になりつつ、臆病だから顔色見ながら（笑）」

――じゃあバンドとしての来年の目標は？

杏子「毎年目標ってあんまりね。（笑）ただ、ほらバンドって5人の絡みじゃない？もうどっちに飛んでくかわかんない、円盤に乗ってるみたいな感じ？（笑）いろんな方向性があるだろうし、それが楽しいしね」

それが動いてるのよ、と嬉しそうに杏子。それはあなたたち（ファン）のこと。バンドと関係する人が絶えず同じでないくらいの方が面白い、このファジーさこそバービーの醍醐味。

「♪ファジー・テンション〜ってね」

そよぎながら1990年のコンタは笑った。

ただ……その努力は個人でやるっていう、そこは暗黙の了解に今年位からなってるな

——'90年辺りからバービーのステージって、ようやく切れ始めたなって気がしますが。

「意識は変わんないつもりだけど…、決めごとが減ってったっていうのはありますからね。昔はほら、"イエイ！"って言って何も返って来ないことへの恐さがあって、無理に決めてたから…。でも、それ考えると最近のアマチュアの子、すごいよね(笑)」

——余裕の表われですかね？

「緊張はするけどね。今でもステージ上がる前をグッと血糖値上がって、1ベル鳴った後なんかもう、"ウーッ"て、殺すなら早く殺してくれって感じで（笑)」

——今だにあるんだ。そういうこと。

「ハマったりすることも、ありますよ。家でベース弾いてて、ずっと馴れ親しんだフレーズなのに人差指から弾き始めるか中指から弾き始めるか悩むと眠れなくなるしね。だから…、ステージから落ちるって不安はもうないけど、(笑)そういう細かい所が…」

——真面目ですよね。バービーの人って皆、飄々としてるようできちんと考えてる。

「案外遊び心があるバンドじゃないですからね。ソロ活動だってヒョイってやるんでなくて、結構考えながらやってるし…、杏子だってラジオでは"ハ〜イ！"とか軽く言ってるけど、いざ家帰ると、来週は何を喋ろうかって真剣に悩んでるしね。ただ…、その努力は個人でやるっていう、そこは暗黙の了解に今年位からなってるな」

——そのせいかな。皆、ソロ活動をハデにやってるようでも、いざ集まるとすごくバンドっぽくなるのは。

「皆、その努力を人に見せたくないって、変な自我あるから。結婚した奴が実家帰って弟とか妹と久々に会ったら妙にお兄さんらしくなるみたいにさ。(笑)親に"ちゃんとやってるか？"とか訊かれたらちょっと金困ってても"大丈夫"とか答える奴いるじゃない。そんな奴ばっかだしね（笑)」

——そう言えばエンリケさんもソロで"バイシクル"ってプロジェクトを今年は。

「前からやりたかったからね。で…、ロンドンでそのバイシクルのレコーディングしてる所に突然、イマサが"よっ"て扉開けて入ってきたことがあってね。で、俺以外のメンバーってまだアマチュアみたいな奴ばっかだから、すげえ驚いてさ。(笑)しばらく口、きけなかったんだけど、それが今年の一番のニュースかも知れないな(笑)」

お前がここまでやるんだったら、オレもやるみたいな（笑）そんな感じなんですよね

実はまだ一年を振り返ったり'91年を予想したりは今はまだ出来ないですよ、などと苦笑まじりのコイソさん。その理由と、そんな1990年を駆け足で追うと…!?

――まず春のツアーなんですが、アルバム曲をすべてやるという構成でしたよね。

「そうです。全部やるっていうこと自体初めてだったし、やっぱりものすごい緊張はありましたね。アルバムの世界を表現するっていうので今回テープをかなりたくさん使ったし。あと、このときは始めっから飛ばしていこうかと思ってたんですよ。いつもヤマがくるころを予感できる部分ってあるでしょう？　15本目くらいかなとか。でもそういうのがこのときはなくてね」

――そのツアーが終わってビデオ撮影？　みなさんなかなか演技派で。（笑）

「そうですかねぇ。（笑）けっこうお前がここまでやるんだったらオレもやるみたいな（笑）、そんな感じなんですよね。最後のところも本当はベッドに乗っかってるだけだったのに、初めにコンタが芸をやっちゃったもんだからみんなやり始めて。しかも同じことはやっちゃいけないみたいな、僕は最後だったんで大変でしたよ（笑）」

――それで"水泳"。（笑）ところで、夏のイベントに入る前までオフでしたよね。その間のコイソさんの行動は……？

「オレはね、結婚式しました（笑）」

――とても有効なオフの使い方。

「（笑）。それであっという間にオフも終わって、7月ごろまたみんな集まり始めて」

――イベント、そして秋のツアーですね。

「そうですね。でも最近思うんですよ。ライブというものがもう非日常的なことじゃないから、リラックスする意味でも電車に乗ったり食事したりと同一線上にあるといいかなぁって。もちろんその上で気をつけなきゃいけないことはありますけど、ただ感覚的にそうなれたらいいかなっていう。まあ、とは言いながらもツアー中はそれで頭がいっぱいだし（笑）、終わらないことには次のこともわからないという」

――じゃあ'91年の話だなんて……

「ねえ、ツアーが終わらないと正月も来ないって感じなんで（笑）」

ステージの反応、感触は「それこそ日ごと夜ごと変わるもんで（笑）」。この言葉そのまんま、ツアーを心から楽しんでいるコイソさんにフィールド・バックしたい。

井上陽水さんのレコーディングに参加する機会があってさ……なんかこうハートに火をつけられて

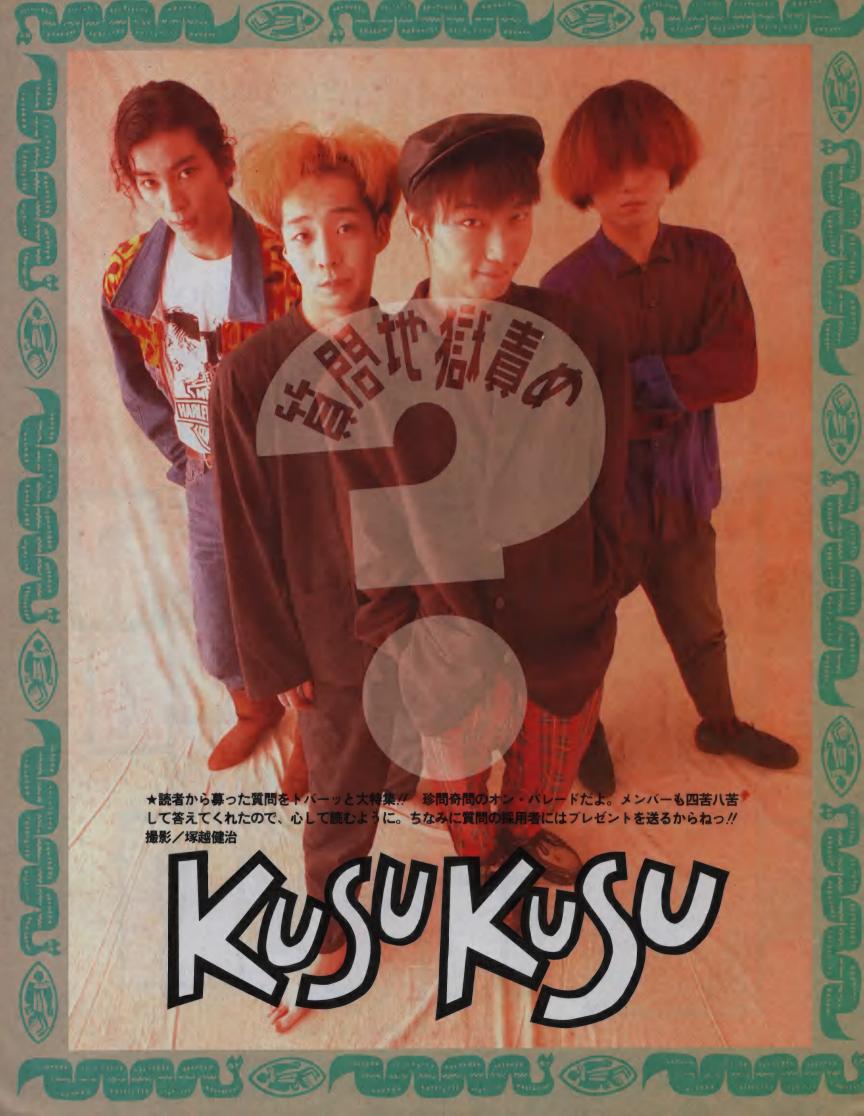
「20歳頃のことだからもう随分前なんだけど、俺、左手の指を親指と小指除いて3本、バキンって折ったことがあるのね。で、これでもうギター弾けねえな、って……」
——当然思うでしょうね。
「結果的には1ケ月半で直ったんだけど、何気なくもの取ろうとしてギロチン状態なわけでしょ？　もう、いつ何がおこるかわかんないっていうね、その時に似た気持ちが蘇ってきたのが6月5日のNKホールの最終日のコンサートで……」
——「eZ」に収録された奴ですね。
「うん。だから"明日死んでもいいように"って"全部記録しといてちょうだい"ってもともとビデオ回す手筈だったんだけど、こう、演出意図が絶対見えない、純粋なドキュメントにしたくてさ」
——"明日死んでもいい"なんて、バービーには似合わない言葉じゃないですか。
「あのさ、"路傍の石ごっこ"っていうのがあって例えばホテル・ニュージャパンの火事あったじゃない。あれをニュースで中継してる時にたまたま俺がその場にいてさ、丸メガネで髪立てて、手振ってたらどっちらけでしょ。(笑)そういうやらせっぽいことする気が一切なくなったっていう……」
——ステージも随分ストレートになりましたもんね。それって『eeney meeney barbee moe』って一つの転機にもなったアルバム作れたからなんですかね？
「だと思うよ。それと…、これは'89年のことなんだけど、『eeney～』のレコーディング中に井上陽水さんのレコーディングに参加する機会があってさ、その時、ドラムの山本（秀夫）さんとセッションしたんだけど、個人的にはそれで何かこう、ハートに火をつけられたってのが大きかったな」
——ギタリストとしての野性味、みたいな。
「うん。それと沢田（研二）さんに曲書いたんだけど、その時村上ポンタさんと（吉田）建さんと出会ったんだけど、それも刺激的だったし…、そういうのが結構、バンドにフィード・バックしたかな」
——ロック・バンドっぽかったですからね。90年は随分ね（笑）。
「だから、忘れてたり、遅れてたり……、踏み倒したりしてた支払いの請求書がドッと回ってきた年だったね。で、それを返済するか、さらに踏み倒し続けるか。その仕分けを今、してる所じゃないかな（笑）」

質問地獄責めの？

KUSU KUSU

★読者から募った質問をドバーッと大特集!!　珍問奇問のオン・パレードだよ。メンバーも四苦八苦して答えてくれたので、心して読むように。ちなみに質問の採用者にはプレゼントを送るからねっ!!

撮影／塚越健治

KUSU KUSU

Q まことくんはいつもシャッターチャンスを逃したような顔をして写真に映っていますが、それはわざとですか。（神奈川県　古賀寿恵）

まこと「イヤ、シャッターチャンスはずしてます（笑）」

Q 仲がいいバンド教えて！（千葉県　市川正江）

次郎「ボ・ガンボス」

まこと「RC」

MŪ「なにがRCだ（笑）」

次郎「FUSE、ユニコーン。いっぱいいますね。年上の方が多いんで、仲がいいなんて失礼かな」

Q 1番キライなものはなんですか。（千葉県　二宮正江）

MŪ「毛虫」

まこと「かわいいなぁ、MŪ」

次郎「お金」

MŪ「お、嫌いなの？　ちょうだい」

次郎「お金の制度」

まこと「ボクは特に思いあたりません」

SAY「ボクも特に思いあたりません」

Q まことくんに質問です。まことくんは髪が伸びるのが異常に早いと思うんですが、Hなんですか。（広島県　末田葉子）

次郎「変態なんです」

まこと「いやらしんです（笑）」

Q バンドをやってて良かったことはないんですか。（奈良県　中尾浩子）

次郎「………ない」

（爆笑）

次郎「…良かったこと……有名人になれる」

MŪ「だってやること自体が楽しいから」

次郎「やった」

まこと「その通りですね」

SAY「ただで御飯食える（笑）」

Q 今のパート以外をやるとしたら、何になりますか。（墨田区　横山厚美）

次郎「ダンサー」

SAY「ボク、ボーカル」

まこと「マラカス」

Q もし、とても好きな子が貞操が固くてなかなか抱かせてくれない子だったらどうしますか。（愛知県　BRAIN BREAKER）

次郎「これは、雰囲気でもっていかないとだめだね」

Q 4人は、何か免許をもっているんですか。（文京区　井上芳美）

まこと「車の免許」

次郎「ア、オレ柔道4級」

MŪ「ビデオ屋さんの…」

——それ、免許じゃなくて会員証。

SAY「テレホンクラブの…とか言って」

（爆笑）

Q 今だから言える過去最大の過ちは一体何なんですか。（静岡県　伊藤留美）

（一同　超大笑）

※内輪ネタでひとしきり盛りあがった後

MŪ「ナイです」

まこと「間違えてマンゴーの種をいっぱい買ったこと（笑）」

——MŪくんは？

MŪ「なんかあるかなぁ……オレ完璧だからなぁ……ない」

Q ずばり、パンツはブリーフ派トランクス派どっちですか。（広島県　上野美奈子）

まこと「トランクス派」

次郎「トランクス」

MŪ「トランクス」

SAY「トランクスもあるけど、ブリーフの方が多いな」

Q 今までで1番感動した映画はなんですか。（中野区　野上あずさ）

まこと「ドラエもん、のび太と共演」（？）

MŪ「ふうてんの寅さん。結構古いやつ」

SAY「…………」

一同「オー」

Q KUSU KUSUのアルバムのところにはいつも〝OTOKOGUMI〟って書いてあるけど、あの男闘呼組のことですか。（長野県　佐々木恵美）

次郎「ちがいます」

まこと「そうです」

次郎「ちがいますっ」

—なんのこと?
次郎「スタッフ…人材派遣の」
—そうなんですか
次郎「参ったな…」

Q イメージトレーニングとは、どの様にするのですか。(神奈川県　古賀寿江)
MU「頭の中で考えながら…」
まこと「パリでイメージトレーニングだって言ってたから、それだって」(笑)
次郎「自分の中の許容範囲というものを広げるための…」
MU「イメージが沸かない人が、一回ここで見とけば、後で思い出せる」
—あ、なる程。
次郎「それを自分なりにもっと広げることができたりとか」

Q 皆さんが最近凝っているものはなんですか。(千葉県　石濱忍)
まこと「背中」
次郎「ん?」
まこと「あ、カタ」
次郎「おもしろいねぇ～～」
MU「ふ～ん」
次郎「最近は…これからレコーディングなんでCDをきいたりとか、いろんな詞を読んだりとか」
まこと「別に…ないです。音楽きくこと」
SAY「料理。自分でやる」

Q LIVEに来るファンの人たちに、「こうして欲しい!」ってことがあったら教えて下さい。(東京都　久保田里美)
次郎「まわりの人に迷惑をかけないで欲しい。かけてもいいから、楽しく迷惑をかけてくれ」

Q F・Cの名前の"HABARIGANI"は誰が考えたのですか。(広島県　上野美奈子)
一同「とある人の妹」
—これ、どういう意味なの?
MU「ごきげんいかが?」
—なに語なの?
SAY「スワヒリ語」

Q 自分が曲を作って、それを他のメンバーに初めて聴かせる時って、どんな気持ちですか。(神奈川県　古賀寿恵)
次郎「バカにされたらやだなぁ(笑)」
MU「笑われたらやだなぁ(笑)」
まこと「嬉しい。やっと聴かせられるから。でも、聴かせる段階にいくまで異様に時間かかってあんまりそういう経験ない(笑)」

Q 最近、ファンの子でKUSU・KUSUのメンバーの衣装を真似てライブに来る子がいますが、それをどう思いますか。(荒川区　小次郎)
次郎「なんとも思わない」
まこと「なんとも思わないけど、ちょっとびっくり」
MU「あれで、外を歩いてると思うと……ププッて感じ(笑)」
まこと「やめろとは言わないけど、プププッて感じかな」
MU「10年たったらはずかしいぞ(笑)」

Q ライブの最中、ファンにやって欲しくないことは。(福島県　桑原聡美)
一同「……(考える)」
次郎「やっぱ、迷惑かけたらダメだよね。人の耳元でクラッカー鳴らしたりさ。そういうみんなで楽しさを味わってる時、雰囲気をぶちこわすのは、オレがお客でも腹立つから」

Q コンサートで緊張しないためのおまじないとかありますか。(三重県　藤本亜希)
まこと「緊張したままやります」
SAY「1人になる」

Q 次郎さんは、あるラジオ番組で大槻ケンヂさんと「北海道の不良は密猟するんです」と言ってましたよね。(北海道　岩本亜由美)
次郎「言ってないよ、そんなこと(笑)」
MU「イヤ、言ってた。オレきいてたもん」
次郎「(笑)言ったっけ(笑)……うん、する奴もいる。でも、不良の奴の方が確立高いよ。不良じゃなくてもしますけどね(笑)」
SAY「密猟ってなんの密猟?」
次郎「シャケ」

質問地獄責め

Q もし"あと2日で死ぬ"と言われたらどうしますか。(徳島県　森伊都子)
MU「1日ライブやって、1日好きな人といる」　一同「オー」　SAY「世界に残る名曲を作ります」　一同「オー」

質問地獄責め

Q 今現在、1番欲しいものはなんですか。（広島県　上野美奈子）
SAY「あの子のハート」（一同　大爆笑）
次郎「時間と才能」
一同「オー」
MU「CDウォークマン」（笑）
次郎「せこい！　せこすぎる（笑）」
まこと「ポルシェ928」

Q もしバンドをやっていなかったら、どんな職業についていたと思いますか。（葛飾区　為我井恵）
次郎「食堂の兄ちゃん、実家が食堂なもんで（笑）」
MU「イヤ、分かんないです」
まこと「風呂屋の番台」
SAY「野球の選手」
まこと「ギャンブラー」

Q プロ野球で、どこのチームの誰が好きですか。（広島県　岡川由紀子）
次郎「みんな知らない（笑）」
MU「あんまり興味ない」
まこと「あんまり好きじゃなくなった」
SAY「阪急」
（笑）
次郎「じゃあ、南海（笑）」
（笑）
SAY「ないです」

Q メンバーの中で、1番運動神経のいい人は誰ですか。（大阪府　小岸桃子）
一同「オレ！」
（大爆笑）

Q SAYさんは、なんの楽器で曲を作ったりしますか。（大阪府　小岸桃子）
SAY「鼻歌」

Q オバケとかオカルト関係はこわいですか。（奈良県　古川千夏子）
次郎「イイエ」
一同「……」
次郎「ごめんなさい。こわいです（笑）」
MU「こわいです」

Q MUくんに質問。MUくんはHなんですか。（奈良県　古川千夏子）
（一同　爆笑）
MU「え？」

Q SAYちゃんの世界が1番幸せな日ってどんな日なんですか。（奈良県　古川千夏子）
SAY「…………」

Q SAYちゃんはなぜ美しい顔立ちをしてるのですか。（中野区　野上あずさ）
SAY「分かりません！」

Q お父さんとかお母さんもきれいな人ですか。（中野区　野上あずさ）
SAY「分かりません」
次郎「イヤ、キレイだよ」
MU「お母さんすごく若いの」

Q 北海道の方はおみそ汁の中に牛乳を入れるそうですが、おいしいんですか。（千葉県　石濱忍）
次郎「なめてんのか、コラッ……って書いといて下さい」
（大爆笑）

Q 最近のログセはなんですか。（中野区　野上あずさ）
次郎「にゃろ〜。（笑）ハナちゃんっていつもローディやってる子がいるんだけど、その人にうつされたの」
MU「愛羅武裕」
（笑）
まこと「のっとり」
——なにそれ。
まこと「のっとり生きるって感じ…」
（笑）
SAY「…………」

Q 私の家に古いギターがありますが、家族には誰も弾ける人がおりません。どうしたらいいでしょうか。（大分県　竹本さおり）
MU「KUSU KUSUの楽譜が出るからそれを見て練習する」
一同「オ――ッ」

Q なんで、ぢろォ、FUSEのTAKUとお尻出したの？（杉並区　野沢洽子）
次郎「なんでだっけなぁ……。なんか元々ね、一時アイドルアイドルって言われることにすごく反感をもってて。それで、そんなにアイドルっていうとケツ出すぞこの野郎って言ってたら、言うんだったら出してみろよとか言われて、ホントに出すはめになった。んで、TAKUちゃんは、オレに〝次郎お前ホコ天に来いよ〟とか言って、で、オレが〝じゃ、ホコ天に行ったらいっしょにケツ出すんだよ〟とか言って、オレホコ天に行ったから、出すことになったの。

?質問地獄責め

でもねー、TAKUちゃんなんか、ピュッって出してヒューって逃げてんの。オレ出してふったのに（笑）」

Q まことくん以外の人に質問します。よくまことくんは嘘つきだと呼ばれていますが、どのくらい嘘つきなんですか。（茨城県　稔崎和佳子）

MU「言ってることの80%」

次郎「生きてることがウソだもんね」

（超爆笑）

Q まことくんは自分がみんなに言われるほど、ウソつきだと思いますか。（茨城県　稔崎和佳子）

まこと「思いません（即答）」

（超大爆笑）

Q 次郎くんに質問です。最大のライバルは誰ですか。（埼玉県　佐々木愛）

MU「自分？（笑）」

次郎「イヤ、自分っていうのはよくあるからさぁ（笑）……母さん」

（超大爆笑）

Q いやなことがいっぱいあって悲しみのドン底状態になった時、どうやって自分を立ち直らせますか。（大阪府　香川恵）

次郎「海にオカリナを吹きに行く」

MU「かわいいねぇ」

（笑）

まこと「じゃあ、某所に尺八を吹きにいく（笑）」

SAY「自分で励ます」

（爆笑）

まこと「ねる」

次郎「ハッピーな音楽をきいて、自分はいかにもハッピーだと思いこむ」

MU「次郎と遊ぶ」

（笑）

Q 音楽を続けてきて学んだことってなんですか。（愛知県　沼倉美智子）

一同（考えこむ）

次郎「そうですね。人として」

Q みなさんの中で、1番お酒を飲む人は誰ですか（大分県　竹本さおり）

一同「SAYちゃん」

——酔ったらどうなりますか

SAY「そん時によって。うるさい時もあれば、絡む時もある」

まこと「きっとカゲで…あれるんだよ、とか言われるタイプ」

（笑）

Q 仲間われをすることはありますか。（千葉県　まさよ）

次郎「あります」

——どういう時に？

次郎「仲間割れっていうか……なんかいろんな形であるよね。言い合って時もあるし、なんにもしゃべんない時もあるし」

——原因はどういうものが多い？

MU「やっぱりバンドのこととか」

次郎「でも、バンドのことっていうのはケンカじゃないんじゃないかな」

Q 「オレンジ・バナナ」をどうしてアルバムの中に入れないんですか。それとも今後シングルになりますか。（千葉県　長谷川さおり）

次郎「一応オムニバスの作品として出たんです、今は出す気はないなっていう。でも、もしかしたら何年か後に〝やっぱあれがボクたちの原点だ〟って言って出しちゃうかもしれないし…」

MU「30すぎて…♬オレンジ・バナナ～♬っていうの？（笑）」

（笑）

次郎「今んとことりあえず、出す気はない」

Q KUSU KUSUのリーダーは誰なんですか。（千葉県　長谷川かおり）

次郎「じゃあ、オレということで」

Q まことくんはKUSU KUSUに誘われた時、本当にベースしかなかったらどうしましたか（神奈川県　吉川たかよ）

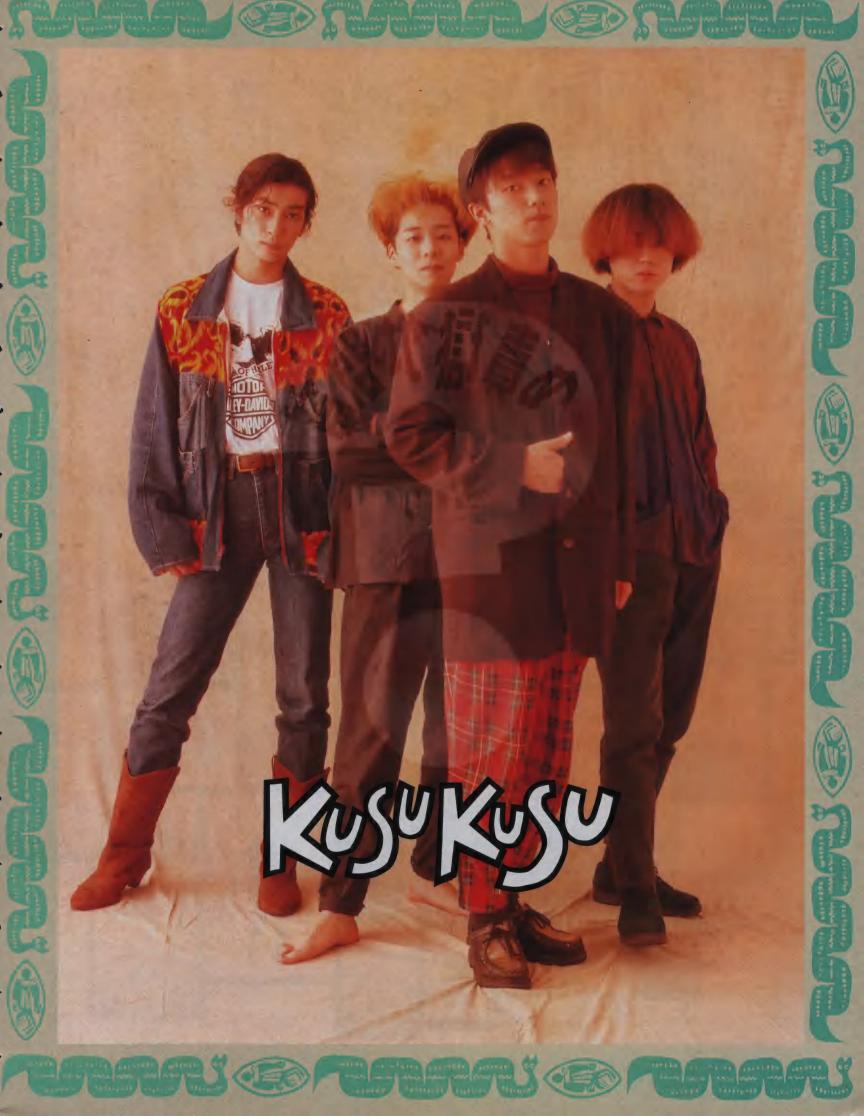
（一同　大爆笑）

まこと「ベースやりました」

（笑）

——ホントに？

まこと「う～ん…多分ね」

KUSU KUSU

HOW WONDER they are!

DREAMS COME TRUE 1990

●wonder〔wʌ́ndər〕（意味）驚異，驚くべきこと，不思議，不思議に思う，知りたい気持ちになる，傑出した，特に優れた，etc.…………まさに〝wonder〟なドリカムのwonderfulな90年。総まとめです。

撮影●一色仁　文●佐々木美夏　スタイリング●熊谷章子（TEAM JUBILEE）　ヘアメイク●内山久美子(TEAM JUBILEE)

衣装協力●SMD03(780)4565, Only Shop Ocupado03(464)0980

アッという間だったということはやっぱり楽しかったんだと思う。

●90年を振り返って

吉田　いい年でした。(笑)アッという間だった、今年も。

中村　やっと一番が取れたことが嬉しかった。

吉田　思うんだけど、アッという間だったということはやっぱり楽しかったんだと思う。すごい楽しかったり集中してたりするとパッと時間が経っちゃったりするじゃないですか。それが延々と続いてアッという間に終わっちゃった。

西川　充実していました。忙しいとかそういうのが、今まで生きてて一番多かった年だと思います。これからもまだ忙しくなったりするんでしょうけど、きっと今まで働いてきたりした中で一番充実してたんではないかと。

●一番印象的だった出来事

吉田　私はサイに会ったこと。(笑)ガクゼンとしましたね。サイの持つ雰囲気っていうか、サイが放つ独特の空気に。(A to Z参照)

中村　サイに一目惚れしたんじゃないの?

――前世がサイだったのかもしれない。

吉田　いや、そんなことはないんじゃないですかね。(笑)あれはちょっとなんか……でも……よかったですね。

――これは人に教えなきゃいけないなと。

吉田　そう、ぜひみんなにサイを見てあの驚愕する気持ちを味わってほしいですね。(笑)

中村　僕は……そうですねぇ。親父が死んだことですね。

――いつ亡くなられたんですか?

中村　えーとね、レコーディング中に死んだんですよ。この新しいアルバムを親父聞きたがってたんで、ま、でも聞いてると思いますけど、そういうのでなんか大人になりましたね。(笑)

――いろいろと考えるところが。

中村　いやいや、そんな深くはないんですけど、なんかますます、そのことによって僕が信じてるものが正しいんだと……ま、漠然としたもんですけどね、そういう感じで。そういう意味でこのアルバムはいろいろな人とに聞いてほしかったですね。そういうことです、ハイ。やっと大人になれた、と。今まではコドモでした。(笑)

西川　僕はやはり春のツアー、地元でやったときが印象的ですね。地元でこんなに早くコンサートができたってことはすごいことだと思うから、すごく嬉しかった。

中村　ま、5年後って言ってましたからね、帯広でやるのは。初め帯広の小さな会館とったんですけど、そのうち大ホールになって、そこもすぐ売れ切れたってことはやっぱ2人にとってはものすごく早かったでしょうね。

一番嬉しかったこと。……いっつも嬉しいからなぁ。わかんないね。

吉田　デビューしてから1年位で行ったもんね。

——親とか友達とか勢揃いで?

吉田　もう親戚一同。(笑)大変だったんだよね。おじさんとかが垂れ幕作っていかなくていいのかとか本気で言うんですよ。市長さんと一席もうけなくていいのかとか、講演会みたいのはどうするとか、真面目にそういう話が出てちっと驚きましたけど。(笑)「いや、私たちはパッとやってパッと帰るからいいです」とか言って。

●一番嬉しかったこと

吉田　いっつも嬉しいからなぁ。

中村　いつも嬉しいから。

吉田　わかんないね。

中村　全国ツアーが打てたこと。

西川　ラジオとか有線とかで自分たちの曲が流れてるのを聞いたりしたこと。

——去年までそんなことなかったんですか?

西川　例えば偶然にスーパーに入って聞くとか、そういったことはなかったんですよ。流れてるんだろうけど、でもやっぱり今年は頻繁に流れてるみたいで。

●一番怒ったこと

吉田　ありませーん。

中村　俺も別にないかな。

西川　僕もないです。

●一番泣けたこと

中村　映画を見て。親父が死んだあとロンドンに戻る途中に飛行機の中で見たのが、ちょうど死んだ親父がお化けになって出てきて息子に今までの2人のことを話す映画で、それを見たら泣けちゃいましたね。地味な映画なんですけど、それまで実感が湧かなかったのがそれを見てなんとなく……まぁみっともないことですけどね、いい歳して。(笑)

吉田　「WONDER3」ツアーが始まったんですけど、私はよくどこにでも泣くと書かれているので、チクショウ、もう今回のツアーは泣かないぞと思って出ていったのに、みんながキャーッなんて言ってるのを見たら嬉しくて嬉しくてアーッなんて言って泣いてしまった。(笑)やっぱ嬉しいもんですよね、あれはね。何回やっても全然変わらないの。嬉しい度合いとか感激ある度合いが。もうついつい嬉しくてちょっとこう……。でも悲しくて泣くことはめったにないです。まぁ今年は私もおじいちゃんが亡くなっちゃったりとか中村っちのお父さんが亡くなっちゃったりとかでふと……ホントは悲しいじゃいけないんですけどね。でもやっぱり修業が足りなくて悲しかったですね。

西川　僕は……秘密です。

ジキルとハイドみたい。ホテルの廊下に寝てましたから。

——あ、なんかよっぽどのことが。

中村　ね。(笑)

●一番おもしろかったこと

中村　トランプの〝スピード〟と〝赤黒〟の違いがわかったこと。あのときほど笑ったのはホントにここ何年かぶりですよ。

吉田　つい1週間位前だよね。

中村　吉田と2人でやってて。最初〝スピード〟やろうって言うからやって、〝赤黒〟やろうって言うからどこが違うんだよって。その違いがわかったときはおもしろかったですね。(笑)

吉田　おもしろかったことは……全部。(笑)

西川　たくさんありました。

中村　ニーヒャが酔っぱらったこともおもしろかった。

吉田　あーホントホント。

——人をおもしろがらせてしまったんですね。

中村　最高でしたよ。ふだん喋んないのにもう別人でね。ジギルとハイドみたい。ホテルの廊下に寝てましたから。(笑)

●一番驚いたこと

中村　EPIC・ソニーが赤坂に移転したこと。

吉田　あれ驚いたよねー。ビルの中に竹が生えてるんですよ。来年の春は絶対竹の子出ますよ。

中村　そうそう。みんなで竹の子狩りに行こうと。

——西川さんは？　自分が酔っぱらってしまったこと？　(笑)

中村　(笑)憶えてないんだもん。

西川　近いところで言うと、青学の学祭に出る前の客の盛り上がり。

吉田　あーすごかったねぇ。すごかった。

西川　ホラ、学園祭っていうと、青学の生徒は好きでも嫌いでも見に来たりしてて、醒めたのが半分位いるのかなって思ってたんですよ。でも出る前からみんなワーワー言って。

吉田　あのときもちょっとナミダ出た。

●91年のたくらみ

中村　91年は90年より風邪ひく回数を少なくしたい。あと、僕も吉田のマネしてレコーディングの後ロンドンに残りますから楽しみです。

吉田　私はロンドンに残ってる間にいろいろと旅行に行きたいなと。ねぇみんなでドミニカ共和国に行こうよ。

西川　僕は、ぶっ飛びですね、やっぱり。

——いきなり。(笑)

西川　常にぶっ飛んでいたいですね。

中村　川越美和さんと対談したいんでしょ。

西川　あー対談したいんですよー。(笑)なんて嘘ですよ。ホントにやられたらぶっ飛ぶだろうな。(笑)

A to Z DREAMS COME TRUE

●A～Zまでのアルファベットから連想するものを自由に答えてもらいました。水色は中村さん、赤色は美和ちゃん、黄色は西川さんです。「R」は「私にも答えさせて!!」という美和ちゃんの飛び入り参加アリです。

A 中森明菜

★僕歌謡曲が大好きだったんです。明菜さんの「少女A」が出たときはアセリました。明菜さんのキャラクターが、あまりにもすごいものを発していたので。いや、すごかった。

B バスト・フラット・チェスト

★ペッタンコの胸のことをフラット・チェストっていうの。

C Come

★Dreams Come Trueの"Come"。今年はドリカムが来たな、っていうか、お陰様でCDも好評で、全国ツアーもできて、順調にやってこれたなと思っています。

D ディレクター

★うちに山本慎太郎という、全くドリカムのメンバーのようなディレクターがいます。ドリカムは彼じゃなきゃ、できなかった。彼の価値基準は僕らの価値基準と全く同じ。特に吉田とは"ザル兄弟"と言われてます。もうウッキッキ兄弟ですからね。本当ドリカムにはなくてはならない人物です。どうもEPICソニーでは今いちばん人気あるらしいですよ。(笑)

E エナジー

★高校生のときの体育祭の応援合戦で、私の率いるEブロックが優勝したんです。だからそのときの、輝かしいオレンジ色のエナジーが感じられますね。Eには。

F FACE

★つくったものじゃなくて、人を安心させられるような表情が、自然に出るようになればいいなと思っています。

G 重力

★Gは重力の単位ですよね。重力から始まって地球、宇宙といったものに思いをはせるとき、やっぱり人間は宇宙のバランスからはずれてはいけない、とこの頃よく思いますね。

H ハイパー

★ハイパーって"元気"というより"躁状態"っていう感じかな。サイケで。ライブやってるときなんかは、ある種そういう状態なのかもしれない。

I イニシャライズ

★イニシャライズってシンセだと、初期設定とか初期の状態に戻す、っていう意味なんです。……やはり「初心忘れるべからず」ですかね。

J JAPAN

★僕らのグラミー賞をとる夢っていうのは、僕らが歩いていく道での1チェックポイントなんです。インターナショナルになるっていうことは、JAPANから飛び出すことじゃない。基本的にはあくまで日本にいて、日本のリスナーの人たちと密接な関係を保ちながら、そのリスナーの人たちを海外にも増やす、という意味での海外なんです。日本がひとつの器だとしたら、そこからこぼれ始めたところが世界であってほしい。やっぱりJAPANが基本です。

K お父さんとお母さん

★カズオとカズコっていうんです。両方Kでしょ。カエルのような父とアヒルのような母です。

L LOVE

★今までも、そしてこれからも僕らの音楽のテーマであり、また僕自身の生きていくなかでのテーマです。人に自然にやさしくできる人間が僕の理想なので、そうなりたいです。

M 正人

★正人ってどういう字を書くんですか、と聞かれたときはいつも「正月の正に、人間の人」って言ってます。「正しい人」なんて言えませんからね。一生僕はこの名前に照れながら生きていくんだろうな……でも正人って名前はとても気に入っています。

N 小学校のとき好きだった人のイニシャル

★小学校の5年生のとき1こ年上の人で、サッカー部ですごい蚊トンボみたいに細い人でしたね……でも初恋じゃないです。(笑)

O オープンロード

★うちのPAやってくれてる会社です。いつもお世話になってます。

P パチ▼パチ

★パチ▼パチ編集部の芳賀さん(元・担当)が、今後どこまでふくらんでいくか、楽しみですね。

Q Qという文字

★Qの文字の円からできてるとことか、このしっぽみたいのがちょんってついてるとことかがすっごく好き。だから小文字になっちゃうとちょっと悲しい。(笑)

R レコーディング

★レコーディングは楽しいです。1枚めのときからコンセプトとか決まりみたいなの決めないで作ってくることができて、でそれをリスナーの方たちが気に入って下さっているようなので、えー、光栄です。

R ライナセロス

★今年いちばんのヒットはロンドン動物園でサイと出会ったこと。なんかもうものすごいインパクトで動けなくなっちゃったくらい。象よりおっきいんだよ。……あのサイはパワーを発していたんですよ、私に対して。これはもうこの人のことみんなに知らせるのは私の役目だと思って。とにかく強烈!でした。

S スーパーでスペシャル

★これは「うれしい!たのしい!大好き!」のなかに出てくる歌詞の一部です。スーパーにしろスペシャルにしろひょっとすると使い古されてたり言うのも照れくさかったりするような単語ですよね。でもそれが吉田美和の手にかかると、出てくるタイミングといいリズムといい、まさに吉田美和の詞の世界になってしまう。これは最も顕著な例ですね。

T TEA

★私はコーヒーが飲めないんですが、紅茶は大好きです。紅茶がないと朝が始まらないっていうくらい。毎朝起きるとまずおいしいお水で紅茶を入れて、大きいカップで2杯は飲んじゃいますね。

U UTD

★これはなんてことない、「うれしい!たのしい!大好き!」の略です。「うれしい―」は長いので、曲順表とかには"UTD"と書いてキーボードに貼ってます。

V VICTORY

★僕は負けず嫌いなんです。負けるとわかっても勝ちを狙ってイキがってしまうというか。吉田と西川はほんとに自然体でやってるんですけどね。でも、もうドリカムは絶対に勝たせたい。セールスとかそうことではなくてね。やっぱり、いちばん好きですから。

W WONDER3

★今回"WONDER3"という言葉にピンときたのは、「W」という文字にひきつけられるものがあったのかもしれない。「W」の形って、末広がりで上向きで、いいでしょ。

X X＝見えない部分

★人には見えなくていい部分とか、わからなくてもいい部分という意味でのXって、あったほうがいいのかな、って思います。見えちゃったらくずれてしまうイメージというのもあると思うし……。何に関してもXの部分はあったほうがいいんじゃないかな。

Y YES

★僕らには否定的な考え方がないんです。僕はずっと否定的な考えをしてきた人間ですが、吉田と西川に会って、彼らの生き方とかそういうものを見て、それがいかにバカバカしいことであるかを学びました。常に肯定的(YES)であることは、すごく大切なことですよね。

Z 始まり

★一般的に最終地点とか終わりとかみられているものは、同時に必ず、また何かの始まりの信号なんですよ。だからZはまた新しいものへの始まり。

KATZE LOOK BACK

★KATZEにとっての1990年はどんな年だったんだろう？　90年初めには、まだ“STAY FREE TOUR”をやってたんだから、その後2枚のアルバムをリリースし、2つのツアーをこなす彼らの猛烈スピード振りがわかるというもの。この1年間で、意識も、サウンドも大きく成長した彼らだから、きっと1991年には更なる飛躍を見せてくれるに違いない。ついに“本物の本性”を見せ始めた彼らの声を聞け!!

PHOTO●KAZUHIRO KITAOKA TEXT●A-1 YOSHIMURA HAIR & MAKE-UP●AKIHIKO YASUMURA STYLING●MAYUMI NIHEI

ATSUSHI NAKAMURA

今年になって使命感が生まれてきた。自分の音楽のためなら死んでもいい。

——今年、どうだった？

中村　今年はおれにとってもKATZEにとっても、すごく大切な年だったと思うね。ただおれ自身は不満もあるんだけどね。

——たとえば？

中村　大事なときに倒れたりしてたのよ。体調がよくなかった年なんだよねえ。

——なぜそんなに体調を崩したの。

中村　いやあ、それがわかんないんだよ、全然。去年の秋っていうのも同じような感じだったんだけども、いつも体調崩すのって突然なの。前の日までなんともなくても、次の日、ガクンとなっちゃう。

——じゃあ、もう自分で次の日にどうなってるか予想できないんだ。

中村　できないできない。（笑）たとえば単純にカゼをひく、みたいなことじゃなくて原因不明。

——医者に診てもらっても？

中村　入院、3回したよ、今年。で、まあ、そこで言われたのは疲労とストレス。

——そのストレスの原因は自分でわかるのかな。

中村　そりゃ、いろんなストレスあるっていうのは自分でわかるよ。なにもかも自分の思う通りにはいかんからねえ。もう、ほとんどにいろんなことが。

——そのストレスはバンドやってるってことと当然関係あるんでしょ。

中村　バンドマンになるまではねぇ、おれ、健康優良児だったんよ。（笑）気を張ってバンドやってるでしょ。だからバンドが何かをやるって前には倒れないの。そのかわりレコーディングが終わったりとかロケが終わったりすると、もうバターッて倒れる。（笑）

——じゃ、ツアーのあとなんかは特に要注意。

中村　今度のアルバム（『LOVE IS HERE』）の曲ってねえ、キーがどれも高いんよ。だから音の曲とおんなじような感じでやってると、疲れてねえ、体力を全部とられちゃう。あぶないなあ。ステージの上じゃ絶対大丈夫なんやけどねえ。

——ところで、その体調の点を除けば、今年はいい年だった？

中村　具体的な活動に関してあれがあったからいい年だったとか悪い年だったとかは感じない。ただ自分のなかで改革というかある意識の目覚めってのがあったから、そういう意味では良かった。おれのなかで確実にプラスになってる。

——その意識とはどんな意識？

中村　あのねえ、90年代ってものにすごく魅かれるようになったの。今年になってから使命感みたいなものが生まれてきたのね。その使命感っていうのは、自分の音楽のためにならら、死んでもいい、ってこと。もっとくだいて言うなら、ミュージシャンになりたいなあ、って意識。もう、ほんとのミュージシャンになりたいんだ、おれは。音楽で半端なことは、もう絶対にやらないって決意でもあるよね、それは。

——というと。

中村　あんまり具体的なことは言いたくないんだけど、音楽に関係ないことはもう、いいって気がすごくするのね。とにかく本当の音楽をひたすら求めていくって意識に目覚めたってことかな。

——じゃあ、そういう意識が出てきた90年代っていうのは、5年後、10年後に振り返ってみたとき、中村さんにとってすごいターニング・ポイントになった年なのかもしれない。

中村　そう。それにそう思えるようにこれからやってかなきゃダメだ、とも考えてるよ。そう決意してやってくんじゃなければ、バンドをやってる意味なんてないと思うよ。ちょっとエラそうに聞こえるかもしれんけど。（笑）

——これは今年だけじゃなくて、KATZEを始めてからここまで、悔いの残った年ってあった？

中村　悔い？　ないよ。もちろんおれ自身の体調の崩れ、っていうのとかはあったけどね。バンドの活動としてはない。悔いの残らんように、っていうのはおれらのやり方やからね。来年はほんと、カラダにだけは注意してやってきます。（笑）

YASUNORI TAKAYAMA

今年はプロのKATZEの1年だったって言えるんじゃないかな。

——今年を振り返ってみると？

高山（靖）　今年一年ねえ。正月が明けて、すぐ『GOOD TIMES……』の最終的な仕上げがあって、っていう年だったんだよなあ。

——年が明けて、さあ新しいことを、って感じじゃなくて、前の年の仕事がそのまま続いた、と。

高山（靖）　だから、今年一年っていうのは『GOOD TIMES』の1年だったって言えるよねえ。いままで、ファーストとセカンドを出してはいたんだけど、何か違う、ってのは感じてたの。アマチュアの頃やってたことそのままを出してたものだから。その違うって感じがなくなってきたが2枚目で、完全になくなったのが『GOOD TIMES』だったんだよね。だからそのことによって、KATZEは本当のプロになった。今年はプロのKATZEの1年だって言えるんじゃないかな。

——プロのKATZEの1年……。

高山（靖）　楽しい年だったよ。楽しいし、忙しいし、しかもそれが苦にならない年だった。1年でアルバム2枚出して、ツアーも2回やる。だけど全然苦じゃなかったね。

——じゃあ、今年の活動で不満だった点はない？

高山（靖）　夏のイベントに出れなかったっていうのは不満。ちょうど『LOVE IS HERE』の録音と重なってたからなんだけど、まあ、それも仕方ない、新作の録音の時期としてはよかったと思うよ。暑い夏にさわやかな気候のオーストラリアで気持ちよく作れたってのあるし。あとは『GOOD TIMES』のツアーが短かったことかなあ。アルバムを出して、それからずっと待って、ようやく始まったツアーがすぐ終わっちゃったからねえ。それが心残りっちゃあ、心残り。

——だけど、その夏のイベントを犠牲にして作った『LOVE IS HERE』はかなり手ごたえのあるアルバムになったでしょ。

高山（靖）　そうだよねえ。だから5年、10年あとから振り返ると、今年ってすごいいい年だったんだろうなあ、と思うよね。思い出の1年。

——91年の目標なんてのは、ある？

高山（靖）　そういうの持たないようにしてる。その場その場で対処していくほうだから。だいたい、何に関しても予想したとおりいったためしがない。（笑）だからもう、どっしり構えて、何かあってもそれにあわてずに対応していくしかないの。

——そういう、特に目標みたいなものを持たずに、っていうやり方はこれまでずっとうまくいってる？

高山（靖）　うん。レコーディングなんかにしてもそういうやり方だし。で、まあ目標を強いてあげるとするなら「明日は楽しく生きたい」だけ。

——じゃあね、目標というんじゃなくて、91年はどういう年になるっていうヤッちゃんの大予想を。（笑）

高山（靖）　う〜ん、そうねえ。91年は楽しく生きる年ですよ。（笑）

——どう楽しく？

高山（靖）　なかなか難しいこと聞くなあ、この人は。（笑）ライブとかレコーディングとか、すべてに関して言えるんだけど、とにかく悔いが残んない、ってのが楽しいんじゃないかなあ。女の子と遊ぶにしても、（笑）酒飲んでゲロ吐くときも精一杯！　身を削るって言うのかな、その削った身を大きなものにしたい。だからいままでのKATZEの活動には、精一杯じゃなったこと、ないよ。悔いが残った年ってのもない。

——じゃ、最後に、ヤッちゃんとしては、もうひとつ、今年の大きな思い出として「BIG BOSS」があるんじゃない。（笑）

高山（靖）　親父があの曲、シンミリ聞いてんだよねえ。（笑）あのハードロックをだよ。煙草吸いながら。あれはなんかねえ、やってよかったな、って思う反面、こっちまでシンミリしたって部分がある。（笑）親父が照れながら言うの、「おい、このBIG BOSSちゅうのはワシのことらしいな」。（爆笑）で、次の日に、周りの人みんな呼んで「これはワシの曲だ」って何回も聞かせてるの、あのハードロックを。（笑）喜んでもえらてよかったよ、ほんと。

KATSUNORI TAKAYAMA

ツアーに出ることだけは、誰も急かしてくれなかったんだよなあ。

ーー今年を振り返ってみると、ずいぶん忙しかったんじゃないかと思うんだけど。

高山（克）　いや、そんなことないよ。

ーーだけどアルバムを2枚出して、そのうちの1枚は海外録音。ツアーも2度やったでしょ。

高山（克）　そう見えるかもしんないけど、そのツアーにしたって、おれたちが実際やったのって1月だけだもん。

ーーすると、それほど感概みたいなものはない？

高山（克）　ないです。なんかおれはさあ、今年はいろんなこと急かされすぎたような気、するんだよねえ。たとえばさあ、やれスペインに行くからパスポート作れだの、やれ沖縄ロケに行けだの、レコード作れだの、いろいろとねえ。それでおれたちが本当に待ちに待ってたツアーが短くなっちゃって。

ーーそれはたとえばKATZEが急かされないと動きださないバンドだとかは……。

高山（克）　そんなことないと思うよ。（笑）おれたちは他のバンドみたいに曲がいっぱいたまったからアルバム作ろうとか、時期をみてアルバムを出すっていうんじゃなくて、言いたいことが先にあって、それからアルバムを作りはじめるっていうのがベストだと思っているわけ。

ーー今年はそういう態勢じゃなかった？

高山（克）　しょうがないよね。だってそんなワガママ言えるような、アルバム1枚作れば、1年でも2年でも遊んでられるほど大物じゃ、まだないからね。（笑）

ーーだけどアルバムを作るのが嫌いってことじゃないでしょ？

高山（克）　そりゃ好きだよ。曲を作るのも、子供作るのも大好き。（笑）だから自分の理想の態勢でそれができればこんないいことない。

ーーおまけにツアーも好きときた。

高山（克）　好きだよお。あんな楽しいもんないよ。だから『LOVE IS HERE』の録音前のインタビューじゃ、おれたちどれ読んでも怒ってんの。（笑）「なぜいまアルバム作るんですか？」って質問されると、おれたちの顔がいきなり変わってるんだよ。「せかされただけだよッ！　作れってもん、仕方ねえじゃねえか」。ツアー続けたくてしょうがなかったからさ、いきなりドスきかせてしゃべってんの。（笑）おれたち、そのときどきにやってることに没頭しちゃってるからさ。ツアーやってるときはもう、その日のステージのことしか頭にないんだよね。だからそういうときに「さあアルバムを作ろう」なんて言われると調子が狂うんだよ。それで逆に意地んなっちゃって、絶対誰にも負けねえアルバム作ってやる、なんて気になるのよ。「リハーサルは絶対ひと月欲しい。そのかわり夏のイベントなんかには出ねえからよ」って、今度はアルバム作りだけに没頭しちゃうんだよ。だから、不満はあった年ではある。

ーーやっぱり、最近そういう大きなシステムみたいなものへの不満がでてきてるのかな。

高山（克）　やっぱりおれら4人だけじゃどうしようもないことって多いよね。これがたとえばライブハウスを廻ってるような規模のバンドだったら、おれたちこうしたいって言えばすぐ通っちゃうんだろうけど。だから正直いって、おれたちがオーストラリアから帰ってきたのが9月頭でしょ、もうそれからすぐにリハーサル始めて、10月からはツアーやりたかった。それが衣装だセットだ、って時間かかっちゃった。ほんとはさ、『LOVE IS HERE』なんて普段着のアルバム作っちゃったんだからさ、衣装なんて、普段着でもいいくらいなんだよね。おれたちは急かされた、急かされたって言てるけど、ツアーに出ることだけは誰も急かしてくれなかったんだよなあ。（笑）

ーーじゃ、今年は不本意なことで急かされつづけた1年だった、と。

高山（克）　そう、本当にやりたいことじゃなく、別のことで急かされどうしの年だったよ、今年は。（笑）

SATOSHI ONOUE

う〜ん、1990年は起承転結の"転"みたいな感じの年。

——いい年だった、今年?

尾上　う〜ん、おれ、何してたんだろうなあ、今年って。

——スケジュールを見るとスカスカだったって気、します? それともギッシリ詰まってたな、と?

尾上　特別忙しかったとも思わないけど、別に時間的に余裕があったとも思わないなあ。

——どっちなんですか。(笑)

尾上　う〜ん、(笑) 難しい。

——じゃ、去年と比べてどうだったのかな。

尾上　去年とはまるで違った年だった。だけど基本的にはおれって、あんまり過去を振り返んないほうなんだよねえ。

——そこをなんとか。(笑)

尾上　そうねえ。今年メインだった出来事はって言うと、やっぱり『LOVE IS HERE』を作ったことだろうなあ。あのレコーディングはわりとうまくいった。

——すごくいいアルバムになったよね。

尾上　うん。だけど作ってみて、「やったぜ!」っていうのとは感じが違うんだな。なんて言うか「どう、いいでしょう」みたいなアルバム。

——今年不満だった点というと?

尾上　いっぱい。今年に限らずね。

——じゃ、今年の不満は?

尾上　今年だったら、夏に泳ぎに行ってないとかさあ。(笑) あっ! あれだあ、ギター盗まれたこと! これは今年のいちばんの不満というか、もう、完全な怒り。

——そりゃ、確かに。(笑)

尾上　いまだに腹わたが煮えくりかえってるよ。

——結構愛着のあるギターだったの。

尾上　いや、ほとんど届いたばっかりのギター。これからってときに全部盗まれた。

——えっ、一本だけじゃなく?

尾上　そうだよお、クルマこじあけられてさあ、根こそぎ。おれはねえ、もし犯人見つけたら……。

——見つけたら?

尾上　新聞の三面記事に載るね、絶対。ギター、ベース合わせて4、5本だもん。

——ファンがつい持っていっちゃったってレベルじゃないよね、それ。

尾上　どうなのかなあ。クルマには他にもいろんなもん積んであったけど、オーダーして届いたばっかりのものだけやられてんだよねえ。たまたまそれらだけ、ソフトケースに入れてあったんだよ、ハードケースじゃなくて。

——いつ頃なの。

尾上　野音をやった頃だから7月ぐらいか。

——じゃ、尾上賢の歴史のなかでは、1990年は「ギターを盗まれた」年として記される年なんだ。(笑)

尾上　そう。おれ執念深いから一生覚えてるよ。(笑)

——オノちゃんだけのことじゃなく、KATZEっていうバンドにとって、今年ってどうだったと思う。

尾上　う〜ん、起承転結の転みたいな感じの年。

——それはどういうとこで?

尾上　なんとなく。(笑)

——そこを強いて挙げると。

尾上　強いて挙げるなら、う〜ん、どう言えばいいのかなあ。

——その転というのはバンドの気持ち的なとこ? それとも活動の上のこと?

尾上　それはどっちもだなあ。

——転ということは、何かが変わるってことだよね。そういう予感みたいなものがあるとか。

尾上　ちょっとあると言えばある。

——いいほう? 悪いほう?

尾上　いいほう。よくしていこうって気持ちが強くなるってことかもしれない。もちろん、バンドをよくしていこうという努力はいつだってしてるんだけど。

——それで具体的に91年に向けて考えてること、ある?

尾上　具体的にって言われると特にないなあ。昔は予定立てるのが好きだったんだけど、できない予定を立ててそれに束縛されるよりも、日々あるがままにやっていこうって、最近すごく思ってるからね。おれ、人間が大きくなったのかな。(笑)

顔なしジャケットの謎?!

KATZEのアルバムは、なぜかジャケットにメンバーが出て来ない。最近のバンドにしてはかなり特異である。これにはきっと理由があるっ!! …つうことで、この特集だあ。

——ええ、今回はKATZEのみなさんに、ジャケットのナゾについてお聞きしたい。

高山（靖） 私の着ているのはメンズでこの秋流行の柄のもので……。

——（無視）それぞれのジャケットを見てみると、まずファーストがネコ、次が首なし赤ん坊、そしてついには、マークだけになってしまった。

中村 首なし赤ん坊!

高山（靖） あなた何てこと言うの。（笑）

中村 それは何故かと言うと、ワタクシ、声を大にして言いますが、ワタクシら自身がジャケットに出るのはあまり好きではない。何故ならば! ガイジンさまのですね、カッコよいジャケットというのを、いっぱい拝見しておりますと、日本人がよく自分たちでジャケットに出ているのが、あまりカッコよいとは思えなかったからであります。はー、疲れた。ワタクシ、口調を戻しますけれども。（笑）あのね、日本人のアルバムジャケットの場合は、自分たちが出たものよりも、他の何かで自分たちの意識を表現したもののほうがカッコよかったんよね。で、おれらもネコや赤ん坊なんかで、KATZEというバンドの持つ意識を表現したかった、と。だから一度そうしてしまったものは、二度と元には戻らない。（笑）そういう感じですか、靖彬さん?

高山（靖） イエース。

——なるほど。で、ファーストのネコというのはわかりやすい。バンド名—ドイツ語のネコですから。しかし、え〜何と言うか、顔の見えない赤ん坊というのは?

中村 『STAY FREE』というのは自由でいてくださいって願いがこめられた言葉だから、そこからおれらが安易に想像したのが赤ん坊。

高山（克） 赤ん坊って純真無垢でしょ。

中村 いま思えば安直すぎたって気もするけど。ま、ワタシらも若かったと。（笑）

高山（克） まあ、汚れを知らない子どもにね、自由に生きなさいよ、と。

中村 もっと詳しく言えば、あの頃の楽曲はみんなアマチュア時代に作った作品だったんよ。で、思うにアマチュア時代のおれらも純真無垢ではなかったかなんて。（笑）

——その純真無垢な顔を載せなかった。

中村 おれら撮影には立ち合ってないから、聞いただけなんだけど。あの赤ん坊、肌が非常に汚い、あげく首がすわってない。（爆笑）あの写真って、赤ん坊が座った瞬間の写真なんだよね。（笑）

高山（克） あれ首から下を写したんじゃなくて、首が後ろに倒れてたの。（笑）

——ウソだ。（笑）

高山（克） いやいや。

中村 え〜、つまり顔を入れちゃうと、その赤ちゃんの顔によってイメージがずいぶん固定されちゃうんじゃないかと思ったのよ。たとえば顔がカワイイとかカワイクナイ、なんてことよりも、『STAY FREE』という作品なんだから、赤ちゃんの体は単なるモチーフなんだよ、って伝えたかったんだよね。

高山（靖） あれでチンコが出てたら面白いけどね。（爆笑）

——まあまあ。（笑）ところで『GOOD TIMES……』のジャケットのあのマークは、これからたとえばずっとKATZEのシンボルになったりするの?

中村 あのマークの使い方は、いろいろあると思うんだけど、あのときはシンボリックな、旗を揚げるようなアルバムにしようじゃないかって考えがまずあったのね。バシッと。（笑）そういうのがテーマだったから、その上でそれにのっとって旗を作りたいってのがあった。

——で、『LOVE IS HERE』は路上の靴ですよね。

中村 靴っていうのはね、旅。旅の象徴。

——旅?

中村 時代の流れのなかを旅していきたい、っていう壮大なテーマに基づいて。旅と言えば何だ、旅といえば靴だ、道だ、海だ、空だ、マンホールだという。（笑）もちろん靴もパンプスや革靴よりブーツのほうがおれらにしっくりくると思ったんだよね。

高山（靖） ブーツってのはブタがツーってんじゃないからね。（爆笑）

中村 あんたはね。（笑）

——まあまあ。（笑）で、どのアルバムも、その時々のKATZEを表してるものですよね。そうすると自由、旗、旅、っていうのはその時点でのKATZEの意志だ、と。

中村 そう。90年に入って、KATZEにも主張が出てきたよね。『GOOD TIMES BAD TIMES』という言葉が出たくらいまでは、まだおれら自身も心が荒さんでたって部分、あると思うのね。でも今回の『LOVE IS HERE』を制作するにあたって、短かかったけどその前のツアーや、いろんなことで困難から救われたのね。そういうときに出てきた言葉が、『LOVE IS HERE』。そういう大らかな気持ちになれたんで、大らかな旅だ、歩いていくんだ、っていうことをテーマに今度のジャケットを作ったんだよ。

——なるほどねえ、わかりました。

尾上 あの、ちょっといいですか。

——はい、何でしょう。

尾上 おれ、一言もしゃべれなかった。

高山（克） おれ口数少なかったような、ほんと。（笑）

尾上 気をつけます。

中村 それはあんただつが悪いの。

高山（靖） 気をつけ、礼!（爆笑）

その他のカタログ

●シングル「TEEN」（88年10月21日発売） 今からは想像つかないビジュアルだ。

●ビデオ『KATZEきのうの事…』（89年3月21日発売） ハワステでのライブ収録。

●シングル「LOVE GENERATION」（89年5月2日発売） 名曲だぜコレ。

●ビデオ『STAY FREE』（89年10月21日発売） 渋谷公会堂でのライブを収録。

シングル「AGAIN」（90年11月21日発売） c/w「BIG BOSS」はLP未収録。

別冊ギターブックGB

定価1280円(税込)

あのうたこのうた

特集 デュエット!!

’91・年版・

好評発売中 総ページ704P

イントロから全歌詞コードつき!

ベスト・ヒット

2311曲

◎スペシャル企画

●ふたりでうたおう!
デュオのうた★デュエット曲

●全曲楽譜つき最新ヒット曲集
ニューヒット・ソングス

●結婚披露パーティーでうたう歌
ウェディング・ソングス

●「あのうた このうた」10周年!
'80年代ヒット曲集

おなじみの表紙で、今年も「あのこの'91年版」登場。ヒット曲を2311曲つめ込んで、この1冊であなたのレパートリーは完璧です。'90年のベストヒット100曲は楽譜つき。収録2311曲の全曲にイントロ〜エンディングまでコード付きで、弾き語り用としてもカンペキ!!

ときめきティーンの変身マニュアル

ヘアスタイルカタログ Vol.2

1991 新春号

定価780円(税込)

好評発売中
●AB判

ライバルに差をつけよう。

■これが「最新流行」の情報。
■ヘアとメイクの基礎から応用まで完全紹介。
■丸顔、面長、顔型で似合いのヘア・スタイルを選びたい。
■髪とお肌の実用情報満載。
この一冊でライバルに差をつけよう!

〈実用ワイド特集〉

冬将軍に負けない髪と肌の大百科

ウキウキ冬休みのおしゃれ大特集

肌と髪、しっとり! 保湿自慢のヘア&スキンケア商品

プロのコツをマスターします! ラクラク、スタイリング名人 ドライヤー・ブラシ・カーラーの使いこなし

顔型に似合うヘアスタイルオーダーカード

●プロがあなたをシンデレラに!●〈ボディ・クリニック〉太い脚、短い脚の悩みポイントレッスン●〈スキンケアクリニック〉ニキビの徹底クリアでツルツル肌に!●有名サロンに聞く'90〜'91冬のトレンドヘア

KICK THE STREET OUT!

パンプ

PUMP

ソ・ニ・ッ・ク・ビ・ー・ト・感・染・!

SPIKE LEE vs EDDIE MURPHY

SEDUCTION◎PRINCE◎PEBBLES
M.C.HAMMER◎DEE-LITE◎ELECTRIBE 101
2 LIVE CREW◎BOBBY BROWN◎SWEET SENSATION

HOUSE・RAP・FUNK
CLUB・DISCO・INDEX
FASHION
GLOBAL STREET SCENE

東京発。絶賛発売中

600YEN(税込)

NEW Video PARADISE

For 21st Century's Visualists... Softwares, Hardwares, Interviews And All the News that Fits!

[ニュー・ビデオ・パラダイス]

ワッツイン特別編集

1月号増刊 好評発売中
380YEN(税込) AB判 154ページ

ビジュアル重視! ワッツインから映像の情報誌、出ます。

1991年が始まろうとしている。いま君が欲しいのは、LDプレーヤーか、それともBSチューナーか? 21世紀目前、映像の世界はますます面白くなろうとしている。見逃す手はない。人気の音楽情報誌ワッツインから"観たい所に手が届く(?)"映像情報誌NVP(ニュー・ビデオ・パラダイス)。映画・ビデオ・LD・TV・衛星放送…etc. 見たい情報がてんこもりだ!

—巻頭— 特別企画 「映像新時代」
21世紀のビジュアル文化を予見する
村上龍/坂本龍一/大林宣彦/加勢大周/中島悟etc.

スペシャル対談▶泉谷しげるVS田所豊
「ネイビー・ロック・ウォー 撃破せよ!」を語る

新作ビデオインタビュー▶ 小室哲哉/萩原健一/中山忍/杉本彩/ラッキィ池田

※内容は変更になることがあります

[この冬、キミは何を観るか?]

その1▶ロードショーはコレを観る!
正月〜新春公開の劇場映画大特集 ゴッド・ファーザーIII/ワイルド・アット・ハート/ミュータント・タートルズ/モ'・ベター・ブルース/運命の逆転etc.

その2▶名作映画は安く観る!
¥5,000以下で買える名作ビデオ&LDを徹底研究

その3▶ビデオ&LDの新作はココが目玉!
待ちに待ったあの作品が続々とビデオ&LDで登場
バック・トゥ・ザ・フューチャー3/ロボコップ2/レッド・オクトーバーを追え!/恋のゆくえetc.

その4▶TVとBS(衛星放送)が面白い!
年末年始特番をはじめ、JSB(日本衛星放送)のオンエア予定を詳細掲載

CBS・ソニー出版 〒102 東京都千代田区五番町6-2 TEL03(234)5801

●読者の諸君ベイビー！ '90年もBUHi♥BUHiをかわいがってくれてThank you！ OK！ ソメッチ&編集部から感謝感激の気持ちをこめてスタイルゴージャスBUHi♥BUHiをプレゼント！ '91年も「パチ▶パチにBUHi♥BUHiあり」といわれるように企画！ 企画！ でブっ飛ばしてくぜ。

年末恒例 編集部座談会

●いつもにもまして、荒れに荒れてる勝手なBUHi♡BUHi。そのオープニングは、90年一番のお気楽企画のこれっ。あまりに内輪うけすぎるかもしんないから、左のページやパチパチ辞典を参考にして読んでね♡

締め切りを過ぎてから、もうどれくらい経つのだろうか。だんだん記憶も薄れてきた。毎年、スタイルを作るときは雑誌を同時に3冊作っているようなもんだから、忙しい。どのくらい忙しいかと言うと、とても忙しい。どのくらいとても忙しいかと言うと、とってもとっても忙しい……。てなワケで、今年も忙しいなか、ヒンシュク買いまくりの編集部の「90年をふり返って」です。

フジモト　本日はみなさん御多忙のトコロ、お集まりいただきましてありがとうございます。

ゴトちゃん　フジモトさーん、それじゃ去年のSTYLEと同じ出方じゃないですか。

フジモト　オオッ、するってえと3年連続同じ出だしになるんだ。(88、89年STYLE参照)

ムラタ　だいたい忙しいったってまだこうして仕事残ってんの、フジモトさんだけじゃないですか。

フジモト　……。ええ、どうせ私は仕事遅いですよ。実は、この原稿もだれもいない編集部で、1人で書いてるし……。サミシイ……。それはさておき、仕事のできる新人の君たち、この1年を振りかえって、どうだったかね?

ムラタ　そうっすねー。アッ、私は新人のくせに態度がでかいと言われ、真心ブラザーズ、すかんち、バービーを担当し、京都に女がいて電話代が月に8万円して、東京妻にモラルがないと言われて別れて…。

フジモト、エエイッ、編集部員の紹介は、左のページでやるからせんでええわ。プライベートは鬼畜というのはわかってるから。仕事はどうなの。

ムラタ　生活が変わり、規則正しい生活が身につき、優しい上司、先輩に囲まれ、やりがいのある仕事を任せられ、楽しいですよ、毎日が。

フジモト　オイッ、フリッパーズ・ギターのインタビューか、これは。本当のトコロは?

ムラタ　……徹夜しました。

チワキ　朝帰りばかりしました。

ムラタ　徹夜明けの朝、座ったまま口を上に開けて寝るのは。

チワキ　ヒドイ、ひどすぎるぅ。こんなこと書かれたら、いつまでたっても幸せが来ないー。

フジモト　千脇も喋んなきゃ、カワイイんだけどな。変だもんな。

イトウ　でもチィちゃん、合コンでもててるよね～。早稲田のラグビーサークルの後輩とも仲いいらしいし。

チワキ　そんなー。ガセネタですよぉ。いい御縁があったらよろしくお願いしますよ。目指せたなぼた、玉の輿、濡れ手で粟の結婚退職!

フジモト　さて、いっちゃってる人は放っといて、北川さん、いかがでしたでしょうか。

キタガワ　――――――。

フジモト　あれっ、北川さん、どこにいるの。最近見ないけど。

ムラタ　何か、新宿丸井のバージンメガストアーでCD売ってるらしいすョ。

チワキ　まじかいやー。

フジモト　ここでも、いっちゃった人は放っといて、「セックス・ドラッグ&ロックンロール」の人、芳賀さん、いかがでしょうか。

ハガ　ウ～ン。体調のいい1年でしたね。以上。

フジモト　二日酔い多かったですか去年より。

ハガ　二日酔いはありません。そのまま、酔ってるだけだから。

フジモト　今年は入院しなかったんですっけ?

ハガ　えーっと。しました、1回。

フジモト　それはJ(S)Wが表紙・巻頭のときですよね。H・Bでデザインしてくれたのが三浦さんのとき。

ハガ　そうですね。(笑)

ムラタ　私生活の面では、どういう1年でした?

ハガ　落ち着いた1年だったな。

ハガ　でもなぁ、これだけは言わせてくれ。俺に仕事とプライベートの境はナイ。俺は、全てを仕事に捧げてる!

フジモト　そりゃ、みんなそうですよ。村田は夜会社から私用電話女にかけるし。千脇はスリッパで会社歩いてるし、黒木さんは住んでるし、吉田さんは男できないし(?)、吾郷さんは編集部で酒飲んでるし…。

チワキ　私がはいてるのは健康サンダルですよぉ。徹夜のときだけです。くまの絵のついたスリッパで社内を闊歩してるのは、フジモトさんじゃないですか。

フジモト　そうでした。ところで芳賀さん、一番印象深かった取材は?

ハガ　教えない。

フジモト　一番頭にきたことは?

ハガ　言えない。

フジモト　来年の抱負は?

ハガ　知らない。

ムラタ　話にならないじゃないですか～。

フジモト　いいよ、もう。アル中でいっちゃった人は放っておこう。さて、最近「いただきマンモス」に代わる黒木語「いただきますナリ～」(語尾にナリ～をつける)を、「キテレツ大百科」を見て考え出した黒木さん。ど～すか。やっぱ、バイちゃんですか?

クロキ　89年のスタイルの「会議室より愛をこめて」で、来年はBY-SEXUALだっていうことを予告してたんですけど、つづりが間違ってるぅ。(笑)今、見て笑うってのは、どーかなぁ。

フジモト　やっぱ、予感的中って感じですか。

クロキ　いいこだったんで、売れて良かったですねェ～。来年は、裏表紙でなく、4人で4号連続表紙を(笑)

ヨシダ　だったら、私は「詩人の血」を表紙に……。

フジモト　ま、それはともかく、黒木さんが、今年はというか、今年もというか、一番長く働いて……。つまり、会社に住んでましたよね。

クロキ　放っといて下さい。

イトウ　一番印象に残ったことは?

クロキ　UP-BEATの単行本を作ったことですね。

イトウ　来年の抱負は?

クロキ　昔やった、ピクニックのように、読者参加のイベントをやりたいですね～。あと、吉田さんは一生ここにいて欲しいですね。(笑)

フジモト　やっと、らしくなってきたぞ。それでは、みんなが一生パチパチにいて欲しいと思ってる女性、吉田好見さま、どうぞ。

ヨシダ　なんですか。(あくまでクールにアンニュイに)

フジモト　表紙・巻頭を半分やられたんですが。

ヨシダ　半分ねぇ。フ～ン……。

フジモト　円熟の極致っていうんですか。

ヨシダ　ナニが、完熟なの。

フジモト　えっ、いや、あの、その、お歳のことじゃなくて……。なんでこんなかしこまってモノを尋ねてるんですかねぇ。(笑)

ヨシダ　そうだよ。(笑)私の態度が偉そうですか、スイマセンネ～。

フジモト　で、どういう1年でしたでしょうか?

ヨシダ　充実した1年でしたね。

フジモト　それは、仕事ですか、プライベートにおいてですか。

ヨシダ　もちろん仕事ですっ!

フジモト　で、プライベートは?

ヨシダ　仕事が充実してましたからねぇ～。

フジモト　プライベートな時間は、何やってんですか。

ヨシダ　寝てることが多いですねぇ。

フジモト　ハァ……。で、来年の抱負は?

ヨシダ　会社辞めたいですね。

フジモト　やっぱりそうですかねぇ。

ヨシダ・フジモト　(大笑い)

フジモト　会社辞めたら、明るいプライベート・ライフがありますか?

ヨシダ　いや、ないでしょう。ただ

校了入稿ドタンバ漫画
2年目突入
藤本くん物語2
BY もう3年も こんなことやってる

この汚ない机から逃げたいですねぇ。

フジモト　自分でちらかしてるんじゃないですか。(笑)

ヨシダ　辞めて、自分のいる場所を探したいですねぇ。

フジモト　ここしかないですよ。(笑)奥田民生サンが「吉田さんが28までに彼ができなかったら身受けしましょう」と言ってましたが。

ヨシダ　早く身受けして下さい。(笑)アァ……。ホントに私はこのまま朽ち果てていくんでしょうかねぇ。

フジモト　……。さてっと、それでは一転して若さあふれる読者スタッフの皆さんは？

イトウ・シモダ・エガシラ　忙しかった、男できなかった、給料少なかった。

フジモト　3人とも同じコメントでくくれてしまうのが悲しい。まっ、枚数少なくなってきたからいいか。そうだ、今年は自分の話をするのを忘れないゾ。エ～ッ、私の90年はですねえ…、えー、松岡くんの単行本も無事(かどうかわかんないけど)出来あがりましたし、B'zの表紙・巻頭もできましたし、……会社に貢献しました。

チワキ　フジモトさん大躍進の年でしたね。かわうそ屋もできたし。ところで私生活のほうはいかがでしたか？

フジモト　前半は暗かったですね、けっこう。彼女いなくて仕事しかしてなかったし。

チワキ　それは私や吉田さまに対する挑戦ですか。

フジモト　いえ、そんな、めっそうもない。

ヨシダ　ということは後半は？

フジモト　ええ、まあ、お陰様でなんとか彼女もできそうなんで……生活にも張りが出ますね。いや、もっとも去年もクリスマス前は浮かれてたんだけど、まぁ……。(と言葉を濁すフッチー)

チワキ　今度はきっと大丈夫ですよ。あー、あやかりたい、あやかりたい。

フジモト　アレッ、吾郷さん入れるの忘れてたっ。というまに、もう行数がなくなってゆく。あぁ、終わる。

2000年まであと10年。"1990年のパチ▶パチはどんな人が作っていたのだろう" いつかきっと振り返る、その日のために今回は1990年のCBS/SONY出版『PATi▶PATi』編集部(社員)をご紹介します。筆者注・全て実在する仮名になってます。

今日は何月何日？　世間は年末ってヤツかい。クリスマスも終わった頃か。あーなんだか不毛だねぃ。人生に煮詰まりを感じたもんだったよ。とか言って。こんなことを書くと編集部の彼女―仮に名前を吉田好見(美人で有名。ペンネームはY²)としよう―に『20歳の小娘がナニを言う』と言われてしまうに違いない。

彼女は驚くことに、また恐るべきことに、今年発売された『パチ▼パチ』12冊中半分の編集後記を書いている。編集後記の女王さまとお呼びしよう。しかし、もっと驚くべき、恐るべき事実がある。彼女は、その90年第1回後記において自らを克明に述べた『女性編集者の年末』―これはありとあらゆる人に絶賛された―と、まるで同じことを1年たった今なお繰り返しているのであった。

まだ、かの後記をお読みでない方には早急に何がなんでも読むようおススメする。今年はさらに『イナゲ』のUNICORNを始め、TMN、渡辺美里、PRINCESS PRINCESS、大江千里、THE STREET SLIDERS、Dreams Come True等々のおかげで内容のグレードを上げている。6回の中にはなぜか憤りを感じるものさえあったという。

スナフキンに似ているせいか高嶺の花とウワサされる彼女は"結婚退職・専業主婦"あげく"玉のこし"が夢だという。来年こそは来年こそは来年こそは――!!　幸せになってくださいませよ。ホンットに。

90年末。最近になって『パチ▼パチ』男性社員ケダモノ説が浮上してきている。誰とは―仮に芳賀崇(知る人ぞ知る)としよう―書けないが、彼はこの前SOFT BALLETの渋公のあと帰ってこなかった。後日「気絶しちゃったんだよ」と弁解しているが、原因についてはなぞである。ダンシング賢ちゃんのセクシーさに卒倒したのだろうか。

セクシーと言えば、彼の担当にはその筋の人が多いと言われる(と思う)。BUCK-TICK、KATZE、L:A-PPISCH、JUN SKY WALKER(S)、KUSU KUSU、COMPLEX、BAKU、氷室京介…etc。あまり深く考えてはイケナイが、2月にBARBEE BOYSの引き継ぎをして以来、女性(アーティスト)には手を出していない。なぜだ。

彼の"けだもの道"については、同じくその道で名をあげつつあるあの人―仮に村田茂(新人社員。ファンキー末吉に似ている)としよう―が詳しい。あの人は現在、THE 真心ブラザーズ、BARBEE BOYS、JITTERIN'JINN等々を受け持ち、将来有望である。

今後も2人は20歳の小娘にはわからないわかりたくないでも知りたいこの道をどこまでも行くであろう。でも巻き込まないでね。あぁ、幸せってナニ？　来年こそは来年こそは来年こそは――!!　身を固めて女の子作ってね。名前は"ゆい"。マジで"はがゆい"……なんつって。

さ。幸せにもいろいろあるけど、彼女―仮に黒木ミドリ(おミドの異名あり、浅野温子に似てるという説あり)としよう―を見ていると、こうして編集部で仕事(と書いて生活と読む)をしていることがすごく幸せであるかのように感じる。

彼女の髪はワンレンだわ腰まであるわで、長い。そろそろ10年ぐらい髪型を変えていないらしい。彼女が髪を切ったあかつきには、その話題だけで本が書ける友だちが増えるメシが喰える、ような気さえする。単行本GO GOのUP-BEATとTHE BOOMやTHE CHECKERS、BY-SEXUALなどの方々からコメントが載けるのは間違いないであろう。来年こそは来年こそは――!!　私生活の幸せを充実させてくださいませね。

あッ。かわうそが原稿催促に来た。と思ったら人間―仮に名前を藤本昌俊(通称フッチー。九州男児)としよう―だった。人間なのに吉田戦車著『伝染るんです』のかわうそにうりよっつぐらいである。そして、かわうそのくせに最近は幸せらしい。ちッ。かわうそくんはB'zのおかげで表紙(編集後記)ができたし、松岡英明で単行本作ったし、KOME KOME CLUBは女の人いるし、おまけにとっても高野寛やFLIPPER'S GUITERの人たちと気があうんだよね!?　ねねねね？ふッ。クリスマスでの幸せをこと細かに報告してくれるであろう。

あッッ。かわうそと言えば"女かわうそ"―仮に千脇晶子(新入社員。ちっちゃい)としよう―が編集部に住み始めたらしい。なんでも千葉の実家から通勤するお嬢さまということだ。そうそう、「ちわきは今いないと言ってください」とラブ・コールを断ってあげた(恩着せ)こともあった。ふふ。意外とあなどれない女かわうそさんである。"がわうそ"はいいわね。来年こそは来年こそは来年こそは――!!　おごってね。

いわゆるひとつのラッコおやじ返上、おとぼけデビィ(←マジかい)と名高いお人―仮に吾郷輝樹(てーちゃんと奥さま・かおちゃんからは呼ばれているらしい)―がカバンを持って歩き始めてしまった。時間はAM4：30ごろ。「え!?　何があるんですか」帰る人に向かってコレはない。つい聞いてしまったセリフに対して「家庭がある」とひと言。渋すぎ。月に1度だったか、かおちゃんとの"お買い物日"があるという。あぁ、幸せっていいたい。来年こそは来年こそは――!!　SPARKS GO GOを表紙・巻頭大特集にしてくださいね。ね♡

以上の7人が1990年のPATi▼PATiの必殺編集人でありました。来年もひとつ、どうぞよろしく。

清水ミチコのスピークイージー

●『清水ミチコのスピーク・イージー・スペシャル』は、ジッタリン・ジンとの爆笑対談です。なごやかなムードの中で"(笑)"連発！ いつもクールなジッタリン・ジンの素顔が…？

清水「出身ってどこでしたっけ」
松蔵「奈良です」
清水「めずらしいねえ」
入江「私だけ大阪なんです」
清水「1週間くらい前大阪行ってきて、おいしいものたくさん食べたなあ。お好み焼きとか食べすぎちゃって、ゲロ吐いちった。ハハッ」
一同（笑）
清水「いやぁ。いい歳してもぅ」
春川（まだ笑っている）
清水「じゃあ、イカ天に出るまではどこで活動してたの」
ジンタ「東京は、イカ天が最初ですね。それまでは、ずっと大阪のほうで、バナナホールとか」
清水「テレビに出る前から、もうライブハウスはいっぱいだったの」
松蔵「そうですね。まあ、そんなに大きい所ではやってなかったです」
清水「でも、やっぱり小さい所のほうがさすがに、なんか一体感とか、そういうのはあるよねえ」
松蔵「広い所でやると、なんか後ろのお客さんやったら、ほんまにおんなじ所にいてるのかなあって……」
清水「そうそう。見えないもんね。MCとかは少しはウケようとか、そういうのはないの？」
春川「やっぱ、大阪人やからねえ。前は何も考えてなかったんやけど、最近は、やっぱり、無意識にやってしまうこともある（笑）」
清水「あっほんと。（笑）そのまま染まらないようにね」
春川「大阪の人とか、なんか最後には笑いとらなあかんみたいな（笑）」
清水「（笑）あるあるある。ヒッヒ。吉本新喜劇とか、そういうのを見て育ったからでしょ（笑）」
春川「育ちました」
清水「あっそう（笑）」
春川「マンザイブームとかやったからなあ。花月とかねえ」
清水「花月行ったことあんの？」
春川「阪神巨人とかを見に…（笑）」
清水「（笑）あっ、ほんとお…」
春川「巨人さんのサインとかもらいに行ってねえ」
清水「行ったの？ もらった？」
春川「（笑）もらった」
清水「バカだねぇ。（笑）……で、なんか音楽的には、この人が一番好きとか、そういうのって誰？ 日本人で」
（←いきなり）
松蔵「はじめ聞いてたのはフォークが多かったんですけど（笑）アリスとか流行ってましたやんか。かぐや姫とか。そういうときは、フォークギター弾いてましたね」
清水「じゃあ、まあ中学時代とかそういうの聞いて、高校時代とかに「このドラムスー！」とか、そういうことってあった？」
入江「ドラムやりだしたのは、もうちょっと後なんで、日本のって聞いてなかったんです」
清水「外国モノが多かったのね」
入江「ん、でも矢野顕子とか好きで」
清水「あ、ほんと。（すごくうれしそうに）あたしもすごい好きなのよ。もうフリークで、レコード会社も、大手を蹴って同じとこ入ったのね」
入江「そうなんですかあ。今でもメチャクチャすごいファンで」
清水「私もそうなのよお。アッコちゃんのコピーしたら、コピーっていうかモノマネだったら、たぶんあたしが日本一よ。モノマネではね」
入江「ああ、是非是非聞きたい！」
清水「もう、ピアノないのココ、もう気がきかないわねぇ」
入江「えぇー、えぇー」（残念そう）
清水「そうかぁ、ところで私って何してる人かわかってる？」
一同（笑）コソコソ。
清水「こそこそすんな！（笑）」
春川「ものまね、してはるんですよね。声のものまね」
清水「正解正解大正解。っていうのも情けないけどね」
一同（笑）
春川「ピアノ弾いたりとか」
清水「そうそう、それで100%よ！」
ジンタ「この間、テレビでピアノ弾いて、歌うたってるの見てビックリしたことある。それはものまねとちがうやつ……ピアノがうまいなとか思って聞いてたけど……」
清水「ああ、そう。うれし。お笑いってことでやってるから、ヘタでも弾かしてくれるのよ。バラエティ番組とかドラマとかひっぱられやすいしね。そういうのは？」
春川「結構しんどいでしょねえ」
ジンタ「しゃべらへんしなあ」
一同「うーん（笑）」
清水「その道のプロの人っていうのは、それでいいんじゃないかなあ。清志郎さんとかが話上手だったりしたらガッカリするもんね。まあ、武田鉄矢さんみたいに（笑）すごいさ、オチがあったり（笑）したんじゃねえ。おかしいよね」
ジンタ「しゃべりうまいしな」
松蔵「しゃべりうまい」
ジンタ「歌は感動するしな」
清水「しない！ しない!!（笑）」
ジンタ「2人でTV見ててね、夜ヒットか、なんかでね……」
松蔵「そうそう、だいぶ前にね…」
ジンタ「さだまさしの何か、アレ何だったかな。オヤジの歌。『オヤジの一番長い日』かな……長いやつ」
清水「あれでしょ？ 娘がお嫁にいく……」
ジンタ 松蔵「そう、そう」
清水「（笑）あんなもんで反応しちゃだめだよ、君たち（笑）」
一同（笑）
ジンタ「そんで、出てきて歌うたいだして、フルコーラスやりよんのか、だるいなあとかいいながら、見てて、何を言うとんのやろなとか聞きいっててな、知らん間に。泣いてるヤツまでいてな」
一同（大爆笑）
松蔵「長いな、とか言ってな、何分歌う気やとかゴチャゴチャ言うてて」
ジンタ「終わったら、よかったなあって」
一同（大爆笑）
春川「ジンミリしてな」
清水「ほのぼのと」
松蔵「5分6分と過ぎるごとに会話がなくなって来て、最後にはみんな真剣に聞いて……」
ジンタ「泣いてるヤツまでおるし…」
清水「目を覚ませ！ だめよ、ダマされちゃ」
松蔵「俺たち、ダマされてたんかあ」
一同（笑）
とまあ、なごやかな対談（?）は、まだまだ続き、最終に記念撮影までしておひらきになったのであります。

1965年4月22日熊本市に生れる
私立さくら園入園
熊本市立出水小学校入学
熊本市立出水中学校入学

a AGORINOFU

〔人名〕本名・吾郷輝樹。1952年2月15日生まれ。A型。御存知、我らがパチ▼パチの編集長。好きな食べ物はちくわ。好きな球団は広島カープ。好きな女の子のタイプはデスクのゴトちゃん（笑）というダンディでおしゃまな38歳。最近は〝おとぼけデビィ〟の愛称でみんなに親しまれている。

B BUHi♡BUHi

〔呼名〕一般にはブタの鳴き声を総称してこう呼んでいるが、パチ▼パチ誌上では読者コーナーを指す。名付け親は、なんと知る人ぞ知るあのジントフスキー氏。そしてその意味は「そのときのノリで決めたから」ですよと。トホホ。

C CHIWAKI AKIKO

〔人名〕本名・千脇昌子。?年1月1日生まれ。O型。特徴・小さい。手が短い。中井美穂に似ている。好きな男の子のタイプは田原俊彦、吉川晃司、岩城滉一というメンクイの大道をいく、本年度新入社員。徹夜が続くと不可解な行動が多くなるため、みんなの人気者に。

D DOKUHON

〔別冊〕パチ▼パチ読本のこと。目玉はなんといっても桜井教司、宮田和弥、MIYA、サンプラザ中野などのロングインタビュー。4コマ漫画も好評だった。これからも出版予定あり。詳しくは近々本誌にて。

E ENDLESS WORK

〔状況〕毎日の編集部の様子。直訳すればさしずめ〝終わらない仕事〟といったところだろうか。しかし含まれた意味もまた多く、〝帰れない。眠れない。机汚い。足元スリッパ。結婚できない〟など数え上げたらきりがないほどである。

f FUJIMOTO MASATOSHI

〔人名〕本名・藤本昌俊。1965年4月22日生まれ。A型。特徴・カワウソにうりふたつ。つい最近彼女ができたらしく、口を開けばそのことばかりというクレイジーな25歳。B'z、フリッパーズ・ギター、高野寛などを担当している。ニックネームは可愛らしくフッチー。

g GOTO-CHANG

〔人名〕本名・後藤ともみ。1968年9月5日生まれ。O型。口癖は「もう許しませんからね、全く」。得意技は切手はり。アゴリノフと不倫の噂もあるスキャンダラスな女。

h HEAD BUTT

〔事務所名〕パチ▼パチのデザインをしてくれているデザイン事務所。

〔編集会議〕パチ▼パチを作るために毎月10日前後に開かれる会議。のはずなのだが、いつのまにかフッチーいじめ合戦になることもある。

I INAGE

〔単行本〕日本中の乙女の心を揺るがすケダモノ、ユニコーンさま初の単行本。パーソナル・インタビューはもちろんツアー追っかけ、ユニコーン大図鑑等々読みごたえたっぷりの全240ページ。担当のY田Y見さまはずっと編集部にいたもんだった。ちなみに当時の流行語は〝すべてはイナゲができるまで〟。

J JUN'ICHI SOMEYA

〔人名〕本名・染谷淳一。泣く子も黙るパチ▼パチのアート・ディレクターであるとともに、デザイン事務所HEAD BUTT社長。アゴリノフと手を組んでパチ▼パチ創世記を築いた敏腕デザイナー。各界で高い評価を得ている。

K KODOMO-TAI

〔総称〕伊藤亜希、霜田桂、江頭祐子、宮野志子の4人のことを呼ぶときに使う言葉。例「フッチー。このテープおこし、子供隊で手の空いている人がいたら頼んで」主な活動は雑務。ページではコンサートスケジュール、ブヒ♡ブヒ、会議室より愛をこめてなどを担当している。ちなみに年齢は全員20歳を越している。本当はオ・ト・ナ♡

L LAWSON

〔店名〕編集部のすぐ近くにあるコンビニエンス・ストア。少し前に店内をピンクにリニューアルした。昔はシャッターが閉まらないのを理由に24時間営業だったが、この頃は午前0時で終了する。悲しい。

M MURATA-SHIGERU

〔人名〕本名・村田茂。1967年10月21日生まれ。O型。特徴・ファンキー末吉に危険なほど似ている。好きな歌は爆風スランプのニューアルバムから「京都マイ・ラブ」

〔マゴ部隊〕新・読者スタッフ4名千葉、細谷、鈴木、赤沢の総称。子供隊の子供だからマゴ部隊。

N NR

〔暗号〕正確に表記するとNO RETURN。つまり、もう編集部には戻りませんという意味。しかし、特別な例として編集者芳賀崇の場合は「24時戻り」、「早朝戻り」という表記にもNRという意味があるためなかなか使い方が難しい。

O OMIDO

〔人名〕本名・黒木ミドリ。?年5月20日生まれ。A型。特徴・寝なくても平気。食べても太らない。担当はBOOM、BY-SEXUAL、チェッカーズ、UP-BEATなど。最近好きなTV番組は「キテレツ大百科」なり。

P PATi▸PATi

〔雑誌名〕1984年創刊。第1号の表紙はチェックの衣装をきたチェッカーズだった。ちなみにパチ▼パチの名は拍手の音からとったもの。一生懸命なアーティストに心から拍手を贈りたいという意味のもとにつけられた。

Q Q&A

〔コーナー名〕パチ▼パチにくるお便りで1番多いのが質問。よってQ&Aのコーナーは創刊当時から欠かせないものになっている。現在は「イトウアキ走る」がそれにあたる。

R ROCK'N ROLL

〔雑誌名〕1986年創刊。第1号の表紙はなんと渡辺美里。レベッカやバービーボーイズが表紙を飾ったこともあった。正式名称はパチ▼パチ・ロックンロールというが、大部分の人にはパチ・ロクの愛称で親しまれている。毎月27日発売。

S SHUCCHO

〔名詞〕出張。日本全国津々浦々、アーティストのあとを追っかけて日々是出張であるのは、編集者芳賀崇。一応仕事である。決してホテルのTVを窓から投げ捨てたりとか、真夜中にプールで泳いだりするとかいう伝説を作ることではない。90年は海外にまで出張した。ちなみにY田Y見サマもニューヨークくんだりまで出張した。あくまでも仕事。

T TAKASHI HAGA

〔人名〕本名・芳賀崇。?年5月1日生まれ。O型。特徴・夜行性。毎日二日酔いで早い時間はとても調子が悪い。担当アーティストはBUCK-TICK、J(S)W、レピッシュ、KATZEなど。ちくっちゃえキングの中村敦サマに、逆にちくられるという貴重な経験をもつ、デンジャラスな男。

U UCHIWAUKE

〔名詞〕それではここで編集部の裏話をご紹介しよう。題して〝ちくっちゃえ内輪うけバージョン〟。藤本さんはこの間彼女を失神させたそうだ。ちなみにこのことはGB編集部でも噂になっている。編集部から電話するとバレるんだよ、フッチー。

V VISITORS

〔名詞〕訪問者。レコード会社のプロモーター、事務所のマネージャー、カメラマン、ライターなど、来客があとをたたない編集部。読者のみなさんの見学も随時受け付けている。ただ、一度編集部に電話してスケジュールを確認する必要がある。電話番号は03（234）7906。

W WEEK END

〔名詞〕週末。Xのシングルではない。一般には金曜～日曜のことをさすらしいが、ここ編集部においては日々の遅れた業務の取り返し時間として使用されることが多い。今流行しているのは会社で「ちびまるこちゃん」を編集部みんなで見ること。編集部団らんのひとときである。

X X-CORNER

〔地名〕ハガキなどをひとまとめにしておくところ。編集部一同、すぐメチャクチャにしてしまうので、ゴトチャンは密かに怒っている。「もう許しませんからね、全く」

y YOSHIDA YOSHIMI

〔人名〕吉田好見サマ。?年8月6日生まれ。B型。特徴・スナフキンに似ている美人。担当アーティストはユニコーン、TMN、プリンセスプリンセスなど。フッチーとの編集後記合戦が見ものだが、回数の多さで断然有利と思われる。

Z ZOUKAN

〔名詞〕正式名称はパチ▼パチ PRESENTS 90NEW ARTIST特集号。KUSU KUSU BY-SEXUALのダブルカバーだった。他にBOOM、FUSE、BAKUなどが掲載されている。発売日は6月29日。現在入手不可能。

●思いおこせば去年のパチ▼パチスタイルから始まったこのコーナー。みなさんのおかげで1周年を迎えちまいました。そこでやっぱり1周年だし年末だしっつうことで、この人に登場していただきました。ご存知KATZEの中村〝ギング〟敦さん。……でもね、緑なのよ、目の色が。きれーなミドリ色。ヒゲもますますゴリッパで、ちょっとビビった私。

――このコーナーがあるってハガさんからどう聞いたんですか?

敦 いや、そういうコーナーがあって座布団もらえるでしょ? 100枚集まったら羽織くれるって聞いたから、どうせならもらおうって。

――え――!? ハオリ!?

ハガ 羽織くれるって言ってなかったっけ? 俺つくるよ。

――あ、本当? じゃあ羽織。

敦 それ着て歩くの? 最低男の羽織みたいだなぁ。(笑)

ハガ 背中に〝極悪〟とか。

敦 〝おちゃめ〟って入れて(笑)〝悪気はないんです〟とかさ。

――他のメンバーのことをチクって下さい。

敦 俺が? ……絶対載せられないようなことだったら何個でもあるよ。

――(笑)ダメ。載せられるもの。

敦 俺ソフトに会話進められない奴だからねえ。いやー、エグいことばっかりだからなぁ。

――じゃあエグさで。

敦 エグさで勝負ですか? ……俺自分で自分の首しめるような気がする。

――でもほら、これで座布団100枚いくかもしれない。

敦 嬉しくねぇよ、そんなの…羽織かぁ…。

――じゃあ、何がいいですか?

敦 チクったやつみんな呼んで、こう…宴会とかね。

――(笑)いいですね、それ。

敦 いいでしょ? 大広間に俺をチクったやつみんな呼んで、「どうですか? 本人だよー」って。

――で、またそれをチクってもらって。

敦 俺がひとり連れて出て行って、また思いきりチクられて……別にでも普通だけどな、俺。

――けっこうライブ終わった後で、飲み屋で見かけたっていうハガキとか。

敦 ツアー中は生きてないですからね、ほとんど。

――どういう風になるんですか? 奇行の数々を教えて下さい。

敦 そりゃあもう…俺ね、覚えてないのよ、マジで。

――記憶がなくなっちゃうんですか?

敦 もう全然。次の日になるとどれだけケンカして殴り倒した奴でも覚えてない。「お前昨日、店中の女の子とキスしてたよ」って言われても「はあ?」……全然覚えてない。

――飲み屋でみんなどうなるんですか?

敦 4人4様ですよね。……やっちゃんがベロベロになったのは見たことない。お酒強いのと気ぃ使うから、俺が暴れたりしたら「敦!」とかさ、女の子が来たら接待したりさ。

――接待。(笑)

敦 こう大変なんだよ、だからベロベロってなったのは1回ぐらいしか見たことないかな。女の子につぶされたっていうんでおかしかったけどね、それ以外は見たことない。尾上さんはですねぇ、まぁいくときはいく、いかないときは狙ってるっていうんですか? なんか狩りの前をツメを研いでる野獣のように、女性の胸元あたりから顔をこう……。

――(笑)それで100発100中なんですか?

敦 いや…そんなことないですよ。

――100だとすれば、どのくらいですか?

敦 でも85はもってくんじゃない?

――おーっ、4番打者ですね。(笑)

敦 4番ですね。

――そしてカッちゃんをチクる。

敦 ……やっぱりヤバイ。あ、高山兄弟まとめて家に人面魚がいる。

ハガ 〝人面魚が2匹いる〟ってハガキが来て、「本当にいるの?」って聞いたら「うちには6匹いる。」って。

――アハハハ。(笑)

敦 本当、本当。新聞に載ったんだもん。……こんなことばっかりしてるからチクられるんだよな。

――でも別にこういうコーナーに関して腹を立ててるっていうことはないですか。

敦 あ、全然僕は感激してますよ。本当にありがたいことです、みなさんに可愛いがっていただいて。ロックンローラーたる生活をみなさんに見ていただければ私、それでいいです。

――深いですね。

敦 もう人生捨ててますから、芸のために。……ね、酒飲んで暴れるのも芸のため。

――(笑)上手くまとめたなぁ。

敦 でしょ? チクられるだけでチクっちゃいけないね、僕らは。

――ああ、いい言葉やねぇ……。

●目は緑でもヒゲボーボーでも、中村敦はいい人だった。彼の羽織姿見たくなったでしょ? 本人も「ドンドンチクって下さい」と言ってたし。さすがキング。言うことが太っ腹♡ 2年目に突入してコーナーもますます楽しみ。めざせキングへの道。ハガキいっぱい待ってます。

KINGと呼ばれるくらいだからかなり載ってるんだろうと思えば、初登場は7月号なの。意外に遅いよねー。でも、ネタにインパクトがありすぎるせいで、一躍レギュラーになってしまった。(笑)今のとこ座ぶとんは22枚で止まってるんですが、(ちなみに尾上さんも座ぶとん3枚、扇付き) 100枚達成する日も近いんじゃないか、な。今年の中村敦ネタを振り返ってみると

▼握手してと言ったら拍手してくれた(7月号)
▼キスマークをつけたまま地下街を歩いていた。(8月号)→キスマークは赤か青か論争が起きたのだった。
▼ズボンが裂けて赤と白のパンツが丸見えだった。(9月号)
▼イベントのライブでチャックがあいてた。(10月号)

んで、関西からの人からが多いんだよ、中村敦ネタは、どうして?

ちくっちゃえ

そういえば、このちくっちゃえって去年のスタイルで始まったんだよね。今年最後のちくりネタ、一挙公開よ♡

●カエル・バッタが嫌いな中村敦の前世は、おのちゃんが言うには「ハエ」らしい…。(東京都 みかん)

●10月28日、原宿でKATZEのボーカルの人に偶然会った。すごいびっくり! 雑誌と同じ顔だったよ。(神奈川県 土井真理亜)

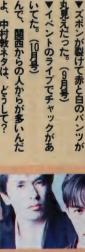
㊢雑誌と違う顔だったらこわいよ。

●またもや中村敦は、11月11日のLIVEで、ズボンのチャックがあいていた。私は見たぞ。(埼玉県 私をPにして♡)

●MCであっちゃんは「俺は淡白な方だけど3回はいけるよ」とか「最近は男の方にも興味があるけど」とか言っていた。男にも興味があるというその相手はおのちゃんだろうか? (奈良県 AGAIN)

●SHADY DOLLSのコンサートのあと、楽屋口からKATZEが出てきて、ついて行ったら居酒屋に入っていった。ついデカイ声で大騒ぎしてしまった(東京都 尾上さんに一目惚れ)

㊢なくてはならない存在(笑)になってしまったあっちゃんネタでした。

●11月3日、渋谷の某レコード売り場でB'zの稲葉さんとぶつかってしまった。足が震えて声が出なかった…。(東京 ねことっと)

●ディズニーランドで友達の目の前をMAGUMIが踊り過ぎていったそうです。なぜMAGUMIとわかったか? それはあの金髪のおかげ。(神奈川県 マグミもディズニーランドぐらいは行く)

●渋谷の丸井の先でUP-BEATの岩永さんとすれちがった。目が合った。こわかった。はずみながら歩いていた。(神奈川県 ひとちゃん)

●埼玉県民会館のコンサートで岩永凡さんがコケた。(埼玉県 TO-Y)

●朝起きるとすぐ「ズームイン朝」を見る私は11月16日、画面の中にバラらしき花束を持ち、赤のスーツにサングラスをして朝の浅草を歩くCS石井さんを発見してしまった。眠そうに口をポカンとあけてまぬけっぽかった。けど、釘づけでした。(新潟県 小室さんは手話がお上手)

㊢ホントに? すごーい、さすが。朝からバッチリきめてるなんて。

●カステラの大木トモくんは「山短」(学校略称、さんたんと読む)を「やまたん」と読んで客に怒られてた。(岡山県 トモくんのローズ)

●11月12日。日本青年館のまわりでフライングキッズの浜崎さんが、赤い服に羽のついたやつを着て、撮影をしていました。(埼玉県 蓮見&金子♡)

●このごろジッタリンジンの春川玲子が、私がよく行くセブンイレブンに現れる。声をかけても表情ひとつ変えず、買い物をすませるとさっさとバンに乗りこみ消えてしまう。ウワサによるとこの近所に住んでいるらしい。(東京都 寿々♡)

●自分のうしろが騒がしいので振り返るとAURAの子れっずがいた。けっこう小さかった。(東京都 東川真)

㊢あ、もう終わり♪ 来年もたくさんハガキ送ってねー。

イトウアキ走る!!! スペシャル

●やあみんな元気かい？ そういやあ、今年もいろいろなことがあったなあ。うん。ちょっと個人的な話になるけど、今年のイトウアキの10大ニュースきいておくれよ。(笑)

10 つい最近、子供ができた。と書くと誤解を招くかもしれないが、読者スタッフの後輩ができたということ。子供の子供なのでパチ▼パチ孫部隊とでも呼ぼう。

9 進級できた。奇跡。

8 2冊、読本がでた。根田さんのテーマインタビューは感動もん。

7 ポール・マッカートニーのライブを観に行った。

6 ラジオはじまり。

5 睡眠時間、新記録。70時間寝なかった後に、25時間熟睡。

4 このコーナーのハガキがすごく増えた。みなさんどうもありがと。

3 別冊が無事にでた。クスクスとBYちゃんのダブルカバーのやつ。

2 ストーンズのライブに行けた。私なんかが行ってもいいのだろうかと思ったもんだった。

1 今年もいろいろな人にいろいろな感情をもらった。いい経験させてもらいました。はい。

来年も、音楽というドキドキがみんなの上にふりそそぎますように。

Q パチ▼パチ12月号のTHE BOOMのページに載っていたあのおじさんたちは誰なんでしょうか。もしかしてMIYAのお父さんとか…(青森県 魚っ子)

A ちょ、ちょっとぉ。おじさんだなんて。私、知〜らない。と言い訳したところで質問にお答えしましょう。12月号の46ページ、47ページの写真ですよねぇ。アレには私もびっくりしたもんだった。ちなみにメンバーのお父さんたちではありません。一言で言うならば、バンドTHE BOOMを育てた人たちです。だからバンドBOOMにとっては、本当に親と言えるかもね。とにかく、BOOMを温かく見守るレコード会社その他の心優しい人たちです。単行本もよろしくねん。

Q 毎日、ハガキはどれぐらい来るんですか。本当に読んでくれているんですか。(神奈川県 毎月出してるのに、今まで1度もプレゼントに当選したことがない)

A え、え〜〜。そ、そんなこと急に言われても。「ダンボールふた箱以上かもしれないよ」とは、パチ▼パチの郵便物をしきる後藤"デスク"ともみのお言葉。それぐらいてきるもんだから、右のペンネームにあるように"1度もプレゼントに当たったことない"っていうのもうなずけるなぁ。うんうん。でも、みんなハガキは読んでるよ。アンケートだ「イトウアキ走る」だってなんだかんだ言ってもハガキとたわむれてる毎日だもん。(笑)徹夜明けにだめいきアベニュー"で脱力したりいろいろあるし。(笑)つうことで、ハガキは本のビタミン剤なのです。ま、プレゼントの当選は運と気合いかな。ちなみに、このコーナーに掲載されるポイントは…。私の性格のウラをみることかなー。(笑)

Q 私は将来レコード会社に入りたいと思っているんですが、どうすれば入れるのか、仕事の内容はなにか教えて下さい。(埼玉県 大塚あかね)

A じゃ東芝EMIの雨澤貴子嬢に答えてもらいましょう。「それはあなたの運がすべてです。事実、私もそうだから。学歴なんて関係ありません。高校中退の後、1年間プロタローを体験し現在の私がいるのですから(笑)勉強よりも感覚的なトンガリが必要だと思う。たくさん恋をして、いろんな修羅場をくぐって自分自身を磨くことが大事。仕事の内容は担当アーティスト(THE FUSE、氷室京介、布袋寅泰、ガラパゴスなど)の宣伝です」だそうです。アメちゃんサンキュー。

Q 詩人の血というバンドについて教えて下さい。この頃すごく気になるんです。お願いします。(足立区 大山弥生)

A オー。美人編集者Y田Y見サマも好きだというバンドですね。それでは早速お答え致しましょう。メンバーは、辻睦詞('67年5月4日生、A型)渡辺善太郎('63年8月9日生、B型)中武敬文('63年6月23日生、A型)の3人。'89年10月25日、シングル「青空ドライブ」でEPICソニーよりデビュー。今まで『What if…』と『とうめい』という2枚のアルバムをリリースしています。ファン・レターの宛先は、〒107 東京都港区青山2-2-15 ウィン青山1428 Power Box 内。問合わせは☎03(475)3938。

こんなんでましたけど

●1年振りの御無沙汰。こんなんでましたけど」ってみんな覚えているかい？ 初めて登場したのは'89年7月号。パチ▼パチ五周年記念のぶ厚いやつでしたね。またの名を"パチ▼パチ・スタイル夏バージョン"と呼ばれ、たかどうかはわからないけど)渡辺美里ちゃんが表紙を飾りました。どう？ 思い出したかい？ そう。スタイルにちなんでこのコーナーもめでたく復活。ちなみに今回で4回目。ま、初めての人はわかんないだろうからちょっとだけ振り返ってみましょう。

まず1回目はギタリスト特集だったよねえ。いろんなバンドのギタリストの使用楽器をカタログみたいに載せたもんだった。このときは、なな一んと狂市さんにイラストを描いてもらったんだよ。そのイラストは涙をのんでプレゼントにしたの。あの涙、今でも思い出すわ。ぐっすん。そんでもって2回目は、その7月号のすぐ後。8月号だったんだよ。この号はベーシスト特集。本当は7月号にギタリストとベース全部載せるつもりだったんだけど、スペースがなくなっちまったんで2回にわけたの。だってさあ、1人で何本ももってるんだもの。ギタリストのみなさんっば。(笑)んで、8月号はベーシスト特集になった。3回目は'89年のスタイル。ファンクラブ住所録一覧表を載せた。そして！ 1年間の沈黙をやぶり、今復活というわけ。いや〜、ここまでくるのにひっぱった、ひっぱった。(笑)というわけで、今回はなにをやるのかといいますと「一問一答の小部屋」4コママンガバージョン。実を言うとドラマーバージョンをやろうと思ったんだけど、シンバルが何枚とかバスドラがなんインチとかじぇーんぶ書かなきゃいけないことに気がついてしまって、ちょいと今、対策を思案中なの。来月号から1人ずつ連載でやろうかなとか思っているので、誰のが知りたいか、ハガキに書いて送ってください。宛先は 〒102 東京都千代田区五番町6-2 CBSソニー出版 パチ▼パチ編集部「イトウアキ走る」まで。……っと、いつもならここで終わりなんだけど今回はまだ15行もある。う〜ん、さすがスタイルだ。だてにスペシャルバージョンじゃあないぞ。どうしよう、どうしよう。どうやってうめればいいんだ。あ、そうだ。質問に答えよう。Q・一体、狂市さんは編集部に来てなにをしていらっしゃるのですか(福岡県 本松玲子)そうかあ、2か月に渡って私が騒いでたもんだから気になったんだろうね。それはね単行本の打合せにきてたの。そう、狂市さんってば単行本を出すのよ。タイトルは『徒然なる毎日』作・杉本恭一。CBSソニー出版(ピーウィー)から絶賛発売中。あ〜今年も狂市さんで終わったな(笑)

"プリティーかあちゃん＆プリティーとうちゃん募集！"

●いやぁ、やりたい放題やらせてもらってます。メンバー全員、STYLE楽しみにしてて、GOISUなテーマを出してくれるんだけど、全部あぶなくてNG。結局無難に、いつものヤツっ！

（中略）

NAO「これは、体をはってくれてると思うねん（笑）」
DEN「これお母さん？　これは、こわいと思うわ」
NAO「やる、おかんもおかんやで」
DEN「和風な家と、なんとも和風な顔のお母さんの——」
NAO「いやらしいセーラー服が」
SHO「いやらしいセーラー服（笑）」
DEN「（笑）哀し気でいいな。エロチックやな」
NAO「あのな、きっとな、たぶんな、これな、自然にやったんやと思うねんけどな、（笑）——グー・チョキ・パー″なん」
DEN「これは——わざとやろ（笑）」
NAO「えー、栃木県・牛久真由美。……あ、これ、おばあちゃんだって」
SHO「おばあちゃん（笑）」
DEN「もう、助けて。笑い死ぬ」
NAO「これのあとに、何持ってきてもなぁ……これかな。愛知県、森久瑠美さん。団地内でやったカラオケで、父上の女装です」
DEN「目ぇのトコ、自で消してあるけど。ぜんぜん消えてないの」
NAO「うしろの賞品がスゴイですよね。ダイコン（笑）」
DEN「——次点かなぁ。じゃあ、これ。愛知県・かほるちゃん。会社とかにありがちやな」
NAO「これも次点」
DEN「これって、前、上司のキスシーン、送ってきてくれた子だよな。つい、同じ子、選んでしまうな」
RY.Ö「俺、これがいい。やっぱ、アングルからいっても、これやろ」
SHO「うーっ、わっ」
RY.Ö「これ、虫歯で顔がはれてんねんて」
DEN「なぐられたんじゃないんだ。ぜったい、ケンカやと思った」
SHO「この子は、石川県・″あきちゃん″さん——えぇー」
RY.Ö「そう、11月号でジュニアさんのキーホルダー、おくってくれた。″あのキーホルダーは、ジェネラル石油の光GENJIのキーホルダーを分解してつくったので、スタンドに聞きまくったけど、もうなくて。メンバーのぶんもつくろうと思ったのに♡　おわびに、虫歯で入院してしまう前の父の写真をおくります″」
DEN「かんけーないけど、鼻の穴、ハート型してんな（笑）」
NAO「それにしても、このおばあちゃん、太りすぎで、ホックがはちきれそうになってんねん（笑）」
DEN「これ、まん中にホックが」
NAO「チャックやろ」
SHO「エロチックやわぁー」
NAO「この三枚、ちっちゃくのっけて、キリトリ線つけて、ジャンケンゲームに使ってくれっていう手もあんのやけどな」
RY.Ö「これと、これで、親子でドン!!」
DEN「彼女は、とても、涙をさそったとだけ言っておこう。あ、クイズダービーだ」
NAO「今、誰やってるんやったっけ。関口宏じゃないよな」
DEN「………徳光さんか」
SHO「あー」
DEN「原さんは？」
（そんなわけで、いつの間にか、話題はそれまくり、つー、パターン）

GOISUくん!

次点

GOISUくん!

宇都宮美穂 VS 奥田民生

●やったあ。〝続き〟が載る日が来たもんだったよ。フッチー（編担当）もたまにはいいヤツになるんだねぇ。超ゴーカ逆インタビュー「オクダモーンVSウッツー宇都宮」続編だ。（愛ゆえに）いつもコキおろされてるオクダモーン、どう逆襲するか…。

オクダ　あのーぉ…… 最近NY帰りでですねぇ、〝NYで黒人とばっかりエッチしてた〟というウワサがありますが。（笑）
宇都宮　（大笑）
オクダ　ホントでしょうか。あのー外人は好きですか？ 外人は。
宇都宮　外人好きですよ。みんな好きなのよ。ナニ人でも別にそんなに。
オクダ〝ナニ人でも〟（笑）じゃ、日本人より外人のほうが好きなの？
宇都宮　あッそんなコトないけど。
オクダ　ね、外人と結婚できる？
宇都宮　んー。と、思う。したことないんですよ〝結婚〟。ちょっとよくわかんないんですよ、だから。
オクダ　ねェ。どうですか？ それで〝恋〟は。……する気ないんですか？（笑）〝恋〟は。
宇都宮　ないんですよ。（即答）
オクダ　する気、しようという気もないんですか？
宇都宮　ええ。（即答）
原田　♪恋はッ（「初恋」口調）
オクダ　ソレ、実際にそうなだけじゃないですか？
宇都宮　そうなんですよ。
オクダ　結婚したくないんですか？
宇都宮　したいんですけど。（即答）
オクダ　でも結婚できないですよねえ。
宇都宮　そーなんですよ。（笑）なんでおマエが言う。（笑）
オクダ　ええ。
宇都宮　なぜッ。なぜアナタがそんなコトわかるんですかッ？
オクダ　そう…… 本人がそう思ってるのが伝わってくるからですよ。
宇都宮　ウソばっかり。
オクダ　ホントですよ。
宇都宮　私はね、忘れもしない名古屋のあの夜ッ。
オクダ　ナァニよ？ 名古屋で？
宇都宮　あたしは「結婚したいなあ」ってすーっごくマジメに思ってんのに、「ん〜…… ウッツーは結婚できないよねッッ」
オクダ　それはそう…… いやッ。
宇都宮　言ったでしょう？
オクダ　できないですよぉ。（やや開き直り口調）
宇都宮　そんなさー、ささいなひと言がひとをどれだけ傷つけるかッ。不用意な発言をしたもんだったねーぇッ。（笑）
オクダ　アナタがそういう風に自分を持ってってるんですから。
宇都宮　ちがうってば。
オクダ　それはッ自分が変われば結婚できますよ。
宇都宮　違うって。奥田くん、結婚したい？
オクダ　僕は…… 〝結婚したい〟という気はまだないですけどねぇ。でも子孫を残さなきゃイケナイでしょ。そういう気はありますか？
宇都宮　〝子孫〟ねぇ……子供はカワイイから欲しいと思うけど。
オクダ　やっぱでも子供が生まれたら〝自分の考え〟をこう、ねぇ？ 継承させていくわけじゃないですか。
宇都宮　えぇ!? 〝奥田くんの考え〟継承させるの？
オクダ　あたりまえよ（笑）
宇都宮　うわぁー（笑）
オクダ　コレが〝世界一〟だと思ってるんですけど、考え方で（照れ口調）
宇都宮　そうですかあ……
オクダ　そう…… ねぇ？ 子供欲しいでしょ？ だって。
宇都宮　ねぇ、子供カワイイもんね。
オクダ　ねぇ。
宇都宮　ちっちゃいしねーッ。
オクダ　いつかデッカクなるっちゅーにッー。

逆INTERVIEW 豪華2本立

ソメッチ（染谷淳一）＝アート・ディレクター

●左のイラスト（ソメッチ）とは誰のことなのか、新しい読者の人の中には気になっている人がいるかも。（私は編集部に入って3ヶ月間知らなかった）そこで、改めて紹介しましょう。パチパチ文字の産みの親、ソメッチです。

——若い頃は、どうでした。あ、まぁ今でもお若いんですが……。（ソメッチは30代前半である）
「不良でしたね、埼玉の高校に行ってたんだけど、六本木で遊んでましたね。ディスコとか。17歳で同棲したりして、学校には行ってませんでしたね」
——高校、卒業できたんですか。
「ええ、なんとか。でも、大学受験の願書は出したんだけど、受験の日も遊んでて受けませんでしたね」
——そのまま、デザイナーの専門学校に行ったんですか？
「いや。一年間、アパレル・メーカーの社員やってまして、デザインに興味を持って、それで専門学校に通うようになって。そんで、バイトでサンリオで『キティちゃん』描いたりしてましたねぇ。その後、1人で広告の仕事とかやってました。ひと月で、7、500円しか仕事がなったこともあったね！」
——吾郷さん（パチパチ編集長）と出会ったのは、いつ頃ですか。
「8年くらい前かな。オフ・コースの写真集をGBから出した時に」
——そういぁあ、パチ▼パチってGBの増刊だったんですよね。
「そう。『流行通信』みたいなおしゃれなロックの雑誌作りたいって、2人で話ししてて。チェッカーズが表紙・巻頭で50ページくらいの雑誌出したの。普通、それくらいのページあると、写真集になるんだけどね」
——あの書き文字は出て来た時、衝撃でしたよね。読めないから。（笑）
「昔書いたヤツは、今読めないことがありますよ。（笑）読めなくてもいいんですよ、デザインの一部で、イラストや記号みたいなもんですから。でも最近は読みやすくなったでしょう、昔に比べると」
——ケッコーまねされてますよね。特許とか出してないんですか。
「面倒くさいから（笑）」
——まねされた字を見て、どう思いますか？
「ウンチですね（笑）」
——汚ないなぁ。普通そう言う時は、「クソですね」って言うんじゃないですか。（笑）どーでもいいけど。
「でも、実は少しだけうれしかったりもするわけよ。自分の仕事を見てくれている人がいるんだなって思えば……」
——フゥ〜ム。複雑ですね。ところで最近、書き文字に変わって、筆文字を使ったりもしてますよね。
「日本人ですから、海外進出も狙って、オリエンタルなこともしてみようかなっと」
——そう言えば、メモ帳も筆ペンで書いてますね、最近。書道は得意なんですか？
「二級です」
——二段じゃなくて二級。あまりたいしたことないですね。（笑）ところで、ライバルっていますか。
「やっぱ、自分自身じゃないですか」
——へっ？ 謙虚ですね。
「声でかいから、威張ってるように思われるけど本当は謙虚なんですよ」
——それでは、目標は？
「う〜ん……」
——「富と名声」の名声は手に入れたでしょうから、富の方を手に入れるとかは？
「富？ 全然手に入らない！ パチ▼パチがナンバーワン雑誌で、何10億売れたって、私関係ナ〜イ（笑）」
——そりゃ、編集部もいっしょですよ。（笑）
てなワケで、パチパチの元気なレイアウトは、染谷さんの性格が反影された物なんですねー、と妙に納得したインタビューでした。

QUIZ DE 100 MON 攻撃!!! プレゼント付

ルールDE100MON

パチ▼パチ・スタイル恒例100問クイズ。知力・体力・時の運。そして根気強さが必要とされます。それでは応募方法を説明しようかい。
▼363ページの解答用紙のみ使用のこと。コピーでもOKです。1人1通のみ有効。2通以上の応募の場合はすべて無効となりますので、注意して下さい。不明な点がありましたら、バックナンバーを参考にして下さい。なお編集部および事務所、レコード会社への問い合わせは絶対にしないで下さい。ちなみにパチ▼パチを読めば、わかる問題はかりです。
▼厳しい採点の結果、高得点者上位10名様（多数の場合は抽選）に367ページ～368ページの中からお好きなCDをプレゼント致します。
〆切りは1月末日必着。発表は春頃発売のパチ▼パチ誌上にて行ないます。解答方法は、いつものように三択マークシート。当たるもはっけ当たらぬもはっけ。3分の1の確率たぜ。ルールを守って。レッツ・トライ。採点はバッチリ任してくれい！（←つらいんだこれがまた）

Q1 編集長アゴリノフの新しいニックネームは？
①おとぼけデビィ ②スーパーカブトムシ ③さすがのプリン

Q2 90年1月号から12月号までパチ▼パチの表紙を飾ったアーティストを全部たすと？
①52人 ②34人 ③25人

Q3 11月に発売されたパチ・ロク別冊「Punkish!」。その中でモデルをやってない人は？
①MAGUMI ②高野寛 ③フリッパーズギター

Q4 スカパラ、スチャダラのジョイントライブに登場したチェッカーズのメンバーは尚之と
①フミヤ ②ユウジ ③トオル

Q5 真心ブラザーズの桜井くんが大学で選択している外国語は？
①独語 ②仏語 ③中国語

Q6 真心ブラザーズの曲の中で実際にあるのは？
①龍巻のビー ②ぶりんすマーブル ③みんなのレッズ

Q7 マヨネーズが好きみたいというネコを飼っているのは
①車谷浩司 ②山川浩正 ③宮田和弥

Q8 「チャボ（仲井戸麗市）さんのためならアルバム一枚作れる」と爆弾発言したプリプリのメンバーは？
①中山 ②富田 ③奥井

Q9 うなぎが苦手なBY-SEXUALのメンバーは？
①NAO ②RYÖ ③SHO

Q10 7月18日のBY-SEXUALのパワーステーションライブで7曲目に演奏された曲は
①SO BAD BOY ②COMMON BOY ③GOD'S CREATION

Q11 9月号の表紙はチェッカーズでした。では、その取材にかかった時間は？
①310分 ②430分 ③220分

Q12 編集部が飼っている金魚の名前は？
①ラッキー ②ハッピー ③デメ

Q13 美里ちゃんが小さい時から離さずそばに置いているものは？
①トッポジージョのスプーン ②ミッキーマウスのぬいぐるみ ③スヌーピーのコップ

Q14 TBSラジオ「子供電話相談室」に出演したことがあるアーティストは？
①大江千里 ②松岡英明 ③渡辺美里

Q15 ユニコーン初の単行本「イナゲ」の意味は？
①最高 ②ヘン ③危険

Q16 それではその「イナゲ」の総ページ数は？
①320P ②180P ③240P

Q17 レピッシュのMAGUMIと狂市が組んだHGZの正式名称は？
①8時だよがんばって全員集合 ②ハイカラ楽団全員集合 ③ハンペンガンモドキ全員集合

Q18 そのHGZがTV出演した時、ヒゲショーのギターの裏に貼られていた写真は誰の写真？
①上田現 ②森高千里 ③カケフ

Q19 11月2日、母校・青山学院大学でライブをやったドリカムのメンバーは誰？
①中村 ②吉田 ③西川

Q20 フリッパーズギターの小沢くん、FUSEのHANAちゃん、真心の桜井くん、KATZEの中村敦、子供隊のイトウアキ&えがちゃんは全員'68年生まれですが、生まれた月の順に並べた時3番目にくる人は誰でしょう。
①HANAちゃん ②えがちゃん ③中村敦

Q21 8月号のプレゼントで編集者Y田Y見サマが泣いて欲しがったものは？
①フリッパーズのTシャツ ②フミヤ&MAGUMIのボラ ③ユニコーンのブローチ

Q22 '90年7月15日、ホコ天でライブをやったバンドは？
①J(S)W ②THE BOOM ③BAKU

Q23 チェッカーズのアルバム『OOPS!』でほとんどギターの音が入っていない曲は？
①See you Yesterday ②Gold Rush ③ACID RAIN

Q24 サービス。'90年最後のパチ▼パチの表紙は誰だった？
①ユニコーン ②TMN ③BUCK-TICK

Q25 B'zの稲葉さんが、高尾山に逃げてしまいそうになるくらい製作中に煮つまってしまったアルバムは？
①BAD COMMUNICATION ②BREAK THROUGH ③OFF THE LOCK

Q26 KUSU KUSUの次郎くんの実家の職業はなに？
①小料理屋 ②酒屋 ③食堂

Q27 BOOMのMIYAのほくろが逆になっている写真が載ってるパチ▼パチは？
①'89年12月号 ②'90年3月号 ③'90年11号

Q28 お菓子の宣伝をやるなら不二家がいいと言っているBOOMのメンバーは？
①小林 ②栃木 ③宮沢

Q29 好評。プリプリのメンバーにも大ファン。喜国雅彦さんのマンガの連載が初まったのは？
①2月号 ②5月号 ③7月号

Q30 毎号、髪の色も形も違っていたBUCK-TICKの今井寿。8月号の髪の色は？
①みどり ②金 ③黒

Q31 UP-BEATの岩永凡がやっていたバイトは？
①マクドナルドの店員 ②焼き鳥屋 ③清掃員

Q32 ニューアルバムが楽しみなBUCK-TICK。FCの入会金の値段は？
①1000円 ②500円 ③無料

Q33 BUCK-TICKの桜井敦司、今井寿、星野英彦の出身地は群馬のどこ？
①群馬県高崎市 ②群馬県藤岡市 ③群馬県前橋市

Q34 '90年3月号でパチ▼パチ初の表紙を飾ったBUCK-TICK。この時うしろの右側に映っているは誰？
①星野英彦 ②樋口豊 ③今井寿

Q35 では、BUCK-TICKの表紙・巻頭の取材に費された時間は？
①12時間 ②15時間 ③20時間

Q36 TMNの小室哲哉が出演した"OZAK"の発売元は？
①ハウス ②カルビー ③森永

Q37 RHYTHMREDツアーの広告でベレー帽をかぶっているTMNのメンバーは誰？
①小室 ②宇都宮 ③木根

Q38 TMNの小室哲哉とコラボレーションの予定があるバンドは次のうちどれ？
①電気GROOVE ②スチャダラパー ③オリジナル・ラブ

Q39 パチ▼パチのB'z取材の時に撮影現場に遊びに来たことのない人は？
①光ゲンジ ②忍者 ③SMAP

Q40 単行本が発売になったばかりの松岡英明くん。そのロケの時思わずたたずんだ場所は？
①湖 ②海 ③山頂

Q41 全員がアート・スクール出身だというバンドは？

①FLYING KIDS ②ジッタリン・ジン ③スピッツ

Q42 ソフトバレエのメンバーの中で長野出身なのは誰?
①藤井 ②遠藤 ③森岡

Q43 ドリカムの取材の時、偶然にもニーヒャのカバンの中から出てきた食べものは?
①ポッキー ②グミキャンデー ③プリッツ

Q44 筋肉少女帯の大槻ケンヂが出版した詩集のタイトルは?
①リンウッドテラスの心霊フィルム ②死集 ③ハリウッドマーケットのアルバム全集

Q45 11月8日の東京ドームライブを最後に活動休止状態に入ったCOMPLEX。では、この時のライブの1曲目の曲名は?
①1990 ②BE MY BABY ③恋を止めないで

Q46 サービス。今年、ちくっちゃえキングの名前をほしいままにしたKATZEのメンバーは。
①中村敦 ②尾上賢 ③高山靖彬

Q47 KATZEの4枚目のアルバム『LOVE IS HERE』のレコーディング場所は?
①オーストラリア ②NY ③ニュージランド

Q48 ユニコーンがレコーディングでNYを訪れた時、ブーツを3足購入した人は?
①タミオ ②テッシー ③EBI

Q49 今年JALの沖縄キャンペーンソングに使われた曲が入っている米米クラブのアルバム名は?
①KOMEGUNY ②EBIS ③5 1/2

Q50 米米クラブの事務所シャリシャリズムの創立記念日は。
①1月25日 ②2月3日 ③4月20日

Q51 パチ▼パチ10月号の取材。「秋らしい服装で」という、担当フッチーの頼みを無視して半袖で登場したFVSEのメンバーは?
①KINちゃん ②HANAちゃん ③GAKUちゃん

Q52 BOOMのYAMAさんの飼ってるネコの名前は?
①レオ ②トラ ③ヒョー

Q53 COBRAのメンバーでホカロンを愛用してるのは?
①NAOKI ②ヨースコウ ③PON

Q54 大江千里主演演劇『すき!』で千里さんの相手役をした女の子の名前は?
①吉田真里子 ②島崎和歌子 ③田中律子

Q55 大江千里さんのデビューした年は?
①'82年 ②'83年 ③'84年

Q56 高野寛くんのFCの名前は次の3つのうちどれ?
①ステレオスコープ ②ステレオカフェ ③ステレオダンク

Q57 パチ▼パチ恒例ピンナップで7月号は誰?
①BAKU ②FUSE ③美里

Q58 "ロックの生まれた日"でABOというセッションに参加したのは誰?
①高野寛 ②大江千里 ③上田現

Q59 渡辺満里奈ちゃんに曲を提供したことのない人は?
①大江千里 ②フリッパーズギター ③いまみちともたか

Q60 BARBEE BOYSのプロモーションビデオ「ノーマ・ジーン」の衣装の色は?
①赤 ②黒 ③白

Q61 BOOM、BY-SEXUALの担当編集者は?
①OMIDO ②Y田Y見 ③芳賀集

Q62 昔、メタルのTシャツを着て部活動に汗を流していたというクスクスのメンバーは誰?
①次郎 ②SAY ③MŪ

Q63 サービス。ドラマの主題歌「今すぐKiss Me」を歌ったバンドの名前は?
①リンドバーグ ②アマゾンズ ③ソフトバレエ

Q64 リンドバーグのファーストシングルのタイトルは?
①ROUTE246 ②ROVTE16 ③ROUTE1

Q65 昔、忌野清志郎さんの運転手をやっていた三宅伸治さんが所属しているバンド名は?
①ニューエストモデル ②MOJO CLUB ③BIGIN

Q66 ウドンが好物というジッタリン・ジンのメンバーは?
①春川玲子 ②入江美由紀 ③破矢ジンタ

Q67 パチ▼パチの取材にだけ遅れてくるBAKUのメンバーの名前は?
①谷口 ②車谷 ③加藤

Q68 パチ▼ロク別冊「Punkish!」でヌードになったBY-SEXUALのメンバーは?
①RYÖ ②DEN ③NAO

Q69 J(S)Wのプロモーションビデオ「Let's Go Hibari-hills」の中で女装しているのは誰?
①寺岡 ②森 ③宮田

Q70 91年2月21日にリリースされるJ(S)Wのニューアルバム『START』。全員がボーカルをとる迷曲の名は?
①START ②しがないロックンローラー ③パーティー

Q71 7月31日に西武球場でライブをしたJ(S)W。では、そのチケットの発売日はいつ?
①6月17日 ②6月24日 ③7月1日

Q72 J(S)Wの記事が初めてパチ▼パチに載ったのは?
①'88年8月号 ②'88年10月号 ③'89年1月号

Q73 KATZEのパワーステーションのライブにゲストで参加したJ(S)Wのメンバーは?
①小林 ②森 ③宮田

Q74 単行本が好評のUP-BEAT。今までリリースしたシングルは全部で何枚?
①10枚 ②12枚 ③15枚

Q75 UP-BEATが東京で初めてライブをした場所は
①新宿ロフト ②新宿ルイード ③渋谷屋根裏

Q76 ジッタリン・ジンのメンバーの中で1人だけ出身地の違う人は誰?
①入江 ②浦田 ③ジンタ

Q77 レピッシュの狂市がパチ・ロク12月号で対談したのは
①高岡早紀 ②掛布雅之 ③吉田戦車

Q78 大江千里さんがリリースしたアルバムは、今までに
①8枚 ②9枚 ③10枚

Q79 松岡英明くんの誕生日は?
①1月1日 ②10月10日 ③12月23日

Q80 森田恭子さんの初の単行本発刊にあたって"100年はえーんだよ"というコメントをよせているのは誰?
①桑原達治 ②森純太 ③コンタ

Q81 '90年にワールド・ツアーをしたバンドは?
①カステラ ②スカパラ ③フリッパーズギター

Q82 パチ▼パチ読本2で論文を書いている人は?
①TAKU ②次郎 ③車谷

Q83 サービス。松岡英明くんのコンタクトの色は?
①ブルー ②透明 ③グリーン

Q84 昔、パチ▼パチランドで"バナナ売りのおいしいプログラム"なんつーコーナーをもっていた編集者は?
①千脇 ②村田 ③藤本

Q85 '91年でパチ▼パチは創刊何年目?
①7年目 ②8年目 ③9年目

Q86 このスタイルは何冊目?
①1冊目 ②3冊目 ③5冊目

Q87 スタイルの取材の時、BAKUのメンバーが食べた昼食はなに?
①カツ丼 ②玉子丼 ③親子丼

Q88 美人編集者Y田Y見サマの目ざす職業は?
①保母さん ②ミュージシャン ③専業主婦

Q89 '91年1月9日発売のパチ▼パチの表紙はだ〜れだ。
①プリンセスプリンセス ②米米クラブ ③BUCK-TICK

Q90 フッチーの似ている動物はなに?
①かわうそ ②ビーバー ③ネコ

Q91 アンジーのニューアルバムのタイトルは?
①窓のホラふき ②窓の口笛吹き ③荒野の口笛吹き

Q92 岡村靖幸くんは自分が今、高校3年生だったらどこの大学に進学したいと言っている?
①早稲田 ②フェリス ③青学

Q93 ブヒ♡ブヒで大好評の逆インタビュー。1回目は誰VS誰だった?
①根本美聡さんVS真心 ②芳賀集VS中村敦 ③イトウアキVS狂市さん

Q94 パチ▼パチ9月号の表紙の色は何色だった?
①白 ②赤 ③緑

Q95 BARBEE BOYSのアルバム『eeney meeney barbee moe』ジャケット撮影の時、5時間遅刻してきたのは?
①イマサ ②コンタ ③コイソ

Q96 次のバンドのうち、デビューが'90年でないのは?
①COBRA ②AURA ③BY-SEXUAL

Q97 クラック・ザ・マリアンの4人の出身地はどこ?
①宮崎県 ②熊本県 ③佐賀県

Q98 この3つの中で女の子がベースを弾いているのは?
①すかんち ②ガラパゴス ③東京少年

Q99 次の中で5人のバンドは?
①TOY BOYS ②ノーマジーン ③パッセンジャーズ

Q100 恒例メンバー足し算。スパークスゴーゴー、グラウンドナッツ、The ピーズ、16TONS、ヒロウズ、全部あわせると?
①15人 ②18人 ③21人

QUIZ DE 100 MON 攻撃!!! プレゼント付

ANSWER SEAT

●各解答欄の①〜③のうち、正しいと思う番号を黒くぬりつぶして下さい。(解答用紙はこのページのみに限ります。コピーも可ですが、応募は1人1通のみ。チェックします）高得点者上位10名（満点が多数出た場合は抽選）には希望のCDを、次点20名にはパチ▶パチのTシャツをプレゼント。——なので、下欄の住所etc.もシッカリ記入して下さい。応募は封書で、〒156-91　世田谷区千歳郵便局私書箱25号　CBS・ソニー出版パチ▶パチ編集部「クイズで100問」係まで。1月末日必着。高得点者発表と模範解答の発表は今のトコ未定です。

No.			
1	①	②	③
2	①	②	③
3	①	②	③
4	①	②	③
5	①	②	③
6	①	②	③
7	①	②	③
8	①	②	③
9	①	②	③
10	①	②	③
11	①	②	③
12	①	②	③
13	①	②	③
14	①	②	③
15	①	②	③
16	①	②	③
17	①	②	③
18	①	②	③
19	①	②	③
20	①	②	③
21	①	②	③
22	①	②	③
23	①	②	③
24	①	②	③
25	①	②	③
26	①	②	③
27	①	②	③
28	①	②	③
29	①	②	③
30	①	②	③
31	①	②	③
32	①	②	③
33	①	②	③
34	①	②	③
35	①	②	③
36	①	②	③
37	①	②	③
38	①	②	③
39	①	②	③
40	①	②	③
41	①	②	③
42	①	②	③
43	①	②	③
44	①	②	③
45	①	②	③
46	①	②	③
47	①	②	③
48	①	②	③
49	①	②	③
50	①	②	③
51	①	②	③
52	①	②	③
53	①	②	③
54	①	②	③
55	①	②	③
56	①	②	③
57	①	②	③
58	①	②	③
59	①	②	③
60	①	②	③
61	①	②	③
62	①	②	③
63	①	②	③
64	①	②	③
65	①	②	③
66	①	②	③
67	①	②	③
68	①	②	③
69	①	②	③
70	①	②	③
71	①	②	③
72	①	②	③
73	①	②	③
74	①	②	③
75	①	②	③
76	①	②	③
77	①	②	③
78	①	②	③
79	①	②	③
80	①	②	③
81	①	②	③
82	①	②	③
83	①	②	③
84	①	②	③
85	①	②	③
86	①	②	③
87	①	②	③
88	①	②	③
89	①	②	③
90	①	②	③
91	①	②	③
92	①	②	③
93	①	②	③
94	①	②	③
95	①	②	③
96	①	②	③
97	①	②	③
98	①	②	③
99	①	②	③
100	①	②	③

名前	年齢	住所	欲しいCD
男 女		〒 Tel.	

PATi▸PATi ENCORE PRESENT

●どっどぉ――んっ!!（プレゼントが大放出される音）このときのためにアサリましたよ、倉庫を、編集部を。座敷わらし改め"倉庫わらし"と言われようとも、編集者が極秘にとっておいたものを取りあげ"プレゼントの野獣"と言われようとも、私はSTYLE読者様のために今これらをっ！関係者各位に深くお礼申し上げます。――ではどうぞ!!

Dreams Come True

7名

⑫ポスター2種（右・中各3名・EPICソニー提供）⑬ポラロイド（左・1名・編提供）

KATZE

2名

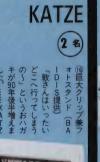
⑯巨大クリップ兼フォトスタンド（BMG・BIDIS提供）「敦さんはいったいどこへ行ってしまうの〜」というおハガキが90年後半増えました。……KATZEは前進していくんです。ね、いつでも。

UNICORN

15名

⑭パチ▸パチ特製3Dカード（左上・5名・編提供）⑮ポスター2種（下・各5名・CBSソニー提供）アルバム3連発全部良かったもんだった!!

パチ▸パチ

35名

右から①THE BOOMリコーダー②渡辺美里バンダナ③B'zwatch④チェッカーズタオル⑤J(S)W Tシャツ⑥ユニコーンビーチバッグ⑦TMNパーカー（各5名・編集部提供）今年も1年ありがとうの気持ちをたくさんこめて。（注デザインは変わることもあります）

TMN

9名

⑰ポスター3種（各3名・EPICソニー提供）宇都宮さんのTV出演で主婦層のファンも開拓、リニューアルもビシッと決まったTMN。3人の個人活動も本当に充実した90でした。

渡辺美里

3名

⑧ステッカー（EPICソニー提供）美里ちゃんの声には本当に元気づけられた1年でした。

THE FUSE

3名

⑱バッヂ（右・2名）⑲ツアーパンフレット（左・1名・共に東芝EMI提供）91年、大変身の予感がするFUSEです……。

J(S)W

3名

⑩純太さん使用済ピック（1名・編芳賀提供）⑪巾着付パジャマ（2名・トイズファクトリー提供）⑩は編芳賀さんから奪いとりました。

プリンセス プリンセス

1名

⑨91年1月号（90年12月9日発売）撮影用木馬（編提供）本誌には載らなかったけど……。

氷室京介

5名

⑳ペーパーバッグ（東芝EMI提供）90年は「ジェラシーを眠らせて」を大ヒットさせたヒムロック。あのセクシーさ、力強さ、迫力……ヒムロックはほんと――っにカッコイイ!!

THE BOOM

6名

㊱ミニバインダー（右・3名）㊲ポスター（左・3名・共にCBSソニー提供）
パチ▼パチ初のストライプ表紙だった、BOOM表紙巻頭の10月号。全国BOOMERの方々の〝90年思い出の1冊〟になってくれればうれしいな、なんて思ってます。

SPARKS GO GO

6名

㉚サイン入りポラロイド（㊎提供）スパゴー91年を担う星となるか!?

BUCK-TICK

6名

㉑サイン入りポラロイド（5名・㊎提供）㉒U-TAさん使用済みピック）右下・1名・㊎芳賀提供）

TRACY

11名

㉛ポスター（左上・3名）㉜長袖シャツ（右下・3名・㉛㉜東芝EMI提供）㉝サイン入りポラロイド（5名・㊎提供）

松岡英明

1名

㊳写真（㊎提供）プレゼントに出しあぐねていたフッチーから、ひったくるようにもらってしまいました。フッチー秘蔵の1枚です。〝これが当たるんならもう91年の幸運全部使い切ってもいいっ〟という覚悟のできる方のみ御応募下さいませ。

東京少年

6名

㉔ステッカー（上・3名）㉕Tシャツ（下・3名・共にヒップランドミュージック提供）

岡村靖幸

2名

㉓サイン入り下じき（ハートランド提供）こ、これは懐しすぎる岡村ちゃん。早熟な天才ぶりは健在です。『家庭教師』を聞いておくれよ。

SOFT BALLET

15名

㊴サイン入り撮影用小道具（左・右中・3名・㊎提供）㊵シャーペン（右下・10名）㊶ポスター（左下・2名・㊵㊶アルファレコード提供）

すかんち

3名

㉞カセット用シール（CBSソニー提供）すかんちのライブはやみつきになる。〝謎の怪奇ロマン劇場〟じゃなくて〝デイズニー風オペラ・ミュージカルロック〟はもう体験したかね。91もすかんちは炸裂すること間違いなし。

米米クラブ

5名

㉟ポスター（CBSソニー提供）JALのCMは見事にハマってたというかキマってたというか、あの画面の生き生きとした華やかさは米米ならでは、でした。あそこに浪漫飛行が流れた日にゃあ、あ一今すぐ沖縄に飛んで行きたいっ！って気持ちになったよね。記念の1枚。

フリッパーズ・ギター

5名

㉖「フリッパーズのページは何だかいつも変に凝ってやしないか」疑惑に関するお問い合わせはフッチーフまで。90は毒舌ぶりも冴えてたけど、音も断然冴えてたよね。

ガラパゴス

8名

㊸バンダナ（上・3名・東芝EMI提供）㊹ポラロイド（㊎提供）

COBRA

5名

㊷パンフレット（ポニーキャニオン提供）91年はOi-パンクの爆発だっ!!

BY-SEXUAL

15名

㉗サイン入り店頭用ポップ（右・1名）㉘サイン入り2種、サインなし1種、計ポスター3種（各3名・㉗㉘全てポニーキャニオン提供）㉙サイン入りポラロイド（5名・㊎提供）

PATi▶PATi ENCORE PRESENT

KUSU KUSU

3名

㊾バンダナ（ポリスター提供）メジャーデビュー後初のツアーで武道館をやっちゃったKUSU²。91年はさて、何が飛び出すのやら。

B'z

3名

㊻ポスター（BMGビクター提供）11月号はB'zパチ▼パチ初の表紙巻頭特集でした。何だか深夜帯のTVCMではいつもB'zの曲が流れてた気がするなぁ。稲葉さんの悩ましい声に松本さんの聞かせるツボを心得たギター、まさに90年は大爆進のB'zでした。

BAKU

3名

㊺写真（㊞提供）洋上イベント（12月号掲載）でやったゲームの優勝チームの人たちにあげた賞品。11月号修学旅行のときの写真です。スタイルだから特別放出！

BEGIN

5名

㊺ステッカー（BAIDIS提供）「恋しくて」は泣けた……。

リンドバーグ

8名

㊸なわとび（5名）㊹ツアーパンフ（3名・共に徳間ジャパン提供）

大江千里

3名

㊽たわわの果実バンダナ(EPICソニー提供)「たわわの果実」のときの千里さんの頭にはビックリしたね。……『APOLLO』は心の中にじわりとくるアルバムでした。〝みんな大人になっていくんだな〟って気持ちがしたんです、なぜか。

チェッカーズ

5名

㊼ポスター（ポニーキャニオン提供）音楽の新しいジャンルをつくったと言われているチェッカーズ。こんだけキャリアが長いのに、どうしてチェッカーズはいっつも新しくて、かっこいいんだろう。涼しい顔をしつつも貫禄はあって。やっぱすごいです。

BARBEE BOYS

3名

㊻バンダナ（EPICソニー提供）バービーのこと。……森田恭子さんの単行本『P.S.―世界でいちばん長い追伸』のバービーのとこを読んでほしいです。バービーファンの方には、そこだけでも。

UP-BEAT

10名

㊾バンダナ（右・3名・ハートランド提供）㊿サイン入りポラロイド（中・6名・㊞提供）51ポスター（左・1名・オフステーション提供）

ザ・真心ブラザーズ

1名

62写真（㊞提供）スタイルプレゼントのラストを飾るにふさわしい1枚!! 幸せな気持ちになれちゃうことうけあい。

高野寛

15名

57ポスター（右・3名）58ボールペン（10名）59ステッカー（2名・全て東芝EMI提供）高野くんの歌を聞くとなんだか心が騒いでどっかへ行きたくなるのは私だけかな？ あー、スキー行きたい。

FLYING KIDS

3名

61ハンカチ（ビクターインビテーション提供）

LÄ-PPISCH

1名

60マグミさんサイン入りコーヒー空パック（㊞提供）フミヤさんとの対談のとき撮った写真で使われてたんです……載らなかったんだけど。幻の一点。

●応募方法●

●ふぅ——、やっとここまでたどり着いた。いかがでしたか、アンコールプレゼント。ためおきプレゼントのまぁこの乱放出ぶり。もう編集部にも倉庫にもな————んも残ってないかんね。え？ 編集部に売れ残りはいるでしょって!? Oh、NO！ もう一度言ってごらん、おねえさん何も当ててあげないわよ。ウソ。全部自分で書いてるんです、スミマセン。……というわけで応募方法です。355ページのとこについているハガキでお願いします。アンケートはバッチリ書いて下さいね。あと41円切手もよろしくです。その後は神のみぞ知る……アーメンソーメン冷ソーメン、レディース&ジェントルメン——あー許して、こんなこと書きたくないのに私の手が手が勝手に動くんです。いや、90年締めくくりのプレゼントなのにこんなことではいかん。キリッ。つうことで幸運を祈る!!

撮影●鈴木圭

雑誌公規約の定めにより、この懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合があります。

SPECIAL PRESENT

250 CD&VIDEO

ALL1990 DISCOGRAPHY

PATI·PATI

CD&VIDEOを250名にプレゼント!

●いやはやお待たせいたしもーた。もはやスタイル定番となった250CD＆VIDEOプレゼント。１年は結構あっという間に過ぎちゃうけど、音楽はこんなに生まれてたんだ、って気持ちになるよなこの面々。20年後の自分にとっていちばん思い出のつまった1枚になるものが、この中にあるのかもね……! BRAVO1990.!!

恒例250名CD&VIDEOプレゼント！

■大江千里 ■UNICORN

〈SINGLE〉
91 笑顔の行方

86 勇み足サミー

81 ピーターパン

73 逆立ちすれば答えがわかる

65 GET, START, DON'T STOP, GO GO!

57 SHAKE YOUR FIST

〈ALBUM〉
49 APOLLO

〈SINGLE〉
41 命果てるまで/PTA～光のネットワーク～

■KUSU KUSU ■UP-BEAT ■BY-SEXUAL

92 ring! ring! ring!

〈ALBUM〉
87 世界が一番幸せな日

〈VIDEO〉
82 宿題なんか忘れちゃえ

〈VIDEO〉
74 PICK ME UP

〈ALBUM〉
66 HAMMER MUSIC

〈ALBUM〉
58 Culture Shock

〈SINGLE〉
50 たわわの果実

〈VIDEO〉
42 MOVIE 2 1/2

■LÄ-PPISCH ■渡辺美里

〈ALBUM〉
75 make

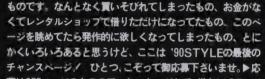
67 Weeds & Flowers

59 Sexuality

51 dear

〈ALBUM〉
43 tokyo

● 応募方法 ●

▶ここに掲載したCD、VIDEOは、パチ▶パチ登場アーティストが1990年1月1日から12月31日までの間にリリースしたものです。なんとなく買いそびれてしまったもの、お金がなくてレンタルショップで借りただけになってたもの、このページを眺めてたら発作的に欲しくなってしまったもの、とにかくいろいろあると思うけど、ここは'90STYLEの最後のチャンスページ！ ひとつ、こぞって御応募下さいませ。▶応募は355ページのとこのアンケートハガキで。欲しいCD、ビデオを選び（アルバム、シングル各1枚）、その番号をハガキに記入して下さい。ビデオはアルバム扱いとなりますので番号はアルバムの欄へお願いします。▶アルバム（orビデオ）を50名、シングルを200名にプレゼントします。▶締切は1月末日消印有効。▶プレゼントの当選者は3月9日発売のパチ▶パチ4月号で行う予定です。▶さて、いったいどうしたら当たるのでしょう。まず自分は当たると信じること。そして当たって品物を受けとり喜ぶ自分をできるだけリアルに頭に思い描くこと。これを長く続けると願望が現実化するって話を聞いたことがあるよ。効果があるか、お試しあれ！

〈SINGLE〉
76 Magic Blue Case

〈SINGLE〉
68 Angel Voice

〈SINGLE〉
60 SO BAD BOY

52 APOLLO

〈SINGLE〉
44 サマータイムブルース

〈VIDEO〉
77 FANTASY

69 Sister Tommorow

61 BE FREE

〈VIDEO〉
53 redmonkey yellowfish TOUR 1989-1990

45 恋するパンクス

■バービーボーイズ ■BAKU ■松岡英明

93 さよならを待ってる

〈SINGLE〉
88 世界が一番幸せな日

〈ALBUM〉
83 eeney meeney barbee moe

〈ALBUM〉
78 不思議なマジック

70 Weeds & Flowers

62 GET, START, DON'T STOP, GO GO!

〈ALBUM〉
54 Light and Colour

46 Power-明日の子供-

■THE BOOM

94 雪のクリスマス

〈VIDEO〉
89 世界が一番幸せな日

〈SINGLE〉
84 ノーマジーン

79 ふたつめのはじまり

〈ALBUM〉
71 japaneska

63 FLAPPER

〈SINGLE〉
55 Vision

47 HOME PLANET with 佐野元春

■KATZE ■Dreams Come True

〈ALBUM〉
95 Good Times Bad Times

〈ALBUM〉
90 WONDER 3

85 あいまいtension

〈SINGLE〉
80 HELLO GOOD-BYE～天までとどけ～

〈SINGLE〉
72 釣りに行こう

〈VIDEO〉
64 FILM BY-SEXUAL I

56 again again again

〈VIDEO〉
48 born IV

▶スペースの都合上、発売されたすべてのCD&VIDEOが掲載されているわけではありません。また掲載発売順ではありません。

⑭パンチアウト

⑬Sha-la-la

〈SINGLE〉
⑫RUDEWAY FEEL WAY

〈SINGLE〉
⑲恋のTKO

⑪どかーん

〈VIDEO〉
⑯虹の都へ

⑩LOVE TRAIN

96LOVE IS HERE

〈SINGLE〉
⑭プレゼント

〈VIDEO〉
⑯STREET PARADISE

■ストリート・スライダーズ
〈ALBUM〉
⑫NASTY CHILDREN

⑳恋の1,000,000$マン

■SOFT BALLET
〈ALBUM〉
⑫ESCAPE-Rebuild

⑩ベステン ダンク

〈SINGLE〉
⑩ORIGINAL CLIPS & CMs

〈SINGLE〉
97AGAIN

⑭にちようび

■米米クラブ
〈SINGLE〉
⑬浪漫飛行/ジェットストリーム浪漫飛行

〈SINGLE〉
⑫COME OUT ON THE RUN

■SPARKS GO GO
〈ALBUM〉
⑫SPARKS GO GO

⑬DOCUMENT

SPECIAL PRESENT 250 CD&VIDEO ALL 1990 DISCO GRAPHY

⑭夏祭り

⑬浪漫飛行/そら行け! 浪漫飛行

〈VIDEO〉
⑬Harry Sings

〈SINGLE〉
⑫Blue Boy

⑪3 [drai]

〈VIDEO〉
⑭ジッタリン・アワー

〈VIDEO〉
⑬DEBUT vol.I

⑬Get Wet When It Rains

■COBRA
〈ALBUM〉
⑫CAPTAIN NIOPPON

〈SINGLE〉
⑪TWIST OF LOVE

⑭ビデオ・アルバム

⑭Ti-Ti vol.10

■THE FUSE
〈ALBUM〉
⑬HAPPY HAPPY

〈SINGLE〉
⑫オレたち

〈VIDEO〉
⑪MOVIE

■ザ・真心ブラザーズ
〈ALBUM〉
⑩ねじれの位置

■高野寛
〈ALBUM〉
⑩CUE

■フリッパーズ・ギター
〈ALBUM〉
98Camera Talk

■東京スカパラダイスオーケストラ
〈ALBUM〉
⑭東京スカパラダイスオーケストラ

⑭Ha-Ha vol.11

〈SINGLE〉
⑬BOYS & GIRLS

■TRACY
〈ALBUM〉
⑫GIGA

⑪JACK IN

⑩勝訴

〈SINGLE〉
⑩虹の都へ

〈SINGLE〉
99Camera! Camera! Camera!

⑮TOKYO SKAPARADISE ORCHESTRA

■ジッタリン・ジン
〈ALBUM〉
⑭Hi-King

⑬D-Kiss

⑫IMITATION LOVE & PEACE

■すかんち
〈ALBUM〉
⑪恋のウルトラ大作戦

〈SINGLE〉
⑪組曲オバタリアンのテーマ

⑩ベステン ダンク

⑩フレンズ アゲイン

SPECIAL ISSUE おもしろ大気ヤング・ミュージック・マガジン・パチ・パチ

PATI-PATI PRESENTS STYLE

YEAR BOOK '90-'91

PS '91

PRICE=980YEN

ART DIRECTION : JUN'ICHI SOMEYA =HEADBUTT
DESIGNER : JUN'ICHI SOMEYA
MIKA MURAI
IWAO MIURA
SHINGO NAKAMURA
YUKO INAMI
IKUMI NAKAMURA
=HEADBUTT
EDITORIAL DIRECTION : TERUKI AGO
EDITOR : TERUKI AGO
YOSHIMI YOSHIDA
TAKASHI HAGA
MIDORI KUROKI
MASATOSHI FUJIMOTO
SHIGERU MURATA
AKIKO CHIWAKI
ERIKO YAMAZAKI
ALL WRITERS : KYOKO MORITA
MIHO UTSUNOMIYA
KYOKO SANO
HIDEKI TAKE
MISATO KONDA
DAI ONOJIMA
MIHOKO TETSUISHI
YASUYO TANAKA
MAYUMI TAKAYAMA
YASUE MATSURA
MASAKO MURA
TOMOSO NONAKA
KO IMAZU
YASUFUMI AMATASU
RYUICHI TAKAHASHI
POTOGRAPHERS : YORIHITO YAMAUCHI
MASANORI KATO
TAKEO OGISO
KENJI MIURA
NORIAKI OHSAWA
KAZUHIRO KITAOKA
YUKIO FUKUZATO
HISAKO OHKUBO
MASAFUMI SAKAMOTO
KENJI TAGUCHI
YOSHIAKI SUGIYAMA
MASATO KATO
YOSUKE KOMATSU
MIHOKO ISHIGURO
KENJI TSUKAGOSHI

OPENING COMIX : MIEKO HARA
ASSISTANT : AKI ITO
KATSURA SHIMODA
YUKO EGASHIRA

今年で５回目となりました『パチ▶パチ・スタイル』。みなさんの御支援のおかげで、「年の終わりと言えば『スタイル』、『スタイル』と言えば年の終わり」といった存在になってきました。各アーティストのページごとにボリューム・アップした、トータル370ページの大特集！　満足していただけましたでしょうか。新しく登場したアーティスト、去って行ったアーティスト……。さまざまな出会いや別れに、90年という１年の流れを感じたことでしょう。パチ▶パチも1991年には創刊７周年を迎え、さまざまなイベント、企画を用意して、ますますのパワーアップを狙っています。91年もヨロシク！

パチ▶パチ増刊『パチ▶パチ・スタイル』
第７巻第２号　1991年１月26日発行
編集人＝吾郷輝樹　発行人＝吾郷輝樹
発行所＝株式会社CBS・ソニー出版
〒102東京都千代田区五番町6-2
TEL03-234-7906（編集）

定価980円（本体951円）
Printed in Japan

1991 POST CARD PATi-PATi PRESENTS

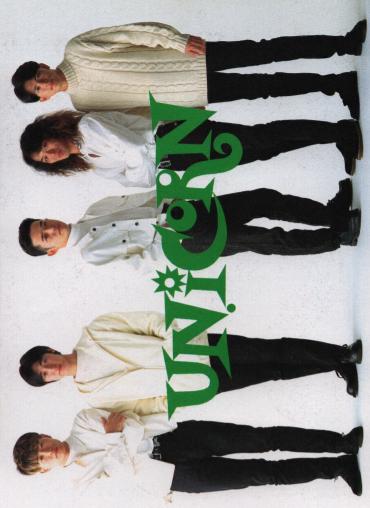
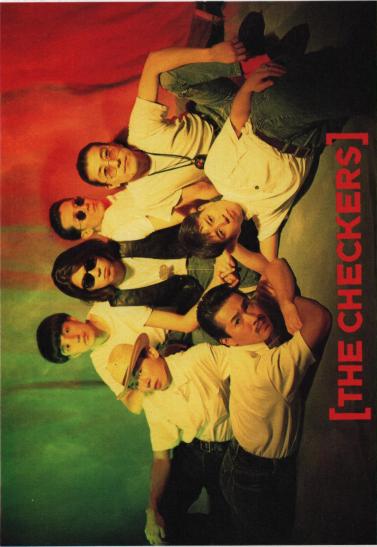
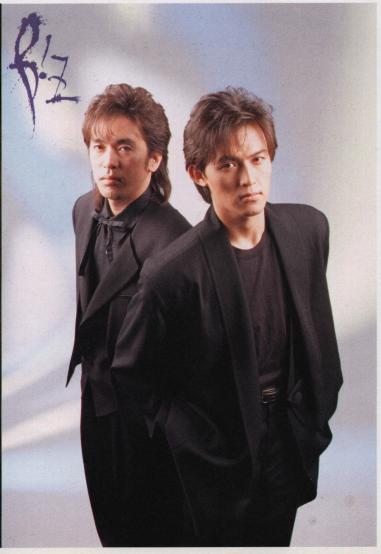
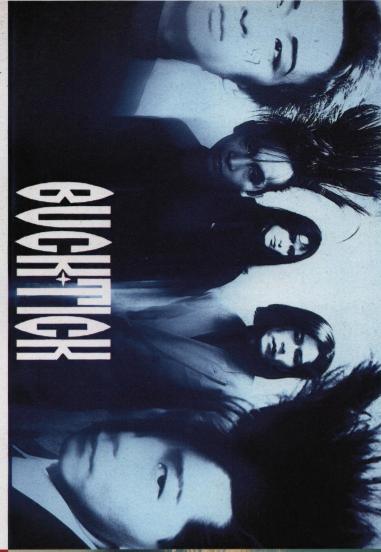
1991 POST CARD PATi-PATi PRESENTS

SONY

MUSIC WITH ME

Princess Princess

音楽聴くなら
ニューアルカリでなくちゃ。

そのわけは、

❶内部抵抗が小さいから、音の立ち上がりが早い。
❷パワーが安定しているからダイナミックレンジの広いサウンドを聴かせてくれる。
❸いままでより46分テープで4本分、約3時間以上(単3電池2本使用。当社比)も長く聴ける。

音楽にこだわるなら、電池も選んで使ってほしい。

音楽のために電池も替えた

ソニー ニューアルカリ電池

音楽専用の電池です。

株式会社ソニー・エナジー・テック

ソニー電池 薄型おしゃれウォークマンプレゼント

問題 いい音聴くなら、電池も選びたい。音楽専用といえば、ソニー○○○○○○○電池です。**応募方法** 官製ハガキにクイズの答え(7文字)と住所・氏名・年齢・職業・性別・電話番号を記入の上、右記の宛先までお送りください。**応募先** 〒164-75 東京都中野区中野郵便局私書箱160「ソニー電池 薄型おしゃれウォークマンプレゼントPS」係 **応募期間** 1990年11月21日〜1991年1月31日(当日消印有効) **当選発表** 抽選の上、賞品の発送をもってかえさせていただきます。

500台

WM-EX90
WALKMAN o.B.

新発売
薄型おしゃれウォークマン